快眠できず!! DREAM.1大波乱のスタート!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING



enterbrain MOOK

2008
121
880yen



おまえがやらねば誰がやる!!
生き残れ、バカサバイバー!
青木真也

全権代理人が語る
"夢"の仰天プロジェクト!
ミルコ・クロコップ

2年ぶりの本誌登場!!
ミドル級GPをやれんのか!?
桜庭和志

魔王の黒い復活!!
いったい誰が止めるのか?
秋山成勲

「クソ高い」発言の真意を探れ!
"マイクの鬼"誕生記念インタビュー
三崎和雄

ウソ!? 柔道王が『戦極』ポーズをやった!
吉田秀彦

『戦極』の"頭脳"が初見参でござる!!
國保尊弘 『戦極』広報

今月も毒舌! 春休みだよ、"ジャイアン"節!!
ダナ・ホワイト UFC代表

You Tubeから飛び出した電脳怪物
キンボ・スライス

呪われた夢の頂上決戦!!
悪夢のカルバン戦から立ち上がれ
いまこそやれんのか!

いいオトナがハッスルするワケとは?
がっぷり四つ対談!!
髙田延彦×曙

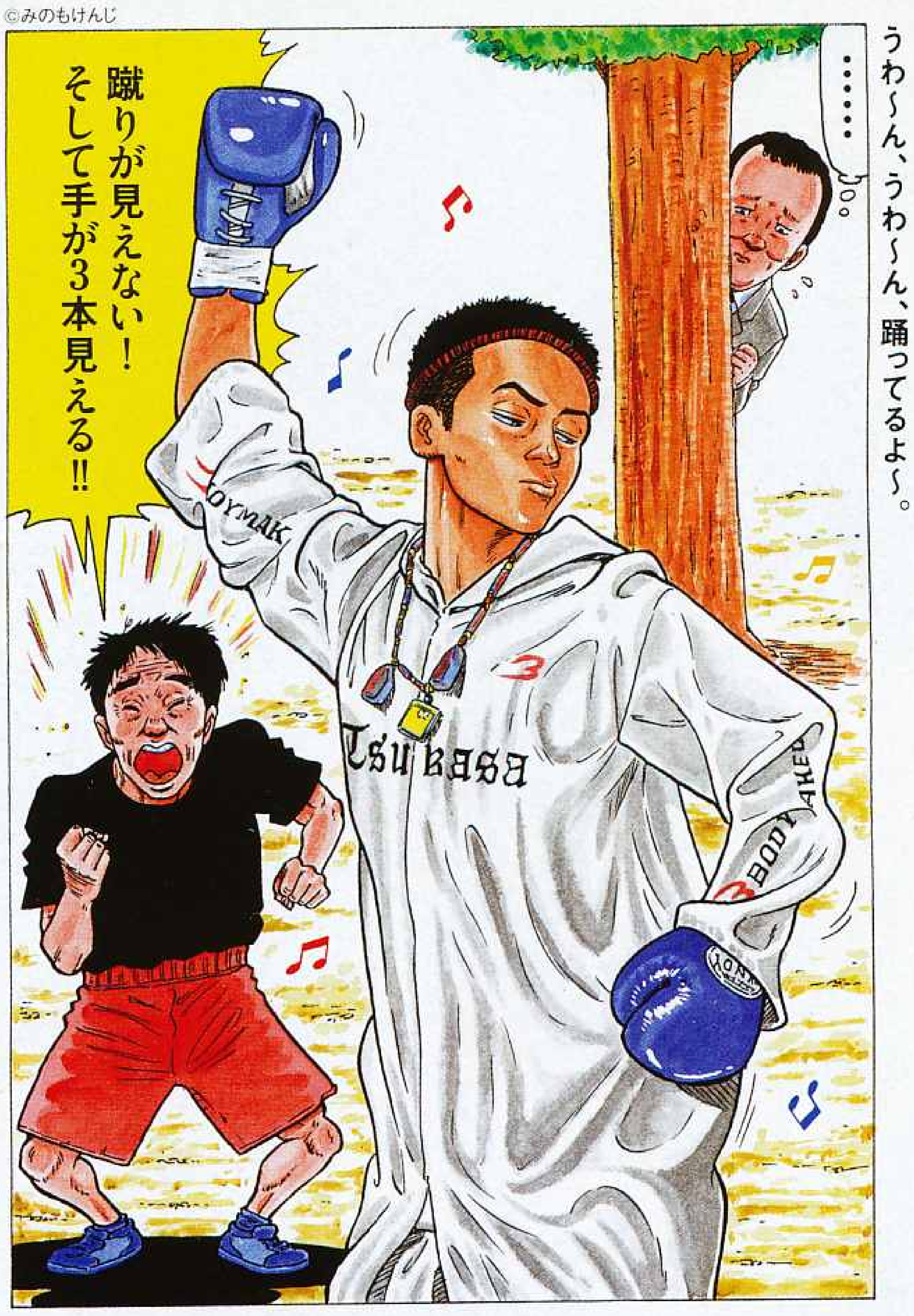
ミノワマンも参戦!
生誕29(ニク)周年記念
キン肉マン"変態"座談会

kamipro (121) ワオ木よ、いまこそやれんのか!

2008年4月11日 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本/図書印刷株式会社

enterbrain

©みのもけんじ


K-1ワールドユース大山場!
待っているのは……
栄光か？ 挫折か!?

2008 No.121 CONTENTS

kamipro


表紙写真／©DREAM



DREAMの希望と不安――。

青木真也はあなた自身である

文／ジャン斉藤　試合写真／乾晋也



Shinya Aoki

「挫折から生まれた『やれんのか！』の象徴、青木真也はあなた自身である」

そんなタイトルのテキストを、昨年の大晦日に開催された『やれんのか！大晦日！２００７』の大会パンフレットに寄稿した。青木真也vsＪＺカルバン戦の見どころを書いたものなのだが、いま読み返してみると、そこにはタイトルそのものを指した言葉が含まれていない。

おそらく脱稿後、担当からテキストタイトルをせがまれて、なんの気なしにつけた。そんな記憶がある。

３月15日、日本マット界の命運を握るＤＲＥＡＭの旗揚げ戦、そのメインイベント。青木真也からすれば、ＪＺカルバン戦はもう呪われているとしか思えない暗い結末を迎えてしまった。

「やりたいけど、腕が上がらないんです……」

呆然、唖然、憤然とする観客たちに、涙を流しながら詫びる青木真也。その姿を見て、脳裏には冒頭のタイトルがよぎっていた。大半の観客は「また観に来るぞ！」と温かい声援を送っていたが、一部からは「なんだよ！　やれよ!!」という怒号も向けられている。

勝っても負けても青木真也がこのイベントを締めるはずだった。すべては青木真也にかかっていた。みんな青木真也に懸けていた。青木真也はあなた自身だっ











[3.15 DREAM.1]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

青木真也 vs J.Z.カルバン

(1R 3分46秒 ノーコンテスト)

噛み合わない攻防が緊張感を膨らませる。青木はカルバンの足下に組みつくが、側頭部へ反則となるヒジを連打される。青木は苦悶の表情。肩から上腕にかけて麻痺が起こっているためドクターストップ。二回戦進出者は「主催者あずかり」となった。

yaAoki

たのだ——。

そもそも、この青木真也vsJZカルバン戦が、DREAM旗揚げイベントの成否を占うカードとして、ここまで大きく期待されたのはなぜだろうか。もちろん、世界が注目する軽量級屈指のウルトラカードだ。PRIDE vs『HERO'S』という刺激的な構図もあった。大晦日に実現できなかった因縁もある。『DREAM・1』のカード編成自体が難破して東京湾に……じゃない。難航したせいもある。

そして、もう一つ大事なポイントをつけ加えるのであれば、青木真也その人の背景によるところにもあった。ドラマ性をもって観るとすると、青木真也はPRIDEの挫折と、新しい戦場への希望を背負っていた。相反しながらも背中合わせの二つのイメージは、まさしく『やれんのか!』の本質だった。それはDREAM発進のモチベーションにもつながっている。おもしろいのは、その青木真也よりもPRIDEを背負ってきた男がたくさんいることだ。

たとえば『やれんのか!』の出場者の中には、エメリヤーエンコ・ヒョードルや三崎和雄といったPRIDE王者やGP王者がいた。『PRIDE武士道』の立役者、五味隆典は不在によって、逆にその象徴ぶりを示している。日本に帰ってきたミルコ・クロコップは、PRIDEの魂そのものであると断言してかまわない。

なによりDREAMには桜庭和志がいるじゃないか。青木真也はずいぶん遅くにPRIDEへやってきた男である。

青木真也が現われたのは一昨年の6月のこと。PRIDEはすでに暗闇に覆われかけていた。光を取り戻すための儀式として行なわれた最終イベントには、軽量級日本人ファイターとして唯一の出場。それは開幕するはずだったライト級GPの主役候補としての〝顔見せ〟だった。

しかし、そのGPは突然延期され、そればかりかPRIDEそのものも動きだす気配を見せることはなかった。そうしているうちに、一部のマスコミの報道によって、もしくは名もなき関係者の戯れ言にて、何度も〝PRIDEの終焉〟が告げられていく。

「まだ待つのか」「もうPRIDEはやらないのに」「信じてるなんて」

青木真也は、それでも待ち続けるしかなかった。つまり、青木真也はおよそこの2年のあいだ、我々と同じように、この先の希望と不安をずっと抱き続けていた。逆に言えば、我々は青木真也とともに、あの暗黒時代や〝沈黙の8ヵ月〟を歩んできたと言っても過言ではない。

だからこそ、挫折から生まれた『やれんのか!』の象徴として、そして新たなる戦場の希望として、青木真也はただならぬ存在となった。だからというわけじゃないが、青木真也にはマット界の不安を表わすような試練が次々と襲いかかる。

リングで向かいあうはずだったJZカルバンとは、彼の欠場記者会見で顔を会わせることになった。声を詰まらせて明るく振る舞った青木は、会見で使用した机と椅子を一人で黙々と片づけた。

その大晦日では、大会途中にメインイベントへの試合順変更が告げられた。そ



















して不完全燃焼……。リングでは笑みを絶やさなかったが、控室では人目をはばからず号泣した。そういえば、本誌の正月取材で向かった『富士そば』もやってなかったな。

ほの見えていた期待、つかもうとするとそれは過酷な現実。いまのマット界をまるで体現するかのような物語だった。そして、その悪夢は再戦の舞台でも残酷に舞い降りた。

確かに残酷さこそが格闘技の魅力、いや、より正確に言えばPRIDEの真骨頂だ。これまで、多くのファイターたちの人生を浮き彫りにしてきた、あの残酷さ。それを突破しようとする者、突破した者、突破できなかった者……。

いずれの涙や笑顔は、あの残酷さからこぼれ落ちてきたものばかりだった。それに我々は時には喜び、時には胸を締めつけられる思いを味わってきた。しかし、この残酷さは……。全力をつくしたうえでの挫折ではなかったが、青木真也その人のドラマは浮き彫りになっていく。

大連立からDREAMスタートに至るドタバタをさかのぼれば、なるほど今回の内容を予感させている。秋山vs三崎戦問題とはトラブルの質が違う今回の一戦だが、先の例は大きなモヤモヤを残したままだ。

そのため、さすがに今回は競技としても、興行としても、納得のいく結論が早急に求められていく。カルバンとの"三度目の正直"があるかどうかはいまのところはわからない。21日の時点で、ノーコンテストの裁定自体が協議中のままである。

裁定は覆らず、ノーコンテストでカルバンの勝ち上がりか。カルバン反則で青木の勝ち上がりか。トーナメントの残りの柱が二枠あるんだから両者揃って二回戦進出もアリだ。

Shinya A

ノーコンテストなのになんだか複雑な話になっているが、なんでもいいからスゲェ闘いしてくれ！　どうやってドラマをつむげるかだ。青木真也はあなた自身である。あなたの悪夢は青木真也の手によってしか晴らすことはできない。青木真也の悪夢はDREAMの挫折でもある。青木真也が立ち上がることでしか、それを払拭することはできないはずだ。

いま青木真也がすべきことは、"ミスター・やれんのか！"として、DREAMの若きエースとして、『やれんのか！』やDREAMで出せなかった"答え"を出すことだ。また、大連立が生んだアクシデントは、新しい価値観を作りあげる絶好の機会でもある。PRIDEでもない、『HERO'S』でもない、新しいステージのドラマ。笹原氏はいまこそ「んあ～！　もともと二試合やるはずだった」と吠えるべきだ（これは黒魔術か）。

いや、いつやってもいい。GP決勝戦で相まみえるくらいのドラマ性を持ってこそDREAMはようやくスタートする。そうすれば、我々に取りつく"PRIDEの呪い"は解けるだろう。青木真也は、立ち上がらなければいけない理由がある。

傷心の青木真也にかける言葉があるとすれば、なんだろうか。

「青木、おまえは悪くない!!」

そりゃそうだ。

「青木、気にすんな！」

それも悪くない。しかし、もっともっと奮い立たせる言葉でなければいけない。

「やれんのか！」

そう、いまこそこれだ!!　青木はカルバンに勝ってから泣くべきだ。



青木のセコンド

中井祐樹が見た 青木vsカルバン戦の真実

「相手と向かい合って“いける”と感触をつかめていた矢先だったので残念です」

無念のノーコンテスト裁定にリング上で悔し涙を流した青木真也。そのそばにはいつものように青木が“先生”と慕う中井祐樹の姿が。注目の青木vsカルバン戦、そしてその後の青木について、当日セコンドについた中井氏を直撃。いったい“バカサバイバー”はどうなるの？

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也


タックルでコーナーに押し込んだ青木にカルバンは首筋へのエルボーを連発。ダメージのためセコンドの中井氏の目の前でうずくまる青木。一方のカルバンにはイエローカードが提示されるも、結局試合はノーコンテストに。

――中井さん、青木vsカルバン戦はノーコンテストという残念な結果に終わってしまいましたね。

中井　残念ですね。青木は試合前のコンディションもバッチリでしたし、カルバンと向き合ってからも、いい感触をつかめていましたから。作戦までは具体的に明かせないんですけど、まさにこれからというか、あそこからが青木の見せどころだったと思うので。

――カルバンは青木さんの寝技をだいぶ警戒している感じでしたよね。

中井　そうですね。あまりイケイケで前に出てきませんでしたし。ただ、それは作戦かもしれないんで。汗ばんですべるようになってから仕掛けようということなのかもしれないので一概には言えませんけど、まともに組ませてはもらえないような感じではありましたね。でも、基本的にはプレッシャーは思ったほどじゃないな、という感触をつかめていた矢先だったので、よけいに残念です。

――試合後、青木さんは「打撃は見えてた」と言ってましたし、本人的にも「いける」と思ったからこそ、よけいに無念さを感じているのかもしれませんね。

中井　そうでしょうね。あとは、メインを任されたという責任感が大きかったと思うんですよ。旧PRIDEと『HERO'S』の頂上対決みたいな見方をされていて、「自分が代表だ」という意識もあったでしょうし、新しいイベントのトリだっていうこともあっただろうし。

――大会前の青木さんの発言とかを聞いていても、そういった責任感はほかの選手以上のものを感じました。

中井　それを自分のやりがいに感じてた部分はあったので……、やはり残念としか言いようがないですね。まあ、最後のヒジ打ちは予想外というか、相手が焦ってのことなのか、故意なのか、カルバン自身はすべったと言ってましたし。その部分を第三者が判断するのに、ちょっと時間がかかってるんでしょうけど。

――この本の発売日までには、なんらかの結論は出てると思いますが、今日（取材日は3月19日）の時点ではまだ何もアナウンスはないですね。

中井　まあ、起きたことは、もう起きたことなんで、正規の規約というか、判定に則って裁いてもらうしかないですよね。

――カルバンサイドは試合後すぐに主催者に再戦を要求したみたいですけど、中井さん的にも、もう一度やらせてあげたいって感じですか？

中井　やらせてあげたいですね。ただやっぱり、やるんだったら万全なかたちで闘わせてあげたいなと思いますね。

――青木さんはこれまで急所攻撃で試合が終わってしまったことはありましたけど、今回のような痺れによるノーコンテストは初めてのことですよね。

中井　そうですね。急所は2回も食らってますけど（笑）。ただ、リング上では本人も「やらせてください」って言ってたんですよ。

――あ、やっぱり。

中井　「これで終わりかよ」っていう観客の声も聞こえたと思うんで。それで「もうちょっと待ってくれたら回復しますから」って言ってたんですけど、3分とかでは回復するような状況ではなかったですし、万全でなければ勝てるような相手ではないんで。自分としてもできない状況にあるのに無理をさせるわけにはいかないので、ドクターの進言を聞き入れて止めることに同意したんです。

――試合から何日か経ってますけど、後遺症とかは残っている感じなんですか？

中井　「一日、二日で消えるケースもあるし、一ヵ月かかっちゃうということもある」とドクターからは言われてるんですけど、それはもう個人差があるので。正直、今回のようなケースは自分の中で認識がなかったですし、そういう点では、自分もまだまだ勉強しなきゃいけないと思わされましたね。

――いつになるかはわかりませんけど、万全な体調の青木さんとカルバンの再戦が見られる日を待つしかないですね。

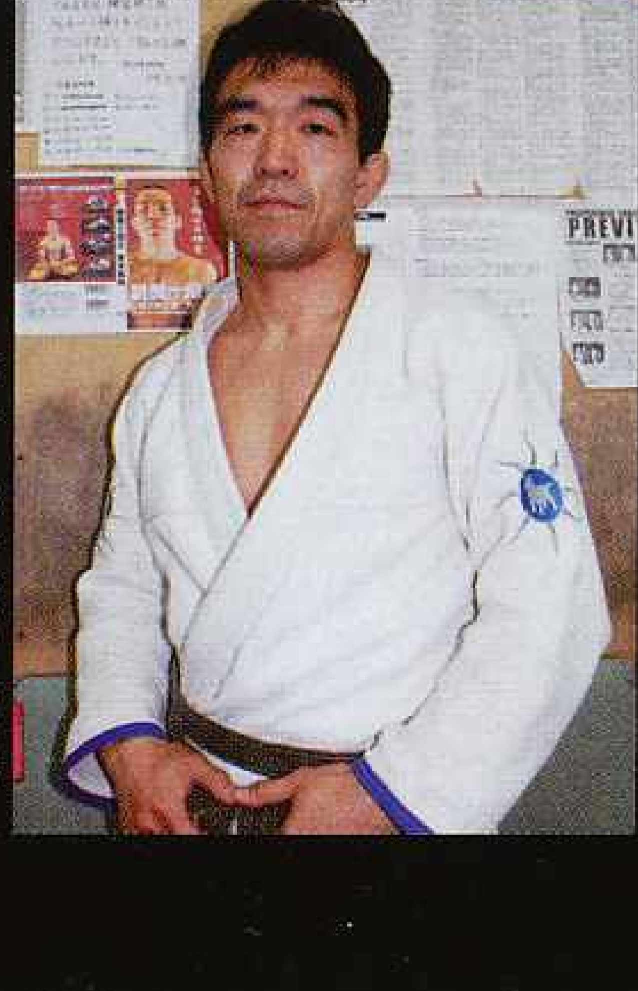
中井　そうですね。すべてはDREAMというイベントに乗っかっている話なので。もしかしたら、残念な結果が出る可能性もあるし、残念から最悪の結果になる可能性もありますし。結果いかんでは、勝ち上がりは向こうになるという最悪のケースもありえるわけですからね。

――その可能性もありますよね。

中井　そこに関しては僕にはどうもこうもできないですしね。ただ、青木は、この逆境を跳ね返せる男だと我々は信じてますから。まずは身体を完全に戻さないことには次もないですし、そこからですね。まあ、いろいろと彼は悩んでるだろうし、肉体的にも精神的にも苦しいところにいると思うんですけど、いまは温かく見守ってやってください。

【08年3月19日／都内・パラエストラ東京にて収録】

青木真也は、この逆境を跳ね返せる男だと我々は信じてますから


なかい・ゆうき■1970年8月18日、北海道出身。修斗で活躍し、95年の『バーリトゥード・ジャパン』でのヒクソン戦を最後に総合は引退し、その後は柔術家として活躍。現在は日本ブラジリアン柔術連盟会長&日本修斗協会常任理事にしてパラエストラ東京を主宰。171cm、70kg。

3.15『DREAM.1』
ブラックマンバ戦突破!
二回戦を前に一発激吠え!!



「主催者推薦枠とか全然納得いかないですよね」

Tatsuya Kawajiri

怒りのクラッシャー
川尻達也

ブラックマンバ戦、大爆発! ……とはいかなかったが、無事一回戦を突破したクラッシャー川尻達也。さっそく二回戦へ向けての意気込みを語ってもらおうと思ったのだが、その前に「一言、もの申ーす!!」とばかりに主催者推薦枠に大怒り! そのイライラの核となる部分とは何か!? “怒り”のクラッシャーの声を聞け!

聞き手／松下ミワ　撮影／タイコウクニヨシ　試合写真／乾晋也

——お疲れのところすみません。今日はよろしくお願いします！

川尻　よろしくお願いします！

——ではさっそく昨日の試合についてですが、まず率直にDREAMという新しい舞台についてはどんな印象でした？

川尻　いやー、べつにいつもどおりでしたね。なんか新しいイベントだからって、何も変わることはないというか。

——あんまり違和感はなかったですか？

川尻　うーん。なかったですね。全然普通でした。

——そうですか。しかし、我々としては川尻さんのヘアスタイルが大幅に変化してたんで、けっこうな違和感があったんですけど（笑）。

川尻　あ、これッスか？（照れながら）。目立つかなと思ってやったんですけどね。

——アハハハハ！　ひさびさの地上波放送ですし、そこは目立っていこう、と。

川尻　ま、そうです（笑）。それに、初めて観るお客さんもいると思うんでね、「あのへんな髪型の人」って覚えてもらえればいいし、印象に残るかなって。

——そんな戦略がありましたか。その地上波で放送された試合ですが、ブラックマンバに勝ったとはいえ、川尻さんがTBSの偉い方に手を持たれてガッツポーズしてたときは、ズバリ言ってまったく嬉しそうじゃなかったですよね？

川尻　ハハハハハ！　そうですね。ま、やっぱり判定だったしね、けっこうグダグダな展開だったんで。

——作戦としてはどういう感じで攻めよう思ってたんですか？

川尻　ある程度パンチを出して、相手にそれを意識させておいてからタックルでテイクダウンして寝技で一本いこうかなって。だから、展開的にはほぼ作戦どおりだったんですけど、最後の極めの部分で全部凌がれましたね。

——けっこう苦しい展開でしたよね。その中でも何が一番苦しかったですか？

川尻　握力ですね。握力がパンパンになっちゃって、もう1ラウンド終わった段階でグーが握れなかったです。

——予想を上回る強さでした？

川尻　強かったですねえ。なんかブラックマンバって"色物"みたいに思われてる部分がありますけど、僕の中では総合格闘家として凄いレベルが高い選手だなと思ってたんで。だた、寝技の絞めに対してはけっこうアッサリとタップするところがあったんで、そこは穴かなと思ってたんですけど。なんか聞いた話だと、ビビアーノ・フェルナンデス選手と一緒に練習してるって聞いたんで。

——07・9・17『HERO'S』で山本KID選手を寝技で苦しめた選手ですね。一


「1ラウンドで握力を使いはたした」という川尻。対戦したブラックマンバは、初登場時は"色物"的な視点で観るものも多かったが、リングに上がるたびに人気、実力ともにグレードアップさせている選手である。じつに末恐ろしい。

ya Kawajiri

二回戦から参加って納得いかないし ちゃんと筋を通してくれよって

回目のチョークで極まらなかったときは、ちょっと焦りとかもありました？

川尻　ありました。心折れそうでした（アッサリ）。

——アハハハハ！　でも、先ほど言われた"色物"じゃないですけど、これまでブラックマンバ選手と闘ってきた選手は、ちょっと攻め込まれたりすると「油断したんじゃないの？」という目で見られたりする部分もあったと思うんですけど、川尻選手はそういう気持ちは？

川尻　いや、僕の中では全然なかったですね。むしろ、このトーナメントで一番危険だと思ってました。

——それはどういう部分でですか？

川尻　やっぱり何を出してくるかわからない不気味な面もあるし、ヒザっていう凄い武器を持ってるじゃないですか。過去の対戦にしても、勝つにしろ負けるにしろ、けっこうケガさせられてる選手が多いんで。そういう意味では、勝ってもケガするかもしれないし、KOとかで負けたら病院送りだろうなって。

——タイプ的にはかなりイヤな選手なわけですね。でも、試合後はお互い何か親密に挨拶してましたよね。

川尻　そうなんですよ！　凄くいいヤツなんですよ！　しかも、試合前にもけっこう鉢合わせが多かったんですよね。

——対戦相手としょっちゅう鉢合わせってイヤじゃないですか!?（笑）。

川尻　同じホテルに泊まってるから近くのコンビニ行くときもよく会うし、試合当日にも、ロビーに行こうと思ってエレベータ待ってたら、ガーッて扉が開いたところにマンバ陣営がいたりして。

——あら、緊張の一瞬ですねえ。

川尻　そういう場合って、普通「あっ！」って思ってそのまま通りすぎたりするじゃないですか。でも、マンバは一歩下がって「入れよ」みたいな。

——器が広いのか、なんなのか（笑）。

川尻　でも、それは僕もさすがに「おまえ、こんな狭い中に今日闘う選手が二人入ってどうするんだよ！」って思って、「いいよ、行けよ」って言ったんですけど。それにしても、凄くいいヤツだなって試合前からヒシヒシと感じてて。試合の日の夜にも会ったんですけど、「なんだよ、おまえ、強いじゃん！」とか言いながら一緒に写真撮りました。

——アハハハ！　とても数時間前に首を絞めてた相手との会話とは思えないですよね（笑）。でも、会見とかでは『HERO'S』の選手には負けたくないとか噛みついてる部分もあったじゃないですか。

川尻　ま、当日リングに上がってしまえば何も関係なくなりますから。リングに上がるまでのストーリーとしてそういう意識はありますけど、終われば関係なくなりますし。

——そういうもんなんですねえ。それで、次は二回戦ということなんですけど、その前に一つ、昨日の試合で6選手が二回戦に進むことになりましたけど、一個枠が空いてるじゃないですか。

宇野さん？ 全然問題ないですよ そこは正々堂々と闘いますし

川尻 ……………（無言で聞き入って）。
——それが主催者推薦枠という名目でどんな選手が上がるかわからない状態なんですけど、それについてはどう思われます……。
川尻 （さえぎって）いや、全然納得いかないですよね。やっぱ僕らは一回戦からしのぎを削って厳しい試合を勝ち抜いてね、やっとこうやって6人のメンバーが選ばれたんで。たとえば、それが『HERO'S』のチャンピオンだったり、PRIDEのチャンピオンだった選手が出るんであれば実績として申し分ないと思うし、それは全然アリだと思うんですけど、そういう実績がない選手がいきなりポンって二回戦から参加するのは納得いかないし、ちゃんと筋を通してくれよって感じですね（一気にまくしたてて）。
——なるほど。
川尻 ただ、主催者が決めることだから選手はどうしようもないですけど。選手としてはそういう気持ちです。
——二回戦に勝ち上がった選手は川尻さんと同じ意見が多いわけですよね。
川尻 でしょうね。だって、それだったらみんな二回戦からでいいじゃんって思いますよ。一回戦やんなくていいよって。
——そこにJZだったり、いまは『戦極』に上がってますけど、五味さんみたいな選手が入るぶんにはいいわけですか。
川尻 それは問題ないんじゃないですか？ 僕の中ではやっぱりチャンピオンというのはそのくらい素晴らしい選手だし、素晴らしい実績だと思うんで。
——たとえば、今回試合前日の会見で宇野さんが「ケガで出られません」とコメントされましたけど、その宇野さんが主催者推薦枠に入るんじゃないかという噂もありますよね。
川尻 さっきも言ったとおり、どの選手も「はい、そうですか」って素直に納得しないと思いますよ。


かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。00年修斗のリングでデビューし、04年には修斗ウェルター級王座に君臨。PRIDEには05年から参戦。同年のPRIDEライト級GP一回戦の五味隆典戦では、まさに"鳥肌立った!"状態の歴史に残る名勝負を展開。青木真也、石田光洋とともにPRIDE再開を待ち続けた"『やれんのか!』三銃士"の一人。171cm、69.9kg。

——誰が入るにせよ、推薦枠で出る選手と川尻選手が闘うことになったときは、それはめちゃくちゃ燃えますか？
川尻 逆に絶対にやりたくないです！
——ほう。それはどうしてですか？
川尻 だって、なんか不公平じゃないですか。やっぱり一回戦からしっかり勝ち抜いてきた人としのぎを削って優勝するのが一番筋道としては納得できますよ。
——そこで自分が叩きのめしたいという思いは働かないですか？
川尻 べつに興味ないです。
——宇野さんといえば、修斗時代に川尻さんも拳を交えたことがあると思うんですけど、もう一回、対戦するとしたら？
川尻 全然問題ないですよ。そこは正々堂々と闘いますし。
——そこはやっぱり「『HERO'S』の選手には負けたくない」と言った川尻さんだけに、意地を張りたいところですか？
川尻 どうですかねえ。ま、ホントはどーでもいいんですけどね。だって、一回戦も終わったし、『HERO'S』で残ってる選手は永田さんぐらいじゃないですか。いつまでもね、『HERO'S』vsPRIDEって煽るんじゃなくて、DREAMの色でアピールしないといけないですから。
——新しい舞台を演出したい、と。それともう一つ、昨日決着がつかなかった青木vsJZの試合ですが、あれは選手の立場からするとどういう思いなんでしょう。
川尻 いやー、悔しいでしょうね。選手側としては、ホントにどっちも悪くないし、しょうがないことだなって。もう神様のいたずらというか、ほんっとにどーしようもないです！
——あの試合は、川尻さんの試合の直後でしたけど、川尻さんも控室に戻らないでリングサイドで観てましたよね。
川尻 だから、いちファンとしては悔しいんですよ！
——川尻さんも楽しみにしてましたか！
川尻 ホントに楽しみにしてた!! でも選手の立場で見たら、二人の気持ちも凄いわかるし、こればっかりは僕らでどうにかできることじゃないんでねえ。
——大晦日の『やれんのか!』でも対戦が流れましたし、ここまでくるとなんか因縁めいたものを感じたりもしますよねえ。
川尻 そうなんですよ！ だから、そこでお互いの熱が冷めるのか、「もう一回！」と思うのか、そこは気持ちの問題ですね。
——川尻さんだったらどうですか？
川尻 俺だったらね、相手にもよりますけど、さすがにここまでなっちゃうと縁がないのかなって思いますねえ。
——心折れますか。
川尻 新鮮味もなくなるし。それなら違う選手と闘ったほうがいいのかなって。
——では、"ファン目線"としてはどうでしょう？
川尻 （即答で）もう一回観たいです！
——アハハハハハ！
川尻 結果が出るまで観たいですよ！ そのくらい凄いカードだし、いいカードだと思うんで。
——そうですよねえ。では最後に、いよいよ二回戦の話ですが、今日の会見では「自分で相手を選ぶのは好きじゃない」っておっしゃってましたけど、こういうタイプと闘いたいというのもありませんか？
川尻 （即答で）まったくないですね。
——それは、どんな相手がきても自信がある、と。
川尻 もちろんそうです。なんでもイケるように練習してるんで。むしろ強い人を当ててくれって感じです。
——わかりました。では、二回戦も期待しています！

【08年3月16日／都内・某ホテルにて収録】

Tatsuya K



全権代理人・今井賢一氏が語る

ミルコ・クロコップ 復活への仰天プラン

「ミルコをグラップリングの試合に出したいと思います」

当初、対戦相手決定が難航したものの、U-FILE CAMPの新鋭、水野竜也をワンサイドのKOで下し、見事に日本復帰戦を飾ったミルコ。次戦からが、いよいよ本格的な復活ロードとなるだろうが、どのようなプランを描いているのだろうか？ 本誌は大会後、おなじみミルコの全権代理人である今井賢一氏に、復帰戦の舞台裏と気になる今後についてインタビュー。すると今井氏の口から仰天計画が明かされた!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

――まずはミルコ・クロコップ日本復帰戦の勝利、おめでとうございます！

今井　ありがとうございます。

――やはり、ほっとした感じはありますか？

今井　そうですね。勝って当然と見る人が多いでしょうけど、この試合が決まるまでいろいろありましたからね。

――ホントにギリギリまで対戦相手が決まらなかったわけですからね。

今井　ここまで決まらないというのは、僕自身、初めてです。ミルコは最初から「相手は誰でもいい」ということで僕に一任してくれていたので、いろんな選手が候補には挙がっていたんですけど、やはり4週間を切った中でミルコとの対戦を受けてくれる選手というのは、なかなかいなかったんですよ。

――そうでしょうね。

今井　また、大事な復帰戦ですから、DREAM側が提案してきた選手の中には、僕の独断で「違うな」と感じてリストから外してもらった選手もいました。セーム・シュルトとかね。いきなりセームではないでしょう。そうこうしているうちに時間だけが経っていって、試合が決まりかけながら、ビザが間に合わなくて、断念した選手もいましたね。だから一時はどうなることかと思ったんですけど、なんとか水野（竜也）選手に決まり、ほっとしましたね。

――結局、ミルコが対戦相手を知ったのはいつなんですか？

今井　来日三日前ですよ。一応、水野選手の簡単なプロフィールはメールで送りましたけど、日本に来て、大会二日前の記者会見に出るまで、相手の顔も知らなかったし、彼の過去の試合のVTRを観たのは試合前日ですからね。

――まさにぶっつけ本番だったんですね。

今井　でも、相手の水野選手も最初に話があってから一週間ですからね。ミルコは文句も言わず「ミズノの勇気に感謝する」とだけ言ってましたね。ただ、それ以外にもいろいろと計算外のことがあったんですよ。

――どんなことがあったんですか？

今井　まず、弟子のイゴールをはじめ、チーム・クロコップのメンバーはDREAM参戦決定前から、同日にオランダで試合が決まっていたので、誰もセコンドとして来日できなかった。打撃のトレーナーもパスポートの紛失で試合当日来日。ミルコと一緒に来たのは、友人とフィジカル・トレーナーと主治医、それから僕とクロアチアの不動産ビジネスの話をするために来た弁護士ですからね（笑）。

――おおよそ試合のためのセコンドじゃないですね（笑）。

今井　試合前にアップをするパートナーすらいなかった。だから、美濃輪くんのチームの柳澤（龍志）くんにお願いして、第一試合が終わったあと、パートナーをやってもらったんですよ。

――へえ、意外な組み合わせですね。

今井　当日、ヘビー級でアップに付き合ってくれそうな選手は柳澤くんだけだったし、かつてK-1の静岡大会でミルコと対戦した経験もある。あとはパンクラスで水野選手の試合も観ているということでお願いしたんです。

――なるほど、なるほど。

今井　柳澤くんは開口一番「今井さん、けっこう水野はあなどれないですよ！　柔道出身で、脇を差してくるのがうまいし」と脅かすんです（笑）。それで、脇の差し合いからテイクダウンを取る、取られるの練習をして、最終的にはグラウンドに付き合って、じっくり腕でも極めようかって作戦になったんです。

――ミルコがグラウンドですか⁉

今井　そう。倒してパウンドを入れて、腕十字とか。少なくともスパーリングではけっこうやるし、それが実戦で通用するかを見てみたかった。これまでは勝利への最短距離を目指していたから、出す機会がなかったんです。でも今回は、こんなこと言うと水野選手に失礼になるかもしれないけど、実戦で〝試し斬り〟をする絶好の機会だとも思ったんですね。

――まあ、確かにそうですよね。

今井　あとは、これは僕自身の考えなんですけど、やっぱり視聴率のことも考えたんですよ。今回、DREAMという新しいイベントの一発目の大会ですけど、土曜日の19時枠ですから、格闘技ファンの中心である10代～30代の男性は基本的に家にいないわけですよ。その時間帯で勝負するのにTBSとしてはミルコをフィーチャーしようと早々と決定していた。試合前の番宣スポットもほとんどミルコだったぐらいでしたから。そのプレッシャーもありましたよね。それで前の週に、ボクシングの内藤大助選手の世界戦が12ラウンドをフルに闘って、高視聴率を弾き出したじゃないですか。それもあって、ミルコに対して「なるべく長く闘ってほしい」という無言の懇願というか、空気を感じさせてたんですよね。直接、「長引かせてください」と言われないまでも。

――注目の試合は、長引けば長引くほど、高視聴率になるというのは、これまでの数字からも明らかですもんね。

今井　それでちょうどミルコはグラウンドで闘う作戦を立てていたし、「グラウン



[3.15 DREAM.1]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
◯ミルコ・クロコップ vs 水野竜也×
（1R 0分56秒、KO）
対戦相手選びが難航し、大会一週間前に公募されたミルコの相手は、U-FILE CAMPの水野竜也。超大物ミルコとの対戦というビッグチャンスに燃える水野は、序盤からなんと打撃でどんどん前に出ていく。これをいなしたミルコは首相撲からのヒザ蹴り、さらにクリンチからの強烈なフックを叩き込み、最後はパウンド葬。55秒殺で日本復帰戦を飾った。

僕のケータイに髙田（延彦）さんから試合直前に電話がかかってきたんです

次回はおそらく7月。相手はK―1ファイターかハリトーノフでしょう

ドになれば、秒殺ということはないだろうから、１ラウンドの後半くらいでちょうどいいな」なんてことを密かに思ってたんです。ミルコにもそれを伝えて「ひさしぶりの試合なんだから、なるべく長く試合感を味わえよ」みたいな話をして。それで、試合前に柳澤くん相手にグラウンドのウオームアップをしている、まさにそのときに、僕のケータイに髙田（延彦）さんから電話があったんですよ。

――元・本部長から電話がありましたか。

今井　髙田さんは失意のどん底だったミルコを『ハッスル』でのゲスト出演に誘ってくれたり、ずっとミルコのことを心配してくれていましたから。対戦相手がなかなか決まらないときも、電話をくれて「ミルコには、あせらず自分のペースでしっかり準備をするように伝えておいて」なんて言ってくれたりしてましたしね。

――で、今回はどんな電話だったんですか？

今井　髙田さんは「とにかく今回はミルコの完全復活を印象づけるための大事な試合だから、秒殺しかないよ」って言うんですよ。

――今井さんが考えていた真逆のことを言ってきた、と（笑）。

今井　そうなんです。「今井ちゃんのことだから、これからのこととか視聴率のことまで考えてるかもしれないけど、とにかく今回は〝強いミルコ〟を見せつけることが第一。そのためにはワンサイドで圧倒的に勝つしかない。それがミルコのために一番いい」って。僕の考えてることまで見透かされてたんですよ（笑）。

――さすが本部長ですね（笑）。

今井　やっぱり髙田さんは、長年、プロレス界と格闘技界のトップでやってきて、プロとしての〝見られ方〟というものを熟知してる人だから。その人から言われると、僕も「それはそうですよね」となりますよね。ただ、当のミルコは目の前でグラウンドのウォームアップの最中だから、ここで「やっぱり秒殺狙いでいこう」なんて言って迷わせてもいけないから、あえてそこでは何も言わずにいて。いよいよ出番です、っていうときにちょっとだけ話したんですよ。

――入場の直前ですか。

今井　そう。控室を出て、入場口まで来たとき、僕とミルコでグローブタッチをするんです。これはいつもやってることで、おまじないみたいなもんなんですけど、ゲンコツを合わせて「よし、行け！」って声をかけて『ワイルド・ボーイズ』のテーマで出ていくんです。で、このあいだはゲンコツを合わせたときに、ミルコに一言だけ言ったんですよ。

まず「ノーモア・エクスキューズな」って。つまり「UFCでおまえが負けたあと、ここしばらくおまえの名誉を守るために、メディアに対していろんなエクスキューズをつけて正当化してきた。だけど、もうノーモア・エクスキューズな」と。

――これ以上は守れないぞ、と。

今井　そしたらやっぱりヤツの顔色がキュッと変わりましたね。で、二つ目は「さっきは『じっくりいこう』と言ったけど、ワンチャンスあったら遠慮なく仕留めろ」って。で、「わかった」と言って出ていったんですよ。

ko Crocop



ダン・ヘンダーソンやランディ・クートゥアーがやるような、クリンチで相手を固定してからの打撃を見せたミルコ。この接近戦での打撃が、ニュー・ミルコの大きな武器となるか？

――そして、秒殺勝利になった、と。

今井　結果的にそうなった、ということでもありますけどね。ミルコは水野選手が、まさか打撃で向かってくるとは思ってなかったから驚いて、それをいなしながら、中間距離で相手を抱えながら打撃を入れるというパターンを少し試して、あとは容赦なく１分以内で片づけたっていう流れですよね。で、結果的に入場を合わせても３分程度の放送だったから、瞬間最高視聴率は獲ったものの、全体的な視聴率には寄与することができなくて、それは申し訳ないと思いましたけど。髙田さんのおっしゃるとおり、ミルコのためには一番いい勝ち方だったんじゃないかなって思います。

――まさにそうですね。あの短い中で、ミルコの新しい面も見られた、いい試合だったと思います。

今井　〝ニュー・ミルコ・クロコップ〟の片鱗が少し見えましたか？　中間距離での闘いがテーマですからね。組み合った状態でも打撃を入れる。さらにそこから投げにいく、倒しにいくというバリエーション、グレコローマン的な要素も持たないと、打撃だけではセーム・シュルトのリーチと体格には対応できないでしょうからね。

――vsセーム・シュルト戦まで視野に入れてますか！

今井　シュルトじゃなくても、マイティ・モーやマーク・ハント、レイ・セフォーなんかと当たることになったとき、打撃の距離で打ち合ったら厄介なことになるかもしれない。それならMMAファイターとして、組み技と一体となった〝MMAの打撃〟をより高めようというのが、いまのミルコのテーマですからね。

—打撃は打撃でも、キックボクサーの打撃ではなく、MMAの打撃。

今井　やっぱりヒョードルの強さは、そこですからね。

—チャック・リデル、ランディ・クートゥアー、あとGSPが強いのも、その〝MMAの打撃〟によるところが大きいですもんね。

今井　そして、そういう闘いをする身体的な素質もミルコにはありますからね。下半身、腰が強いし、粘れる。そして身体が柔らかいわけですから。相撲取りでいったら現役時代の貴乃花親方と同じで、180度の股割りができて、股関節の可動域が圧倒的に広いわけで、投げ合いになっても腰が粘り強い。ヘビー級では一番小さなミルコが30キロも重いシュルトやモーと試合をするのであれば、ランディ的な戦い方も絶対に必要になる。闘い方の幅も広げるということです。

—なるほど。では、新しい闘い方を試す意味でも、水野戦というのは、収穫があったわけですね。

今井　そうですね。わずか1分間とはいえ、ミルコにとって有益な1分間になったと思います。

—となると次の試合は、やはり次回のゴールデンタイム放送である7月になりそうですか？

今井　そうみたいですね、いまのところは。

—そして相手はK—1ファイターが濃厚なんですか？

今井　ミルコは「準備期間があれば誰でもいい、なるべく早く決めてほしい」と言ってます。僕個人としては（セルゲイ・）ハリトーノフかな。やっぱり、年末にホントにヒョードルと闘うのなら、クリアしておかなきゃならない選手だと思いますから。

—これはPRIDE時代から待望されていたカードだし、勝ったほうがヒョードルに挑戦というのは、ストーリー的にいいですよね。

今井　テレビ局的にはハリトーノフより、知名度のあるK—1ファイターを望んでいるようですけどね。ただ、K—1ワールドGPに向けて重要な時期だから、K—1決勝に出るような選手はMMAをやろうとは思わないだろうし、まだ流動的ですね。で、それとは別に、7月のDREAMの前に、ミルコをファイトマネーなしのグラップリングマッチに出そうと思っています。



以前、ファブリシオ・ヴェウドゥムをクロアチアに住まわせるなど、柔術技術習得にはとくに熱心なミルコ。試合では、なかなか出す機会がないが、6年以上の練習の成果をグラップリングマッチで観てみたい！

Mirko Cr

—えぇ!?　グラップリングマッチですか？

今井　やっぱり、ここ2年ぐらいのミルコは闘い方がパターン化してきていましたから、闘いの幅を広げなきゃいけない。寝技でもなんでもできることで、さらに打撃もより大きな武器になると思いますからね。ただ、かといってMMAで寝技の試し斬りができるような、余裕のある試合なんていうのは、なかなかない。だったら一度、グラップリングマッチに出て、実戦で寝技をやってみる必要があるんじゃないかって。

—それはおもしろいですねぇ！

今井　2001年にMMAを始めてから、ずっと柔術の練習は続けているし、いまはファブリシオ・ヴェウドゥムの師匠であるマーシオ・コレータがクロアチアに住み込みでコーチしてますから。ミルコ自身、常日頃から「寝技でも勝負できる」と僕に言うんです。でも、やっぱり練習と実戦は違いますからね。「おまえ、ホントに実戦で寝技使えるの？　練習だけじゃないの？」なんて、ちょっと挑発的に言ってみたら、「じゃあ、グラップリングの大会を探してくれ」と言うんでね（笑）。

—ミルコが今井さんの口車に乗せられちゃいましたか（笑）。

今井　ただ、ミルコは寝技のプロじゃないから、あくまでアマチュアとしての試合がいいなと思って、まず木口（宣昭）先生に電話して「先生、コンバット・レスリングの大会っていつでしたっけ？　ミルコを出したいんですけど」って聞いたんですよ。

—ミルコがコンバット・レスリング！

今井　そう。木口先生も「えっ！　ミルコ出してくれるの!?」なんて驚いちゃってね（笑）。

—そりゃ驚きますよ（笑）。

今井　でも、大会は3月23日で、DREAMのわずか一週間後だから断念したんですけどね。

—もしタイミングが合ってたら、町田市の小さな体育館にミルコが登場していたんですね（笑）。

今井　でも、こういう経験がいまのミルコには必要だと思うんですよ。グラップリングだけの試合を経験するっていうのは、必ずMMAで新しいミルコを作るのにも役立つと思いますから。

—ファンにとってもミルコのグラップリングマッチって興味深いし、絶対に観たいですよ！

今井　そしてやるんなら、ミルコが簡単に勝てる相手じゃなくて、寝技が本当に強い選手。たとえばムリーロ・ブスタマンチとかね。あとTK（高阪剛）だってMMAは引退したけど、グラップリングならミルコとやりたがるでしょう、負けるわけないと思うでしょうから。

—うわ〜、それは観たい！

今井　やるなら、ミルコが全力を出せる強い相手とやらせたいですね。負けを恐れず、思う存分、寝技で勝負できる相手。そういう試合を7月のDREAMまでにやりたいんですよ。試合間隔が4カ月空いてしまうので、途中で一度、ピークアウトすることも必要ですしね。そんなグラップリングの小さなイベントができたらおもしろいとも考えてますから、ホントに決まったらまた『kamipro』にお知らせしますよ。

—ありがとうございます。今年のミルコが非常に楽しみになりました！

【08年3月18日／都内・某所にて収録】



DREAMミドル級GP

やれんのか！

和志

kamipro登場、丸2年ぶり!!

「世の中バランスとタイミング？ まあ微妙にそういう意味も含んでますけどねぇ」

桜庭

Kazushi Sakuraba

桜庭和志がひさびさに『kamipro』に登場〜ッ!! なんと06年3月に収録したHGとの対談以来のインタビューとなった今回の企画、『HERO'S』への電撃移籍、そしてPRIDEラスト興行となった『PRIDE.34』での登場など、いままで語られなかったマル秘エピソードを直撃したぞ! また、"ヒザのケガ" を理由に「出ません」とマイクしたミドル級GPについても聞いてみた!!

聞き手／井上崇宏　撮影／タイコウクニヨシ　構成／松下ミワ

—桜庭さんの『kamipro』登場は2年半ぶりくらいになるんですかね？　まずは自己紹介をお願いします！

桜庭　はいっ。秋田県出身、38歳、桜庭です！　よろしくお願いします！　って、大学でレスリング部に入部したときの挨拶もこんな感じでしたね。

—ありがとうございます。とにかくおひさしぶりということで、今回はここ1～2年を軽く振り返りながらいきたいと思ってるんですけど。まず昨年の4月8日、『PRIDE・34』の会場に行かれたじゃないですか。

桜庭　（すかさず）もう忘れました！

—アハハハハ！　いやいや、榊原さんと田村さんと3人でリングに上がってたじゃないですか。

桜庭　言われてみれば……、そうでしたっけ？（笑）。

—リング上で挨拶をされたわけですけど。そもそもあの日は、シークレットカードとしてヴァンダレイ・シウバと闘うっていう仰天プランもあったんですよね？　本当にシウバと闘う気だったんですか？

桜庭　全然、大丈夫でしたよ。

—あれはどういう経緯でシウバ戦が持ち上がったんですか？

桜庭　確かPRIDEのほうからそういう話があったんですよ。だから「いいですよ～」って答えて。ただボクが契約してるのはFEGなので、「そっちにことわってもらっていいですか？」っていう話をしましたね。

—あ、一番最初は桜庭さんに直接オファーがあったんですか？

桜庭　まあ、それはボクが「イヤだ」って言うかもしれないから、はじめに意志だけ聞いてきたんですよ。で、ボクが「いいですよ」って言ったんで、それで谷川（貞治）さんのほうに話がいきまして。

—そのときって、もちろんDSE最後のPRIDEの大会になるっていうのは桜庭さんもわかってたんですよね？

桜庭　なんとなくはわかってました。

—そこであっさり「OK」の返事をした理由は？

桜庭　シウバですから（キッパリ）。それとほら、やっぱりDSEとの関係もあったわけじゃないですか……、知らない人がいきなり「シウバとやってくれ」って言ってきたら、「そんなの知らねえよ！」って言いますけど。



—まあ、言いますよね（笑）。あれ？　あのカードって結局、なんで流れたんでしたっけ？

桜庭　結局、試合に関しては谷川さんが「NO」って言ったんですね。「さすがに今回は急すぎるから、試合はやっちゃダメだよ」ってことで。

裏切り者のボクなんかに榊原さんは普通に接してくれたし……

——だけど、リングに上がって挨拶をするのはOKだ、と。あのとき谷川さんがその大英断を下したことで、その後の両団体の関係が好転したんですよね。

桜庭　そうですよね。普通に……、普通っていうか、また元に戻った感じですね。

——ということは、あの日の桜庭PRIDE登場が、今回の大連立のきっかけになったと言えますね。

桜庭　……たぶん、そうだと思いますけどねぇ。でもボクは、普段からしょっちゅう谷川さんとかには「仲良くしましょうよ～」って言ってましたけどね。

——谷川さん、なんて言ってました？

桜庭　「俺が悪いんじゃないよ～！　知らないよぉ」って。

——アハハハハ。あの日、ひさしぶりにさいたまスーパーアリーナに足を運んでみてどうでした？

桜庭　やっぱり、雰囲気がよかったです ね。お客さんの一体感が凄かったです。

——当日はファンへのサプライズというかたちで出てこられたんですけど。

桜庭　ああ、そうでしたね。ボクからもけっこう見えましたもん、お客さんが「ええっ!?」って立ち上がってビックリしてるのが。あの頃はまだPRIDEとFEGの仲が悪い印象だったし。

——本当にサプライズでしたよね。入場してるときの気分はどうでした？

桜庭　やっぱり、あの入場はいいですねぇ！　テンション上がります。

——で、田村さんが「桜庭とボクにしかできない〝夢の架け橋〟を実現したい」みたいな話をして……。

桜庭　（さえぎって）じゃあ、そろそろやりますか！

——その話はのちほど！（笑）。あのとき桜庭さんは涙を見せましたね。

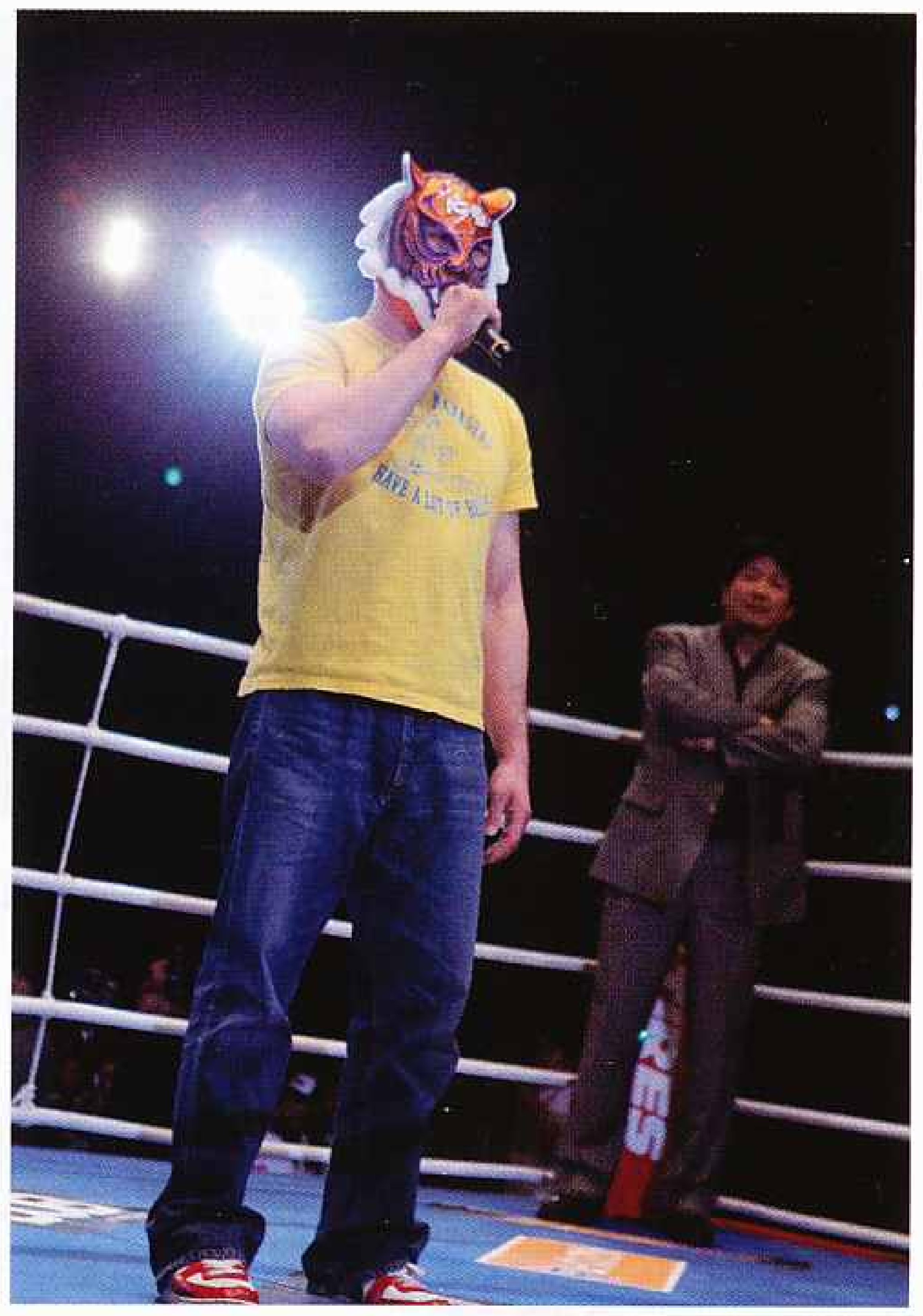
桜庭　（声のトーンを上げて）やっぱり、お客さんの反応がよかったんで！

——軽くPRIDE時代を思い出したりしました？

桜庭　そうですねぇ、ええ。走馬燈のようでしたよ。

——泣いちゃった理由としては、やっぱりファンの大歓声っていう部分が大きかったですか？

桜庭　それと、榊原さんの勇退ですね。当日の打ち合わせのとき、裏切り者のボクなんかに榊原さんは普通に接してくれたし……。



06年5月3日に『HERO'S』へ電撃移籍、その後『PRIDE.34』に来場し、PRIDEに別れを告げた桜庭和志。しかし、この出来事が大連立、そしてDREAM開催へとつながっている部分があるのだから、"災い"転じて"福"となす？

shi Sakuraba

——アハハハハ！　そりゃさすがに呼んでおいてシカトはしないでしょう（笑）。ところで桜庭さん、振り返ってみてPRIDEと『HERO'S』の違いってなんでした？

桜庭　……違い？（小さな声で）そこは、あんまり突っつかないで……。

——どんな些細なことでもいいんですけど（笑）。

桜庭　そりゃあ違いはありましたよ。井上さんはどう思ってました？

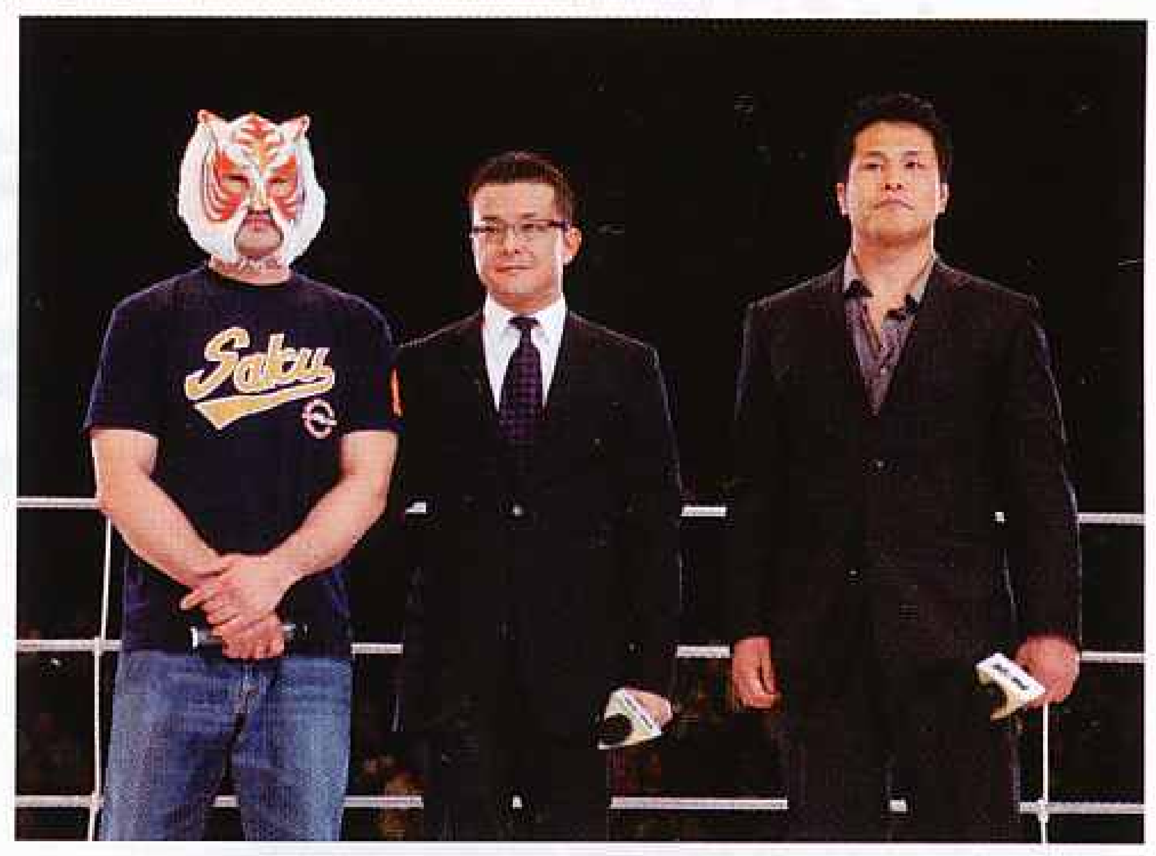
——まあ……、全然違いましたよね。

桜庭　（身を乗り出して）えっ、全然!?　どこが!?

——突っつきますねぇ（笑）。いやぁ、うまく言葉で説明しづらいですね。

桜庭　じゃあ、ボクにも聞かないでください！

——スイマセン（笑）。しかし、これも本人を前にして言いづらいんですけど、結果的に桜庭さんは絶妙なタイミングでPRIDEから『HERO'S』へ移籍されましたよね。



桜庭　それは谷川さんからも言われました……。

——仲のいいお友だちから「じつは、（PRIDEの消滅を）知ってたんじゃないの～？」みたいなことって言われませんでした？

桜庭　言われました!!　「知らねえよ！」って（笑）。谷川さんも「フジテレビがPRIDEから手を引いちゃうんだって……。サクちゃん、タイミングいいねぇ！」って電話してきたりしましたね。で、その後も「PRIDEがなくなっちゃうんだって……。サクちゃん、タイミングいいねぇ！」っていう電話がなぜか韓国からありましたけどね。

——アハハハハ！　ほとんどイタ電じゃないですか。

桜庭　それを韓国からかけてくるんですよ？　国際電話でいちいちそんなことを……（笑）。

——そういえば、『HERO'S』に移籍したときに、新しいサクTシャツを作られたじゃないですか。そこに英語で、「IT'S ALL ABOUT BALANCE&TIMING.（世の中はバランスとタイミング）」ってコピーがちっちゃく入ってましたけど、あれはどういう意図があったんですか？

桜庭　ああっ……！　あれは全然、深い意味ないですよ!?　格闘技をやる上で、「力よりもバランスとタイミングが大切」っていう意味ですよ!!

——技術的な話ですか!?（笑）。

桜庭　そうそう！　『HERO'S』移籍のタイミングとかけてるんじゃないかっていうことですよね？　全然そうじゃないですよ！　本当に、純粋に、格闘技の話ですよぉ。

――そうなんですか？　日本語だとダイレクトすぎるから、しれっと英語で入れたのかと思ってました（笑）。
桜庭　え～っ⁉　いや、腕十字に入るときでも、タックルにいくときでも、なんでもタイミングが重要なんで。相手にプレッシャーかけてタイミング読んで、あとは自分のバランスをとりながらやれって話ですよ。たまたま『HERO'S』へ行った時期とタイミングが合っちゃっただけです。な～んにも考えてないです（笑）。
――でも、頭に「世の中は～」って入ってるのは？
桜庭　いや、ホントにスポーツする上での話ですから！　まあ、微妙にそういう意味も含んでますけどねぇ……。
――微妙に含んでましたか（笑）。あの～、桜庭さんってけっこう策士だったりします？
桜庭　へ？　な～んにも考えないです。
――もう感性のまんま？
桜庭　そうそう。策士は谷川さんのほうじゃないですか？　だってボク、気がついたら『HERO'S』に上がってましたからね。
――アハハハハ。完全に〝霧の中〟での出来事でしたか（笑）。ここ数年、谷川さんとは深くお付き合いをされてると思うんですけど、桜庭さんから見た谷川さんってどんな人ですか？
桜庭　テキトーな人です（キッパリ）。
――それはマッチメイクとかの交渉時に感じるんですか？
桜庭　まあ、そうですね。だって、谷川さんには一生のお願いをもう5～6回されてますからねぇ。
――わずか1～2年で！　もちろん真顔でですよね？
桜庭　そう、真顔で。そのくせ、人の話はまったく聞いてないし！（笑）。あとは直接会って話してもダメだろうって思ったのか、携帯のメールで試合のオファーをしてきたり……、もちろん絵文字つきですけど。



Kazushi S

――それ、前に一度見せてもらいましたよ！　カエルが口をパクパクさせながら、何かお願いごとをしてましたね（笑）。
桜庭　それとか、ここ一番のときはボクにじゃなくて、カミさんの携帯に電話してきますからね！　で、カミさんがボクに「谷川さんが『メシ食いたい』って言ってるんだけど……」って言うから、「深い話はナシで、メシだけだったらいいよって返事して！」って。でも、メシの誘いなら直接ボクに電話くれればいいんですけどねぇ（笑）。
――でも、メシを食ったあとは一生のお願いをされるんですよね？（笑）。
桜庭　そうです！　でも「これは絶対、深い話をされるな」ってときは、こっちも谷川さんが来るなり「今日って、メシ食うだけですよね？」って確認するんですけどね。「お、お、お～ん。メシ食うだけだよぉ……」って言うんですけど、お腹がいっぱいになったら忘れるみたいで……（笑）。
――アハハハハ！　のどかな策士ですねぇ（笑）。それではそろそろ、DREAMの話題にいきましょう。直前になってきて思ったんですけど、やっぱり桜庭さんには旗揚げ戦に出場してほしかったですねぇ。
桜庭　ああ、ボクも出たかったですよ！　だけど、バランスだかタイミングが合わなかったですねぇ。
――あ、出場したいという意思はあったんですか。
桜庭　ええ。旗揚げの一発目に出るっていうのはやっぱりいいことだから。
――いやぁ、出てほしかったですねぇ！
桜庭　でも、いまからでもいいですよ？　高橋（渉）となら試合しますよ？
――ここ（ジム）に来ればいつでも観られそうなので、けっこうです（笑）。そうか、桜庭さん自身は旗揚げ戦に出たいという気持ちがあったんですね。
桜庭　出たかったです。
――それで、こないだ『DREAM・1』のパンフ用にインタビューさせていただいたときに、聞き捨てならないことをおっしゃってたんですが、「また93キロでやってみたい」という……。
桜庭　ああ～！　少しずつ体重増えてるんですよ。いまは86～87キロですかね。
――93キロって、また桜庭さんらしいというか突飛な発想をしてきましたよね。通常は85キロくらいでしたっけ？
桜庭　85キロないくらいですね。
――意図的に増やしてるんですか？
桜庭　そう。
――どうやって？
桜庭　メシの量ですね。あと○○と。
――アハハハハ！　夢の○○○を使ってますか（笑）。って、こういう発言を本気に受け取る人もいたら困るので、やめましょう！　でも、そうやっていまから体重を増やしちゃって、4月開幕のミドル級グランプリはどうするんですか？
桜庭　ボクには関係ないですからね。前からずっと言ってますけど、トーナメントには出ないです！　これからはボクが逆に「一生のお願い」を使ってトーナメントだけは勘弁してもらいます（笑）。
――本当に出ないつもりなんですか⁉　ボクには4月29日に桜庭さんが一回戦のリングに上がってる姿が目に浮かぶなあ～。
桜庭　出ないって！（笑）。出ないって前から言ってるじゃないですかぁ。
――絶対に出ない？
桜庭　無理です！（キッパリ）。やっぱりね、○○○打ってトーナメントに出たら、

田村さんの思考回路ですか？ いや、ボクも理解できないですよ

10年もつカラダが1年しかもたないですよ……。

——いいじゃないですか、打ってないんだから！（笑）。

桜庭 ウヒャヒャヒャ！ いや、真面目な話、また100キロくらいの選手と闘ってみたいっていう気持ちがあるんですよねぇ。前は本意じゃない部分もあったんですけど、いまは自分からやってみたいと思ってますね。

——じゃあ、DREAMではミドルというより上の階級で闘っていくつもりなんですか？

桜庭 ……わかんないなぁ。

——どっちですか（笑）。

桜庭 そこはまあ適当に……（笑）。

——ミドル級（84キロ以下）でもやることはある？

桜庭 どうしようかなぁって。ホント、適当ですねぇ。増やそうと思ってメシ食ってるんですけど、うまく増えれば93キロにいくし、いまんとこはミドル級なんだろうし。

——わりといまの気持ちはフワフワしてる感じなんですね。

桜庭 そうです、そうです。

——じゃあ、4月はワンマッチ希望なんですか？

桜庭 試合ですか？ 組んでもらえれば……、ただ組んでくれないかもしれないし（笑）。

——じゃあ、DREAMではまずミルコ（・クロコップ）との再戦をやりましょうか？

桜庭 ああ。でもあの人、また体重増えてますよね？ 102～103キロくらいですか……？

——100キロ以上はありますね。

桜庭 100は普通にありますよねぇ？ だって、国立の『Dynamite!』でやったときも「やってもいいけど、頼むから93キロ以下に落としてくれ」って言ったんですよ。でもミルコは脂肪がないから、97～98キロで「これ以上はもう落ちない」って。

——あのときって桜庭さんが頑張って体重を増やしていったんですよね。

桜庭 それでも10キロ以上は差があったんですよ。11キロくらいかな？ で、前のルールって体重の軽いほうが4点ポジションでの頭へのヒザがアリかナシかを決められたじゃないですか？ いまだから言いますけどねぇ、メインで「ナシで！」って言えないじゃないですかぁ!!（笑）。本当はナシがよかったんですけど……。

——アハハハハ！ あれ、「ナシで」って言えない雰囲気ありますよね（笑）。

桜庭 言えませんよぉ!!（笑）。しかもアナウンサーの人の言い方もよくないんですよ！

——「顔面頭部へのヒザ蹴りを……」。桜庭（テンションの低い声で）「認めなかったため～……」って!!（笑）。で、お客さんも「認めたため!!」って言ったらすっごい盛り上がるでしょ!? あれは追い詰められますよ、本当に！

——拷問ですよね。たまにガイジン同士の試合で平気で「ナシ」って選択する選手もいましたけどね（笑）。

桜庭 「どっちにします？」って聞かれたときに相手の顔を見たら、「もちろん、認めるだろう？」みたいな顔してますからね！（笑）。「い、いいですよ……」って。

——まあ、そのルールも今回から改正されたということで。

桜庭 ヒザがないんですよね？

——グラウンド同士はアリですね。

桜庭 あ、そっかそっか。まあでも、どうせボクはやられるほうですけどね～（笑）。……で、ミルコでしたっけ？

——体重さえ合えば、やってもいいって感じですかね。

桜庭 はい。

——それと、例の〝夢の架け橋〟もぜひDREAMでやってほしいですね。田村さんの発想っていうか思考回路が我々にはなかなか理解できないことが多いんですけど、桜庭さんは理解できますか？

桜庭 いや、ボクもできないですよ。

——あいかわらずわかりませんか（笑）。

桜庭 わっかんないですねぇ～。一回戦でホイス（・グレイシー）とやりたいって言ってるんですよね？ たしかホイスって、一年間出場停止なんじゃねえかっていう……（笑）。

——昨年の6月から一年間ですよね。

桜庭 だから今年の5月いっぱいまでダメなんですよね？ 4月にトーナメントの一回戦でホイスって、それは無理かと（笑）。でも、田村さんとはいいかげんやったほうがいいと思いますけどね。それも一回だけじゃなくて、ボクは何回やってもいいですよ。

——何本でも橋を架けるぞ、と。でも、桜庭さんが体重を増やすとなると田村戦も難しくなりますよ？

桜庭 93キロで待ってます!!

——ち、力強い（笑）。そういえば、ホイスも今後DREAMに参戦しそうな雰囲気ですよね。

桜庭 （DREAM開催発表）会見でビデオレターが流れてましたよね。「な、なんで歌舞伎町にいるんだよ！」とツッコミながら観てましたけど（笑）。

——いつかDREAMでホイスと3度目の対決もやりましょうか？

桜庭 ホイス？ やったら、今度はいったいどういう要求してくるのかなって思って。一回目は無制限、二回目はラウンド



「出ない、出ない」と言いつつ、『DREAM.1』のリングでミドル級GPへ向けての挨拶をした桜庭。リング上でも「出ません」と言っていたが、これぞ桜庭流の冗談なのである!?

shi Sakuraba



数を短く、じゃあ3回目はどういう要求をしてくるんだっていう。

――「自分だけたくさん夢をかなえてんじゃねえぞ」と（笑）。

桜庭　何回も言いますけど、最初は無制限だったのに、2回目は直前に5分5ラウンドを5分3ラウンドにって……。べつに2ラウンドくらいやればいいじゃねえかって！（笑）。

――アハハハ。ミルコと田村選手、それとホイス……、あとは誰がいますかねぇ。

桜庭　あとは、DREAMがこれからどんな外国の選手と契約するかですよね。（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラとかシウバとか（マウリシオ・）ショーグンとか、みんなUFCに行っちゃいましたもんね。

――そうですね。過去にPRIDEや『HERO'S』のリングでやっておきたかったっていう選手はいませんか？

桜庭　いえ、いないですねぇ。あ！　アイツは階級違いますかね？　ソクジュ！

――ソクジュが桜庭さんのアンテナにひっかかってましたか（笑）。

桜庭　ちょっとね（笑）。なんかこないだやられてましたけどね。

――UFCでLYOTOに一本負けしましたよね。なんか、違うリングでああいう結果が出るとちょっと悲しいですよね。

桜庭　でも……、そりゃそうなんだろうなぁって思いましたよ（笑）。「グラウンドをやったらどのくらいなんだろうな～？」ってのがありましたから。だから、ソクジュもナシとして……、そうだなあ、あとはボクよりうんと軽い選手と闘いたいですね！

――アハハハ。もう夢を見たい放題ですね（笑）

桜庭　もう『Dreamin'』（桜庭の好きなBOØWYの曲）ですから！（笑）。そうそう、「ドリーミン！」ってね、ずっと聴いてると「ドリームワン」って聴こえるんですよ。だから、旗揚げ戦にも出たかったんですけどね。『Dreamin'』で入場したかったなぁ。

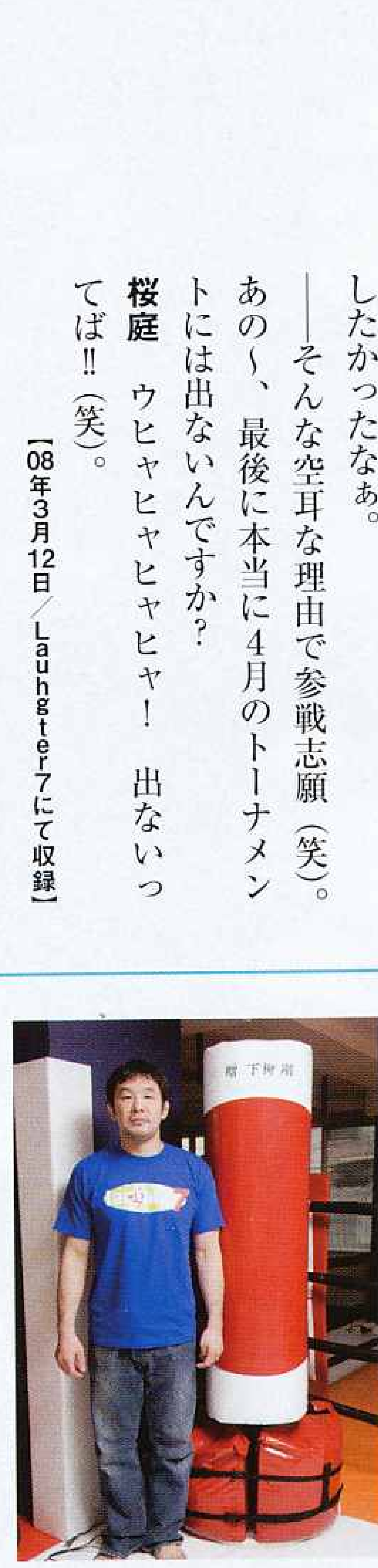
――そんな空耳な理由で参戦志願（笑）。あの～、最後に本当に4月のトーナメントには出ないんですか？

桜庭　ウヒャヒャヒャヒャ！　出ないってば!!（笑）。

【08年3月12日／Laughter7にて収録】

Kazushi Sa

さくらば・かずし■1969年7月14日、秋田県出身。92年、UWFインターナショナルへ入団。97年12月UFC-Jヘビー級トーナメント優勝。ここで発せられた「プロレスラーは本当に強いんです!」という名言は多くのファンの心をとらえた。98年からはPRIDEへ参戦。90分の死闘を繰り広げたホイス・グレイシー戦をはじめ、一連の"グレイシー狩り"は桜庭フィーバーとともにPRIDE人気を押し上げた。06年には戦場をHERO'Sへ。DREAMミドル級GPへの参戦が期待されている。180cm、85kg。



桜庭和志の総合格闘技ジム

Laughter7（ラフターセブン）がついに開設!

07年末に念願のジムを開設した桜庭和志が、4月1日からジム生を募集～ッ! ジムではサクから直接技術学べるだけでなく、浜中和宏、高橋渉、佐藤豪則と手合わせすることも可能。全国の不良ども……じゃなくて、格闘家を志す全国の強者はぜひ入会せよ!

〒140-0013 東京都品川区南大井6-3-8
ガーデニア大森2F
TEL.03-6807-1770



秋山成勲

魔王の夢と毒

DREAMミドル級GPに忍び寄る黒い影!!

文／田中太陽

あくまでもヒールであることを拒否し続けている秋山自身は、このリングで何を目指して闘うのか？

さまざまな課題を残しながらも、ひとまずは無事に旗揚げを終えたDREAM。次回興行の目玉はもちろんミドル級GPだが、そこには早くも〝黒き影〟が忍び寄りつつある。

いまだ〝黒〟のイメージがぬぐえぬばかりか、もはやヒールを通り越した〝嫌われ者〟になりつつある秋山成勲。昨年末の三崎和雄戦におけるドラマチックな敗戦には、彼の〝黒き過去〟をも吹き飛ばしてしまうほどのカタルシスが確かにあった。

しかしながら、試合後の裁定変更と〝ノーコンテスト会見〟がファンに与えた計り知れない違和感により、秋山の〝浄化〟は見事に失敗したと言っていい。その後も韓国のテレビ番組において三崎批判をブチ上げるなどしたため、むしろ戦前よりも不人気をつのってしまったのが現在の〝黒き魔王〟だ。

その爪跡は、先日の『DREAM・1』においても随所に見られた。一つはオープニングのルール説明にて「クリーム等を身体に塗ることは禁止とします」とのアナウンスがあった瞬間、会場が拍手と歓声に包まれたことが挙げられる。

これはいうまでもなく、〝ヌルヌル事件〟をいまだに許していないファンの意思表示であり、DREAMという新たな舞台でも、秋山をヒーローと認めることは決してないのだという事実の再確認でもあった。

桜井〝マッハ〟速人vs門馬秀貴戦では、第三者にすぎない秋山のもたらした〝毒〟が、完全に試合の構図を作ってしまう結果となる。煽り映像の内容は、秋山とともに練習する門馬と、マッハ道場の門下生たちに勝利を誓うマッハの姿を交互に映し出すという〝恣意的〟なもの。

さらには「やりすぎだろ！」と思えるほどに不気味なテーマ曲を伴なって入場してくる門馬の背後をよく見れば、秋山本人がついてきているのだからたまらない。なんの因縁もない二人の対決が、秋山の存在によって「ベビーvsヒール」の闘いに一変した。快勝したマッハに送られた歓声がひときわ大きかったのは、観客がそこに別のカタルシスを見出してしまったからであろう。

興行も中盤にさしかかったところで、ミドル級GPの出場予定選手がリングに登場した。その中にはもちろん秋山の姿もある。そして最初にマイクを手渡された彼に送られたのは、やはりというべきか怒号のようなブーイングの嵐であった。

「自分の夢に向かって闘います」

優等生っぽくそう語った秋山の声調と表情には、わずかながら〝ふてくされた〟色が見え隠れしていた。人間離れした図太さを持つ彼がそのような態度を見せるほどに、この日のブーイングは凄まじかったのである。それはヒールというキャラクターに対して行なわれる儀式的なもの、たとえば島田裕二レフェリーに毎回送られるそれとはまったく意を異にする、真の憎しみに基づくブーイングだった。

MMAファンの「秋山憎し」、ここに極まれり。もはや〝ヌルヌル事件〟やそれにまつわる論議をも越えたところで、ファンは秋山というキャラクターそのものを嫌い始めたのだ。

ならばDREAMは今後、秋山をどのように扱っていくのだろうか？ そして、あくまでもヒールであることを拒否し続けている秋山自身は、このリングで何を目指して闘うのか？ そんなことを考えさせられた今回の秋山が、ミドル級GPという大舞台のまさしく〝ど真ん中〟に鎮座ましましている状態であることを忘れてはならない。



『DREAM.1』にて、ミドル級GP出場選手としてリングインした魔王。マイクを握って挨拶しようとするや、場内からは大ブーイング!! 三崎戦の裁定や韓国での発言が火にクリーム……じゃなくて油を注ぐかたちとなった。韓国における〝黒の発言〟は『kamipro Hand』にてチェックだ！

言うまでもなく、秋山は強い。ファンに好かれていようが嫌われていようが、また黒であろうが白であろうが、こと最強決定戦においては間違いなく〝大本命〟である。今回のGPは、おそらく誰もが「誰が秋山を倒すのか？」という視点で観るだろう。もはや〝裏主役〟などではない、れっきとした〝主人公〟なのだ。そのことをファンはどう消化していくべきなのか？ じつはこちらのほうが重要な問題であったりする。

まず言っておきたいのは、もしも「秋山が優勝するところなんて見たくない」という思いからGPを拒絶するファンがいるとしたら、それはとんでもない間違いだということである。むしろそのようなファンこそが、今回のGPを観るべきなのだ。

秋山を〝悪〟と認定したうえでそのような諦観を持つのならば、それは〝正義〟の可能性を信じていないということだ。残酷な結果から目をそむけるくらいなら、はじめから真剣勝負など観なければよろしい。選手とともにリングへ上がり、選手とともに闘い、選手とともに傷つく。そのような覚悟が、いま再びMMAファンに問われているのだ。

そもそも〝英雄〟が絶対的に不足しているDREAMにおいて、秋山の存在はたいへんな財産なのだ。秋山を倒すことができた者は、ファンのすべてが納得するかたちで主役の座に就くことができるだろう。そのときに三崎戦をも超える本物のカタルシスを得られるのは、ずっと秋山と対峙し続けたファンだけなのだ。すなわち、いま秋山を拒絶してしまうような人々には、ニューヒーローを賞賛する資格すらないのである。

もはや日本でヒーローとなることをあきらめ、すっかり開き直ったように見える秋山。世界征服をもくろみ、挫折した〝魔王〟が次に目指すものとは何なのか？ その答えは、あまたの神話や物語が我々に示してくれている。

「どうせ我がものにならぬ世界ならば、いっそ壊してしまえ」

いわゆる〝追いつめられた魔王〟の定番である。いまや〝嫌われ者〟という立場を自覚しつつある秋山のモチベーションは、まさしくこれに近いものがあるだろう。

「勝つしかない」

このようなスイッチが入ったときの秋山の闘いぶりが〝悪魔の領域〟に達することを我々は知っている。あまりにも吹っ切れた強さがそこで見られるようであれば、その圧倒的に邪悪な怪物性に魅せられてしまうファンも必ずや出てくるはずである。秋山に限らず、ダークサイダーには得てしてそのような魅力があるものだ。ピカレスク・ロマンというやつである。

DREAMミドル級GPが我々に見せてくれるものは、新たなヒーローの誕生か、あるいは魔王の描き出す暗黒世界か。誰が相手になろうとも〝魔王討伐〟一の陣は、早くも見逃せない内容になりそうである。

三崎和雄

Kazuo Misaki

——『戦極』旗揚げ戦が無事終了したということで……、今日は三崎さんにマイクの極意について語っていただきたいと思います（笑）。

三崎　そこからですか！（笑）。僕にマイクの話をするのはやめてくださいよ～。

——でも、いまや三崎さんのマイクでの発言は、もの凄く期待されてますよ（笑）。

三崎　それ完全に嫌味ですよね（笑）。

——いやいやいや、郷野さんもほめてましたよ。「今回はこれまでで一番マトモだった」って。

三崎　もうなんかね……（マイクを持ったときの）あの会場の雰囲気が、慰められてるんだか、野次られてるんだかっていう中にいましたからね。ちょっとマイクは……郷野さん、早く日本のリングに帰ってきてくれないかなあ。やっぱりマイクは郷野さんに任せて、僕は試合で……なんて言ったら郷野さんに怒られちゃうけど（笑）。

——染之助染太郎ばりに、あなたしゃべる人、私闘う人、みたいな。また誤解を招きそうな発言ですね（笑）。

三崎　だから、しゃべるのは昔からホント苦手なんです！　僕の場合、思ったことをパッと言ってしまうから、単体の言葉で表現すると、いろいろな捉え方があるので、どうしても誤解を招いてしまうことがあったり。言わなきゃいいことを言ってしまったり……。

——どうしても言葉足らずになってしまう、と。

三崎　なんか言いたいことの最後だけ言っちゃったりするんですよね。

——それは明らかに誤解を招きそうですね（笑）。

三崎　そうなんですよ……難しいですね。リング上で話すというのは。だから、できれば言葉はいらないんですけどね。闘いだけで「ああ、この人はこういうことを訴えてるんだな」ってわかってもらえたらいいんですけど。それか、どっかでしゃべりも勉強したほうがいいですかね？

——いや、このまま三崎さん独特の世界観を伸ばしていってもらえたらと思うんですけど。

三崎　いやいやいや（笑）。やっぱりしゃべるのは難しいです！

——マイクといえば、3・5『戦極』の試合後、「神様が試練を与えてくださる」って話をされてましたけど、今回、かなり厳しいコンディションだったらしいですね？

三崎　………なんで、皆さんがそれを知ってるのか、僕が知りたいんですけど（苦笑）。ボクは一言も言ってないのに。

——それはおそらく、DJなんとかさんが、いろんなところでお話しされているからだと思います（笑）。

三崎　なるほど。DJ GOなんとかさんから、漏れてましたか（笑）。

——で、実際かなりひどい状態だったんですよね？

三崎　知ってる人もいると思うんで少しお話しすると、今回はいろんなところをケガしたり、土壇場になって体調を崩してしまったりして、ホントに練習が全然できなかったんですよ。だから「神様が与えてくださった試練」とは言いましたけど、なぜ、俺がこんな思いをしなきゃいけないのかって正直思ってました。

——神様を恨んでましたか（笑）。

三崎　恨んではないですけど（笑）、試合が終わったあと、「これは試練だったんだな」「ここで投げ出すか、向かい合うかというところを試されていたのかな」と思えて、リング上でああいうことを言わせてもらったんですけどね。

——三崎さんはPRIDEウェルター級GPで優勝したあと、ラスベガスでフランク・トリッグにまさかの敗北を喫したことがあったので、秋山成勲戦後の今回も、ちょっとイヤな予感というか、心配はしてたんですよ。

三崎　僕も正直そういう心配がありました。人間、そんなにうまいことは重ならないだろうなとも思いましたね。だけど、これは試合が終わったあとに感じたことなんですけど、ケガや体調不良がずっと重なって、そっちが気になって、周りの雑音やプレッシャーをちょっと忘れられたんで、それが逆によかったのかな、と。へんに体調がよくて周りの雑音を気にしてたら、もしかしたらもっとへんな試合をしてたかもしれないし。

——色気を出して、舞い上がってたかもしれない、と。

三崎　だから結果的にはよかったんじゃないかと思ってますけどね。試合自体は勝っただけで、自分のいいところが出せなかったし、僕自身、反省するところが多いんですけどね。

——では、初めて上がった『戦極』のリングは、いかがでしたか？

三崎　正直、スタートを切るまでは凄く不安がありましたよね。期待感ももちろんありましたけども、先が見えないものだったので、この大会はホントに成功するのかな、どうなるのかなっていう不安のほうが大きかったのは事実です。でも、試合をしてマイクを握ったときもそうですけど、野次られてるんだか慰められてるんだか、何かお客さんも受け入れてくれてるような感じが僕の中ではあったんですね。だから、とても心地よかったし、ここから何かが始まっていくんじゃないかっていうような予感はしましたね。





マイクを語る

“『戦極』のクソ高いチケット”発言の真意を激白！

昨年大晦日での秋山成勲戦以降、いろんな意味で、その発言が最も注目される男となった三崎和雄。3・5『戦極』シアー・バハドゥルザダ戦では、フロントチョークで見事逆転勝ちをはたしたあと、マイクを握ると会場はなんともいえないムードに包まれた。そんな三崎が今回、ついに自らのマイクについておおいに語ってくれた！

聞き手　堀江ガンツ　撮影／乾晋也





[3.5 戦極-SENGOKU-]
東京・代々木第一体育館
○三崎和雄 vs シアー・バハドゥルザダ×
(2R 2分2秒、フロントチョーク)
大晦日の"魔王討伐"でブレイクした三崎が、『戦極』で修斗世界ライトヘビー級王者バハドゥルザダと対戦。バッドコンディションの三崎は、前半、パンチをクリーンヒットされグラつくなど、劣勢を強いられるが、そこから吹っ切れたか足を止めての打ち合いに持ち込み、最後は得意のフロントチョークで捕獲し、逆転勝利！"クソ高いチケット"を買って観に来た観客の大歓声を浴びた。

Kazuo Misaki

――皆さん、意外なほど「このリングを育てていきたい」的な発言が多い気がするんですけど、『戦極』には、そういう気持ちにさせる何かがあるんですかね。

三崎　ある程度かたちのあるものの中に飛び込んでいくのは簡単なことだと思うんですけど、自分たちでかたちのないものから作っていくっていうのは、大変だけど、いまは楽しみを感じていますね。

――じゃあ、しばらくこのリングで闘っていく、と。

三崎　そうですね。このリングだけかどうかはわからないですけど、もちろんこのリングには上がっていきたいと思います。ここをホームリングにして、敵地に乗り込むこともあるかもしれないし。そういうことをしていきたいと思います。

――このリングでの当面の目標っていうのは？

三崎　どうでしょうかね？　それこそ先が見えないですからね。今回の試合もそうだったんですけども、相手が"本気"だったんですよね。

――"本気"ですか⁉

三崎　スポーツや格闘技をしにきてる感覚じゃなくて、ホントに殺しにきてるなっていうね。いろんな場面からその本気モードが伝わってくるんですよ。だから最初にパンチ一発ガツンと食らったとき、こいつ本気できてるっていう、迫力というか、殺気を感じたんですね。

――食ってやろうとか、勝ちたいじゃなく、殺してやるぐらいの気持ちが伝わりましたか。

三崎　そう、殺してやる。そして、ここで俺は生きるんだっていうものが凄く伝わってきたんですよ。で、僕が紙一重で勝つことができましたけど、やっぱり終わったときにね、俺はこういう相手との試合を求めてるんだなっていうのをあらためて感じたんです。だからそういう本気でくる相手とまた試合をして、本物をリングの上で伝えたいなと思います。

――大晦日の秋山戦、そして今回と刺激的な試合が続きますね。

三崎　そうですね。でもそのほうが僕も生きてる実感が湧くというか、それが僕の生き様だと思うんですよね。命を懸けるような試合じゃなきゃ、それはたぶん僕じゃないですね。

――極限の闘いのほうが、持ち味が出るのかもしれないですね。

三崎　やっぱり僕のモチベーションも上がりますしね。だから誰とやりたいというより、さっき言ったような本気でくる相手をまた『戦極』にも要求したいし、呼んでもらいたいですね。

――ところでDREAMのほうで、4月から三崎選手と同階級のトーナメントが始まりますけど、気になったりしますか？

三崎　それはもちろん気になりますよね。いい選手がたくさん出るでしょうから。

――三崎選手の電撃出場はなさそうですか？

三崎　僕ですか？　さすがになさそうですね(笑)。

――では、PRIDEの同じ階級のGPチャンピオンとして、今回のGP優勝者なり、実績のある人とやりたいという気持ちはありますか？

三崎　それはもちろんありますよ。非常にやりたいですね。まあ、僕の場合は神様に助けられた優勝なんで(笑)、あんまりチャンピオンだと胸を張っては言えないんですけど。僕個人の思いとして言えば、そういった強い方と試合をさせてもらいたいという気持ちはあります。

――『戦極』とDREAMはライバル関係にあるように見られていますけど、選手としてはそういう感覚はありますか？

三崎　同じ団体にいようが、外の団体にいようが、やっぱり強い人間には魅力を感じるし、闘いたいなとも思うし。それは個人としてのライバル意識もあると思うんですよ。ただDREAMの選手だからっていうライバル意識はないです。もっと言えば、GRABAKA内でもライバルはいるし、郷野さんなんかおもいっきりライバルですからね。

――ライバルになりうる選手でいえば、近藤有己選手が『戦極』に上がるという噂がありますけど。

三崎　そうなんですか？　それは楽しみですね。

――三崎vs近藤戦は観たいですよ。

三崎　パンクラスでは実現できませんでしたからね。格闘家としてはもの凄く尊敬してる選手なんで、タイミングが合えばやってみたいし、気になりますね。

――これは『戦極』の黄金カードになりえますよ。

三崎　近藤さんは強いですからね、何かを持ってる人なんですよ。パンクラスに入ったときからずっと気になってました。この人、何を持ってるんだろうなって。何かを持ってるんだけど、それがわからないんですよ。

――郷野さんとの試合だって、なぜ郷野があんなふうにやられるのか、理由がわかりませんでしたからね。

三崎　そんな試合ばっかりじゃないですか、近藤さんの試合って。

――不思議な強さですね。深い強さというか。

三崎　そうそうそう、なんか奥深いですね。

――いや～、三崎vs近藤は凄く観たくなりましたね。

三崎　そうですか？

――こういうことを繰り返し書いておくと、6月あたりにホントに実現するかもしれない気がするんで、言っときました(笑)。あと、アメリカには興味ありますか？

三崎　もちろん、ありますよ！　昨年11月に『ストライク・フォース』の会場に行かせてもらったんですけど、そのとき感じたのは、主催者ではなく、ファンが会場のムードを作ってるなってことなんですよ。たとえば片方がヒーローで、片方がヒールっていう試合があったんですけど、もの凄い歓声ともの凄いブーイングに分かれるんですよね。そしてヒールが勝ったら今度は凄い歓声に



今回マイクでしゃべるつもりはなかったんですよ でも、マイク渡されて「ヤベ、どうしよう」って

変わったんですよね。だから、ファンが観たものをそのまま受けとめてくれてるような感じがして。そこにもの凄く魅力を感じたんですよね。そして、そのとき「このファンに日本から何かを届けたい」っていう思いになったんですよ。

——それこそ「日本人は強いんです」っていうことをアピールして。

三崎　そうですね。ただ、どうしてもこの世界、契約がつきまとってきますから。障害はありますけど、障害がない中で出ていきたいなと思いますけどね。あと僕個人の人生を考えたとき、やっぱりいろんなものを見たいし、いろんな経験をしたいっていう思いがあるんですよ。だから日本だけじゃなくてアメリカだったりとか、ホントに知らない異国の地に出ていくことによって、自分の経験値をどんどん高めて、人間としての容量を増やしていきたいなと思うんですけどね。

——アメリカなら、やっぱりUFCにも上がってほしいですけどね。

三崎　UFCは非常に魅力がありますよ。でも、UFCこそなかなか難しい契約ですからね。

——少なくとも1年間は日本で試合ができなくなるでしょうね。

三崎　うまいタイミングで、出ていけたらいいなと思うんですけどね。

——三崎さんの階級であるミドル級は、強い選手たくさんいますからね。

三崎　激戦区ですよね。ダンヘンがやられちゃうんですからね。

——チャンピオンのアンデウソン・シウバ、強いですよね。

三崎　あれは強いわ。でも、そういう選手とやりたいですよね。ブーイング浴びながら、あの檻に入りたいですよ。

——それこそ自分の野蛮を全開にできる、みたいな。

三崎　そうですね、ホントの自分自身で闘えるんじゃないかと思うんですけどね。だから、自分がやりたいことをやっていきたいなと思うんですよ。会場の大きい小さいは関係なく、ギャラが高い安いも関係なく、自分がやりたいと思ったらやればいいかなと思ってるんで。もちろん人に迷惑をかけない範囲でやりたいとは思ってますけど。

——わかりました。では、最後にまたマイクの質問で恐縮ですが（笑）。

三崎　またですか！

——三崎さんの発言で一つ気になったのが、「『戦極』のクソ高いチケット」というのを連発してたことなんですけど、あれはどういう意味で言ってたんですか？

三崎　ああ、あれね……、今回ホントにマイクでしゃべるつもりまったくなかったんですよ。でも、リングを降りようとしたらいきなりマイクを渡されて、「えっ……何しゃべろう？」って思ったまま、もう真ん中に立っちゃって、「ヤベ、どうしよう？」ってなって、あんなこと言っちゃったんですけど……。

——で、どういう意味だったんですか？

三崎　やっぱり正直、チケット代は高いと思うんですよ。リングサイドのVIPが10万円、次が3万円、1万7000円、7000円と分かれていて。やっぱりみんな会場で観たいから、一番安いチケットはすぐに売り切れちゃうんですけど、その次が1万7000円というのは、なかなか出すのが大変だと思うんです。

——一気にプラス1万円ですからね。庶民にはなかなか大変な金額ですよね。

三崎　でも、偉そうなことは言えないけど、僕は仮に10万円のチケット買ってもらったとしても、20万円ぶん、30万円ぶんの、お金じゃ買えないぐらいものを感じて帰ってもらいたいと思ってるし、絶対に損はさせないつもりで闘ってるし、3万円、1万7000円のチケット買った人だって「もっと出してもよかったよ」って言ってくれるような試合をいつも僕はしたいなって思ってるんです。そして、それは僕だけじゃなくて選手はみんなそういう思いで試合をしてると思うんですね。だから、確かにチケット代は高額だけど、高いと思わせないような試合をしたいと思って言ったんですけど……伝わってませんでしたかね？

——残念ながら（笑）。ボクもいま、ようやく理解できました。

三崎　またかァ……。

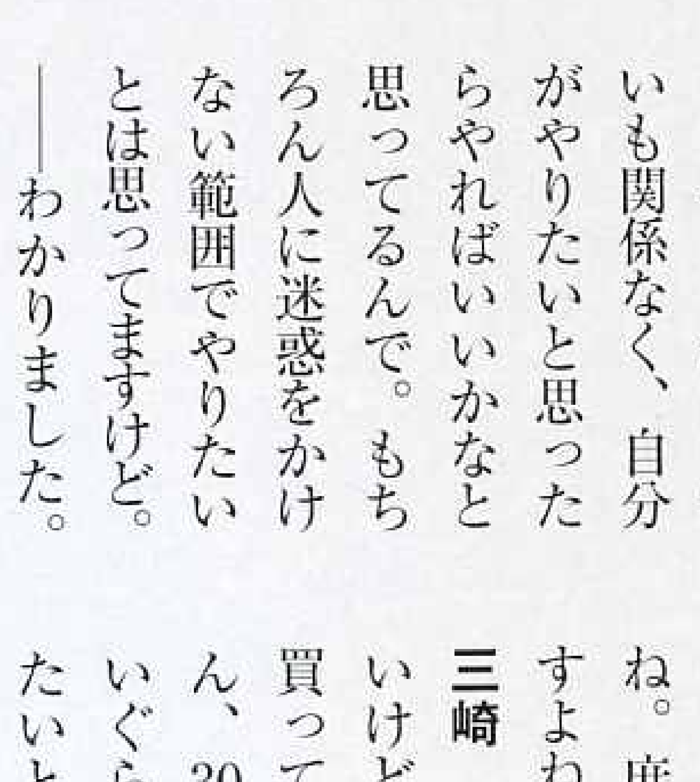
——つまり決して安い金額じゃないけど、その金額以上のものを見せたいという気持ちだった、と。

三崎　やっぱり、そこまで言わなきゃわかんないですよね……。でも、やっぱりクソ高いですよ。3万円っていったらね、何ができますか！……まあ、またよけいなこと言っちゃいけないけど（笑）。単純に考えて高いですよ。でも、そう思わせないような闘いをしていきたいですね。

——わかりました。では、次回のマイクも期待しておりますので（笑）。

三崎　マイクはもういいですよ！。

【08年3月14日／東中野・GRABAKAジムにて収録】



みさき・かずお■1976年4月25日、千葉県出身。01年にパンクラスでプロデビューし、PRIDEには04年『武士道 其の参』から参戦。06年に「PRIDEウェルター級GP」でダンヘン、デニス・カーンらを破り見事優勝。昨年、大晦日では『魔王』秋山成勲をKOで下したが、試合後、ノーコンテストに結果が覆った。178センチ、84キロ。



レビュー

昨年、大晦日の"魔王討伐"でブレイクをはたし、いま試合後のマイクでさらなる大ブレイクが期待されている三崎和雄。しかし、06年のPRIDEウェルター級GPに優勝するまでは、どちらかというと地味な存在だったため、これまでの軌跡を知らないファンも多いことだろう。そこで本誌は三崎のプロとしての闘い全30試合を、三崎本人に解説してもらうべく申請。これを読めば、三崎がもっとよくわかる!

構成／堀江ガンツ

2001.5.5 パンクラス 大田区体育館

○vs芦沢健一（3R終了 判定 3-0）

デビュー戦は苦しい試合でしたね。いまでも覚えてますけど、三角（絞め）取られたままボカスカ殴られて、ホントにこんな生き地獄はねえなと思いました。でも、最初に苦しい試合が体験できて、芦沢さんには感謝してます。またこれが不思議な縁ですけど、今回の『戦極』の旗上げ戦でのレフェリーが芦沢さんだったんですよね。それもあって、自分にとって新たな一歩だな、と思いました。

2001.7.29 パンクラス 後楽園ホール

○vs佐藤光留（1R 4分8秒、チョークスリーパー）
○vs梁正基（2R終了 判定 2-1）
○vs長岡弘樹（2R 1分21秒、ギブアップ）

これは『パンクラス・ネオブラッド・トーナメント』で優勝したんですけど、ここで一発名前を売りたいな、と思ってましたね。ただ、それ以上にGRABAKAを背負って出るという気持ちが強かったので、とくに一回戦の佐藤光留との試合は気合いが入りました。ホントに意地と意地のぶつかり合いというか、「絶対、こいつには負けねぇ!」っていう一心でしたね。とにかくこの頃はGRABAKAに所属させてもらってることを凄く誇りに思ってたんで、「ここで練習してるんだから、俺はどんな試合やっても勝てる」って気持ちでしたね。

2001.10.30 パンクラス 後楽園ホール

○vs冨宅飛駈（1R 0分8秒、KO）

『ネオブラッド』で優勝して一発目の試合だったんで、インパクトを与える試合をしたいと思っていきなり突っ込んだんですけど、それが見事に当たりましたね。結果的にストレート一発で勝ったんですけど、この頃はまだ、打撃もしっかりと打ててなかったんで、右の拳が折れちゃったんです。だから、あれでKOできなかったらじつはヤバかったんですけど、後先考えずに闘ってましたね。

2001.12.1 パンクラス 横浜文化体育館

×vsクリス・ライトル（3R終了 判定 0-3）

これは初敗北です。まあ、いまさら言い訳してもしょうがないですけど、冨宅さんとやったときの拳が折れたまま試合に出たんですよ。ボクは体育会系の柔道出身で、ケガをしてても試合は断れないもんだと思ってて、オファーが来たものをそのまま受けちゃったんですよね。それも含めて当時のボクの実力だったんですけどね。

2002.2.17 パンクラス 梅田ステラホール

○vs上山龍紀（3R終了 判定 3-0）

上山選手は非常にねちっこいというか、ディフェンス力の高い選手でしたね。判定で勝てましたけど、身体も柔らかくて、非常にやりにくい選手でしたね。

2002.3.25 パンクラス 後楽園ホール

×vsネイサン・マーコート（1R 0分29秒、ドクターストップ）

たった29秒ですけど、この試合は俺のヒジが脱臼しちゃったんですよ。組み合ってもつれて倒れたとき、僕が手をついたら二人の体重がすべてヒジに乗ってしまって、ヒジが逆の方向に曲がっちゃったんですね。もうヒジがプラーンとした状態で、これはレフェリーに止められるってわかったから、その前に起き上がってハイキックを蹴ったんですよ。脱臼しててもハイキックが当たってKOすれば僕の勝ちですから。だからね、侍が腕を切り落とされたとしても、逆の腕で短刀を抜いて相手の心臓を刺せば相手を殺せるような感覚なんですね。でも、残念ながらハイキックは当たらなくて、結局、興奮状態のままリングを降りたら、貧血で目の前が真っ暗になって倒れちゃいましたね。

2002.9.29 パンクラス 横浜文化体育館

○vs窪田幸生（3R終了 判定 3-0）

マーコート戦で脱臼して半年間ブランクが空いたんですよ。でも、この期間は自分はどういうことをやりたいのか、いろいろ考えて気持ちを整理する半年間でしたね。だから半年ぶりのこの試合から、気持ちがガラリと変わりました。ここからホントに1試合1試合、ここで終わってもいいと思えるような気持ちに変わってきましたね。

2002.11.30 パンクラス 横浜文化体育館

○vs小島正也（1R 4分40秒、腕ひしぎ十字固め）

いままで試合した中で、唯一、僕より軽い選手が小島選手でした。いつも自分より大きな選手と闘ってたんで、凄く軽く感じたのを覚えてますね。

2003.1.26 パンクラス 後楽園ホール

○vsジョー・ダース（2R 4分51秒、TKO）

ジョー・ダースはヘンゾ・グレイシーの弟子で柔術のチャンピオンなんですよ。僕にとっては初めての柔術家だったんで、凄く緊張したのを覚えてますね。ただ、このときも菊田一ヘンゾの代理戦争だって自分の中で思ってたんで、「こいつには、絶対負けねえぞ」っていう思いで挑んだことを覚えてます。

2003.3.8 パンクラス ディファ有明

△vs久松勇二（2R終了 判定ドロー）

2003.5.18 パンクラス 横浜文化体育館

○vs久松勇二（3R 2分34秒、チョークスリーパー）

久松先生とは2連戦になったんですけど、一回目は、もの凄く気合いを入れて挑んだジョー・ダース戦のあとだったんで、気持ちが作れずにパッとしない試合をしてしまったんですよ。それが自分に対して悔しくて、再戦をお願いして、二回目は悔しさをぶつけるような試合でしたね。

2003.8.31 パンクラス 両国国技館

×vsヒカルド・アルメイダ（3R終了 判定 0-2）

ヒカルドは試合後に、初めて心から「強い!」って思える相手でしたね。もちろん、皆さん強いんですけど、ヒカルドは別格でした。初めて"本物"に出会ったという感じでしたね。だから、この日から、ずっと彼を目標にして、追いかけてた気がしますね。いまではホントに大切な友だちですけどね。

2003.11.30 パンクラス 両国国技館

△vsジェイク・シールズ（3R終了 判定 1-0）

彼は凄くタックルがしつこい選手だなってイメージがあって。あと寝技がねばっこくて、いやらしい寝技をするんですよ。勝つポイントを知っているというか、勝つためのうまさやズルさ、そういったものも大事だなって思わされた試合でしたね。このあと修斗の世界王者になるだけの実力者でした。

2004.2.6 パンクラス 後楽園ホール

○vs國奥麒樹真（2R 1分31秒、TKO）

國奥さんはパンクラスに入る前から観てる選手で、ずっと目標にしていたので、この試合は僕の中で大きな山だなって感じでしたね。國奥さんはボクシングがうまい選手でファイタータイプなんですけど、この頃、僕はアウトボクシングを練習してたんで、ボクシングで勝負したいと思ってたのを打ち合ってくれたので、印象に残ってますね。

三崎本人が語る
三崎和雄全試合レ

2006.6.4 PRIDE武士道 其の十一 さいたまスーパーアリーナ
○vsフィル・バローニ（2R終了 判定 3-0）
フィル・バローニには、いままで近藤（有己）さんとか長南（亮）とか、みんな秒殺でされてて、いいようにやられてたんで、やっぱりここは"日本人"という気持ちが強かったですね。「日本人をナメんじゃねえぞ!」っていう気持ちで向かいました。

2006.8.26 PRIDE武士道 其の十二 名古屋市総合体育館レインボーホール
○vsダン・ヘンダーソン（2R終了 判定 3-0）
ダンヘンに負けて以降、僕の中ではダンヘンしか見えてませんでしたね。ダンに勝てなかったら優勝できないし、同じ相手に2回負けられねえって思いでしたね。だから、ここは勝っても負けても自分の持っているものをすべて出し切ろうって。それで勝てなかったら俺は弱いんだなって思うしかないなって。そして試合終了のゴングが鳴ったとき、勝ち負けはわかりませんでしたけど、出しきったなって感じはありました。

2006.11.5 PRIDE武士道 其の十三 横浜アリーナ
×vsパウロ・フィリオ（1R 9分43秒、腕ひしぎ十字固め）
パウロは強かったっスねえ。僕も一番やっちゃいけないパターンに持っていかれたかなっていう。やっぱり試合巧者ですね。型にはめられて、自分の持ち味はまったく出せずに終わってしまった。だからパウロのほうが一枚上手でしたけど、一回負けて勉強になりましたから、もう一回闘いたい相手ですね。

2006.11.5 PRIDE武士道 其の十三 横浜アリーナ
○vsデニス・カーン（2R終了 判定 2-1）
この試合、俺はパウロに負けて、一回命を落としてるわけですから、拾った命をくれてやれって感じですよね。それで吹っ切れましたね。デニスも試合前、婚約者の方に不幸があったり、いろんなことがあったんですよ。その中でよく試合したなって。そういう人間と試合ができたっていうことはホントに嬉しいし。もう一回やったら、勝てるかどうかわからないくらい強い相手でしたね。

2007.2.24 PRIDE.33 トーマス&マックセンター
×vsフランク・トリッグ（3R終了 判定 0-3）
ラスベガスはねえ……、恐ろしい街ですよ。あそこは格闘家だけじゃなくて、旅行に行く人もナメちゃいけない。ホントに危険な場所ですよ。詳しくは言えませんけど、そんなことを感じましたね。結果的には自分の実力で負けたんでしょうけど、ラスベガスの恐ろしさを感じた試合でしたね。

2007.12.31 やれんのか! さいたまスーパーアリーナ
△vs秋山成勲（1R 8分12秒 KO→のちにノーコンテスト）
この試合は、彼に対する僕個人の思いもありますし、『HERO'S』のチャンピオンとPRIDEのチャンピオン、どっちが強いんだという声もありましたし。その中でPRIDEを背負う気持ちだったり、いろんな思いの中で試合をしましたね。この試合について多くを語ろうとは思いませんが、自分の人生で一番のプレッシャーを感じた試合でした。彼とはまたいつか交わるかもしれないですね。

2008.3.5 戦極-SENGOKU- 代々木第一体育館
○vsシアー・バハドゥルザダ（2R 2分2秒、フロントチョーク）
インタビューでも言いましたけど、シアーはホントに「殺してやる!」ぐらいの殺気で向かってくる選手でしたね。パンチ一発、一発に魂がこもってました。修斗の世界チャンピオンだけあって、バランスもいいし、こういう選手と闘っていきたいですね。

2004.5.23 PRIDE武士道 其の参 横浜アリーナ
○vsジョルジ・パチーユ・マカコ（2R終了 判定 3-0）
初めてのPRIDEだったんで、このときはパンクラスを背負って出る気持ちでしたね。でも、PRIDEというのは自分もファンとして観てる舞台で、初めての大舞台だったから、もの凄く緊張した印象があります。

2004.7.25 パンクラス 後楽園ホール
○vsエド・ハーマン（2R 3分31秒、肩固め）
ハーマンはダンヘンのいるチーム・クエストの選手なんですけど、ホントに「殺してやる!」っていう殺気が非常にある選手でしたね。「ここで勝つんだ!」っていう殺気で、もう格闘技じゃなく、生の闘いでしたね。凄い選手でした。

2004.11.7 パンクラス 東京ベイN.K.ホール
×vs ネイサン・マーコート（3R終了 判定 0-3）
これはパンクラスのミドル級タイトルマッチだったんですけど、ちょっと意識しすぎちゃったのかもしれませんね。練習で「これはやるなよ」って言われてたことをモロにやってしまい、カウンターを合わされて、そのダウンが響いて判定負けしてしまったんです。それが、この時点での僕の実力だったんだと思います。ネイサンは練習もよく一緒にやってたんですけど、ホントにいい選手ですよね。

2005.3.6 パンクラス 横浜文化体育館
○vsフラービオ・モウラ
（2R 2分13秒、変形チョークスリーパー）
この頃、飛びヒザ蹴りを練習してたんですけど、初めて実戦で飛びヒザ蹴りが当たったんですよ。パンチのコンビネーションからバックステップして飛びヒザ、みたいな。それがモロにヒットして、寝技に持ち込んで一本奪えたんで、自信がついた試合でしたね。

2005.7.17 PRIDE武士道 其の八 有明コロシアム
×vsダニエル・アカーシオ（2R終了 判定 0-3）
言い訳になっちゃいますけど、この試合は最悪な状況の中での試合だったんですよ。それでグダグダの試合になって……。これは周りの練習につき合ってくれたチームのみんなも、ボクシングトレーナーも、みんなが悔しい思いをしたと思いますよ。僕一人の責任でね。直前で肩をやっちゃって、みんなに迷惑をかけた試合でした。

2006.2.5 DEEP23 後楽園ホール
○vs小路晃（1R 2分32秒、フロントチョーク）
肩をケガして、PRIDEでみっともない試合をして、完全に崖っぷちだったので、吹っ切れた試合でしたね。この頃から、完全に素の自分で闘ってますね。そして何より、佐伯さんがチャンスをくださり、このリングに上げてくれたことをホントに感謝しています。

2006.4.2 PRIDE武士道 其の拾 有明コロシアム
×vsダン・ヘンダーソン（2R終了 判定 0-3）
ダンヘンは、実力うんぬんよりも初めて「怖い」と思った相手でしたね。動物的な怖さ。ヒカルドは「強い」と思ったけど、ダンヘンは「怖い」でした。向かい合ったとき、獣に睨まれてるような感じで、自分が固まってしまったんですよ。「こんな生き物見たことない」って感じで、完全に飲まれてしまいましたね。



戦極ッ!!

ま、まさか、吉田が『戦極』ポーズを初公開!?





一、十、百、戦極ッ!



ジョシュに敗れるも柔道王はVIVA元気!

吉田秀彦 Hidehiko Yoshida



『戦極』が3月5日、ついに旗揚げ！　会場には平日にもかかわらず主催者発表で15,523人もの観客がつめかけ大盛況となった。この記念すべき旗揚げ戦のメインを飾ったのは『戦極』の顔ともいえる吉田秀彦。しかし“柔道王”吉田は“プロレスラー”ジョシュ・バーネットに一本負けを喫し、試合後はコメントも出さずに会場をあとに。総合転向以来初の一本負けを喫した吉田の心境やいかに？　大会から約一週間後、吉田のもとを訪れると、な、なんと、『戦極』ポーズを公開!?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／丸山剛史　試合写真／乾普也

DREAMと競い合って日本の格闘技界を盛り上げていければいいと思う



——『戦極』旗揚げ戦から約一週間経ちましたが、体調はいかがですか？

吉田 もう大丈夫ですよ。足首がちょっと痛いぐらいで。

——さすがに練習再開はまだですよね？

吉田 まだ練習はしてないです。ちょっと休ませてくださいよ（苦笑）。

——まあそうですよね（笑）。でも、実際どうなんでしょう？ 総合では初めての一本負けということで、精神的なダメージもあったんじゃないですか。

吉田 まあ、強かったのは認めますよ。

——ジョシュとは過去に練習してたこともあったみたいですけど、練習とは違う強さを感じました？

吉田 やっぱりね、前にやったときは6年ぐらい前だから、そのときから比べて凄い強くなっていたね。力も強かったし。あとは道衣でやったんで、疲れた！（笑）。

——とにかく疲れた、と（笑）。

吉田 まあ、応援してくれたファンには「すみません」って感じですね。もう少しいい試合ができると思ったんですけど。足関とかも極まってなかったんで。

——あ、極まってなかったんですか？

吉田 いろいろ取られてましたけど、最後だけですよね。最後のヤツは抜けなかったんですよ、道衣がジャマで。もう、やりながら腹立たしくて。でもそれは自分で決めたことなんで、しょうがねえのかな、と。

——道衣を着るとメリット、デメリットがあるとはいいますけど、結局は着ることを選んだわけですよね？

吉田 着ちゃうと、つかまれたら離れないからね。それに道衣でやる練習はやってなかったんで……凄く疲れた！（苦笑）。

——『戦極』のパンフレットの対談で先輩の古賀稔彦さんが「道衣を脱いで出てきたら、弱気になったと判断する」とかプレッシャーをかけてましたよね（笑）。

吉田 そういうのもあったし、単純に盛り上げたいっていうのもあったし。もちろん、柔道家っていうプライドもあったし、着て出てよかったのかなって思いますね。

——ジョシュなんかは試合前から「キャッチレスリングvs柔道」とか「プロレスvs柔道」をアピールしてたのも道衣を着た要因の一つだったんじゃないですか？

吉田 キャッチレスリングって英語でプロレスっていう意味なの？

——いや、イコールではないと思いますけど。でも、ジョシュはプロレスでいうところのバックドロップも出してましたね。

吉田 あれは、飛んであげた（笑）。

——そうでしたか（笑）。かなりエグい角度で決まってましたけど大丈夫でした？

吉田 いや、全然。思ったより痛くなかったですね。まあでも、計量では無理やり靴も履いて携帯とかも全部入れて計ったりして、頑張って体重増やしたんですけど、やっぱり体重差はキツかったね（苦笑）。

——ホント、お疲れさまでした（笑）。今回は『戦極』という新しい舞台で、吉田さんが所属するJ－ROCKも関わっていることもあって、自分たちで作りあげていくんだという思いも強かったんじゃないですか？

吉田 そうですね。もちろん自分らで作りあげていくっていうのもそうなんですけど、どのぐらいの注目を浴びるかっていうのがこれからにつながっていくんで、最初の興行で盛り上がっておかないと困りますよね。そこも心配してたっていうか気にはなってますよ。

——大会を終えてみてどう感じました？

吉田 まだ全部は観てないんですよ。控室でちょこちょこ観てたぐらいで。まあでも、平日なのにお客さんがたくさん来てくれたのは嬉しかったですね。

——印象に残ったのは誰の試合ですか？

吉田 みんなよかったんじゃないですかね。五味（隆典）の試合は試合前なんで観れてないですけど。まあ、みんな勝ったからね。吉田道場以外は（笑）。

——確かに。今回のジョシュ戦が発表される前にはホジャー・グレイシーと対戦するんじゃないかってネットを中心にあちこちで流れてましたけど。

吉田 みんなそう言うんだけど、俺、全然知らなくて。っていうか、ホジャー・グレイシー自体を知らなかったから（笑）。

——あら、知りませんでしたか（笑）。

吉田 なんか、アブダビ（コンバット）のチャンピオンとか聞いて、「あ、そうなんだ？」って思ったぐらいで。

——何人かの候補の中から吉田さん自身が選んだのがジョシュだったとか？

吉田 やっぱり、旗揚げ戦ってこともあるし、インパクトのある選手じゃないと大会自体が盛り上がらないじゃないですか。そうなるとジョシュじゃなかったとしても厳しい相手になっていくのは確かなんですよね。まあ、これからどうなっていくかはちょっとわからないですけど。

——次の試合のことはまだ具体的には考えられないでしょうけども、まだまだ闘っていく気は満々なんですよね？

吉田 やっぱり、ヒーローをこの『戦極』の中にも作っていかなくちゃいけないですから。その踏み台になれるようにこれから頑張っていかなきゃと思ってますよ。

——いやいや、吉田さんは『戦極』の顔じゃないですか？

吉田 いや〜、僕みたいなおじさんが頑張るより、五味とか若い選手がドンドン活躍して盛り上げてくれるようになっていけばなあって思いますね。

——わりとPRIDEを意識した感じも見受けられましたが、試合以外の演出面はどう思いました？

吉田 PRIDEを意識したっていうか、盛り上げようとしたら、どうしても同じようになりますよ。

——そうかもしれませんね。煽り映像ではDREAMを挑発するようなシーンもあったんですが、それについては？

吉田 へぇ〜、全然知らない。

——じゃあ、しょうがないですね（笑）。ちなみに明日はDREAMの旗揚げ戦がありますが……（※取材日は3月14日）。

吉田 あ、明日なんだ。そういえば、ミル

Hidehiko Yoshida



IGFで闘ったジョシュ、かつてPRIDEで闘った吉田の一戦を観戦するため小川直也が『戦極』に来場。なんらかのアクションを起こすかと思われたが、小川はジョシュの勝利を見届けると、そのまま席を立ち会場をあとに。『戦極』参戦はあるか？



[3.5 戦極-SENGOKU-]
東京・代々木第一体育館

◯ジョシュ・バーネット vs 吉田秀彦×

（3R 3分23秒、ヒールホールド）

注目の"柔道vsプロレス"の一戦は、開始早々からバックドロップで場内を沸かせたジョシュが吉田の打撃を食らいながらも何度もジャーマンを狙うなど終始試合をリード。最終ラウンド、しつこく足関狙いにいったジョシュが最後はヒールホールドで一本勝ち!

コとやる水野（竜也）はここに練習に来てましたよ。試合が決まる前だけど。

――水野選手も柔道で、けっこういいところまでいった選手みたいですからね。

吉田　そうそう。だから最初に水野って聞いて、どっかで聞いたことあるなと思って。顔見たら、知ってるヤツだった（笑）。

――日本人のヘビー級選手はなかなかいないんで頑張ってほしいですけどね。

吉田　頑張ってほしいよね。食っちゃったらおもしろいけど（笑）。まあ、DREAMとも競い合って日本の格闘技業界を盛り上げていければいいと思いますよ。

――そうですね。あと、『戦極』には小川直也さんも来場されてましたよね。

吉田　それも全然知らなくて。

――またまた～、大会前日から「小川来場」って報道されてたじゃないですか？

吉田　あ～、前日の会見のときに『東スポ』の人だったかに言われて「あ、そうなんですか」って言ったと思うんだけど。

――それこそ、大会前の会見で吉田さんが「小川vsジョシュ戦は意識しますか?」と聞かれて、「プロレスでしょ」って発言して、一部では話題になってたんですよ。

吉田　あ、そうなの?

――はい（笑）。一昔前だったら、もっとプロレスファンも過剰に反応したかもしれないですけど。一説によると小川さんも、その発言に引っかかってたみたいで。

吉田　そうなんだ。じゃあ、なんて言えばいいの?　プロレスだから「プロレスでしょ」って言っただけなのに（苦笑）。

――まあ、そうなんですけどね（笑）。熱いプロレスファンとしては、プロレスをバカにしてるんじゃないかと受け取る人もいるみたいで。

吉田　そうかぁ……。まあ、敵は作っちゃダメだよな。

――旗揚げ前にはサムライTVの番組で武藤（敬司）さんと対談されてましたけども、その対談ではプロレスに凄い理解のある発言を連発してましたよね。

吉田　プロレスはプロレスで、見せるものだと思ってるし、それはそれでいいと思いますよ。ただ、プロレスは演出とかも絡んでくるじゃないですか。そういう意味では別物としか考えられないんで。

――武藤さんとの対談ではジョシュに勝ったらリング上で「プロレスLOVEポーズ」をするって約束をしてましたけど?

吉田　あ、忘れてた……っていうか負けてんじゃん、俺!（笑）。

――はい、残念ながら（笑）。その対談で、好きなレスラーとして吉田さんからアントーニオ本多の名前が出てきたのには驚かされましたけど（笑）。

吉田　そうそう、アントーニオ本多はおもしろい。エルドラドは何回か観に行ってますからね。大鷲（透）さんいるじゃな



3.4『戦極』前日会見でボッ発した藤田和之とピーター・グラハムの乱闘騒動。両者を必死に止めていたのがグラハムのセコンドを務めた小路晃と、たまたま二人にはさまれたかたちの吉田だった。写真は藤田退席後、ジョシュと苦笑いの吉田。

次（の試合）は6月かな。いまは誰ともやりたくないけど（笑）

いですか。あの人が知り合いなんで。
——意外な交流があるんですね。
吉田　あと、あの双子の兄弟！
——あ、バラモン兄弟ですね（笑）。
吉田　あの人たちが近づいてくるとツバが飛んでくるんで、逃げる態勢を整えなきゃいけない（笑）。
——いまの発言で吉田さんのプロレスLOVEを充分に感じました（笑）。
吉田　そうですか（笑）。でも、ジョシュはなんで両方やるんだろう？
——ジョシュはジョシュなりのこだわりがあるんだと思いますけど。
吉田　僕もプロレス好きですよ。ただ、僕は本当の勝負の中でずっと柔道時代からやってるんでね。総合格闘技に移ってもずっとそういうふうにやってきてるから、どうしてもプロレスと一緒にされたくないっていうのがあるんですよ。そこらへんは勝負している男としては言わなきゃいけないと思うんで。
——言わんとしてることはわかります。
吉田　まあ、引退してプロレスの話があったときは割り切ってやりますから（笑）。
——そのときは期待してます！（笑）。
吉田　やるかどうかはわかんないけど（苦笑）。逆に言ったら総合のファンの人たちに、怪しい試合があったら「プロレスじゃねえのか」って言われるのが嫌なんですよ。そのへんの区別はハッキリしないと。
——小川さんはプロレスラーですから、観戦に来たからにはなんらかのアピールをするんじゃないかって思ってたんですけど、何もせずに帰ってしまいましたね。
吉田　そうみたいですね。
——『戦極』のリングで再戦っていう可能性はありますかね？
吉田　ないんじゃない？　もういいでしょ、1回やったし。見たいですか？
——まあ、やってくれるんだったら見たいですけど（笑）。
吉田　じゃあ、いいや（笑）。
——そういえば前日の会見で藤田さんとピーター・グラハムの乱闘のとき、吉田さんは思いっきり笑ってましたよね？



Hidehiko Yoshida

よしだ・ひでひこ■1969年9月3日、愛知県出身。バルセロナ五輪柔道78kg級金メダリスト。02.8.28『Dynamite!!』のホイス・グレイシー戦で総合格闘家としてプロデビュー。以降、PRIDE重量級の看板選手として活躍。PRIDE消滅後は『戦極』のリングを選択し、3月5日の旗揚げ戦ではジョシュ・バーネットに初の一本負けを喫した。180cm、104kg。

吉田　いやいや、あれは焦って笑ってたんだよ。引きつった笑いだから。
——それは気づきませんでした（笑）。笑いながら必死に止めてましたけども。
吉田　だって誰も止めに行かないんだもん！
——確かに。てっきりボクは「プロレスっぽいことやって」という意味でのニヤニヤだったのかと思ってたんですが。
吉田　いやいや、そうじゃないけど。俺には絶対できないね（笑）。
——そうですか。『戦極』は5月、6月と立て続けに2回発表されましたけど、「5月、行くぞっ！」って感じですか？
吉田　いや、5月は厳しいでしょ。次は6月かな。いまは誰ともやりたくない（笑）。
——まあ、いまはそうでしょうけど（笑）。最後にですね、次の大会で吉田さんが勝ったらやってほしいことがあるんですよ。
吉田　え、プロレスLOVEポーズ？
——それもいいんですけど、猪木さんの「ダーッ！」や「3、2、1、ハッスル！ハッスル！」というハッスルポーズに対抗して、『戦極』もポーズを作ったほうが観客と一体化できるんじゃないか、と。
吉田　え～、どんなポーズですか？
——ポーズまでは決まってないんですけど、せっかく『戦極』という大会名がついているので「一、十、百、戦極ッ！　戦極ッ!!」との掛け声で大会を締めてもらえれば盛り上がるかな、と。どうでしょう？
吉田　（即座に）藤田にやらせよう！
——藤田さんは難しい気がしますね。ジョシュとかはやってくれるでしょうけど。
吉田　でも、俺はそういうキャラじゃないから（キッパリ）。
——いやいや、吉田さんは〝ゲッツ〟とかやってたじゃないですか！（笑）。
吉田　どうなんだろうなぁ？　じゃあ、ポーズを考えておいてくださいよ。やるかどうかはわからないけど（笑）。
——わかりました！　一、十、百……。
吉田　戦極ッ！　戦極ッ!!（笑）。

【08年3月14日／都内・品川『J-ROCK workout studio』にて収録】



いまこそ青木vsカルバンを〝深読み〟せよ！

これからいったい、どうなるんだ!?

DREAM 産みの苦しみ座談会

ミルコ・クロコップの対戦相手や、DREAMライト級GPの対戦カードが
ギリギリまで決まらず、のっけからズンドコ大連立ぶりを発揮していたDREAM。
それでも名勝負連発となれば、終わりよければすべてよしだったが、
大注目の青木真也vs J.Z.カルバン戦がノーコンテストに終わるなど、
まさに波乱の船出となってしまった。はたしてDREAMはこれからどうなるのか？

構成／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也

タコ　さぁ〜、ついに〝大連立〟が実を結んだ新イベント、DREAMが旗揚げされました！　夢のある話をたっぷりと語っていくで〜〜！

一同　………。

タコ　なんや。最初から元気ないな。

X　DREAMで夢を見るつもりだったんですけど……、見れなかったなぁ。

ジャン　そうですね。いきなり『戦極』のオープニングばりに目覚まし時計を鳴らされちゃったみたいな……。

タコ　確かになぁ、夢というよりは、あまりにも厳しい現実を見せられたというか。

ガンツ　しまいには、夢が見れなかった代わりに、なぜか〝夢香〟は見れちゃったという（笑）。

ジャン　ダハハハ！　いましたねぇ、噂の夢香さん（笑）。

タコ　なんなん？　その夢香って？

ガンツ　いま、一部のターザン山本！ウォッチャーから大注目されてるターザンの彼女ですよ（笑）。

タコ　えぇ〜、ターザンって60歳過ぎて彼女おるの!?

ガンツ　ターザンがやってる文章講座「ひとこと塾」に来た子に手をつけたみたいですよ。バックステージでひさびさに会ったら、「ガンツ！　俺の彼女！」って紹介されました（笑）。

ジャン　凄いですよね〜。記念すべきDREAM旗揚げ戦の会場に、彼女を周囲に紹介するためだけにやって来たという。谷川（貞治）さんにも「谷川、谷川！　俺の彼女、34歳」って名前も何も言わず年齢だけを告げてましたし（笑）。

タコ　それは「どうだ、若いだろう？」ってことなんやろうね。で、どんな子なん？

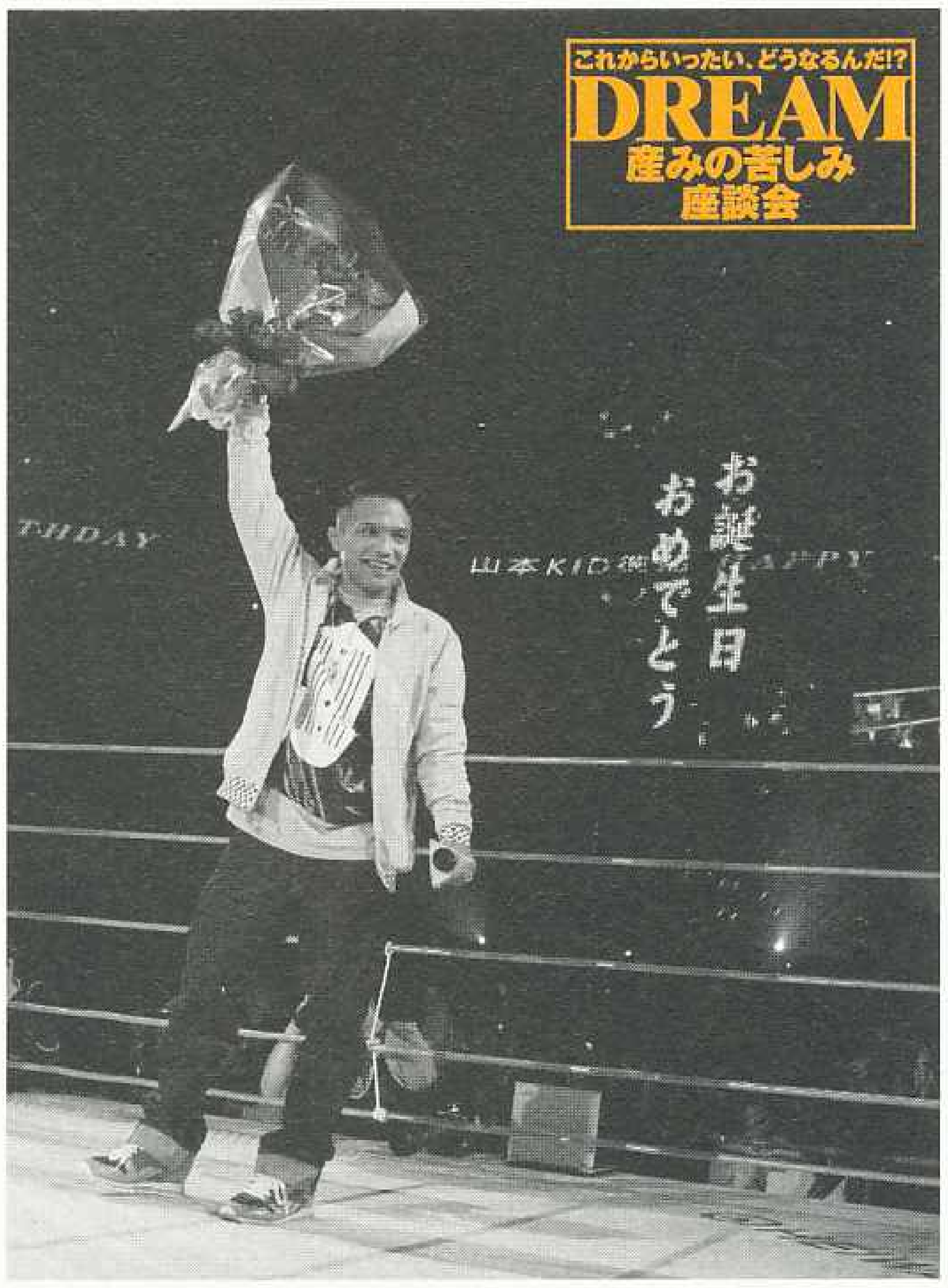
一同　………。

タコ　なんや、ノーコメントかいな。

ガンツ　まあ、歳の差はありますけど、お互いマルチな才能を持った似た者同士らしいですから、遠くから生暖かく見守っていきましょう！

タコ　そうやな。この座談会かてターザンの話しとる場合やないで。DREAM旗揚げ戦の率直な感想をまずはXさんから言ってもらいましょうか。

X　僕はですね、せっかく花見に行ったのに、桜が全部散っていたっていうような感じがしましたね。



3.15『DREAM.1』では、テレビ解説と"バースデー挨拶"だけだった山本"KID"徳郁。『HERO'S』の大スターであるKIDが出場したとき、DREAMがどんな世界になるのか。この男は大きな鍵を握っている。佐藤大輔制作のKID煽りVも見たい！

タコ　「桜の咲く頃会いましょう」って言うてたにもかかわらず。

ガンツ　やっぱり3月中旬じゃ、まだ桜は咲いてませんから。早く来すぎちゃった感じがしますね。

X　ニュースでは「満開です！」って言ってたような気がするんですけど、行ってみたら「あれ!?」って感じで。

ジャン　佐藤大輔さんは入魂の煽りVで、必死に〝花咲か爺さん〟をやってたのに。

ガンツ　枯れ木に花を咲かせましょう！　って（笑）。

タコ　旗揚げ戦から枯れてたらアカンやろ！

X　そんな中で、青木vsカルバンっていう立派な〝大木〟が、一本だけでも花を咲かせてくれると思ってたんだけど、ちょっと過度な期待がかかりすぎていたね、やっぱり。

ジャン　だから今回はあまりにも試合前のドタバタがひどくって、結局、青木真也がなんとかするしかなかったわけですけどね。

X　これまでの『HERO'S』にしても、大会の数日前にドタバタドタバタって、選手を組み合わせてどうにかして。グチャグチャな興行になるんじゃないか？　って思いながらも、終わりよければすべてよしで、なんとか収まってたっていうのが『HERO'S』で。

タコ　それが今回は、最後の最後までドタバタしちゃったという。

ジャン　なんでこんなにドタバタしちゃったんでしょうね。仕込みの期間がなかったっていうのはやっぱりあるんですか？

X　チームワークの問題じゃないですか？　要するに、いわゆる〝大連立〟をして、「協力し合いましょう」ってなったけど、お互いにやり方が違うし、遠慮もあるだろうし。お互いに構え合う部分があった気がしますね。

ジャン　笹原さんは「バレーボールでいう〝お見合い〟をしてしまった部分もあった」って言ってましたね。

X　だから不必要に見合って、膠着しちゃったんですよ。

タコ　試合だけじゃなく、スタッフも膠着しとった、と（笑）。

X　誰も「ブレイク」って言ってくれないからね。

タコ　先月出た『kamipro Special』の佐藤大輔さんのインタビューで、テレビ放送、映像の面でもすでに摩擦というか、ややこしいことがあって露呈されてたじゃないですか。そういう舞台裏のスタッフ同士のリレーションみたいのはどうやったんですか？

X　僕が聞いたのは、やっぱり最初なんで、FEGサイドの選手はFEGが交渉して、旧PRIDEの選手は、『やれんのか！』スタッフが交渉してたらしいですね。だから結局、一本化されてないから二度手間、三度手間だったんです。それで凄く時間もかかっちゃったという。

ジャン　合同興行みたいなもんだから、そうなりますよね。だから、それをどう改善していくかってところですよね。

X　まずは人間関係の話のとおりをよくしないと、イベントもよくならないんじゃないかな。とくに『HERO'S』の選手は今年も『HERO'S』が続くものだと思ってただろうから、いきなり旧PRIDEと一緒になるっていうことに対して戸惑いもあるみたいですしね。みんなそれぞれの事情が悪い方向で作用しちゃったなという気がします。

ジャン　それもあって、真っ先にメインカードとして決まっていた青木真也が大会を一身に背負うかたちになっちゃったんですよね。

X　青木は「ノー」と言わない男だからね。DEEP道場で、自分とまったく関係のない記者会見のイスも片づける男だし（笑）。

ガンツ　その青木vsカルバンだって、大晦日に流れたから早く決まっただけで、それを除いて考えると、ほとんどのカードがギリギリまで決まらなかったってことですからね。DREAMというイベントを立ち上げて、いきなりトーナメントをやるってことが決まったのが、大会の一ヵ月ちょっと前ですから。トーナメントのカードや出場者を決めるのって、ただでさえ時間がかかるのに、一ヵ月という時間はあまりにも短かったんでしょう。

X　本来、何かが合体したら、足し算じゃなくて掛け算ができて、初めてもの凄い夢が膨らむもんなんですよね。それが時間がなかったせいで、単純な足し算になっちゃって。夢が膨らみきれなかったっていうのが、『DREAM・1』だったんじゃないかな。

座談会出席者

ジャン斉藤
本誌編集長。雀鬼・桜井章一の内弟子を経て『kamipro』編集部へ。永久電機に代表される"アントン事業"の真摯な調査・検証をライフワークとしている。

堀江ガンツ
本誌編集部。子どもの頃から変態的プロレスファン&UWF信者として鳴らし、『kamipro』入り後もUWF研究家を自称するカリスマ的変態編集者。

原タコヤキ君
元『紙のプロレス』編集者で現在は音楽プロデューサー。自転車とギターとジャイ子へのセクハラが大好き。一部ではターザンイズムの継承者とも言われている。

ミスターX
どこから仕入れてくるのか、格闘技業界のあらゆる情報を網羅する業界きっての事情通。その正体は誰も知らない知られちゃいけないながら、かなりバレバレ。

ガンツ　だから〝大連立〟のイベントとしては、『HERO'S』のスター選手が出てないっていうだけで、これはもう失敗ですよね。

タコ　せめてカタログ的であったとしてもね、いろんな選手をラインナップしてほしかったよね。

ガンツ　DREAMの〝新しい世界観〟っていうのは、旧PRIDE、旧『HERO'S』が入り交じってできあがる世界だったはずなのが、そうならなかったわけだから。これは〝五味隆典がいない『PRIDE武士道』〟と言われてもしょうがないですよ。『HERO'S』勢が出ないなら出ないで、青木が新エースの新しいPRIDEでもいいんだけど、アクシデントもあって、そういう感じにすらなりませんでしたからね。

X　ホントは青木がエースになる決意表明の場だったんだけどね。そういう言葉を発する間もなく「ごめんなさい」しか言えなかったっていう。右手が上がらないんだからシャレにならない。

ガンツ　やっぱり『HERO'S』でスターになった選手が、あの大会に参加してないっていうのが、返す返す痛いし、「なんで出てこねえんだ！」って腹立たしいぐらい。だって出てこなきゃDREAMじゃないんだもん。

ジャン　だから川尻とかマッハとか青木が「『HERO'S』には絶対負けない」って言ってるけど、『HERO'S』側からはなんのレスポンスもなかったじゃないですか。

タコ　対抗戦になってへんもんな、全然。

ガンツ　それこそ元『HERO'S』の選手たちはやってられない部分があるでしょう。昨年まで自分たちのリングだったところに、旧PRIDE勢が大挙して来て、スタッフも含めて〝PRIDE〟みたいになっちゃってるんだから。

〝大連立〟なのに『HERO'S』のスター選手が出てない時点でこれは失敗ですよ

タコ　なぜか『HERO'S』勢がアウェーやもんなぁ。

ガンツ　会場にいたのもPRIDEファンばっかりでしたからね。

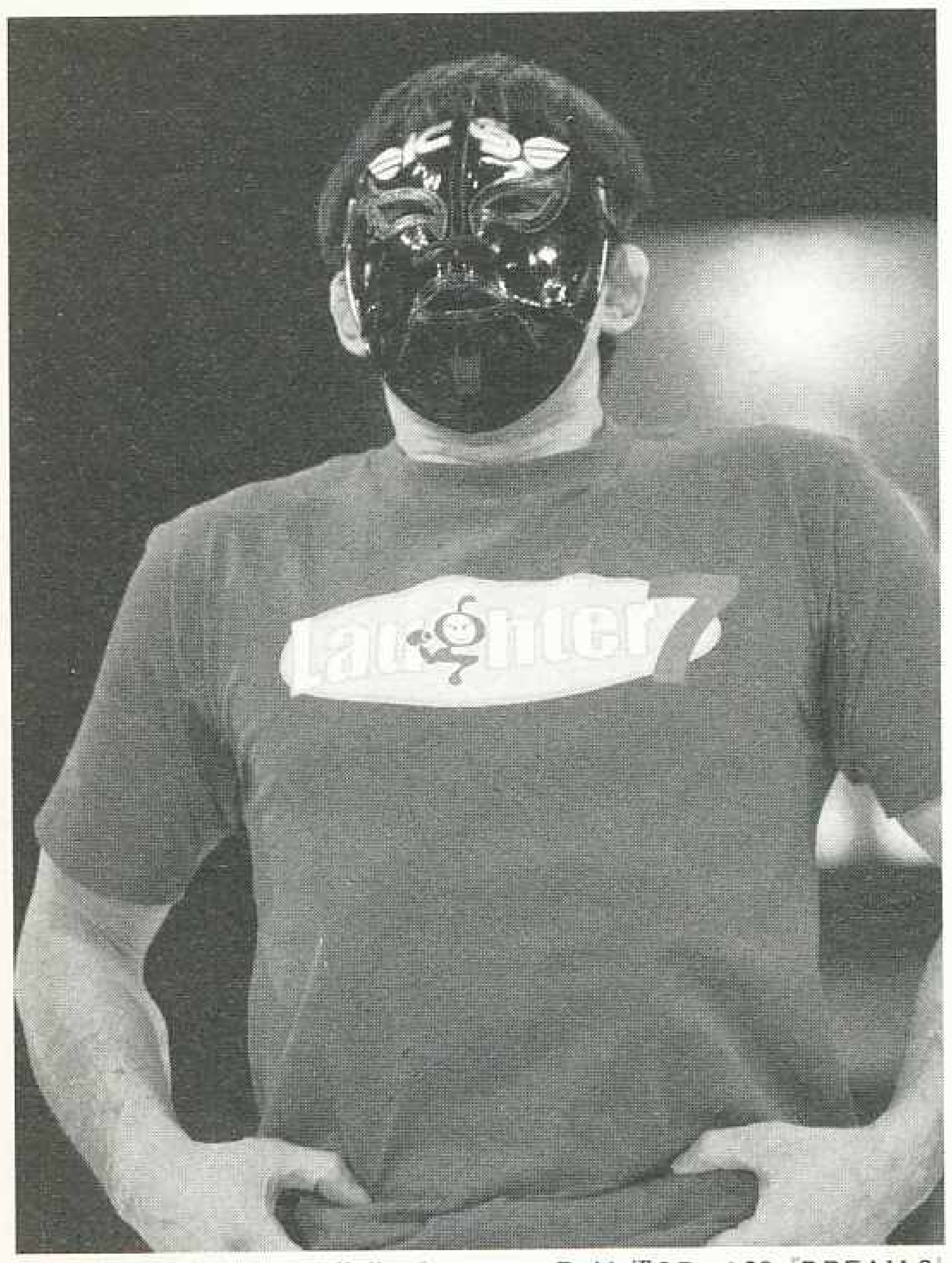
ジャン　そういう意味では、宇野くんは非常に重要な存在になってきましたね。宇野くんと川尻や石田の試合はこうなると俄然、観たいですし。一回逃したからこそ余計、何が足りなかったかわかりますもん。DREAMにはじつは『HERO'S』が足りなかった！

X　旧PRIDE勢だって、宇野選手が主催者推薦枠でエントリーしたら、それは感情的になりそうだし。

ガンツ　「俺はおまえを許さない！」って感じですかね。

タコ　それは三崎和雄やろ！（笑）。そうなんや。そういうヒリヒリした感じは観たいな〜。

ガンツ　でも、ホントに宇野薫vs「やれんのか！」勢は観たいですね。それこそ、やれんのか！　って感じで。まあ、今回はもうしょうがないけど、これからのDREAMは主催者推薦枠とか作っちゃダメですよ。それこそ『HERO'S』やK-1の悪しき慣習ですから。


対戦カード編成にとにかく苦労したDREAMライト級GP。4.29『DREAM.2』では、ミドル級GPがスタートするが、桜庭が「かさぶたの血が止まらないので、トーナメントには出ません」と発言するなど、早くも波乱含み。なんとか早めの発表に期待したいが……。

タコ　〝黒魔術〟の一番わかりやすいところやなぁ。

ジャン　ホントにビッグサプライズが確定しているならいいですけど、主催者の意図が見えすぎてファンが冷めますもんね。

X　『HERO'S』でも一度あったよね。宇野もKIDも元気もみんな1回戦はシードで欠場認めるみたいなことが。

ガンツ　もうそうなると、トーナメントの公平性とか、いちいち口にするのもバカバカしくなりますからね（笑）。

タコ　なんか暗い話が多くなったけど、大丈夫かいな、DREAMは。

ガンツ　ま、最初にいろいろ悪い面が見えたぶん、2回戦からはおもしろくなると思いますよ。トーナメントのカードも2回戦は潰し合いの好カードが揃うだろうし、ゴールデンタイム放送のために、KIDや所英男のフェザー級スペシャルマッチも組まれるだろうし。

ジャン　でも、次のゴールデンタイム放送は7月、ライト級GPの決勝のときみたいですよ。

タコ　あ、けっこう空いちゃうんや。それまでテレビはどうなるん？

ジャン　深夜で放送するみたいですね。ゴールデンは7月と9月を予定していると聞いています。

タコ　じゃあ、7月まで熱を作るのも大変やな〜。

ジャン　あと、今回は間に合いませんでしたけど、次回からはPPVも始まることが内定したみたいです。

タコ　お、そうなんや。TBS的にはそれはOKなん？

ジャン　大丈夫みたいですよ。じつは今回もやりたかったらしいんですけど、ちょっと間に合わなかったみたいで。

ガンツ　今回はリアルタイムじゃなくて、21時からニアライブでPPVという案もあったみたいですけど、残念ながら枠がもう埋まってたらしいんです。

X　いずれにしてもファンには朗報ですよね。PPVじゃなきゃイヤだってゴネてる人が多いから。TBSモードで観たくない人には朗報でしょう（笑）。

タコ　でも、おもろいな。同じイベントで、同じ映像なのにナレーターが違ったりするんやろ？

ジャン　映像もちょっと違うんですよね。だからもう、佐藤大輔&立木文彦の煽りVは、一つの文化ってことですよね。リング外のファクターがここまで重要だなんて、古館伊知郎以来ですよ！

ガンツ　古館伊知郎の実況抜きにして昭和・新日本プロレスが語れなかったように（笑）。

ジャン　巨大化するアメリカに対して、日本マット界が生き残っていくためにはそういう文化をどれだけ作っていけるかなんですよ。ジョシュなんて、極端なことを言うと、UWFという文化が日本にまだ残ってるから、『戦極』にいるようなもんですし。青木だって、川尻だって、PRIDEへの憧憬がなかったら、とっくにUFCに行ってるはずですから。何かの思い入れだけでイベントが作られていくことって、ほかの国では考えられないと思うんですよね。

X　そう考えると、旧PRIDE系のファイターにこれからTBSがどういう味つけをしていくのかも気になるけどね。

ガンツ　今回は大輔さんがかなり奮闘して、おおいにTBS側に嫌われながら、地上波バージョンもなるべく色が出るようにしたようです。

ジャン　しかし、大輔さんのインタビューは各方面にいろいろ波紋と問題を起こしたみたいですけど、あの奮闘が見えないままやってたら……。

タコ　それは怖いなあ。ファンからすれば「どうなってるんだ!?」って話になってたでしょ。

ガンツ　地上波のナレーションが立木さんじゃないだけで、DREAMへの風当たりはもっと強かったんじゃないかって。

X　佐藤大輔は大会当日もホントに中継車の魔王になってたらしいね。

タコ　結局、リング上よりリング外のほうが『HERO'S』vsPRIDEになってるっていう（笑）。

青木の心情や葛藤を想像することで〝極上のノーコンテスト〟になりますよ

ガンツ　だから大輔さんは、PPVが始まったら、会場映像とPPVだけに専念したい気持ちもあるみたいですけどね。薄められたものを作るぐらいだったら、立木さんと一緒にPPV限定で思う存分やりたいって。

タコ　まさにディレクターズカットやなあ。

X　やっぱり今回のTBSでのテレビ放送も僕が見る限り、佐藤大輔っていうかPRIDE的な世界観とTBS的な価値観っていうのは相容れないものがあるなっていうのは感じましたね。やっぱりフジテレビとTBSはスポーツに対する捉えかたも見せかたも全然違うんだなって。

ジャン　テレビは『HERO'S』のままだったっていう声が多いですね。会場だと演出に関しては全然『HERO'S』の感じはしませんでしたけど。

X　舞台演出やなんかは『HERO'S』色を消してましたね。

ガンツ　というか、まるっきりPRIDEですよね。オープニングのテーマ曲も全然違和感ないというか、凄くハマってたし。ただ、たまにビジョンに井上和香とかが映ってると、なんか違和感があるぐらいで。

タコ　確かにDREAMの会場に行って、一番『HERO'S』を感じたのは井上和香やもんな〜。山本KIDやJZ・カルバン以上に『HERO'S』のアイコンやろ。

ジャン　『HERO'S』とは井上和香だった。そんなバカな！（笑）。

ガンツ　ま、井上和香が象徴なんだから、『HERO'S』に求心力が生まれるわけないよ!!（笑）。

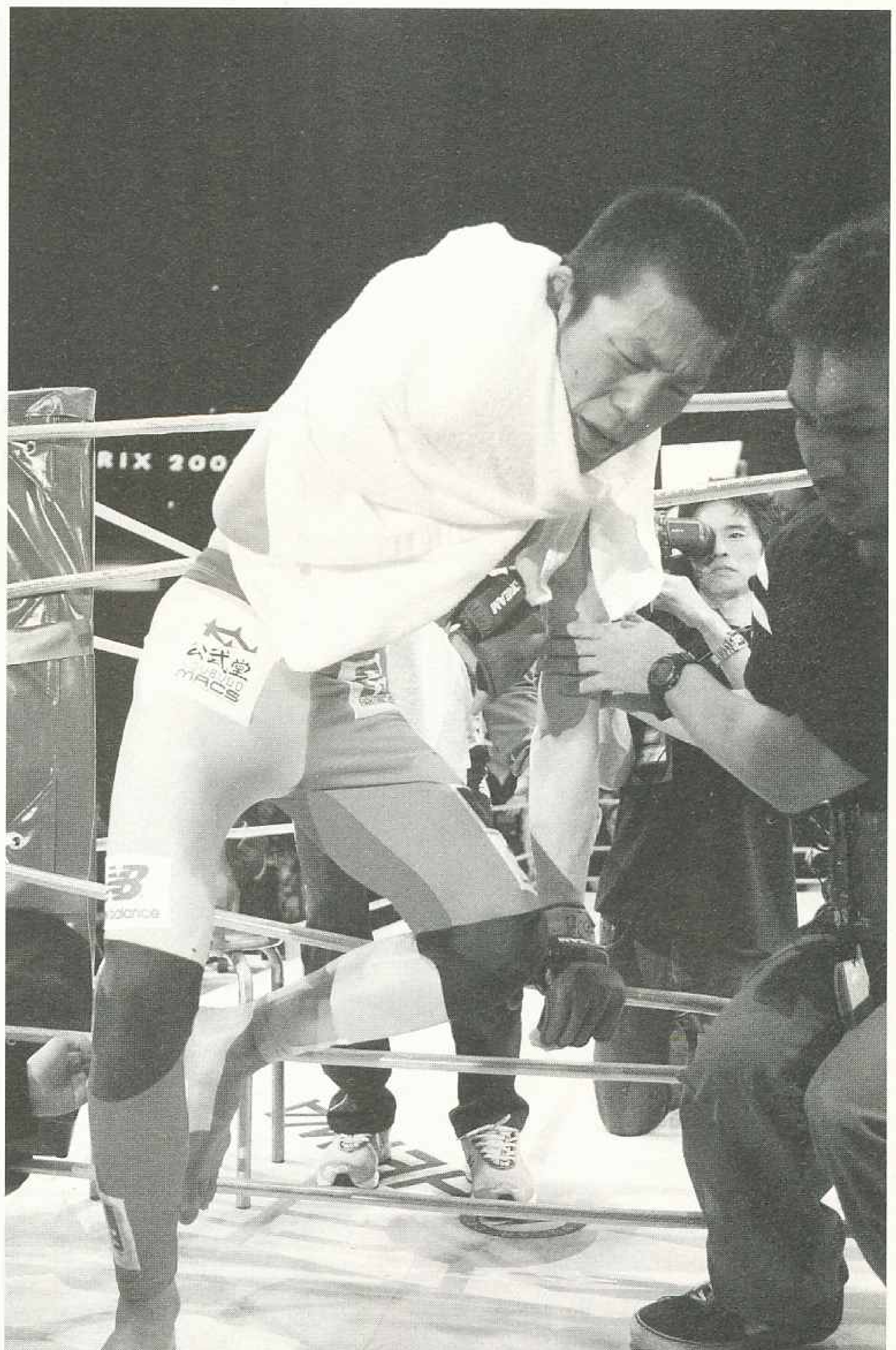
ジャン　まあまあ。TBSの地上波放送について内容が悪いのは頷けるんですけど、かつてのPRIDE崩壊を考えると、あるだけで充分にありがたいですよ。新規客の間口になってくれる可能性はあるわけだし、マニアは会場に行くかPPVを観るしかないですね。

ガンツ　確かに。だからね、今回僕が感じたのは、観る側ももうちょっと〝変態〟になったほうがいいと思うんですよ。なんかいま、あまりにもイベントや試合を「当たり」か「ハズレ」かの二元論で語りがちじゃないですか。まあ、お客は三崎和雄が言うところの〝クソ高いチケット代〟を払ってるんだからしょうがないけど、極限のプレッシャーを背負いながら、あんな結果になっちゃった青木の心情を考えたりとか、もっともっと試合自体をせたりしたら、もっともっと青木と自分を同化させたりしたら、もっともっと試合自体をドラマチックに感じられるんですけどね。もったいない。

X　90年代半ばまでのプロレスファンって、みんなそういうことを考えたんだよ。逆に裏読みして、「これ、こんな試合になったけど、もっとおもしろくなるんじゃないか」ってみんなが頭をひねっていろいろ考えてた。でも、いまはみんなストレートに求めすぎちゃってる。深読みをしない。

タコ　あるものを楽しんだら終わりっていう感はあるわなあ。

ガンツ　I編集長の『ファイト・ドキュメンタリー』じゃないですけど、選手の気持ちだとか、舞台裏の葛藤を想像することで、今回なんか〝極上のノーコンテスト〟になるんですけどね。



『やれんのか!』、『DREAM.1』と2大会連続でメインを務めながら、あまりに気の毒な状況が続く青木。“バカサバイバー”な外見とは違う、この男の心情、苦悩を感じれば、青木vsカルバン戦の意味はもっともっと深くなる。

X　でも、そうなってないんだから、I編集長は天国で泣いてるかもね。「おまえら、もっと妄想しろ！」って。青木vsカルバン戦に関してはもの凄い妄想が成り立つと思うんですけどね。

ガンツ　I編集長は生前よく「俺に20枚でも30枚でも原稿を書かせるような試合を組め！」って言ってましたけど、今後の展開も含めてそういう妄想をかき立てる試合でしたよね。

X　生きてたら、ターザンのように「これ、俺の彼女!!」なんてやってる暇がないぐらい書いて書いて書きまくってましたよ（笑）。

ガンツ　だって青木なんて、一世一代の大勝負のために、それこそ決死の覚悟で心も身体も作ってきたのに、大晦日のカルバン戦は流れちゃって、そこからもう一度、極限まで準備したのに、今度はあっという間にノーコンテストでしょ？　普通なら、もう何もかもイヤになって、置き手紙でもして、どこかへ姿を消しちゃいますよ！

ジャン　「人間不信」の置き手紙を残して姿を消したビッグ・サカのように（笑）。リング上で涙を流しながらも野次られる青木は色気があったなあ……。

タコ　そういうドラマが大事やなあ。

ガンツ　だからさ、煽りVや舞台裏のドキュメンタリー番組がなくても、それぐらいの想像力は働かせないと。

ジャン　青木vsカルバンなんて、煽りVなしで興奮しなきゃダメですよ！　これで〝三度目の正直〟があったとしたら、自分の心中で煽りVが作れるほど、プロレス的なドラマ性があるし、格闘技の過酷な現実性にも溢れているという。

ガンツ　そう!!　大輔さんの煽りVはあまりに秀逸だから、そこにばかり頼りがちだけど、その反動で不感症になっちゃダメ。

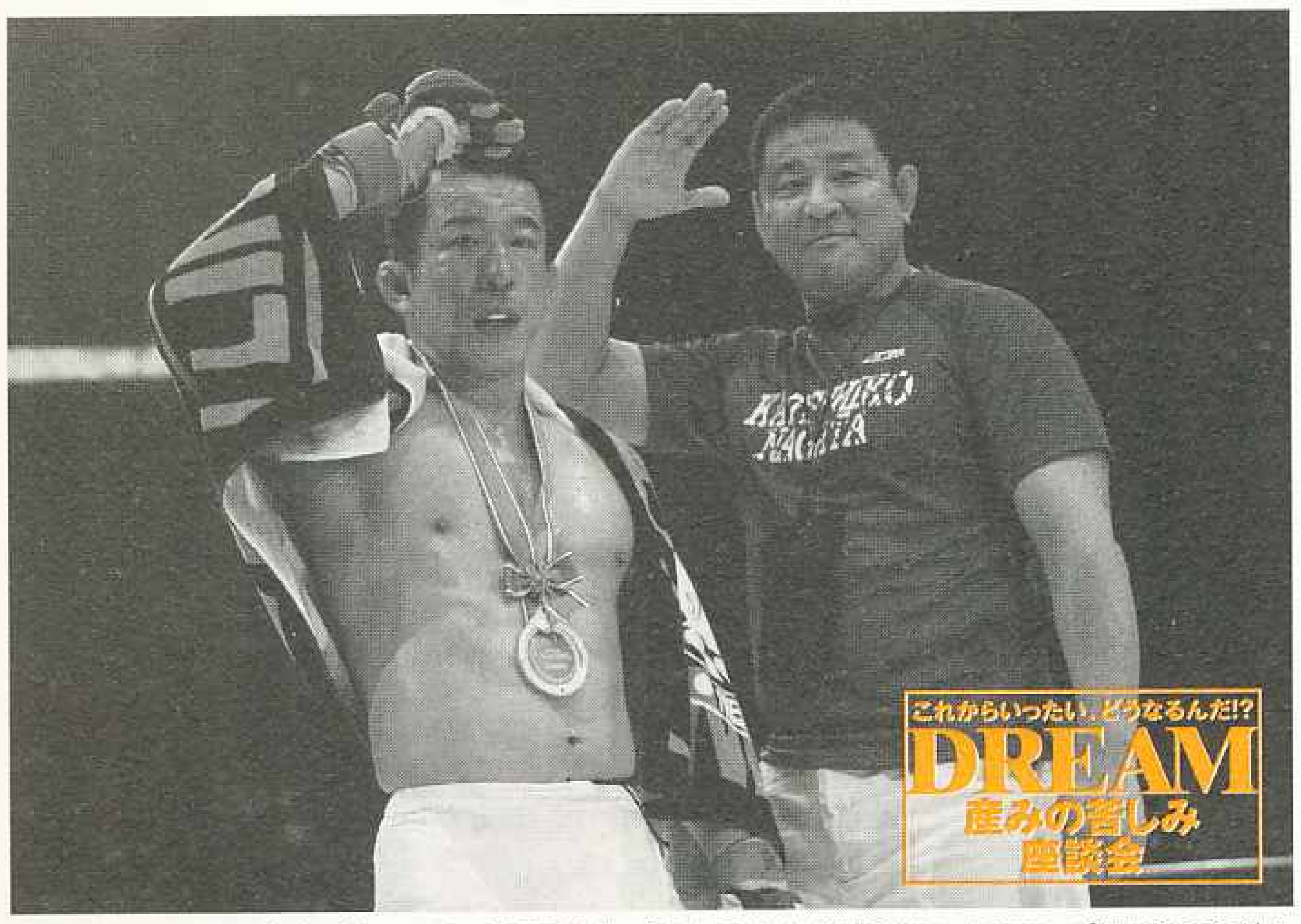
タコ　だからAVなしでオ◯ニーするようなもんやね。そういうもんやろ？

ガンツ　さすがターザンの遺伝子を継ぐ男だけに、オ◯ニーにはうるさいですね（笑）。

タコ　誰がターザンの遺伝子や！　ちょっと、いまんとこカットしといてや！

ジャン　（無視して）フジテレビがPRIDEから撤退して大輔さんがタッチできなかったときに、ウチは「心の煽りVを作れ！」って主張しましたけど、いまこそ自分で心の煽りVを作らないとダメですよ。

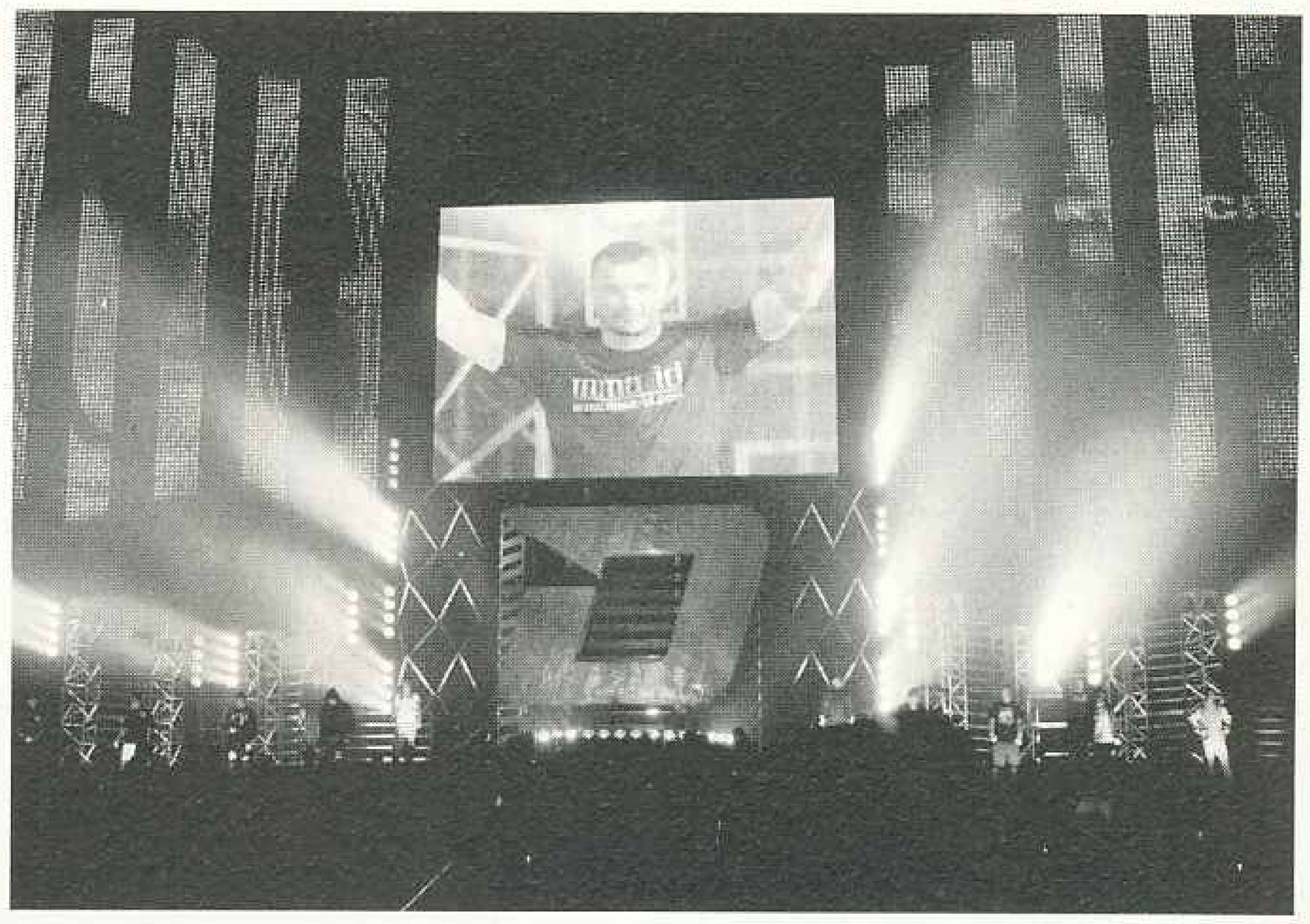
タコ　煽りVに頼ってたらアカン！
X　会場演出に頼るな！
ガンツ　まあ、『戦極』みたいに、別の意味で"心の煽りV"を作らなきゃやってらんないイベントもあったりしますけどね（笑）。
X　「おまえら、まだ夢（DREAM）を見ているのか！」だからね（笑）。
タコ　あれはホンマに頼ったらアカン映像や（笑）。
ジャン　その『戦極』って、これからどうなるんでしょうね？　なんかいろんな噂を耳にしてますけど。
X　地上波がついたら一気に風向きは変わると思いますよ。ただ、つかなかったらドン・キホーテがいくら頑張っても、それは限界がありますけどね。
ジャン　地上波はつきそうなんですか？
X　わからない。番組枠を買うことはできるんだろうけど……。日本テレビのニュース番組で『戦極』の映像が流れたけど、ニュース扱いだったらできるんですよ。日本テレビは以前、ミルコのUFCデビューも報じたりしてましたからね。
ジャン　あとフジテレビでの『SRS』でも『戦極』の映像が流れるんですよね。
X　あれも同じですね。現場サイドは格闘技がやりたい人はたくさんいるんです。それこそフジテレビなんて、現場はホントにPRIDEに対して力を入れてたから。
ガンツ　その思いが強すぎて、大輔さんみたいに退社しちゃう人まで出たぐらいですからね。
X　ただ、現場はよくても編成や上層部がとにかく硬い。ましてや日本テレビは『イノキ・ボンバイエ』で裁判までやってますからね。
タコ　なるほど。『戦極』は『戦極』で大変なんやな～。
ガンツ　吉田秀彦もジョシュ戦のケガでしばらく出られないだろうから、カードを回すのも大変でしょうしね。
X　ただ、『戦極』は早くも内部の大改革が行なわれるかもしれないという話もあるので、もしかしたら化けるかもしれませんよ。
ジャン　みたいですね。そんなことがありえるの!?　という内容で、ちょっと半信半疑なんですけど。
タコ　なんや、なんや。でも、ずいぶん早い改革ですね。
X　それはやっぱり、旗揚げ戦が表向きは満員で成功でしたけど、採算的には厳しかったということでしょうね。新しいイベントを立ち上げるときに、お金がかかるのはあたりまえなんでしょうけど、『戦極』は企業がバックについてるからこそ、そのへんはシビアにビジネスとして成り立つよう改革するでしょうから。それもあって、大きな改革があるかもしれないし、それがうまくいったら、『戦極』は化けるかもしれませんね。
ガンツ　というわけで、一通り話し終えたので、最後に永田さんの話でもしましょうか（笑）。
タコ　なんでDREAMを永田さんの話で締めなアカンのや（笑）。



「DREAM.1」である意味、ブレイクした永田兄弟。"宿命のライバル"ミルコ・クロコップがいるこのリングで、こんなかたちで永田さんが光を放つとは……。これからもこの兄弟（の煽りVトーク）には注目だ！

ガンツ　だって、永田さんの煽りVは素晴らしかったじゃないですか！
ジャン　確かにあれは凄かった！　ほかの煽りVと全然テイストが違いましたもんね。あれは心の煽りVでなんとかできるもんじゃない（笑）。
ガンツ　地上波しか観てない人はわからないと思うけど、なんかね、ドリフの雷様コントを見てるようなシュールさがあったよ。もしくは、まんま「バカ兄弟」というか（笑）。
ジャン　ひどいこと言うなあ（笑）。でも、「元IWGPのヘビー級チャンピオン、永田裕志」ってテロップが出た時点で笑いが起きるって、これは凄いことですよ！　あれはオープニングの映像で、ミルコのハイキックで倒された永田さんがサブリミナルで効いてるんですよ、きっと。
タコ　うん、前振りが効いてたね。
ガンツ　いったい何回、あの映像が使われてるんだっていうね（笑）。あの映像はTBSの宝ですよ！
ジャン　いやぁ、TBSも『イノキ・ボンバイエ』をやったかいがあったという感じですよ（笑）。
X　それにしても、あの永田兄弟のトークはいいね。
タコ　で、また新日本の道場で猪木さんのパネルの前でしゃべってるのがホントにもう……失礼な（笑）。
ガンツ　道場でのんきな話をしてるんですよね。
タコ　あの広い画を撮るシュールさと、ちゃんと猪木さんのパネルを収めて「結婚のときは攻めた？」とか（笑）。
ガンツ　「試合も結婚と一緒だよ、自分から攻めなきゃ」とか言って（笑）。
ジャン　あれが観れないファンはかわいそうですよ。やっぱりDREAMはライブだ（笑）。
タコ　会場の笑いに一体感があったからね。あれはライブの醍醐味やなぁ。
X　新しい楽しみ方だよね。あれこそ、DREAMがいう新しい世界観なのかな？
タコ　そんなアホな（笑）。
ジャン　なんか、試合はもの凄くしょっぱかったけど、永田さんに勝ち上がってほしくなりましたよね。試合が観たいというより、あの永田兄弟トークの続きが観たい（笑）。
ガンツ　ホント、次に永田さんの煽りVがどうなるのかと、次に三崎和雄がマイクで何を言うのかは、毎回、楽しみですよ！
タコ　次の永田さんは4月？
ジャン　いや、5月11日ですね。
タコ　となると、結婚式は6月にやるはずだから、その直前の模様が兄弟トークでわかるわけや。永田さんが「向こうの親とはうまくやってるのか？」とか言ってさ（笑）。
ジャン　そうやって話をつないでいって、決勝で奥さんが登場したら大爆発ですよ！
X　ミノワマン以上の突き抜け感があるね。
ガンツ　べつになんにも突き抜けてないのに突き抜けて（笑）。でも、煽りVの選曲には定評がある佐藤大輔が、「このVTRは音楽なし」っていう結論を出したのは凄いですよね。
X　ある意味、妥協しなかったんですよ。
ガンツ　あれが『戦極』だと藤田和之の煽りVのときみたいに、ウケを狙ってすべっちゃうんでしょうけど。
タコ　あの静寂は雄弁やなあ（笑）。
ガンツ　あの煽りVならDVDに収録できますよね。音楽がないだけに著作権関係ないから。
タコ　ほんまや（笑）。
ジャン　永田兄弟総集編とか、永田兄弟傑作選とか作ってほしいですね。これと三崎のマイク総集編がDVDで出たら絶対に買いますよ！
タコ　『kamipro』でも永田兄弟トーク、完全再録したほうがええんちゃう？
ジャン　いや、あの空気を誌面で再現するのは難しいですね。だからあえて載せません。
タコ　やっぱり映像の力か……誌面やったらまとまっちゃうもんね。
ガンツ　じゃあ『kamipro.com』なら動画が流せるんで、そこでやりますか。
タコ　おっ！　ええな～。ポッドキャストのゲストに来てもらってもええし。
ジャン　煽りとWEBが連動していくっていいですよね。
ガンツ　というわけで、最後は本誌公式サイト『kamipro.com』の宣伝をしたところで、また来月～！
【08年3月17日／『kamipro』編集部にて収録】

解説者、ライター、編集者による"超イケてる"

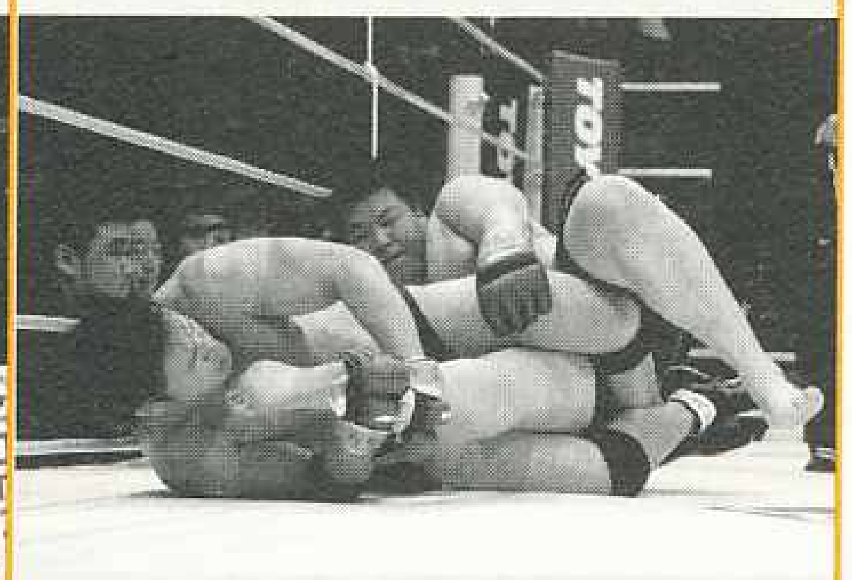


3・15『DREAM.1』クロスレビュー

構成／真下義之　撮影／乾晋也
イラスト／北出裕貴（THE PEHLWANS）

第1試合 ［ワンマッチ］

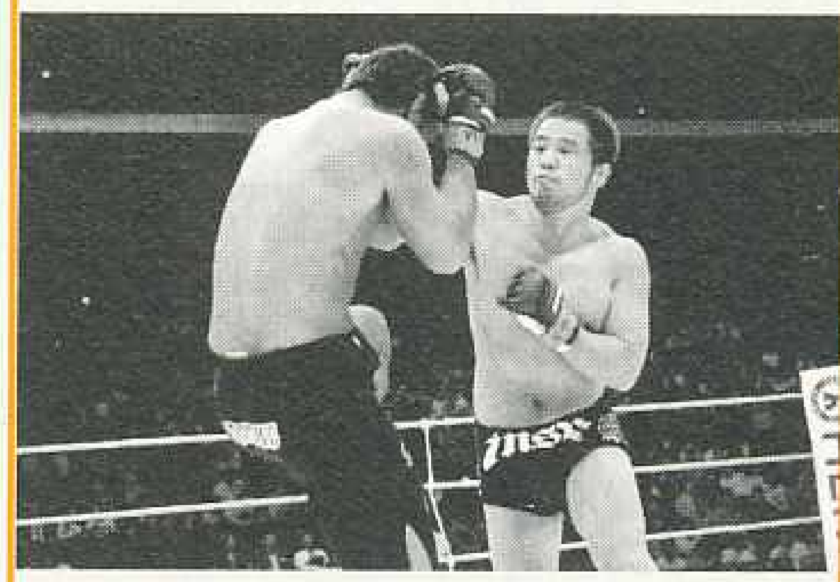
○ミノワマン
［1R 1分25秒 ヒザ十字固め］
イ・ヴァンボム×



開催ド直前に決まったミノワマンの対戦相手は、"元韓国プロ野球ピッチャー"という巨漢戦士。旗揚げ第1戦で気合い満点のミノワマンはたっぷりと時間かけて入場。試合でも奇襲の前方回転からテイクダウン。あっという間にヒザ十字をズバリ。試合後はお約束の"SRF8回"を四方に向かってキメッ！

第2試合 ［ワンマッチ］

○桜井マッハ速人
［1R 4分12秒 TKO］
門馬秀貴×



マッハに対するは、"魔王"秋山のセコンドとして知られ、煽りVで「虎の穴からの使者」とおどろおどろしく紹介された和術慧舟會の門馬。セコンドには"魔王"の姿も。試合は、寝技が得意の門馬を警戒したか、マッハは打撃勝負。門馬も真っ向勝負に出るが、マッハの強烈な左フック&パウンドに撃沈！



会場観戦

"世界のTK"
髙阪 剛

こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。94年にリングスに入団。その後、日本人で初めてのUFCレギュラーとなり"世界のTK"と称される。06年に現役引退。現在、自らが代表を務める『A-SQUARE』にて後進を育成。『戦極』やDREAMの放送席で解説を務める。

いつもどおりのミノワマン
いつもどおりのミノワマンでしたけど、総合格闘技の試合ができてましたね。パンチを出して、打ち返してきたところをタックルに入って、相手のハーフガードからヒザ十字を極めた。頭の中で考えてないと、ああいう動きはできないですよ。入場も盛り上がってましたけど、ああやって試合以外の部分でも楽しませることを自然にできてますよね。

踏み込んだから倒せた
この試合はマッハ選手が凄くよかったです。最後のパンチの打ち合いも、どっちがダウンをしてもおかしくなったですよ。門馬選手はハンドスピードは凄いですから。当たったのは前腕部で藤田（和之）選手が（カリム・）イブラヒムを倒したときのラリアットみたいなパンチでしたけど、マッハ選手が門馬選手より一歩先に踏み込んでたから倒せたんです。



会場観戦

元ボードッグ海外特派員
高崎計三

たかさき・けいぞう■1970年2月20日、福岡県生まれ。本誌では元ボードッグ海外特派員として活躍。現在は『kamipro Hand』での好評連載、『kamipro事件簿』の調査員としても絶賛活動中の格闘技ライター。ベースボール・マガジン社を経て、現在は有限会社ソリタリオ代表。

役割はキッチリはたしたが
人気者のミノワマンが登場して巨漢にあざやかに勝ち、会場は盛り上がった。景気づけとしては充分で、両者ともに与えられた役割はキッチリとはたした。だが、それ以上でもそれ以下でもない試合。『戦極』の第1試合だった外国人対決のときと同様、最初に提示されたこの試合が新イベントの方向性かと言われるとまったくそうじゃないわけで……。

理屈抜きの人が勝った試合
理屈の人とまったく理屈抜きの人が闘って、やっぱり理屈抜きの人が勝った試合。そもそも観客が観たいのは「理屈抜きの強さ」なんだよな。ある意味、PRIDEの持っていた爆発力をマッハが見せてくれたというか。ここにきて、PRIDEファンはさぞや胸がすく思いを味わったことだろう。寝技が主体の門馬は「ああこられちゃたまらん」と思っていることだろうが。



テレビ観戦

一、十、百、戦極ッ！ 戦極ッ!!
阿修羅チョロ

あしゅら・ちょろ■1972年1月16日、岩手県生まれ。本誌編集部。07年から、なぜか"阿修羅"名を語り、"ホームレス編集者"疑惑もある36歳。自らが考案した「一、十、百、戦極ッ！ 戦極ッ!!」ポーズ&DREAMポーズの普及に邁進中。今回はテレビ観戦組としてレビュー！

シュールを持ち込んだ男
会場では記念すべき1試合目だったけど、地上波では一発目ではなかったこの試合。でも放送では時間を取って入退場シーンを流していたし、相手の元プロ野球選手も含めてミノワマン劇場としてはよかったんじゃないかな、と。あと解説の須藤元気が「ミノワマンは唯一、格闘技界にシュールを持ち込んでますからね」と楽しそうだったのが印象的でした。

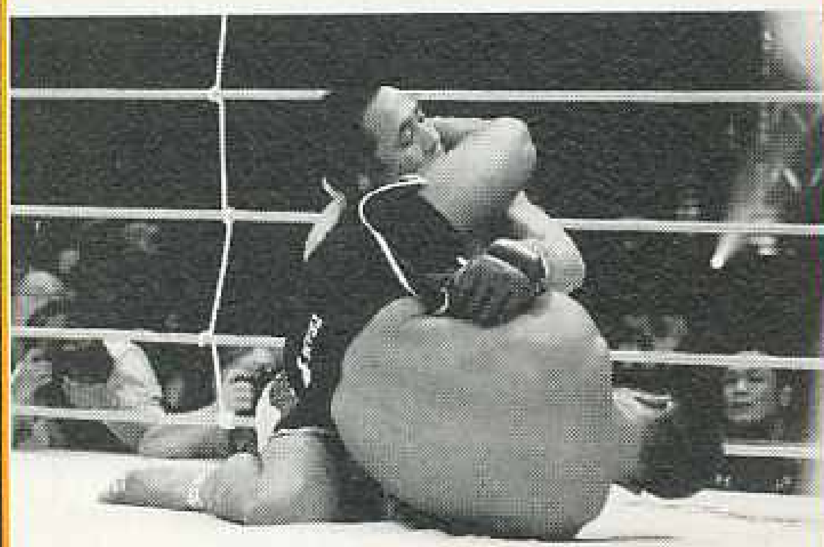
上井駅長も期待の日本人対決！
門馬といえば、"魔王"秋山のセコンドとしておなじみですが、あの『UWAI STATION』にも何度か出てるプロレス心を持つ選手。上井駅長も大興奮間違いなしの一戦は上井駅での柴田勝頼との名勝負よろしく白熱するかと思いきや、寝技が得意な門馬につき合わず、マッハはベイダーばりの横殴りパンチでKO！ "夢列車"はマッハを乗せ出発進行、シュポ〜！

第6試合 ［ライト級グランプリ1回戦］

◯石田光洋

［2R 判定 3-0］

チョン・ブギョン×



昨年末の『やれんのか！』ではメレンデスと珠玉の大激戦を展開した“ウチのエスペランサ”石田が、腕十字地獄で青木を追い詰めたブギョンと激突。だが試合は、腕十字を警戒しすぎた石田が上になって膠着する場面がくり返される展開に。石田は判定勝利を奪うも「最悪です」と内容に反省しきり。

恐怖を与えるフィニッシュを

ブギョンの腕ひしぎ十字固めは凄いんですけど、入るパターンをいくつか考えたほうがいいでしょう。 相手の右手を触っておいて、左手を極めるとか、そういうことができたら怖い選手になると思います。「十字を意識しすぎた」という石田選手も「コレで勝つんだ!」という相手に恐怖を与えるようなフィニッシュを持ってるといいでしょうね。

石田は次の階段が必要

不完全燃焼の試合に終わってしまったのは噛み合わせ上、仕方ない部分はあったにしても、そろそろ「上に向かって挑む」だけじゃない石田光洋を見せないといけない時期にきてるんじゃないか。一方でブギョンは前に前に出続ける姿勢といい、柔術じゃないのにあれだけ絡みつく寝技を見せるあたりといい、まだまだ“化ける”要素がありそうで、楽しみだ。

ボロクソに……書けんのか?

いま気づいたんですけど、ハイライト扱いの宮田、石田、永田って会場では続いたんですねぇ。石田は勝ちはしたものの納得のいかない内容に、試合後は「マスコミの皆さん、ボロクソに書いてください」と言ってたとか。ただ、そう言われると逆に書けなかったりもするんですが思い切って……。いや、試合は10秒くらいしか映らなかったので何も言えません。

第5試合 ［ライト級グランプリ1回戦］

◯永田克彦

［2R 判定 3-0］

アルトゥール・ウマハノフ×



煽りVでは兄・裕志が弟・克彦の結婚に「どっちが攻めたの?」「試合も前に出なきゃ」とインタビューする“兄弟劇場”で場内を盛り上げる。だが試合は克彦が上になってパンチを与える展開が延々と続く“固い”試合に。判定勝利は奪ったものの、場内からはブーイングも発生する厳しい内容となった。

永田選手はパンチが上達してた

永田選手はパンチが上達してますね。腕が伸びるようになってきてますよ。永田選手は大舞台での試合が多いですけど、そういう大きな試合だと得るものも大きいんです。あとは、“つなぎ”を覚えることですね。もともと持ってるレスリングと上達しているボクシング、さらには相手を仕留めるフィニッシュを身につけると、本当に凄い選手になると思います。

お兄さんは秀逸だった

「観客が観たいものをどれだけ観せたか」というテーマで各試合、各選手を観ていたが、ふと「永田に、観客が観たいものってなんだろう?」と考えてしまった。2回戦は川尻戦希望。その点、映像に出演したお兄さんは秀逸だった。あんな何気ない会話の中で必要事項をすべて盛り込むなんて、なかなかできない。インタビュアーとしての才能はかなりと見た！

メダリストも数字が取れない!?

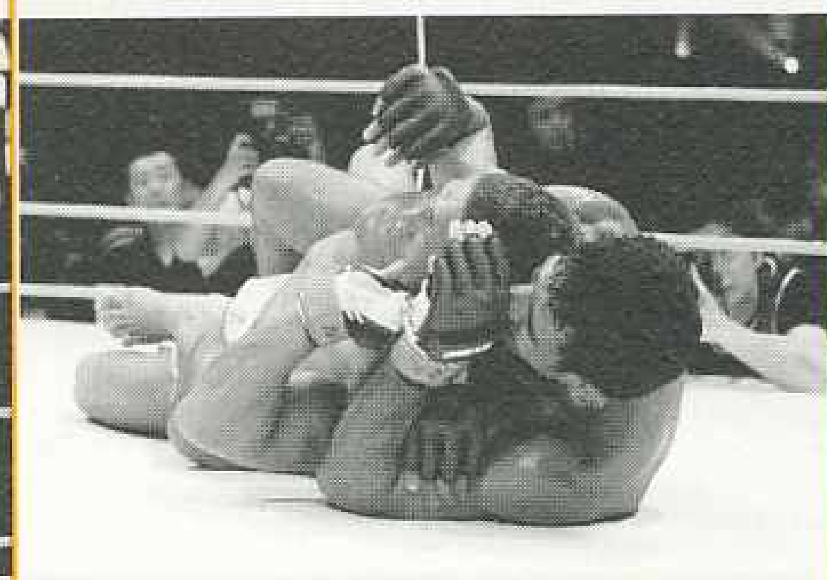
会場で観た人が口を揃えて「“煽りVは”おもしろかった！」と発言。兄の永田さんがミルコにKOされるシーンは何度もリピートされてましたが、かつての銀メダリストも数字が取れないと判断されたのかハイライト扱い。北京五輪が終わったらメダリストが続々とMMA界に参入するなんて話しもありますが、視聴率に直結する時代じゃなくなったんですね。

第4試合 ［ライト級グランプリ1回戦］

◯ルイス・ブスカペ

［1R 7分37秒 裸絞め］

宮田和幸×



総合転向から4年、背水の陣でGPに挑む宮田とBTTの“寝技師”ブスカペが激突。序盤は宮田がペースをつかむも、ブスカペの防御の前に攻めあぐねる。後半はブスカペが試合をリードし、あれよあれよという間に体勢を入れ替え、最後は裸絞めをズバリ！“小さなノゲイラ”が本領発揮で2回戦に進出!!

勝敗はペース配分の差

これは宮田選手のいいところであり、悪いところでもあるんですけど、最初から全力で相手に向かっていくんです。逆にブスカペのような寝技系の選手は10が全力だとしたら7～8の力で最後まで持続できる。宮田選手は力が落ちてきたところで、極められてしまった。ペース配分の差が勝敗を分けてしまう試合になってしまいましたね。

やっぱり“宮田らしい”試合

宮田はやっぱり入場前に、個人スポンサーのサミーのCMが流れないとしっくりこない。ブスカペの耳の大きさは健在だった。で、前の試合が“打投極”なら、これは“投極”のみ。身体能力の素晴らしさは示しつつも試合を決めるには至らない点が、やっぱり“宮田らしい”試合に終わってしまった要因か。彼が勝ち上がれば2回戦のテーマも広がったのだが……。

本人も歯痒いでしょう

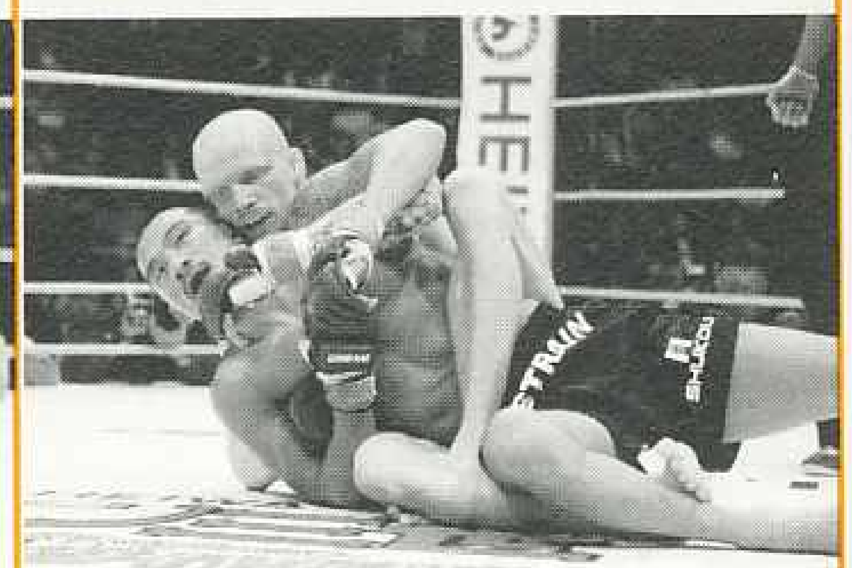
地上波では宮田、石田、永田という“田”がつく3人はハイライト扱いでした。残念。宮田はPRIDE系の選手と互角にやれる実力を持ってるはずですが、なかなか結果が出せず本人も歯痒いでしょう。あと宮田をスポンサードしているサミーに変わり、今大会はHEIWAが冠スポンサー。HEIWAのパチンコ台『CRルパン三世』のCMがいまだに頭に残ってます。

第3試合 ［ライト級グランプリ1回戦］

◯ヨアキム・ハンセン

［2R 判定3-0］

朴光哲×



煽りVでは「ボスには絶対服従！」と山本KID率いるKRAZY BEEのナンバー2として朴光哲が紹介されたが、試合ではハンセンが“当て勘のよさ”が光る打撃、バックドロップ気味のブン投げに加え、寝技でも圧倒！ 朴のパンチに「もっと来い！」と挑発する負けん気も爆発させて、スキのない判定勝利。

効いてたからこそ前に出た

朴選手のパンチは当たってたんですけど、破壊力はヨアキムのほうが上だから打ち合いで朴選手のパンチが殺されてましたね。ヨアキムはパンチを嫌がってグラウンドに持ち込んだりしてましたけど、ハンセンは自分を鼓舞して前に出ましたよね？ あれはパンチが効いてたから、ああいうことをしたんだと思います。効いてなかったら何もやらないですよ。

まさにMMAの見本市

15分間にMMAのあらゆる局面での技術が詰め込まれた、まさに見本市のような試合。MMAをまったく知らない国でプレゼンする場合には、この試合の映像を流せば一発だ。ハンセンの攻撃の多彩さもいつにも増して際立ったが、あれだけ打撃が伸びる相手にしっかりパンチのコンビネーションを打ち込めて、しかも最後まで攻め続けた朴にあらためて驚嘆した。

“本家”ハンセンばりの大暴れ!

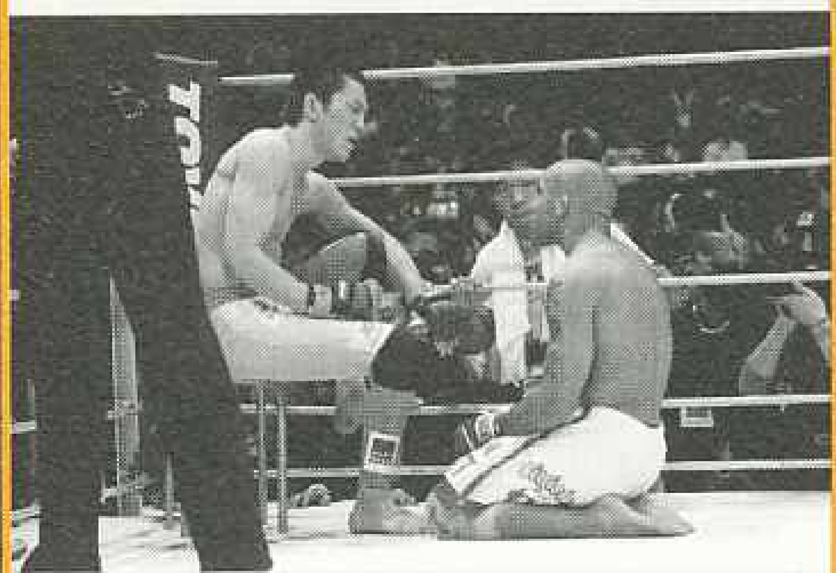
テレビの一発目はミノワマンじゃなく、TBS的には山本KID率いるKRAZY BEEの朴光哲を選択! 試合的にはハンセンが「打ってこい、コノヤロー！」と挑発したり、バックドロップ気味にブン投げるなど“本家”ハンセンばりの大暴れ！ 朴もかなり頑張りましたが、やはり“KRAZY BEEの特攻隊長”より“北欧の処刑人”のほうが強かったみたいです。ウィー!!

第10試合 [ライト級グランプリ1回戦]

△青木真也

[1R 3分46秒 ノーコンテスト]

J.Z.カルバン△



カルバンを「21世紀のヒクソン・グレイシー」と称した秀逸な煽りV、期待を一身に背負った青木の感動的な入場と、最高潮のムードで迎えたメイン。だがカルバンのヒジ攻撃でまさかの試合中断。苦悶の青木、申し訳なさそうなカルバン。最後は無念のドクターストップで夢舞台は波乱の船出となった。

第9試合 [ライト級グランプリ1回戦]

◯川尻達也

[2R 判定 3-0]

ブラックマンバ×



煽りVでは「『HERO'S』の選手には負けない」という川尻の言葉に大歓声！“DREAMのエース候補”への期待感が充満したが、ブラックマンバも奇怪な踊りを披露して天然さ爆発の入場。試合は、有利なポジションは奪うも、腰が強く手足の長いマンバに思う試合ができない川尻が辛くも判定勝利。

第8試合 [ライト級グランプリ1回戦]

◯エディ・アルバレス

[1R 6分47秒 TKO]

アンドレ・ジダ×



前日会見では、一触即発の睨み合いなど危険なムード満点だったアルバレスとジダのハードパンチャー対決は序盤からスパーク！ ジダが強烈なアッパーでダウンさせれば、アルバレスもパウンドの嵐！ 後半は優位なポジションをキープしたアルバレスが怒濤の鉄槌を爆発させ、衝撃のDREAMデビュー。

第7試合 [ワンマッチ]

◯ミルコ・クロコップ

[1R 56秒 KO]

水野竜也×



試合の1週間前に相手を“公募”する事態となったミルコの相手は、“田村の秘蔵っ子”水野。ミルコの入場では、場内は一斉に手拍子など一番の盛り上がり。試合では果敢に前に出た水野に容赦ないミルコのヒザがズバリ！ 左右のフックに最後はパウンドラッシュ、と見事な完勝劇で日本復帰戦を飾った。

高阪 剛 会場観戦

万全な体調で再戦が観たい

青木選手はカルバンの打撃をいなしながら少ないチャンスでグラウンドに持ち込むつもりだったんでしょう。カルバンのヒザはどれぐらい回復してたんですかね? リングインのとき、慎重に着地してたように感じましたし。打撃も踏み込んでなかった。青木選手のタックルは怖かったんじゃないかなぁ。両者が万全な体調のときに再戦が観たいですね。

攻めきれなかった川尻選手

手足が長いですねぇ！ ブラックマンバは。川尻選手の裸絞めを後頭部に手を回して技をほどいてましたから（笑）。川尻選手はマンバのヒザ蹴り、というかローキックをかいくぐってタックルに入ってましたけど、テイクダウンで体力をだいぶ消耗してましたね。一回のタックルを4段階ぐらい変化させて倒してましたから。なかなか攻めきれなかったです

アルバレスの“勝つための戦略”

アルバレスは最初の絡みでジダのパンチを見切ってかわしてましたよね。アルバレスはスタンドの打撃でも倒せるし、テイクダウンして極める技術もある。驚いたのはマウントを取ったアルバレスが、ジダの反転にあわせてスッとサイドに移行したんです。普通の選手ならあそこでマウントをキープするんですけどね。勝つための戦略がしっかりしてます。

とにかく、試合で勝つこと

この試合は技術も体力も違いすぎましたね。ただ、06年の無差別級グランプリで優勝したときのミルコと比べると、どうしても精彩を欠いているようにも見えました。UFCで負けが続いてて、「俺はこのままの練習でいいのか?」という迷いがあると、選手はどんどん負のスパイラルに入ってしまうんです。とにかく、試合で勝つことでしかよくならないですよ。

高崎計三 会場観戦

問題は“協議”の長さ

起こってしまったことは仕方ないが、やっぱりそのあとの“協議”の長さなんだよなあ、問題は。青木の涙のアピールがもう少し早い時間に行なわれていれば、もっと多くの観客が「まあ今日はしょうがないよな」で帰れたはずなんだが。このへん、日本総合はいまだに経験を積まないといけない時期の最中なのか、と。この一点でイベントの印象もかなり損したはず。

まさに“無酸素観戦”！

マンバ、映像の最後で「グワシ！」って言ったよね? 手のかたちが違ったぞ。……それはいいとして、観客が思わず息を詰めて見る試合を提供するのは、やはり川尻が一番だった。15分間の無酸素運動ならぬ、まさに“無酸素観戦”ですよ！ 非常に大ざっぱに言えば、試合展開は石田の試合とそれほど違わないはずなんだが、緊張感という点で大きな差があった。

すべての技は“殴るため”

見たか、アルバレスの強さ！（なぜか得意げ）。早々にタックルにいった瞬間には「アレッ!?」と思ったファンもいただろうが、どんな技も最終的に“殴るため”につながっていることが素晴らしい。多彩さ、的確さではジダよりかなり上であることを示したが、それでもダウン寸前のパンチを入れるジダも凄かった。アルバレスの2回戦は川尻戦希望（あれ?）。

“ミルコの怖さ”は出た試合

水野は「とにかく徹底的に距離を潰せば」という作戦だったのだろう。それは間違いではないし、実際によく実践できていたと思うが、結果的に言えることは「距離がなくても、ミルコは恐ろしかった」ということ。パンチしかり、ローしかり。ミルコの怖さがこれまでとは別の角度から出た試合という点では、「調整試合」以上のものは観せてもらったと思う。

阿修羅チョロ テレビ観戦

リングサイドも大連立！

青木の控室の様子を伝えたのは同じ名字の青木裕子アナ。とんちが効いてるね！ あとワカパイが「青木選手は笑顔が素敵な選手ですよね」と言ってたのにはビックリ。青木の回復待ちの時間にはリングサイド最前列に映し出される谷川さんに柳沢忠之さん、ケビン山崎氏からShow大谷氏、船木&柴田の師弟コンビ等々、よくわからないけど大連立感満載！

ファイトはパートタイム!?

“ワカパイ”井上和香も宇野や所を破ったことで「要注意人物」と認識していたマンバ。試合後は川尻も「ストロング！」と声をかけ握手。マンバは判定に納得済みと思いきや、「オレの勝ちだ! それにオレは政府の仕事をしててファイトはパートタイムだしな」と強調。でもそれってK-1に出てた頃から言ってるよね。いつまでパートなんだ? ウ〜、マンバ!!

消去法でベストバウト!?

選手、関係者ともにベストバウトの評価が高い一戦。確かに激しい打ち合いで凄くいい試合でしたが、結果的に消去法で選ばれた気も。個人的にはアルバレスは面構えがまだプロっぽくないな、と。カルバンも最初は地味でしたけど、最近はいい顔になってきてるYO！ 煽りVは使い回しの「アディダス=ジダ」ネタ。その意図を探ってるあいだにジダ轟沈の巻。

もしも中尾さんだったら?

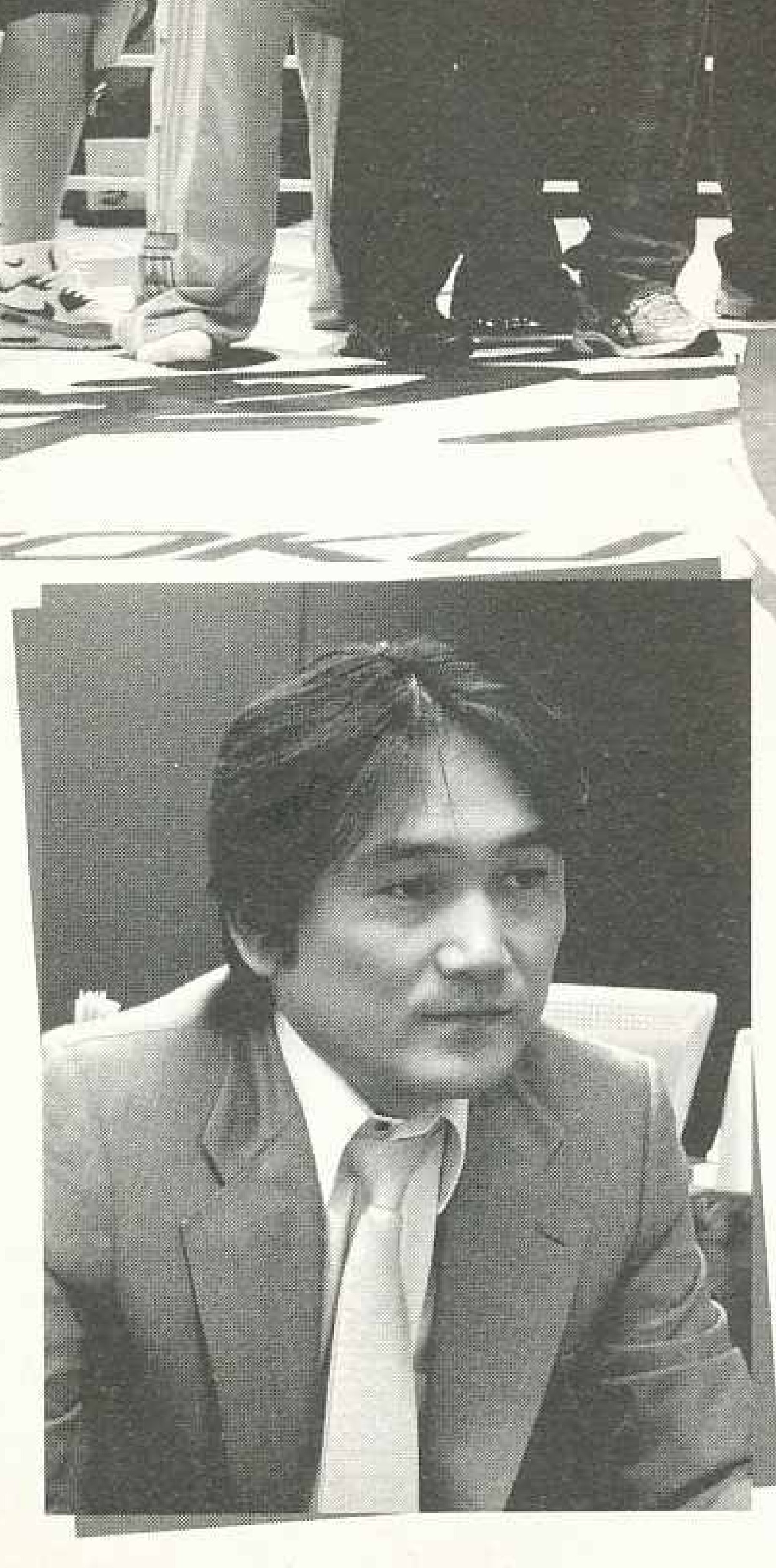
TBSの本領発揮とばかり、「ミルコ、553日ぶりに日本上陸！」と煽りまくっていたこの試合。吉田道場でも練習をしていたという水野に期待をしていたのだが、残念ながら56秒で轟沈！ だが、もしも相手が噂された中尾さんだったら? 得意の“KISS”を炸裂させ、ミルコが怒りのハイキック……そんなドリーム見たくないか。♪夢でkiss×3……。

夢を見る前に、極めのインタビューはどうだ!?

戦極の頭脳、いざ!!

『戦極』ナレーション調





『戦極』広報&J-ROCK代表

國保尊弘

DRAEMより一足先に旗揚げ戦を終えた『戦極』、『戦極』!!
各階級の大物日本人選手を揃えているが、プロデュース面の詳しい実態がなかなか見えてきていない。いったいどんな感じなのでござるか?
というわけで、吉田道場を経営するJ-ROCKの代表にして『戦極』の広報、最重要人物である國保尊弘(こくほ・たかひろ)氏に直撃した!! いざ!

聞き手/ジャン斉藤　試合写真/乾晋也

―國保さん、今日は夢が覚めるようなお話しをうかがいにきました！

國保　べつにいいんじゃないですか、夢を見るのは（笑）。

―ありがとうございます（笑）。お話を聞く前に、國保さんがこうしてメディアのインタビューを受けることは……。

國保　一度もないですね。ボクなんかの話を聞いたってしょうがないでしょう（笑）。

―いやあ、でも広報という肩書きがついていますし、國保さんは『戦極』の頭脳と呼ばれているわけですから。

國保　ボクなんか頭脳でもなんでもないですよ（笑）。ほら、一度、表に出るとずっと出続けなきゃならないじゃないですか。あと、ほかの媒体にも出なくちゃならないですし。

―まさかウチだけに出て、『格通』や『GONKAKU』に出ないわけにもいきませんしね。

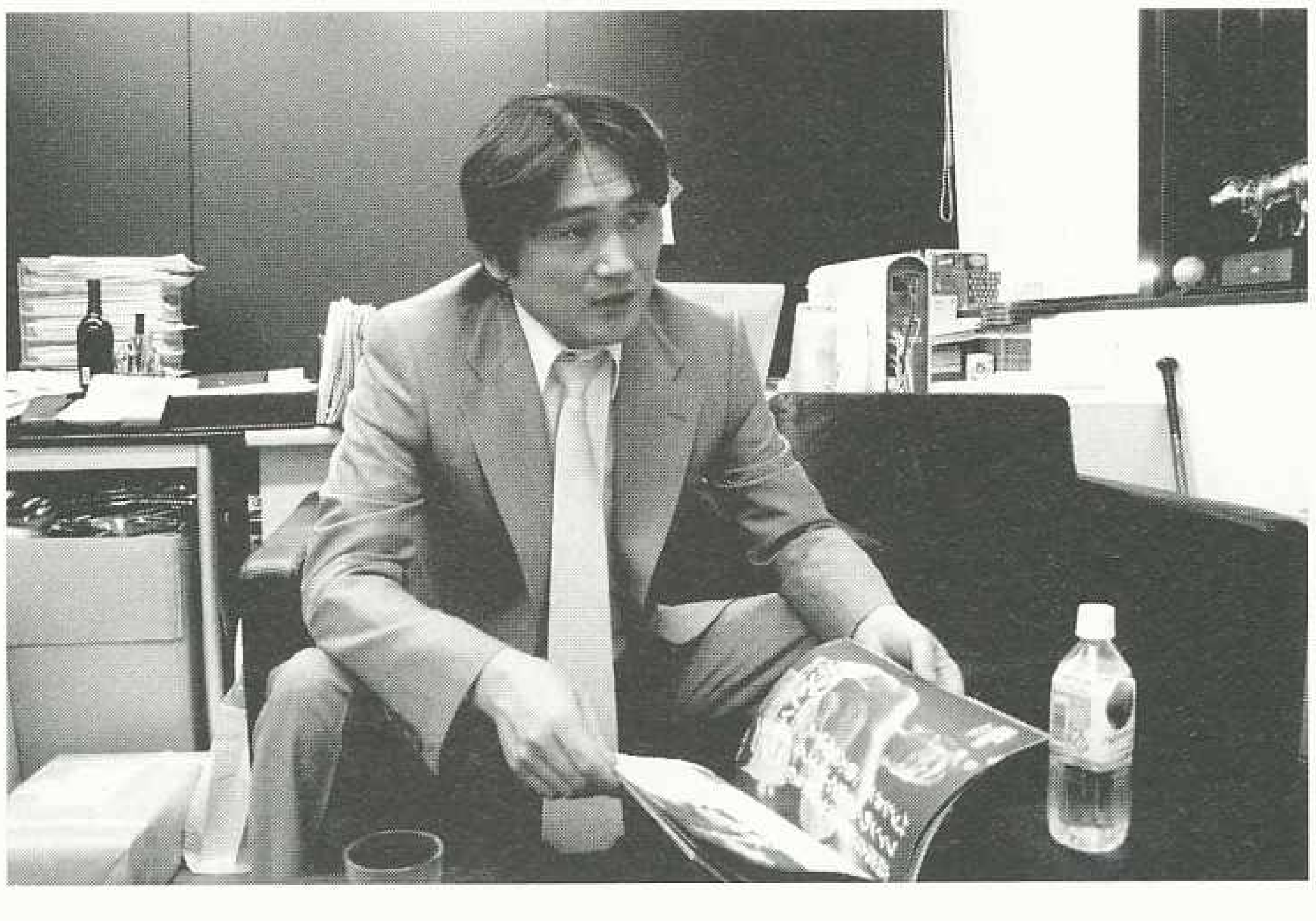
國保　そうなんですよ。でもまあ、こういうインタビューは一年に一回だけです（笑）。

―せめて隔月のペースでお願いしたいですねぇ。まず旗揚げ戦を終えてみて手ごたえはいかがですか？

國保　やっぱり我々が間近で見てきたというイベントと比較すると、「こうしたらよかったな」という部分が数十ヵ所くらい反省材料としてありますね。これはマスコミやファンの方々もわかっているということや、おそらくわからないだろうなという内部の面も含めて。

―やっぱりPRIDEで活躍してきた選手が多く参戦したので、周りからはどうしても比較されますよね。

國保　ただ、ファンの中にはほかのイベントの旗揚げ戦と比べる方も多かったと思うんですね、PRIDEやK―1、『LEGEND』、『ROMANEX』の一回目の大会はこうだったね、とか。そういう観点でいえば、今回は充分な評価をいただけたかなとは思っています。



國保氏はJ-ROCKの代表取締役として、MMA以外のスポーツ選手、アーティストのマネージメントなども手掛けている。旗揚げ戦には長渕剛など芸能人が大挙して訪れていたのは、そういった縁もあるのだ。ちなみに國保氏が手にしているのは、"戦極、YES"な本誌速報号。皆の衆、買うでござる。

―おっしゃるとおり、旗揚げイベントとしてのクオリティは高かったですよね。

國保　まあ、スタートではありながらPRIDEやK―1に携わっていたスキルのある人たちにも加わってもらったので、まったくゼロからのスタートじゃなかったという部分で助けられました。

何か変わったことをやると反発を食らう そこでスタッフにメルセデス・ベンツの話をしたんです

―やはり興行のフォーマット自体はPRIDEを手本にしてるんでしょうか？

國保　PRIDEというよりは、いままでの格闘技イベントを手本にしていると言ったほうがいいと思います。それに今回は選手もスタッフ、関係者、皆が協力的でした。

―そういえば、藤田（和之）選手は会見で「國保さんの熱意で参戦を決めた」と発言してましたね。

國保　ありがたいですね。藤田選手をはじめ多くの選手が、このイベントに懸けてくれていると思います。自分から「何かやれることはないですか？」とか「取材はないですか？」など本当に協力的で、少しでも『戦極』を盛り上げようという熱意がひしひしと感じてきました。なんとしてもイベントは成功させなければならないと思いました。

―『戦極』って大会名を最初聞いたときはピンとこない人が多かったと思うんですけど、旗揚げ戦を終えてだいぶ浸透したんじゃないでしょうか？

國保　そうであれば嬉しいですね。旗揚げ戦では、ほかのイベントともっと差別化したかったのですが……5月は何かしたいですね。

―いままでのイベントと変化をつけたかったと？

國保　ありましたね。でも、なんか変わったことをやろうと思うと、必ず反発は食らうと思うんですよ。そこでスタッフに一つ例を挙げたのは、メルセデス・ベンツという車の話なんですね。

―ベンツですか！　そこはかとなく上場企業のにおいがしますね（笑）。

國保　ベンツの新型が出ると「カッコ悪い、新型に買い換えたくない」って言うんですね。ところが3年経つとコロッと変わって「昔のベンツは乗りたくない」って言いだすんです。で、これはベンツを作っている人たちから聞いたのですが「我々は10年たっても乗れる車のデザインをしています」と言うのです。通常だと国産車は2年に一度モデルチェンジ、4年に一度フルモデルチェンジするので10年前の国産車には古々しさを感じてしまうものなんです。ただベンツは10年間フルモデルチェンジをしないので、10年前の車であっても乗れる。イベントもそれと同じで、新しいことをすると最初は抵抗感があったりすると思うんですけど、継続することによって「ああ、やっぱりこっちのほうがよかった」ということになってくると思うんですよ。

―いかに続けていくかってことですね。

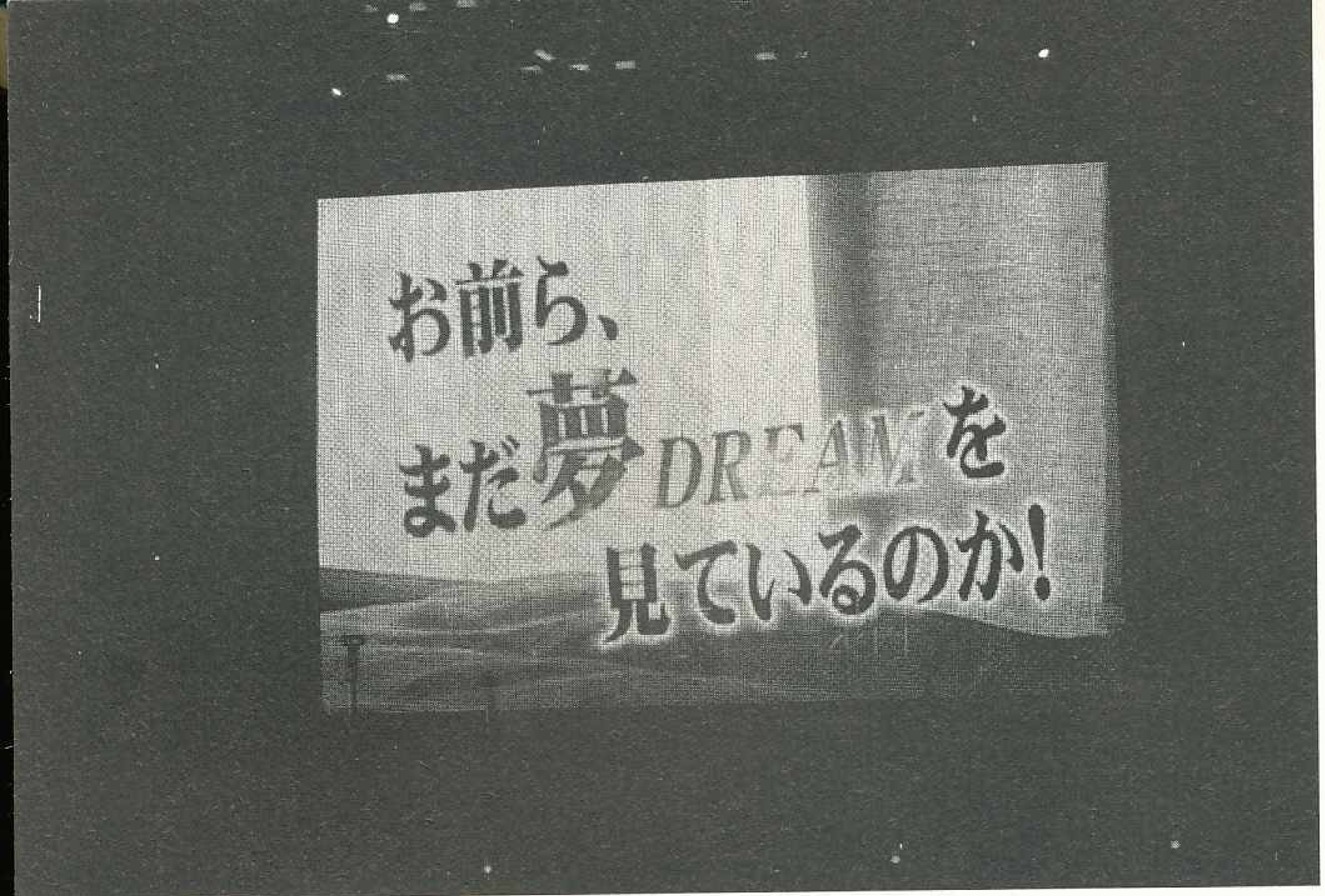
國保　そういうことですね。最初、『戦極』という名前に関してもいろいろ言われました。最近ようやくそういうこともなくなってきましたけど（笑）。

―『戦極』が立ち上がった当初はまだ國保さんは広報として表に出ていなかったわけですが、途中から就任されたのはどういった経緯で？

國保　べつに途中から就任したということではないんです（笑）。最初からお手伝いはしていたんですが、私にはJ―ROCKという会社もあるので、おそらくマスコミのかたも取材時にどっちのことを聞いていいのか話しかけづらかったと思うんです。

―なるほど。たしかにそういう部分はあるかもしれませんね。

國保　ですので、どこかのタイミングで『戦極』のことも話しやすいようにしなけ



DREAMを挑発するかのような、『戦極』旗揚げ戦のオープニング映像。PRIDEvsK-1の対立時代は終えたが、これから先はいったいどうなるというのか。オラ、なんだかワクワクしてきたぞ!! 次回の興行戦争は5月だ!

ればいけないなということもあって、広報に就任することになりました。ただ、J−ROCK以外の選手たちにもたくさん出てもらっていますし、あくまでも『戦極』はJ−ROCK主導のイベントではないことを全面に出したかったので、僕なんかが表に出るのはどうなんだろうという部分はありましたね。でも、いまはいろんな選手たちと話し合って決してそういうものではなく、みんなのイベントなんだっていうことはわかってもらえたと思います。

—逆に名前を出さないと、よけいな勘ぐりもされる可能性もありますよね。

國保 そうですね。広報という肩書きがないのに私が『戦極』について具体的な話をしてもいいのか？ という思いはありましたね。

—『戦極』のスタートとして、まず日本総合格闘技協会が設立されるとともにワールドビクトリーロードという新たな興行会社ができたわけですが、その頃はこれから何が行なわれるのかファンには伝わってなかったと思うんです。國保さんの広報就任や三崎（和雄）選手たちの参戦決定、そして『やれんのか！』制作チームがDREAMのほうに協力するという話になってから、観る側にとって『戦極』のイメージが徐々に固まってきたんじゃないかな、と。

國保 まず『戦極』の成り立ちのお話をさせていただくと、命を懸けて練習してきた選手の闘う場所を作ってあげなければいけないという理念が基盤となっているわけです。選手というのは企業家と違って選手寿命が非常に短い。企業家は60歳でも70歳でも仕事をすることはできますが、選手はどんなに頑張れても60歳や70歳になって試合ができるわけがない。そうするとかぎりある選手生活で、理不尽なことによってリングという輝ける場所が奪われるのは問題である、と。では、どうしたら選手たちに安定したリングを与えられるんだろうかという部分で、ドン・キホーテの安田会長や木下社長をはじめとした方々のお考えによって、旗揚げに至ったわけですね。

—たしかに設立会見でそういった話をされてましたよね。『戦極』旗上げ戦のオープニング映像を見たところでは、DREAMとの対立を煽っているイメージを感じたんですが？

國保 そうですか？ どう感じていただくかは各々に委ねたいな、と。DREAMとは別組織なわけですし、我々としてはそこと仲良く手をつないでいますよといった映像を流したところで、誰が楽しんで喜ぶのかという部分は感じます。

—なるほど。それにしても刺激的な映像でしたよね。

國保 まあ、あれは僕が作った映像じゃないんでね（笑）。ただ、映像に関してはファンの方が叱咤激励してくれればいいと思うんです。例えば煽り映像といえば佐藤大輔さんという名前が大きいと思うのですが、実際はその下で作っているディレクターもいっぱいいるわけです。今回の『戦極』ではそういったディレクターも参加していますし。おそらくすべて一人の人間が作ったように思われがちかもしれませんが、同じ人間が作っているわけじゃないですよ。

戦極の頭脳、いざ!!

—担当制ということですね。

國保 そうです。それをどこまで見分けられるのかもひとつの楽しみとして観てもらうといいかもしれないですね。今回は『戦極』でも3試合ぐらいを同じ人が作っています。

—そうですか。話を戻すと、DREAMとは良い意味でのライバル関係は築いていきたい、と。

國保 やはり年末の『やれんのか！』が見応えがあったのは、交わらないだろうと思われていたPRIDEと『HERO'S』の選手同士が闘ったからだと思うんです。ですから今回、『やれんのか！』制作チームがDREAMか我々のどちらと手を組むにしろ、そういう構図が表現できればいいのかなと個人的には感じていました。

—見る側にしていれば対立構造があったほうが感情移入もしやすいですしね。

國保 お互いが切磋琢磨するという意味では対立構造はありかなと思います。まあ、基本的には我々は自分たちの道を粛々と進むだけです。

—ちなみにDREAMの会場には行かれるんですか？（取材日はDREAM開催前）。

國保 行こうと思っています。

—招待はされてるんですか？

國保 話はありますが、まだチケットが届いてないので。

—チケットといえば、話題になったのが三崎さんの「クソ高いチケット」発言ですが、あれはどういう意図があったんですかね？

國保 それは三崎選手に聞いてみないと（笑）。まあ、決して安い金額ではないと思いますけどね。

―そういえば旗揚げ戦は日本テレビのニュースで流れましたね。

國保　本当は日本テレビの『ＮＥＷＳＺＥＲＯ』で３分ぐらい放映するはずだったのですが、大きなニュースがあったとか構成上の理由で１分程度になってしまったんですけど。

―『戦極』としては将来的に地上波中継というのは見据えてるわけですよね。

國保　どうなるかわからないですけどね。それから、日本テレビさんだけじゃなく、フジテレビさんでも３月21日に『ＳＲＳ』で特集してもらうんですよ。

―フジテレビで『戦極』特集ですか！

國保　地上波が決まっていないぶん、そういったお話がある局には我々も喜んでＰＲとして出していきたいですし。

―興行を打つのには地上波というのはやはり必要不可欠ですか？

國保　そうですね。早く実現できればいいですね。

―日本だとＭＭＡは地上波がつかないと運営はなかなか厳しいんじゃないかという目で見られますよね。

國保　いろんな観点があると思います。地上波に流れることでいい部分や悪い部分もありますし。

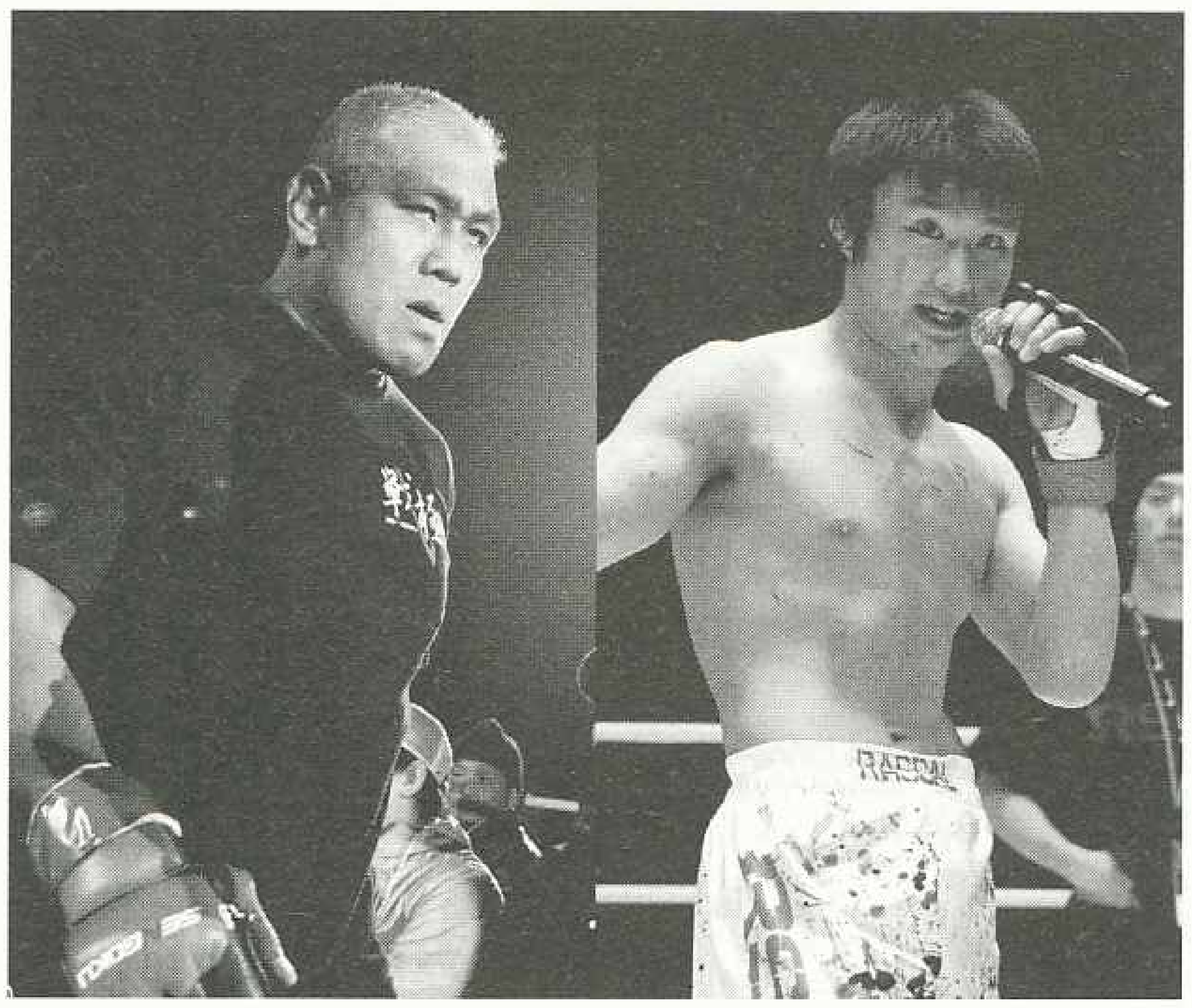
―たしかに多かれ少なかれメリットやデメリットは出てきますね。

國保　スタート時に地上波がなかったとことで、必然的に会場に来てくれたかたやＰＰＶを観てくれたかたというのは興味がある人々なわけですよね。とくに会場には地方を含めいろんなところから来てくれる。こういう人たちが集まるとやっぱり会場に熱も生まれると思うんです。

―ＰＲＩＤＥはまさにその熱に支えられていたイベントでしたね。

國保　これがいつも地上波でタダで観れるソフトということから始まると、なかなかそうはいかないところもあるでしょうし。そういう意味ではスタートとして本当に好きな人たちに集まってもらえたのはよかったと思います。ただ、選手たちにとってみれば地上波に出ることによって頑張りが、いま以上に多くの人たちに観てもらえるということでは、その必要性も感じています。

―ちなみにずいぶん先の話になりますが、大晦日は何か考えてたりするんですか？


今後の『戦極』の大きなポイントは、藤田和之、五味隆典ら大物日本人のマッチメイクをどうするかだ。勝負論と興行論を兼ね備えることができる両雄だけに期待は大きい。「戦極」ポーズの普及もポイントには……ならないですな。

あえて引き抜き戦争を望んではいません
オファーがかぶってしまう場合は選手次第です

國保　会場が押さえられるならやりたいですね。

―はっはー。これはたいへんなことになりそうですね(笑)。

國保　ハハハハハ。

―目前のイベントとしては５月と６月に大会が控えてますが、何かイベントのイメージは湧いてます？

國保　……難しい質問ですねぇ(笑)。

―そ、そうですか(笑)。でも、出場選手はだいぶ固まってるんですよね。噂だと近藤有己選手や佐々木有生選手、中尾(芳広)さんが出るんじゃないかって言われてますけど。

國保　近藤選手は６月になると思います。中尾選手からも「ぜひ出たい」という話は来ていますね。あと日本人ももちろん数名出てきます。70キロ級に限らず、ヘビーまでの中でおもしろそうな選手、これから活躍するであろう選手を出そうと思っています。

―イベントを運営していく過程で他の団体との付き合いも出てきますよね。たとえば和術慧舟會は『戦極』にはレフェリー、ＤＲＥＡＭには選手やジャッジなどを派遣されてますよね。

國保　まず、『戦極』の成り立ちとしてそもそも企業が前面に立って設立したということと、いままでの格闘技団体やイベントから派生していないということで、へんなしがらみは一切ないんです。ですから、ここと付き合ったらここと付き合えないということも一切ないですし。

―姿勢として全方位外交だ、と。ストレートに申しますと、ファンは二つのイベントの間で引き抜き戦争が始まるんじゃないかという部分に良くも悪くも注目しています。

國保　あえて引き抜き戦争を望んではいませんが、海外でも日本でも新しい魅力的な選手が出てくれば、お互いオファーがかぶってしまう場合は出てくると思います。ただ、それは選ぶ側である選手次第ですよね。選手たちが出たいと思う舞台を我々が作れるかどうか、そこに尽きると思います。嬉しいことに海外から「我々は日本でやりたい、『戦極』でやりたいんだ」というオファーもたくさんもらっていますので、そういう夢の舞台を今後も作り続けなきゃいけないと思います。『戦極』は選手たちに安心してもらうために、母体として企業に株主になってもらって運営をお任せしてるわけですし。

―そういった部分で無茶なことはしないって感じですかね。

國保　法を犯すようなことはいたしません(笑)。上場会社が名を連ねているわけですから、上場基準に抵触するようなことは一切しないと。

―あくまで"公明正大"である、と。では今後、これは本当に夢であり理想かもしれないですけど、一つのイベントを協力して運営するというのもやぶさかではないということですか？


『戦極』の旗揚げ戦に不気味な来場をはたした小川直也。当日はノーコメント。『戦極』参戦となれば、吉田秀彦との再戦、藤田和之との禁断の対決も期待できる。そして何より、『ハッスル』で培った技術を活かして、"マイクの鬼"三崎和雄とのマイク対決、これが一番見たい!?

國保　可能性はあるんじゃないですかね、それが選手にとっていい方法なのかどうかというのもありますし。

――J―ROCKの代表としては、やっぱり吉田道場の選手への思い入れってありますか？

國保　そうですね。でも正直、いまの時点では吉田道場の選手がどうのっていうよりも、多くの選手たちが出る場所を作るっていうのが第一です。逆に私個人が周囲に吉田道場勢に肩入れしてると思われたくないという気持ちがあるので、今回は吉田道場の選手たちはいろんな面でいい思いをしてないかもしれないですね。

――吉田さんのマッチメイクも、國保さんはプロモーターとしての立場、所属事務所としての戦略を同時に考えないといけないわけですよね。

國保　ヘビー級で吉田の対戦候補者っていうのは、ジョシュ以外にもたくさんいたと思いますけどね。吉田にとって総合の舞台を選んだのは、ただ単にお金のためとかいうことではないと思うんです。やっぱり自分が強い選手と闘ってみたいという気持ちであったり、勝つことで柔道界にも恩返しができる、柔道の普及にもつながるっていう強い思いを持っているので。

――今回は吉田選手本人の気持ちも反映したマッチメイクだった、と。

國保　吉田は去年1年間は試合がなかったわけですが、選手生命のことを考えるといま強い選手とやらせてあげなければいつできるんだってことですよね。ですから、そういう意味で何人かの候補の中からジョシュ・バーネットを選んだんです。

――ホジャーという話もありましたけど。

戦極の頭脳、いざ!!

國保　なんかそういう話になっていますよね（苦笑）。

――あ、違うんですか。海外では決定カードとして報道されてましたけど。

國保　う～ん、いつのまにそういう話として伝わってしまったんでしょうね。けど、もともと3月にはホジャーを呼ぶつもりはなかったですから。

――なるほど。しかし、旗揚げ戦を含めてこれまでの一連の流れを見ていると、『戦極』はいい意味で何をしてくるかわからないイメージがあるんですけど（笑）。

國保　基本はリアルな闘いが主役になっていかなきゃいけないなと思っています。演出なども注目されますが、やっぱり一番クローズアップされるべきは選手であり試合だと。

――前日会見の藤田選手とピーター・グラハムの乱闘騒ぎや、当日の小川（直也）選手のリングサイド登場が気になったんですが。結局、小川選手はなぜ姿を見せたんですか？

國保　いやいや、小川さんは観たいということで。

――ああ、単純にそれだけなんですか。

國保　どういう気持ちで来たかはわかんないですけど。こちらが何かを仕掛けたというわけではないですね。

――へえ～。何かをアクションがあるんだろうなと思っていたんですが……。

國保　まあ、それぐらい興味を持ってもらえたということですよね。

――じゃあ『戦極』に小川直也が参戦！みたいなことではないんですか？

國保　まだ具体的な話になってないのでなんとも言えないですが、可能性はあると思います。どこかでそういう話が出てきて、小川選手自体もやる気になれば。あとファンが望むならですよね。そうならば交渉する必要性はあると思います。

――ヘビー級トーナメントの可能性の話もしてましたよね？

國保　いろんな条件が揃わないとできない部分はあると思いますけどね。いま考えられるメンバーとして吉田選手、藤田選手、仮に小川選手が出ることになったら小川選手、それからホジャー・グレイシー、ジョシュ・バーネット……考えるだけでも豪華なメンバーじゃないですか？

――そうですね、それにトーナメントっていうのは見る側からすると一番わかりやすいですよね。

國保　1日2試合になってしまったりするのは非常に酷ですよね。

――ほかにも五味選手、三崎選手とそうそうたるメンツが揃ってますけど、両選手をどうやってプロデュースされていきたいとお考えですか？　たとえば、五味さんの対戦相手とかも。

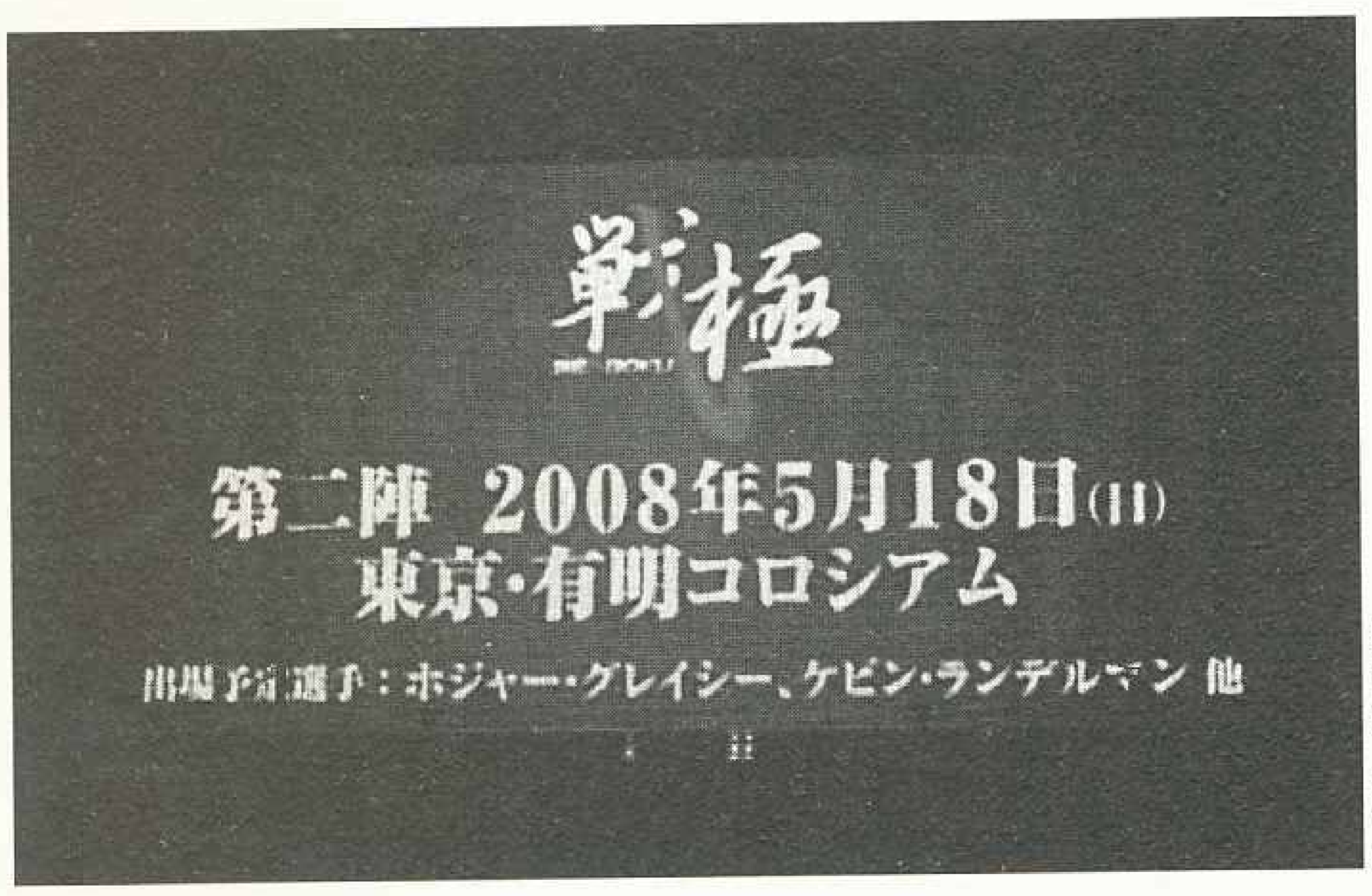
國保　いま名前を出してもですね、おそらくピンとこないと思うんですね。海外にはまだ見ぬ強豪もたくさんいるので、そういう選手もどんどん出していけばストーリーができてくると思うんです。そもそもストーリーは作るというよりも自然に生まれてくるものだという気持ちもあります。五味選手の70キロ級、それから三崎選手の83キロ級は世界にも非常にいい選手がたくさんいるので、これからファンが楽しめるような選手をたくさん連れてきたいと思います。

――選手の招聘でいえば、福田（富昭）会長のルートもありますよね。一部報道ではオリンピックのメダリストの参戦が報じられていますが。

國保　メダリストは強さの実績という点では凄くわかりやすいですが、そうじゃなくてもMMAではまだまだ出てきてない強豪もたくさんいますし。5月と6月の大会ではそういった選手を観ていただいて、五味選手や三崎選手たちとやったらおもしろいなと思ってもらえるようなカードを作っていきたいですね。当然、北京オリンピックというのも視野に入ってきますので、そこから出てくる選手も今後いるだろうと思います。

――わかりました。今後の『戦極』を期待しております！

【08年3月13日／都内某所にて収録】



日本テレビのニュース番組で扱われ、なんとフジテレビの『SRS』でも特集!! すわ地上波獲得!!……と騒いでしまうのはファンの性だが、20日の時点では明確なソースはあきらかにされていない。しかし、何をしてくるかわからないプロモーションだけに、いつでも"ショック死"する準備を忘れてはいけない。戦極、戦極!!

3.15『DREAM.1』いきなり波乱の旗揚げ戦!

DREAMには“闘い”が足りない!





お互いに譲り合っててもしょうがないですから

“闘う”DREAMイベントプロデューサー

笹原圭一

一発目から予想外にも“波乱”の幕開けとなった3.15『DREAM.1』。
青木真也vsJ.Z.カルバン戦のノーコンテスト裁定というおあずけ物件もありながら、
笹原EPによると、今回のイベントはまたべつの部分でもいくつかのズレが生じていたという。
07年大晦日『やれんのか!』に続いて、大連立興行2回目となった今大会。
その“ズレ”とはなんだったのか。また、それを矯正していくための“闘い”とは!?

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／乾晋也

——笹原プロデューサー、昨日はどうもお疲れさまでした！　旗揚げイベントを終えられた感想はいかがですか？

笹原　いやあ、嵐の船出というか、しょっぱなから暴風雨の中に突っ込んで行ったというか……。

——なるほど（笑）。いきなりストレートな質問をしちゃいますけど、旗揚げイベントは成功か失敗だったかでいうと？

笹原　成功か失敗か、ですか？　えー、大会が終わったあとの運営本部の雰囲気は、やっぱり微妙でしたねえ（苦笑）。

——微妙でしたか（笑）。

笹原　誰のせいでもないとはいえ、期待されたメインがアクシデントで消化不良で終わったこともありますし。興行って難しいなあ……（しみじみ）。

——ライト級GPのほかの試合も、膠着気味になってしまいましたね。

笹原　カード的にはああいう雰囲気になるんじゃないかって想定はしてました。トーナメントの一回戦だから選手は多少守りに入る気持ちもあるだろうから、どうしても判定が多くなるだろう、と。

——それは確かにそうですね。

笹原　でも、その空気をミルコが気持ちよくひっくり返してくれて、さらにエディ・アルバレスとアンドレ・ジダがバチバチ激しくやってくれた。その流れでいけば、メインで青木が鮮やかな一本で勝つにせよ、あるいはJZが圧倒的な強さで勝つにせよ、最後の最後で大爆発させられるなってことを、ある程度想定してたんですけど……。

——青木vsカルバン戦はどっちに勝敗が転んでも劇的な結末だったでしょうし。

笹原　そうしたらなんと、そのどっちでもない結末になりましたからね……。

——過去にもなんかああいう大会があったような気がしますねえ。

笹原　一番近いのはヒョードルvsノゲイラの試合ですかね。

——04年のPRIDEヘビー級GP決勝戦。ヒョードルの額のカットで無効試合になってしまった一戦ですね。

笹原　半年かけて盛り上げてきたGPの決勝戦があの結末でしたから。でも、青木vsカルバンはあの試合ともまた違う感じもするんですけど。

——ボクもあのアクシデントから何かが生まれる予感がしてるんですよ。極上の勝負論的カードに、これで青木の人間ドラマも膨らみましたし。次につなげることができるし、つなげないといけない。実際にあの裁定はどうなりそうですか？

笹原　いまはまだ協議中です。いずれにせよ早く結論を出したいなとは思ってます。でも、いろんな判断があると思うんですよね。あの試合自体を不成立にして再戦させるのか、ノーコンテストでJZを勝ち上がらせるのか、あるいは反則勝ちで青木選手が勝ち上がるのか。



「ケジメのイベント」という名目と、チェ・ホンマンや秋山成勲らFEG系の選手が参戦したことで異常なほど熱を生んだ『やれんのか!』。大連立の醍醐味である『HERO'S』系ファイターvsPRIDE系ファイターという構図はまだ熱を高める要素を含んでいるはずである。

FEGさん、TBSさん、それぞれのやり方がある中で、ぶつかる部分って絶対にある

——もしくは両者がそのまま二回戦にコマを進める。もともと一つ枠が空いていますし。

笹原　そうですね。なので、いまレフェリーやジャッジ陣と協議をしてですね、その上で……、なんか、今年の初めにも同じようなことを言っていたような気がしますけど（苦笑）。

——ダハハハハ！　今回のケースは最初からノーコンテストですけど。

笹原　あの瞬間の判断としては、ノーコンテストが正しいと思いますよ。レフェリーの島田さんもよく見ていたと思います。たぶんヘタなレフェリーだと、あのタイミングで止めることはできないですよ。で、僕らが考えるべきことは、その先のことですよね。

——そこでポイントになるのは、ノーコンテストにするか勝敗をつけるかというよりも、ファンをどうスッキリさせるか、ということだと思うんですけど。ただでさえ、年末『やれんのか！』で一度、なくなっているカードですし。

笹原　そうですね。競技的な判断がある一方で、ファンの人たちのモヤモヤした気持ちもあるわけですからね。そこは充分に理解しています。だから、その両方が成り立つかたちで結論を出したいなと思います。どんな結論を出すにせよ、すべてのことにしっかりと向き合って、その判断に責任は負いたいと思ってますし。

——で、今回は準備期間中に苦労された部分も凄く多かったと思うんですが、誤算のようなものはありました？　たとえばカード編成が大会直前までかかったじゃないですか。とくにミルコ選手は直前まで相手が決まらずに、最終的には公募というかたちになりましたけど。

笹原　ミルコ選手に関しては、まあ、ひさびさの日本での試合とはいえ、あれだけの選手ですからね。やっぱりほかの選手も警戒するじゃないですか。

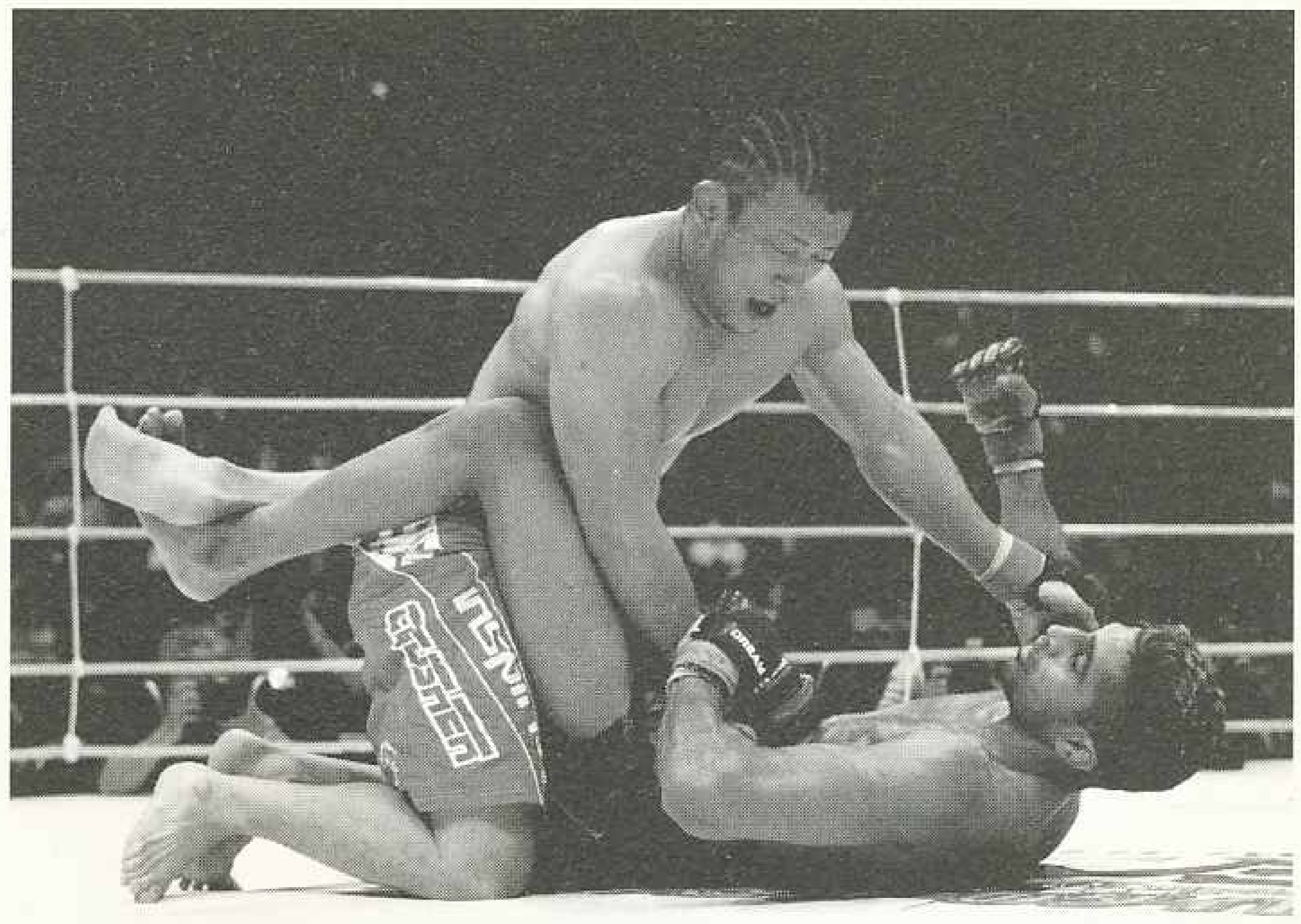
——まったく警戒せずにガードさえしなかったキンターマンは『ハッスル』で失神KOされてましたけどね。

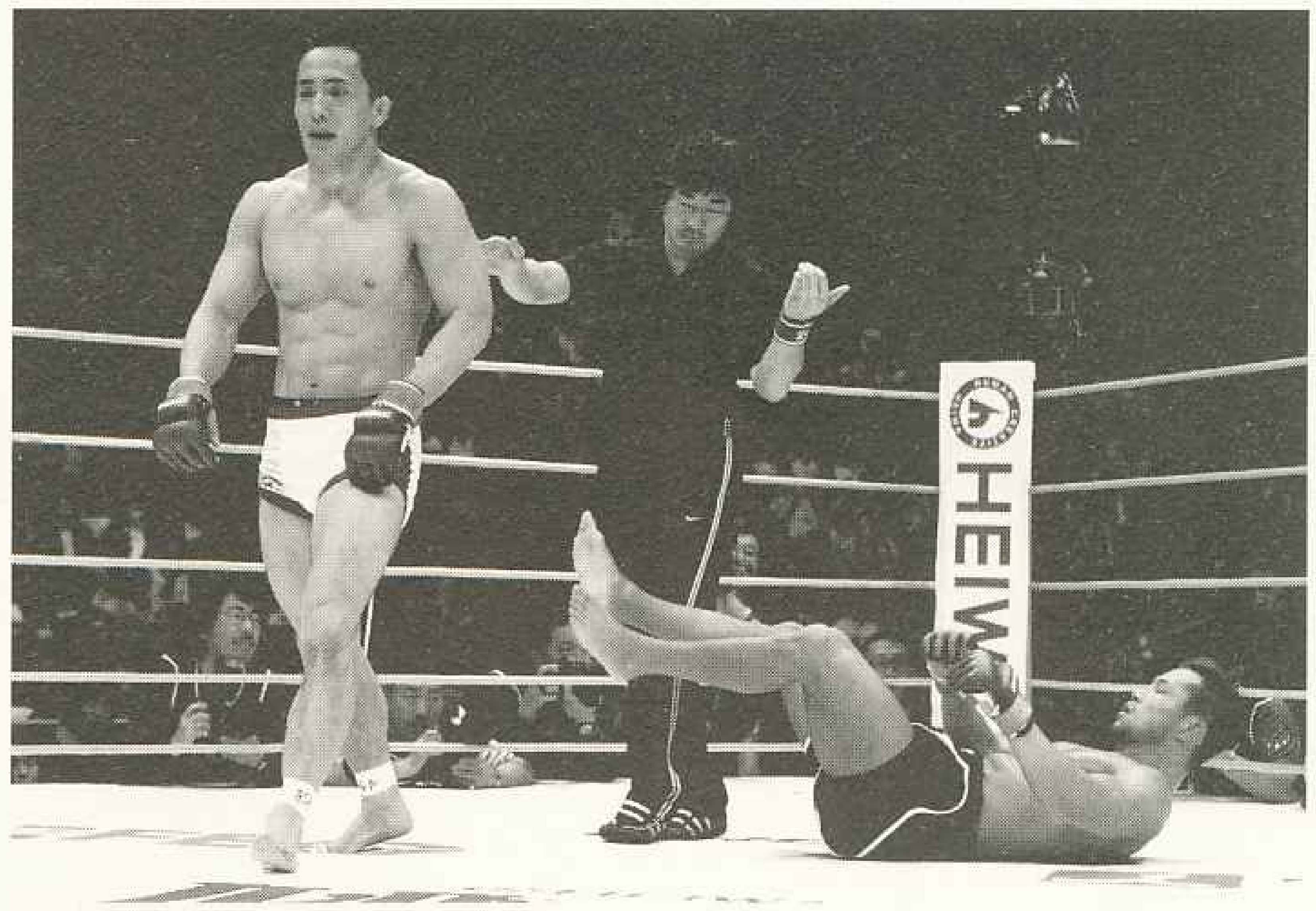
笹原　（無視して）なので、そうこうしているうちにビザの関係で外国人選手を呼べる時間もなくなってしまって、結局公募というかたちになってしまいましたね。そこは反省すべきところだと思ってます。ただ、カード編成含めて、誤算はとくにないんですよ。けど、新しい仕組み、新しいチーム編成でやりましょうってことだったんですが、当然、DREAMチームの僕らには僕らのやり方がありますし、FEGさんやTBSさんにもそれぞれのやり方がある中で、そこはやっぱりぶつかる部分って絶対にあるじゃないですか。もう一つは野球やバレーボールでいう〝お見合い状態〟になったこともあるんですよね。

——「あんた、それ取らないの？」「ああ、ボール落ちちゃった」みたいな。

笹原　まあ、スタートしたばかりの段階でそれはしょうがないんですけど。だから、次回以降はその失敗を生かしていくしかないと思います。そういう意味ではまるっきり計算違いということはなかったです。当然、最初から苦労するだろうなと思って取り組んでましたから。

——ただ、大晦日に開催した『やれんのか！』と比べて、観客の熱や動員が下がってる部分が見えたんです。当然、『やれんのか！』は待ちに待ったイベントであり、





ライト級GP一回戦は「予想以上に守りに入っていたのかも……」という笹原EP。"不器用"ながらも時に会場を大爆発させる川尻、石田らの姿はうまく地上波に乗せたいところではあるが、なかなか難しい!?

〝散会〟の意味合いがあったからこそあそこまでの熱を帯びたわけで、単純に比較はできないとは思うんですけど。

笹原　そうですねえ……。そのあたりは、感覚的な言葉で片づけずに、しっかり分析しなくちゃいけないでしょうね。

——試合内容で言えば、各選手の実力が拮抗してて、競技的な勝負論はあったと思うんですけど、興行的な勝負論があったのは青木vsJZの試合だけだったのかなって。笹原さんとしてはもっと熱が生まれると思ってましたか？

笹原　いや、あんなもんじゃないかなって。

——あんなもんですか（笑）。試合があんまり噛み合わなかったというのはありましたよね。

笹原　マッチメイクというよりも、まあ、思った以上に選手が守りに入りましたよね。それこそ、PRIDE GP2000を思い出しました。「全部判定かよ！」っていうような。でも、たとえば川尻（達也）選手、石田（光洋）選手って僕たちの期待は大きいじゃないですか。

——化けてほしい選手ですよね。

笹原　その二人が地上波に出る中で、こっちは「日本人にもこんな強いヤツがいるんだ」というのを見せつけてほしいと思ってるわけですよ。でも、そういう彼らでも1年間試合をせずに、やっと年末に『やれんのか！』に出ました、と。そして今年は3月、5月、7月と大会が決まってる中で、そこは当然出たいわけですよ。

——負けたら、次の5月にはもう出られない可能性が高いわけですからね。

今年は3月、5月、7月と大会がある中で そこは川尻も石田も当然出たいわけですよ

笹原　そういう中で「ちゃんと勝って、5月も出たい」という気持ちがどこかで働いたんじゃないかなって。もちろん、それはトーナメントという意味でも正しいですし、彼らの気持ちも痛いほど理解できるんですけど。だから、エディなんかは逆に何もなかったぶん、ああいうおもいきった試合ができたと思うんですよ。対戦相手のジダも同じだと思うんです。トーナメントの一回戦はああいうふうになりがちだというのを凄く痛感しましたね。

——今回、マッチメイクがかなり難航したのは、時間がなかったからですか？

笹原　それもありますし、正直やっぱり宇野（薫）選手をはじめ、『HERO'S』を代表する選手がケガで出られなかったというのが大きいですね。先ほどの勝負論、興行論の話でいうと、宇野vs『やれんのか！』の選手というのは、間違いなく熱があるじゃないですか。

——そこのヒリヒリするような意地の張り合いをファンも見たいわけですからね。ただ、その宇野選手が二回戦から登場するかもしれないということに対して、ほかの選手から「納得できない」という声も上がっているようですけど。

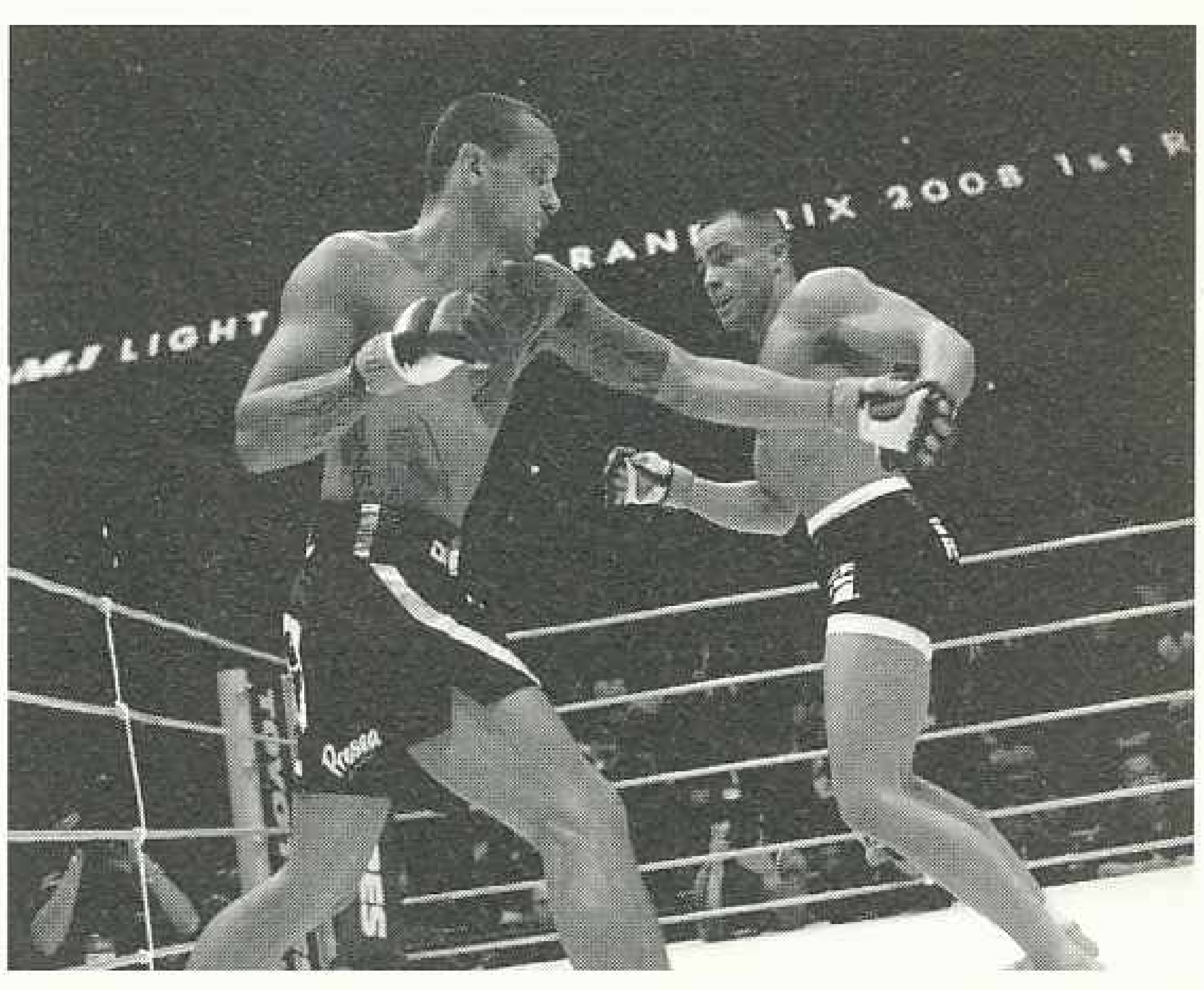
笹原　それは、一回戦を勝ち上がったファイターからすれば、当然の心理だと思います。ただ、そうした思いもリングで爆発させて、熱のある試合に昇華させてほしい、というのがファンの望みなんじゃないですかね。もちろん、プロデュースする我々の腕の見せどころでもあるんですけど。

——ところで、大会終了後の会見での「何か新しいものを作りたい」という笹原さんの言葉に対して、「具体的に新しい価値観とは何か？」という質問がありましたけど。

笹原　具体的な言葉にできないから「新しい価値観」っていう曖昧な言い方をしてるんですけどね（笑）。

——「新しいものを作りたい」というよりも、以前のPRIDEのようなものは、よくも悪くも作れないっていうところはあります？

笹原　いきなりは難しいでしょう。でも、難しいからといって、待ってても何も生まれないですし、「古いものにすがってても、しょうがねぇだろ！」っていう気持ちがあって、そうしたら新しいものを作る



『DREAM.1』で最もヒートアップしたジダvsアルバレス。二回戦、アルバレスにはたとえ永田さんとの対戦でも、そのままのファイトスタイルを貫いてほしいところである。

しかないわけじゃないですか。そういう意味で僕らはああいう言い方をしてるんですけどね。鶏・卵の話になってしまいますけど、DREAMを背負う選手が生まれたときに、新しい価値観が示せるかもしれませんし、DREAMが背負うにふさわしい舞台になれば、新しい価値観を持った選手が生まれるかもしれませんし。こればかりは時間をかけて醸造していくしかないでしょう。

——いまはPRIDEのような舞台を作るための〝ホップ、ステップ〟なわけですよね？　まあ、もの凄く長いステップになるかもしれないですけど（笑）。

笹原　そうですね。いまは、焼け野原に種を蒔いて水をあげてるところですよ。いきなり収穫はできないですからね。

——前号のインタビューでは「我々が魂を売ったかどうか、イベントを見て判断してほしい」って言われてましたけど、そのあたりはどうでしょう？

笹原　ああ、そんなことも言っちゃいましたねえ……（遠くを見つめて）。

——ダハハハハハ！

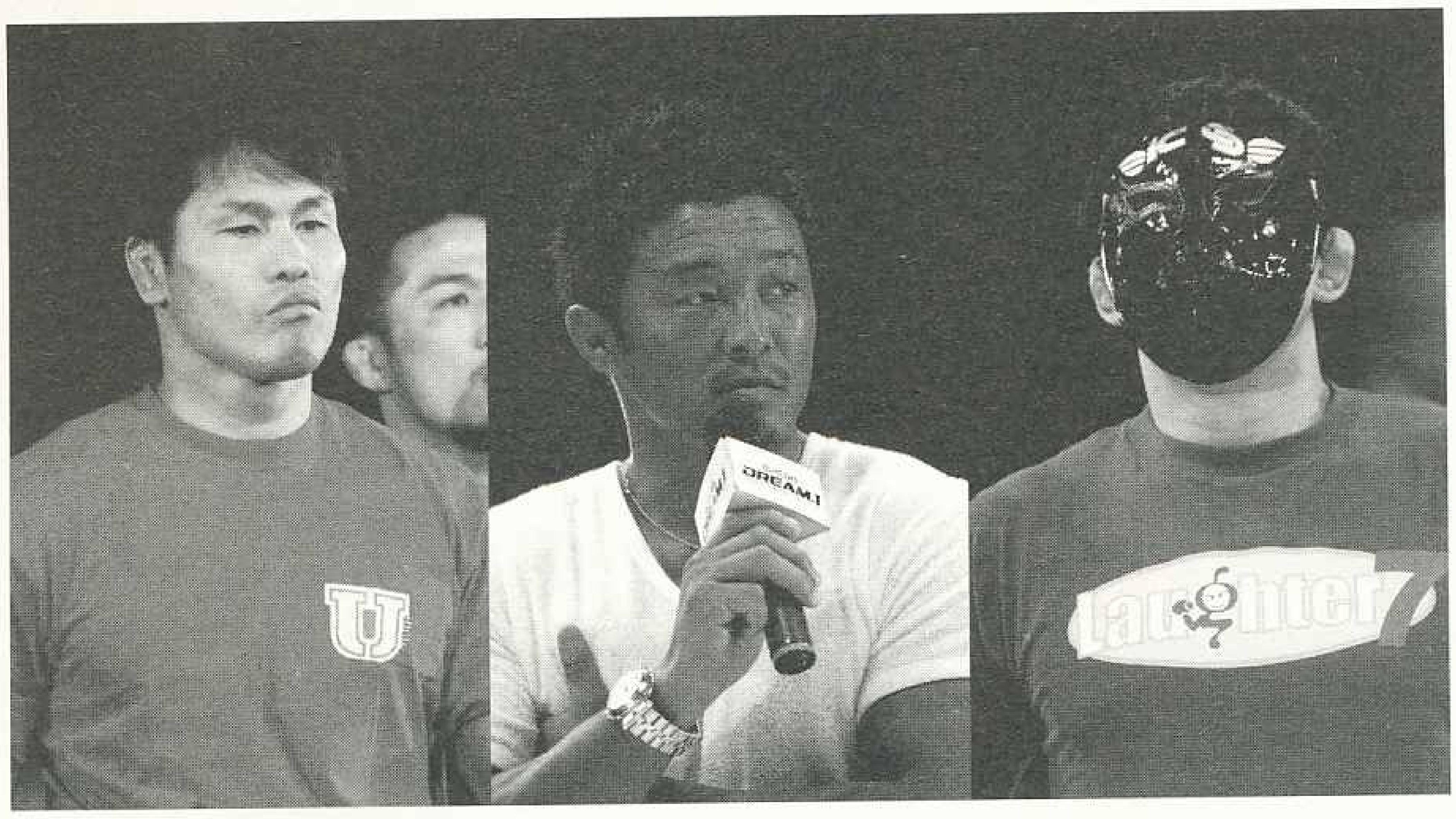
笹原　そこはファンの皆さんが判断するところですが、私たちは魂を売った覚えはありませんし。それ以前に、FEGの人とは一緒にやっててまったく違和感ないし、普通にやりやすいんですよね。だって、お互いずっと格闘技を生業にしてきたわけですから。もちろん、だからこそ微妙な違いみたいなのはあったりするんですけど。

——そのズレの部分でいうと、一番ズレが大きいのかなと思われた煽り映像は、土壇場で凄くよくまとまってましたよね。

笹原　そうですね。いいものを作るために、いろいろ意見を出し合って、ぶつかり合っていけばいいと思います。

——それは、前向きなぶつかり合いと捉えていいんでしょうか？

笹原　もちろんですね。ぶつかり合わないのもおかしいと思いますし、お互い譲り合ってもしょうがないですよね。それはFEGさんも僕たちと同じ意見だと思います。



『DREAM.1』のリング上ではミドル級GP参戦（予定？）選手が紹介された。『やれんのか！』同様、秋山の登場になるとさいたまスーパーアリーナのブーイングは鳴り止まない事態となっているが、秋山をミドル級GPの"主役"として観る目線が、最もファンをワクワクさせることは間違いない。

反省点じゃないですけど、もっと萎縮せずにやんなきゃいけないなって

——さっきの〝お見合い〟の話じゃないですけども、球を落とすぐらいならぶつかれ、と。そういう中で、今回旗揚げ戦が終わって、一番大きな反省点はどういう点でしたか？

笹原　まあ、これは反省点じゃないですけど、もっと萎縮せずにやんなきゃいけないなって思いましたね。FEGさん、TBSさん、スポンサーさんがいるわけで、我々としても当然気を遣ってしまうんですけど、ソフトを作るという意味では、気を遣いすぎるとどうしても無難な道を選んじゃいますから。べつに今回がそうだったというワケじゃなくて、常に心構えとして持っていたいってことですけど。

——さっき言われた、いい意味でのぶつかり合いですね。

笹原　そこは「これが絶対いいんです！」というものを、もっと作り手が責任をもって、萎縮せずに突っ走らないといけないというのはあらためて感じました。その点、『やれんのか！』のときは僕らの中でほぼ完結していたし、僕らは思うようにやれたわけじゃないですか。もちろん、スカパー！さんもいますし、スポンサーさんもいましたけど。

——ファンの中ではTBSやFEGと絡むことによって、笹原さんたちが自由にイベントを作れないんじゃないかという声もあるんですよ。それによって、笹原さんたちが作り上げる世界観の魅力がそぎ落とされるんじゃないか、と。

笹原　いや、そんなことは全然ないですよ！　自分たちの力を発揮できると思ったから、FEGさんと手を組んだわけですし。ただ、新しい価値観を作っていく上で、何かしら障害は出てきますよね。新しい挑戦なわけですから。生きていくだけで何かしらトラブルがあるように（苦笑）。それはもう突き破っていくしかないと思います。

——そういう覚悟がある、と。

笹原　全然ありますよ。それは最初からわかってたことですから。それに、僕らだけじゃ大きなイベントをやれないから、FEGさんやTBSさんと組んで、こういう座組みを作ったわけじゃないですか。だから、その中でさっきのソフトの話じゃないですけど、そこは突き破っていくしかないですよ。

——そこは闘いなわけですね。そういう意味で言うと、昨日は闘いの部分が見えづらかったですね。

笹原　まだ闘いは始まったばかりですから。まあ、初めてのイベントだった中で、さっき言った〝お見合い〟のようなことがたくさんあったので。

——そういう意味で、今回の視聴率（平均で8・9パーセント）って、どういうふうに判断されてますか？

笹原　そうですねえ。まあ土曜日の19時台ですから、かなり苦戦するとは思ってましたが、欲を言えば二桁はほしかったな、というのが正直なところですね。数字が見込めるミルコや、ミノワマン、JZ vs 青木の試合が短かったのもその数字に反映されていると思います。

——その点も苦しい船出にならざるをえない状況になってしまいましたよね。

笹原　まあでも、最初からいい数字を取って、そのままスーッとすんなり進むよりよかったかなって前向きに考えてます。ここから反省点を洗い出してしっかりと取り組んでいけば、数字は上げられると

思っていますから。
――テレビの話で言うと、4月の大会はPPV放送の可能性もあるんですか?
笹原 それに関してはファンの方から「実施してほしい！」という声をいただいているので実現できるように調整しています。できるだけ早くアナウンスできるように動いているので、そこは期待してほしいところですね。
――そうなると、会場だけでなくPPVでも佐藤大輔&立木文彦コンビの煽り映像が観られるわけですもんね。で、その4月の大会ですけど、まずミドル級GPに桜庭さんは出るんでしょうか?
笹原 うーん。昨日のリングでは、「ヒザにかさぶたができた」って、言ってましたけど（笑）。既定路線に乗るのは嫌がる方ですし（笑）。
――ミドル級GPは秋山選手もいるし、とてつもないドラマ性はありますよね。
笹原 秋山選手を中心に、ドラマを構成していくことはこのミドル級GPに欠かせないフォーカスでしょうね。
――田村潔司は出るんでしょうか?
笹原 あそこのリングに立たないという選択肢はないと思いますけどねぇ。田村選手には出てほしいですよね。「秋山とやりたい」って言ってたわけですし。
――トーナメント以外にも魅力的な選手っているじゃないですか。今回でいうとミルコだったり、あとKID選手にしてもそうですし。
笹原 KID選手はいいですよね。
――ただ、毎回デモンストレーション的な試合になってしまうんじゃないかという懸念もあると思うんですよ。ミルコだったらまだ「vsヒョードル」というラインがありますけど、KID選手はそういったものってありますか？ あるいはKID選手を中心に何かが展開されていくというような構想は?
笹原 そうなると、ベルトですよね。たとえばKID選手と誰かが試合をする、もう一方で同じ階級のカードがある、と。そ



サダハルンバをして「天才」と言わしめる山本KIDはどんなかたちでDREAMのリングに上がるのか!? イベントプロデューサーの腕のみせどころである。

田村選手? あそこのリングに立たないという選択肢はないと思います

したら勝ったほうがベルトを懸けて闘うか、もしくは、いきなりKID選手と誰かがベルトを懸けて、初代のチャンピオンを目指して闘うか、そういう方法もありますからね。だから、中心になるのはベルトだと思います。
――それは65キロですか?
笹原 まだ体重をどこで切るかは、決めかねてますけどね。
――KID選手は4月の大会には?
笹原 本人の意向はわからないんですけど、ミドル級の一回戦でKID選手を持ってくるというのもちょっと……。KID選手は間違いなくDREAMの中心になる選手ですし、KID選手だけで興行を打てる選手なので、そこは綿密に考えたいと思ってます。ただ、DREAMに一気に求心力をつけるんであれば、4月に出てもらうという考えもあると思いますね。
――わかりました。あともう一つうかがいたいのは、3・5『戦極』についてなんですけど。
笹原 とくにないですねぇ。
――そうおっしゃらずに（笑）。『戦極』はDREAMをかなり意識した演出をしていましたけど。
笹原 まあ、いまは自分たちのことで精一杯ですから、ほかと比べ合ってもしょうがないですから。
――でも、プロモーションとしては意識せざるをえないということはないんですか？ 「いつまで夢（DREAM）を見ているんだ！」なんてやってましたけど。
笹原 僕らはずっと夢の中にいたいんですけどねえ……（遠くを見つめて）。
――ここ2年近くはずっと悪夢にうなされてきた感もありますけど（笑）。たとえば、ファンにとって一番残念なのは、五味vs青木とか、秋山vs三崎が観られないということがあると思うんですけど、こういうのを実現させる上で、もしかしたら引き抜き合戦が起こるんじゃないかという気もするんですよ。とくに『戦極』は抱えてる選手が少ないですし。
笹原 とはいっても、ケンカしてるわけじゃないんで、ルールがある中で競争できればいいなって思ってますけどね。
――なるほど。でも、DREAM側が『戦極』をまったく意識しないのはどうしてですか?
笹原 うーん。そこは意識してもしょうがないかなって感じがしますけどねぇ。「『戦極』より、ここが勝ってます」とか、そんなところで勝負してもしょうがないですし。そういう意味では、さっき言ってた「新しい価値観」ということになってくると思うんですけど、「『戦極』よりも、ここが勝ってます」というところで何か新しい価値観が生まれてくるとは思えないじゃないですか。いま、僕らが噛みついていく先はもっと大きなものですよね。
――大きなものといいますと?
笹原 たとえばUFC的な世界観に噛みつくんだったらまだわかるというか、新しい価値観が生まれるかもしれないですけど。
――そこはもっと巨大な敵があるわけですからね。
笹原 だから足の引っぱり合いをしてもしょうがないですよ。それよりも、僕らは次に向けて考えをめぐらせていきたいですからね。
――わかりました。では、目指すべき「新しい価値観」の構築に期待しています！
【08年3月16日／都内・某ホテルにて収録】

3.15『DREAM.1』を柱の陰から徹底総括！

サダハルンバ、DREAMに“愛”を見た！



“格闘技評論家”にしてサイコーの“驚き屋”

谷川貞治

サダハルンバ、“愛”に目覚めたり!?
ついに幕を開けた新格闘技イベントDREAM。
かなりひさびさに“聖地”さいたまスーパーアリーナに来場したというサダハルンバは、
そこで“愛”を発見したというのだが……、その心はいかなるものなのか？
『DREAM.1』を総括してもらうとともに、新たな発見についても迫ってみた！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／タイコウクニヨシ　試合写真／乾晋也

谷川 あ、斉藤く〜ん！ 今日もよろし……（と言って、イスに座りかけるがズッコケる）。

——大丈夫ですか、谷川さん！ なんかフラフラしてますよ（笑）。

谷川 んあ〜。なんか昨日からツイてないんだよお（悲しそうに）。

——ツイてないといいますと？

谷川 ほら、昨日の大会、よくなかったからさあ。

——ああ、DREAMのことですか。今日はそのDREAMを〝格闘技評論家〟という立場から語っていただこうと思ってるんですけど。

谷川 あ、格闘技評論家なの？ ウフフフ。じゃあ、ブスカペの技術論とか語ろうか？

——いや、けっこうです（笑）。

谷川 ああ、そう。語りたいなあ、技術論。

——（メニューを見ながら）その前に、谷川さん、飲みものは何を頼まれます？

谷川 イチゴのショートケーキ。

——ダハハハハハハハ！

谷川 おいしいよ〜。（本誌・松下ミワに向かって）キミも食べるよね？

松下 え？ じゃあ、谷川さんと同じものをお願いします……。

谷川 食べるでしょ？ なんかケーキが好きそうな顔をしてるしさあ。

松下 は、はあ。

——ブスカペの技術も語れるし、ケーキ顔についても語れる（笑）。谷川さんにはぜひ実況の技術論を語ってもらいたいですねえ。

谷川 どういうこと？

——いや、昨日のTBSの地上波放送を観て、谷川さんの偉大さを痛感しましたよ！ やっぱり谷川さんのわかりやすいリアクションがないと、実況は盛り上がらないというか。

谷川 う、嬉しいこと言うねぇ……（満面の笑みで）。ボクってホントに貴重なんだから！

——あ、ご自分でも理解してますか（笑）。TK（高阪剛）の解説はわかりやすいし、須藤元気、山本KIDの華がある。実況はいつもの調子なんだけど、何がもの足りないんだろう？ って思ったら、〝笑い屋〟ならぬ〝驚き屋〟がいないんですよね。

谷川 そうそうそう！（身を乗り出して）。この芸はホントね、貴重だよ。高田さんとボクは日本を代表する興奮キングだから！

——あれって演技じゃダメですからね。やっぱり自然に興奮できないといけないですし。



K-1、『HERO'S』では、サダハルンバの「すごい、すごーい！」といった調子の解説が"名物"の一つとなっていたが、今回解説席に座ったのはTK、須藤元気、山本KID、そして井上和香の4名で、"驚き屋"不在の状態に。運営には関わってないとはいえ、サダハルンバにはぜひ解説席に座ってほしい！

ボクが凄く悪いなあと反省しているのは『HERO'S』の選手を出せなかったことなんですよ

谷川 ボクは自然だよ!!（再び身を乗り出して）。でもさあ、昨日はリングサイドで観てたから、「ガマン、ガマン、ガマン！」ってずっと思ってて、「アー！」とか「ウー！」とか一人で言いながら耐えてましたよ。

——たとえば、どういうところで「ガマン、ガマン!!」だったんでしょう？

谷川 たとえば青木vsカルバンの件にしても、やっぱり心配じゃないですか。「どーなってんのかなあ……」って。でも、あそこでボクが出ていっていろいろ言ったりしたら、また〝谷川黒魔術〟とか言われるからさあ。だから、ずーーっとガマンしてたんだよお。

——谷川さんはDREAMの運営に関わってないとはいえ、主催者としてイベント全体はどういうふうに評価してますでしょうか？

谷川 これは大試練ですよ！

——大試練!! 確かに、確かに。

谷川 大晦日の『やれんのか！』には〝いい神様〟が降りて、『DREAM・1』では〝悪い神様〟が降りましたね。イベントって絶対に何かしら神様が降りるんですよ。神が降りないイベントは本当に何もないイベントになるんだけど。だから、昨日はツイてないなあって感じでしたね。

——そのツキのなさはいったい何が原因なんですかね？

谷川 いや、マッチメイクから何から。ただ、ボクがDREAMの人たちに凄く悪いなあと反省しているのは、やっぱり『HERO'S』の選手を出せなかったことなんですよ。だって、なぜ『やれんのか！』が成功したかっていうと、手前味噌じゃないけど、やっぱりFEGから秋山（成勲）くんとかチェ・ホンマンを出したからであって。でも今回は宇野（薫）くんもKIDも所（英男）くんも出せなかった。それはやっぱり申し訳ないなと思ってる。

——それに関しては、裏側に複雑な事情があったりするんですか？

谷川 いやいや、宇野くんは単純にケガですよ。所くんやKIDもやっぱり階級が違うということもあったし、KIDはじつは腰を痛めてるみたいで体調もあんまりよくなかったんですよ。最初は宇野くんは出場できると思ってたし、〝悪い神〟が降りたというのは、「こうなればいいな」と思ってたのが全部裏目に出たってことですね。

——ミルコ・クロコップの対戦相手も難航しましたしね。

谷川 そうだねぇ。本当はK—1ファイターをぶつけて〝恨み〟を晴らそうという姿勢でやれば、〝いい神〟を生んだりするわけなんだけどさぁ。ちょっと間に合わなかったんだよね。

——〝恨み〟を晴らすって、何を考えるんですか！（笑）。でも、ズバリ言って、昨日のカード編成じゃあ、やっぱり神は降りないですよね。

谷川 降りない、降りない。理想の話で言えばさ、セミまで全部『HERO'S』の選手が勝って、メインで青木くんが勝つってことでしょ。ボクはそうなってほしいなって凄く思ってたんだけどね〜。でも、そういう意味では一番勉強になったのはやっぱり会場のお客さんでしたね。

——ほほう。それはどういうことでしょうか？

谷川 ボクってさ、信じてもらえないかもしれないけど、一応プロレスファンだったのね。だけど、こうしてプロレスがなくなったいま、プロレスファンはもういなくなるって思ってたんだよ。

—谷川さん、プロレスはまだありますって。
谷川 （無視して）でも、DREAMの会場でビックリしたのは、プロレスがなくても、ちゃんとプロレスファンの魂を持った人はたくさんいるんだなあ～って。
—谷川さんの思うプロレスファンというのはどういう存在なんですか？
谷川 選手に愛情があって、ジャンルにむちゃくちゃ優しい。
—なるほどプロレスファンだ（笑）。『HERO'S』にはそういうファンはいなかったんですか？
谷川 いたかもしれない。でも、ボクはイベントを作るうえでそこは視界に入れてなかったからね（キッパリ）。
—んあ～！ 毎回"一見さん"に向けて作ってたわけですもんね（笑）。
谷川 でも、昨日の大会を見て思ったのは、視界に入れることもありなんだなって思った。どこでそれを感じたかといえば、川尻（達也）くんや石田（光洋）くんの試合なんですよ。ボクのプロデューサーの視点だと、昨日の大会に出た選手でボクがピンときていたのは、青木（真也）くんだったり、JZだったり、（アンドレ・）ジダやブラックマンバなの。
—彼らはシンプルでわかりやすい個性を持っていますよね。
谷川 でしょ？ そういう選手を使って、イベントを作っていくのがボクのやり方なんですよ。で、逆に石田くんとか川尻くんとかは、そういうわかりやすさは正直、感じられないし、ボクが扱うには不向きな選手なんです。でも、会場ではもの凄く声援が飛んだでしょ。そこにファンの優しさだったり、愛情を感じましたね。
—確かに『やれんのか！』三銃士への声援が凄かったですよね。
谷川 そこはDREAMスタッフのイベントの作り方がうまいからなんだよね。ジャンルに対する愛の作り方というか、その空間にいる選手を磨くことにもの凄く長けている。そこを凄く感じたし、あの優しさや愛は、プロレスファン的な魂がないと持ちようのない深さだもんね。
—完全に思い入れだけで成立している世界。UWFが今日に至るまで熱を持ち続けたように、PRIDEもそうなるかもしれませんよね。
谷川 そうそう！ UWFの選手もあのニオイだけで拍手喝采を浴びていたというかさ。一番勉強になったのはそこなんですよ。だから川尻選手は変わると思うな。川尻選手は三崎選手のイメージと凄くかぶってるんですよ。きっかけがあれば化ける選手だと思う。
—逆に『HERO'S』ファイターの化学反応も期待したいですよね。
谷川 うん！ ブラックマンバとかJZとかをPRIDE流のやり方で磨くことになれば、みんな大好きなファイターになると思うよ。今回はできなかったけど、『HERO'S』の選手をDREAMでそうやって育ててもらいたいよね。秋山くんなんかも凄く磨きがかかると思うし、KIDという天才なんか、どうなるか楽しみだよお。
—じゃあ、テレビソフトとしてはどうですかね？
谷川 そこはね、もの凄く弱いなあと思いましたよ。それに土曜日の7時からの枠自体が厳しい環境だし。だから、二ケタ行けばいいかなって思うんだけど……（平均で8・9パーセント）。ただ、DREAMがターゲットにしているのは7月、9月だからね。そこはゴールデンで流すんですけど、それまでは深夜で放送。その頃にゴールデンで15パーセント以上数字を獲るようなソフトに必ずなっていくと思います。
—今回に限って言えば、テレビ的には、まだ選手の顔が見えるミドル級GPを先にやったほうがよかったんじゃないかなって思ったんですけど。



ミルコや青木らと同様、入場シーンでひと際歓声を浴びていた川尻、石田。一見さんやお茶の間には"わかりにくい"タイプの選手ではあるが、彼らの登場＆試合からくる熱は不思議なくらい高い。まさにこれがサダハルンバもビックリの"愛"なのである!?

プロレスがなくても、プロレスファンの魂を持った人はたくさんいるんだなあ～って

谷川 そうだねえ。それはやっぱり秋山くんとかサクちゃんとかいろんな理由で間に合わなかったんだろうね。結果的に宇野くんも間に合わなかったんだけど。そういう意味では大試練のスタートですよ。でも、イベントというのは練り上げていくものだから、いきなりポッとやっても続くもんじゃないから。だから次回は最悪のところからスタートすればいいと思いますよ。で、練り上げていくにはやっぱり感性が大切なんだけど、DREAMスタッフの人たちはみんな持ってるじゃないですか。だから、そういう部分ではこれからでしょ。
—会場の演出はどうでした？
谷川 えーっと、佐藤大輔はさすがだなと思いました。大輔くんもほかの仕事が忙しくて、思う存分力を発揮してないと思うんだけど。大輔くんのエッセンスがほかのスタッフみんなに影響してましたよね。
—そこはさすがですよね。
谷川 ホントに。ボクはね、イベントに関しては凄く自分の中でハードルが高いんですよ。だから昨日の大会も「こりゃダメだ……」って、かなりめげたんだけど、映像に関してはハードルを低くして見てたからさ、佐藤大輔って凄いなあってあらためて感心した。
—でも、谷川さんが「環境を整備するからやってよ」って大輔さんに言ったわりには、まるで整備されてなかったみたいですよね。
谷川 いや、全部任せてるし、任せるという気持ちはぜんぜん変わってないんだけどなあ～。
—はっは～。要するに、谷川さんが佐藤大輔をダマしたってことですか。

谷川　人聞きの悪いこと言うなあ。ダマしてないってば!!

――でも、そういうふうに見えますよ。

谷川　まあ、実際問題、あとは大輔くんの努力次第でしょ。大輔くんも今回の件で進化すると思うし。

――しかし、あの佐藤大輔度100パーセントの煽り映像は、地上波ではTBSアレンジが加えられてましたし、もう会場限定になっちゃうんですかね?

谷川　あー、これからはPPVをやっていくみたいですよ。それもいま笹原（イベントプロデューサー）くんたちが話してくれてるんで、たぶん次回からはPPVで完全生中継することになると思うけど。

――そこはちゃんと整備していく、と。

谷川　そうですね。いい意味での『HERO'S』側、PRIDE側という感じで対立するところはあってもいいのかなあって思うんですけど、いろいろ調整はありますよ。たとえば、ボクらは気にしてないんですけど、たとえば『HERO'S』の選手がDREAMのスタッフに「自分たちはどういうふうに扱われるんだろう?」という警戒心ってあると思うんですよ。

――それはあるでしょうね。

谷川　逆に言えば、PRIDEのファイターも同じだと思うんですよ。FEGの土壌で自分たちがどうなるのか? って。極端なことを言うと、宇野くんも所くんもDREAMスタッフとはまだ深くは接してないですからね。自分がどうなっていくのかはよくわからないという心配はあるでしょうね。まあ、それはやっていくうちに練り上げられていくと思うんですけど。

――練り上げるというところでは、同じ時期にスタートした『戦極』はどうでしたでしょうか?

谷川　いい選手が揃ってる! だけど、興行っていろんなことがあるからね。もの凄くダメなときもあるし、もの凄くいいときもある。それを理解しながら練り上げてくるものだから、これからじゃないですか、勝負は。

――谷川さんは『戦極』から用意されたリングサイドじゃなくて、二階席



サダハルンバが自信を持ってプッシュするのはビジュアル的にもファイトスタイル的にも非常にわかりやすいタイプの選手。DREAMの演出において『HERO'S』の選手がどう化けていくのかも非常に興味深い。

五味くんは運を強くすれば KIDくんのようにスターになれる選手

で観られてたそうですね。

谷川　上のほうで観てました。

――上のほうで文句を言ってた、と。

谷川　文句なんて言ってない! 言ってな～～い!!

――『戦極』、おもしろかったですか?

谷川　おもしろかったですよ。おもしろかったことはおもしろかった。

――何か刺激になった部分はあります?

谷川　ボクね、生で初めて五味くんと三崎くんの試合を観たんだけど。で、三崎くんは秋山くんとの試合で凄く一皮むけてる感じがしたし、なんか「つらい思いをした」っていうマイクはボクのせいかなあって思いながら観てました。

――あ、その自覚はおありですか（笑）。

谷川　うん。「ああ、ボクに言ってるんだろうな～」って。まあ、そういう意味では三崎くんとキャッチボールができたなあって。

――ビーンボールの間違えじゃ……。

谷川　（ナイスボールを無視して）あと五味くんはいい選手だと思った。思ったけど、なんかいろんな意味で運を強くしたほうがいいと思う。

――へえ～。なんだが意味深ですねえ。

谷川　いやいや、そんなことはないけども、運を強くすればKIDくんのようなスターになれるタイプだよね。『戦極』の中で一番よかったのは五味くん。一皮むけて、いまちゃんとやらないとその後の10年が変わってくるぞというのが三崎くんだよね。

――その後の10年?

谷川　その後の10年を考えるんだったら、三崎くんはこの時期にどんな選択をするかが重要なんじゃない? もしミドル級GPに出たら、もっともっともっとブレイクすると思うんだけどなあ。そのためにボクに謝れというなら喜んで土下座するし。

――ダハハハハ! 五味選手も三崎選手もDREAMに必要だと?

谷川　笹原くんがどう考えてるかはわからないけど、ボク個人の意見を言えば、ほしいですよ。でも絶対に必要だとは思わないよね。これはいつも言ってるんだけど、ボクは〝ボクが最強!!〟だと思ってるから。

――ダハハハハハハハ! よっ、サダハルンバ!!（笑）。

谷川　だから『戦極』が凄いいい玉そろえるんだったら、こっちはまったく無名の玉だけで爆発させてくれ! って思うもん。それこそプロデューサーの腕の見せどころだからね。名前のある人でギャラが高い選手ばっかり揃えなくても、「こんなイベントができるんだ!!」っていう勝負をしていかないとダメでしょ。

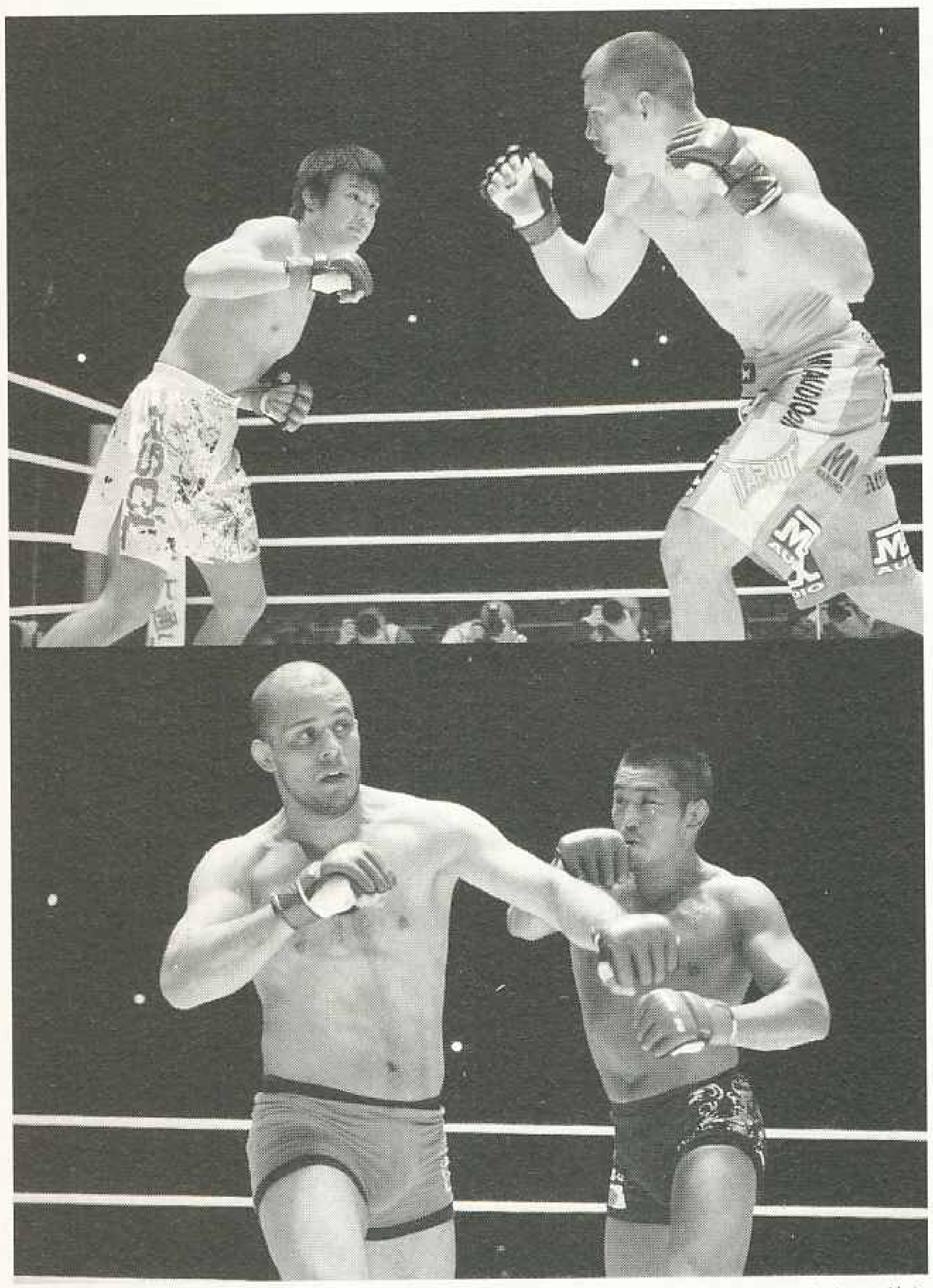
――確かにアメリカのMMAシーンが手のつけられないことになっているときですから。

谷川　そうそう。お金でまともに張り合ったらぜんぜん勝てないよ! それこそジャパニーズ・スタイルじゃないけど、DREAMの人たちはアメリカとは違った何かができますからね。

――それが先ほど言われていた川尻選手や石田選手へ求心力を持たせる行為だったりするんでしょうね。

谷川　それだけじゃないけどね。やっぱりいろんなことをできるじゃないですか。突拍子もないこともできるし、そういうPRIDEの歴史を見てるからそのへんは凄く安心してます。でも、そのへんをできれば3月15日に合わせてやってほしか

ったなあって。
——んあ〜。
谷川　それはまあFEGの責任でもありますからね。
——じゃあ、『戦極』さんと選手の争奪戦に陥る可能性はないんですかね。
谷川　どうなんだろうねぇ。でも、現実問題ね、もうそこで目くじら立てることはないと思うんですよ、DREAMは。ボクはもうとっくに飽きました。
——飽きたって（笑）。
谷川　PRIDEとK−1の頃はね、まだよかったんですよ。極端なことを言えば、世界の有力なプロモーションってこの二つしかなかったわけだから。でも、いまはそうじゃないし、どんどんいい選手を引っぱってくれば成立するって考えてるとビジネス的にもすぐに破綻する。まず土台を練り上げることが凄く大切ですよ。イベントもそうだし、試合内容もそうだし、どんどん作り上げていかないと。
——とはいっても、選手を無視するということもないんですよね？
谷川　それはもちろん！　だけど、選手に言いたいのは、自分の人生を考えた選び方をしないといけないよって。それが、DREAMだったり、『戦極』だったり、K−1であったり、どこでも選んでいいと思うんですよ。たとえばさ、斉藤くんが『格通』や『GONKAKU』に移籍したり、仕事をするかといったらしないでしょ？
——そうですねぇ。さすがに自分が「対決。」という感じの表紙を作ってるところは想像できないですね。
谷川　ボクの場合はね、いま他団体にお金を2倍出されて行くかっていうと、行かないんですよね。それはFEGでやっていったほうがボクが鍛えられると思うから。でも、それが永遠かっていったらそうじゃないかもしれない。違う道に行く可能性だってあるんだけど、選手には自分の志をちゃんと持って、闘うリングを選んでほしいんですよね。
——要するに、そのシチュエーションに演者としてハマるかどうかを考えてほしいってことですね。
谷川　そうそう。たとえばKIDくんなんか、いまは絶対にDREAMを選ぶ状況じゃないでしょ。
——確かに選ぶ理由はあまり見えないですよね。
谷川　けど、KIDはちゃんと考えてるんですよ、自分がどうしたら輝くかって。その感性がね、凄く重要だなって感じがしますよね。ミルコなんかもちゃんと選んでる。だから、K−1からPRIDEに行った選択というのはボクにとっては凄く悔しいけど、いまとなっては間違ってないと思う。ボクにとっては凄く悔しいですよ。いまでも恨みを晴らしたいからさぁ。あ〜、なんだか、いろいろ思い出してきたぞぉ!!（怒）。
——ダハハハハハハ！
谷川　それはともかくさ、ファイターの運命って最終的にはそこの決断だよ。どんなに強くたって、志がもの凄く中途半端な人は絶対に大成しないですね。
——そういう意味では、宇野（薫）選手はどうなんですか？
谷川　宇野くんはなんか誤解されてるみたいだけど、最初からDREAMに対して迷いはないですね。『戦極』に出るんじゃないかとか、噂になってましたけど。みんなにそう言われてて困ってるから「発言させてくれ」ってことで、前日会見のときに「ギリギリまで調整したんですけど、難しいということでした」とコメントしたんですよ。



『戦極』でサダハルンバの目に留ったのがこの二人。"輝ける"10年を手に入れるために、彼らはきっと素敵な道を選択していくに違いない……!?

どんなに強くたって志がもの凄く中途半端な人は絶対に大成しないですね

——そういうことだったんですか。凄く不思議なタイミングだなあとは思ってたんですけど。
谷川　宇野くんと実際にしゃべってる人間からすると迷いは感じないですね。
——谷川さんからすると、ライト級GPのシードは宇野選手にすべきだと思いますか？
谷川　DREAMはどう考えてるんだろうねぇ。でも、もっと重要なのは、青木くんのアクシデントをどうするかでしょ。これはやり方次第では大チャンスにつなげられる感じはするんですよ。ミドル級はサクちゃん、秋山くんとかメンツが揃ってるから安心はしてるんだけど、ライト級は青木くんとJZをどうするかでしょうね。成功するように柱の陰で見守ってますよ〜。
——わかりました！　で、最後の質問なんですが、DREAMでは珍しい方と再会されましたけど……。
谷川　（ターザン）山本さんでしょ？　そう、なんか彼女を紹介されたんですよ。
——DREAMに夢香さん、現われる、ですよね（笑）。
谷川　「谷川！　これ、彼女」って。名前言わずに、歳を言われたんでよ。「34歳！」って。
——ダハハハハハ！　年齢に注目してくれ！　と（笑）。
谷川　「今度、彼女とメシ食おう！」だって。これって、おごれってことだなあ。あぁ、またツキが逃げちゃうよ〜！
——黒魔術よ、安らかに（笑）。

【08年3月16日／都内・ホテルにて収録】

<RADICAL 特選劇場>

マット界のキーマンから、いまこそ成り上がりの秘訣と軌跡を読み取れ!



no.87「大仁田&笹原対談」



no.35「大仁田厚インタビュー」

●現在、笹原圭一氏はDREAMイベントプロデューサー、50歳の大仁田厚はマット界に復帰して新たな“邪道劇場”を展開中! 本誌No.87では、当時参議院議員の大仁田と、当時PRIDE広報&ハッスルGMの笹原氏との異色対談が実現していた! 当時の大仁田が「俺が50歳になるまで『ハッスル』が続いていたら、曙、サップと電流爆破を組んでくれ!」と、意外な提案をするなど、いま読めば驚きの連続!

●本誌No.35では、当時の街頭500人アンケートで、知名度ナンバーワンに選ばれた大仁田厚を直撃。大学受験挑戦がワイドショーに取り上げられたり、数ヵ月後には、参議院議員選挙に当選してしまう旬の男の言葉には、成り上がりの秘訣が満載!

当時・『ハッスル』GM 現・DREAMイベントプロデューサー 笹原圭一と 当時・国会議員 現・邪道パフォーマー 大仁田厚の 人生ひきこもごも対談は RADICALで読める!!



夢の続きが見たいん邪ッ!!

注 No.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。 http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

販売元 (株)ダブルクロス 平日 13:00~19:00

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERは すべて50%OFF

特集 神秘とは何か?
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード 清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰? 山口日昇試錬のインディ・レスラー10番勝負!/K－1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL BACK NUMBER no.16~87

格闘ノストラダムス!
no.16 780yen '99.03
[表紙:エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!/引退後初! 前田日明インタビュー/石川孝司

“新”プロレスとは何か?
no.32 840yen '00.10
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34 840yen '01.01
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ボブ&オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35 840yen '01.02
[表紙:サクマシン(イラスト)] ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840yen '01.02
[表紙:橋本真也(イラスト)] ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か?
no.38 840yen '01.05
[表紙:髙田延彦(イラスト)] 忘れ物の正体は。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39 840yen '01.06
[表紙:前田日明] 前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40 880yen '01.07
[表紙:アントニオ猪木] 蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

“最後の黒船”WWF来襲!!
no.41 880yen '01.08
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42 880yen '01.09
[表紙:アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/“ヒャッホーの真実”辻よしなり/高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880yen '01.10
[表紙:桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880yen '01.11
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45 880yen '01.12
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)] 悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46 880yen '02.01
[表紙:田村潔司] さらばリングス! 金原×和田、浅草キッド/ならず者DEEPで勝利! エル・カネック/キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 880yen '02.02
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] “天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

桜庭、満開の日は近い!
no.48 880yen '02.03
[表紙:桜庭和志] 奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 880yen '02.04
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田/菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880yen '02.05
[表紙:桜庭和志] 「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880yen '02.06
[表紙:橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880yen '02.07
[表紙:橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53 880yen '02.08
[表紙:桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久/独占肉弾スクープ! マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54 880yen '02.08
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] “首の皮一枚” ホイス&エリオグレイシー/ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55 880yen '02.10
[表紙:髙田延彦] 「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!/金原が『PRIDE』参戦!/メガトン級の男、ボブ・サップ!

驚ガクの6周年記念号
no.57 840yen '02.11
[表紙:高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる“U”が始動!! 田村/ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58 880yen '03.01
[表紙:武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×髙阪/宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880yen '03.02
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60 880yen '03.03
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 880yen '03.04
[表紙:橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62 880yen '03.05
[表紙:ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場! 佐々木健介/現役復帰? 船木誠勝/ヒョードルが藤田を一刀両断!

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880yen '03.06
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)] 「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900yen '03.07
[表紙:桜庭和志] “異次元格闘技戦” 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65 880yen '03.08
[表紙:ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上! ヒョードル/ミルコついに皇帝戦へ/闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66 880yen '03.09
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー/マッハを破った男、長南亮登場!/『東スポとは何か?』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880yen '03.10
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880yen '03.11
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69 900yen '03.12
[表紙:橋本&小川] 出てこい! 泣き虫! 橋本&小川/『泣き虫』著者、金子達仁登場!/田村潔司/美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70 880yen '04.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告!/健介&北斗WJの真実を語る!/紙プロ大賞&語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71 880yen '04.02
[表紙:ハッスルイラスト] 『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/川田利明初登場!/猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72 840yen '04.03
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880yen '04.04
[表紙:小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880yen '04.05
[表紙:小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880yen '04.06
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 880yen '04.07
[表紙:桜庭和志] 小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880yen '04.08
[表紙:小川直也] 「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840yen '04.09
[表紙:小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79 840yen '04.09
[表紙:髙田総統] キャプテンに休息無し! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80 880yen '04.10
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー/ハッスルお家騒動、小川直也/「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880yen '04.10
[表紙:桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/草野仁

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83 880yen '05.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括/05年ハッスル大進撃発表! 小川直也/橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880yen '05.02
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ] “殺人落下傘”が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85 860yen '05.04
[表紙:前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、高田/パンクラス2大王者対談 髙坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 860yen '05.04
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 860yen '05.05
[表紙:吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝×宇野薫/金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
! 『kamipro Hand』で注文 ” 電話注文 03-5368-1797 # メール注文 kapra@kamipro.com

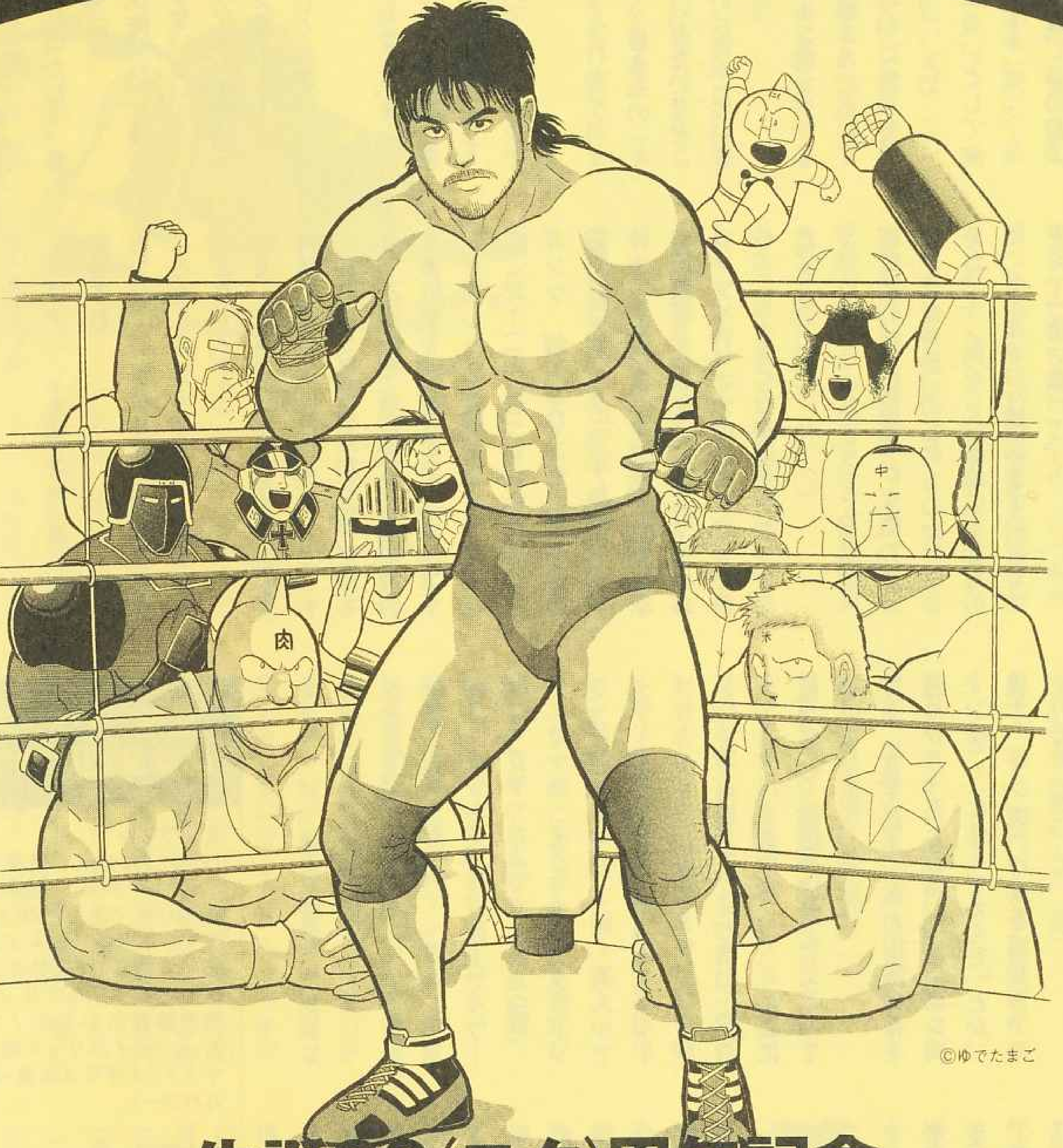
※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。 ※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。



Go! Go! Muscle!!

ミノワマン参戦!!

ダメな30代に大好評!
変態座談会シリーズ特別編!



©ゆでたまご

生誕29(ニク)周年記念
僕たちが大好きな

キン肉マン

変態座談会

『週刊少年ジャンプ』で連載されていたプロレス格闘漫画の金字塔『キン肉マン』が、今年記念すべき29（ニク）周年を迎えた。それを祝してマット界に生息する『キン肉マン』フリーク4名が一堂に会し、おおいにその変態的な愛情をブチまける！ ♪あぁ心に〜愛がな〜ければ〜、変態〜座談会じゃ〜ないのさ〜♪ ってことで、30代の大きなお友だちは、女房を質に入れてでも読まんとあきまへんで！(アデランスの中野さん調)



撮影／乾晋也

園芸用の熊手を手の甲にガムテで止めて自作のベアクローとか作ってたよ！（井上）

ガンツ　本日は『キン肉マン』生誕29周年企画を記念して、変態的『キン肉マン』ファンの皆さんにお集まりいただきました！

井上　これは、いつもやってるUWF変態座談会シリーズの一環なの？

ガンツ　そうですね。ダメな30代はUWFも『キン肉マン』もどっちも好きだろうってことで（笑）。

橋本　大ざっぱな切り口だねぇ。事実なのが悔しいけど（笑）。

ガンツ　そして『キン肉マン』を語るには、この人が欠かせないということで、今日はスペシャルゲストをお迎えしました。ミノワマン選手です！

ミノワマン　よろしくお願いします。

ガンツ　今日は、ひたすら『キン肉マン』だけの話をしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

ミノワマン　大丈夫です。いつまででもできます。

ガンツ　無限にしゃべれちゃいますか（笑）。ではまず、皆さんの『キン肉マン』との出会いみたいなところからうかがっていこうと思いますけど。

ミノワマン　僕が『キン肉マン』を初めて見たのが、床屋さんにおいてあった『少年ジャンプ』に載ってたのを見たときですね。

橋本　マンガとの出会いとして床屋と歯医者は重要ですよ（笑）。

ミノワマン　その頃は、「夢の超人タッグ編」が始まってて、単行本が17巻。アニメを初めて見たのはテンドンが出たときですね。

ガンツ　テンドン？　そんなのいましたっけ？

橋本　それは初期のヒーローパロディーの頃だよね。キン肉マンに捨てられた天丼の逆襲の話で。

井上　「俺は牛丼しか食わねえ」「天丼だって食ってみりゃうまいんだぞ」みたいな。

ミノワマン　そうですね、あれが最初ですね。

ガンツ　いきなりマニアックなところからスタート（笑）。井上さんはどうですか？

井上　俺は出会いというか、小学生時代の思い出はキン肉マンとともにあるような感じだからね。だってさ、大学受験で東京に来て山手線の有楽町駅を通ったとき、「ウルフマンが押した新幹線が止まったのはここか！」って思ったからね。

ガンツ　**超人オリンピック予選の「新幹線アタック」**ですね（笑）。

井上　あのとき、東京駅と有楽町駅の距離感が初めてわかったよ。ウルフマンは、バナナの皮ですべったから、ここまでしか飛ばせなかったんだ、とか。

ミノワマン　自分も子どもの頃は、新幹線の駅の距離感が全然わかんなかったから、のちのちわかりましたね。キン肉マンは新横浜までなのに、タイルマンは博多まで飛ばしてたんで、凄いなって。

ガンツ　大人になって初めてタイルマンの凄さがわかりましたか（笑）。

ミノワマン　あと自分は、ロンドンに行ったとき本物のタワーブリッジを見て、「ここか……」って、凄く感動しましたね。

井上　タワーブリッジの上でタワーブリッジやったんですよね？（笑）。

ミノワマン　そうですね。タワーブリッジがガチャって開く真ん中でタワーブリッジやって、あとタワーブリッジをバックにタワーブリッジして写真撮って。あと橋の上からテームズ川を見下ろして、「**ここにビッグ・ザ・武道がいたんだな**」って思いましたね。

井上　さすが！　あと田園調布を通りかかったときも「ああ、キン肉マンはここに住んでたんだ」とか。

橋本　キン肉ハウスを探しちゃったりして（笑）。

ガンツ　だいたい僕らは『キン肉マン』とプロレスで地名を覚えたクチですよね。アマリロとか（笑）。

井上　そうそう、セントルイス、ミネアポリスとかね。

ガンツ　伝説の「超人オリンピック」Bブロック1回戦が行なわれた甲子園球場のラッキーゾーンが撤廃されたときも、ちょっと寂しい気持ちになったり（笑）。あと『キン肉マン』はプロレスごっこにかなり影響を与えたと思うんですけど。

ミノワマン　かなり影響を受けました。

橋本　ミノワさんの場合、プロレスごっこだけじゃなくて、総合の試合でも『キン肉マン』の影響が見えますからね（笑）。

ミノワマン　やっぱり自分にとっての教科書というか。子どもの頃は、『キン肉マン』とそのときのプロレスをダブらせたプロレスごっこをやってましたね。

井上　ウォーズマンのベアクローとか作ったよね？

ミノワマン　やりましたね。

ガンツ　自作のベアクロー（笑）。

井上　砂遊びする園芸用の熊手を手の甲にガムテで止めるんだよ。いま思うと、超あぶねーよな。あのティーパックマンの胸を貫いたたベアクローみたいなの作ってたから。

ガンツ　ベアクローを自作してるぐらいですから、友だち相手のパロ・スペシャルは皆さんもちろん経験済みですよね。

橋本　やったね〜。キン肉バスターも無理矢理、相手の協力でやって。

ミノワマン　自分は兄貴とよくキン肉マンごっこをやってたんですけど、パロ・スペシャルを原作と同じように潰れた状態でやられて、ホントに動けないんですよ。ずっと「アーッ！」とか言ってるのに、親もいなかったんで誰も助けてくれなくて。原作と同じような感覚を凄く感じましたね。

ガンツ　やっぱりパロ・スペシャルは脱出不可能だ、と。

ミノワマン　だから、あそこから立ち上がったキン肉マンは、ホントに凄いんだなって、わかりましたね。

ガンツ　『キン肉マン』に出てくるパロ・スペシャルって、実在のプロ

“変態”シリーズ特別編『キン肉マン』座談会出席者プロフィール

ミノワマン



1976年1月12日、岐阜県出身。97年にプロデビュー後、PRIDEやHERO'S、そしてDREAMなどで活躍する本能のリアルプロレスラー。06年大晦日の「男祭り」より、超人への憧れもあってリングネームを美濃輪育久からミノワマンに改名。フェイバリット超人はロビンマスク（イギリス出身・超人強度95万パワー）。

井上崇宏



幼少期を“猪木、キョンキョン、キン肉マン”ですごしたペールワンズの総帥。『キン肉マン』のDVDを子どもに与えたところ見事にハマって、親子二代にわたるファンとなったことに嬉しさを隠せない良き父親でもある。フェイバリット超人はザ・ニンジャ（日本出身・360万パワー）。

橋本宗洋



日本最重量級ライターであり、いま話題沸騰中の「DEEPメガトンGP」の実行委員も務める。以前にムック本の企画で、作者のゆでたまご先生の仕事場に美濃輪育久時代のミノワマンと一緒に潜入取材をした経験あり。フェイバリット超人はウォーズマン（旧ソ連出身・100万パワー）。

堀江ガンツ



本誌編集部。少年時代はゆでたまご先生にアシュラマンイラスト入りファンレターを送り、もちろん「超人募集」にも応募。ついでに『ジャンプ放送局』にも複数の掲載経験がある変態座談会主宰者。フェイバリット超人はアシュラマン（魔界出身・超人強度1000万パワー）。

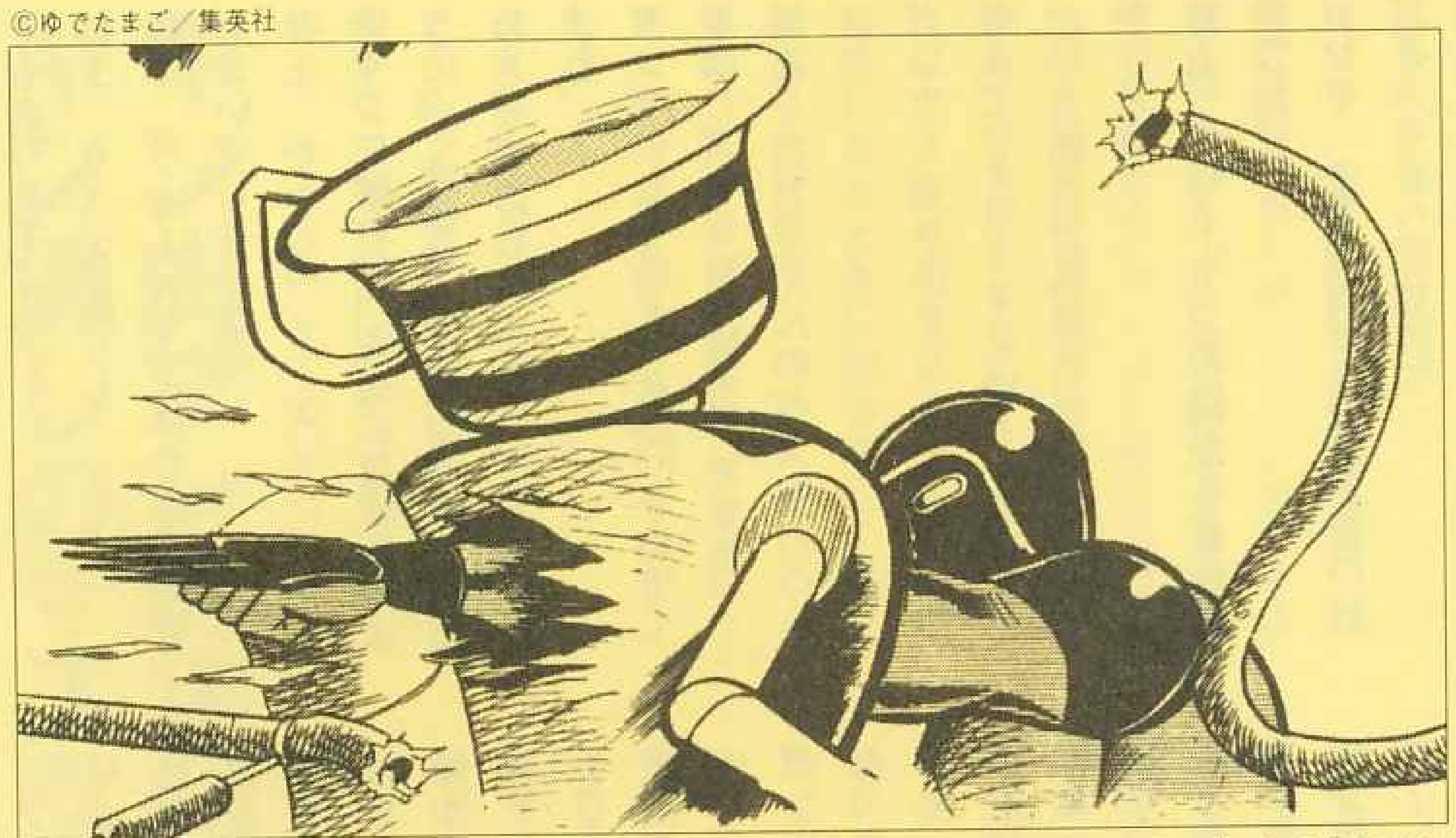


kamipro Hand 人気連載『kamipro事件簿』スペシャル出張板

レスラーであるジャッキー・パロが使うパロ・スペシャルとは違うんですよね。
橋本　そうそう、身体の向きが逆なんだよね。
ガンツ　実在するパロ・スペシャルは、『キン肉マンⅡ世』でケビンマスクが使う技なんですよね。あの技なんていうんでしたっけ？　……あとで調べよう。
井上　ウォーズマンといえば、コンピュータ超人なのに、はじめ試合前に控室でヒゲ剃ってたよね（笑）。
ガンツ　マスク取ったあとにヒゲはないんですよね（笑）。
井上　そうそう。『キン肉マン』は、とにかく行き当たりばったりなところが好きなんだよなあ（笑）。
橋本　でもね、ゆでたまご先生はインタビューで、「超人が出始めのときは、わざとキャラを固めない」って言ってましたよ。
井上　っていうか、いまでも一週ごとのネタしか考えないって聞いた。辻褄合わせる気がさらさらないって。
橋本　だから闘ってても、どっちが勝つか（原作の）嶋田先生自身がわからないんですよ。あと（作画の）中井先生が描いたラーメンマンを「意外にいい顔だな」って思ったら活躍させるとか、そういうのがあるんで、最初は固めないって。
井上　ゆでたまご先生の話でいうと、『キン肉マン』を小学生のときから描いてるんだよね。それが何より凄いよ。だから『キン肉マン』って表記も「筋肉」の「筋」の字が書けないから『キン肉マン』になったんだよね。
ガンツ　なるほど！　じゃあ生誕29周年どころじゃないですよね。
井上　本当は37年になるって言ってたよ。
ガンツ　凄いですねえ！　そして小学生時代からいまに至っても合作してるんですよね？
橋本　だからあのコンビ別れのしなさも凄いよ。
ガンツ　まさに友情パワーで結ばれてるというか（笑）。
ミノワマン　（突然）あの……さっきのオラップですよ。
ガンツ　は？　なんですか？
ミノワマン　さっき言ってた、ケビンマスクの技の名前を思い出したんですよ。ＯＬＡＰ（オラップ）です。
井上　しばらく静かだと思ったら、それを考えてたんだ（笑）。
ミノワマン　はい、ずっと気になってたんで。
井上　さすが、韓国に練習に行ったとき、現地の選手にパロ・スペシャルをかけた男だね（笑）。
橋本　ロビンの息子、ケビンマスクにＯＬＡＰを伝授したウォーズマンのごとく（笑）。そういえば、ロビンマスクって超人オリンピックのイギリス代表なんだけど、出身はロビン星なんだよね。
ガンツ　例によって途中で設定が変わっちゃったんでしょうね（笑）。
井上　そういえばそうだな。
橋本　まあ、キン肉マンもキン肉星出身で日本代表だから、いいのかもしれないけどね。
ガンツ　だけど各超人の出身国っておもしろいですよね。ウォッチマンがスイス、キューブマンがハンガリーはわかるけど、ベンキマンは古代インカ帝国代表ですからね。古代ってなんだっていう（笑）。
井上　ホントだ！　そんなの、気にしたことなかったよ。
橋本　もしかしたら古代インカ帝国ではすでに水洗トイレがあったっていう、あのネタなのかもね、わかんないけど。
ガンツ　ああ、なるほど。ホントにそうかもしれない。
井上　『ハッスル』なんかの行き当たりばったり感も、ある意味『キン肉マン』にならっているのかもしれないね。
橋本　あれはホントに『ハッスル』のご当地モンスターの元祖みたいな部分がありますよ。
ガンツ　でも、イタリア代表がカニベースっていうのはどうかと思いますよ。パンクラチオン発祥の地を代表する超人が、あんなに弱くていいのかという（笑）。
橋本　**ジャンケンで予選落ち**だからね（笑）。

超人による名勝負の数々 変態が選ぶベストバウト

ガンツ　では、皆さんが考える『キン肉マン』ベストバウトでも聞いてみましょうか。
井上　ベストバウトといえば、いままさに『キン肉マン映画祭』で「ファンが選ぶベストバウト」ってやってるけどさ。やっぱり俺もそこで1位になったキン肉マン vs ウォーズマンだな。
ガンツ　「超人オリンピック ザ・ビッグ・ファイト」の決勝ですね。
橋本　俺はキン肉マン vs バッファローマンですね。
ガンツ　ミノワマン選手は『キン肉マン映画祭』でゲスト出演した際、「夢の超人タッグ編」の超人師弟コンビ（ロビンマスク&ウォーズマン） vs ヘル・ミッショネルズ（ネプチューンマン&ビッグ・ザ・武道）を挙げてたんですよね？
ミノワマン　ホントのベストバウトは別にあったんですけど、あの場ではあえて、そっちを出したんですよ。
井上　なんでですか？
ミノワマン　ベストバウトというより、"ベスト瞬間"を発表したかったんですよね。それがヘル・ミッショネルズのクロスボンバーで、ロビンマスクのマスクが剥がされたときだったんです。
ガンツ　その瞬間こそ、『キン肉マン』のベストだ、と。
ミノワマン　そうですね。原作のほうは影になってたり血まみれになってて（ロビンの）顔がよく見えないんですけど、アニメ版では一瞬だけ顔が映るんですよ。その一瞬を見るために、ビデオを何回も何回も巻き戻しして、一時停止したりして見てましたね。
ガンツ　パンチラシーンのコマ送り的な（笑）。
井上　ミノワマン選手、僕は本当にあなたのことが大好きです（笑）。
ミノワマン　あれは歴史的瞬間ですね。ただ、自分の中の本当のベストバウトってなると、キン肉マン vs キン肉マンスーパー・フェニックス戦ですね。あの完璧にマッスル・スパークが決まった瞬間とか、最後の流れまでが凄くよくて。
井上　ちなみに俺のベストバウトはキン肉マン vs ウォーズマンって言ったけど、なんかミノワマン vs 秋山成勲っていうのが、俺の中でのキン肉マン vs ウォーズマンのイメージなんだよ。
ガンツ　リアル「キン肉マン vs ウォーズマン」。
橋本　いやあ、秋山成勲は悪魔将軍でしょう。秋山本人が悪魔将軍のファンで、ゆでたまご先生に会って色紙もらったときに悪魔将軍のイラストを頼んだらしいから（笑）。
ガンツ　やっぱり究極の悪に憧れるんですかね（笑）。ただ、秋山は残虐超人時代の初期ウォーズマン的



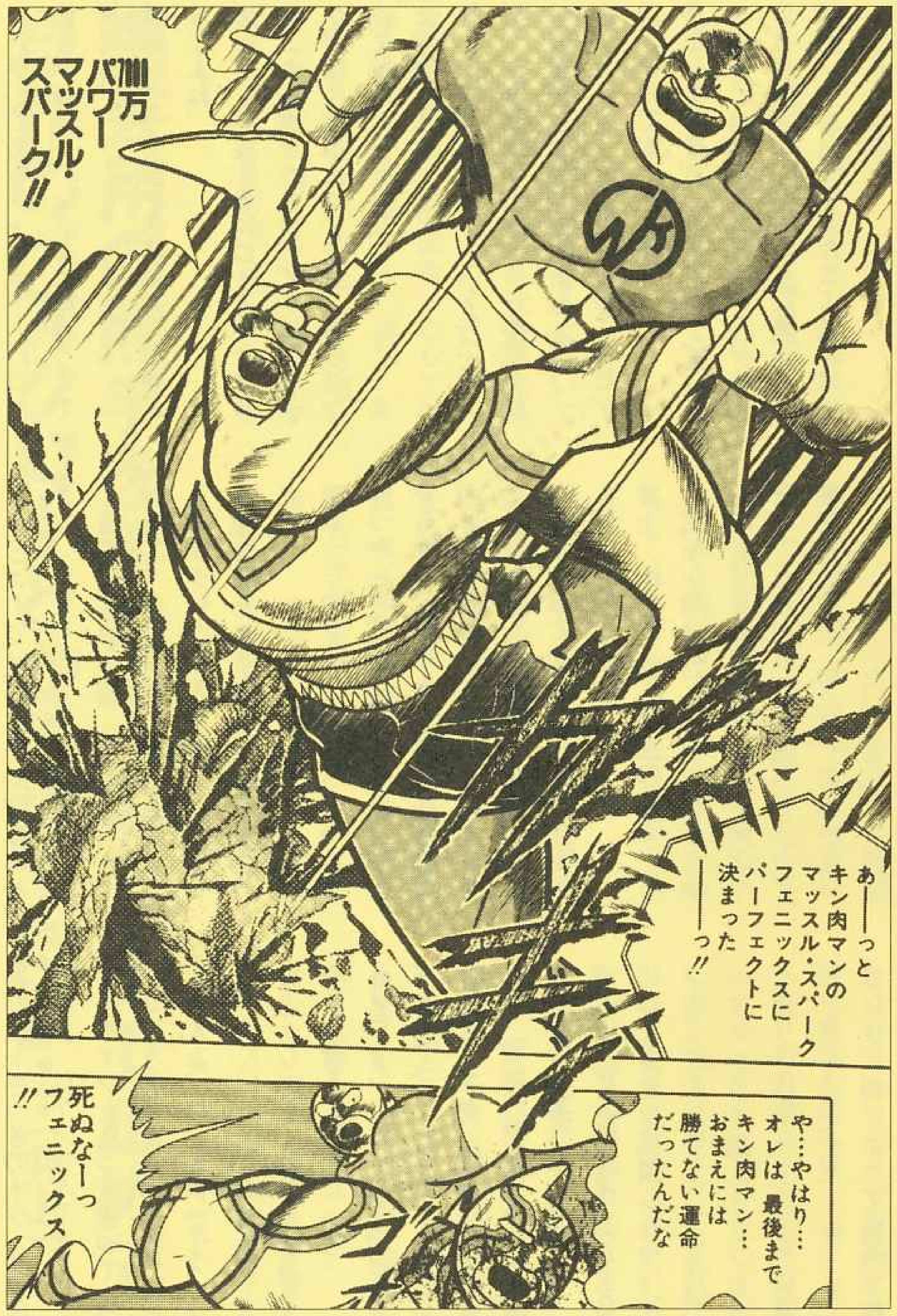
©ゆでたまご／集英社

ロビンマスクに見出されたロボ超人・ウォーズマンの必殺技ベアークローがティーカップマンの胸を貫く！ベアークローのパーツは手ごと取り外すものと、手甲部アーマーのみ取り外す2パターンが存在した。

当時・『ハッスル』GM 現・DREAMイベントプロデューサー 笹原圭一と 当時・国会議員 現・邪道パフォーマー 大仁田厚の

夢

でもありますよね。
井上　うん、色黒だし。
橋本　ウォーズマンは色黒って言わないでしょ!（笑）。
井上　だからウォーズマンがキン肉マンに敗れて、正義に目覚めたように、ミノワマンに秋山成勲を目覚めさせてほしいって思ってるんだよね。
ガンツ　なるほど。ぜひ、そのカードはDREAMで観たいですね。
井上　ガンツくんのベストバウトは?
ガンツ　ボクはテリーマンファンなんで、テリーマンvsアシュラマンという隠れた名勝負が好きなんですけどね。
井上　**テリーマンの腕がもぎれるやつね。**
ガンツ　そう。腕がもぎれたり、バッファローマンの腕が生えてきたり（笑）。あと、あのドローへの持ち込み方も通好みだな、と。
井上　ウォーズマンの心臓の上で阿修羅バスターが決まって、両リンになるんだよね。
橋本　俺も表ベストバウトはキン肉マンvsバッファローマンだけど、テリーマンvsアシュラマンと同じ五重のリング決戦のジェロニモvsサンシャインも好きなんだよね。
ガンツ　ジェロニモの人間宣言があった試合。
井上　相田みつをだ（笑）。
ガンツ　人間だもの（笑）。
橋本　あの試合の何が凄いって、最後に〝声〟で勝つんですよ。
ミノワマン　**アパッチのおたけびですね。**
ガンツ　「砂は音に弱い」っていう理由で大声（笑）。
井上　でも、凄くいい試合だった。
ガンツ　あれ、小学生の頃、みんな真似してましたよね。「ウラララララーッ!」って叫んで（笑）。
井上　やったやった!
ガンツ　アパッチのおたけびと、水道の水を使った「カブキの毒霧」は小学生に必須でしょう（笑）。
橋本　ミノワマン選手がハイアン（・グレイシー）とやったときにパウンドをしながら「俺はプロレスラーだ!」って大声で叫んだじゃん。あれは絶対にアパッチのおたけびだなと思ってたから。声で倒そうとしてるなっていう。



キン肉星の正統王位継承者のみがなせる三大必殺奥義の一つであるマッスル・スパーク（他の二つはマッスル・リベンジャーとマッスル・インフェルノ）。キン肉マンはこの技で最強の敵スーパー・フェニックスを見事に撃破!

意外と多かった残酷シーン 本当は怖い『キン肉マン』

ミノワマン　サンシャインは最初のジェロニモ戦よりも、アシュラマンとのタッグで出てきた二回目のほうが怖かったですね。
ガンツ　弱点であるはずの胸の日輪マークに、とんでもない罠を用意してたんですよね。
井上　**呪いのローラーね。**
ガンツ　あれはトラウマでしょ。自分の手がローラーに巻き込まれて潰されるって、実際起こりえる事故ですからね。
橋本　だからわりと物騒っていうか、『キン肉マン』はけっこう残酷な描写も多いんだよね。
ガンツ　本当は怖い『キン肉マン』って感じですか。
橋本　だって最初の超人オリンピックで決勝進出の8人目を決めるとき、バトルロイヤルをやって、キン肉マンは最初にリング外に落とされてるんだけど、ほかの7人が闘って、全員死亡のためキン肉マンが勝ち上がってるから。
ガンツ　バトルロイヤルというより、バトルロワイヤルですね（笑）。
橋本　そう、殺し合いなんだもん。
井上　ブロッケンマンvsラーメンマンなんかも、キャメルクラッチで胴体真っぷたつだしね。
ガンツ　血だらけになってラーメンにされちゃうんですよね。
橋本　コミック版ではぶった切られるだけで、それが残酷すぎるからアニメではラーメンになって。人をラーメンにしちゃうのもどうかと思うけど（笑）。
井上　でも、あれぐらいやらないと子どもはビックリしないってことだろうね。あとしつこいけど、ティーパックマンへのベアクローはホントひどいよ! ベアクローで心臓打ち抜いて殺したあと、ティーパックマンの頭をもぎ取って、頭の紅茶を飲むっていう。（三崎和雄ふうに）ウォーズマン! 俺は絶対におまえを許さない!（笑）。
ガンツ　どんなモンド映画だっていう（笑）。あと、どんな超人でも負けるとき、必ず血ヘドを吐いてましたよね。ミスターVTRまで吐いてましたから。（笑）。
ミノワマン　プロレスごっこでも、最後に負けるとき「ゲボッ」って、血へどを吐いたふりしてましたね。
ガンツ　負けた合図は「ゲボッ」（笑）。
井上　（突然）思い出した! オレの弟……。
ガンツ　血ヘドを吐いたんですか!?
井上　違う違う、ヤツが小学校低学年ぐらいのときに初めてプロレス観に連れてったんだけど、声援の仕方がわかんなくて、「ワーワーワー!」って叫んでたの。
一同　ガハハハハ!
井上　ホントだよ、これ。『キン肉マン』の本どおり、「ワーワーワー!」って。
ガンツ　とんでもないアホですねえ（笑）。
橋本　残虐シーンの話に戻すと、衝撃だったのは、ロビンマスクvsアトランティスのフィニッシュだよね。不忍池からあのマスクが浮き上がってきて、ロビンが勝ったのかと思ったら、ロビンのマスクを鷲づかみにしたアトランティスが、ザバーッと上がってくるという。
井上　ああ、あれは衝撃だった!
ガンツ　『13日の金曜日』的ですよね。
橋本　あのとき、池に沈んだミート

キン肉マンの正体がどうしても知りたくてキン消しのマスク部分を削りました（ミノワマン）

くんの足に気を取られて、アトランティスドライバーを食らっちゃったんだよね。
ガンツ　ミートくんの足が魚に食われる前に助けようとしたんだけど、そんな一瞬で足を食いつくすなんて、いったいどんな獰猛な魚なんだっていう（笑）。
井上　不忍池だよね。のちの外来魚大繁殖を予見してたんだよ。
橋本　ロビンってけっこう残酷な目に遭ってるんだよね。
ガンツ「黄金のマスク編」では、ジャンクマンに何回もジャンクされまくってましたしね。
井上　ジャンクマンも怖かったなあ。うしろ回ってもジャンククラッシュがくるんだよね。
ミノワマン　あのとき、ロビンマスクの**ヨロイが砕けた状態でいなくなる**のが凄い印象的で。
ガンツ　肉を斬らせて骨を断つ的に、ヨロイだけがペシャンコにされるんですよね。そして途中で身体を軽くするために、ベルトやマスクの一部も剥ぎ取って。
井上　そうだそうだ！　レオン・スピンクス戦でボクシンググローブを外したあと急に動きがよくなる猪木さん状態だ。
橋本　軽くなった身体で、ジャンクマンの周りをグルグル回るんだよな。
ガンツ『ドラゴンボール』でいうところの〝残像拳〟を駆使して（笑）。
ミノワマン　僕、去年ズールと闘ったとき、ズールの周りをグルグル回ったじゃないですか。あれが「ロビンマスクvsジャンクマン戦に見えた」って、（ゆでたまご）先生が言ってくださって。嬉しかったですね。
井上　無意識のうちにロビン殺法を使っていた、と（笑）。さすがだ！

子どもがチャリンチャリングッズといえばキン消し

橋本　なんかとりとめない話が続いてるけど、この座談会にテーマはないの？
ガンツ　ないですよ。それが変態座談会です！（笑）。
橋本　じゃあ無理やり話の流れ作るけどさ、『キン肉マン』は漫画だけじゃなくて、『ガンダム』と並び立つぐらいの超メディアミックスなんだよね。アニメになってゲームになって。『ガンダム』はガンプラだったけど、『キン肉マン』はキン消しでしょ。そういう部分でかなり財布が泣かされたっていうかさ。
井上　かなりお金を落としたよ！　だからゆでたまご先生って当時の納税額が二人合わせて6億近くだよ!?　漫画家では空前絶後ですよ。
ガンツ　全国の子どもがチャリンチャリンと使ったお金が、すべて合わさって日本一になった、と。
橋本　そう、チャリンチャリンなところがかわいくていいんだ。
井上　あのキン消しってさ、なぜかアモイマンばっかり出るんだよ！
橋本　出ますねえ！
ガンツ　原作にはほとんど出てこないのに（笑）。
井上　いい超人盗まれて学校で延々と泣いてるヤツとかいたよね。
ガンツ　キン消しの改造しませんでした？
井上　した！
橋本　改造って？
ガンツ　たとえばテリーマンvsアシュラマンを再現するべく、テリーマンの腕を切って、アシュラマンの腕とつけ替えたり（笑）。
井上　あと単純に首をすげ替えたりしたよね。
ガンツ　そうですね。キン肉マングレートの首切って、テリーマンの頭つけたり。
井上「正体だよん」みたいな（笑）。
ミノワマン　僕はキン肉マンの正体が知りたくて、カッターでマスクを削りましたね。
ガンツ　ダハハハハ！
井上　それやったわ、オレも。カッターでしょ？
ミノワマン　はい、カッターで削りました。
井上　素顔が出てくるわけがないんだよな（笑）。
ミノワマン　あとストーブの上にキン消しを置くと、だんだん縮んでくるんですよ。
井上　ストーブの上に置かなくても（笑）。
ガンツ　ダブったり、いらなくなったキン消しは、だいたい切られたり、溶かされたりして悲惨な末路ですよね（笑）。
ミノワマン　自分は友だちと技とかかけ合ってましたね。それで争奪戦みたいなことをして。
橋本　自分の中でオリジナルのマッチメイクを考えてね。
ミノワマン　ブロッケンJr.とか使いすぎて、腕の関節部分からだんだん切れてくるんですよ。
井上　切れる切れる！　あかぎれみたいになる！
ガンツ　どんだけ遊んでんだってことですよね。
井上　手垢とかついて黒くなったりして恥ずかしいんだよ（笑）。
ガンツ　キン消しのあの匂いを嗅いだら、当時の記憶がよみがえってくるでしょうね。
井上　いますでによみがえってるよ！
ガンツ　でも、『キン肉マン』はそんな純粋な子どもたちの夢を壊すようなことをなぜか描くんですよ。バッファローマンがじつはヅラだったりとか（笑）。あれはなんなんだろうって。
橋本　あれはヅラっていうか、頭を丸めたってことの抽象的表現でしょ？
ガンツ　でも、あれはどう見てもヅラですよ。あのバッファローマンが、アデランスの中野さんと同じ悩みを抱えてたんですよ（笑）。
橋本　いやいや、それこそ頭の中で補整して、あれはホントは地毛なんだけど、正義超人の仲間に入るために頭を丸めて、だけど悪魔将軍を騙すために被ってたんじゃないの？
ガンツ　じゃあ、バッファローマンはそれでいいとしても、ブロッケンJr.も帽子取ったらハゲでたれ目だし、アシュラマンも三面が取れたら、素顔は涙目で目がキラキラしてるし。しかもアシュラマンもホントはハゲだったような。
橋本　いや違う違う、パンチね。
ガンツ　あ、そうだ。パンチパーマだ。
橋本　大仏的なパンチ。
ガンツ　ハゲでもパンチでも、どっちでもショックはショックですよ！（笑）。

©ゆでたまご／集英社



のちに「闘将!!拉麺男」（たたかえ!! ラーメンマン）としてスピンオフ作品の主人公になるほど人気を博したラーメンマンだが、初登場時は目を覆いたくなるような残虐極まりない試合ぶりの極悪非道な超人だった。

『キン肉マン』永遠のテーマ 最強の超人はいったい…?

ガンツ じゃあこのへんで、話を正統に戻して。最強の超人は誰だと思いますか?

橋本 ああ、それは永遠のテーマだよね。

ミノワマン 自分の分析した中では……。

井上 ああ、長年の研究結果を報告していただけますか(笑)。

ミノワマン はい。僕もずっと考えてたんですけど、やっぱりアタルだと思うんです。

ガンツ キン肉マンソルジャーが最強。

ミノワマン やっぱりキン肉マンのお兄さんで、ホントはアタルこそが王位継承するはずだったし。血のつながりからしても、そういう能力があったんじゃないかなって。

ガンツ 確かにバッファローマン、アシュラマン、ザ・ニンジャらを統率したカリスマ性は悪魔将軍級ですよね。

橋本 超人血盟軍ね。

井上 鶴見五郎、剛竜馬、アポロ菅原ぐらいしか統率してない国際血盟軍のラッシャー木村とはえらい違いだね(笑)。

ミノワマン ソルジャーはスーパー・フェニックスに敗れてますけど、予言書を燃やされなかったら試合展開的にソルジャーが勝ってたんじゃないか、と思うんですよ。もしかしたらアタルvsスグルの実の兄弟で決勝やってたんじゃないか、とも考えて。

ガンツ まあ、実力と人格からしても、明らかに王位にふさわしいのはアタルでしたしね(笑)。

橋本 ただ、最強の超人となると、ビジュアル的なものも含めて俺は悪魔将軍を推すな。

ガンツ 悪魔将軍は軟体超人というのが、すでに反則というか、ズルいですよね。どうやって倒すんだっていう(笑)。

橋本 身体はヨロイだったはずなのに(笑)。

ガンツ 中は空っぽだわ、フニャフニャしちゃうわ、ダイヤモンドの硬さになるわ、痛みは感じないわで、勝ち目ないでしょう。

ミノワマン もしキン肉マンの腕がロープにかかってなかったら、**地獄の断頭台**で敗れてたかもしれませんね。

ガンツ 地獄の断頭台は怖いですよね。

井上 怖い、怖い! あれ怖かったなあ。

橋本 あれはのちにロブ・カーマンが角田(信朗)さんにやったよね。

ガンツ ダハハハハ! 確かにリングスでやってましたね。

井上 やっぱり悪魔将軍が最強かな……。

ガンツ でも、戦績自体はキン肉マンに敗れて0勝1敗ですけどね。

橋本 ランキングでは上位になれない(笑)。

井上 じゃあ、キン肉マンが負けたのって誰だっけ? キング・トーンと……。

ガンツ なぜ、最初にキング・トーンが出てくる(笑)。

橋本 初期のヒーローもののときは、キン肉マンもかなり負けてるんだけどね。

井上 キング・トーンには3本取られてるからね(笑)。

橋本 超人オリンピック以降だと、カメハメですか。

ミノワマン あとミキサー大帝ですね。

ガンツ 地味に**シシカバ・ブーにも負けてる**んですよ。

井上 そうだ! のちに結婚するビビンバを取り合って(笑)。

ガンツ だから『キン肉マン』本編

悪魔将軍の地獄の断頭台って、角田さんがロブ・カーマンにやられてたよね(笑)(橋本)

©ゆでたまご/集英社



キン肉バスターとキン肉ドライバーを合体させたタッグマッチならではの必殺技・マッスルドッキング。その夢のコラボの破壊力は、なんと元の10倍! ちなみに初出はブラックホール&ペンタゴンのvs四次元殺法コンビ戦(文庫本9巻収録)。

『キン肉マン』初心者のための友情パワー全開な文中注釈

【超人オリンピック予選の「新幹線アタック」】
「第21回超人オリンピック ザ・ビッグファイト」の第3次予選で行なわれた「新幹線アタック」は、超人がそのパワーで新幹線を滑走させるという常人の想像を超えた競技。ちなみにキン肉マンは「目標はエメラルドの島沖縄じゃ!」と意気込みだけは凄かったが、結果は新横浜という恥ずかしいものに終わっている(文庫本4巻収録)。



©ゆでたまご/集英社

【ここにビッグ・ザ・武道がいた】
テームズ川の中で数十万年ものあいだ、ビッグ・ザ・武道はネプチューン仮面を守り続けていた。あるとき、強すぎるがゆえに自分のファイトが世間に受け入れられないことに絶望した喧嘩男(ケンカマン)がテームズ川に身投げ。川の中で喧嘩男に完璧超人としての実力を見出したビッグ・ザ・武道はネプチューン仮面を授け、喧嘩男はネプチューンマンに生まれ変わることになった(文庫本10巻収録)。



©ゆでたまご/集英社

【ジャンケンで予選落ち】
「第20回超人オリンピック」の第一次予選の種目はなんとジャンケン。そのショボさかげんにズッコケた超人からはブーイングが続出したが、前回優勝者であるロビンマスクの「いやなやつはここからでていけ!」の一言で鎮静化。カニベースはキン肉マンと対決するが、手がハサミのかたちのためにチョキしか出せず、あえなく敗北を喫す(文庫本2巻収録)。


©ゆでたまご/集英社

【テリーマンの腕がもぎれるやつ】
五重のリングで行なわれたテリーマンvsアシュラマン。テリーマンはアシュラマンの腕をへし折るが、本来自分の腕を持たないアシュラマンは新たにテリーマンの腕を奪い取って再生。試合終盤、ウォーズマンの制御装置が故障を起こして地震が発生すると、その衝撃でテリーマンの両腕はちぎれてしまった(文庫本8巻収録)。


©ゆでたまご/集英社

ではそれぐらいしか負けてないんですよね。そう考えるとキング・トーンってけっこうな実績ですよね。

井上 あれは強いよ！　トンカツ屋のオヤジには弱いけど（笑）。

ガンツ キン肉真弓を倒して、格闘技宇宙一の称号も得てますしね。

橋本 キン肉星の政権奪っちゃうんだから（笑）。

ガンツ 「王位争奪編」であれだけ大げさに争ったキン肉星の王位が、じつはキン肉真弓を破ったキング・トーンに奪われたことがあるという（笑）。

井上 でも、キン肉真弓って、じつはメッチャ強いんだよね。ウォーズマン戦の前にさ、ウォーズマンの格好して控室で特訓してたよね、すっごい身体で。

ガンツ 仮想ウォーズマンとしてですよね。あの年齢であの身体は、やっぱりナチュラルに強かったんでしょうね。

井上 あれはヒョードルタイプだよ！

橋本 『キン肉マン』の裏ベストバウトとして**大王vs委員長のエキシビション**ってありましたよね。

井上 空き缶が飛び交ってたなあ。TPGが来たときの「イヤー・エンド・イン国技館」だよな！

ミノワマン あの試合は技がオーソドックスなんですよね。

井上 そうそうそう！　クライマックスでキーロック始めちゃって。

ガンツ そして60分フルタイムになっちゃって。大暴動（笑）。

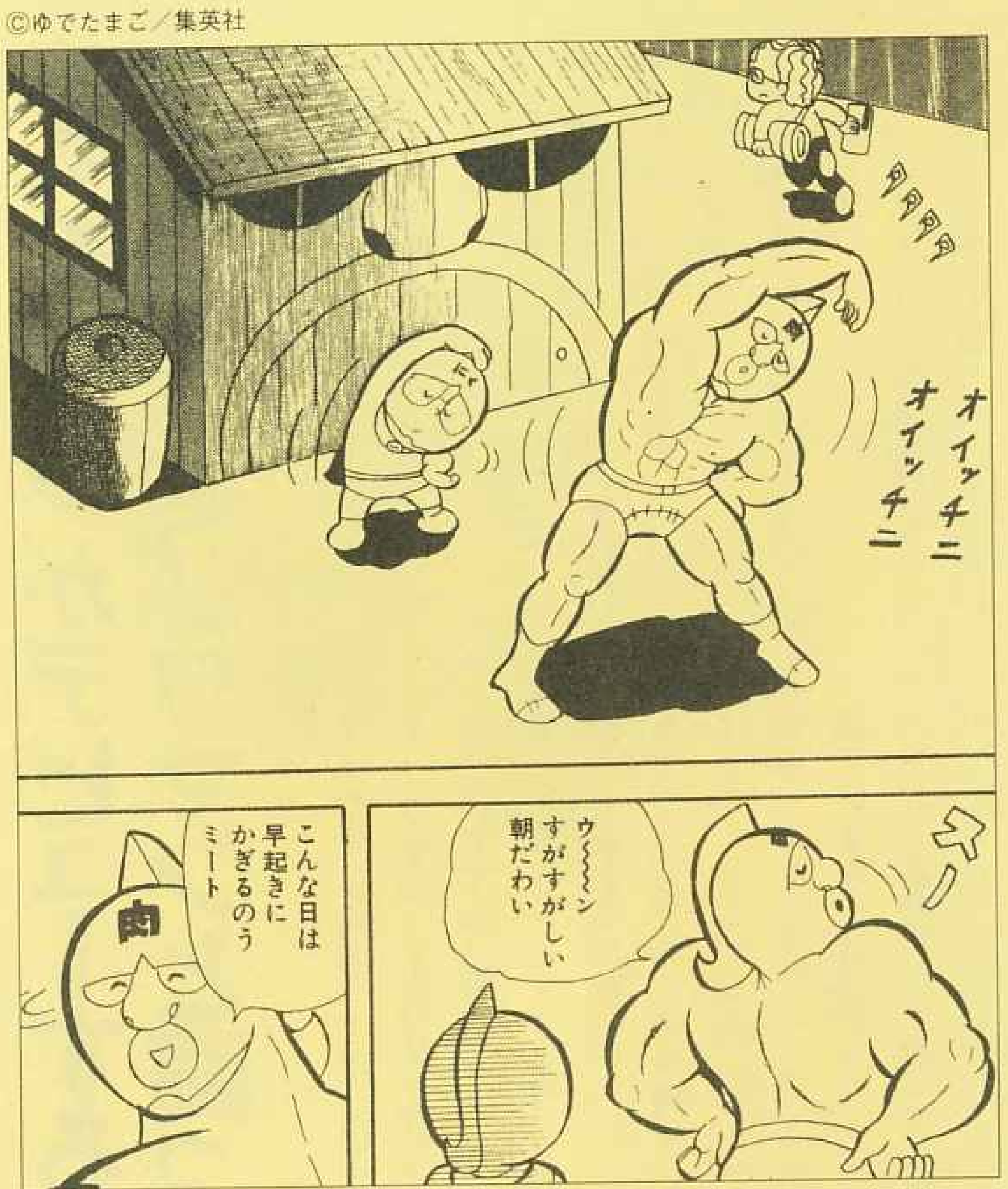
井上 で、解説のタザハマさんが「私たちの時代は終わった……」ってつぶやくんだよ（笑）。

ガンツ でも、キン肉真弓が一時代を築いたことは確かですよね。

井上 となると、やっぱりその真弓を破り、キン肉マンをも破ったキング・トーンがやっぱり最強かな。

橋本 キング・トーンが最強、そんなんでいいのか（笑）。

ガンツ じゃあ、逆に最弱は誰でしょうね。こいつ弱かったな〜っていう超人。



©ゆでたまご／集英社

家族旅行の際にブタ（キング・トーン）と間違えられ地球に捨てられたという悲しい過去を持つキン肉マン。東京都大田区田園調布の空き地にキン肉ハウスを建てて、お目付け役のミートくんと一緒につつましやかに暮らしていた。

橋本 理論上、**ナチグロン**じゃない？

ガンツ ダメ超人時代のキン肉マンにバックドロップを食らって秒殺負けするんですよね。

橋本 そうそうそう。

ガンツ ドリー式バックドロップなんですよ。

橋本 股すくうヤツね。

井上 お神輿バックドロップだ。

ガンツ 昔の新日ファンって、あのドリー式バックドロップは認めてませんでしたよね（笑）。

井上 そうそう、クラッチしてブリッジを利用したバックドロップじゃないと認めないんだよ！

ガンツ あと、弱い超人で有名なのは、〝**次鋒レオパルドン**〟ですよね。

橋本 登場してから3コマで死んだ超人（笑）。

井上 「次鋒レオパルドンいきます!!」「グオゴゴゴ」「ギャア――ッ!!」で終わり（笑）。

ミノワマン （真面目な顔で）でも、僕はレオパルドンは弱くなかったと思いますね。

ガンツ へ？

ミノワマン あれはレオパルドンが弱いんじゃなくて、マンモスマンが強すぎたんです！

ガンツ なるほど！（笑）。

29（ニク）周年を記念してキン肉マンがデビュー？

ミノワマン 技の話、していいですか？

ガンツ どうぞどうぞ！

ミノワマン 『キン肉マン』に出てくる技でいうと、マッスルドッキングはホント完璧だと思うんですよ。あれが完成した瞬間のエピソードが、最近の『週刊プレイボーイ』の連載（『キン肉マンⅡ世』）であったんですけど、昔はただドッキングしてたんですけど、いまはドッキングする言葉のやりとりだったり、感覚だったりを再現してるんで、それがまた凄くリアルで、マッスルドッキングいいなって。

ガンツ あれこそ友情パワーのなせる技だ、と。

ミノワマン そうですね。これ以上の技は『キン肉マン』の中ではないんじゃないかなって思ってます。

ガンツ 確かに、プレステの『キン肉マン』でマッスルドッキングが使えるって聞いて、「やりたい！」と思いましたからね。

橋本 あれで決まったときの爽快感は凄いでしょうね。

井上 ちょっとそのゲーム、今度みんなでやろうよ！

橋本 やりますか！

井上 よし、やろう！

ガンツ 完全に小学生の下校途中の会話ですね。30歳すぎて（笑）。

橋本 やっぱり『キン肉マン』は男の子にとって永遠ですよ。

ガンツ 昔、発売されてた五重のリングのおもちゃとか、いまでもほしいですからね。

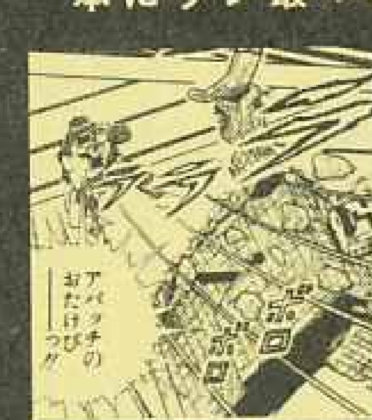
井上 あったあった！　五重のリング、カッコよかったなあ！　ミノワマン選手も五重のリングで試合してみたいよねえ？

ミノワマン やってみたいですね。

井上 DREAMで五重のリングやってほしいなあ！

橋本 DREAMと名乗るからにはね、そんなドリームも見せてほし

【アパッチのおたけび】
ジェロニモが得意とする、大声で相手を倒す驚愕の必殺技。サンシャイン戦でジェロニモは、アパッチのおたけびの途中で激闘のために心臓が停止してしまうが、なんと自らの手による心臓マッサージで蘇生。最後はサンシャインを「ウラララララーッ！」と見事に撃破した（文庫本8巻収録）。



©ゆでたまご／集英社

【呪いのローラー】
「第一回宇宙超人タッグ・トーナメント」の一回戦でテリーマン&ジェロニモの「ニューマシンガンズ」は、アシュラマン&サンシャインの「はぐれ悪魔コンビ」と激突。ジェロニモはサンシャインの弱点である胸の日輪マークをつかむが、そこに仕掛けられていたのは巨大なローラー。あわれジェロニモは腕を巻き込まれ重傷を負ってしまう。してやったりのサンシャインは「二度知られた弱点は次回には必ず強化してくるものだ」と勝ち誇った（文庫本10巻収録）。



©ゆでたまご／集英社

【ヨロイが砕けた状態でいなくなる】
五重のリングで行なわれたロビンマスクvsジャンクマン。友情に厚いロビンマスクは、ジャンククラッシュをよけると後方で五重塔をよじ登っているキン肉マンに被害がおよぶためにあえて被弾！　かと思いきや、ロビンマスクは老獪なインサイドワークでヨロイを残してジャンククラッシュを脱出。そして「ヨロイをきらせて!!　ニクを断つ!!」の言葉とともに反撃に転じた（文庫本7巻収録）。



©ゆでたまご／集英社

【地獄の断頭台】
7人の悪魔超人、悪魔騎士たちを束ねる首領・悪魔将軍の必殺技は、超人の身体にある九つの急所を攻める「地獄の九所封じ」。「地獄の断頭台」は首の急所を攻める九所封じの一つである。地獄の断頭台を食らったキン肉マンは、のちに悪魔将軍の足（アシュラマンとサンシャインが変身）を見ただけでおびえてしまうほどのトラウマが残ってしまった（文庫本9巻収録）。



©ゆでたまご／集英社



キン肉マンがデビューするときは五重のリングでミノワマンと闘ってほしい！（ガンツ）

いですよね。

ガンツ　夢の舞台にはピッタリのリング。

井上　そうだ！　諸岡さん（ミノワマンの後見人）に作ってもらえばいいんだよ！

ガンツ　ダハハハ！　そういえば諸岡さんはリング作りの職人ですもんね（笑）。

井上　諸岡さんの集大成的な仕事として、五重のリング作ってほしいなあ。

ミノワマン　いいですね。たぶん二重でもう凄いですよね。

井上　二重でいいかな。観たいわ、それ！

ガンツ　WWEあたりがやる前に、ミノワマンにやってほしい！

ミノワマン　上のリングから乱入したいですね（笑）。

井上　ザ・ニンジャとサンシャインが入れ替わる的な（笑）。

ガンツ　〝リアル・キン肉マン〟としてやってほしいなあ。

橋本　でも、俺がミノワマンさんの話で好きなのは、ジョシュ・バーネットが『北斗の拳』の「愛を取り戻せ」で入場するのと同じように、『キン肉マンGO FIGHT!』で入場しないのか」って聞いたら、「あれはキン肉マンの曲だから、僕はキン肉マンじゃないので使えない」って言ったんだよね。

井上　あの曲はキン肉マン本人だけのものだ、と。

橋本　だから猪木ファンのプロレスラーで、『炎のファイター』で入場するヤツがいたら、そいつはどうかしてるわけじゃん。それと一緒なんだよ。

ガンツ　リスペクトがありますね。

ミノワマン　でも、コスチュームはけっこう意識してますね。キン肉マンは、じつはタイツのウエストの部分がベルトになってて、バックルがついてるんですよ。それと同じように見えるように、僕のタイツにもベルトみたいに、四角い縫い目をつけてもらってるんです。

ガンツ　そんな細かいこだわりが（笑）。

井上　見えないオシャレみたいなもんだよね（笑）。

ガンツ　そういえば、キン肉マンがプロレスデビューするみたいな話もあるみたいですね。

井上　ああ、ゆでたまご先生が言ってたよ！　29周年中にやりたいって。絶対に観たいよ！

ガンツ　ミノワマンさんは、ちょっとジェラシーがあったりしますか？

ミノワマン　いや、キン肉星から来るなら、凄いなとか。

ガンツ　ガハハハ！　キン肉星から来てほしい。

橋本　もしくは田園調布にキン肉ハウス建てて、そこに住んでほしいよね。

ガンツ　キン肉ハウスから出てくる映像とか、佐藤大輔さんに撮ってもらいたいな。

井上　もしくはPRIDEふうにリングがブタ小屋に覆われてて、オープニングで天井に上がっていくとか。うわっ、想像だけで鳥肌立った！（笑）。

橋本　リアル・キン肉マンがホントにデビューするんだったらそれぐらいやってほしいですね。

井上　そして、その暁にはミノワマンvsキン肉マンの夢の対決を実現してほしいよ！　ぜひ！

ガンツ　では、五重のリングでの闘いと、ミノワマンvsキン肉マン実現を願って、このへんでお開きにしましょう！　ゲストのミノワマン選手、どうもありがとうございました！

ミノワマン　ありがとうございました。でも、まだまだしゃべりたいですね（笑）。

【08年3月3日／新宿・変態座談会の聖地『リビングバー』にて収録】



「黄金のマスク編」では、キン肉マンの勝利のために人柱となったウォーズマンが瀕死の状態に。そのウォーズマンの体内に悪魔騎士が侵入、それを追った正義超人は五重のリングでバトルを繰り広げた！

火事場のクソカ級のマストアイテム！
絶賛発売中の〝友情特盛り〟な単行本も要チェック！



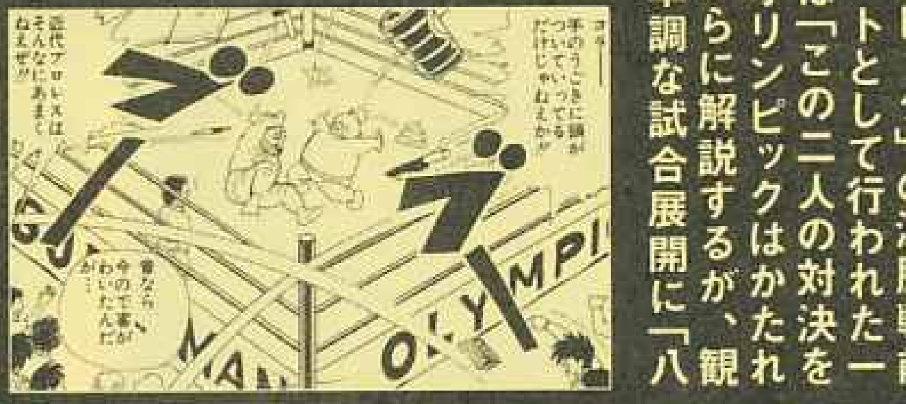
『キン肉マン』1巻～18巻（完結）
『キン肉マンII世』1巻～11巻（以下続刊）

※『キン肉マンII世』は週刊プレイボーイで連載中。11巻ではザ・マシンガンズが大活躍!

【シシカバ・ブーにも負けてる】
キン肉マンに恋をするホルモン族のビビンバ。しかし、それをよしとしないビビンバの父親は、キン肉マンへの刺客として、宇宙超人カーニバル優勝の実績を誇るシシカバ・ブーを放つ。シシカバ・ブーはキン肉マンから勝利を収めるものの、ビビンバの「スグル様を殺すなら私も殺して」という言葉を聞くと、「負けたよ」とつぶやき去っていった（文庫本4巻収録）。



【大王vs委員長のエキシビジョン】
「第20回超人オリンピック」の決勝戦前のスペシャルイベントとして行われた一戦。タザハマさんは「この二人の対決をかたらずして超人オリンピックはかたれません！」と涙ながらに解説するが、観客はそのあまりに単調な試合展開に「八百長！　なれあい」と大ブーイング。この試合は翌年の第21回大会でも行われたが、そのときはウォーズマンが地中をもぐってリング下から乱入、リングごと二人を放り投げて強制終了してしまった（文庫本2巻・5巻収録）。



【ナチグロン】
「孤独のドジ怪獣の巻」に登場。周りに危害は加えずにただふるえているだけのおちこぼれ怪獣で、一般市民からは「こんな弱い怪獣はじめてみたぜ」と石を投げつけられる始末。その姿に自分を重ね合わせたキン肉マンは「おちこぼれのどこが悪い」とナチグロンをかばい、静かな故郷へ帰るように促したのだった（文庫本1巻収録）。



【次鋒レオパルドン】
「キン肉星王位争奪編」でキン肉マンビッグボディチームの次鋒レオパルドンは、キン肉マンスーパー・フェニックスチームの先鋒マンモスマンと対戦。しかし、マンモスマンの得意技ノーズ・フェンシング一撃であえなく敗北。登場から3コマで敗北という負け様は、「次鋒レオパルドンいきます!!」という一言が「次鋒レオパルドン逝きます!!」だったことを物語っている（文庫本12巻収録）。





kamipro Hand 人気連載『kamipro事件簿』スペシャル出張板

「自分からPRIDEに出たいとまでは言ってませんから」

本人が語るPRIDE、HERO'S参戦の“全真相”

金子賢

05年『PRIDE男祭り』参戦のニュースでマット界に衝撃を与えた俳優・金子賢。現在、『kamipro Hand』で連載中のコラム『kamipro事件簿』「金子賢はPRIDEファイターだったのか?」では、この「金子賢のPRIDE参戦」の“真実”をPRIDE、『HERO'S』、そしてフジテレビ関係者の証言をもとに検証しているが、なんとこの取材を進めるにあたり、金子賢本人にインタビュー取材できることに!! “渦中”にいた金子賢が当時を振り返りながら、知られざる“事実”を語り尽くす!

聞き手/高崎計三 構成/松下ミワ 撮影/梅木麗子

フジテレビのプロデューサーさんに「出てみないか？」って言われたんです

——今日は『kamipro事件簿』スペシャル出張版ということで、なんと金子賢さんにお話をうかがえることになりました！　よろしくお願いします。

金子　よろしくお願いします。

——さっそくPRIDEや『HERO'S』に参戦された当時のことを振り返っていただきたいのですが、まずその前に、金子さんはPRIDE参戦以前から柔術をやられていたんですよね？

金子　そうですね。ずっと友だちに誘われてたんですよ。「行く？」みたいな感じで。最初に声かけてもらったときは仕事が忙しくて行けなかったけど、そのあとちょっと時間ができたからやってみようかなって。

——格闘技にはあまり抵抗なく入っていけました？

金子　抵抗は全然なかったですね。初めて行ったときなんて、やる気満々だったから！　教えてくれる人が凄くちっちゃい先生だったし、いきなり勝てると思って「アイツとやらせろ！」ってずっと言い張ってたんですよね（笑）。

——アハハハハ！　それで実際やられてみていかがでしたか？

金子　凄く楽しかったんですよねぇ……（しみじみ）。多いときは週5で通ってましたから。

——週5回ですか！　ちなみに帯は何色だったんですか？

金子　最終的に青帯です。俺、道場では一番ペーペーだったんだけど、上達するスピードが速かったみたいで、格上の人から何本も取ったりしてたから、凄く楽しかった。でも、途中から髙田道場にお世話になることになって、それから柔術はやってないんだよね。だから柔術は試合もやってない。

——柔術の試合はやってみたいと思いませんでした？

金子　ホントはやりたかった！　白帯のときだけど、大会には出たいなと思って



ファン・マスコミに大衝撃を与えた金子賢PRIDE参戦のニュース。その第一報となった05年12月6日の会見で榊原PRIDE代表(当時)は「金子選手からPRIDEという戦場にチャレンジしてみたいという意思表示をいただいた」と語っており、インタビューとは大きなズレが生じている。

て。ただ、負けるのが本当にイヤだから優勝できるレベルになってから大会に出たいと思ってました。だから、白帯のときに上の帯の人からも何本も取れるようになって、そろそろ上の帯に上がるってタイミングがあったから、そこで試合に出ようと思ったんですけど、仕事が忙しくて出られなかったんですよね。そうしたらすぐ青帯になって、髙田道場にも行くことになったんで、結局柔術の試合には出られなかったですね。

——で、当時報道されていた話でいうと、金子さん自身がPRIDE出場を望んだということになってるじゃないですか。

金子　（さえぎって）いやいやいやいや！　そういう話を持ちかけられたんですよ！

——え？　そうだったんですか!?

金子　自分から「PRIDEに出たい」とまでは言ってませんから。

——それは初耳です！　裏側はいったいどういう話だったんですか？

金子　もともとはフジテレビのプロデューサーさんに「出てみないか？」って言われたんですよ。

——当時の『ジャンクSPORTS』のプロデューサーで、フジテレビ格闘技番組の責任者的立場だった方（清原氏）ですね。

金子　こっちとしては「え!?　PRIDEですよね!?」みたいな。そうしたら、その方が「真剣に練習すれば大丈夫だよ」って（笑）。

——確かにそれなら大丈夫……じゃないですよ！　ちっとも（笑）。

金子　僕も心配だったんで、ちゃんと取り組みたいという話で、髙田道場に通わせてもらったんですよね。あと、もしPRIDEに出ることになっても俳優の仕事

kamipro事件簿

金子賢はPRIDEファイターだったのか

プチレビュー

※全文を読みたい方は『kamipro Hand』にアクセス!!

第1回

視聴率戦争と金子賢のPRIDE参戦

05年大晦日に火花を散らした『PRIDE男祭り』と『Dynamite!!』の視聴率戦争。それまで〝世界最高峰〟のリングを叫んでいたPRIDEが、この年本気で高視聴率獲得を目指し、お茶の間向けを〝売り〟にしてきた『Dynamite!!』を数字で凌いだ事実をあらためて検証している。その『男祭り』の切り札として渦中に迷い込んだ金子賢とはなんだったのか。それが「格闘技と視聴率」というテーマを飛び越える壮大な〝事件〟だったことを紹介。

第2回

格闘家・金子賢の〝全容〟

『PRIDE男祭り』参戦発表後、金子賢の名前が持つ意味は180度変わった。榊原PRIDE代表（当時）、清原フジテレビプロデューサーに挟まれるかたちで会見に望んだ金子賢。第一報となったその会見現場での当時の状況、さらにPRIDEから『HERO'S』へと戦場を変えることとなった金子賢の格闘家としての表の経過を追った内容となっている。さらに、多くの関係者にとって最大のポイントであった視聴率という〝結果〟をも徹底的に追っている。

KEN KANEKO

も継続しながらリングに上がるという話になってたんですよ。だから、格闘技ファンに「ふざけるな！」とか非難されるのはつらいな……って感じ。

――でも、世間的には「俳優だから特別扱いを受けた」という雰囲気で捉えられてましたよね。

金子　そうですね。でも、本人が簡単に上がれると思ってなかったし、僕が「PRIDEに出たいんですけど、なんとかなりませんかね？」ってお願いしたわけではないんです。そこまでバカじゃないですよ。だから僕一人の意志というより、いろんな思惑が絡んでというか……。だからファンは「ナメんな、金子！」って怒ったと思うけど、僕からすれば「そういうわけじゃないんだけどなあ……」って感じですね。

――いやあ、それは知られざる真実ですねぇ。でも、PRIDEは大好きだったんですよね？

金子　ええ、もう会場に必ず観に行ってましたよ。最初の頃は関節技もわからなくて、「殴って倒れたら楽しいな!!」みたいな。

――つまり、〝観る側〟としての認識しかなかったわけですね。

金子　そうそう。子どもの頃からやってたわけじゃないし、僕だってバカじゃないんだから。「自分にもできる！」とか夢にも思うわけないじゃないですか。「おまえなんか、これで食っていけねえよ」って批判もありましたけど、こっちからすると「そんなのわかってるよ！」って感じだし（苦笑）。

――ワハハハハ！

金子　初めて記者会見に出たときだって、こっちはおとなしくしてるけど、じつは文句を言いたいこともある。でも、言ってもしょうがないじゃん。「ここはヒールになればいいんだろ？」って思ってましたから（苦笑）。

――まったくプロですねえ（笑）。



年末の視聴率戦争は毎年恒例であるが、異様なほど大ヒートした05年大晦日。このため『男祭り』の試合順は異例の当日発表となり、金子賢は第0試合チャレンジマッチという位置づけに。だが、テレビではNHKがニュースに切り替わる21時30分付近に放送され、見事、最高瞬間視聴率27.7パーセントをマークした。

金子　だから、そういうチャンスを純粋にもらったから、周りの人に失礼のないように仕事も全部やめて、一生懸命やるっていう姿を見せるために頑張っただけ。だから、文句を言われる筋合いは何もなかった。雑誌には「PRIDEも成り下がった」とかいろいろ書いてあったけどね。

――テレビも絡んだプロジェクトだったわりには、金子さんが出演していた『ジャンクSPORTS』でそんなに特集されてなかったですよね？　そこがもの凄く不思議だったんですけど。

失礼のないように仕事も全部やめて……
だから文句を言われる筋合いは何もなかった

金子　それは、タレントが試合するみたいなかたちじゃなくて、ちゃんと試合に向けて取り組んでるということを見てもらいたかったから、テレビではそこまで特集しなかった、と聞いています。

――ああ、そうだったんですか。

金子　そのへんの意図は僕にはわからないです。ただ、自分のやりたいことと向こうがやりたいことが一致したんで「じゃあ、やろうか」と。当然、事務所は反対でしたけど。

――看板俳優が仕事を止めるなんて事務所にとっては死活問題ですしねぇ。それで、デビュー戦がチャールズ・〝クレイジーホース〟・ベネットという危険な相手だったじゃないですか。

金子　ビックリしましたねえ！　聞いてねえよって。

――アハハハハ！　金子さんは了承してなかったんですか!?（笑）。

金子　そりゃそうでしょ。やっぱり、いままで総合格闘技をなんにもやったことないんですから。でもやるからには勝ちたいと思うでしょ？　だから僕は「異種格闘技戦がいいです」って言ってたんですよ。

――つまり、柔術をやってた金子さんの場合、立ち技系の選手を組んでほしかったということですか？

金子　そうです。「絶対にボクシング系の相手にしてくださいよ」という話が、まったくそうじゃなかったから。相手がベネットだってことを聞いたのはブラジルにいるときだったんです。

――桜庭さんと一緒にブラジルのシュー

第3回
金子賢参戦に対する内部反応

PRIDEに俳優・金子賢が参戦するということはいったいどういうことだったのか。「そりゃ、全員反対ですよ！」に始まるPRIDE内部で起こった強烈な〝拒絶反応〟を各関係者の証言をもとに検証した内容に。しかし、その嫌悪感を推してでも金子賢をPRIDEに参戦させた理由はなんだったのか。当時フジテレビスタッフだった佐藤大輔氏の言葉を借りながら、視聴率獲得にとどまらないフジテレビ側の意外な意図にも迫っている。

第4回
金子賢参戦への〝妥協案〟と〝戦略〟

金子賢の『男祭り』参戦の発表に戸惑いを見せながらも、PRIDEスタッフがその事実をどう飲み込み、どのような〝戦略〟を組み立てていったのかを探った内容に。「打倒『Dynamite!!』」に向けて綿密に練られた番組構成と、これまで多くのファンに支持を得てきたPRIDEの世界観をいかに崩さず金子賢を闘わせるか、その対戦相手の決定に奔走した当時の現場の話を、関係者の声として掲載。

第5回
『男祭り』の〝勝利〟とその裏側

第4回で、関係者から語られたPRIDEスタッフの〝戦略〟が見事に成功し、視聴率で『Dynamite!!』越えをはたしたPRIDE。この結果を受けて生じた格闘技業界内の、そしてテレビ制作側の変化について、関係者の証言から検証した内容に。05年『男祭り』の番組構成が、その後の格闘技番組のモデルケースになっているなど、フジテレビ内外に与えた『男祭り』の影響を佐藤大輔氏の言葉からも追っている。

トボクセで合宿していたときですね。

金子 日本からFAXがバーッと流れてきたから見たら「バックボーンは……レスリング!?」みたいな（苦笑）。ベネットに決まる前の段階で、「あの人はどう？この人はどうだ？」っていろいろな話を聞いていたんですけど、僕は素人ですからね。プロ選手が万が一僕に負けたらこの世界で食っていけないわけじゃないですか。

──ちょっと闘いたくないですよね。

金子 だから、有名な選手にはけっこう断られたりしてたんですよね。そうすると、必然的にまったく無名でも、強いヤツしかいないでしょ？ まあ、僕としては、相手がもし決まらなかったら、それはそれでいいですよって。

──試合に出られなくてもいい、と？

金子 はい。だって、髙田（延彦）さんのところで上下関係を教えてもらって、年下の20歳の子に頭を下げて雑巾がけをやって。やっぱりいままで生きてきた世界と違う空間で精神的にも鍛えられたわけだから。もちろん身体の面でも鍛えられたし。それだけで充分、試合ができなくても、こういった経験ができただけでもよかったかなって。でも、「ここまで話が進んでるんだからやるしかないだろう」って。そういう紆余曲折がありながら対戦相手がベネットですからね。「これは無理だ！」って思いましたよ。周りは「いや、いけるよ！」って言ってましたけど（苦笑）。

──アハハハハ！ また簡単に背中を押しますねぇ（笑）。

金子 「ここまできたら、もうあと戻りは無理だから、やるしかないんだよ」って。だから、世の中的にはPRIDEという

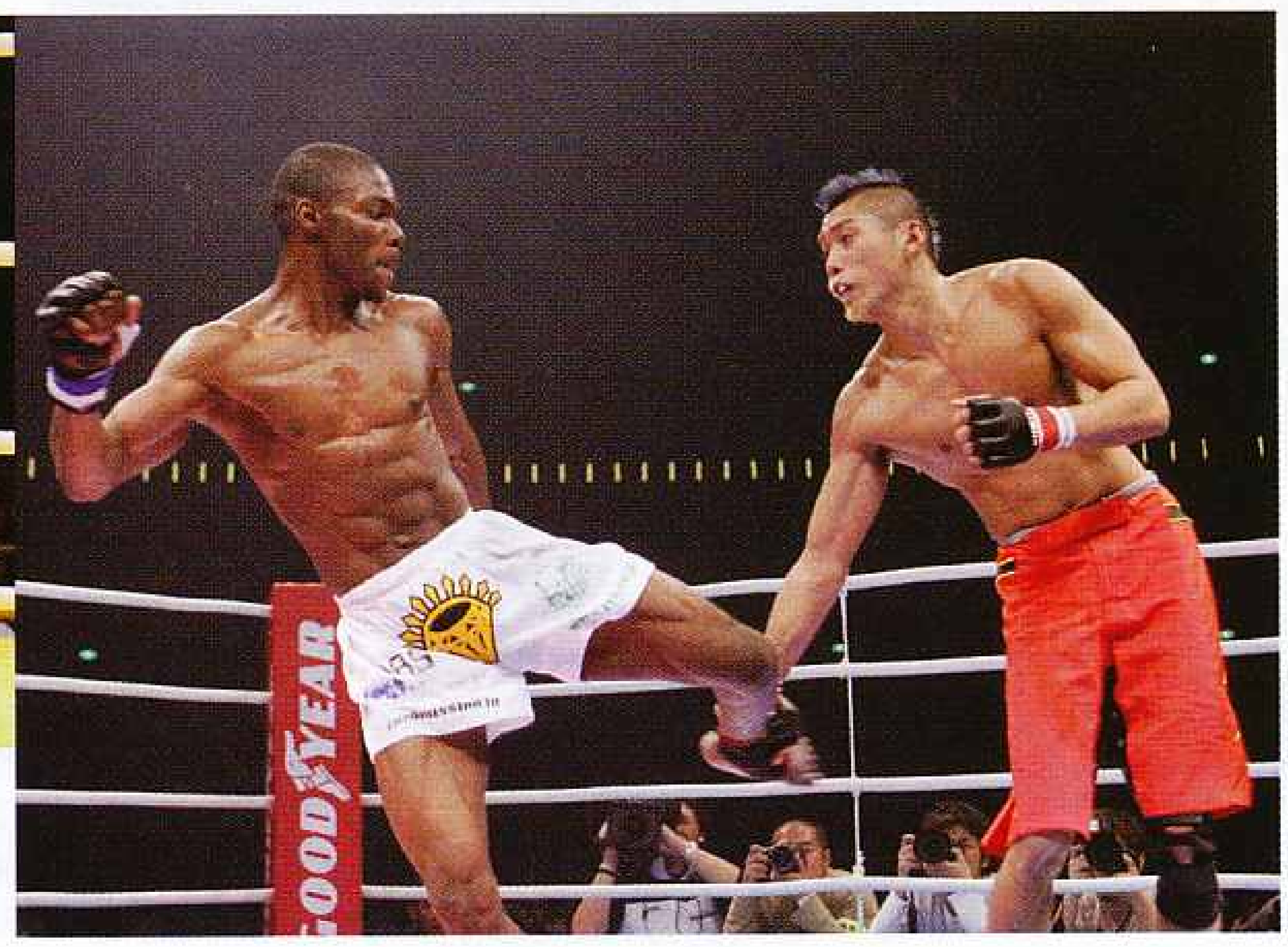
プロ選手が万が一、素人の僕に負けたら
この世界で食っていけないわけですからね

興行に僕が出ることで「裏切られた！」と思ったファンがいたかもしれないけど、一番つらかったのは僕ですよ！（笑）。

──アハハハハ！

金子 だって、先生たちも「ベネットだけは絶対にやめてください！」って心配してたんだから。





『HERO'S』へ電撃移籍した金子賢は所戦、アンディ戦の二試合を闘ったが、結局白星を挙げることはできぬまま、格闘家としての活動を休止することに。そのことをいかに無念に思っていたかは、今回の金子のインタビューからにじみ出ている。

──その「先生」というのはどなたになるんでしょう？

金子 豊永稔さんですね。豊永先生と、あと桜庭（和志）さんは僕の師匠なんです。その二人に聞いても「絶対に断ってください」って。

──その言葉どおり、初めは断ったんですか？

金子 だって先生に言われたんだから、そりゃ断りますよ！ でも、断るとか、そんなことしている時間もないんですよね。結局、試合をすることになったんですけど。あの試合に関してはべつに恥じることもなかったし、自分ではまあよくやった、と。

──会場からも金子さんを応援する声がかなり飛んでましたもんね。

金子 でも、頭が真っ白でまったく聞こえてなかったですね、PRIDEのときは。最初、出稽古に行ったときに凄く冷たかった選手がいっぱいいたけど、「金子さんが凄く頑張ってる姿が見えたし、いつでも練習に来てください」って、急にみんなウエルカムになったんですよね。

──そういえば、佐藤ルミナさんのところにも練習に行ったんですよね。

金子 ルミナさんも始めは鼻で笑うくらいの感じで、こっちも「そんなのわかってるよ！ でも、そこはさあ」みたいな（笑）。ただ、こっちだって勝ちたいわけだし、運がよければ勝てる相手とやりたいと思ってましたけどね。

──じゃあ、金子さんとしては「こんなはずじゃなかったのに」という思いもあったりするんでしょうか？

金子 死ぬほどある！ 腐るほどありますよ!! ただ、その思いを伝えるところ

第6回
テレビとPRIDEと『HERO'S』

突然、降ってかかったフジテレビショック。俳優という肩書きをバックにPRIDEに上がった金子賢は、その直後にTBS系で放送される『HERO'S』へと移籍する。その裏側で行なわれた〝交渉〟を、FEG代表・谷川氏の言葉から探る内容に。また、ボビー・オロゴンやベルナール・アッカなど、これまで何人かの芸能人格闘家をリングに上げてきた谷川氏の、金子賢に対する率直な印象などをも聞き出している。

第7回
髙田延彦と前田日明

PRIDEと『HERO'S』という日本の二大格闘技イベントに参戦した金子賢。しかし、どちらのリングに上がるときも〝イベントの顔〟である髙田延彦と前田日明からは厳しい態度を示された。しかし、両者の金子賢に対する言動は興味深いほど対照的だった。その二人の反応が「金子賢のPRIDE、『HERO'S』参戦」という一つの事件を盛り上げる要素であったことを、当時の状況をもとに検証している。

第8・9回
金子賢の〝素顔〟（上・下）

金子賢をとりまくテレビ局やプロモーター、関係選手の〝戦略〟や〝思惑〟を追っていた本連載だが、一方、ある意味〝非難の的〟にさらされた金子賢自身の当時の様子はどうだったのか。本職である俳優を休業し、「本当に好きなことを見つけた」と会見で語り、格闘技に打ち込んだ金子賢。熱狂的なPRIDEファンであればあるほど〝拒絶反応〟を示した金子賢だが、彼の当時の姿を、各関係者から聞き出し、率直な印象を語ってもらっている。

KEN KANEKO

もないし、はたしてそのままストレートに伝えていいのかもわからない。だから、単純に僕がやることによって興行がうまくいけばいいなって。僕を出してマイナスなことがないならいいって思うしかないですよ。

――フジテレビの戦略も功を奏して、金子さんの試合が格闘技番組の瞬間最高視聴率でしたね。

金子　まあ結果的にはそうなりましたね。

――でも、金子さんがそんなことを背負っていたとは。当時の会見では、微塵も出さずに凄く謙虚な感じでしたよね。

金子　だって、試合もしてないのに生意気なことを言ってもへんだし、最初から「負けてもいいや!」っていう前提もイヤでしょ。僕が俳優じゃなくて格闘家だったら、「相手?　ボッコボコにしますよ!」って吠えたけど、それを聞いて喜ぶ人なんていないわけだからさ。みんなが一番いい空気の中で仕事したいわけでしょ?　そしたら仕方がないけど、僕が文句を言われるようなかたちになれば一番いいのかなと。

――なるほど。そこは謙虚に進めよう、と。

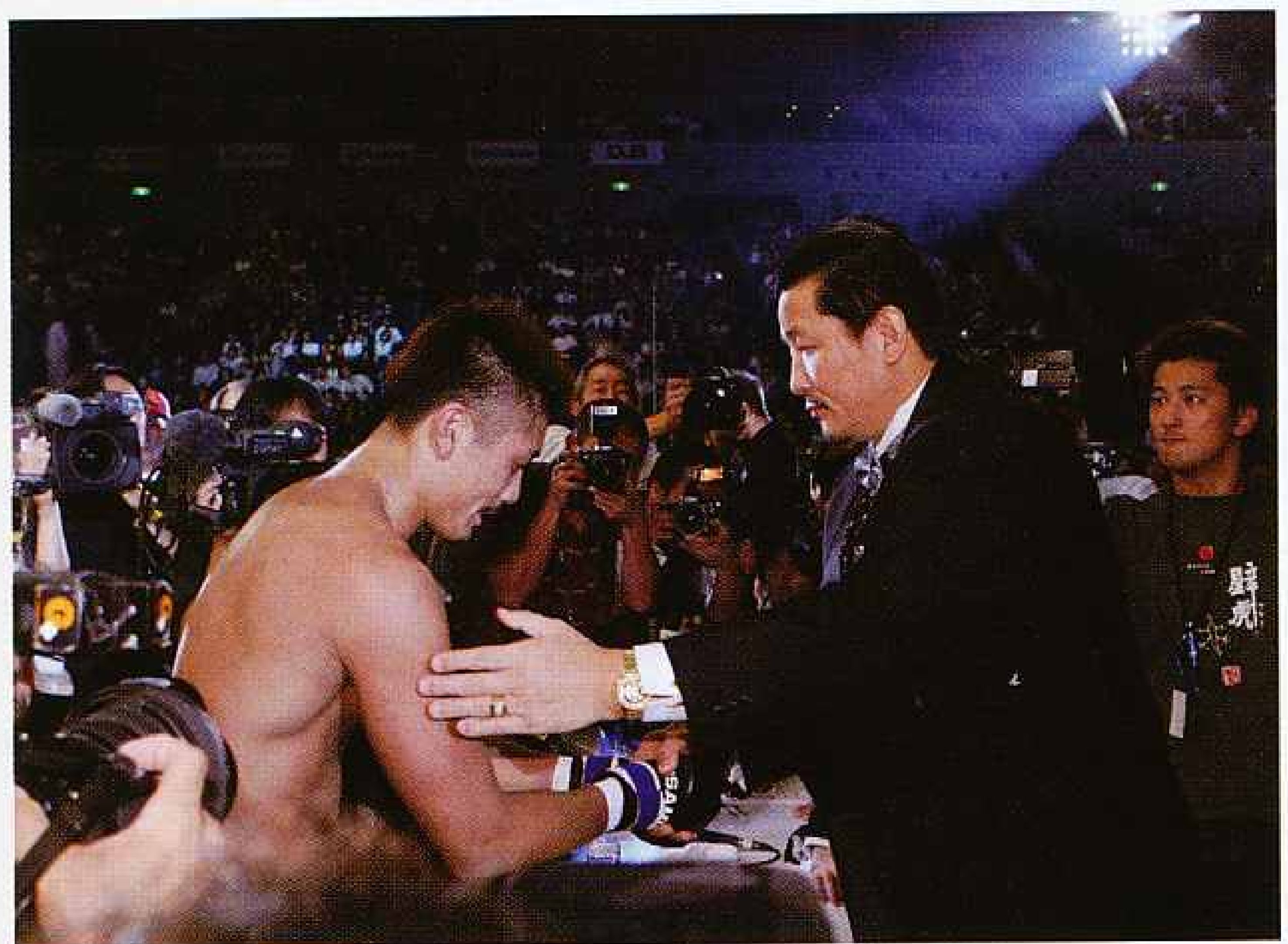
金子　そうですね。こんなチャンスは自分が芸能人だからもらったものだってことは充分にわかってる。ただ、それでも一生懸命やってみたいと思ったからやっただけなんで、見返りも何も望んでないですよ。だから、会見に出ることはなんてことはない。だって、テレビだってそうでしょ?「恋人いるんですか?」「いません」って言ってその直後に結婚したりする芸能人だっているんだから。「そのときは言えなかったんですよね」ってことなわけでしょ?

――つまり、テレビだったり収録現場と一緒で、金子さんは興行の中でも自分の役割を考えていたんですね。

金子　役割という部分もあったけど、自分がやりたいからやってるだけなんだけどね。べつにピエロになりたくてやってるわけじゃなくて、みんなに応援してもらえれば、それはそっちのほうがいいですよ、当然（苦笑）。

――ちなみに、PRIDEは一回きりの契約だったんですか?

金子　いや、「次はどうしようか」という話をしてて、9月か10月のPRIDEに出るために修斗のジムでルミナくんとか



金子賢の『HERO'S』参戦に怒濤の非難を浴びせた前田日明。「アマチュアからやれ!」という厳しい声を飛ばしたが、所戦後には写真のように"和解"の握手を交わした。

べつにピエロにはなりたくはなかった
応援してもらえるならそっちのほうがいいですよ

リオン（武）くんとかマモルくんとかと練習してて。だけど、突然PRIDEのテレビ放送がなくなったでしょ?　事務所的にも格闘技は2年間だけっていう約束だったし、テレビがないということに難色を示して。でもしょうがない、そこは芸能人だから。

――さすがに芸能活動にならないことには……ってことですね。

金子　たとえば「金子はテレビがないと試合しねえのか?」って批判されたら、こっちは「すいません!!」と謝るしかないよね。そもそも一般人だったら僕はあの場には出られてませんし、芸能人としてはテレビがないと意味がないから。だから、PRIDEにテレビがなくなって、出られるかわからないって話になったときに、K-1サイドから話をもらったんですよ。それで『HERO'S』に出た、と。

マネージャー　補足すると、そこは事務所的に相談してた方が、PRIDEではEGに話をしてくれたんですよね。もちろん、DSEにもお話をして円満にまとめたと思うんですけど。で、最初はフジテレビで放送しているK-1WGPの中で試合ができればってことだったんですよ。

――それは谷川（FEG代表）さんにお話をうかがったときも言われてましたね。

マネージャー　それで、K-1でワンマッチをやるという話もあったんですけど、金子本人は「それじゃ意味がない」って。要するに、立ち技競技の中での余興でしかないじゃないか、と。だから、最終的に『HERO'S』に出させてもらうことになったんですよね。

――それで、10月の『HERO'S』で所（英男）選手と闘うことになるわけですね。

金子　ホントはね、所くんじゃない選手だったんですけど、ま、いろいろあって……。

――それも聞いていた話と違うところがあったわけですか?

金子　うーん、言いくるめられたというかなんというか。

――谷川黒魔術（笑）。

金子　だって、そこはベネットのときと一緒で、僕が勝てる確率はかなり低いわけでしょ?　所くんは一流選手なわけだから、普通に同じ土俵で闘えるわけがないじゃないですか。でもまあ、テレビにはやらなきゃいけないことがあるから……。ただ、あのときは一番勝ちたいって気持ちが強かったし、「もしかしたら」って気持ちがあったんですけどねえ。で、絶対に殴りにいってやる!　って思ってたんだけど、いきなりタックルだったでしょ?　だから、僕的には「ああ、殴りできてほしかったなあ」って。

――金子さんの参戦に噛みついていた前田（日明『HERO'S』スーパーバイザー）さんも、所選手に「ボコボコにしろ!」とか言ってたりしましたもんね。

金子　そう!　だから、「ちょうどいいや!」って思ってたんだけど。

――その前田さんの批判はどういう気持ちで聞いてました?

金子　本当に右から左です（アッサリ）。

――ワハハハハハ!　大人ですねえ。

金子　自分はあんまりそういう面倒くさいことってイヤなんですよ。しかも「僕は何もしてないのに、なんで怒られるんだろ?」って。要するに、敬意を払えということだったと思うんですけど。

—前田さんは「挨拶がない」と怒ってましたね。

金子　でも、僕は前田さんが『HERO'S』でどういう立場の人間か知らなかったんですよ。出場選手の関係者かな、と。谷川さんはプロモーターだとわかるから「使ってくれてありがとうございます！」って挨拶できるんですけど、前田さんは……。

金子　だから急に「挨拶がない」って言われても……。どの地位にいるのかも僕にはわからないですよ。なんていう肩書きでしたっけ？

—うーん、確かに難しいですね（苦笑）。えー、『HERO'S』スーパーバイザーです。

金子　スーパーバイザーの意味がまずわからない（笑）。で、所戦の一時間前ぐらいだったかな、桜庭さんが「賢くん、ボク付き合ってあげるから」って言ってくれたんで、前田さんに挨拶に行ったんですよね。そしたら船木さんもその部屋にいたんですよ。

—うわ！　それは非常に特殊な空間ですね（笑）。

金子　船木さんは僕がPRIDEに出るときにたまたま食事を一緒にする機会があって、「金子くん、殺す気でいきな」ってアドバイスをくれたんですよ。

—それは船木さんらしいなあ（笑）。

金子　「殺そうと思ってもレフェリーが止めてくれるし、絶対に殺せないから」と。そんな感じで凄く応援してくれてたんですよ。だから、前田さんがいる部屋に行ったときにも、苦しかったから船木さんをパッと見たんです。「助けて！」って。そしたら船木さんに「俺にはいま、どうにもできねえんだよ」みたいな顔されちゃって（笑）。

—ワハハハハ！　そういえば、髙田さんも金子さんにはあまりいい感情を持ってなさそうに見えましたよね。公の場で金子さんのことはいっさい触れていませんし。

金子　髙田さんは口もきいてくれなかったから。

—髙田道場に練習に行ったときも、そんな調子だったんですか？

金子　あのときはもうね、（スパーリングで）完膚無きまでに叩きのめされて。あれって髙田さんが道場生に「おもいっきりやれ！」って言ったんだろうなと思うんですよね。

—ある種のプロの洗礼というか。

金子　それで髙田さんが「一度帰って考え直しなさい」と。髙田さんはこんなヤツ相手にしてるヒマはねえ！　みたいな感じだったから、「ごめんなさい。もう帰ってるヒマないんで、これから教えてください」って。で、その翌日からは地獄のような特訓ですよ。髙田さんはチョー厳しくて、しゃべったこともないですもん。



かねこ・けん■1976年10月19日、東京都出身。北野たけし監督作品・映画『キッズリターン』で第20回日本アカデミー賞・新人賞を受賞するなど、俳優として活躍。格闘家としては05年『PRIDE男祭り』でデビューし、『HERO'S』移籍後は所英男、アンディ・オロゴンと拳を交える。その後、格闘家としての活動は休止し再び俳優としての活動を再開。183cm、73kg。

一回どころじゃなくて全部勝ちたかった!!
いまでもリングに上がりたいと思ってますから

—やっぱり髙田さんは金子さんのPRIDE参戦に関して反対されていたと思いますか？

金子　「PRIDEには出さない」ってずっと言われてました。でもやるしかなかったですから。

—話を戻すと、前田さんや格闘技マスコミからは「アマチュアの大会からやり直す気はないのか？」という疑問も飛びましたよね。

金子　それも右から左でしたけどね。だって、マスコミが言うのは簡単ですよ。でも、本人は違うから。アマチュアでやるっていっても、自分の年齢を考えたときに、はたして本業としてメシを食っていけるのか？　ってことも考えるわけじゃないですか。俳優の仕事はストップしてるんだし。それに、事務所と格闘技は2年という約束だったから。事務所からすると僕は商品なわけだから。自分勝手もいい加減にしろって感じだし。

—いまのところ06年末の『Dynamite!!』アンディ・オロゴン戦でプロ格闘家としてのキャリアは止まってるわけですけど、その後、格闘技は？

金子　いまでも練習はしてますよ。去年の夏は立ち技ばっかやってて。仕事しながら6月ぐらいから立ち技を始めたけど、練習は9月ぐらいからやってないかな。あのあとアンディは頑張ってるからねえ。あそこで勝ってたらなあって思いはちょっとありますよ。

—格闘家としては、一回でも勝ちたいというのはあったんじゃないですか？

金子　いやいや、一回どころじゃなくて全部勝ちたかった!!　いまでもまたリングに上がりたいとは思ってますから。でも、今度は相手に関しては絶対に妥協したくない。

—PRIDEや『HERO'S』に上がるために、いろんなレギュラー番組を降りて仕事をストップしたじゃないですか。それについてはどう思ってました？

金子　それはなんの悔いもないですね。それで仕事がなくなっても、それはしょうがない。

—やりたいことがやれたからいいやっていう？

金子　ただ、やっぱ格闘技をやってきたから、リングに立たなくても格闘技に携わりたいとは思ってますよ。そこは積極的にいきたい。だって、僕からすれば、ちゃんと自分の身体で勉強したこともない、なんの説得力もない人が「格闘マニアです」って言ってたりするんだったら、肌を合わせた僕が「この人はここが強かった！」とか言えるわけだから。

—そういう意味では、金子さんは名だたる選手と練習されてますもんね。

金子　本当に一流選手ばっかりですよ。シュートボクセだって、（ルイス・）アゼレードとかに会うと「オー、カネコ～」みたいな感じで挨拶してくれるからね。すげえなあって（笑）。格闘技に関しては本当に真剣にやってたってことを言えればいいですけどね。わかってもらいたいとか、そんなことはまったく思ってないですけど。

—いや、今日は舞台裏のお話が聞けて大満足です！

【08年1月30日／都内某所にて収録】

KEN KANEKO



金子賢の話に駆け引きなどはほとんどなく取材班が驚くような事実が次々に飛び出した

ここまで興味深いインタビューはひさしぶりだった。目の前にいる金子賢が何か発言するたび、つまりインタビューのあいだ中、聞き手である筆者の頭の中では「へぇ〜」音が鳴りっぱなしだった（古すぎ）。

インタビューページにも掲載されているとおり、筆者は『kamipro Hand』での連載「kamipro事件簿」で、「金子賢はPRIDEファイターだったのか？」という章を今年の2月から始めている。そのために年明け以降、さまざまな関係者に話を聞いてきた。皆、「なんでいま、金子賢の話なの？」と笑いながら、それぞれの立場で見た当時の話を聞かせてくれた。その内容は、連載で明らかにしていったとおりだ。

2年以上前に少しだけ格闘技界に関わった〝異分子〟について調べていくにあたり、まず周辺取材から固めていくという手法をとった。手法も何も、こうした取材ではしごくあたりまえのやり方

―kamipro事件簿「金子賢はPRIDEファイターだったのか」取材後記―

格闘家・金子賢の〝真実〟はどこにあったのか

文／高崎計三

なのだが、セオリーだからそうしたというより、我々に「きっと、本人の取材は無理なんじゃないか」という気持ちが最初からあったからこそだった。

いやしかし、まさしく「やる前に負けること考えるバカいるかよ！」バチーン！である。取材を重ねていくうちに「本人に話が聞けるかも……」ということになってきた。関係者から紹介していただいたツテをたどっていくと、「本人が話したがってる。取材は全然OK」という意外な展開に。これで「周辺取材でこれだけいろいろわかって、本人に話を聞ければ本当の〝真実〟に迫れるんだろうけど、何しろそれは叶わなかったからこれにて……」という、我々が当初思い描いていたかなり消極的なエンディングはお蔵入りすることになった。もちろん、これなら大歓迎だ。

はたして、都内某所で時間を取ってくれた金子賢本人は、「何がどうしてああなったのか」を可能な限り話してくれた。そこに駆け引きなどはほとんどなく、取材班が驚くような事実が次々に飛び出した。

しかしその一方で、やや冷静な自分がいたことも確かだ。

いままで、いろんな人に聞いた内容とかなり食い違う……。

当の本人が話しているんだから、こちらが〝真実〟〝真相〟なのだろうか？だとしたらいままでに聞いた話はいったい……!? 驚き、笑いつつも「これ、どうやってつじつまを合わせればいいんだろう？」と考える自分がいた。

だがまあ実際のところ、つじつまを合わせる必要などないのだろうと思う。関係者の話が「自分の立場ではそう聞いた」なのか「自分としてはそういうことにしておきたい」なのか、それとも本人の中で〝真実はこれ！〟になってしまっているのかはわからない。そしてそれは、金子賢の発言についてもじつは同様だ。だから連載については、インタビュー以後は「あとで話が食い違う」ことを承知の上で書いた部分もある。というより、そういう部分が多くなった。

「じゃあどれが本当の〝真実〟なんだよ！」と言われそうだ。それとも、「本人が語っているのが〝真実〟に決まってるじゃないか！」と言われるのだろうか？いやいや、じゃあそもそも〝真実〟ってなんですか？って話である。芥川龍之介の「藪の中」ではないが、これだからこそ人に話を聞いていくのはおもしろいのである。

もう一つ、興味深かったのは、金子賢本人に対する印象だった。なんせ会見や試合後など、格闘技関連の取材では謙虚というか消極的というか、「あまり語りたくない」というムードをピリピリと放出していた（多数の取材陣を前にするのが苦手というのもあるらしいが）。それが彼の、格闘技に対するスタンスなのだと思っていた。だから、時間が経ったいまも語りたくはないのではないかと想像していたわけだ。だがそんな印象も、話を聞けば聞くほどひっくり返された。「だって、あの場では謙虚にしてないとダメでしょ？」と言われれば、ぐうの音も出ない。

席を立つ前に、一つ聞いてみた。「こんなにしゃべっちゃったら、もしまたリングに上がるときにはもう謙虚に抑えてるわけにいかないんじゃないですか？」と。金子賢は、事もなげに答えた。「いや、ボクは抑えますよ」

金子賢、役者である。

※フジテレビプロデューサー清原氏（当時）に取材を試みた内容は、まだまだ続く『kamipro事件簿』にて掲載予定!

kamipro books

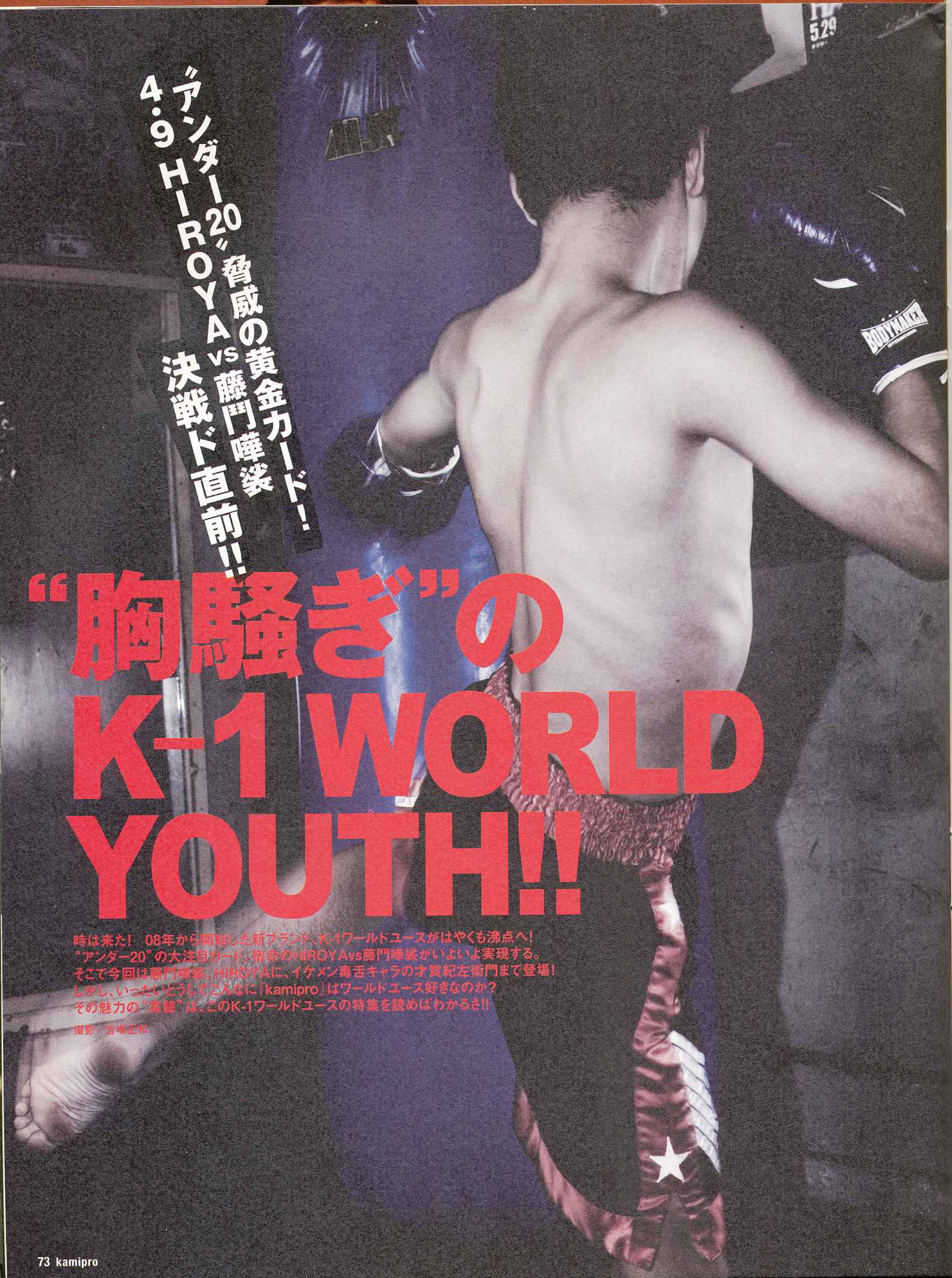
○月△日、
ターザンは死んだ!!
4月1日
エイプリルフールに
緊急出版!!

生前
追悼 ターザン山本!

浅草キッド
いしかわじゅん
堀辺正史
更級四郎
松本晴夫
杉山頴男
谷川貞治
山口日昇
金沢克彦
市瀬英俊
小島和宏
菊地成孔
Oka-Chang
原タコヤキ君
椎名基樹
井上崇宏
堀江ガンツ
古関夢香



定価=1470円(本体1400円+税)
B6変型判 304ページ



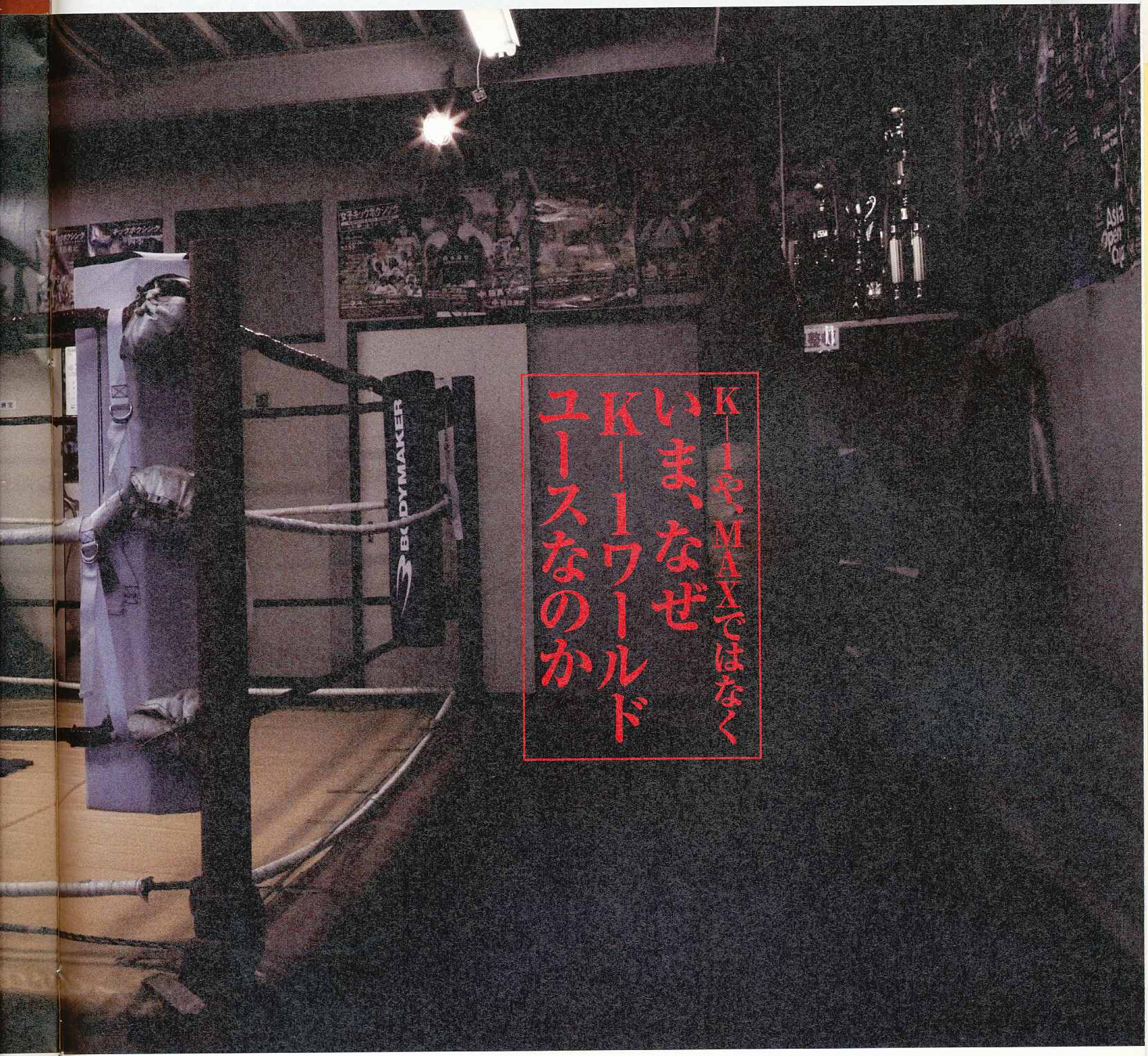
“アンダー20”脅威の黄金カード！
4.9 HIROYA vs 藤門嘩裟 決戦ド直前!!

“胸騒ぎ”の K-1 WORLD YOUTH!!

時は来た！　08年から開始した新ブランド、K-1ワールドユースがはやくも沸点へ！
“アンダー20”の大注目カード、宿命のHIROYAvs藤門嘩裟がいよいよ実現する。
そこで今回は藤門嘩裟、HIROYAに、イケメン毒舌キャラの才賀紀左衛門まで登場！
しかし、いったいどうしてこんなに『kamipro』はワールドユース好きなのか？
その魅力の“真髄”は、このK-1ワールドユースの特集を読めばわかるさ!!

撮影・吉場正和

K−1や、MAXではなく いま、なぜK−1ワールドユースなのか



いまでは、すっかり格闘技色が強い『kamipro』だが、もともと〝世の中とプロレスする雑誌〟というコピーで誕生したように、プロレス雑誌としての出自を持っている。

かつて、ヘビー級戦線にマーク・ハントやボブ・サップが台頭してきた際のK−1を本誌が取り上げていたときも、〝プロレス〟というキーワードを軸に取材していたし、当時のK−1には良質の〝プロレス〟が見えたからこそ、取り上げなければならない対象だった。

つまり本誌の本質は、〝プロレス〟という概念を常に追い続ける部分にあり、逆にプロレス団体でも、本誌が考える〝プロレス〟を感じさせないものは取り上げる気はない。逆にジャンルが違えども〝プロレス〟的なものは、ドンドン取り上げる用意がある。だからこそスピリチャルな世界に旅立った大向美智子や、韮澤さんのUFO談義も取り上げているわけだ。……え？　それにしたってページを割きすぎだって。まあまあ、落ち着いて。

そういう意味でここ数年、谷川さんは毎号出ているが、K−1そのものにはアプローチしてこなかった。失礼な話ではあるが、確かにK−1のモンスター路線などでは、会見で乱闘劇をくり広げるなど〝プロレス〟的な打ち出しは存分にあったものの、観る側を本気にさせる勝負論や対立概念という面では本誌が追い求める〝プロレス〟と微妙な距離感があった。

ところが、ここにきて我々の心を捉える新しい〝プロレス〟が突如、誕生した。K−1やK−1MAXですら積極的に取り上げない本誌が、取り上げなくてはならない刺激的な舞台、それがこのK−1ワールドユースなのだ。

当初は、〝魔娑斗2世〟HIROYAを中心に10代の選手たちが集結する場として、谷川代表が「ジャニーズJr.みたいにしたいなぁ〜」とほくそ笑む舞台として立ち上がった。だが、〝絶対的主役〟のエリート・HIRO





YAを軸に、極真魂荒ぶる加藤会長の愛弟子であり70年代のスポ根マンガを地でいく超ストイックな藤門嘩裟や、イケメンながら関西弁で毒舌を爆発させる才賀紀左衛門など、わかりやすいキャラが勢揃い。またHIROYA vs藤門嘩裟の会見では藤門嘩裟が一言、「負けません！」と真顔で断言すれば、HIROYAは「俺には勝てない」と突き放す舌戦を展開し、K－1ヘビー級戦士が太刀打ちできない緊迫感を醸し出す。人を惹きつける人間模様が渦巻いているし、10代だけの一瞬の輝きという期間限定の要素も魅惑的なのだ。

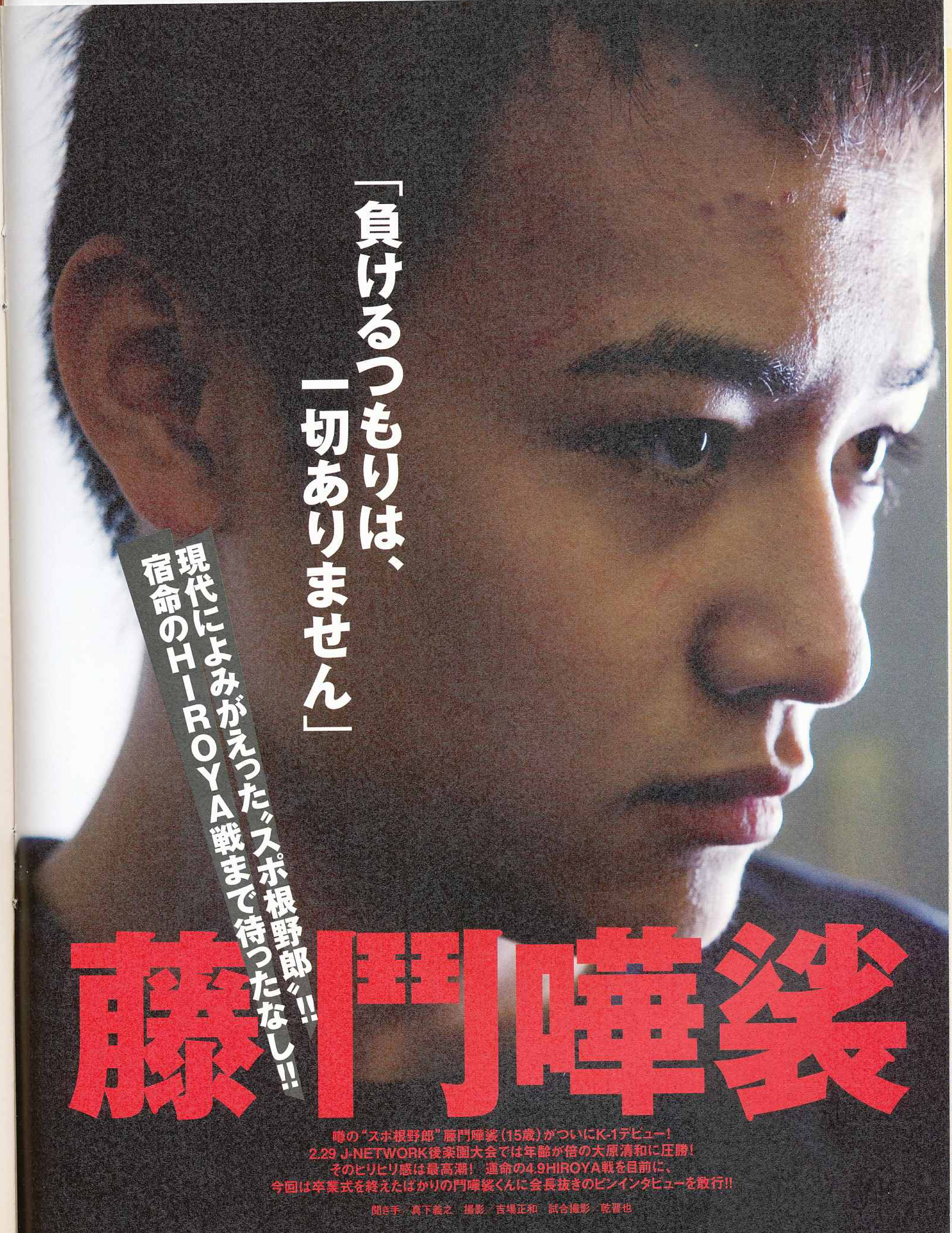
はかなくて、危うい世界――。10代の選手同士の対戦という安全面や人前で過剰に大人ぶることへの危うさや、多感な10代が競技へ没頭することへの危うさもはらんでいるが、そのいびつさも含めて、いい意味でスリリングだ。格闘技にありがちな"内"に向かう危うさやいびつさではない。"外"に向かうから開放感につながっている。この先、彼らはリングで人間性を剥き出しにし、いままで接することのなかった経験が続々と待ち受けているのだろう。

フィル・バローニも言うように「人生は残酷なもの」だ。誤解を恐れずにいえば、彼らにこの先訪れるであろう挫折をどう跳ねのけるかを見てみたいし、それは『DREAM・1』でカルバンとの試合が悪夢の結果に終わった青木真也と通じる部分でもある。

4月9日のHIROYA vs藤門嘩裟戦。ここまで緊張感に包まれた試合にはめったにお目にかかれないし、ここまで挑発し合った以上、どちらかがもの凄く傷付いてしまう恐れもある。だが観る側の勝手な言いぶんとしては、そのリアルな現実に直面する瞬間こそが見てみたい。

そのとき、少年たちは自分の運命にどう対峙するのか。だからこそ、いまK－1ワールドユースなのである。

（ジャン斉藤）



「負けるつもりは、一切ありません」

現代によみがえった〝スポ根野郎〟!!
宿命のHIROYA戦まで待ったなし!!

藤門嘩裟

噂の"スポ根野郎"藤門嘩裟（15歳）がついにK-1デビュー！
2.29 J-NETWORK後楽園大会では年齢が倍の大原清和に圧勝！
そのヒリヒリ感は最高潮！　運命の4.9HIROYA戦を目前に、
今回は卒業式を終えたばかりの門嘩裟くんに会長抜きのピンインタビューを敢行!!

聞き手／真下義之　撮影／吉場正和　試合撮影／乾晋也





—鬥嘩裟くん！　今日は『kamipro』3回目の登場にして、加藤（重夫）会長抜き、初のピンインタビューなんですが……。あれ、表情が少し暗いですね？

鬥嘩裟　ちょっと、さっき会長に怒られてしまって……。

会長　今日はジムまで走ってくるって言ってただろ！　すぐに忘れちゃってさぁ～！（と厳しく注意して、そのまま奥の部屋に行ってしまう会長）。

鬥嘩裟　そんなこと言ったかなぁ……（と首をかしげて）。

—今日は夕方から雨が降ってますから、確かに走ってくるのはキツイですよね。まぁ、会長は「昔はどしゃぶりだって、雪だって走ってましたもんだ！」とおっしゃってましたけど（笑）。でも今日は中学校の卒業式の日に、おジャマしてしまってすみません。

鬥嘩裟　いえ、大丈夫です（淡々と）。

—で、まずは本日の卒業式のことをうかがいたいんですが、いかがでした？

鬥嘩裟　ちょっと緊張しましたね。

—ほぉ～。試合でも緊張しない鬥嘩裟くんが緊張しましたか。

鬥嘩裟　はい。やっぱり一つの区切りの日なんだなって。





08.2.29 J—NETWORK

［54.5キロ契約 サバイバルマッチ］
◯藤鬥嘩裟 vs 大原清和×
［3R 判定3-0］

鬥嘩裟くんは、掲げた腕をブンブン振り回しながら、ヤル気マンマンの入場！ もちろんセコンドには加藤会長の姿。年齢が倍の大原を1Rから果敢に攻め立て、顔面とボディを打ち分けた脅威の前蹴りを連射！ 2R以降もヒジ、ヒザも交えて華麗に攻めまくる。途中、大原のパンチでうしろを向く場面もあったが、手数では圧倒！ 判定でも3-0という完勝劇を展開し、4.9 HIROYA戦に弾みをつけた。

—そういう感慨はあった、と。僕も中学校の卒業式で『蛍の光』を聞いて、泣きそうになったのを思い出しますよ。

鬥嘩裟　あ、いまは『蛍の光』は流さないんですよ。

—え～っ！　卒業式の超定番、『蛍の光』を流さないんですか？

鬥嘩裟　ウチの学校は流していないですね。

—じゃあ、代わりに校歌を歌ったりするんですか？

鬥嘩裟　校歌とか『旅立ちの日に』とかを歌ってますね。

—やっぱり世代が違うなぁ～。昔は制服のボタンを後輩の女子にせがまれたりする光景がありましたけど、そういうのもない？

鬥嘩裟　あ、それはありますね。

—あ、そっちはある（笑）。じゃあ人気者の鬥嘩裟くんは大変だったでしょう？

鬥嘩裟　僕はなかったですね（キッパリ）。

—え～っ。絶対にありそうだけどなぁ。ちなみに卒業文集とかはあるんですか？

鬥嘩裟　それもありますね。

—その文集にはどんな文章を書いたんでしょう？

鬥嘩裟　僕は中学校の行事とかの思い出がないんです。試合や練習と重なってて。

—では、何を書いたんですか？

鬥嘩裟　タイトルとサインを書いて……それだけですね。

—書いたのはサインだけ？　そ、それはちょっとさびしいですねぇ。

鬥嘩裟　でも友だちがスペースにメッセージを寄せ書きしてくれました（微笑）。

—文集なのに寄せ書きスペースと化してましたか（笑）。男の友情を感じるいい話ですけど、今日も卒業式のあとは友だちと食事に行ったんですよね。

鬥嘩裟　行きましたね。教室で解散したあとに近くの公園でしゃべったり。

—公園で語り合うなんて青春だなぁ。ちなみに食事はどちらへ？

鬥嘩裟　『サイゼリア』っすね（笑）。

—おお、『サイゼリア』！　安くてウマイし、やっぱり中学生の聖地は『サイゼリア』です！　そこも男同士で？

鬥嘩裟　はい。クラスの友だち同士で行きました。

—ちなみに何を食べました？

鬥嘩裟　ドリアとかスパゲッティとか……。

—あ、いまは身体を大きくしている最中だから、自由に食べれるんですか？

鬥嘩裟　練習しながら調整してるんで、食べる量はあまり変わらないです。

—でも、54・5キロ契約だった2月29日の試合（J—NETWORK後楽園ホール、大原清和戦）では減量したんですよね？

鬥嘩裟　はい。でもホントに凄くキツイ減量はまだしたことはないんですけど。

—なるほど。ちなみに白状しますが、じつはこ～んなに鬥嘩裟くんをプッシュしている『kamipro』編集部も、その大原戦まで誰も鬥嘩裟くんの試合を観たことがなかったんですよ。

鬥嘩裟　そうなんですか。

—す、すみません！　でも初めて試合を観させてもらって驚いたんですよ。練習での超ストイックなイメージとリング上ではかなり違った印象があって。

鬥嘩裟　あ、そうですか？

—手をグルグル回しながらの入場とかも含めて、あんなにハッチャけてるとは思わなかったです。

鬥嘩裟　試合では「行かなきゃ」って気持ちで、集中してるだけなんですけど。

—入場シーンからして、「スイッチが入った！」って感じかなと思ったんですが。

鬥嘩裟　集中してるんで、試合のことはあまり覚えてないんです。

—あ、あまり覚えてない（笑）。でも試合では加藤会長が絶賛する、得意の前蹴りが何度も炸裂していましたけど、あんなに綺麗にズバズバ入るのは凄いですねぇ。

鬥嘩裟　そこも会長と練習したり、作戦を練った成果ですね（淡々と）。

—凄いなぁ。その試合前には、毎

「行かなきゃ」と集中しているので、試合のことはあまり覚えてないです



門曄裟くんが「負けません!」とキッパリと断言すれば、HIROYAくんは「僕には勝てない!」と不敵に言い放つなど、記者会見ではシュートすぎる舌戦を展開した両者。この異様なヒリヒリ感に谷川代表も「この個性は大人も見習わなければいけない」と期待を込めたコメント。

日20～30キロくらい走り込んだと聞いてますけど。

門曄裟　相当の距離を走り込みましたね。

―ちなみに会長は「バック走だって3キロ走らせてます！」と豪語してましたね。

門曄裟　はい。うしろ向きで走ってますね。

―それはどんなところで？

門曄裟　川沿いの土手とか、人通りの少ないところじゃないと危ないんで。そこで全力で走ってます。

―川沿いをバック走で全力疾走（笑）。しかも大川戦の前はラウンド数も50～60ラウンドやってたらしいですし、あいかわらず会長の練習プランは壮絶ですねぇ！

門曄裟　そこも自分は会長を信じてやるだけです（キッパリ）。

―凄いなぁ～。でも大原戦の前日は、あの厳しい会長が「今日はこれぐらいでいい」と言ってるのに、「もっとやりたい」と志願して30ラウンドもやったと聞いてます。

門曄裟　いつもどおり、練習はやったほうがいいのかなって。

―そこで手をゆるめちゃいけないって感じですか？

門曄裟　ええ。試合前でも練習量を減らすのは自分の中でおかしいことなんです。

―試合前でも関係ねぇ！　と。それで、いよいよ昨年の大晦日、幻の一戦であるHIROYA戦が正式決定しましたね。

門曄裟　そこも決まったからには、やるだけです（キッパリ）。

―いいなぁ～。記者会見でも10代の選手とは思えない、K―1 MAXやヘビー級選手も顔負けなくらい、超ピリピリしてましたね。会見ではHIROYAくんと睨み合ってましたけど、そのときの気持ちは？

門曄裟　「コイツが僕の相手なんだな」って（淡々と）。

―あらためて実感した、と。コメントでは一言だけ「負けません！」とキッパリ断言して会場をどよめかせてました。

門曄裟　試合の前から「負ける気」を持っちゃダメだと思ってますから（と真剣な表情で）。

―アントニオ猪木さんふうに言うと「やる前から、負けることを考えるヤツがいるかよ！」って感じですかね。

門曄裟　ええ。「そういう気持ちを持ったら、ホントに負けちゃう」と会長にも言われますから。

―なるほど。あの言動にも会長の指導もあったわけですね。

門曄裟　僕はそういう気は一切ないんでハッキリ言いました。

―シビれるなぁ～。でもHIROYAくんもそういう空気を察知したのか「いまの僕には勝てない！」と断言してましたけど。

藤門曄裟



ふじ・つかさ■1992年9月18日生まれ。埼玉県富士見市出身。小3より藤ジムでキックボクシングを始める。03年に『天空』で史上最年少の14歳でプロデビュー。07年11月にはJ-NETWORKのフライ級トーナメントで優勝をはたす。07年大晦日の『K-1甲子園』には義務教育期間が理由で無念の出場ストップ。中学を卒業したばかりの4月に、幻のHIROYA戦がついに実現する。173cm、53kg。

門曄裟　……まぁ、やってみればわかるんじゃないですか？（微笑）

―ダハハハハ！　あるインタビューでは門曄裟くんのことを「ライバルではない」とか「前蹴りもタイ人と比べたら、まだまだ」とか、「経験が違う」とかHIROYAくんは、けっこう挑発的なコメントを出されてるんですけど。

門曄裟　……本人が言ったことならいいんじゃないですかね（と冷静に）

―なるほど（笑）。

HIROYA戦？　やってみれば、わかるんじゃないですか（笑）

門曄裟　やっぱり試合をやれば、結果はちゃんとわかるんで（いたって冷静に）。

―焚き付けるつもりはないんですけど、HIROYAくんは「（存在を）消してやる」とまで言ってて、逆に凄い意識してるんだなぁと驚いたんですけど。

門曄裟　（首をかしげながら）べつに……。それを聞いても何も思わないですね。

―とにかくやればわかる、と（笑）。ちなみにHIROYAくんは2月のK―1ワールドユースの試合では「テストがあるから、試合ができないかもしれない」という衝撃発言もあったんですが。

門曄裟　あ、それは親や会長から聞きました。

―その話を聞いて、どう思いました？

門曄裟　「また試合がなくなるのかなぁ」って少し心配しましたけど。

―テストで試合が延期されたら格闘技史上、前代未聞の出来事でしたけどね（笑）。

門曄裟　確定ではなかったんで、自分のやることをやっておこうと思ってました（淡々と）。

―偉いなぁ～。K―1ではヒジなしのルールですが、不安や難しさはないですか？

門曄裟　そこは試合までに、会長と作戦を立てて対応できるようにしたいです（キッパリ）。

―とにかく会長にすべてを預けている！　と。今回は広島の大会ですけど、東京で試合をやりたい気持ちはありました？

門曄裟　場所は関係ないですね。ただ、応援してくれる人は大変だなって。

―そうですよねぇ。門曄裟くんファミリーはみんなで広島に駆けつけるんですか？

門曄裟　そこは「心配しなくっていいよ」と言われてます。

―ああ、ご家族は余計な心配をかけたくないんでしょうね。

門曄裟　ただ僕の前では「頑張れ」と応援してくれるけど、本当の気持ちはちょっとわからないです。

―やっぱり「ケガはしてほしくない」とか……。

門曄裟　ときどき感じますね。

いま、ペットを飼っているんですよ……ウーパールーパーを（笑）

——まだ15歳ですからねぇ。高校は通信でキックを本業にするということに、ご両親の反対はなかったですか？

鬥嘩裟　ないですね。自分で決めた道だから「いいんじゃないの」と。

——なるほどねぇ。ちなみに鬥嘩裟くんには妹さんがいらっしゃるんですよね？

鬥嘩裟　（表情がパッと明るくなって）あ、妹はいま小学校2年生ですね。ただ、歳が離れすぎちゃっていることもあって、あんまり僕の言うことを聞かなくて困ってるんですけど（笑）。

——へぇ〜。さぞかし、かわいいんでしょうねぇ。鬥嘩裟くんの試合も観たことはあるんですか？

鬥嘩裟　ありますね。ただ、試合中は「頑張れ〜！」とか普通に応援してくれるんですけど、僕がヒジでカットされて流血したときなんかは「なんで、こんな危ないことしてるんだろう」って不思議に思ってる節があるんですよ。

——それは心配でしょうねぇ。ちなみにブログによると、鬥嘩裟くんはその妹さん経由で、いまかなり珍しいペットを飼っているみたいですね。

鬥嘩裟　あ、そうなんですよ！　じつはちょっと……ウーパールーパーを（笑）。

——ダハハハハハ！　ミスターストイックな藤鬥嘩裟がウーパールーパーを飼ってますか（笑）。それも一番最初は妹さんが飼ってたんですよね。

鬥嘩裟　そうなんですよ。妹がお父さんと出かけて、たぶんおねだりして買ってきたと思うんですけど。そのとき僕は家にいなかったんだけど、家からメールがきたんです。突然、なんの前置きもなしに「ウーパールーパー、買ったよ！」って。こっちは「なんなんだ、それは！」って（笑）。

——意味がわからないですよね（笑）。家に帰って、ウーパールーパーを実際に見ていかがでした？

鬥嘩裟　いや〜。「こんな生き物がいたんだ……」って。

——ダハハハハハ！

鬥嘩裟　いままで見たことがなかったんでビックリしましたね。最初は、「魚の一種なのかなぁ」と思っていたんですけど（笑）。やっぱり驚きました。

——それで、いまは鬥嘩裟くんがウーパールーパーの世話をしている、と。

鬥嘩裟　はい。妹は世話に飽きちゃったんですけど、せっかくなんで。ちょうど僕がデビューしたときに買ってきたこともあって、ちょっと親近感もあるというか。

——ウーパールーパーと一心同体状態でしたか（笑）。ちなみに名前はあるんですか？

鬥嘩裟　妹は「パウルちゃん」って言ってるんですけど、僕は「ウーパー」とか、わりと適当に呼んでますね（と照れながら）。

——ズバリ、そのまんまですね（笑）。いや〜。しかし普段は冷静だったり、淡々としている鬥嘩裟くんですが、妹さんやウーパールーパーの話になると、とたんに食いついてきますねぇ。

鬥嘩裟　いや、そうでもないと思うんですけど……（と照れながら）。

——ブログでは、そういった鬥嘩裟くんの日常が日々更新されてますけど、ブログを書くのは楽しいですか？

鬥嘩裟　楽しいですけど、書くことがないときは困りますね。

——絵文字とかもけっこう入ってますし。

鬥嘩裟　最初はシンプルだったんですけど、お母さんに「もっと絵文字とか入れたほうがいいよ」って言われて。

——いや、あの絵文字はグーですよ（笑）。ブログでは、なぜか『山田うどん』の宅配についても、熱く書いてありましたね。

鬥嘩裟　そうなんですよ。あれは親が広告を見つけて、宅配を頼んだんですけど……。あのときは減量中だったので、それほど食ってないんですよね（と残念そうに）。

——そうですか（笑）。じゃあ、お母さん、HIROYA戦が終ったら、たらふく『山田うどん』を食べさせてあげてください！

〈ここで、一転して上機嫌の会長が登場〉

会長　おーい！　もうインタビューは終わったの？

——会長、お疲れさまです！　会長からもHIROYA戦に向けて一言だけお願いします！

会長　ん、俺？　俺はもうな〜んも考えてないッ！

——ダハハハハ！　なんも考えてない（笑）。

会長　ただ、2月の試合はコイツにとってかな〜り重要だったから。あれを乗り越えたんだから、もうあまり心配はないですよ。ましてや練習もここからド〜ンドン追い上げていきますから！

——う〜ん。またまた幻想がふくらむなぁ〜。

会長　期待してくださいって！　向こうだって一生懸命やってるだろうから、いい試合になるんじゃないですか。この勢いなら、大人の試合を食っちゃうと思うけどさ！

——いや〜。心の底から期待してますよ。

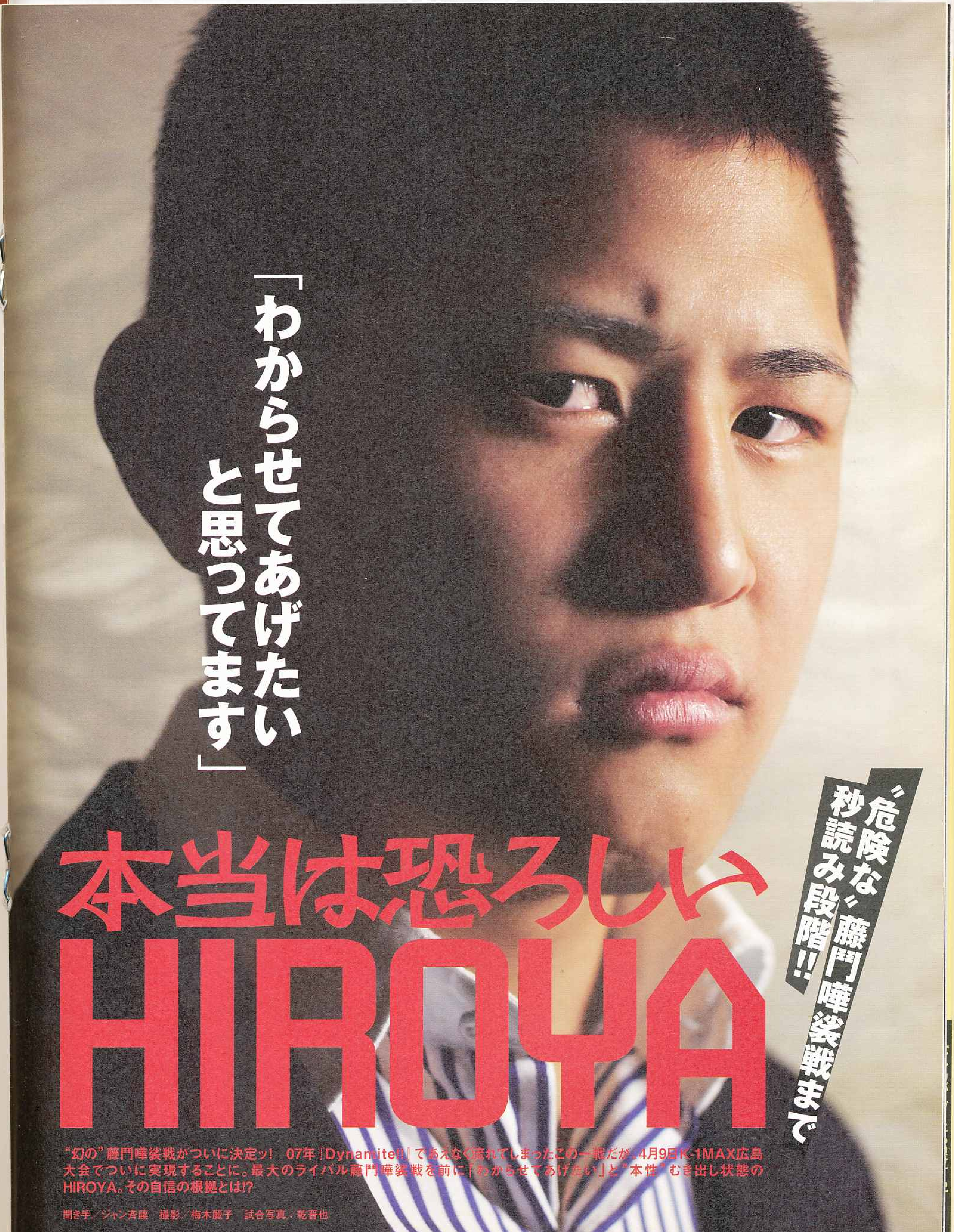
会長　任せてよ！　コイツは誰だって、ぜ〜んぶふっ飛ばしちゃうんだから!!（鬥嘩裟くんに向かって）なっ！

鬥嘩裟　よろしくお願いします！

【08年3月14日／埼玉県・藤ジムにて収録】



どうだいこの笑顔！ いままで超ストイックかつ、淡々とした受け答えで知られていた鬥嘩裟くんだが、今回の取材で妹やウーパールーパーの話を振られると、一転して15歳らしい素敵なスマイルを披露。こうしたギャップもK-1ワールドユース世代の魅力の一つといえるだろう。



本当は恐ろしいHIROYA

“危険な”秒読み段階!! 藤門嘩裟戦まで

「わからせてあげたいと思ってます」

“幻の”藤門嘩裟戦がついに決定ッ！ 07年『Dynamite!!』であえなく流れてしまったこの一戦だが、4月9日K-1MAX広島大会でついに実現することに。最大のライバル藤門嘩裟戦を前に「わからせてあげたい」と“本性”むき出し状態のHIROYA。その自信の根拠とは!?

聞き手／ジャン斉藤 撮影／梅木麗子 試合写真・乾晋也

まず自分が体験している練習環境を上回ることはないと思います

—今回は、今日の会見のためにタイから日本に戻ってこられたんですか？

HIROYA　いや、いま学校（タイのインターナショナルスクール）が1週間休みなんです。だから、その休みに今日の会見を合わせてもらったというかたちです。

—ちょっと早い春休みという感じですかね。

HIROYA　ええっと、よくわからないんですけど。

—よくわからないけど休み。いいなあ……。

HIROYA　いやいや、タイって休みが多いんですよ。今回は1学期の真ん中の休みみたいで。

—そのタイに武者修行のために渡ってもうすぐ1年になるわけですよね？

HIROYA　はい、だいぶ慣れました。

—ということは、タイ語もけっこうしゃべれるようになったんですよね？

HIROYA　いやあ、ペラペラとまではいかないです。ちょっとずつ覚えていってる感じです。

—学校の友だちとのコミュニケーションも問題ないと？

HIROYA　だいぶみんなと仲良くなりました。タイ人とか、韓国人とかとも。

—HIROYAさんが通っているのはインターナショナルスクールですよね。

HIROYA　そうですね。タイ人もいるし、白人もいるんですけど、英語が母国語の人とそうじゃない人でクラスが分かれてるんですよ。ボクは母国語が英語じゃないクラスです。

—HIROYAさんが一番仲良くなったのはどこの国の方なんですか？

HIROYA　韓国ですね。イングリッシュネームでジェイクっていう名前なんですけど。たぶん、家族と一緒にタイに来てるんだと思います。

—HIROYAさんみたいに格闘技の修行のためにタイに来ている生徒っていないですよね。

HIROYA　学校にはもちろんいないですね。

—そういうことに対してみんなどんな反応なんですかね。やっぱり「アイツには手を出すな！　ヤバイぜ!!」みたいに一目置かれていたり？

HIROYA　いやあ、そうでもないですけど……（はにかみながら）。

—そうですか（笑）。しばらく日本を離れてみて、何か日本についてあらためて感じることとかありますか？

HIROYA　あのー、やっぱり日本は平和だなって（しみじみと）。



4月9日K-1MAX広島大会でついに実現するHIROYA vs 藤門嘩裟戦。カード発表記者会見ではHIROYAが「相手じゃないと思う」と吠えれば、藤門嘩裟「負けません!」と眼光鋭く吐いて捨てるなど、ジャニー谷川も報道陣もビビってたじろぐほどの緊張感に。

—確かに日本は平和です（笑）。

HIROYA　いや、タイもちゃんと平和なんですけど……。やっぱり自分だけの生活でいうと、日本のほうがラクだし。

—それは両親が身の回りの世話をしてくれるからということで？

HIROYA　はい。

—そういえば、普段の食事とかはどうされてるんですか？

HIROYA　昼は学校で、夜はジムで食べてるんですけど。学校のお昼はバイキングです。ジムではほとんどがタイ料理なんですけど。ボク、辛いのはちょっとしか食べられないんで。

—じゃあ、日本食が恋しくなるわけですね。

HIROYA　そうですね〜。タイ料理もマズくはないですけど、日本食と比べたら、ちょっと。焼肉とか食べたくなります。あと、すき焼きも（はにかみながら）。

—そういったお店はタイにはないんですか？

HIROYA　あるにはあるんですけど、あんまり行く機会もないし。レストランとかもけっこうありますけど、あんまり行かないですねぇ。

—なるほど。では、HIROYAさんはタイの生活をエンジョイされてないということでよろしいでしょうか。

HIROYA　いやいや、そんなことないですっ！　ジムに合宿しているアメリカ人とかもいて英語も凄く勉強できるし、タイ人と友だちになってタイ語も覚えられるし。ただ、あんまり遊ぶ時間もないんですよね。

—日本の高校生とかうらやましいでしょ？　みんな遊んでますよ。

HIROYA　うーん。

—ボクはうらやましいですけどね、凄く。

HIROYA　そ、そうですか。ボクも1週間ぐらいだったら日本の高校生活をすごしてみたいと思いますけどね。

—ボクは1年くらい代わりたいなあ……って、なんの話をしてるんだ。日本のことが気になったりしません？　タイでは日本のテレビ番組は観られないわけですし。

HIROYA　全然観られないですね。日本の本とかも全然ないんですよね。まあ、帰ってきたときにたくさん買って持って帰ったりはしますけど、あんまり読むヒマもないんで。ただ……、やっぱりお笑いとかはちょっと気になりますけど。

—あ、お笑いにはうるさい、と。

HIROYA　いやいや、そこまでは。

—HIROYAさんは誰が好きなんでしょう？

HIROYA　あのー、ダウンタウ



07年「Dynamite!!」で行なわれたK-1甲子園では、惜しくも優勝を勝ち取ることができなかったHIROYA。ほかのメンバーがカメラ目線でポーズを構える中、HIROYAは一人この表情。K-1ワールドユースはほかのリングとは"本気度"が違うのである!

引っぱっていくという気持ちまではないですけど自分が一番にはなりたいと思ってます

ンとかです（はにかみながら）。あと、若手の人もいろいろ。日本に帰ってきたときにテレビを観て、「あ、新しい人、出てきたんだ」という感じで（笑）。

—そこは気になるわけですね。

HIROYA そうですねえ。だから日本の高校生はみんな楽しそうだなって思いますけど。でもまあ、自分も充分いまが楽しいですから。

—そうですよね。今回の藤鬥嘩裟選手との対戦も盛り上がりそうですし。今回のように対戦相手ありきの会見って初めてじゃないですか。いままでだったら4人並んでK−1甲子園だとか、そういう発表だったと思うんですけど。かなり注目されてるという実感はありますか？

HIROYA どうなんですかねえ。でもまあ、プロは注目されてナンボだと思うんですけど、ボク自身は「まだまだだな」って思ってるんですけどね。

—まだまだというのは？

HIROYA 自分の選手としての実力もそうだし、それにまだ子どもだし……。

—何をおっしゃいますやら。こんなにヒリヒリした記者会見って最近はそうそうないと思いますよ。ひさしぶりに鳥肌が立ちましたね、ボクは（笑）。

HIROYA でも、あれは……自然となったことなんで。

—そこは意識したというよりも、いつの間にか臨戦態勢になったという感じなんですね。ちなみにこれまで友だちとああいう雰囲気になったりとかしたことは？

HIROYA な、ないです（はにかみながら）。

—そうですよねえ、ないですよねえ。でも、あそこまでのバチバチモードというのは、いままでの試合でもないんじゃないですか？　少なくとも記者会見という席では。

HIROYA そうですね。いままでは「頑張ります！」とか、そういうことしか言ってないような感じだったんですけど、今日は……。

—凄かったですよね（笑）。相手のことを本気で嫌ってるというわけではないんですよね？

HIROYA 本当に嫌ってる……というか、わからせてあげたいとは思ってます（キッパリ）。

—ほほう（笑）。つまり、HIROYAさんからすれば相手じゃないぜ！　と。

HIROYA そうですね（再びキッパリ）。

—なるほど、なるほど。鬥嘩裟選手と決定的に違う部分ってどういうところですか？

HIROYA まあ、練習環境にしても全然違うだろうし、いままで体験してきたことにしても、ボクのほうがかなり濃いと思うんですよね。

—経験が違うぜ！　と。タイでのハングリーな環境がそういう思いを奮い立たせるところもあるんですかね？

HIROYA それはそうですね。





同じジムの友だちも凄く頑張ってるし、自分もその環境で頑張らないといけないというところがあるし。まあ、タイの人は生活がかかってたりするので。

―勝ち負けが生活に直結しているわけですからね。

HIROYA 普段の生活からはそういうのは感じないですけど、でも実際はそうですね。ファイトマネーがないと食べていけないですし。だから、練習は本当にみんな必死です。試合前の練習は本当に凄いです。タイに行ってからはそういう部分も学ぶことができましたから。

―そういった現実を目の当たりにするのは、相当な収穫ですね。

HIROYA あと、ジムと学校の環境の違いも凄いんです。学校はお金持ちの人たちが多いんですけど、ジムのみんなはそうじゃないんで……。学校に通ってるタイ人は、やっぱり日本人に近いというか。

―でも、ジムに帰ると過酷な現実と闘ってる人もいるという。

HIROYA たまに凄い怒られてるときがありますし……。

―そういう選手からすると、HIROYAさんは恵まれてるいう目で見られます?

HIROYA まあ、タイの人は外国人に対しては誰でもお金持ちだという目で見ますよね。恵まれてるというか、お金持ってると思われます。「おまえ、ファイトマネーいくらなんだ?」とかも平気で聞かれるんで(苦笑)。

―ストレートだなあ(笑)。

HIROYA ハハハハ。

―で、おいくらもらってるんでしょう?

HIROYA ……え?

―いや、冗談です(笑)。今回、HIROYAさんが帰国されて、今日だけでもかなりの取材があったと思うんですけど、チヤホヤされるような環境に身を置いても、タイでの現実がある以上、舞い上がるということはないわけですね。

HIROYA はい。

―それと比べると、闘嘩裟選手はまだナマぬるいんじゃないかという感じですか?

HIROYA そう……なんですかね? というか、相手がどういう練習環境なのかわからないですけど、どんな練習をしててもまず自分が体験している練習環境を上回ることはないと思います。

―それは技術的な部分もすべて含めて?

HIROYA 含めてですね。

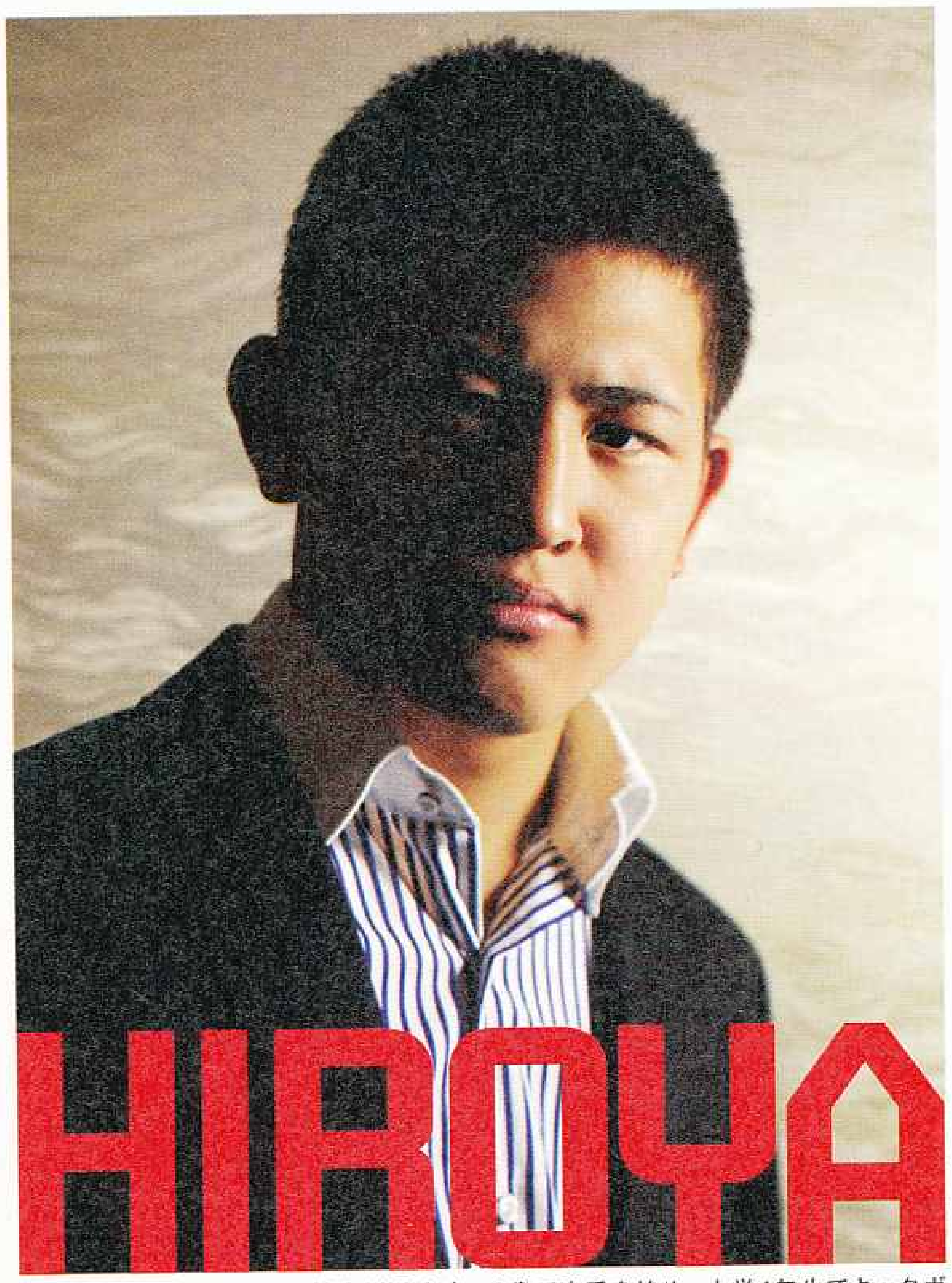
―この試合は〝魔裟斗二世対決〟って言われることがありますよね。でも、HIROYAさんにとっては「そんな枠にハメてくれるな」みたいな気持ちもあるわけですか?

HIROYA ……ま、試合やってみないと、みんな言いたいこと言うし、それぞれ言うこと違うと思うんで。

―はあ。

HIROYA なので、とにかく試合を観てもらいたいですね。やればわかると思いますので。

―とにかく試合を観ろ!と。



ヒロヤ■1992年1月6日、神奈川県出身。3歳で空手を始め、小学4年生でキックボクシングの練習をスタート。06年、魔裟斗のジムに押しかけて練習を見てもらったことがきっかけで"ジャニー谷川"の目に留まり、07年2月に15歳の若さでK-1デビュー。現在はタイへ渡りムエタイの修行中。164cm、60kg。

HIROYA まあ、言いたい人は言ってもいいですけど、試合を観てくれって感じです。ただボクは、そういう人たちがボクの試合を観たあとに何も言えなくなるような試合をしたいです。

―K-1MAXでいう魔裟斗選手みたいに、次代のK-1は自分が引っぱっていかなきゃという思いってありますか?

HIROYA そうですね。そうやっていかないと自分も将来食べていけないだろうし。やる以上は、そうしていきたいとは思ってます。なんというか、引っぱっていくという気持ちまではないですけど、自分が一番にはなりたいです。

―なるほど。そう考えると『Dynamite!!』のK-1甲子園で優勝できなかったことはかなりショックでした?

HIROYA ショックでしたね……。

―生まれてから一番ショックな大晦日というか、めでたくない正月というか。

HIROYA 明るくはなかったですね。髪の毛も切りましたし。でも、お父さんともいろいろ話をして反省しました。

―もともと、K-1甲子園やK-1ワールドユースはHIROYAさんが活躍したからこそできた舞台だったりするじゃないですか。それによっていろんな選手が出てきて、以前と比べてゴチャゴチャしてきたと思うんですよ。そういった状況に対しては正直どう思いますか?

HIROYA ほかの選手が出てきたことに関してはとくに何も思ってないです。でも10代の中では絶対に自分が一番で、ほかの人に負けてちゃ意味がないと思ってます。やっぱり一番最初に出てきた人間として、負けちゃダメだろうって。強くなっていかないと、同じレベルで終わっちゃうんで。それはイヤだから。

―いまいる選手で気になる選手っています?

HIROYA いやー、あんまりわからないですね。

―じゃあ、ほかの選手としゃべったことは?

HIROYA あのー、(才賀)紀左衛門さんとは……。しゃべったというか、話しかけてくれるので。

―あ~、わかります、わかります。かなり積極的にしゃべりかけてくる感じはしますね、紀左衛門は(笑)。

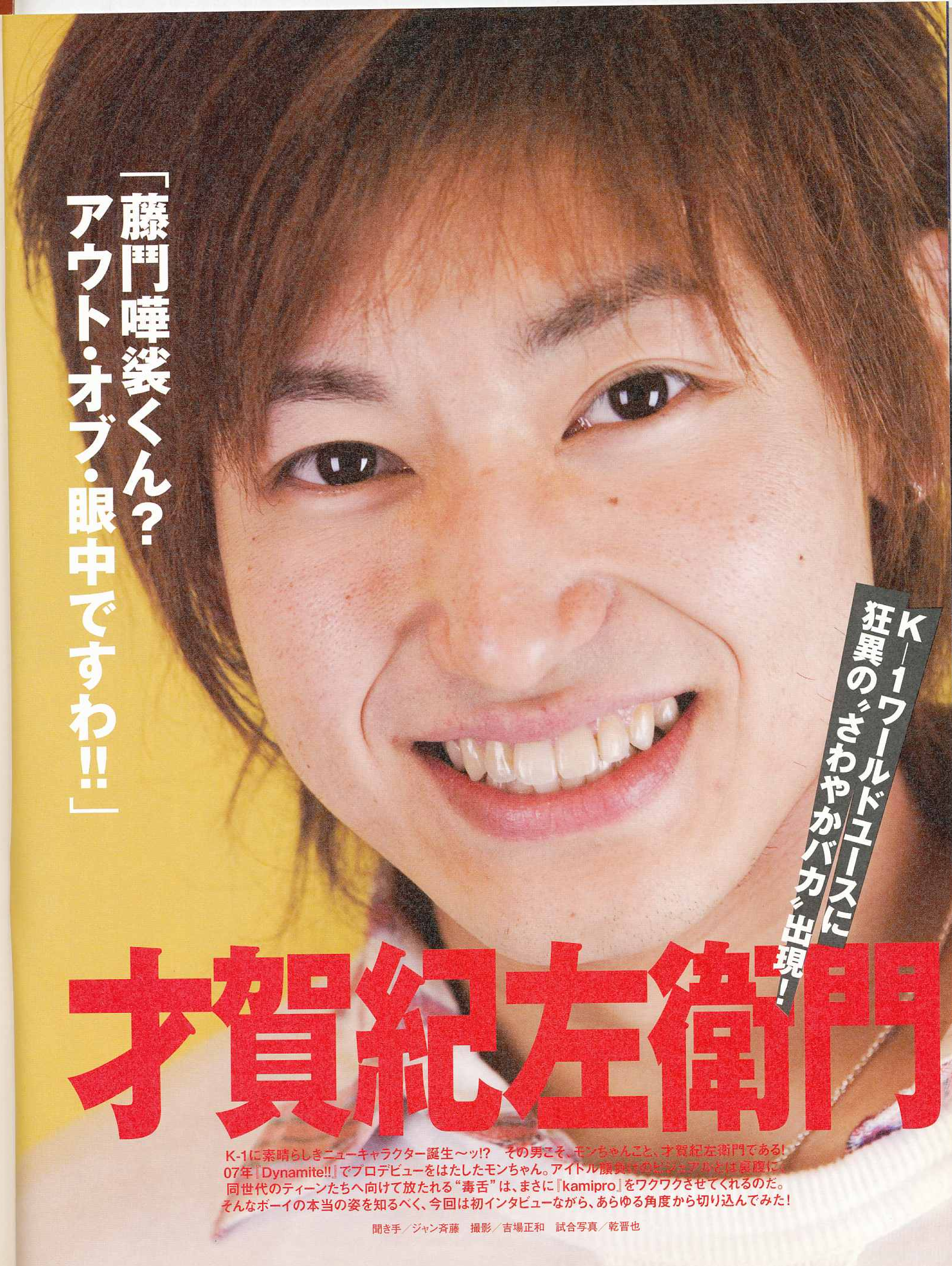
HIROYA 紀左衛門さんは年上なんで……。

―あ~、わかります、わかります。無視したり、今日の会見みたいな態度をとれないですよね(笑)。

HIROYA は、はい。

―リング上は気にせずにお願いいたします(笑)。今日はありがとうございました!

【08年2月18日/都内・某ホテルにて収録】



K-1ワールドユースに
狂異の"さわやかバカ"出現!

才賀紀左衛門

「藤門嘩裟くん? アウト・オブ・眼中ですわ!!」

K-1に素晴らしきニューキャラクター誕生～ッ!? その男こそ、モンちゃんこと、才賀紀左衛門である! 07年『Dynamite!!』でプロデビューをはたしたモンちゃん。アイドル顔負けのビジュアルとは裏腹に、同世代のティーンたちへ向けて放たれる"毒舌"は、まさに『kamipro』をワクワクさせてくれるのだ。そんなボーイの本当の姿を知るべく、今回は初インタビューながら、あらゆる角度から切り込んでみた!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／吉場正和　試合写真／乾晋也



自分が気に入った人が好きなんで でも、あえて言うなら……

——今日はよろしくお願いします。

紀左衛門（以下、モン） あ、よろしくお願いします！

——紀左衛門さんは『kamipro』という雑誌をご存知ですか？

モン はい。知ってますよ。けっこう濃くて深い雑誌というか。

——ああ、知ってますか。なんだかすいません（笑）。今日は紀左衛門さんの深いお話を聞けたらなって思ってますが、紀左衛門さんは大阪出身なんですよね。

モン はい。去年の4月に大阪から出てきたんですよ。

——どうですか、東京は。

モン メッチャ人が多いやん！って。歩いてて肩がぶつかっても大阪だったら一言「悪かった！」とかないと「なんやねん！（怒）」って感じになるんですけど、東京は肩がぶつかって後ろ向いて見たら、無視されてまっすぐ行かれて。「はあ？　なんじゃコイツら～!?」って。

——そこにカルチャーショックですか（笑）。

モン ビックリしましたね～。あと渋谷のスクランブル交差点ですか。あれも凄いですねぇ。大阪にはスクランブル交差点はないんですから（ぶつぶつ）。

——しかし、よくしゃべりますね、紀左衛門さん。

モン そうですかね？

——ええ（笑）。ところで「紀左衛門」というのは本名なんですよね。

モン はい。本名です。

——珍しい名前ですよね。周りからはなんて呼ばれてるんですか？

モン そのまま紀左衛門とか、幼なじみの女の子とかには「モンちゃん」とか呼ばれてますね。

——モンちゃん（笑）。そういった名前をつけられるということは、由緒正しいお家柄なんですか？

モン なんなんですかね？

——わかりませんか。

モン なんかいろいろとあるらしいですね、家系が。

——お父さんは何をなさってるんですか？

モン オトンは中学の頃に亡くなったんですけど。大阪の堺でクレーンの会社をやっていました。明石海峡大橋とか関空とか建てていたらしいですよ。

——ちなみにお父さんのお名前って？

モン 才賀紀彦です。ウチのオトンのオヤジもみんな紀州の"紀"がついてるんですよね。

——どういう意味があるんですかね？

モン どうスかねぇ～？

——気になりませんか？　いや、気にしましょう（笑）。

モン あんまり気にならないですねぇ。みんなに珍しい珍しいって言われますね。なんか冗談半分に「ドラえモン」とかは言われますけど、一発で名前を覚えてもらえるじゃないですか！　めっちゃ印象濃いし。だから、ええ感じやな～と思って。

——いまは所属している大誠塾の寮住まいなんですよね。

モン いや、いまは友だちと二人暮らししてますよ。

——友だちと？

モン その男の友だち、ダンスがメッチャうまいんですよっ!!

——そんな大声でほめたくなるほど、うまい（笑）。

モン うまいっすね～。その友だちも従兄弟の家に住んでいたから「ほな、二人暮らししようや」って言って。いまワリカンで住んでます。



2.2 K-1MAX ロイ・タン戦後の一夜明け会見で「僕の相手はHIROYA選手が判定で勝っていたので、KOで勝ちたかったんですけどねっ!」と毒のあるコメントを放つモンちゃん。藤門嘩裟ほど"尖ったナイフ"ではないものの、モンちゃんの何か含んだ物言いは、これまたK-1ワールドユースを盛り上げてくれるから魅力的である！

——いまはK—1に専念してるんですよね。

モン そうですね。いまは大切な時期なんで、バイトとかもできないですし。

——友だちと遊んだりしないんですか？

モン 遊ぶヒマはないですよ～。ホントは遊びたいですよ！　遊びたいですけどぉ、身体がしんどいんで、帰ってきたらすぐ寝て。いまはK—1が一番大事ですから。

——そういえば、ダルビッシュさんが目標なんですよね？

モン いや、憧れてはないですよ。ダルビッシュは日本一のピッチャーじゃないですか。じゃあ、ボクは日本一のK—1選手にっていう。僕は世界一になりたいんですよ。

——じゃあ、ダルビッシュに深い理由はないんですか？　タレントと結婚したいとか。

モン いや、ないっすよ～。そんなにタレントとかはあんまりこだわりませんね。自分が気に入った人が好きなんで。でも、あえて言うなら。

——あえて言うなら？

モン 格闘技、K—1じゃないですか。いろんな人に見られているじゃないですか。だから、陰でサポートしてくれる人とかがええかなって思いますよ～（しみじみ）。

——家でじっと待ってくれる人がいい、と（笑）。

モン そう。そんな感じで！

——いまK—1ワールドユースが注目されていますが、その中でも紀左衛門さんが一番、有名になりたいオーラを発している気がするんですよね。

モン あ、ホンマですか？　まあ強くなりたいですし、一番になりたいんで。ほかの選手のことをとやかく言うのはないですけど、プロなんで。あんまり口でばっかり言っていたら、「こいつ、口がナックルボール放ってるようなヤツや！」なんて言われたら嫌なんで。

——ウチは口だけでも全然いいんですけどね（笑）。

モン いや～、やっぱりそこはリングで証明せなアカンですよ。

——ほかのユースの選手と仲はいいんですか？

モン そんなん仲は良くはないですよ。やっぱり、闘うこともあるじゃないですか。でも、雄大選手とか、HIROYA選手とか、年下ですけど尊敬している部分もあるんで。話をしたりはしますけどね。ボク、おしゃべりなんでね。

——いや、わかります（笑）。

モン じっとしてたらなんか、なんて言うんですかね。試合のときもユースの3人と一緒の部屋やって、ほかのみんな瞑想してるんですかね。ブツブツブツブツしゃべっているんですよ。もう何をやっとんねんと！

——ダッハッハッ！　イライラしますか。

モン ボク、そういうの苦手。試合が始まる5分前だけ集中して、あとはベラベラベラベラベラベラベラベラとバカ話をしてるんで。

——紀左衛門さん、ほかのインタビューもおもしろいですもんね。

モン あ、ホンマですか？

学校とかでもナメられたら嫌なんでケンカっ早かったんですよ！

才賀紀左衛門

——おもしろいですよ。空手の実績は350戦300勝とか豪語したり（笑）。

モン　ああ、あれ。適当な数字なんですけどね（キッパリ）。

——適当!!（笑）。

モン　子どもの頃から、気づいたときからやっていて、もう試合なんて空手だったらトーナメントとかなんで、それくらいはしてるんちゃうかなあ思って。

——空手は幼稚園からやられているということですね。

モン　はい。幼稚園からやっています。流派は忘れましたけど。ほんで、小学校2年生になったら、近くの空手道場に行って、で、小学校2年生ぐらいから「サッカーと空手がおもろいなあ」と思ってサッカーと空手をずっとやっていて、サッカーは中2のときにコーチと仲が悪くて途中で辞めさせられて。やっぱりチームプレーは無理だなあって。

——学校ではどんな感じだったんですか？

モン　学校ですか？　学校とかだったらやっぱりナメられたら嫌なんで。ケンカっ早かったんですよ！

——へえ～。

モン　小学校のときとか女みたいな顔をしてたから、余計ナメられるんですよ。それが嫌で「ナメられたらアカン!!」ってことで空手をやったっていうのもありますね。

——じゃあ、小さい頃からイケイケだったんですね。

モン　ただねえ、勉強はあんまり得意ではなかったですね。でも、漢検ってわかります？　漢字検定。僕、漢字検定8級を持ってるんですよ。

——8級……って凄いんですか？

モン　どうなんですかね？　受けれるのが凄いってことですよね。

——はあ（笑）。あの～、紀左衛門さんって昔からモテますよね。

モン　はい。いやあ、そんなことはないですよ。

——どっちだ（笑）。

モン　バカやったんで、小さい頃から。しょうもないことばかりやっていたから、あんまりモテた印象はないですね。

——そんなことないでしょ。

モン　いや～、そうでもないですよ（ニタニタ）。あんまり付き合ったりとかしたことなかったんで。こんなの言ったらなんか悪いんですけど、誰かをメッチャ好きになったりとかはまだないんですよね。

——ほほう。惚れさせるだけ、と。

モン　いやいや、そういうわけじゃないですって。ないんですよ、メッチャ好きになったこと。

——でも、ショックを受けますよ、昔の彼女がこれを読んだら（笑）。

モン　だって「好きなんかなあ？」みたいな感じはありましたもん。

——いま付き合ってる人はいるんですか？

モン　いないですよ。格闘技ですかねぇ。フッフッフッ。

——笑いながら言わないでくださいよ（笑）。

モン　いやあ、好きな人なかなかできないんですよね。いまはK―1に集中したいですし。

——K―1で印象に残っている選手は誰ですか？

モン　（元気よく）山本KID選手ですね！　KID選手は昔からKOしているじゃないですか。やっぱり試合で沸かすじゃないですか。「かっこええなあ。こんな選手になりたいなあ」って思っていたんで。

——魔裟斗選手はどうですか？

モン　ああ、魔裟斗選手ですか。かっこよかったですよ。

——KIDよりテンション低め、と。

モン　よう言いますわっ!!　魔裟斗選手は素晴らしい選手ですよ！

——ボクだって知ってますよ（笑）。

モン　パンチとかうまいし尊敬しますけど、なんやろな。なんて言ったらいいんですかね？　僕、口ベタなんでなんて言っていいか、うまいことしゃべれないんですけど。

——どこが口べたなんだ（笑）。

モン　なんていうんですかねぇ～。KID選手は総合っていう競技じゃないですか。魔裟斗選手はK―1じゃないですか。やっぱ階級も違いますし、レベルなんて天と地ぐらい差がありますけど、魔裟斗選手の場合は尊敬している選手でもあり、負けたくない選手なんですね。

——なるほど。K―1MAXで自分よりかっこいいなと思う選手はいますか？

モン　いっぱいいますよ。HAYATO選手もかっこええなと思いますし、前田（宏行）選手もこのあいだの試合を観て「メッチャかっこええな～」と思いましたし。

——ユースではどうですか？

モン　ううん？　ユースですかぁ？（怪訝な顔で）。

——ダハハハハハ！

モン　すいません。ユースのなんですかぁ？

——いや、モンちゃんよりかっこいい選手はいないのかなあ、と。

モン　どうですかねぇ。まあね、それは人それぞれタイプっちゅうもんがありますからねぇ（余裕タップリ）。

——ダハハハハハ！

モン　まあねえ、ボクは男なんで、あんまり男の人をかっこいいなんて思わないですし。さ、次の質問いきますか。

——さんざん「KID選手がカッコイイ」って言っていたじゃないですか（笑）。

モン　まあまあ、ユースはね、なんていうか同じユース同士のライバルでもあり、仲間でもありますけど、ライバルでもあるんで、誰にも負けたくないですよ。

——ユースってギスギスしてますよね。とくに藤門嘩裟選手を中心に。

モン　ああ、藤門嘩裟くん。アウト・オブ・眼中ですわ!!（キッパリ）。

——ほほう（笑）。

モン　まあ、門嘩裟くんも強いと思いますけど、絶対にHIROYAくんがKOで勝つと思いますよ。やっぱあんだけ言われたらHIROYAくんもKOで勝たんとアカンでしょ。

——そんなに実力差があるんですか？　体重差はありますけど。

モン　藤選手の試合は観たことがないんですけど。HIROYAくんがKOで勝つんちゃいます？　これでKOできなかったり、負けたりしたら、HIROYAくんもちょっとねぇ～（渋い表情で）。

——ダハハハハハハハ！

モン　雄大くんにも負けて、藤門



07年『Dynamite!!』HIROYA戦では判定負けという無念の結果に。モンちゃんが「藤門嘩裟？ いやいやHIROYAくんの圧勝でしょう！」と言い切るのは、HIROYAにプレッシャーをかける反面、"アウト・オブ眼中"の藤門嘩裟に勝たれては困るからか。う～ん、非常に高度な心理戦である。











“変態”大多数の『kamipro』読者のニーズとマッチしているかどうかは不明だが、ジャニーさんも垂涎の素晴らしきアイドルカットである!

嘩裟くんにも負けたらねぇ。HIROYAくんがKOで勝ったらあたりまえでしょ～。ここで負けたね、ヤバイですわ～。

——ククク。HIROYAくんのこと、応援してないでしょ？

モン　え？　どうしてですか？

——追いつめてるでしょ（笑）。

モン　いやいや、よう言いますわ！　僕はどっちかと言ったらHIROYAくんを応援していますよ！

——い～や、追いつめてますよ（笑）。

モン　いやいやいやいや、彼ならそれぐらいのプレッシャーはじき飛ばせますよ。っていうか僕は絶対勝つと思うんで、ホンマに。

——そうですか（笑）。

モン　まあ、僕はあんまりあの二人は興味がないんでね。

——ここまで言っといて（笑）。

モン　でも、まあ僕はHIROYA選手に負けているんで、次はキッチリ勝ちたいと思いましたよ。

——このあいだの会見は非常にギスギスしていたんですけど、それはどう思いますか？

モン　ええんちゃいます？　それはそれで。いい緊張感を持ってできると思うんで。僕は相手の人によって変わるんですね。憎たらしいことを言われたら噛みつきますし。ムカつくことを言われたら、プロやからリングの上で証明するのもあたりまえなんですけど、やっぱり火がついたら、「なんやったら、ここでもええんやでぇ？」って思いますね。

——なるほど。あとモンちゃんのプロフィールで気になっているのは、モノマネが得意だっていうことなんですけど。

モン　掛布雅之。

——ダッハッハッ。掛布ですか！　さ、やってみましょうか。

モン　ホンマですか？

——はい。どうしよう、似てなかったら（笑）。

モン　すみません、ちょっと[illegible]をうるおします（水を飲む）。[illegible]



さいが・きざえもん■1989年2月13日、大阪府出身。幼少時代から空手を始め、その後大成塾に入門。350戦300勝というなんともダイナミックな戦績を引っさげK-1に堂々参戦。初登場はK-1甲子園への出場が難しくなった藤門嘩裟の代打として出場した07年『Dynamite!!』HIROYA戦。ジャニーズ系のビジュアルと、そこからは想像させない“毒舌キャラ”で、今後ブレイクの予感を秘める期待のティーンエージャー。168cm、60キロ。

才賀紀左衛門

「掛布さん、今日の調子はどうですか？」って聞いてもらってもいいですか？

——ああ、フリがいるんだ（笑）。「掛布さん、今日の調子はどうですか？」

モン　（掛布ボイスで）「非常にいいですね!!」…………どうですか？（ゴクリ）。

——似てますね。

モン　ホンマですか？　リアクション薄いなあ。

——いや、凄く似てますよ。誌面じゃ伝わらないから、どうしようかなって（笑）。

モン　ちょっと自分の中でこれは自信を持ってるんですよ（胸を張って）。

——阪神タイガースのファンなんですか？

モン　まあ、大阪なんで。金本（知憲）選手とかのファンですね。

——ほかにレパートリーはないんですか？

モン　あとは微妙っすよ。

——たとえば？　やれとは言いませんけど。

モン　ま、ビートたけしですね。

——さあ、やってみましょうか。

モン　いやあ、ちょっと最近はできないんですよ。また練習して、蹴り技くらいの種類をしっかり持っておきますわ。モノマネでも。

——次の試合の予定は聞いてます？

モン　どうなんですかね。まだ聞いてないですけど。こないだのロイタン戦はちょっと相手が予想外だったんで、もっとガンガン攻めてくると思ったんで、倒すのに時間がかかってしまって。自分の中ではあんまり満足する試合はできなかったですけど、次はしっかりそういう場合でも大丈夫なようにちゃんと練習して、チャンピオンになりたいですわ。

——わかりました。最後に『kampro』読者に何かメッセージはありますか？

モン　K－1に僕が出させてもらえるように押してください。「紀左衛門くん、紀左衛門く～ん！」って。フッフッフッ。

【08年2月29日／都内・FEG事務所にて収録】

モンちゃんも大注目のデンジャラスな一戦 HIROYA vs 藤門嘩裟いよいよ開戦!

『K-1 WORLD GP 2008 IN YOKOHAMA』

神奈川・横浜アリーナ
4月13日（日）開始15:00

決定対戦カード

［スーパーヘビー級タイトルマッチ］
（王者）セーム・シュルト vs マーク・ハント（挑戦者）

［ワンマッチ］
エヴェルトン・テイシェイラ vs 藤本祐介
バダ・ハリ vs レイ・セフォー
マイティ・モー vs 前田慶次郎
グラウベ・フェイトーザ vs アレックス・ロバーツ
ハリッド・ディ・ファウスト vs アレキサンダー・ピチュクノフ
中迫強 vs 佐藤匠
野田貢 vs キム・ギョンソック

チケット料金

SRS席 25,000円／SS席 15,000円／S席 10,000円／A席 5,000円

お問い合わせ

（株）FEG　TEL.03-3796-5060

『K-1 WORLD MAX』

広島・広島県立総合体育館
4月9日（水）開始17:00

決定対戦カード

［K-1ワールドユース2008 特別試合］
HIROYA vs 藤門嘩裟

［K-1トーナメント一回戦］
魔裟斗 vs ヴァージル・カラコダ
ブアカーオ・ポー.プラムック vs アルバート・クラウス
アンディ・サワー vs マイク・ザンビディス
佐藤嘉洋 vs ムラット・ディレッキー
ドラゴ vs GORI
アルトゥール・キシェンコ vs ジョーダン・タイ
サロ・“ザ・シシリアンドン”・プレスティ vs ワレン・スティーブルマンズ
イム・チビン vs 城戸康裕

［オープニングファイト］
山本優弥 vs マルフィオ“ザ・ウォリヤータイガー”カノレッティ
瀧谷渉太 vs ヴィッタリー・リスニアク

チケット料金

SRS席 23,000円／S席 12,000円／魔裟斗応援シート 12,000円（特典付き）／A席 6,000円

お問い合わせ

（株）FEG　TEL.03-3796-5060





ここ最近のK−1で“最も危険”な一戦がついに迫る！　07年『Dynamite!!』であえなくお流れになってしまったHIROYA vs 藤門嘩裟戦が実現するわけだが、両者とも「わからせてあげたいですね!」（HIROYA談）、「印象? ないです」（藤門嘩裟談）と一歩も引かないテンションだから凄い! 勢い余って加藤会長まで「あ、これはね、KOで勝てます」とアッサリ言い放つからますます目が離せないのだ！　しかし、どちらかが敗者となることはまぎれもない事実。その現実を叩きつけられたときに、いったいその先にどんな物語が繰り広げられることになるのか……!! 若かりし頃の栄光と挫折——。この一戦は、そんなヒリヒリする感情を胸に観なければならないのである！



いいオトナがハッスルする理由を話そう

曙×髙田延彦 がっぷり四つ対談

プロレスリングの世界で"最強"と呼ばれた男と各界で頂点を極めた男を結びつけるキーワード、それは「ハッスル」だ！ 高田総統の友人である髙田延彦と、ボノちゃんという天真爛漫かつド迫力のキャラクターを演じる曙が、時空を超えて魂の会話を交わす。「ほとんど接点がなかった」という両者は、2月17日の『ダイヤモンド・キッズ・カレッジ』で初（?）対面をはたした。がっぷり四つに組み合って、ここから何が生まれる!?

聞き手／坂井ノブ　撮影／加藤マキ　試合写真／山口比佐夫、平工幸雄

ボクたちの商売は一生懸命に努力して〝夢〟を売るという仕事なんです（曙）

――いやぁ、今日は本当に夢の顔合わせが実現して嬉しいです！

曙　フッフッフ。照れるよ。

髙田　『kamipro』ならではの企画だね。

――ありがとうございます（笑）。そもそもお二人には接点があって、子どもたちに格闘技の楽しさを知ってもらおうという髙田道場主催のイベント「ダイヤモンド・キッズ・カレッジ」（以下、DKC）に、横綱がお子さんを連れて参加されてましたよね。

曙　そうですね。ウチの子は最初はちょっと緊張してましたけど、もの凄く楽しかったみたいですよ。

――父親として小さい頃に格闘技を習わせるというのはいかがですか？

曙　格闘技の技術というよりも、いろんなものを格闘技から学んでほしいなって思ってます。とくに一番大事なのは礼儀ですよね。あと、子どもたちがああやってたくさん集まって遊んだり学べる場所もなかなかないですよね。

髙田　子どもを参加させる親御さんに喜んでもらえるのはありがたいね。横綱のように元競技者で共感してくれる人もいるし、親御さんたちも、子どもにとっていまの世の中に足りない部分はそういうところだって理解してくれているよ。

――今後、DKCで横綱が相撲を教えるというのもおもしろそうですね。

髙田　DKCではコンタクトのあるスポーツということが大前提だからね、日本の国技でもある相撲はストレートに身体と身体をぶつけあうものだからリンクするよね。これからチャンスがあれば、横綱には協力をしてくださいという話はしてるよ。

――気軽にサインがもらえたり、記念写真を撮れるのもいいですよね。一生の思い出になりますし。

曙　ボクたちの商売は一生懸命に努力して、夢を売る商売なんですよね。テレビとかで夢を売ってるのに、普段の姿がダメだと通用しないと思います。逆に考えれば、いまボクの息子はプロレスにハマっているんですけど、選手にサインを頼んでダメだって言われたら……。

髙田　それは親としてもショックだね。

曙　悲しいですよね。だから全員にサインとかはできないかもしれないけど、可能な限りは協力したいですね。

――夢を与えるっていう意味ではプロレスも格闘技も同じですよね。そういったかたちでファンに夢を与えてきたお二方の共通点と言えば、『ハッスル』だと思うんですが（笑）。

髙田　……それが共通点なの？（笑）。

――毎回『ハッスル』を髙田さんは視察されているんですよね。

髙田　うん、会場のどこかでね。（曙に向かって）『ハッスル』は最初から全部観てるんですよ。どんなファンよりもハッスルに詳しいという自負もあるし、思い入れがあるんです。

――横綱は……、どういうかたちで関わってることになるんですかね？（笑）。

曙　……ボクはなんて言ったらいいんですかね？　ウチの子もハッスル大好きでよく観てますよ（照）。

――『ハッスル』の08年の主役は間違いなくボノちゃんですよね。

髙田　そうだね。それは誰もが思ってることだし、『ハッスル』もそれを打ち出してるしね。周囲の人たちやスタッフの反応も「うまいね！」じゃなくて、「最高だね！」だもの。

――最高の賛辞じゃないですか。

髙田　でも、それを横綱に聞いてどうするの？（苦笑）。

曙　フッフッフ（意味深な笑い）。



2月17日、横浜市内の日体大健志台キャンパスで行なわれた『DKC』の『ハッスル』エキジビションで鬼蜘蛛に襲われた髙田延彦。この大ピンチをなんと曙が救出! 子どももおとなもこれには大喝采。

――それはまぁ、横綱はボノちゃんのことを客観的にどう思ってるのかな、と（笑）。

曙　与えられた仕事を一生懸命やっていれば伝わりますよね。だからさっき夢を売る世界って言いましたけど、あとはファンの皆さんがどう見てくれるかってことですね。

――ボノちゃんが持ってる資質は凄く『ハッスル』向きだと思うんですが、そのあたりは髙田さんはどのようにご覧になってますか？

髙田　そうだね、ハッスラーになるために生まれてきたかと思うくらいだよね。私が最初に「凄いな！」って思ったのは、大阪でインリン様と登場したときなんだ。もの凄いゴージャスな雰囲気を感じたんだよね。いままでの『ハッスル』が持ち合わせなかった部分だよね。ボノちゃんとインリン様のツーショットで私が受けた印象は、「WWEにも勝っちゃってるよ！」というものだった。

――世界最大のプロレス団体にも勝っちゃってますか！

髙田　見た目だけじゃなくて、表現力とか立ち振る舞いの部分もね。

曙　フッフッフ、照れるなぁ（笑）。髙田さんがWWEを超えているっておっしゃいましたけど、ボクも以前WWEのリングに一度上がったからわかりますが……、だいぶ超えてますよ。

――だいぶ超えてますか！

曙　ボクはそう感じますね。

髙田　おそらくいままでボノちゃんが培ってきた経験、良かったり悪かったり時代を日本人はみんなよく知ってるよね。

――完全にインプットされてますよね。

髙田　それをボノちゃんは自分の中で消化して、『ハッスル』を通して、ある種自然



とても初めてとは思えない!? 総統の友人とボノちゃんを演じる曙という微妙なスタンスの違いを噛み締めながら二人の対談を読むと、さらに味わい深くなるはずだ。

にエネルギーが放出されていると思うんだよ。

――なるほど。

髙田　それともう一つ一番大事なのはセンス。これは安生（洋二）ともよく話すんだけど、いくら頑張ってもセンスのないやつはそれなりの選手にしかならない。それは相撲も、総合でも、プロレスでも、野球でもみんな一緒。一定のレベルまでは到達するけど、頂点までは到達しない。そういう意味ではボノちゃんはすべてを兼ね揃えていると言っても過言じゃないよね。ということは〝ミスター・ハッスラー〟だよ。

――大絶賛ですね。横綱、ここまで絶賛されてますよ。「いままでの人生はボノちゃんのためにあった」なんて言われたことありますか？

曙　ないですね（笑）。とにかく、いまは大好きなことをやらしてもらってるっていうのが大きいと思います。イヤイヤやるのと、好きでやるのとはまるで違いますし……、本当に大好きですね（笑）。

髙田　いま横綱が言った、みんなが「大好きなことだから一生懸命やる」という気持ちで、自分のできることをやるということが一番重要だよね。それこそハッスルの裏方である制作や、営業、スタッフみんながそういう気持ちを持った暁にはヤバすぎるイベントになるよ。

――それは、つまり意識やモチベーションの高さですよね。

髙田　マズイものを栄養あるからって無理して食べても身にはならないんだよね。栄養のないものでも「おいしい、おいしい」って食べると自分の身になる。なんでもそうなんだよ（笑）。

――髙田さんが笑顔でおっしゃると凄く説得力ありますね（笑）。

髙田　だから、本人が「嫌だな」って言いながらやるのと、いまのように大好きって言って入り込むのでは外部に対する影響や発信力がまるっきり変わってくるよ。

――では逆に横綱からご覧になって、髙田総統はどういう存在いかがですか？

曙　これだけカリスマある人ってなかなか日本にはいないんじゃないですかね。姿を見せただけでお客さんが「ウォー！」って沸きますし。

髙田　ありがとう！　髙田総統の代わりにお礼を言わせてください（ニッコリ）。

――では、ここで二人が歩まれてきた日本の格闘技を掘り下げたいんですが……、髙田さんは横綱のことは入門したときからご覧になってましたか？

髙田　うん、もちろん。

曙　だいたいボクの出世と髙田さんが大活躍されていた時期が同じなんですよね。髙田さんがUWFやUWFインターナショナルの頃にボクも幕内に上がって。

――そういう意味ではお互いスポーツ新聞で情報を見たり、近いフィールドで活躍されてきたわけですね。

髙田　横綱の場合は、若貴と同期でライバルということもあって、常にマスコミを通してだけど我々に届いていたからね。

曙　ボクは幸せですよ、あの二人がいたからあれだけメディアに取り上げられたわけですし。それこそあの二人が入門した日から僕も一緒に一面に載ってましたから（笑）。

髙田　二人に食らいついてライバル関係でい続けたからこそ、比較の図式ができあがってたんだよね。

曙　まぁ、ボクはあくまで一面に出たかったから（笑）。この二人は倒さないとい

けないなって。

髙田　倒せばおいしいしね（笑）。

――やっぱりライバルがいて競い合うということは、自分の実力アップには不可欠ですか。

曙　それは当然ですよね、一人ではできないわけですし。ボクは生意気なことを言うわけじゃないですけど、地位や名誉とかはまったく関係なかったです。とりあえず若貴が8番勝つんだったらボクは9番勝ってやるって。それをモチベーションにして気がついたら横綱になっていたって感じですね。

――成長するには理想的な環境だったんですね。

曙　その二人が稽古50番やるとしたらボクは51番やるとか対抗意識ムキ出しで。乗ってる車まで負けたくなかったですよ（笑）。

髙田　いい話だね（笑）。

――凄まじいライバル心ですね（笑）。髙田さんも自分を磨きながら、ライバルと競い合っていた感じですか？

髙田　私のライバルは〝世間〟だったね。プロレスっていうジャンルはハンディキャップをエネルギーにしていた時代にこそ栄えたんだよ。

――「どうせプロレスなんて」という偏見で観られていた時代のことですよね。

髙田　私がこの世界に踏み込んだのは猪木さんの存在ありき。その猪木さんが世間と闘うために異種格闘技戦をやってきたのを観てきた。そのDNAは私の中に脈々と衰えることなく生き続けてきてるんだよね。

――かたちをかえた〝猪木ゲノム〟ですね。

髙田　「どうせプロレスなんか」という世間の目線に対して、どうギャフンと言わ

NOBUHIKO TAKADA 闘いの足跡

新日本



97年、『PRIDE.1』でヒクソン・グレイシーに敗れたが、超一流のプロレスラーが圧倒的な現実のリングに立つことで総合格闘技新時代の扉を開いた。

Uインター



91年の旗揚げ以来、"最強"の名のもとに強敵を北尾光司、ベイダーらを強敵を倒してスター街道をバク進する。プロレスリング世界ヘビー級のベルトも巻いた。

新日本



80年に新日本プロレスに入門、81年にデビュー。アントニオ猪木に憧れ、道場で強さを求めた。新日本を離れたあとも第一次UWF-新生UWFで闘い続ける。

『ハッスル』は常に勝負です。中途半端な気持ちではいいものを作れないです（曙）

せるか。私がいつもターゲットにしていたのは世間だったね。

――スケールの大きい敵だったわけですね。そしてお二人とも自分がいた世界から飛び出しました。

曙　言葉は悪いんですけど、死ぬまで挑戦していきたいって気持ちはありますよね。相撲界では横綱をやらせてもらいました。相撲に対してできるだけのことはしたんだという満足感があって引退しましたけど、そこで終わるんじゃなくて、学んだものをもとにまた旅立ちたいという気持ちでした。

髙田　そうだね。やっぱり挑戦する気持ち、好奇心がなくなってしまったら人間自分自身がつまんないよね。飛び出すあるいは、飛び込むことでいろんな世界が見えるものだ。「こんな自分がいたんだ？」ってことに気付くことができる。そういう意味でも、私は死ぬまであらゆることに「挑む」、それがテーマだよね。目の前にあるちょっと嫌だなと思う獲物にも食らいついていくことで、急に視界が広がる瞬間もある。避け続けていると新しい世界は見えないよ。リスクはあるかもしれないけど、それはじつはリスクじゃないかもしれない。考えるだけで楽しくなってくるよ。

曙　リスクはあったほうが楽しいですよ（笑）。よく考えればボクは引退して親方を続けていれば65歳まで何も心配がなかったんですけど。何もリスクがないとつまらないですね。

――それこそノーリスク・ハイリターンですよね。髙田さんは現役のときから道場経営をされてるわけですが。

髙田　これは、私の肉体の一部みたいなモノ。そうではなくて、ポイントは周りから求められる作業が発生されたときのケースだよ。私は常にポジティブに、これは理屈抜きでやる価値があるんじゃないかと思う部分から入っていくようにしている。それはいままで生きてきた中で培われた感覚だね。行く先に何があるかわからないんだけど、行かなければならない。緊張を感じながら長くその場に止まらず、前に、前に動くのが好きなんよだね。たとえ食うだけには困らない環境にいたとしても現状に甘んじてボケーッと、アドレナリンも出てこない環境でプレッシャーという恐怖も感じずにいるのはもったいない。残された人生、身体が動けて気持ちも強くいけるときにバカなことも真面目なこともやっておきたいんだ。

曙　でも、9時から5時まで二人が机に座って作業してたらおかしいですよね？

髙田　私たちが？　勘弁してよ（笑）。

曙　一週間ももたないですよ（笑）。

――まったく夢がないですね（笑）。03年に横綱はFEGと契約しました。K－1やMMAのルールでの試合が続いたわけですが、一連の試合を髙田さんはどのようにご覧になってました？

髙田　やっぱり挑戦したいって気持ちだったんだろうなと思った。それは誰にも

否定できないよ、本人が選んで進む道だからね。なんの異論もない。ただ、きついだろうなってイメージはあったよね。

曙 もう、髙田さんのおっしゃったとおりですね。飛び込んだときに一番大変だってボク自身でわかってましたし。

髙田 結果を出さないと周りの声も厳しい。しかも元横綱って言う大きな実績があるからほかの誰よりも目立つわけよ。それこそ「ほら、見ろ!」って揶揄したい人間がいっぱいいるわけだよ。精神的にもきついだろうなと思いながら観てたよ。

曙 さっき言ったみたいに楽な道を歩むのもつまらないですからね。それにこれを経験しなかったら現在の自分はいないだろうと思います。K―1に飛び込んだときは34歳で、新弟子みたいに毎日つらい練習をやる気持ちがあっても、身体がついていかない部分もありました。それを理解したうえで挑戦したんですけどね。結果は結果で素直に受け止めて。引退してから丸3年は部屋の運営をしてきたんですが、ボクは親方として人様の大事な子どもを預かって育ててましたよ。出世させることができなかったらすいませんってお返しするんですけど。これはボクには合わないなと思いました。でも自分自身の挑戦なら失敗しても責任取れる範囲ですから。

髙田 自己責任だね。人を作るんじゃなくて自分を磨いて自分をプロデュースして作り上げていくってことだよね。そのほうがある意味、楽じゃない? ダメなら自分にはね返ってくるだけだからね。

曙 18歳からずっと勝負し続けてきましたから、やっぱりそういう世界のほうが向いてますよね。

――勝ち負けがすべてを決めるのが格闘技の世界ですが、『ハッスル』の世界は勝ち負けだけの世界ではない。そこで髙田総統やボノちゃんが活躍してるっていうのは逆に凄くおもしろいですね。勝負にこだわりながら人生を積み重ねてきたお二人なのに。

髙田 『ハッスル』も勝負ではあるよ。

曙 ボクもそう思いますね。お客さんとも勝負だし、登場人物同士も勝負だし。イベントが終わったあとに今日の出来はどうだったのか、お客さんは満足できたのか、常に勝負ですよ。

髙田 ただ、白黒をつける手法が違うだけだね。

曙 勝負じゃないと思うと中途半端な気持ちになって、いいものを作り上げられないですよね。

髙田 そうなんだよね。総統も「出番前はガッチリ緊張する」って言ってたからね。「緊張を感じないで出たことは一度もない」って。

――総統も緊張してましたか!

髙田 やっぱり一発勝負の、しかもライブだからやり直しができない世界だろ。自分のミステイクで空気を壊してしまう可能性もありうる。しっかりと緊張感を携えてライブでみんなの前に姿を現わすというのは、そういう意味じゃ遊び半分の気持ちでできる仕事じゃないよね。

「格闘技とは別次元だけど出番前は緊張する」と総統も言ってた(髙田)

AKEBONO 闘いの足跡

MMA



04年大晦日の『Dynamite!!』ではMMAにも挑戦。ホイス・グレイシーと対戦したが順応はできず。05年以降はプロレスにも出場、その才能を開花させた。

K-1



00年に引退後、部屋付きの親方として後進の指導にあたっていたが、谷川貞治K-1イベントプロデューサーに口説かれて03年大晦日に『Dynamite!!』出場。

相撲



88年に初土俵を踏み、92年に横綱に昇進。若貴フィーバーで盛り上がる相撲人気の中心で横綱の重責をはたした。98年の長野五輪では開会式で土俵入りを披露。

――横綱も大きくうなづいてますね。

曙 そのとおりですよ。自分だけじゃなく相手がいて成り立つ商売ですからね。中途半端な気持ちでやれば自分がケガする可能性も出てくるし。相手をケガさせた場合には、それこそ責任取らなきゃいけない。だからボクは相撲でもK―1でもプロレスでもまったく同じ気持ちでやってますよ。

髙田 ここよ! これこれ! 太字にしなきゃダメだよ(笑)。

――了解いたしました(笑)。

髙田 いや、それはホントに大事なこと。それこそ舞台や映画だって同じだしょ。『ハッスル』でも、いい緊張感を持てないやつはダメだよ。「あいつ緊張してるよ」って見えたらダメだけどね。

――緊張しながらいいパフォーマンスをするのは凄く難しいですよね。実際、緊張でガチガチになると失敗もでてくると思うんですよ。

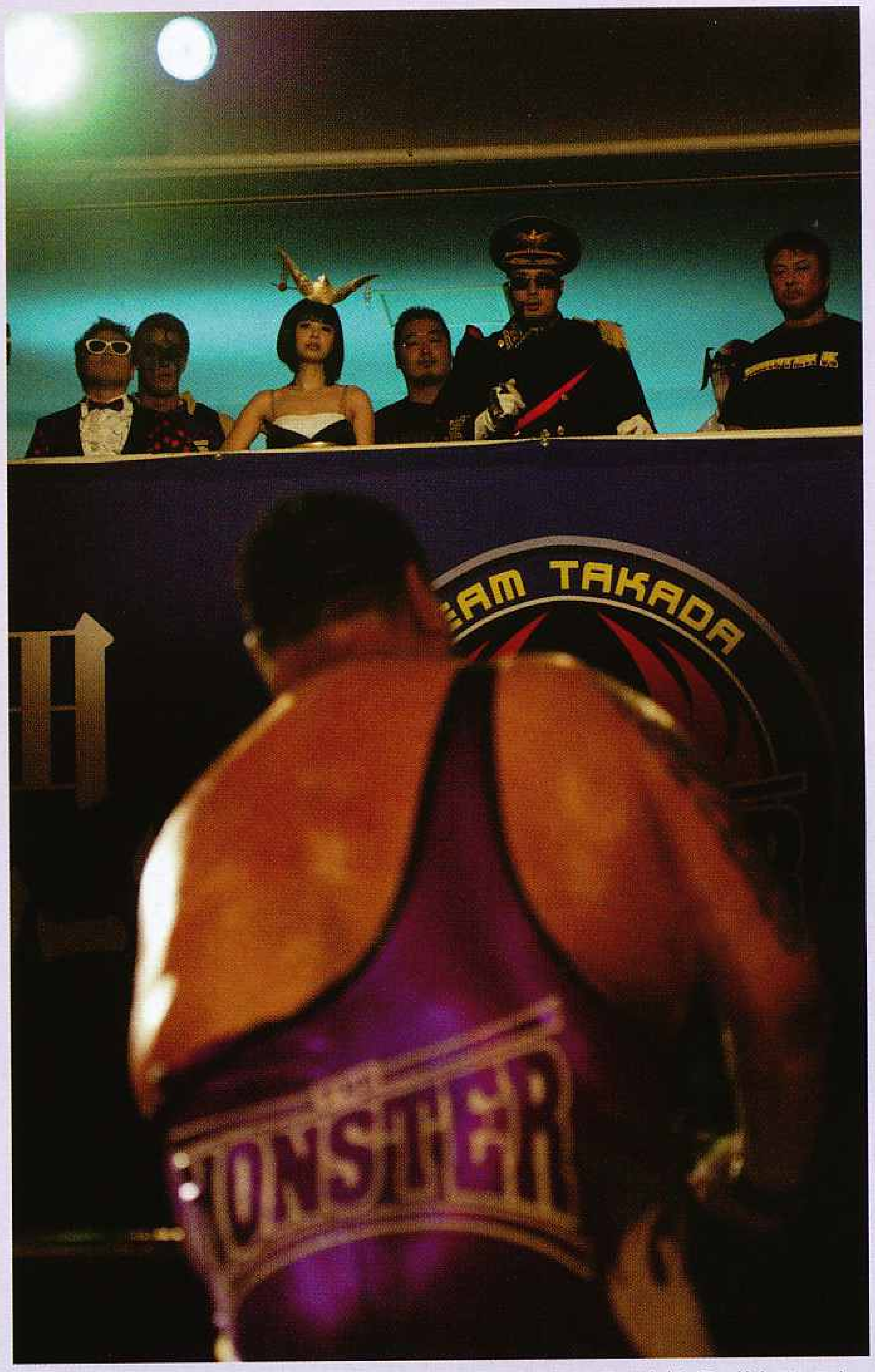
髙田 表面的に見えない緊張感をエネルギーに代えるという作業ができないとね。『ハッスル』のようにパフォーマンスがあったり台詞があったりすることを総合の選手トップファイターに「三日間練習してやってみろ」って言ってもできないよ。

――総統の域に達するには30年ぐらい練習しなきゃできないでしょうね(笑)。

髙田 『ハッスル』はPRIDEの全盛期に産声をあげたわけだけど、「総合のトップファイターがリスペクトするようなコンテンツにしなきゃやる意味がない」ということを私は言い続けてきた。実際、MMAやK―1の選手が一朝一夕では絶対にできないハイレベルなことを『ハッスル』ではやってるし、もっと遥か上を目指

して作っているよ。そういう意味でも『ハッスル』は常に勝負を挑んでいるし、いい緊張感をもってやってるよ。

曙　高田さんが言ってる緊張感というのは硬くなってガチガチになって動けなくなる緊張感じゃないんですよ。もう中から湧き出るような「やりたい」っていう気持ち、燃えてる緊張感ですね。



『ハッスル』の世界ではボノちゃんは反旗を翻し、髙田総統に「バカ田総統!」と言い放ちモンスター軍を追放に。この二人のエネルギーのぶつけ合いが凄いことになっている。

——英語で言うと〝モチベーション〟ですかね。

曙　……motivation!!（流暢な英語で）。

髙田　発音が違うって。

——失礼しました（笑）。

髙田　本当にふざけてるように見えたり、ボノちゃんのことをかわいそうと思われれば勝ちだよね。演者一人一人のいい緊張感がお客にぶつかれば、いいイベントになるんじゃないかな。

曙　川田さんがよく言うじゃないですか、「ハッスルはバカバカしいことでも真剣にやるリングだ」って。

髙田　そのとおりだね。

——こうしてお話しを聞いてると髙田総統とボノちゃんがハッスルでトップを取っている理由がわかりますね。意識の部分で共通する部分が多々があるんだなと思いました。

曙　それくらいの意識じゃないとボクもやってる意味がないし、『ハッスル』に呼ばれてる意味もないですよ。ボクとしたらありがたいですよね。真剣にやってることに対して周りがそう言ってくれれば、やってることは間違ってないという確信が持てるから。

髙田　間違ってないどころか、大正解でしょう。

曙　でも、最初はもの凄く緊張してました。自分が何を求められているかわからなくて、三回目くらいまではガチガチになって動けなくなるほどの緊張感でしたよ。いまはもう楽しい緊張感になりましたけど。

髙田　どのへんまでガチガチだったの？

曙　少し言葉をしゃべるようになってからですね。

——「バブー！」以外の言葉をしゃべるようになってからですか（笑）。

曙　とにかくボクは一生懸命やって、あとはみんなに判断してもらうだけですね。

——そこで一生懸命かどうかっていうのは観ている人たちに伝わりますよね。

曙　そうですね。とくに日本のファンは目が肥えてますからね。

——5月に『ハッスル・エイド2008』というビッグマッチがあるんですが、ボノちゃんvs髙田モンスター軍がストーリーの中心になっていくと思います。誰もこの展開は予想してなかったと思うんですが。

髙田　うまくボノちゃんに向かってストーリーが流れてるね。ボノちゃんが素晴らしいということは明らかだけど、作り手側の意図が正しかったという部分もあると思う。ボノちゃんだから演じきることができているのも明白。相互作用で凄くいい方向に向かって自然と流れている

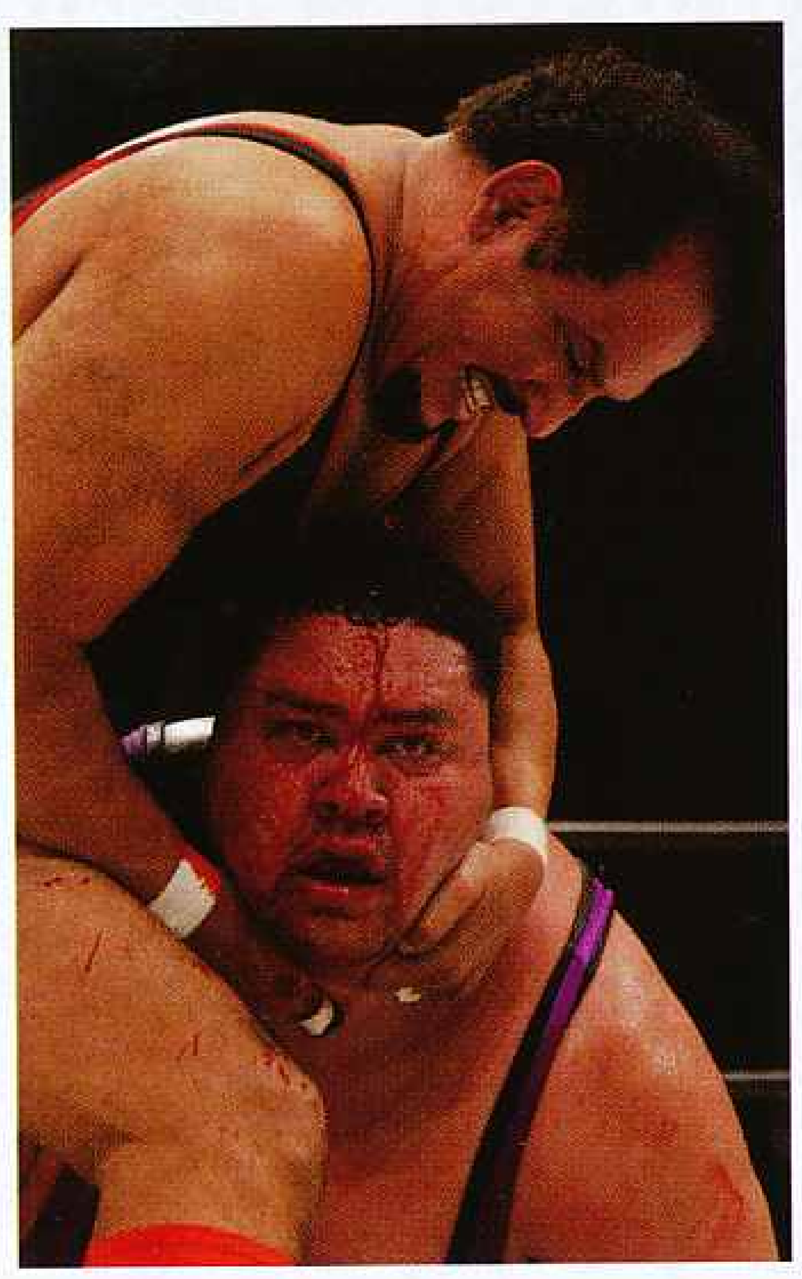
ビッグマッチ＆初進出が目白押し『ハッスル

!! KYORAKU PRESENTS
ハッスル30
4月13日（日）　国立代々木競技場第二体育館
開場16:00／開演17:00

!! KYORAKU PRESENTS
ハッスル・ハウス vol.35
4月16日（水）　後楽園ホール
開場18:00／開演19:00

!! KYORAKU PRESENTS
ハッスル・エイド2008
5月24日（土）　有明コロシアム
開場16:00／開演17:00

お問い合わせ
ハッスルエンターテインメント
TEL.03-5464-1731
http://www.hustlehustle.com/



子どもたちに格闘技を！次回DKCは4月20日中京女子大学にて開催！



子どもたちの身体と心を磨く場所として無料で一流のコーチがレスリングとボクシングをレクチャーするダイヤモンド・キッズ・カレッジは、4月20日愛知県の中京女子大で開催決定!! 北京五輪出場のあの選手も来場!?

日時
4月20日（日）　午前の部（レスリング）11:00〜12:30
選手エキシビション 13:30〜13:50
午後の部（ボクシング）14:00〜15:30

会場
中京女子大学（愛知県大府市横根町名高山55）

参加対象
4歳〜小学校6年生の男女

参加予定者
髙田延彦、向井亜紀、西島洋介、小路晃、KUSHIDA、\(^o^)/チエ、ほか

ボノちゃんはストーリーに引き込む力を持ってるんだよね。絶妙ですよ（髙田）

っていうのが感覚としてわかるよ。

――そうですよね。ボノちゃんというキャラクターは、本当に最高なんですよね。『どハッスル!!』（テレビ東京）で武蔵小山の商店街をボノちゃんがコスチュームのまま走り回るというもの凄い映像が流れましたけど（笑）。

髙田　商店街に「ボノちゃんが迷子になっています」って放送が流れたらしいね。

曙　髙田さんの道場にも練習に行きましたよ（笑）。



たかだ・のぶひこ■62年4月12日、神奈川県出身。新日本プロレス、UWF、Uインターを経てPRIDEのリングで02年に引退。髙田道場の主宰のほかにも、タレント活動など幅広く活動中。髙田総統とは昔からの友人関係にある。183cm、95kg。

あけぼの■69年5月8日、ハワイ・オアフ島出身。若貴と同期入門でしのぎを削る。史上初の外国人横綱。03年大晦日にK-1ルールでボブ・サップと対戦し、瞬間最高視聴率で紅白歌合戦を抜くという偉業を達成。現在はボノちゃんとして大暴れ。203cm、215kg。

――ボノちゃんの物語は、親子の物語ということもあって、誰もが感情移入しやすいと思うんですよ。

曙　わかりやすいのがいいですね。

――僕の友人は「ボノちゃんが本物の子どもに見える」と言ってました（笑）。

曙　心は子どもかもしれないよ（笑）。

髙田　「ボノちゃん、かわいそうだな」って出演者も言ってるよ（笑）。そこまでストーリーに引き込む力を持ってるんだよね。インリン様に反発するんだけど子どもみたいだからかわいいんだ。絶妙ですよ。

曙　いやぁ……照れるな（笑）。みんながハッスルを観て涙するくらいのイベントにしたいですね。

――去年は坂田亘選手が大会に泣かされましたけど、今年はボノちゃんが泣かせますか！

髙田　私もハンカチを用意して有明コロシアムに駆けつけないといけないね。いい夢を見せてもらいたいな。

曙　フッフッフッ（自信ありげに）。楽しみにしててください。

【08年3月4日／品川区ラフォーレ東京にて収録】

2007年を締めくくるプロレスの祭典『大みそか! ハッスル祭り2007』を丸ごとパッケージしたDVDが発売! ジャイ白、池谷、ミルコの激闘を観よ



『ハッスル EPISODE II DVD 5』
標準価格／4800円（税込5040円）
発売日／08年3月26日　発売元／エンタープレイン

日本人が最もテレビを観ている日、大晦日のゴールデンタイムという晴れ舞台で『ハッスル』が勝負をかける！

半年前に山口日昇ハッスルエンターテインメント社長が『ハッスル』の大晦日開催をブチあげていたときは誰も本気にしていなかったが、本当に11月に正式に開催が発表された。『ハッスル・マニア2007』というプロレス史上に残る最高の大会を開催した約1ヵ月後に、さらなるピークを迎えることになった『ハッスル』は総力戦でこの晴れ舞台を闘い抜くことを決意する。

まず、大食い王のジャイアント白田やバルセロナ五輪銀メダリストの池谷幸雄がデビューすることになったのだ。大食いと体操というとまったくの別ジャンルかと思われがちだが、じつはどちらもプロレスと非常に近いところにあることが明らかになる。

池谷は華麗な〝六次元殺法〟を披露、観たこともない動きでバボとアン・ジョー司令長官を手玉に取る。あたりまえなのだが、五輪メダリストの身体能力の高さはハンパじゃないことを証明してみせた。ジャイアント白田も大食い王者の魂で川田の猛攻を耐えしのいだが、こちらはフォール負け。スケールの大きなブルドッキング・ヘッドロックなど大技が冴えまくっていた。

『ハッスル・マニア2007』でエスペランサーに勝った坂田の前には、すべてが謎に包まれた高田将軍が出現！　ハッスル軍と坂田の快進撃は、ここで急ブレーキがかかることになった。

この日は、パパに一度も会ったことがなかったボノちゃんの前にグレート・ムタがついに降臨！　しかし、楽しい時間はあっという間に終わってしまい、またボノちゃんは泣きじゃくる……。

この『大みそか！ハッスル祭り2007』は、08年へとつながるストーリーの大きな分岐点である。現在進行形の『ハッスル』を語る上で、この作品は観ておかなければならない一本だ。

（坂井ノブ）

こちらでもお買い求めいただけます!
PCの方はこちらへ
http://www.eb-store.com/
携帯の方はこちらから!



サラブレ4月号 絶賛発売中 定価680円

総力特集 血統論から現場の証言、データ、馬券術まで多方面から考察

母父サンデーサイレンスはなぜ走る?

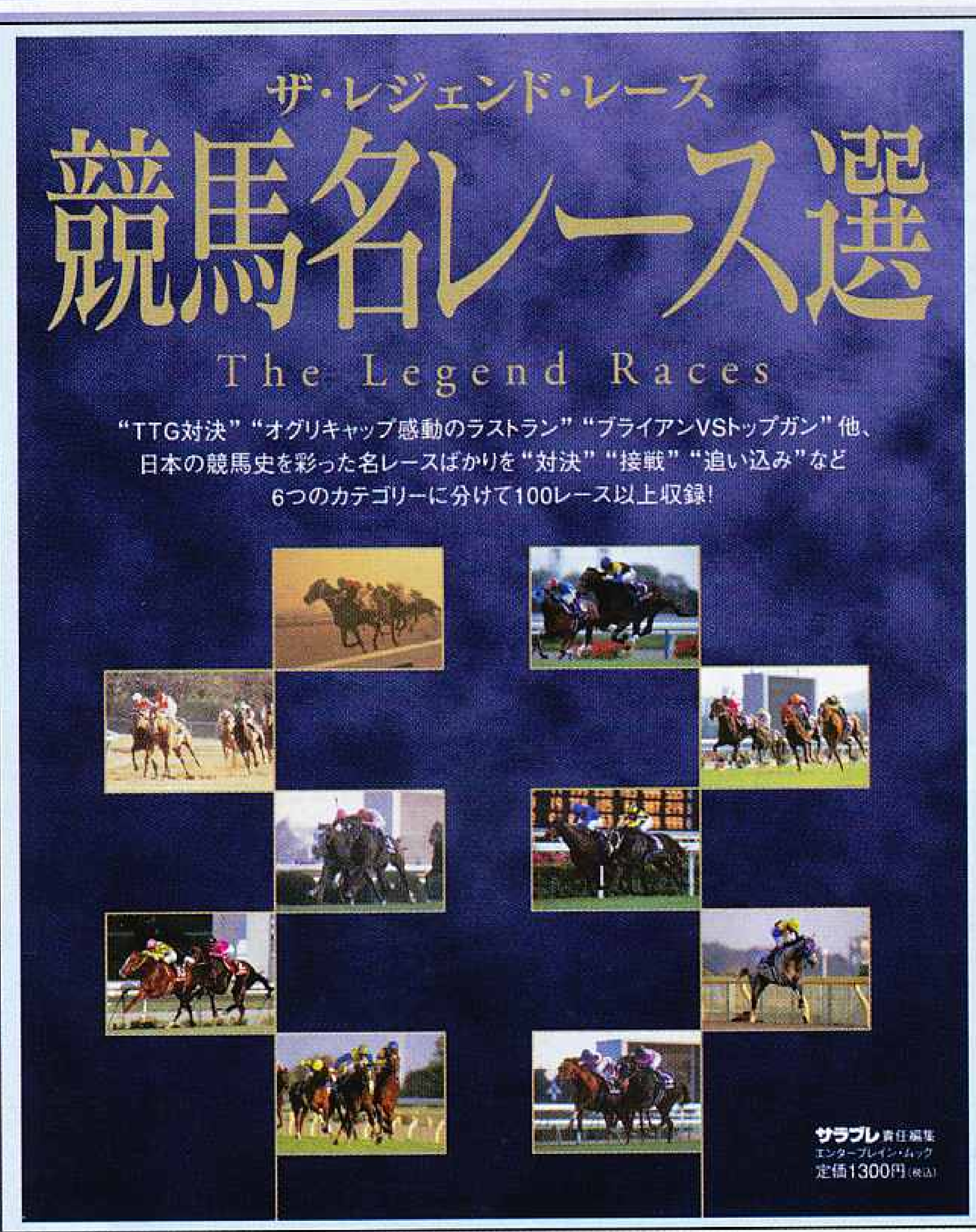
- 今年活躍必至の母父サンデー有力馬たち
- 母父サンデーデータ集
- 母父サンデー inトレセン
- 亀谷敬正の母父サンデーとの付き合い方
- 血統論・BMSとしての影響力
- 母父サンデーとは、ポン酢だ!
- 生産の現場はこうつかんでいる

特別企画

★'08クラシックロードが見えた!!
☆春のＧＩ 10連発予想コンテスト!
★マイケル・キネーンがズバリ言う!・後編
☆関係者が語る思い出の桜花賞&皐月賞
★種牡馬展示会2008
☆カジノドライヴ、米国遠征へ
★酒井忍騎手 in シンガポール
☆ドバイミーティング2008

特別付録 よしだみほ★馬ステッカー

競馬月刊誌 サラブレは毎月13日発売!



ザ・レジェンド・レース

競馬名レース選

The Legend Races

サラブレ編集部・編

これだけは知っておきたい日本競馬史に残る名勝負を100レース以上収録!

"TTG対決" 1977年有馬記念、"オグリキャップ感動のラストラン" 1990年有馬記念、"ブライアンVSトップガン" 1996年阪神大賞典、"頂上決戦" 1997年天皇賞・春、"帝王奇跡の復活" 1993年有馬記念、"常識破りの三冠獲り" 1983年菊花賞、"悪夢の大波乱" 1987年有馬記念、"3強ダービー" 1972年・1993年・1999年ダービー、"歴史を塗り替えた史上最強牝馬" 1997年天皇賞・秋 他

AB判 160ページ 定価1300円(税込)

4月2日(水)発売

ケータイサイト **サラブレmobile** 月額 315円(税込)

すべてのキャリアで3Gに対応していますが、一部非対応機種があります。詳細はサイトにアクセスしてください。

iモード メニューリスト▶趣味／娯楽▶競馬／競輪／競艇▶サラブレモバイル
EZweb EZトップメニュー▶カテゴリ検索▶懸賞・くじ・ギャンブル▶競馬▶サラブレモバイル
Yahoo!ケータイ メニューリスト▶趣味・レジャー▶競馬・公営競技▶サラブレモバイル

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 電話0570-060-555(代表) http://www.enterbrain.co.jp/



プロレスのために日本テレビを退社した男の
プロレス馬鹿一代記

全身プロレス実況アナウンサー
若林健治



あの名調子がプロレス界に帰ってきた! 80年代中盤～90年代初頭の『全日本プロレス中継』において、プロレスに対する思い入れ満載の情熱あふれる実況で、ファンや関係者から愛された若林健治アナウンサーが『kamipro』に初登場！今回はプロレス界復帰の理由、いまだから話せる実況の裏側を赤裸々に語ってくれました! プロレス実況はこの男に任せてチョモランマ！（若林アナ実況調）。

聞き手／堀江ガンツ

プロデューサーにとってみれば僕は扱いづらい存在だったと思います

――ひさびさにプロレス界に復帰となった若林さんですけど、今回は『kamipro』初登場ということでよろしくお願いします！

若林　（インタビュアーの顔を見つめて）前によくお会いしてませんでしたっけ？　会場でよくお見かけして……。

――そうですか？　プロレスファンによくいる顔なんじゃないですかね（笑）。僕はいま34歳なんですけど、この年代のプロレスファンは若林さんの実況直撃世代なんですよ。

若林　確かに、いまでも30代以上の人は「あっ！」なんて言ってくださるんですが、20代になるとめったにないですね。僕はいま、師匠にあたる山本勇さんが主催するアナウンサー教室「山本勉強会」でアナウンサー志望の学生を教えたりしてるんですけど……ちょっと自慢になってしまうんですがいいですか？

――どうぞどうぞ（笑）。

若林　毎年4人ずつぐらい僕の母校である法政大学からこの教室に参加しているんですが、ほかの大学の学生なんかも合わせると27年間で120人にのぼる卒業生を輩出してるんです。でも最近の学生はやっぱり僕のことがよくわかんないみたいですね。「若林さん、何やってた人ですか？」って聞かれて「プロレスだけど」って答えると「あ、そうですか……」って感じで。

――若林さんが一番ご活躍されたのは80年代中盤から90年代初頭ぐらいですから無理もないかもしれませんね。

若林　正確には84年から94年ですね。94年のチャンピオンカーニバルで川田（利明）が（スティーブ・）ウイリアムスに勝ってから2000年まで実況してないんですよ。

――00年に一時復帰されたんですよね。

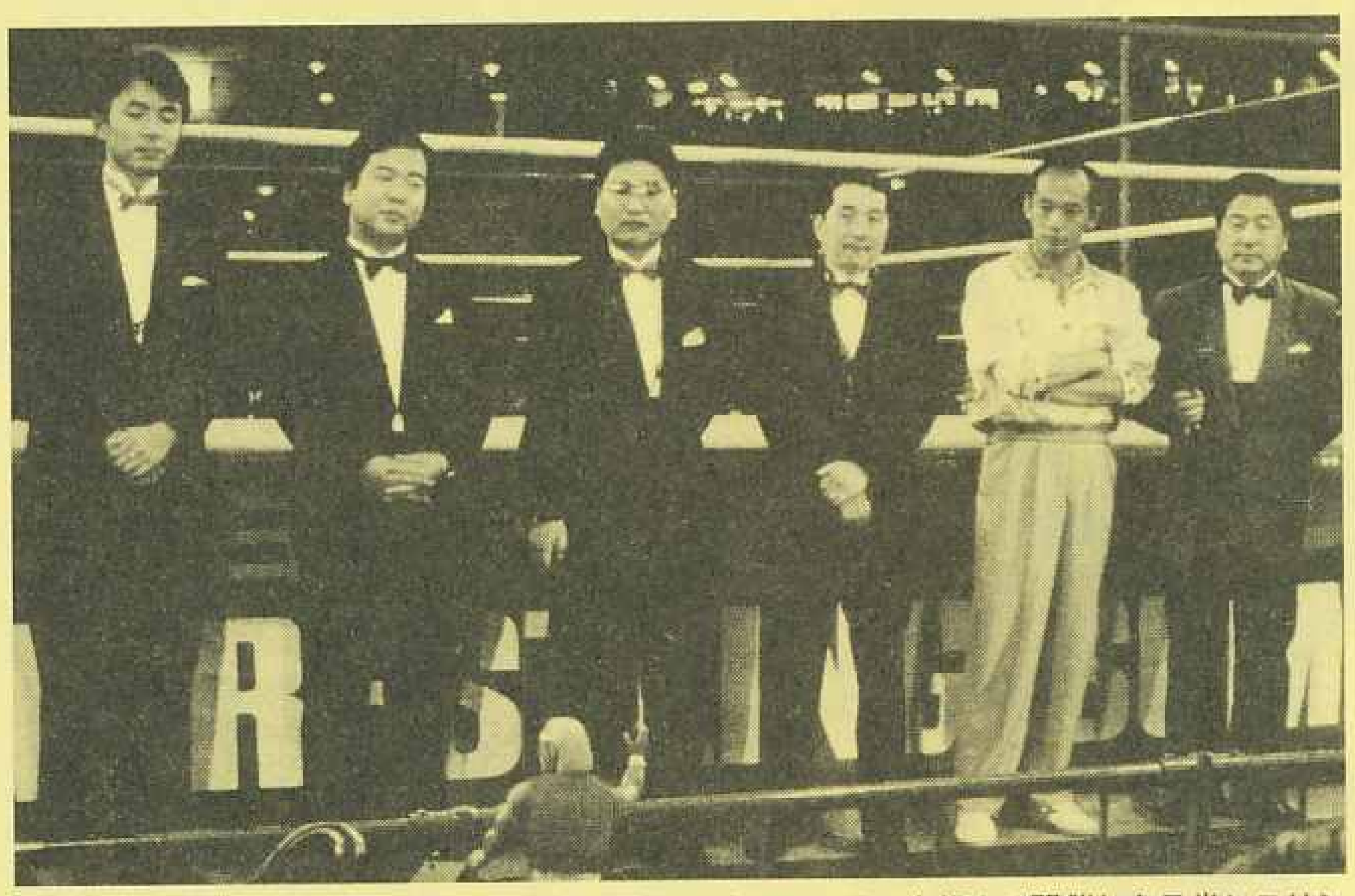
若林　まず95年に僕はラジオ日本に出向になったんですが、98年ぐらいに日本テレビにいったん戻ってきたのかな？　で、また00年から01年ぐらいまで実況をやりまして。でも復帰して1年も経たないうちに全日本プロレスの大量選手離脱があったので、もうしゃべりたくてもしゃべるところがなくなっちゃったんですよ。ノアの中継が始まるまでは『コロッセオ』っていう番組もありましたけど。

――ああ、ありましたね。なぜか掛布雅之さんが司会をやられていて。

若林　そのときには自分の中でプロレス中継への思いは一段落ついてましたから。実況をやりたい気持ちはあるんですよ。でも、番組プロデューサーが平川（健太郎）くんをはじめ、下も育ってきたし新体制にしたいって意向があったみたいで。解説をやられていた竹内宏介（元『週刊ゴング』発行人）さんも「ここで退くのが男の美学だぞ」って言葉をくださって。僕も馬場さんに大きくしていただいた人間なので、もちろん竹内さんがノア嫌いとかそういうことじゃないですよ。

――そういう経緯があったんですね。ノア中継をやってみたいっていう気持ちはなかったですか？

若林　大量離脱前の最後の武道館大会のときに、世界タッグ王座決定リーグ戦があったんですよ。で、川田、田上（明）組の試合が僕にとって全日本中継で最後の実況だったんですね。その中で僕は「全日本よ、永遠なれ！」って言ったんです。これは試合前にプロデューサーから「おそらくこれが全日本の最後の放送で、翌週からは『コロッセオ』になる」と伝えられていたので、ついにそこまできちゃったのかっていう思いがあったから、その一言を告げることで僕の中でピリオドを打ったわけです。



全日本プロレス、新日本プロレス、WWF（現WWE）がスクラムを組んで開催した日米レスリングサミット（90年4月13日・東京ドーム）での一コマ。倉持、若林、福沢の『全日本中継』3大アナ以外に徳光和夫さんの姿も！ 解説の竹内宏介氏、そして当日の特別ゲストだった、馬場さんの麻雀仲間でもある歌手の松山千春の顔も見える。

――若林さんとしては一つの時代に区切りをつける意味合いがあった、と。

若林　それを聞いたプロデューサーには「なんてことをしてくれた！」って言われましたよ。要するに僕ってプロデューサーにとってみれば扱いづらい存在だったんでしょうね。だけど、僕は全日本はこれで放送が終わりなんだっていう悔しい気持ちを放送に乗せたかったんです。そういう意味ではノアをやりたいっていう気持ちがなかったということになります。でも、いろんな事情があってできなかったってことですね。

――人一倍思い入れのある全日本プロレス中継のラストですし、本心をさらけ出さずにはいられなかったんですね。

若林　うん、放送の私物化ですよね（笑）。

――ダハハハハ！　そのあと、どういう経路で今回の実況復帰に至ったんでしょうか？

若林　02年からはまたプロレス実況から遠ざかって、空白の期間となるんです。それから僕は06年の7月にアナウンス部から事業局に異動になりまして。アナウンスから離れてもプロレスとは関わっていたかったので、僕は新しい部署で「街頭プロレス」を企画・立案したんですよ。

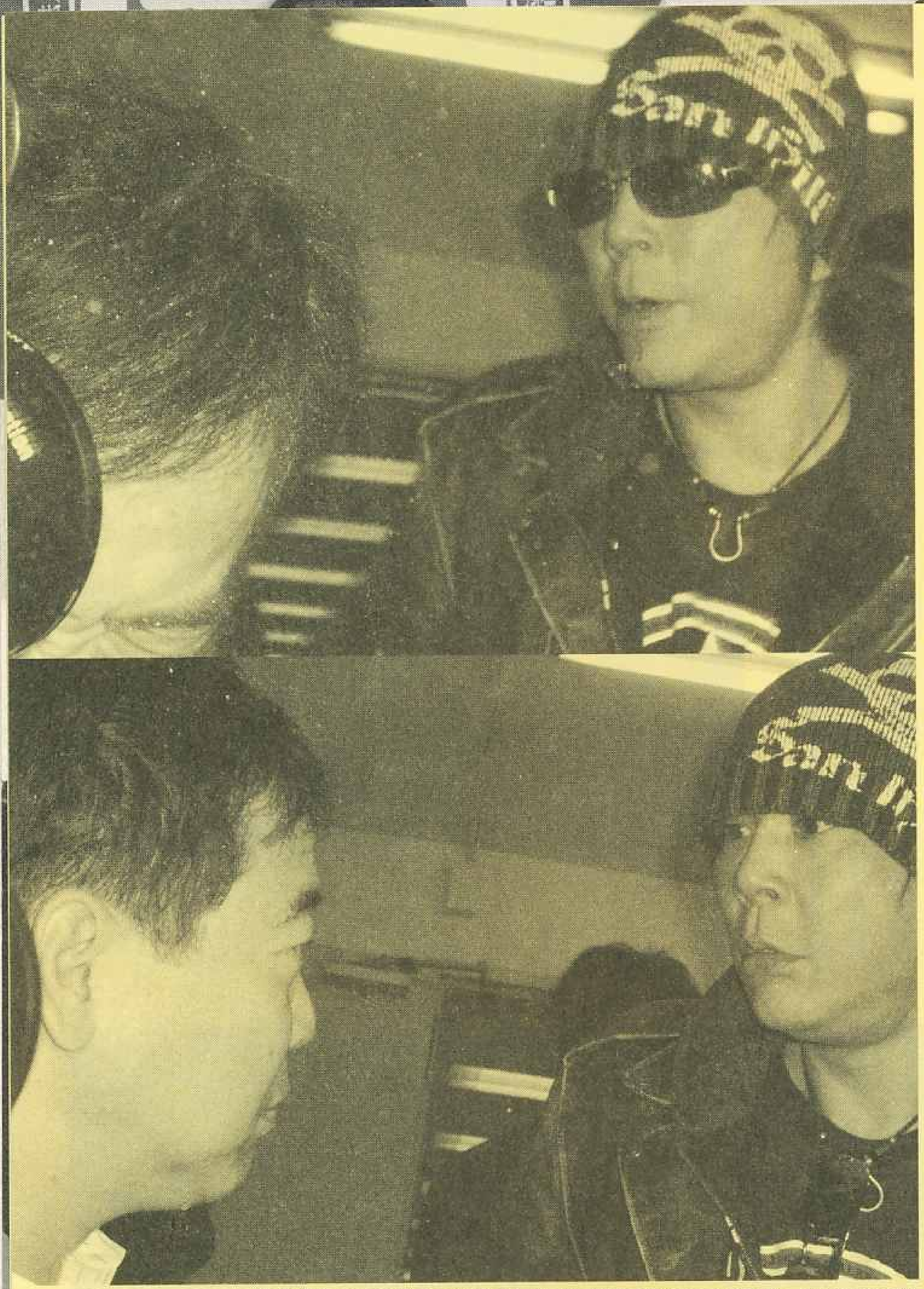
――ああ、汐留でやってましたよね。あれはどういった経緯でやることになったんですか？

若林　まず事業局の仕事として、僕は『日テレ屋』というグッズを売るお店の責任者になったんです。そのお店の中でノアのコーナーを作ってグッズを売ろうということになり、団体側からも了承をいただきまして。そこでは三沢（光晴）さんにサイン会をやってもらったり、特製のTシャツを限定で作ってもらって販売したりしました。それがさらに規模が広がり、日本テレビ主催の「GO！　SHIODOMEジャンボリー」というイベントの一貫として、ノアの街頭プロレスを実施することになったわけです。だから、実況から離れてもプロレスとは年中一緒にいたかったわけですよ。

――心には常にプロレスがあったということですね。

若林　それからご存知のとおり、僕は昨年の12月31日付で日本テレビを退職しまして。だから最初の実況担当のあとに5年空白があって、途中で2年だけ復帰して、そのあとまた5年の空白があるわけですね。合わせるとブランクは10年、これを埋めるためにプロレスマスコミの方にはそれはもうお世話になりましたよ。いろんな資料を見せてもらえてね。

――実況の下調べとして知識を補うということでしょうか？



2月24日のLOCK UP後楽園大会に予告どおり乱入した大仁田厚を若林アナが直撃！ 大仁田はペットボトルの水を口に含んで若林アナの顔めがけて噴射、さらに「いまのプロレス界をどう思う?」と問い詰める。すると若林アナは「オレは真鍋（テレビ朝日アナ）とは違う！ オレにできるのはマイクでしゃべることだけですよ。大仁田さんの実況をやらせてくださいよ!」と力強く主張。大仁田は「二人でプロレス盛り上げようぜ！ 若林、オマエもたいがいプロレス馬鹿じゃのぅ!」と応えた。どちらも愛すべきプロレス馬鹿なん邪！

若林　そうです、もともと完璧主義なもんですから。完璧じゃないと嫌なんですよね。たとえば入場シーンの実況だと、赤・青コーナーにそれぞれ2時間は準備にかけます。で、地方大会の実況では郷土色を出したいので町の市役所や観光課に行ったり、本屋で片っぱしからその土地のガイドブックを見たりするんですよ。あとは過去に使った表現は二度と使わないという主義ですし。何回でも「ジャストミート！　ジャストミート！」ってね、どれがジャストミートなんだっていう（笑）。

——ダハハハハ！　どれもジャストミートじゃないか、と（笑）。

若林　僕は「胸突き八丁！」とかは勢いで何回も言いましたけど、やっぱり同じフレーズは一つの試合の中では二度使いたくないですね。これは実況に対する姿勢の問題なんですよ。僕らは放送席でマイクに向かったときの態度や言葉へのこだわり、あるいは取材が生命線になるので手を抜くのは許せなかったんです。

——プロレスラーが身体を張ってるんだから伝える側も……っていう気構えですね。では、そもそも若林さんがプロレスアナウンサーになろうと思った経緯をうかがいたいんですが、子どもの頃からプロレスファンだったんですか？

若林　小さいときはレスラーになろうと思ってましたよ。

——自分が“やる側”のレスラーになろうと思ってましたか！

若林　だいたいファンは一度はレスラーに憧れるじゃないですか。ウチで特訓もやりましたよ、階段をウサギ跳びで500回くらいクタクタになりながら往復して。

——自宅でそんな猛トレーニングを積んでたんですか？

若林　だから階段なんかもう汗がダボダボで馬場さんの台東区体育館状態ですよ！　以前、馬場さんに「スクワットをやりながら、足下に汗が1センチ溜まったそうですね」って聞いたら「（馬場ボイスで）いや、5センチです」って答えてましたね（笑）。

——その“特訓”をされてたのはおいくつの頃なんですか？

若林　小学校5年くらいですね。ちゃんと海水パンツを穿いて、段ボールでチャンピオンベルトを作って、鏡の前でポージングするんですよ。

——気分はすっかりプロレスラーなわけですね（笑）。

若林　その当時、学校では相撲が流行ってたんですね。大鵬vs柏戸とかで盛り上がっていて。僕はこれじゃいかんということで、砂場でプロレスごっこを始めたんです。

——いわばプロレスごっこのパイオニアということですか？

若林　パイオニアです（キッパリ）。必殺技を聞いてください！　ジャイアントスイングで側頭部に高鉄棒をぶつけるんですよ！

——そんなデンジャラスな技を繰り出してたんですか！（笑）。

若林　相手が泡吹いて病院送りになっちゃったことがありましたからね。それで担任に往復ビンタされて。

——そりゃ往復ビンタもされますね（笑）。

若林　砂場のプロレスで帝王だったわけですよ。だからガキ大将からも一目置かれてイジメられることはなかったです。本当はイジメられキャラだったと思うんですけど、手を出されなかったですね。

——大好きなプロレスが身を助けてくれたということですね。

若林　そうです。それとノートに自分で自分の記事も書いたなぁ。「もの凄い遠心力を利用したジャイアントスイングで勝った」とか『東スポ』みたいに。『東スポ』は1面のプロレス記事を読むのはもちろんなんですけど、その頃から7～8面ぐらいに載ってるエッチな写真は別のノートに貼ったりして。

——あ、そういうところでもマメだったんですね（笑）。

若林　そうですね（笑）。で、中学になってからはなぜか軟式テニスを始めまして。やっぱり自分がレスラーにはなれないってわかるんですよね。その後、おそらく僕は大学のときにプロレスファンに戻ったと思います。ちょうどブッチャーやシークが活躍してた頃ですね。

——じゃあ、おもいっきり全日・馬場派だったわけですね。

若林　はい。僕は『水戸黄門』みたく最後に印籠を出して一件落着っていうのが快感だったんです。なので、いつ馬場さんの十六文キックが出るかワクワクして観てましたね。

——それで大学を卒業して最初に入社されたのは中部日本放送（以下CBC）になるんですよね？

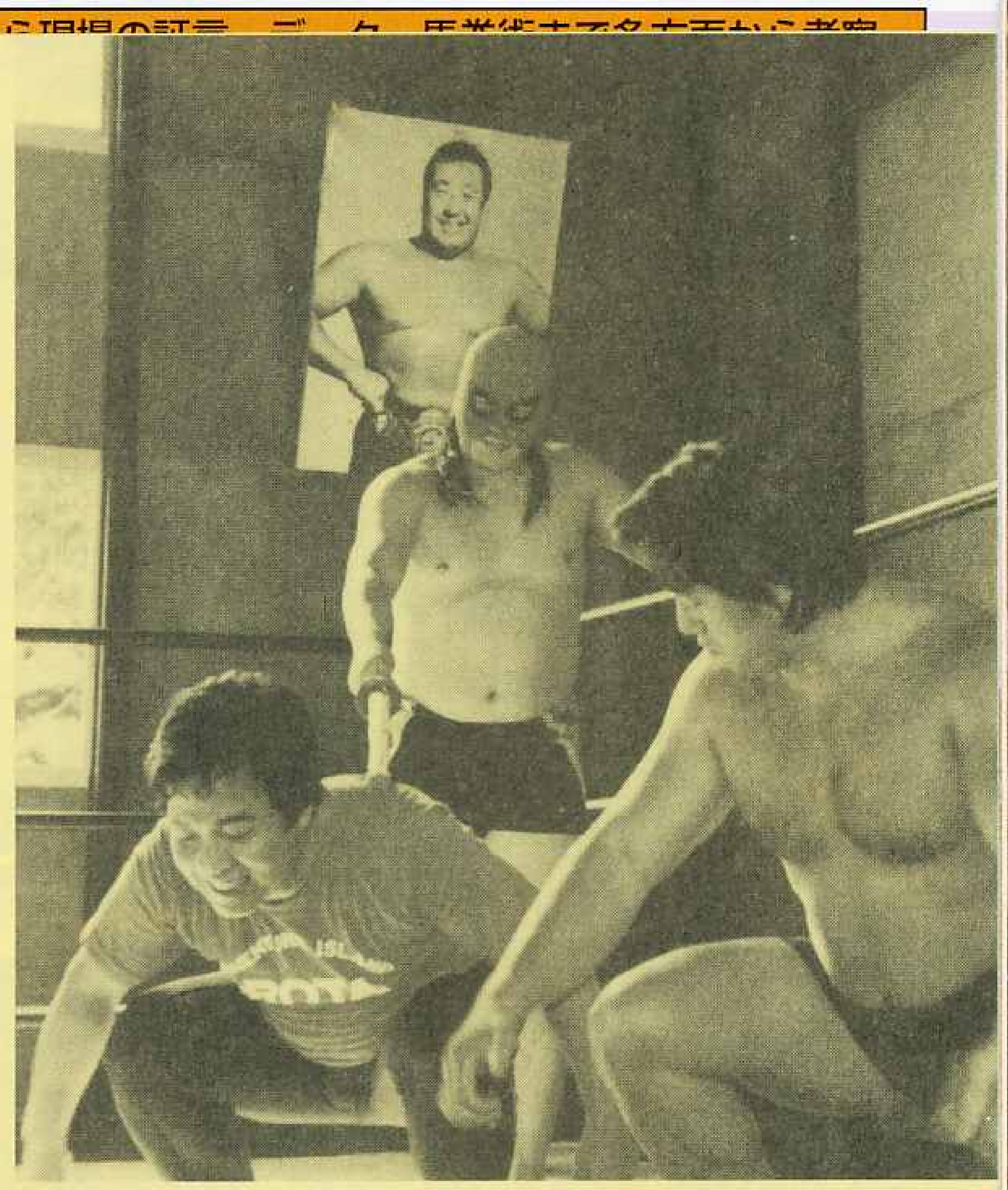
若林　そうです。僕はCBCでDJだったんですけど、自分のラジオ番組とかにレスラーをゲストで呼ぶ力はありませんから、しょうがなしにテーマ曲をかけたりするわけですよ。で、間奏部分に実況を入れてたんです、「おっとブッチャーだ！　東富士に地獄突きーっ！」とか。その頃からプロレスの実況が好きでしたね。

——では、日本テレビに転職されたのはプロレスの実況がしたいからということですか？

若林　そういうことです。もともと東京出身ですし、東京のテレビ局のアナウンサーになりたいという気持ちもありまして。当時の日本テレビは松永（二三男）さんがイギリスのBBCに出向してたので、プロレス実況は倉持（隆夫）さんが一人でやられてたんですよ。それで至急プロレスのアナウンサーがほしいっていうのがあったんじゃないですか？

——それは若林さんにとってはおあつらえ向きですよね。

若林　でもこっちはその時点では



おそらく番組内の企画か、日本プロレス界の父・力道山のパネルが見つめる中で、レスラーからトレーニングの指導を受ける若林アナ。スクワットの手本を見せるのはアポロ菅原、竹刀片手に檄を飛ばすのはいまは亡きマジック・ドラゴン（ハル薗田）。古きよき昭和全日本の風景である。

そんなこと知らないわけですよ。それで面接時に「アナウンサーで入社してプロレスが実況できれば」っていう話をしたんですよ。そしたら「え!? プロレスできるの?」って面接官だった当時の社長が反応して。すかさず「400の技をここでかけられますけど。いまかけましょうか?」って言ったら「いやいや、いいいい! じゃあ採用する」って話になって。

——社長にプロレス技を仕掛けようとしましたか（笑）。でもまあ、就職の面でもプロレスが役に立ったわけですね!

若林 だからプロレスが好きで本当によかったですよね。何回もプロレスには助けられてるんですよ。

——プロレスの実況をされてきた中で、これは本当に自分にとって天職だなっていうのはありましたか?

若林 ジャイアント馬場になりたかった男が結局はなれなくて、馬場さんを実況するという巡り合わせというんでしょうか。そういう意味で天職だったんでしょうね。ただ、自分の性格的に、もしこれが野球だとしてもそれはそれで150パーセント完全燃焼してたと思います。とことんのめり込んで好きになっちゃうタチなんで。

——若林さんの場合はその愛が視聴者にも伝わるんでしょうね。

若林 僕は一途なところがあるのか、実況してたときに観ていたのは全日本だけだったんですよ。それをいまはCSを中心に活動するわけですから、どの団体も観ておいて流れを把握しておかないとヤバイなと思ってます。でもそんなに器用な人間じゃないですから、いくつもやれって言われたら……まあ、やらせてもらえないでしょうけど（笑）。ただアナウンサーって、地上波だと「あ、誰々がしゃべってる。あ、辻だ。あ、若林だ」とか反応がありますけど、CSってそんなにアナウンサーは重視されてないと思うんですよね。

——視聴者はプロレスが観たくてわざわざお金を払って観る人ですからね。

若林 それだけにアナウンサーの役割って大事だと思うんです。なのにいまのCSって一人の人がいろんな団体をしゃべってるので、それでよろしいんですか? という気はしています。一つの団体にかける熱量が低くなってしまうと思うんです。

——一人だと特色を打ち出すという面ではもの足りないかもしれませんね。

若林 だからといって僕がいっぱいしゃべろうとは思いません。そんなに気が強くないんで、既成のところに土足で踏み込んでいくつもりはありません。ただマイクを持つと違いますよ! 与えられた仕事は粛々とこなしていきますし。まあ、ほかにも結婚式の司会をやったり、日本テレビの番組をやったりしてますけど、自分の中では今後はプロレスに比重を置きたいなと思ってます。

——そのくらいプロレスに思い入れを持って現場復帰されたわけですね。

若林 いま一人の方が多くの団体をしゃべってる体制についてはどうかなと思う部分はありますが、自分は同じことをやる能力もないし、現場もまだ与えられてませんし……これから精進するのみですね。

——若林さんは充分なキャリアをお持ちなのに謙虚なんですね。

若林 だからいま「全日本をやりなさい」って言われたら、自分が第一線でやっていた頃とはメンバーが替わってますけど、全日本のために必死に頑張ります。それで余力が出てきたら、もう一団体ぐらいできるかなっていうのが僕の限界です。やっぱりカロリーの低い仕事はしたくないですから。

——なるほど。一つ一つに情熱を持って臨まれているということですね。実況に復帰したうえでブランクを感じることはありますか?

若林 技の名前がずいぶん増えましたよね。いまCSでアナウンサーが技の名前を正確に言っているのを観るたびに「あっ、ちょっと覚えないと」って思って勉強してますよ。

——同じ技でも選手によって名前が違ったりしますからね。

若林 もし将来、CSでほかの団体もしゃべるっていうときのために、ちゃんと試合も観に行ってチェックしとかなきゃいけない。でもフリーとしてプロレス実況だけじゃ飯を食っていけないから、ほかの仕事もするわけです。そうすると時間は限られてくるので、いま葛藤してるところなんですよ。

——ほかの団体の話が出たのでお聞きしたいんですが、若林さんが日本テレビで実況をされてた頃、『ワールドプロレスリング』は意識してましたか?

若林 してましたね。新日本はしゃべりやすいと思いますよ。

——あ、そうなんですか? どのあたりにそう感じましたか?

若林 当時、僕も若かったから古舘（伊知郎）さんみたいにテンポよくしゃべりたいわけですよ。新日本のハイスパートレスリングは全日本に比べて速かったので、しゃべってるとなんか燃えてくるものがあるんじゃないかなって僕は思ってました。

——全日本はどちらかというと王道というか、間のあるクラシカルなレスリングという面がありましたからね。

若林 ところが全日本に（スタン・）ハンセンとか（ブルーザー・）ブロディみたいな重厚な外人選手が来るようになって、やっぱりこっちもすげえやって思いましたね。でも、あっちもやっぱり……って気になったりもして。隣の芝は青く見えるので、あっちもしゃべってみたいっていうのはありました。古舘さんが、「藤波よ、愛で猪木を殺せ!」って実況されたことがありましたけど、僕もそれに対抗して「ハンセンよ、涙でブッチャーを撃て!」って言ったんですよ。

——ダハハハ! 元ネタがそれだったとは! 「ブロディ・メモリアル」（88年8月29日・日本武道館）のときですね。

若林 そうです! 誰も気がつかなかったですけど（笑）。

——気づかれないと悲しいものがありますね（笑）。『ワールドプロレスリング』もいまは放送枠が30分になりましたけど、先に『全日本プロレス中継』のほうが時間が縮小されましたよね。

若林 放送枠が30分だと入場シーンがバッサリ切られるんですよね。でも起承転結を考えたら「これは入場から使ったらいい感じになって……」って思うときにはディレクターに伝えるんですよ、「切るなよ、絶対に使えよ!」と。

——アナウンサーにとってみれば使ってほしいですよね。

若林 でも、放送2日前ぐらいに

僕はジャイアント馬場になりたかった男「プロレスに戻ってきました」と報告します

「やっぱり無理でした！　上から言われて切りました。中身もつまみました」って言われてね。こっちも「いいよ、おまえとはもう仕事したくねえ」とか言い返して。

——若林さん、実況中に「30分になったのは悔しいんです！」って言われてましたよね。

若林　おまけに「漆戸編成局長、これが30分か！」って名指しで言ってましたから、ご本人はかなり怒ってました（笑）。

——ダハハハハハハハハ！　さすがに怒りますよ!!（笑）。

若林　漆戸さんっていったら編成局長でのちの専務ですから、僕を飛ばすぐらい簡単なわけですよ。それで飛ばされたとは思いませんが（笑）。あの当時、ラジオ日本っていうのはもう経営破綻してたんです。その救済に経営陣の一部が出向して、僕はラジオの経験があったので現場のしゃべりは若林が行けということになりまして。だからラジオ日本への出向はそれがすべてじゃないとは思うんですけど、まったくそれが理由になってなかったとは言いきれない（笑）。

——なるほど（笑）。

若林　僕は編成局アナウンス部所属だったんですが、編成局には漆戸さんの前に、馬場さんという方がいたんですね。で、いまだから笑って話せることがありまして。

——馬場さんですか？　気になりますね、どんなお話ですか？

若林　あるとき、SWSの東京ドーム大会のCMナレーションの依頼が僕に来たんですよ。東京ドームから「ウチも主催に入ってるのでやってもらえませんか？」って。

——全日本の実況アナウンサーにSWSの仕事依頼ですか!?

若林　なので「いや、僕は全日本のアナウンサーで、SWSっていうのはこういう理由でできないんですよ。だからCMを流すためには（ジャイアント）馬場さんの了解がないと」って言ったんです。ところが向こうは何を勘違いしたか、馬場編成局長の了解を取っちゃったの。

——それは〝馬場〟つながりで勘違いしたってことなんですかね？

若林　おそらく。了解済みということを聞いて、僕は会社の仕事としてやったわけですが、あとになってジャイアント馬場さんが「（馬場ボイスで）おまえ、なんで天龍の！」ってご立腹になって、しばらく口を利いてもらえませんでした……。あたりまえですよね。僕もアナウンス部長から「馬場さんの了解が取れたから」って言われたときは「よく取れたなあ、やっぱりジャイアント馬場っていうのは偉大な人間だな」と思ってね。

——「心が広い、さすが世界のジャイアント馬場だ」と（笑）。

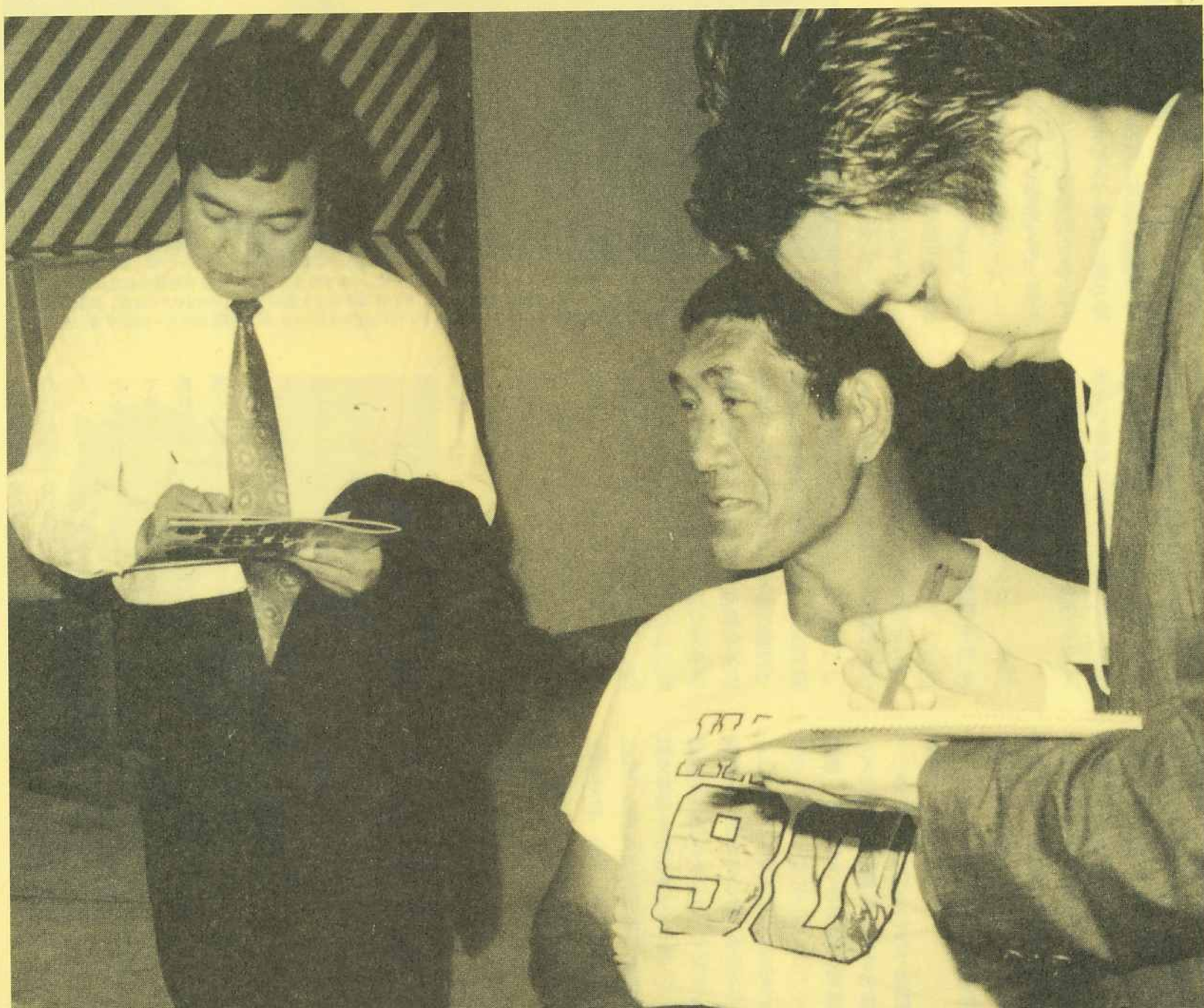
若林　そしたら馬場編成局長の了解で。まあ、すぐ誤解は解けましたけどね。

——あと、番組内の話をお聞きしたいんですが、福沢（朗）アナが「プロレスニュース」とかやってたじゃないですか。あれって若林さん的にはどうだったんですか？

若林　大賛成でしたよ。

——大賛成！　昔は「僕はプロレスニュースが嫌いです！」って放送中に言ってたじゃないですか！

若林　あれは表向きの発言で、じつはあのコーナーは僕が作ったんで



幼少の頃から大の馬場信者である若林アナ。プロレスごっこではいつも馬場役となり、馬場が負けた翌日は登校拒否するほどに心酔。馬場の訃報を聞いたときには、涙を流しながら麹町の当時の日本テレビ社屋の周りをさまよったとか。

す。

——そうなんですか!?

若林　最初、僕は欠場してる選手や試合を離れての素顔にスポットを当てたり、そんなのを5分くらいのコーナーでやるつもりだったんですよ、ニュース的に入れようってことで。（馬場）元子さんも「いいんじゃない?」って言ってくれて。

——「オフ・リング」ってことですね、いいアイデアですよね。

若林　でもそれがなぜか、第一回目からお笑いコーナーになっちゃってたんですよ。

——ダハハハハ！　意図していたものと違うものになってしまった、と。

若林　だから、それ以降の「プロレスニュース」は嫌いです。はじめに企画したのは僕なんですけどね。でもまったくねじ曲げられて始まっちゃったの。僕が出番のときには、ゴーンッて鐘が鳴って「秋も深まってまいりました。若林マンモス健治です。プロレス界は……」って、わざと重鎮な感じでやってましたね。

——まさかそういったアイデアも出してるとは思いませんでした。その頃の若林さんの実況で印象深いものの一つに、三沢（光晴）がマスクを脱いだ試合があるんですが。

若林　僕が「マスクを脱いだー！　マスクを取ってみさ……わとなって……」って言葉に出すのを躊躇してるんですよね。一瞬で周りを見て「言っちゃっていいのか？」って目で確認して。

——あれ、解説のカブキさんは知ってたんでしょうね。

若林　知ってましたね。

——若林さんはご存知なかったんですか？

若林　ウチのプロデューサーは一切教えてくれませんでしたね。

——やっぱりそうだったんですか。

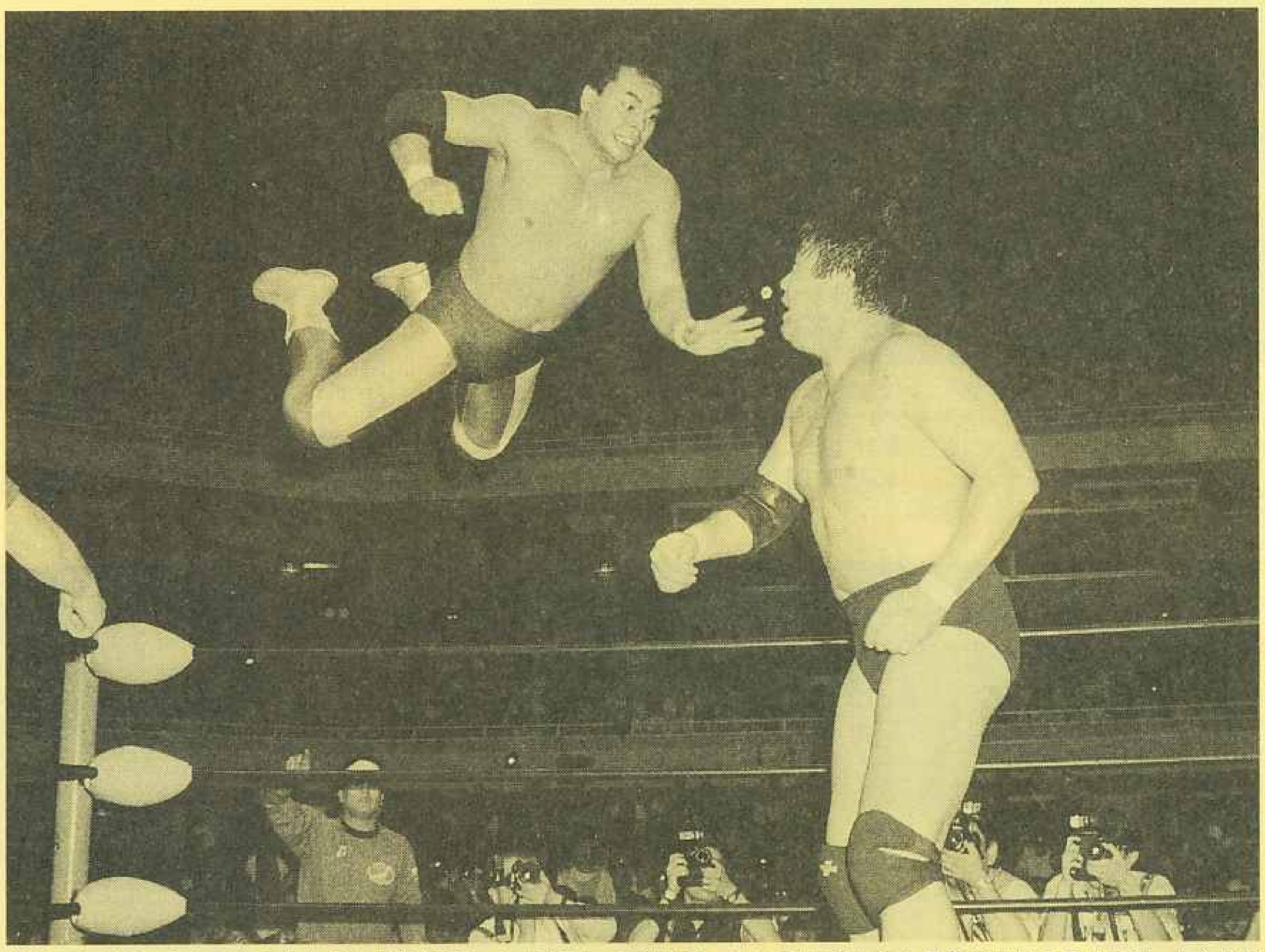
若林　ただ、「何かが起こるかもよ」とは言ってた。だからこっちも緊張するんです。何が起こるのか、誰かリングサイドに来てないかとか、大慌てで。事前に知ってるとやらせっぽくなっちゃうからね。

——「待ってました」的な感じになっちゃいますもんね。

若林　マスクついでに言うと、実況の中で一つ僕はファインプレーをしたことがあったんです。

——ほうほう、どういったことでしょうか？

若林　ちょうどジャパンプロレスが全日本に参戦するかどうかという時期で、会場に長州力やスーパー・ストロング・マシンが来ても、まだテレビ朝日さんとの契約もあってテレビに映せないんですね、せっかくの生放送なのに。放送時間終了の一分ぐらい前にスーパー・ストロング・マシンが乱入するんだけど、近寄らずにロングの絵なんですね。「おーっと！　なんだこれは！　誰かが乱入してきたぞ」とは言うんですが、「これはスーパー……」とまでは明かせなくて。最終的には「では、この模様はまた来週！」っていうふうに処理するわけです。



若林アナが思い入れのある試合として挙げたジャンボ鶴田vs三沢光晴。SWS設立による大量選手離脱で窮地に陥った全日だったが、鶴田や四天王の激しい闘いでファンの信頼を勝ちえた。その死闘の数々を若林アナは魂の叫びで実況。「鶴田の時代はまだ終わっていません。しかし三沢の時代はもう始まっています！」(1991年4月18日、両者の三冠ヘビー級選手権より)。

——特ダネではあるのに、契約問題とかデリケートな部分があったんですね。

若林　やっぱり新日には放送の時間帯も視聴率も負けてましたから、悔しいじゃないですか。だから僕は「スーパー・ストロング・マシンのマスクを一枚もらってきて！」ってスタッフに頼んで、「この番組はご覧のスポンサーの……」って15秒の提供バックが出てる場面でマスクだけ映させたんです。

——それ覚えてます！

若林　あれは僕の仕込み。あれでマシンが来たぞっていうのがわかるでしょ？

——へぇ～！　それはファインプレーですね！

若林　マスクを映しただけで本人を映してないから、テレ朝はなんにも言いようがないし。でも、来たっていう事実はプロレスファンにはわかるわけでしょ。とっさに思いついて、「あっ、放送終了しちゃった。なんとかしなきゃ。そうだ、マスクマスク」って。

——生放送ならではの機転を利かせたと。

若林　そうそう。

——放送中もいろいろ対応しなくちゃいけないわけですね。実況を長年されてきた若林さんですが、一番思い入れがある試合ってなんでしょう？

若林　三沢vs鶴田戦ですね。三沢が勝った試合ね（90年6月8日・日本武道館）。

——最初に勝ったときですね。

若林　あのときはかなり根詰めてやりましたよ。徹夜で下準備をして臨んで、しかもあのときはメインだけじゃなくて3～4試合しゃべらされたんですね。あの試合が終わったときはぶっ倒れる寸前でした。

——精も根もつきはてた感じで。

若林　熱が出ましたからね。38度ぐらい。だから終わったときに「三沢が勝ったぁぁぁーーー！」って叫んで、気持ちの中ではバターンッて倒れ込むような試合でしたね。それで無理がたたったのか、ちょっと見たら口から血が出てましたよ。声帯が破れたとか、そういうんじゃなくて口の中のほっぺの部分を噛んじゃって。

——そのくらい気合いが入ってたんですね。当時、実況席で〝若竹コンビ〟と称された解説の竹内さんとはやりやすかったですか？

若林　竹内さんはね、マンションの保証人でしたからね。

——え？　どういうことでしょうか？

若林　いろいろと家庭の事情もあって、遠くの親戚より近くの他人っていうね。そういうことで保証人になっていただいて。

——そのくらいに深い付き合いだったんですねぇ。

若林　よく実況前に打ち合わせをしてアドバイスをもらいましたね。いいフレーズが浮かばないときに竹内さんに『ハンセンよ、ナントカでブッチャーを撃て』にしたいんですけど」って言うと、「涙！」とか言ってくれるわけ。「涙か！　竹内さん、ありがとう！」って感謝して。

——まさに一緒に作り上げてたような感じだったんですね。

若林　そうですね。あの人は僕の言

プロレスには何度も助けられました だから何かしら恩返しがしたいんです

うことを絶対に否定しないんですよ。

―確かに放送を聞いていてもそうなんですよね。

若林　「うん、悪くないですねえ」って。あの人の口癖は「悪くない」だから。僕が「いい」って言っちゃうと「悪い」とは返さないんですよね、僕にも選手にも角が立つからか。

―同じ解説でも馬場さんはよく否定してましたよね。「馬場さん、そうですよね！」って言うと「いや、全然」って。

若林　まあ、全否定の場合はもうお手上げなんですよね（笑）。馬場さんは名解説者です。なるほど！　とハッとさせられたことが何回もありました。ただ表現に凝るところがありますね。

―なるほど（笑）。けっこうな間を置いてしゃべってましたよね。

若林　だから「いいですよ、いいですけれどもね……」ってそのあとが続くんですよ。

―そういう呼吸も理解したうえで合わせないといけないんですね。

若林　だって馬場さんと話す人はみんな感じると思うけど、「馬場さん、これについてどうですか？」って聞くと、葉巻をプカーッて吸ってから「………は？」だから（笑）。一つのことを聞くのに2分ぐらいかかりましたからね。あの間が慣れるまではもたないんですよね。

―馬場さん特有の話術というか（笑）。その点、竹内さんとは息が合ってましたよね。

若林　そうですね。竹内さんにはずいぶんと無理を言いましたよ。「タイガーマスクがトップロープに登った！　竹内さん、タイガーマスクに飛べって一緒に言ってくださいよ。タイガーマスク、飛べーっ！」なんて二人で言ったりして。で、タイガーマスクも聞こえたのか、飛んだんですよ。でも自爆なんですよ（笑）。

―ダハハハハ！

若林　「……自爆してしまいました。言わないほうがよかったですかねえ？」とかね（笑）。けっこう遊べる要素もありましたね。

―プロレスファンが二人でプロレスを観に来てるみたいなかけ合いもありましたもんね。いま竹内さんはまだ……。

若林　入院されてますね。僕もお見舞いのときに耳元で実況を聴かせました。フリーになるご報告もしましたし。馬場さんの命日には元子さんにも会いましたよ。馬場さんにも「会社辞めました。またプロレスに戻って来ました」って報告します。僕は馬場になりたかった男ですからね。

―馬場さんの命日に集まるっていうのは恒例なんですか？

若林　2年に一回ずつぐらい花は送ってましたけど、実際に元子さんにお会いするのは7～8年ぶりぐらいじゃないかな。やっぱり馬場さんは僕の原点ですからね……。しかし、『kamipro』では皆さんずいぶん裏のことまでしゃべってますよね？

―ありがたいことに『kamipro』用のネタを用意してくださるようで（笑）。倉持さんのインタビューは読者からも好評でしたけどね。

若林　でも、倉さんのことをよく知ってる者からすると、本人は話を相当に膨らましてしゃべってますね。

―そこまでサービスしてくれてましたか（笑）。

若林　だって、ブッチャーとシークにやられた傷も本当に縫ったのは4針ですよ。それが酒飲むとだんだん9針とかになって。打ち上げで制作協力した系列局の社長がいらっしゃると「いやあ、17針縫いました」とかね（笑）。

―ダハハハハ！　どんどん傷が広がっていくわけですね（笑）。

若林　ちなみに倉さんの息子二人の結婚式は僕が司会やってるんですよ。で、倉さんが僕に「若林、俺はおまえのこと大っ嫌いだ。だけど息子がおまえの信者なんだよ。結婚式の司会やれ。俺はイヤなんだけど」って言うんですよ。そんなにイヤなら頼まなけりゃいいのに……やりましたけどね。

―ダハハハハ！　先輩後輩で微妙なご関係なんですねえ。

若林　まぁ、いろいろと思い出はつきないですよ。あ、あと絶対に書いてほしいことがありまして……『東スポ』では書いてくれなかったんですけど。

―はい、なんでしょう？

若林　僕は00年に一度、『全日本プロレス中継』に復帰しましたけど、ファンの声で復帰した日本で唯一のアナウンサーなんです。これはプロレスに限らず歴代の放送史を見てもありえません。これは嬉しいことですよ、メールやファックスや電話が日本テレビにガンガン来ましたから。

―それは快挙ですよねー　プロレスファンの熱さもあって。

若林　本当、プロレスのファンっていうのは凄い人たちですよ。

―まだありますもんね、若林さんの復帰を望むHPが。

若林　あの中には「三沢vs川田の東京ドーム、あなた以外に誰が実況するんですか」とか書いてあってね……あんなの読んだら泣いちゃいますよ！　「あなたの実況は口語散文詩であった」とか。嬉しい書き込みがいっぱいありましたね。

―アナウンサー冥利につきますね。それだけファンから愛されているという。

若林　これは声を大にして言いたい、胸を張りたいですね。

―では、最後に本格復帰の意気込みを一つお願いします。

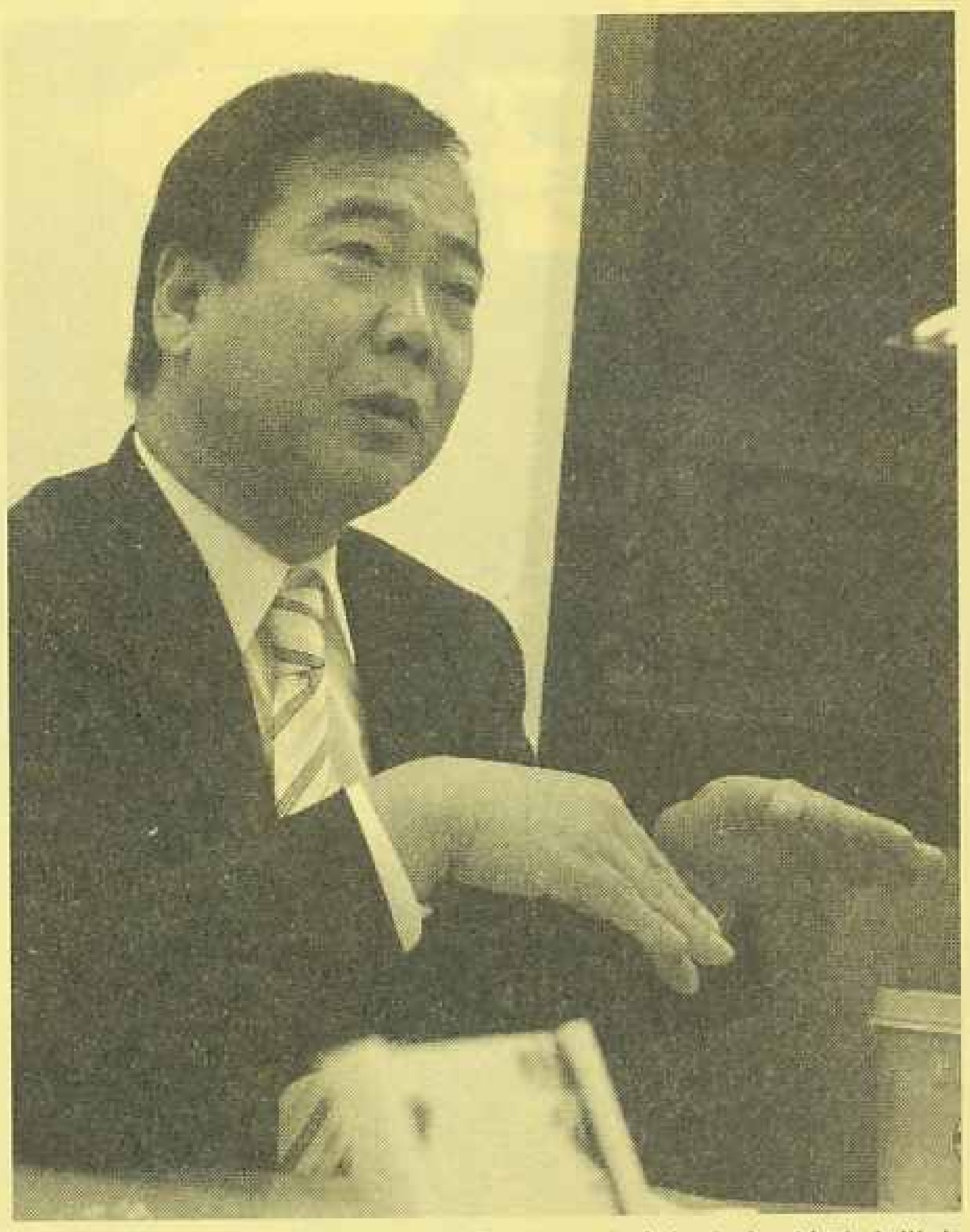
若林　本格復帰も何も、まだ月イチぐらいしかお仕事をいただいてませんのでね。やっぱり毎週実況をやりたいですよ。おそらくファンの声で戻ってきたアナウンサーが世界で僕一人だとすれば、今度は会社を辞めてまでプロレスに戻ってきたというのも僕一人じゃないですかね。これって凄いことだと思いませんか？

―思います！　まさに〝全身プロレス実況アナウンサー〟ですね！

若林　それぐらいプロレスが好きです。何度も自分の身を助けてくれたので。それに対して僕はなんの恩返しもできてません。今回もプロレスに助けてもらいつつ、何かしら恩返しができたらいいなと思っています。放送の私物化はいたしません（笑）。

―ダハハハハ！　今後のご活躍を期待しております！

【08年1月29日／kamipro編集部にて収録】



わかばやし・けんじ■1958年2月23日、東京都出身。法政大学卒業後、81年に中部日本放送へ入社。84年4月に日本テレビに入社、1ヵ月後には「全日本プロレス中継」の実況を担当する。95年よりラジオ日本へ出向となるが、ファンのプロレス中継復帰を望む声により98年に復帰。2000年の全日本プロレス中継終了から6年後にアナウンス部から事業局へ異動。07年12月31日付で同社を退社、今年からフリーとしてプロレス界に現場復帰をはたした。

テリー・ファンクが辞めるまで私は引退しない!



四六判ハードカバー　328ページ　定価＝2,520円(本体2,400円＋税)

アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス自伝

ダスティ・ローデス&ハワード・ブロディ 著

これぞ、ショーマンシップの真髄!!

この体型で、このルックスで、なぜトップに君臨できたのか?
そして60歳をすぎてもなお現役を続ける理由とは、
さらにはプロレスラーの教訓「ビジネスはビジネス」とは、
プロレスにおける「アメリカン・ドリーム」とは何か?



全国書店にて
“バイオニック・エルボー”
炸裂の勢いで **絶賛発売中!!**

好評既刊　エンターブレインのプロレス書籍

オフィシャル自伝シリーズで“レジェンド”の生きざまを学べ!

“プロレス”に魅せられた
“レジェンド”の激白!



テリー・ファンク自伝 人生は超ハードコア!
テリー・ファンク&スコット・E・ウィリアムス 著

四六判ハードカバー　500ページ
定価＝2,520円(本体2,400円＋税)

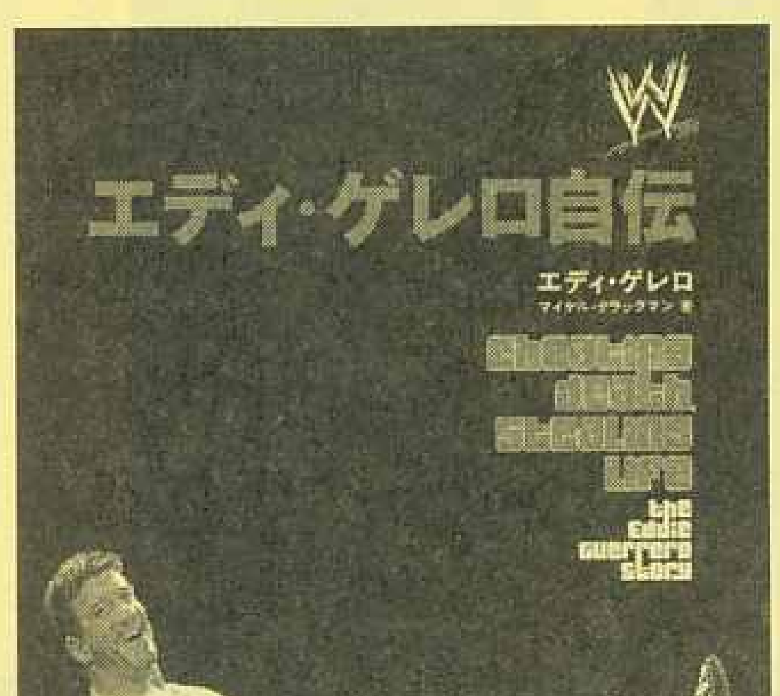
リングの上だけでなく
人生のすべてがまさにキング!



ハーリー・レイス自伝 キング・オブ・ザ・リング
ハーリー・レイス&ジェリー・トリッツ 著

四六判ハードカバー　328ページ
定価＝2,520円(本体2,400円＋税)

酒とドラッグと愛と勇気の
壮絶なレスラー人生!!

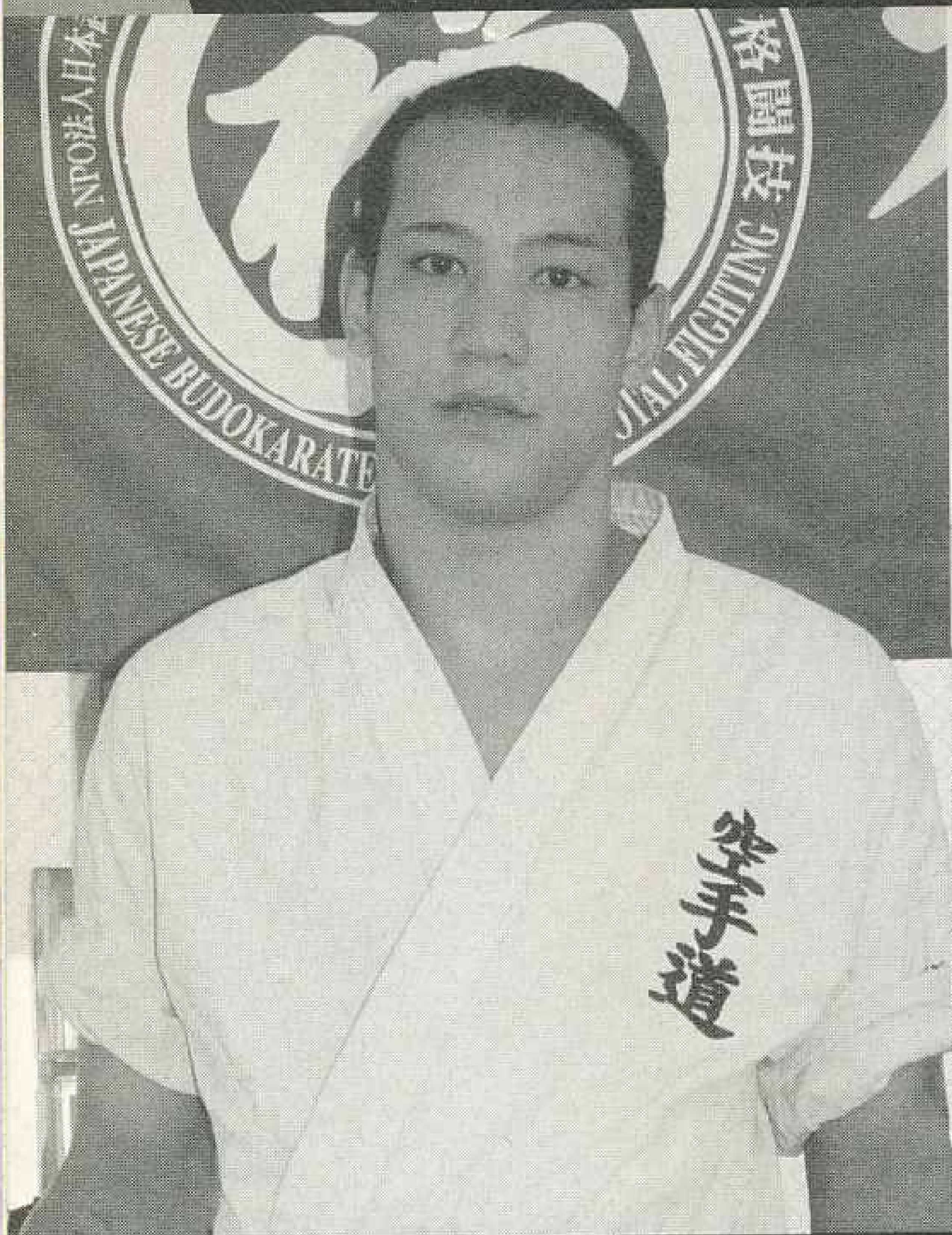


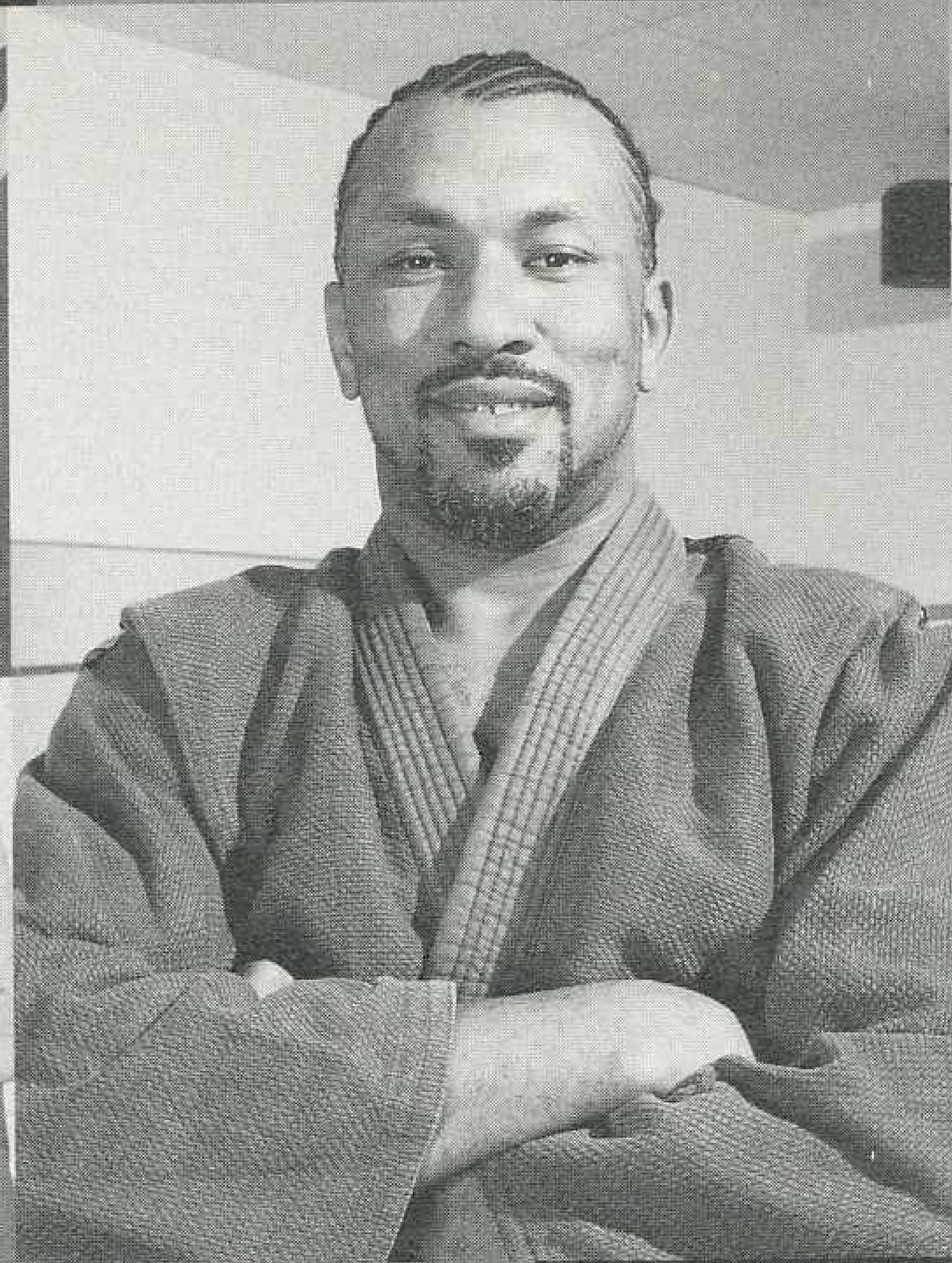
エディ・ゲレロ自伝
エディ・ゲレロ&マイケル・クラッグマン 著

四六判ハードカバー　432ページ
定価＝2,520円(本体2,400円＋税)

enterbrain　株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)　■通信販売のお問い合わせ先　http://www.enterbrain.co.jp/

ニッポンで暮らす個性派ガイジン大特集！







ウェルター級代表
LUIZ
from ブラジル

ヘビー級代表
カルロス・トヨタ
from ブラジル

スーパーヘビー級代表
カリム・バイロン
from カナダ

青木真也も
大プッシュ!?

ガイジンさんいらっしゃ〜い！

ガイジンさん、いらっしゃ〜い！（桂三枝調）。今回大特集するのはニッポン在住の個性派ガイジン格闘家3名だ。階級はウェルター、ヘビー、スーパーヘビー。住んでるところも、横浜、浜松、大阪とまったくバラバラのブラジル、カナダ出身の注目ガイジンファイターをクローズアップ。あの青木真也も大プッシュの"強くてヤバくておもしろい"個性派ガイジンの正体とは？　必見ですよぉ！

構成／阿修羅チョロ



「大阪がメッチャヤ好きやねん!」

“大阪弁をあやつる超巨漢ファイター”

“シュガーベア”

カリム・バイロン

(M-FACTORY)

まずは左上の写真を見てほしい。これはバイロンのプロフィール写真だ。このボブ・サップ顔負けのド迫力ボディをネット上で発見し、バイロンのことを調べてみると、なんと大阪在住だという。もともとはグラップリング系の選手だったバイロンだが、2.29後楽園ホールでキックデビューをするという情報を入手し、試合後、本人をキャッチし、直撃インタビューを敢行!

構成／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

——バイロンさんのプロフィール写真をネットとかで見て、「コイツは凄い!」と思って取材に来たんですが、キックデビュー戦は残念な結果に終わってしまいましたね。

バイロン　スンマセン、もう一回言ってくれへん?

——いきなり大阪弁ですか(笑)。試合は残念な結果に終わってしまいましたけど、感想を聞かせてください。

バイロン　オッケー。ペラペ〜ラ、ペラペ〜ラ、ペラペ〜ラ(英語で感想をしゃべりまくるバイロン)。

——あれ?　バイロンさんは日本語が堪能だって聞いてたのに。

バイロン　ガッハッハッハッハッ!　イッツ、ジョークやがな(笑)。

——「やがな」って(笑)。

バイロン　まあ、今日の試合は、試合中エキサイトして、思わずグラウンドでパンチしてしまってレッドカードを出されてしまったやろ。あれでポイントがダウン、ダウン。あのとき残り時間3秒やわ。オ〜、ミステイク!　ふぅ〜(ため息)。

——あれがなければ勝ててた、と?

バイロン　そやろ。(小声で)でも、ちょっと脚も痛いわ。

——だいぶローキックを食らっちゃいましたからね。ちなみに今日は体重はどれぐらいあったんですか?

バイロン　155キロね。

——それはベストウエート?

バイロン　ベストは130キロ。

——じゃあ、ベストより25キロほど重かったってことですよね?

バイロン　そやね。前にパンクラスに出たとき試合前にケガしたことあ

青木真也も大プッシュ!?
ガイジンさんいらっしゃ～い！

あんときのボディはケガ前まではキープしとってん。ホンマやで！

ってな。

―06年3月の大阪大会でチーム玉海力の小椋誠志選手との試合が組まれていたのに、試合直前のアップ中に左肩を脱臼したとかで不戦敗になったんですよね。

バイロン そうそう。それから8カ月はトレーニングできなくて、それでウェートアップね。最近は試合が決まってからボクシングとキックのトレーニングをいっぱいして、12月には柔術のオール日本のチャンピオンシップがあった。それでちょっとカムバック。オッケー？

―なんとなくわかったような、わからないような。

バイロン ベストコンディションは5月ぐらいやな。まだまだ。

―バイロンさんのプロフィール写真をいろんなとこで見かけて、一部では〝カナダのボブ・サップ〟なんて言われてましたけども、今日実際、そのボディを見てみたら、違う意味で「脱いだら凄いんです！」って感じで驚きました（笑）。

バイロン ガッハッハッ！ でもな、あんときのボディはケガ前まではずっとキープしとってん。ホンマやで！

―じゃあ、5月には、またサップみたいなボディに戻る？

バイロン そうそう。もうちょっとだけ待ってくれへん？

―待ってます（笑）。今日はキックの試合でしたけど、バイロンさんの最終的な目標はMMAのチャンピオンなんですか？

バイロン やっぱり両方のチャンピオンになりたいね。キックもMMAもやりたいし、あとジュウジュツも変わらずやってくつもり。

―全部のチャンピオンになりたい、と？

バイロン アイ・ライク・オール・ファイティング。全部チャンピオンが目標ネ。

キック初戦はホロ苦デビュー！



バイロンの相手はアイアンアックス所属の古田太一。キックデビュー戦とはいえ、相手との体格差は大きくバイロンの関係者も「必ず勝ちます」と試合前は自信たっぷり。いけ、バイロン！



藤門暐裟の出場で注目された2・29 J－NETWORK後楽園大会に参戦したバイロン。ヘビー級次期挑戦者決定トーナメントのリザーブマッチに登場したバイロンは予想をはるかに上回る巨体を披露！



序盤は軽快なローキック、そして重量感たっぷりのパンチを放っていったバイロン。相手のローキックを受けてもかまわず突進し、またしてもメガトンパンチを発射！ この調子でいけ、バイロン！



有利に試合を進めていたかに見えたバイロンだったが、次第にスタミナ切れを起こし古田の攻撃で動きが止まってしまう。3ラウンドには倒れた古田に殴りかかってしまい痛恨のレッドカード！



バイロンのキックデビュー戦は残念ながら判定2-0で敗戦という結果に。しかし、勝っても負けても取材をお願いしていたので、試合後、控室で話を聞いたのが今回のインタビューってわけです！

―かなり、欲張りですね（笑）。バイロンさんはPRIDEに出るのが夢だったんですよね？

バイロン そやね。カナダにいるときからPRIDEはいつもいつも観てた。マイ・ドリームはPRIDE出たいだったけど、いまはホントにDREAMになってしまったやん？（ちょっと得意げ）。

―座布団一枚！（笑）。PRIDEのどこが好きだったんですか？

バイロン PRIDEはやっぱハイレベルやろ。それに日本のファンはスゴ～イ！ 日本のファンはファイティングとファイティングスピリッツ、ホンマにわかっとるやろ？

―日本の観客は見方がわかるってよく言われますよね。

バイロン UFCとかアメリカのファンは、寝技になると「ブー！ ブー！」ね。でも、日本人はちゃんとわかって観てる。そのときはちょっと静かにして、「オ～！」って言いながらテクニックをわかって観てる。観てるほうもレベル高いね。

―そういうお客さんの前で闘ってみたかった、と？

バイロン はい、正解デ～ス。

―闘いたいMMAファイターって誰かいます？

バイロン 大好きなファイターはヒョードル。あとはフジタ！

―藤田和之選手ですか？

バイロン そう！ フジタ大好き！ ファイトスタイルもそやけど、スピリッツもサイコーね。

普段は小学校の先生をしてんねん。子どもはメッチャかわいいよぉ！

—憧れの藤田選手やヒョードルと闘って勝つ自信はあります？

バイロン　ボ、ボク？（急に挙動不審になって周りを見回す）。

—ほかに誰もいないじゃないですか？

バイロン　いや〜、ボクなんかまだまだ。

—そこまでの自信はない、と（笑）。

バイロン　ヒョードルもフジタもハイレベルすぎるやん。でも、いつかはあそこのレベルまで行きたいと思ってんねん。

—カナダにいた頃は、いまUFCで大活躍のジョルジュ・サンピエールとも練習してたみたいですね？

バイロン　はいはい。ボクのジュウジュツチームはBTTカナダ。そこでジョルジュ・サンピエールとも一緒にトレーニングしてました。彼は小さいけど、メッチャ強い！

—メッチャ強い（笑）。

バイロン　そうネ。ジュウジュツはサイズはあまり関係ない。テクニックが大切。でも、キックはおっきな人、背が高い人が有利やん？

—そうですね。日本では大阪に住んでるってことですけど、スパーリングパートナーを探すのは、なかなか大変だったんじゃないですか？

バイロン　そうネ。最初はパンクラス稲垣組で練習してた。稲垣組の皆さんは小さいけど、テクニックがある人ばっかりだからMMAの練習はダイジョウブ。でも、キックはビッグなスパーリングパートナーが大切。だから、いまはM-FACTORYってところで練習してる。

—大阪に住んでいるのは、カナダで知り合った日本人が大阪の人が多かったからってことなんですよね？

バイロン　そうそうそう。大阪の人はメッチャおもろかったし、あと大阪弁もとってもおもろい。大阪がメッチャ好きやねん！

—念願かなった、と（笑）。日本には学生として来たんですか？

バイロン　違うね。ISESってランゲージサービスの仕事。いまは小学校の英語の先生をしてんねん。

—えっ、バイロンさんって英語の先生だったんですか？

バイロン　そやねん。子どもはメッチャかわいいし、毎日楽しいネ。

—でも、小学校の先生をやりながら、キックや柔術や総合を続けるのっていうのは大変じゃないですか？

バイロン　はいはい、そうですネ。ちょっとトレーニングタイム取るのは難しい。でも、それはしゃあない。

—しゃあないですか（笑）。バイロンさんのリングネームには"シュガーベア"と入っていますが、それはどういう意味なんですか？

バイロン　シュガーベアっていうのは日本に来る前のニックネームなんだけど、その頃、ボクはもっと大きかった。180キロあった。

—180キロもあったんですか！

バイロン　だから、いまはちょっとライト（笑）。ベアは「ウオ〜ッ！」ってストロンガーでデンジャラスな動物。でも、シュガーはスイートで優しいって意味。ボクはファイティングのときは「ウオ〜ッ！」でベアになるけど、ファイティングが終わったときは優しい人に戻る。だから、シュガーベアね。

—そういうことでしたか。

バイロン　先生の仕事のとき、生徒に試合をしてる写真を見せても「嘘つけ！　カリム先生はファイターじゃないよ。怖くないし、信じられない」って言われんねん（笑）。

—確かに服を着ると優しそうな感じですもんね。

バイロン　そやろ？

—はい（笑）。バイロンさんは結婚はしてるんですか？

バイロン　ノーノーノー。まだまだ走るよ〜。ガッハッハッハッハッ！

—もしかして、日本人の彼女とかいるんじゃないですか？

バイロン　う〜ん、どやろ？（腕組みして遠くを見つめる）。

—なんか意味深ですねぇ（笑）。ガールフレンドとかたくさんいそうな感じですけど。

バイロン　（突然テレコを止めようとして）これを止めたら答える（笑）。

—じゃあいいです（笑）。好きな大阪弁ってなんですか？

バイロン　「そりゃアカン！」とか好きネ。あと「行かなアカンで！」とかも標準語では「行かなければならない」でしょ。とっても長いやん？

—そうですね。

バイロン　大阪弁はスゴク便利。ジョークのときも大阪弁は便利。

—大阪といえばお笑いも盛んですけど、好きな芸人さんとかいます？

バイロン　大阪のコメディアンは好きな人、いっぱいいる。ダウンタウンって知ってる？

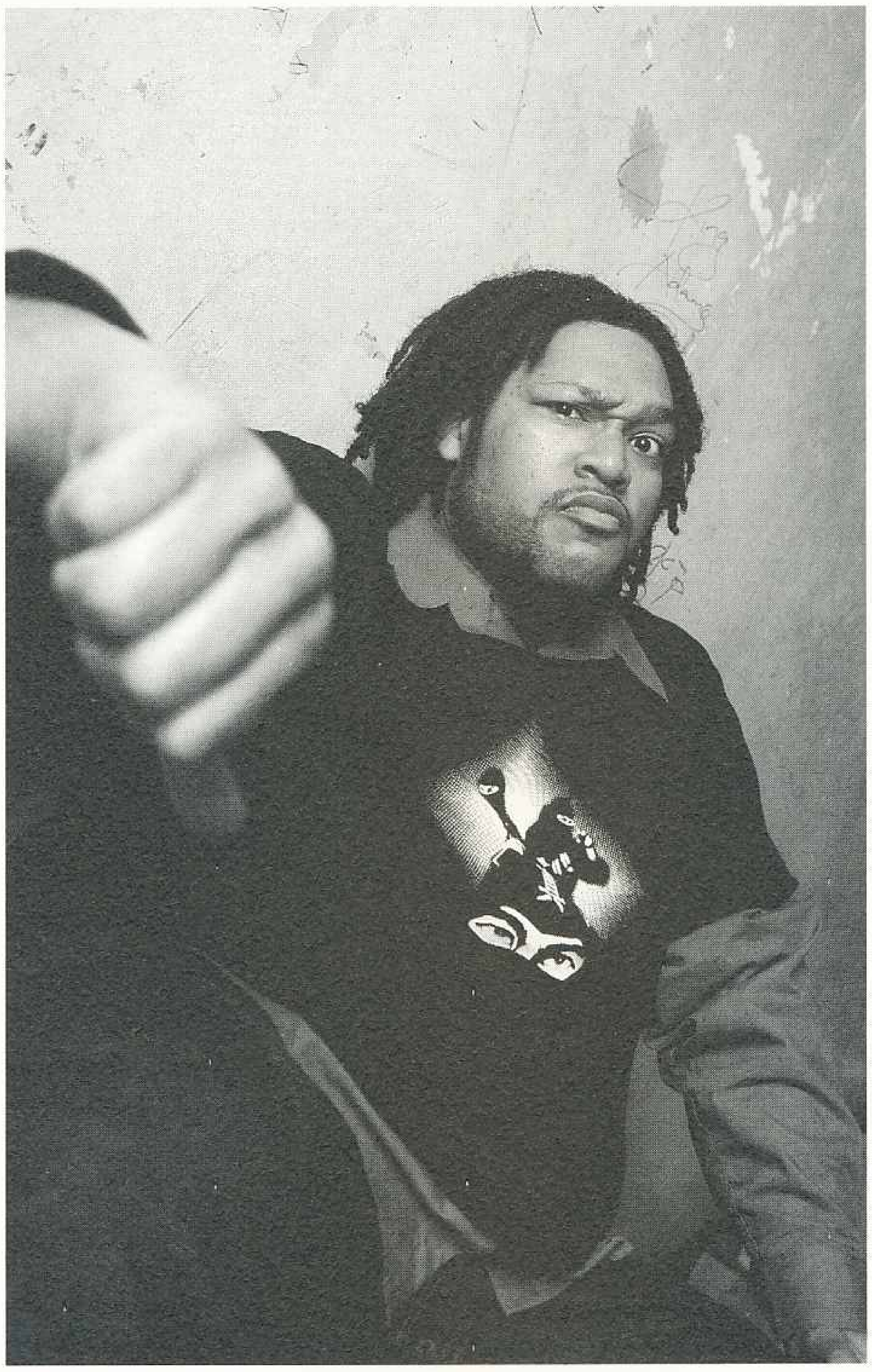
—知ってますよ。

バイロン　ボクはダウンタウン大好き、大好き、大好き。

—ほかに誰か好きな芸人さんは？

バイロン　ほかのコメディアンの名前は難しくてすぐ出てこない。まだ日本語あまりしゃべれへんから。

—充分しゃべれてますよ！（笑）。



KARIM BYRON■1978年4月12日、カナダ・トロント出身。カナダで柔術、ムエタイなどを学び、アブダビコンバットでは04年カナダ予選優勝、05年は北米予選で優勝し、世界大会出場（一回戦でジェフ・モンソンに敗退）。来日後はパンクラス稲垣組でトレーニングを積み、06年3月にリアルリズムでのアンソニー"辰治"ネツラー戦でMMAデビューを勝利で飾る。しかし、同月のパンクラス大阪大会の小椋誠志戦では試合前のアップ中にケガをし、不戦敗を喫した。190cm、155kg。

ボクは西成に住んでいるので、ワンカップは必需品ネ（笑）

バイロン　ガッハッハッハッ！　でも、いま勉強中なのはホンマ。

——日本語は難しいですか？

バイロン　生徒と話してるときは簡単。でも、ボスとか先輩とかと話すの難しい。「どこに住んでいらっしゃいますか？」とか、難しいネ。

——敬語は難しいですよね。

バイロン　そうそうそう。ちなみに、ボクが住んでるのは大阪の西成ネ。

——かなりデンジャラスなところですよね。

バイロン　西成の大阪弁は大阪でも、ちょっと強い。おっちゃんとかと話をしても何を言ってるかわからないことが多い。でも西成の人はリアル・ピープル、リアル・ライフ。皆さん、スピリットはストロング。そして、ちょっとプア。でも、エブリバディはいい人。西成は、ちょっと前までは危なかったけど、いまはそんな危なくないネ。

——そうですか。ちなみにバイロンさんの好きな食べ物は？

バイロン　日本食大好きネ。とんかつ好き。ジャパニーズカレーも大好き。あと、あぶりサーモンの寿司。

——お寿司もいけますか？

バイロン　はい。でも、イカはダメ。焼肉も大好きネ。

——やっぱり、かなりの量を食べるんですか？

バイロン　そうそうそう。だから、焼肉は食べ放題によく行くねん。

——お店の人は困るでしょうね（笑）。

バイロン　そうかもしれへん（笑）。あと、焼き鳥も好きネ。

——お酒もけっこう飲むんですか？

バイロン　メッチャ好き！　ボクは西成に住んでるので、ワンカップは必需品ネ（笑）。

——ガハハハハ！　西成の人はワンカップとか常に飲んでそうですからね。

バイロン　西成に最初に着いたとき、いっぱいの人がワンカップを飲んでた。それでボクもマネして飲んでみたら「うまい！」と思った（笑）。ビールとかも好きだけど、最近は試合があったから、あまり飲んでない。ファイトの3カ月前はノンアルコール。

——そのへんは体調管理をしっかりしてるわけですね。

バイロン　そう。今日は負けちゃったけど、試合が終わったから、ようやく飲めるネ。

——それはよかったですね。趣味は何かあるんですか？

バイロン　趣味はベース、あとギターもやるよ。17歳からずっとやってる。

——どんなジャンルが好きなんですか？

バイロン　ボクはファンクが大好きやねん。

——ファッションとか見てもファンキーな感じがしますね。

バイロン　アリガト。あと、レゲエも大好きネ。ボクのお父さんとお母さんはジャマイカ人ですから。

——自然とレゲエが耳に入ってくる環境だったんですね。



大阪在住で「ダウンタウンがメッチャ好き」というバイロンだけに「なんでやねん！」とのツッコミもお手のもの。しかし、150キロオーバーの巨体から繰り出すツッコミは小橋のマシンガンチョップ級の威力があるため、よほどのことでもないかぎり突っ込めないんだとか。ツライね！

青木真也も大プッシュ!?
ガイジンさん いらっしゃ〜い!

バイロン　そやね。あとは、アニメーションも好き。

——ジョシュ・バーネットもそうですね。

バイロン　『ナルト』っていうジャパニーズアニメーションが一番好き。忍者が出てくるトーナメントスタイルのマンガなんだけど、それは最高やねん。ネバー・ギブアップの精神を学んだ。もっとトレーニング、もっとトレーニングの気持ち。

——ちなみにバイロンさん、青木真也選手って知ってます？

バイロン　知ってる、知ってる。トビカンジュウダンね。

——そうです。今回の「ガイジンさん、いらっしゃ〜い！」という企画は青木選手の注目選手に集まってもらったんですが、バイロンさんのことは「いいルックスしてる。あとはよくわからない。合掌」と評価してました。

バイロン　（すかさず）オイオイ、ルックスだけかよ！

——さすが大阪に住んでるだけあって、ツッコミが早い（笑）。いまは優しそうなイメージのバイロンさんですが、若い頃はストリートファイトとかもしてたんじゃないですか？

バイロン　ストリートファイター？　もうね、メッチャ好きだった。

——あ、そうなんですか（笑）。若い頃は暴れん坊だった、と？

バイロン　ストリートファイターは一番のカクトウギだと思うネ。

——もしかして、４００戦無敗とか？

バイロン　もっとやってるんちゃう。ストリートファイターは毎日やってたから。コントローラーが壊れるぐらいにね（笑）。

——なんだ、ゲームの『ストリートファイター』かよ！（笑）。

バイロン　ホントのストリートファイトはちょっとだけネ。ボクの大好きなキャラクターはリュウ。それが初めてのカクトウギの経験やね。

——『ストリートファイター』で格闘技を学んだ、と。

バイロン　そうそう。それから剛柔流空手を始めて、ジークンドー、ムエタイ。そして、ジュウジュツ、ＭＭＡ、キックといろいろ学んできた。もうすぐ全部ミックスさせたスタイルが完成できるんじゃない？

——いつぐらいになりますかねぇ？

バイロン　そやね〜、そんな遠くない将来だと思ってるネ。

——そうですか。では、近い将来、バイロンさんがＭＭＡの大舞台で活躍するのを期待してます！

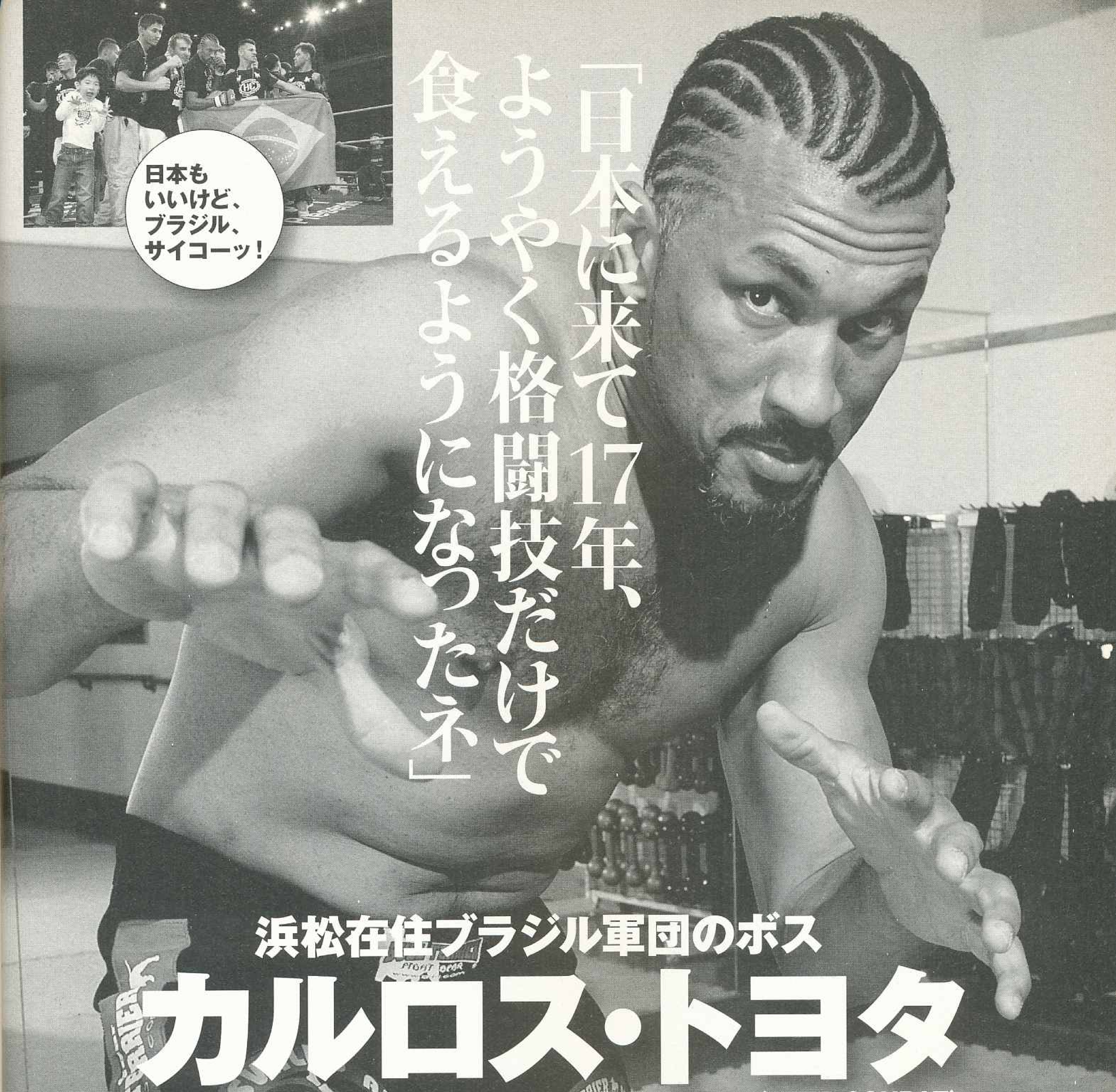
バイロン　頑張りまっせ〜。やっぱ、ＭＭＡは全部できるからメッチャおもろい。でも、今日はキックのデビュー戦で負けたから、そのリベンジもしないと。（脚をさすりながら）メッチャ痛くなってきた（苦笑）。

——ご愁傷さまです（笑）。

バイロン　まずは明日とあさってで脚を治して、月曜日に学校に行けるようにしなくちゃあきまへん（笑）。

——最後に素敵な大阪弁、ありがとうございました！（笑）。

【08年2月29日／都内・後楽園ホールでのキックデビュー戦後、控室にて収録】



「日本に来て17年、ようやく格闘技だけで食えるようになったネ」

浜松在住ブラジル軍団のボス

カルロス・トヨタ

(HARD COMBAT)

知ってました？　静岡県浜松市は日本一ブラジル人が多い市なんです。人口約80万人のうち約1万8000人がブラジル人というからビックリ。それもあってか浜松近郊には柔術系の道場がなんと5つ以上も！　その中の一つ「HARD COMBAT」の代表が今回登場のカルロスだ。DEEPをはじめ格闘技界で暴れまくる浜松在住ブラジル軍団のボスの正体とは？

構成／阿修羅チョロ　撮影／丸山剛史

『ｋａｍｉｐｒｏ』読者でブラジルの格闘技軍団といえば、シュートボクセやブラジリアン・トップチームを思い浮かべる人が多いと思うが、じつは静岡県浜松市にも勢力拡大中のブラジル格闘技軍団があるのだ。

その軍団はＨＡＲＤ ＣＯＭＢＡＴといい、ボスとして軍団を率いているのが今回登場のカルロス・トヨタである。まだ歴史は浅いが、いまはなきＰＲＩＤＥチャレンジで一躍その名を轟かせたＨＡＲＤ ＣＯＭＢＡＴ。最近ではＤＥＥＰのリングを中心に「アエ～！　アエ～！」と本家シュートボクセばりのかけ声で必要以上にハイテンションな声援を送る軍団を見て「なんだコイツら？」と気になっていた人も多いだろう。

そんなＨＡＲＤ ＣＯＭＢＡＴのボス、カルロスとはいったい何者なのか？　教えて、カルロス！

――青木真也さんやＤＥＥＰの佐伯代表など、いろいろな人から、カルロスさんはおもしろいから話を聞いたほうがいいと言われたので、浜松まで話をうかがいに来ました。よろしくお願いします！

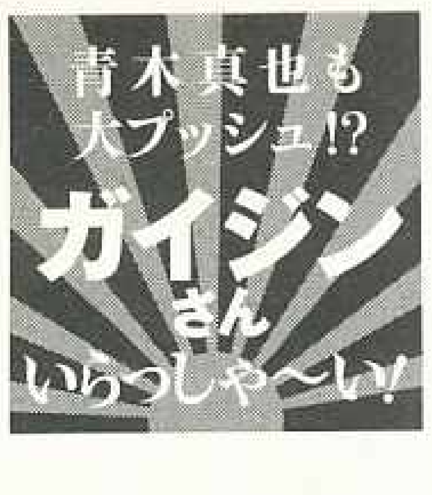
カルロス　わざわざありがとうございます。よろしくお願いします！（流暢な日本語で）。

――話には聞いてましたけど、日本語が上手ですね。

カルロス　（恐縮して）いえいえ、そんなことないです（ニッコリ）。青木選手、どんなこと言ってました？

――以前、大会後に「これから打ち上げ行こう」とカルロスさんを誘っ

PRIDEで観てたショウジやマツイと闘えてスゴク嬉しかったネ（笑）



たら、なんか朝から工場で仕事があるので行けないと断られたとか。それって本当ですか？

カルロス　いや、ボクはいまは工場で働いてないけど、同じチームの選手は朝から仕事の人もいたからネ。でも、そのときはボクも次の日、朝から仕事だった。いまは朝、夕方、夜と指導してるんで。

——カルロスさんのお仕事は、いまは格闘技の指導ってことですか？

カルロス　柔術と総合格闘技、あとは空手の指導で生活してるネ。

——いまはファイトマネーと格闘技の指導で生活できているんですね。

カルロス　最初はちょっと厳しかったけど、ここ3年ぐらいは格闘技で生活してます。でも、ダイジロウ・マツイとの試合は金沢で日曜日の夜にあったんだけど、試合が終わって夜中の3時ぐらいに浜松まで車で帰ってきて、朝から仕事だったネ（笑）。

——なかなかハードスケジュールですね（笑）。カルロスさんが代表を務めている「HARD COMBAT」って、いま選手は何人ぐらいいるんですか？

カルロス　いまは30人ぐらいネ。浜松のほかに愛知県の豊田市でも教えてる。

——ちなみにカルロスさんって、本名はなんていうんですか？

カルロス　カルロス・アルベルト・トヨタです。

——あ、トヨタって本名なんですか。

カルロス　そう。生まれはブラジルだけど、お父さんが日本人なんです。

——日本にはいくつのときに来られたんですか？

カルロス　17年前、19歳のときに仕事をしに来ました。ちょうどその頃はブラジルから日系ブラジル人が日本に来るのが流行ってた。ブラジルで仕事するのは厳しい時期だったから、日系ブラジル人はほとんど日本に仕事をしに来たネ。

——最初から浜松だったんですか？

カルロス　最初は広島。お父さんが広島生まれだったので最初は広島に行ってて、2〜3ヵ月ぐらいて。そのあとは仕事を替えて横浜。次は富士に行って、いま住んでる浜松に来ました。

——これまで、どんな仕事をされてたんですか？

カルロス　広島では船の会社。古い船を修理して新しくしたりしてました。富士では、お風呂を作ってた。

——お風呂を作ってましたか（笑）。お父さんが日本人ということで、日本語は日本に来る前から、けっこうできてたんですか？

カルロス　いや、何もできない（笑）。だから、日本に来てから本を読んでたくさん勉強しました。日本語の本とブラジルの辞書を見て、毎日言葉を10個覚えるの。少しずつネ（笑）。

——それは大変でしたね。浜松はブラジルの方がたくさんいますけど、やっぱり住みやすいですか？

カルロス　そうネ。ブラジルのお店やレストランもたくさんあるし。サイコーです（ニッコリ）。

——結婚はされてるんですか？

カルロス　はい。奥さんもブラジル人で、1歳の子どももいます。

——お子さんもいましたか。格闘技はいつぐらいからやってるんですか？

カルロス　ブラジルにいる頃からちょっとやってた。ボクのいとこがカンフーをやってて、飛び蹴りとか教えてくれて。日本に来てからは、やっぱり、日本はマーシャルアーツが盛んだから、せっかくここにいるなら何かやらないとマズいと思って。

——最初に始めたのは空手ですか？

カルロス　最初は空手ネ。5年ぐらいやって黒帯を取った。そのあとは総合格闘技。みんな「スゴイ、スゴイ」言うから、ビデオを観たら「あ、それやりたいね」って思ったネ。でも浜松で総合の道場探したらなかった。

——あ、当時は総合格闘技の道場はなかったんですか？

カルロス　5〜6年前はなかった。でも柔術の道場はあったから柔術を始めた。最初は打撃だけでも総合で通用すると思ったけど、小さい人に簡単に腕を極められて。それからマジメに柔術をやろうと思ったネ。

——それが、いまでは柔術と総合を教えるまでになったわけですね。

カルロス　そうですネ。柔術を始めたばかりのときは、柔術の人たちは打撃できなかったから、ボクが打撃を教えて、逆にボクは柔術を教えてもらってた。それでHARD COMBATを作ったのが5年前。

——カルロスさんをはじめHARD COMBATの選手はPRIDEチャレンジで活躍して注目を集めましたよね。当時、PRIDEチャレンジにブラジル人がたくさん出てたのを見て、わざわざ来日したのかなと驚いた記憶がありますよ（笑）。

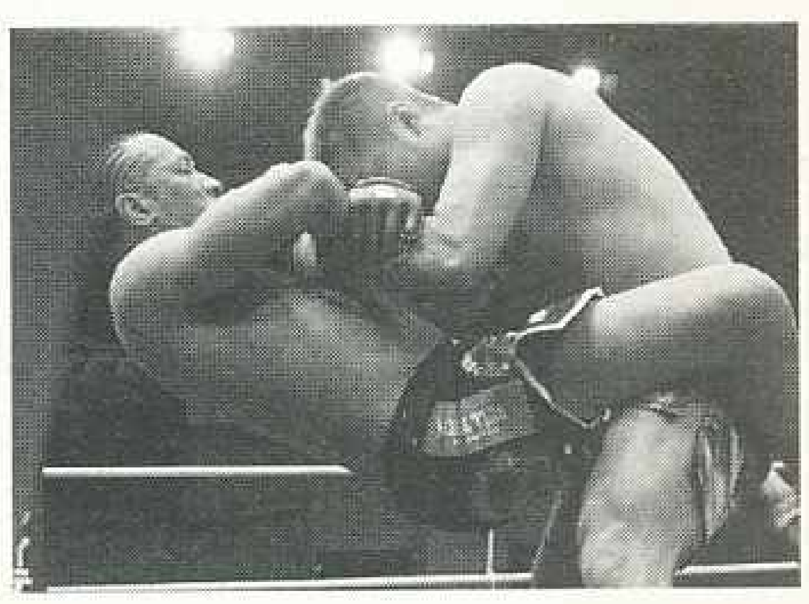
カルロス　それ、みんな浜松の選手ネ（笑）。その頃はPRIDEチャレンジとかクラブDEEPにみんなで出てたからね。最初はボクは打撃の・先生だったけど、少しずつグラウンドテクニックも覚えてきて柔術の黒帯も取った。それからが総合の本格的なスタート。

——総合でデビューしてからはパンクラスでチャンピオンになったケスタティス・アルボーシャス選手や小路晃選手、山宮恵一郎選手と闘って、最近では松井大二郎選手に勝ったりしてますけど、これまでの試合で一番印象に残ってる試合というと？

カルロス　う〜ん、たくさんあるんだけど、試合するだけでスゴイ嬉しい。「アキラ・ショウジと試合する？」って言われたのもスゴイ嬉しかった。

——テレビで観てた選手と闘えるの

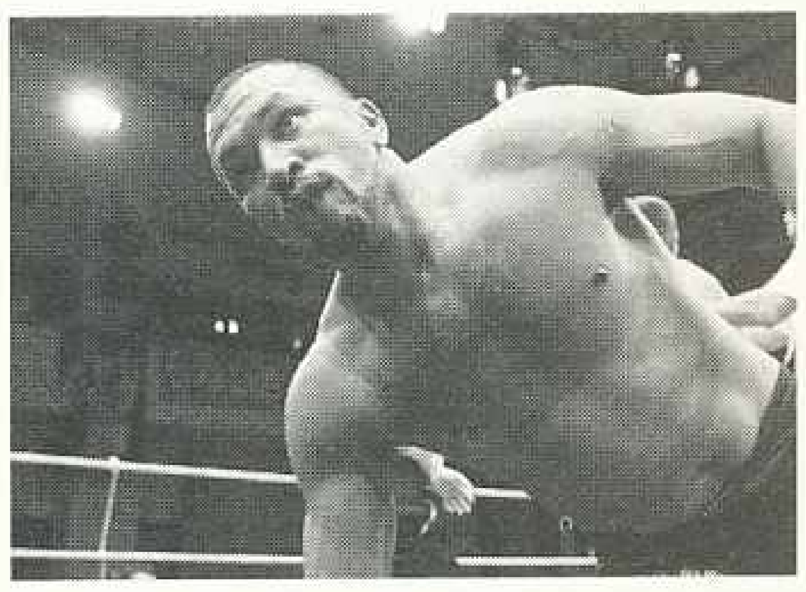
滑川戦は無念の一本負け!!



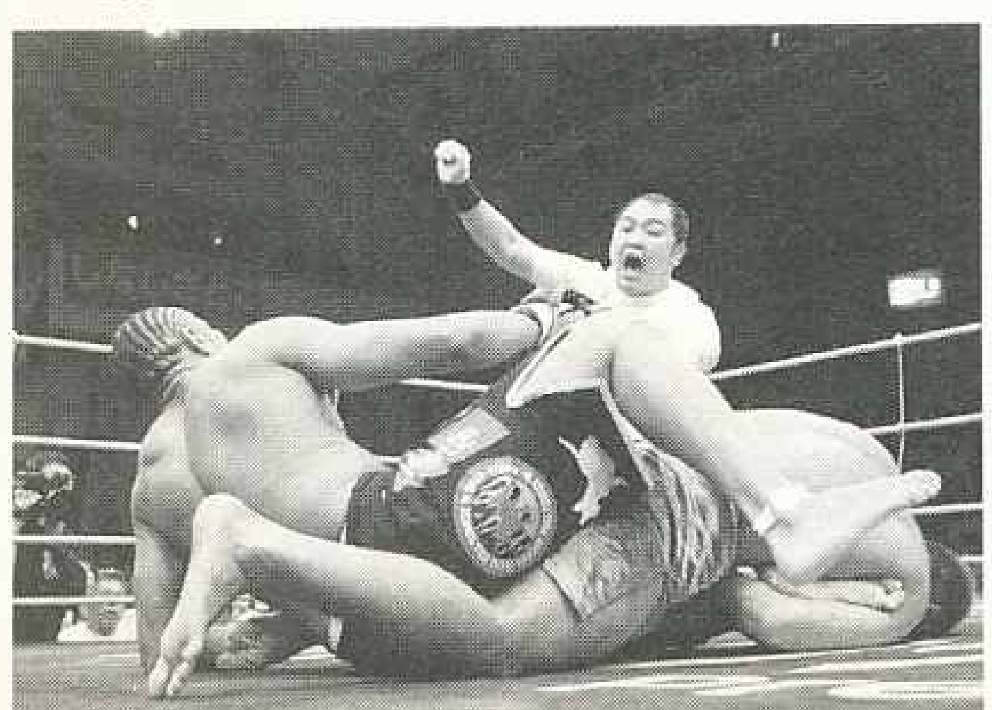
下から腕十字を狙うカルロスを滑川は持ち上げてバスター。スタンドでの殴り合いではカルロスのパンチが何度かヒットするも、滑川はグラウンドに持ち込むとアキレス腱固めで捕獲！



07.12.9 club DEEP金沢大会で、これまでKO＆一本負けがほとんどない松井大二郎をパンチでKOし、勢いに乗るカルロス。08年一発目の試合は2.22 DEEP後楽園大会での滑川康仁戦だ。松井の盟友でもある強豪・滑川相手に勝利を収め、DEEPヘビー級ベルト新設のアピールをもくろんでいたカルロス。ゴング直後、滑川にテイクダンを許したカルロスはパウンドを受けながらも下から一気に腕十字狙い！



アキレス腱固めを極められたカルロスは滑川の顔面を殴りまくり必死に脱出を試みる。しかし、滑川も意地でその足を離さず、最後はカルロスが無念のタップ。また立ち上がれ、カルロス！



が嬉しかった、と？

カルロス　そうそう。判定負けしたけど、ショウジさんのPRIDEの試合は家でポップコーン食べながらよく観てたから（笑）。そういう選手と闘えるのがスゴイ嬉しかった。ダイジロウ・マツイもそう。

――小路さんも松井さんもPRIDEで活躍していた選手ですからね。

カルロス　マツイとの試合は、いままでで一番頭に残ってる試合ネ。

――昨年の12月にDEEP富山大会で闘ってKO勝ちしたんですよね。

カルロス　彼はいままでKOなかった。（ヴァンダレイ・）シウバと闘って判定で負け。あと（ビクトー・）ベウフォートにも判定負け。だからみんな試合前はボクに言ってたの、「今度闘う人は強いよ。ダウンとかない。あとサクラバと一緒に練習してたから」って。だからどうやって勝つか、それでずっと悩んでた。でもKOできて、倒したとき、「やったぞ～ッ！」って（立ち上がってガッツポーズ）。

――やりましたね！（笑）。

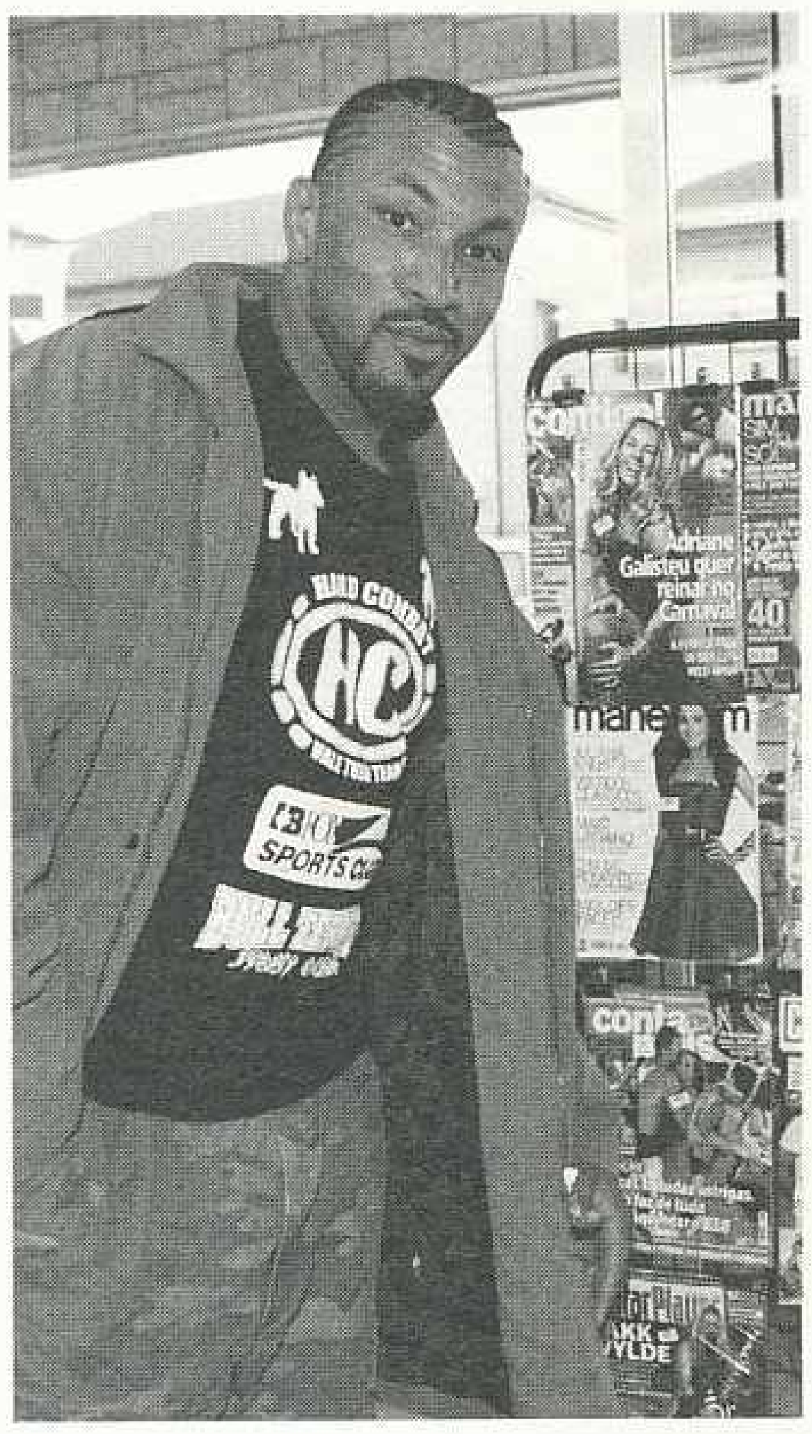
カルロス　シウバもベウフォートもランペイジ・ジャクソンもそれはできなかったからスゴイ嬉しかった。KOで勝てたのも嬉しかったけど、判定じゃなくて、アグレッシブなファイトでお客さんにも喜んでもらえる試合ができたのも嬉しかったネ。

――お客さんを喜ばせるような試合を心がけているわけですか？

カルロス　そうですネ。ボクは総合格闘技が好きだけど、おもしろくない試合も多いネ。勝ち負けもあるけど、自分のできることを全部出さないとマズい。だからいつもしたいのは、おもしろい試合。お客さんに「この選手いいねえ！」って言ってもらえるような試合がしたい。

――それはプロのファイターとして、いい心がけだと思います。

カルロス　昔はK―1よく観てたね。ボクも空手をやっていたからアンディ・フグは好きだった。やっぱ、ああいうスタイルにいかないとマズいよね。カカト落としとか後ろ回し蹴りとか派手な技も出したり。練習で、そういう技を出すのは簡単だけど、試合で出せないと意味ないからネ。



CARLOS TOYOTA■1971年12月10日、ブラジル出身。19歳のときに来日し、現在は浜松在住。ブラジル時代からカンフー、空手を習い、日本に来てからは空手、柔術ともに黒帯を修得。総合ルールは05年7月に開催された「新・格闘技の祭典」でのケスタティス・アルボーシャス戦でプロデビュー（KO負け）。その後は小路、松井ら有名日本人選手と数多く対戦。現在は浜松の格闘技集団HARD COMBAT代表。188cm、95kg。

――佐伯代表も「勝ち負けよりも、おもしろい試合をする人を使っていく」ってよく言ってますからね。

カルロス　でしょ。アグレッシブに持ってる技を全部出さないダメ。強くても、負けたくない試合するのはダメ。まず自分のできることを全部出さないと。そう思いません？

――思います（笑）。趣味はなんですか？

カルロス　ブラジル人の集まるパーティに行くことかな。結婚してなかったときはよくパーティ行ってた。

――結婚してないときはよく行ったっていうことは。女の子とかがいっぱいいるんですね？（笑）。

カルロス　そうそう（笑）。でも総合格闘技とか柔術でたくさん試合やってるから、ほかのブラジルの人から「ホントに強いの？」ってよく言われる。だから「ボクの道場に来て練習一緒にしましょうよ」って言うの。そういうふうに言わないと、すぐケンカになっちゃうから。

――若い頃はストリートファイトとかしてきたんですか？

カルロス　ブラジルにいる頃はよくしてた（笑）。もう毎日ケンカ。勝っても負けてもかまわない、毎日ケンカしないと気がすまなかった。

――暴れん坊だったんですね（笑）。ほかに趣味とかはあります？

カルロス　やっぱ、カラオケね。

――どんな歌を歌うんですか？

カルロス　日本の歌も歌うよ。昔のバンドだけどね。

――どんなバンドですか？

カルロス　T―BOLANとかネ。

――また渋いですねぇ（笑）。

カルロス　あとCHAGE&ASKAも。日本に来たときに流行ってた音楽ネ。『SAY YES』とか。あ

趣味？　カラオケは大好きだね。よく歌うのはT―BOLANかな

とは格闘技を観るのも大好き。PRIDEも何回も観に行った。

――ちなみに、いま一番闘いたい選手は誰ですか？

カルロス　いますぐは無理だと思うけど、ファイターとしてはやっぱりヒョードルと闘いたいネ。

――エッ、〝最強皇帝〟と⁉

カルロス　そう、やりたい。だから体重は100キロ以上にしていきたいと思ってる。

――ズバリ言って、勝算はありますか？

カルロス　簡単に勝てるわけはない。でも、ブラジルでも言われてる。ホントにヒョードルは強いのかって。ボクはもちろん強いと思ってる。でも、どっかに絶対、穴はある。

――その穴は見えそうですか？

カルロス　前にフジタ（和之）と試合したときにちょっと見えたネ。ダウンしそうになったり。だから、勉強したらどっかに穴があると思うから。いまは、ずっとずっと先にいると思うけど、いつかは闘えると信じてる。その前にDEEPでもっと活躍しないといけないけどネ（笑）。

――近いところでは滑川戦が控えてますけど、今年はDEEPを中心に闘っていきたいって感じですか？

カルロス　そうネ。でもDEEPは100キロクラスがないから、その階級のベルトを作ってほしいネ。滑川選手に勝ったら佐伯社長にお願いしてみる（笑）（※残念ながら滑川戦はアキレス腱固めで一本負け）。

――ヘビー級のベルトは非公認ながら入江選手が持ってますけどね（笑）。

カルロス　ちゃんとしたベルトがほしいから、それはいいです（笑）。

――そうですか（笑）。何年後になるかわからないですけど、ヒョードル戦、期待してます！

カルロス　頑張ります。早く実現してほしいネ。早くしないとボクも40歳になっちゃうから（苦笑）。

【08年2月1日／静岡・浜松の「HARD COMBAT」にて収録】

カルロスのうしろの巨大な建物がIB FOX。この中にはカルロスが代表を務めるHARD COMBAT道場やウェート器具充実のスポーツジム、さらにはフットサルのグラウンドまで入っているという充実ぶりだ。HARD COMBAT以外にも盛りだくさんの浜松近郊道場の詳細はブラジリアン柔術総合格闘技専門店『ブルテリア』HPをチェック → http://www.b-j-j.com/





見てみぃ！
コヒを上回る
この
根性焼き!!

「一本取られたら反省の意味でカッターで腕に傷をつけてます」

平成のリアル空手バカ一代

LUIZ

（空手道禅道会）

見てみぃ、この根性焼き!　ガイジン特集の最後を飾るのは日系ブラジル二世のLUIZだ。「アイツはヤバイ!」と『kamipro Hand』で好評連載中の青木真也ブログにもたびたび登場するこの男。根性焼き以外にもタップの数だけカッターで腕に傷をつけるなどトンデモネタの宝庫“平成のリアル空手バカ一代”LUIZの素顔に迫ってみました。この男は実在するんです!!　押忍!!

聞き手&撮影／阿修羅チョロ

——今回の企画は「ガイジンさん、いらっしゃ～い！」ということで……。

LUIZ　あ、そうなんですか。でも、自分はガイジンじゃないですよ。

——あれ、LUIZさんってブラジル出身じゃなかったでしたっけ？

LUIZ　そうなんですけど、10歳の頃から日本で暮らしてるんで、自分としては日本人のつもりです（笑）。

——確かに、日本語もペラペラですもんね。それはそうと、LUIZさん！　その左腕の傷跡って、もしかして根性焼きですか？

LUIZ　（恥ずかしそうに）あ、そうです。昔、テレビで小比類巻（貴之）さんが線香の束を10本押しつけて精神を鍛えたって聞いて、自分は20本で試してみたんです。

——に、20本ですか⁉

LUIZ　はい。でも、20本ぶんがすべて灰になった瞬間、こんなことやるより普段の練習とかをちゃんとやることが一番だなって気づいて。

——やったあとで気づきましたか（笑）。

LUIZ　はい、ちょっと遅かったです（苦笑）。

——でも、線香の束20本ぶんの根性焼きって、相当熱くなかったですか？

LUIZ　最初は熱いんですけど、皮膚が焦げると、まず炭になるんですよ。炭になって、そのあとはあまり痛くないんです。

——そんなに痛くないんですか？

LUIZ　でも、最後は痛いんですよ。残り少なくなった線香を押し込むんで。最初は火傷みたいになってたんですけど、いまは肉になって、もう硬くなってます。触ってみます？

ブラジル時代は、ちょっかいかけて、無理やりにでもケンカしてました

―うわ、硬いですねぇ。そんなストイックなエピソードも含めて、青木真也選手が「LUIZはヤバイ!」ってよく言っていたので、話を聞きに来たんですよ。

LUIZ　あ、そうなんですか(照)。よろしくお願いします!

―あら、根性焼きの上にも傷がいっぱいあるじゃないですか?

LUIZ　これですか(写真下参照)。これはですね、練習とか試合で一本取られたら、反省の意味も込めてカッターで腕に傷をつけてるんです(恥ずかしそうに)。

―また凄いことをしてますね(笑)。

LUIZ　青木さんにはいつもバカにされるんですよ。「DEEP道場で俺らと練習したら、傷だらけになっちゃうよ」って(苦笑)。

―それはヤバイですね(笑)。

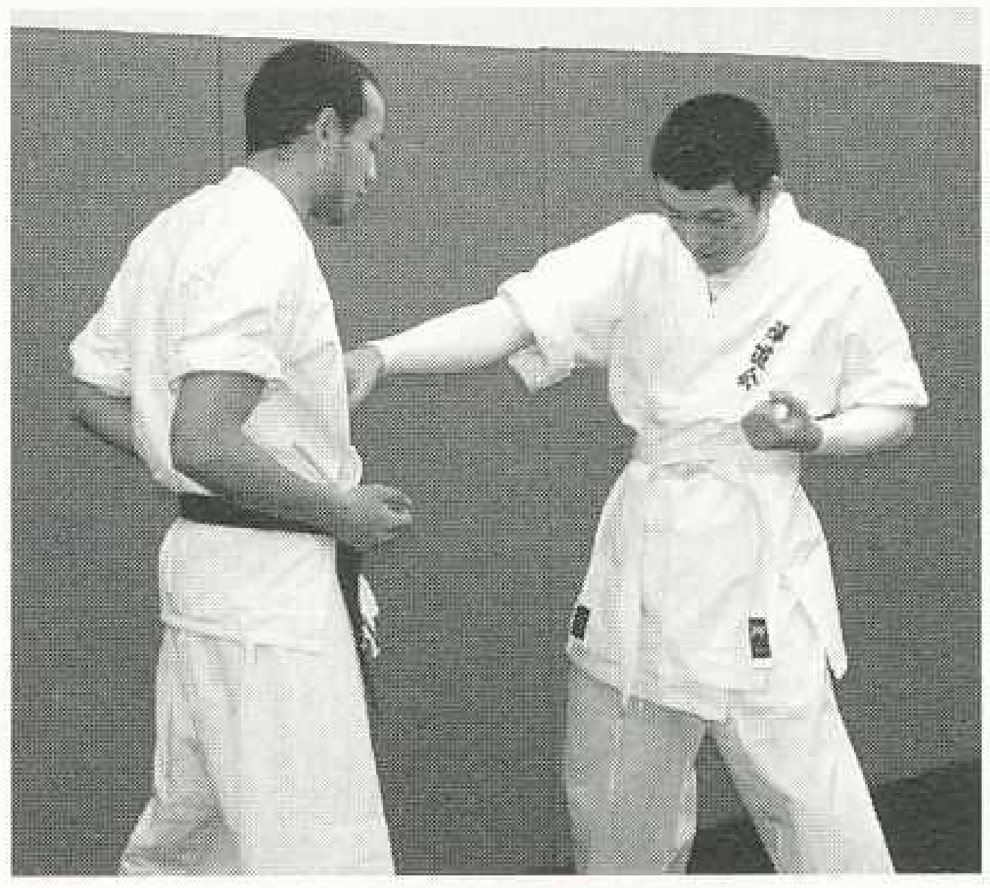
LUIZ　これからはなるべく増えないように気をつけます。

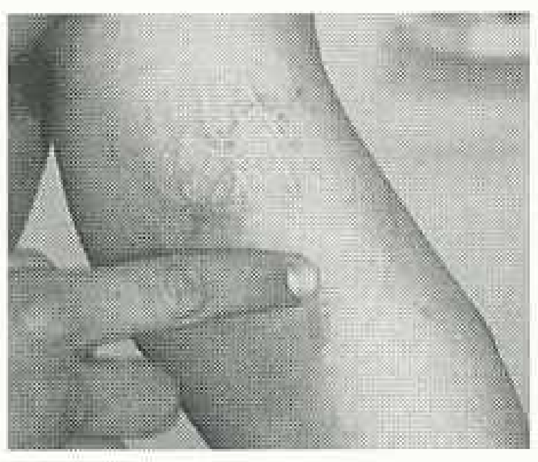
―気をつけてください。あと、LUIZさんのエピソードとして、一回の食事で米を4合とか5合、平気で食べるとうかがったんですが。

LUIZ　あ〜、それぐらい食べますね(さらりと)。

―プロレスラーとかだったら驚かないんですけど、70キロ級の格闘家が一回に5合とか食べるのって凄いなぁと思って。

LUIZ　ボクは中学2年のときに格闘技で食っていこうと思ったんですけど、そのときはガリガリで。で、当時はまだK―1も軽量級がなかったじゃないですか。なので、これは体重増やさなきゃ無理だと思って、食べる量を増やしてったら自然にそういうかたちになりましたね。





昨年大晦日の『やれんのか!』前には青木真也の公開練習の相手として登場、青木に空手技を指導したLUIZ(大幅に遅刻して青木に怒られるというハプニングも)。わかりづらいかもしれないが、上の写真は一本取られるたびにカッターで傷をつけているという左腕。傷だらけですよ!

―凄いなぁ。次の試合は70キロ契約みたいですけど、将来的には身体を大きくしてヘビー級でやりたいとかって思ってるんですか?

LUIZ　やっぱ、自分は空手家なんで無差別じゃないと。100キロとかなくても重量級と闘うには最低85キロぐらいは必要かなと思ってるんで、それぐらいまでは大きくしたいなっていうのはありますね。

―いま、ご自身では"空手家"という認識なんですか?

LUIZ　ボクは空手の総合格闘家ですね。

―禅道会らしいですね。LUIZさんが日本に来たのは10歳のときってことですけど、どういうきっかけだったんですか?

LUIZ　お父さんの仕事の都合ですね。その頃はブラジルで仕事がほとんど見つからない状態だったんで、生活できなくて日本に来たっていう感じです。最初はお父さんが一人で来て、半年後ぐらいに家族で来て、長野で合流しました。

―格闘技はどういうきっかけで始めたんですか?

LUIZ　日本で有名になりたいって思って、有名になりたかったらスポーツか歌手とか、そういう方向がいいとは考えてたんですけど、でもボクは運動神経がダメで(苦笑)。

―エッ、そうなんですか?

LUIZ　体育は1がほとんどで(苦笑)。ブラジルにいる頃はみんなサッカーばっかりやっててうまかったんですけど、ボクは苦手だったんで、ずっとバカにされてました。

―格闘家って球技は苦手って人も多いですからね。

LUIZ　いまでも球技はダメです。でもボクはケンカは好きだったんですよ。

―それは格闘家向きですね。

LUIZ　中学になってからはケンカで一対一で負けたことなかったんで。で、その頃、テレビでK―1を観て、「これをやりたい」って思って、近くの空手道場に入ったんです。

―ブラジル時代からケンカはよくしてたんですか?

LUIZ　してましたね。誘い方とかメチャクチャでしたね。「ちょっと殴り合いしようよ」みたいな感じで(笑)。

―自分のほうから誘ってたんですか?

LUIZ　はい。普通、誘われても乗らないじゃないですか。そういうときには、こっちからちょっかいかけて無理やりにでもケンカしてましたね。

―タチが悪いですねぇ(笑)。

LUIZ　ボクは運動神経は全然ないんですけど、ケンカとか殴り合いに関してはどっかでセンスがあるのかなって。わかんないですけど(笑)。

―じゃあ、学生時代はけっこう問題児だったわけですね。

LUIZ　どうなんですかねぇ? 先生に凄い怒られたりして、よく呼び出し食らって、家に先生が来たりしてました。

―それは間違いなく問題児です(笑)。実際に格闘技を始めてみていかがでした?

LUIZ　禅道会の前に違う空手も習ってたんですけど、そこは型だけで。そのあとに入ったのが禅道会で、「最強を目指すならこれしかない」って思って練習してましたね。

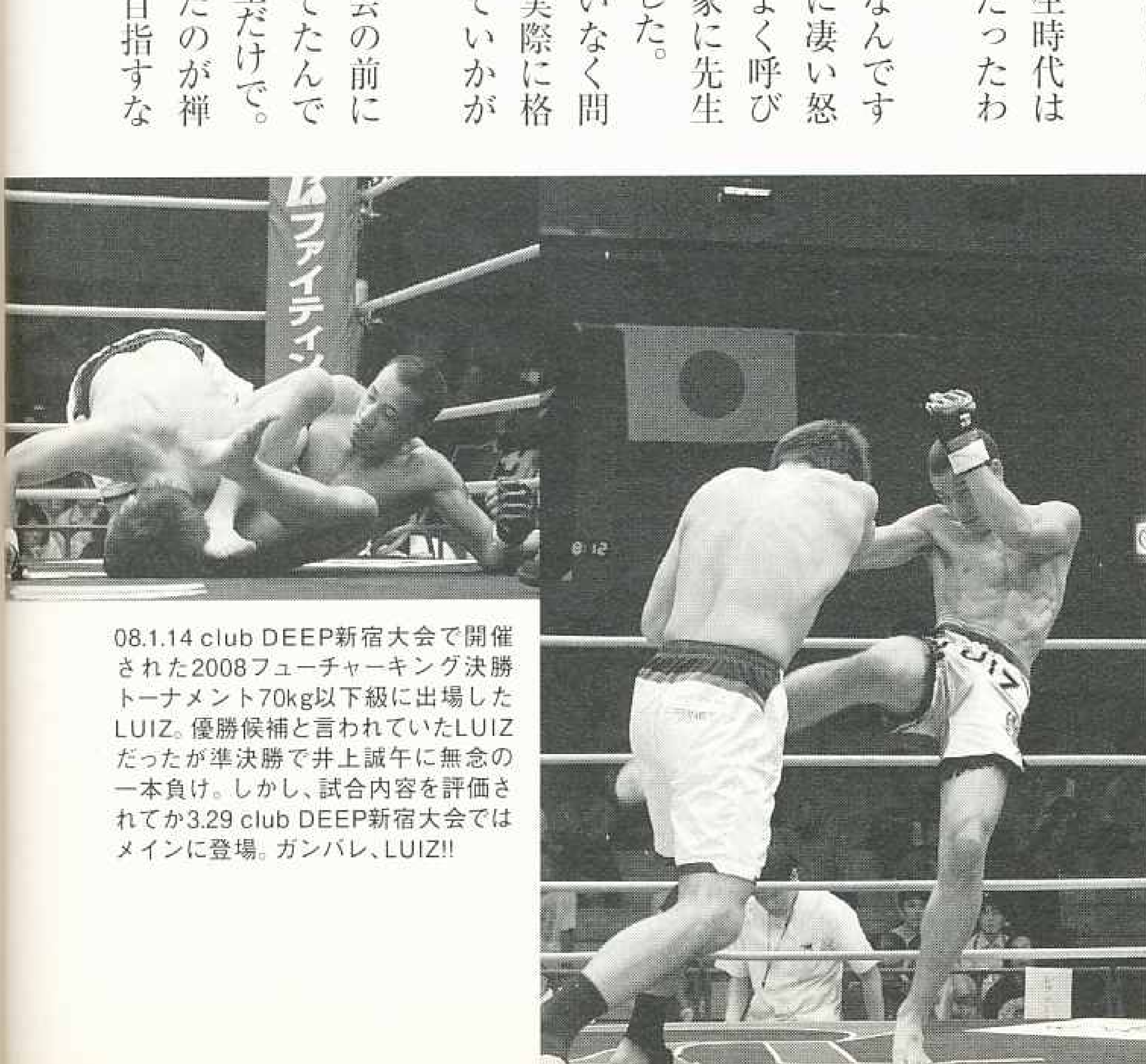
―でも最初はK―1ファイターになろうと思って入ったんですよね?

LUIZ　そうですね。最初は寝技は嫌だったんで全然やってなかったんですよ。で、入ってすぐに交流試合があって、新人戦は普通に打撃だけなんで優勝したこともあったんですけど、4級になると寝技もありになって、寝技で押さえ込まれて負けたりして。それが悔しかったんですよ。ケンカで負けた気分になって。

―同じようなエピソードはよく聞きますね。

LUIZ　「これは最強じゃない。もう総合しかない」って思って、寝技の練習もするようになったんです。

―その頃はK―1ファイターにな



08.1.14 club DEEP新宿大会で開催された2008フューチャーキング決勝トーナメント70kg以下級に出場したLUIZ。優勝候補と言われていたLUIZだったが準決勝で井上誠午に無念の一本負け。しかし、試合内容を評価されてか3.29 club DEEP新宿大会ではメインに登場。ガンバレ、LUIZ!!

青木真也も大プッシュ!? ガイジンさんいらっしゃ〜い!

最強を目指してるんで、すべての強い選手とやりたいんですけど……

るっていう夢も変わってきたとか?

LUIZ そうですね。その頃は禅道会の長野本部の寮に入ってたんですけど、PRIDEとかをスカパー!でよく観てて、K—1ファイターはミルコ選手以外はほとんど負けてたじゃないですか。

——立ち技の選手は総合ではグラウンドに持ち込まれて、あっさり負けることが多かったですよね。

LUIZ K—1であんなにカッコよく見えても、寝かされてタップするのは情けないじゃないですか。それからは、なんでもありで、しかも体重の制限なしで勝たなきゃ最強じゃないなって思うようになって。

——しばらく長野の禅道会で寮生活をしていたみたいですが、東京に出てこようと思ったのはどういうタイミングだったんですか?

LUIZ 自分が寮に入ったときは、まだ黄帯で初心者ぐらいで。そのときは黒帯の先輩とかプロのリングに上がってる先輩とかもいたんですけど、だんだんとその先輩たちは支部を持って卒寮していったんです。

——練習相手が少なくなってきた、と?

LUIZ そうです。自分が黒帯になって、しばらくは続けていたんですけど、練習相手が微妙になってきたんで、環境を変えようと思って横浜支部に移ったんです。

——横浜に出てきてからは、青木選手をはじめ、出稽古でいろんな選手と練習してるみたいですね。

LUIZ そうですね。出てきた当初はチームKingsで練習をさせてもらったりしてましたね。

——あ〜、チームKingsといえば、永田克彦選手や上山龍紀選手が一時期所属してましたよね。



ANDRADE I LUIZ■1985年12月8日、ブラジル出身。10歳のときに来日し、K-1に影響され空手を始める。その後、長野の禅道会本部道場寮生となり練習三昧の日々を送る。現在は禅道会横浜支部に所属し、総合ルールを中心に活躍中。3.29 club DEEPではメインでハン・スーファンとの対戦が決定している。180cm、74kg。LUIZブログ「最強への道のり」アドレス→ http://blog.livedoor.jp/luiz1985/

LUIZ チームKingsが解散してしまったあとも永田さんには坂口道場を紹介してもらって一緒に練習したりしてますし、あとは打撃のジムもいろいろなところに行って練習してます。

——青木さんとはいつぐらいから練習してるんですか?

LUIZ 去年の6月に青木選手と一緒に練習している梅田(恒介)選手とやったあとぐらいからですね。

——実際、青木さんとスパーリングしてみてどうでした?

LUIZ やっぱり、青木さんはメチャクチャ強いですね。寝技の達人っていうか。ホント怖いです。練習のときはとくに。

——普段の青木さんはよくしゃべるし、あまり怖いっていうイメージはないですけど。

LUIZ そうなんですけど、練習になると顔が変わるんですよ。試合になるとさらにヤバいです(笑)。

——でも、最強を目指すLUIZさんとしては、階級も近いし将来的には青木さんも倒さなきゃいけない相手なんじゃないですか?

LUIZ そうですよね。でも、青木さんって危険な選手なんで、いろんな選手の中でもやりたくない選手になるんですけど(苦笑)。

——苦手意識でもあるんですか?

LUIZ は、はい。青木さんって試合で相手の腕をバキッとやったりするじゃないですか。そういう意味では、自分は最強を目指してるんで、すべての強い選手とやりたいんですけど……、その中で一番やりたくないのが青木さんです(苦笑)。

——なんとなくわかります(笑)。

LUIZ いまはちょっと弱気なことを言ってしまいましたけど、最強を目指してるのは本気なんで、いつかはやりたいです。それに、試合になったら壊れるんで。自分の頭が。

——リングに上がれば頭が壊れる?

LUIZ はい。試合が決まったら頭を壊すんで、そしたら誰が相手でも平気です!(キッパリ)。

——次の試合は3・29DEEPでのハン・スーファン戦ですよね。スーファン選手といえば、中尾受太郎選手や三島☆ド根性ノ助選手をKOした強豪選手ですけど。

LUIZ そうですね。おいしそうな選手ですね(ニヤリ)。

——お、自信満々だ!

LUIZ 普通に練習して、落ち着いてできれば倒せないこともない……倒せるかなって思いますね。常に相手が倒れてるイメージを頭に入れて練習してるんで。

——期待してよさそうですね。いま一番近い目標としては、DEEPのチャンピオンですか?

LUIZ そうですね。今年はベルトを獲りたいですね。この前のフューチャーキングトーナメントの決勝で逆転負けして、ちょっと遠回りしちゃったんですけど、次の試合で勝って近道を作ろうかなって。

——そういう意味ではスーファン戦は大チャンスですよね。

LUIZ ですよね。スーファン選手は強いんで「そんな試合受けないほうがいい」とか言う人もいたんですけど、佐伯(繁DEEP代表)さんがボクのことを選んでくれたってことは、それだけ期待してるってことだと思うし、自分を信用してくれてると思うんで、期待に応えたいです。

——初めてのメインイベントでもありますからね。

LUIZ え、そうなんですか?(笑)。

——聞いてませんでした?

LUIZ 初めて聞きました。……ヤバイ、なんか緊張してきた(苦笑)。でも、やるしかないですね。とにかくKO狙って、メインにふさわしい試合をします!

——わかりました。最強目指して頑張ってください!

【08年3月10日/神奈川県・禅道会横浜支部にて収録】



今回の取材場所は、毎週月曜日にLUIZも指導をしている空手道禅道会横浜綱島本部道場だ。LUIZの指導を受け、キミも最強のファイターを目指すんだぁ! 入門案内は以下のとおり。押忍押忍!!

●稽古場所/神奈川県横浜市港北区綱島西2-17-12
●問/禅道会横浜綱島本部道場
TEL.045-591-1813

新 卓球少女(仮)松下ミワの ハガキ愛ランド

井上雅央という男に感銘を受けた3月2日。その日は菊地毅と菊地孝が頭脳の中で目まぐるしく交差する事件で幕を閉じたのだが、決して公園を歩きながら考えていたことじゃないということは、きっと岡倉大吉も長子にケチをつける前に知っていたことでしょう。それでは、春爛漫の4月に向けて、いっきましょ〜! 3、2、1、後継ぎ! 後継ぎ! う〜、下克上!!(裏金)。

kamipro121号へのお便り紹介

『戦極』vsDREAM徹底討論座談会がよかった。最大のポイントは「PRIDEを忘れることができるか」。ファンとしてはPRIDEを忘れたくはありませんが、選手の新たな闘いについていきたいと思います。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・28歳】

⬇どっちも盛り上がってくれたらいいと思いまーす!

瀧本誠のインタビューがよかった。瀧本選手は一年後ぐらいに『ハッスル』に出そうな気がする。
【北海道・安倍正典さん・フリーター・35歳】

⬇「『ハッスル』は○○でしょ?」という衝撃発言にはビビってたじろぎましたが、ちゃんと『どハッスル!!』をチェックしているあたり、『ハッスル』好きオーラを感じずにはいられませんでした!

若林太郎さんのインタビューがおもしろかったです。「思い出とかを大事にしている人は天才じゃない」発言に衝撃! クリエイティブな仕事をするには、いちいち過去を振り返るヒマはないということに気づかされました。
【新潟県・斎藤貴樹さん・フリーター・33歳】

⬇前後編にわたって若林さんにはあらゆることを語りつくしていただいたと思ったのですが、続編(?)として『kamiproHand』にて、前田日明主宰『THE OUTSIDER』についてまたまた語りまくってもらっています。って、どんだけネタがあるんだよっ!

亀和田武さんのインタビューがよかった。やはり昭和のプロレスラーはおもしろい人物が多いということがわかったから。
【埼玉県・弘田陽一さん・会社員・37歳】

⬇プロレスが素晴らしい「触媒」であることは、〝変態〟の未来にとっては明るい発見です。それにしても、このインタビューはこの読者ページの常連投稿者であるS波氏からつながった企画ということを考えると、やっぱりS波氏は凄いお方だと感心させられるばかりです!

ガチ☆ボーイの記事がよかったです。絶対におもしろい映画だと思います。気になってましたが、インタビューを読んだらますます気になってしょうがなくなりました。
【大阪府・三好万太郎さん・会社員・37歳】

⬇高次脳機能障害で〝段取り〟が覚えられないという、業界にとっては若干ショッキングな内容の『ガチ☆ボーイ』。佐藤隆太の番宣だけはもう各番組で7〜8回観ているような気がしますが、映画はまだ観てません。まだ終わりませんよーに。

『底が丸見えの底なし沼な世界』が素晴らしかった。とくに森達也氏の話は興味深かったです。氏の著書『放送禁止歌』をいま読んでいる最中だったので、余計にそう思いました。それにしても「MMAワールドシリーズ」が海の向こうで始まっている情報は知っておりましたが、よもや宇宙戦争がすでに始まっているとは! 韮澤さん、ステキすぎます。本当に頭がクラクラ……。ドラッグのようなインタビューでした。
【栃木県・稲葉修さん・会社員・35歳】

⬇この特集には、多忙のため07年末にご登場いただけなかった韮澤さんまで登場! しかし、自衛隊の戦闘機とUFOの接触事故のように、国防の長である石破防衛大臣よりも韮澤さんのほうが情報が早くて濃いというのは……、間違っているような気もするし、正しいような気もするから不思議です。

ミルコのインタビューが興味深かったです。『DREAM・1』が楽しみですね。あと、宇野薫選手が誰と試合をするのかが非常に注目したいところです。
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・33歳】

結局、宇野薫は『DREAM・1』ライト級GPには出場せず! 今後の参戦予定はいったいどーなるんでしょうか?

チェ・ホンマン×青木選手のキャラがGoodでした。この二人のインタビューをもっと読みたいです。なごみます。
【大阪府・阪本昌嗣さん・ハガキ職人・25歳】

⬇もしかしたら表紙になるかもしれなかったホンマン&青木のツーショット。残念ながらそうはなりませんでしたが、いい写真です!!



タカ・クノウのインタビューはひさびさにキました! 人生の浮き沈みぶりがすでにプロレスラーですね。小原道由と「共通の先輩の話」で盛り上がるほのぼのぶりに、勝手に新日本イズムを感じちゃいました。
【宮城県・毒柴さん・在宅格闘技評論家・36歳】

⬇もはやIGFの注目選手なので、これからも頑張ってほしいです。

『格闘激国〝韓国〟とは何か?』の特集が興味深かった。渡韓歴24回(海外28回)のコリア大好きな私にとってはサイコーの企画でした!
【福島県・長谷川隆さん・会社員・44歳】

⬇とくに「kamipro vs 韓国マスコミ座談会」は刺激的。わかり合えないもどかしさをシミュレーションするのに格好の素材です。ぜひご利用ください〜。

ひさしぶりに大好きな五味選手のインタビューが読めたことがとてもうれしく、インタビューの

121号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	底が丸見えの底なし沼な世界
2位	ミルコ・クロコップ
3位	“韓極”とは何か?
4位	亀和田武
5位	若林太郎

前号第一位に輝いたのは、超能力、UFO、スピリチュアルの三大“グレー”を特集した「底が丸見えの底なし沼な世界」企画。とくに大向美智子のビジュアルは素晴らしかったです!! 3位にランクインした韓極特集では、格闘技に対する日本との“感覚”の違いが浮き彫りに。そして4位に入った亀和田武の新鮮な「プロレス論」に対しては、とくに30代後半の“変態”には引っかかりまくったようでした〜。

内容から新たな五味選手の誕生が感じられました。PRIDE参戦時より大物感やホラのようなものが文面から読みとれ、コンディション状態もとてもよさそうで、ますます『戦極』が楽しみになりました。
【和歌山県・大嶺俊一さん・会社員・27歳】

⬇一、十、百、戦極! 戦極ッ! ということで、涙の勝利を挙げた五味選手。今後もずっと『戦極』に上がり続けることになるのでしょうか?

大向美智子インタビューは考えさせられるものがあった。ああ、こんなになっちゃったんだ。LLPWのときはファンだったのになあ。結婚してたんだ。なんかダブルでショックだなあ。
【神奈川県・廣木和宣さん・会社員・43歳】

⬇それよりショックなのは、前号最終ページの写真です! 今後マット界で起こる事件については、大向さんに〝予言〟しておいてほしいなあ。



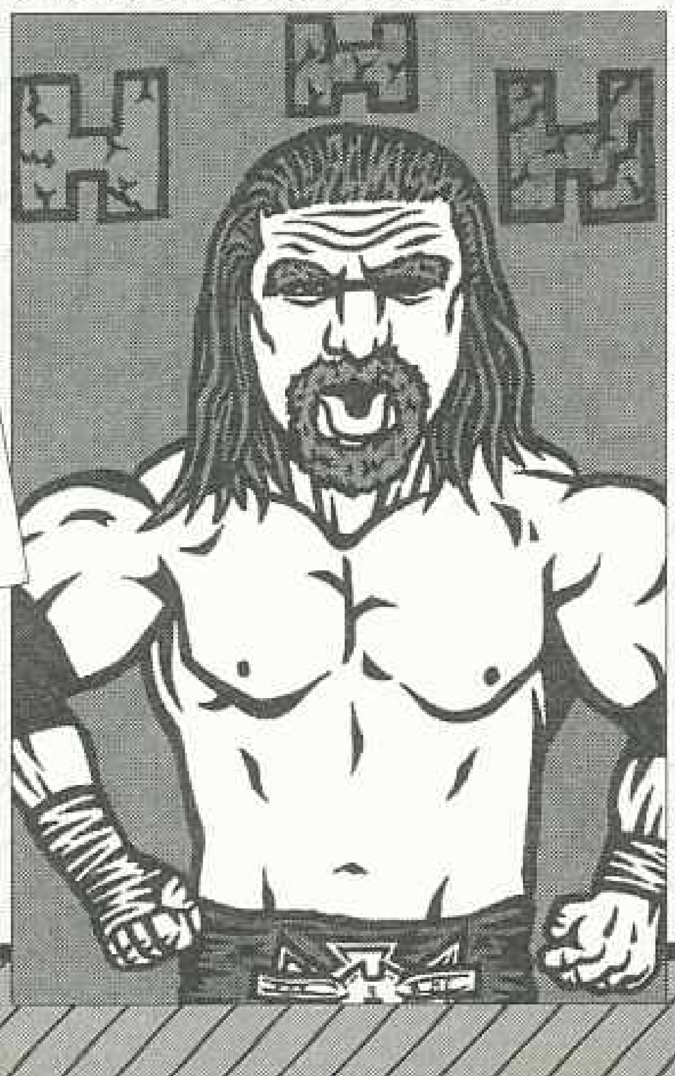
大谷晋二郎のインタビューがよかった。「ロープに乗る技」に関してエディに了解をもらったという話にグッときた。このへんは馳浩の教えからきているのだろう。
【石川県・浅井清治さん・会社員・35歳】

⬇大好評企画「バック・トゥ・レスリング」がまたまたやってまいりました。「ダメだったら消えていく」という大谷晋二郎の言葉がありましたが、消えていったものを考えると……、なるほどなあと思ったり、思わなかったり。



福岡県・江本洋さん➡なんじゃ、この絵は! サップがノルキヤにKOされている姿はなんとなくわかりますが、それにしてもなんたるクオリティ。

埼玉県・棘蟹さん➡本誌・阿修羅チョロに「HHHなんて知らないくせに載せるな!」とチクリと言われましたが、WWE日本大会を観に行ったので、HHHもショーン・マイケルズもちゃんと知ってます!(怒)。



読者ページのヒーロー
森嶋猛の大応援コーナー

紙の森嶋



祝! GHC王座獲得――ッ!!!! というわけで、以前から「三沢からベルトを奪うのはこの男しかいない!」と期待されていた森嶋が、本当に王者になってしまったぞ! その試合ったら、森嶋があの巨体をもってロープのあいだからリングサイドの三沢めがけて飛んでっちゃうという、白熱した内容に! その勢い余って読者コーナーにも森嶋のイラストハガキが2通届きましたよっ!(同じ人だけど)。そしてそして、3月29日からはモハメドヨネと組んで『グローバルタッグリーグ戦』へ参戦。もう二冠を目指すしかないよッ! ちなみに、同タッグリーグには井上雅央は出ません……。残念ッ!!



森嶋の近況

3月29日 vs 秋山準&力皇猛 in 後楽園ホール
4月06日 vs 田上明&潮崎豪 in 岡山卸センター展示場 オレンジホール
4月10日 vs 高山善廣&佐野巧真 in 小倉北体育館
4月13日 vs 三沢光晴&小川良成 in 博多スターレーン
4月15日 vs 佐々木健介&中嶋勝彦 in 熊本興南会館
4月20日 vs バイソン・スミス&斎藤彰俊 in 大阪府立体育会館第2競技場
4月23日 vs ディーロ・ブラウン&ブキャナン in Zepp Nagoya
4月27日 vs 丸藤正道&杉浦貴 in 日本武道館



毎号名前が変わる編集部員・上杉が3月いっぱいで退社!

その理由は……!!

ショック!! 上の見出しを見ておわかりのとおり、なんと編集部員・上杉が3月末で退社することに! 面倒くさいので誌面上ではあんまり伝えてこなかったが、上杉といえば何かと編集部でプチ事件を勃発させ、毎日一回は必ず周囲をムダに混乱させるという、ある意味"愛すべき"キャラクターであった……。誌面的には毎回名前が変わることのほうがクローズアップされている(?)上杉、じつはその由来は日々のプチ事件からきていたりするものもあるのだ。上杉がどんな事件を起こしてきたかは下の「上杉の名前の軌跡」を見て存分に想像していただきたいのだが、これだけクレジットが変わるヤツも珍しいんじゃないかということで、なんと『kamipro』編集部内では「ギネス申請」への熱が急激に高まっているのである! というわけで、「それ(ギネス申請)を最後の仕事にしろ!」という重大指令が下された上杉。はたして最後の仕事を無事まっとうすることができるのか!? ……ま、しなくてもいいけど、誰かみたく「俺、パンクっすから」と遠くで主張したり、編集長に"捨てメール"を送りつけて辞めるのだけは、勘弁なのである。

上杉の名前の軌跡

84号 上杉秀人	101号 ヒデト☆ウエスギ	112号 上杉先輩面
85号 上杉ヒデト	102号 上杉ィ	113号 上杉ンスキー
86&87号 上杉ヒデトニオ	カミスペ06秋 上杉パントマイム	114号 上杉再現V
88&89号 上杉八等兵	103号 上杉ニュー・アメリカ君	115号 上杉捨てゼリフ
90&91&92号 上杉HG	104号 上杉ボンジュール	カミスペ07年秋 上杉ちゃん
93号 上杉ル・マン24h	105号 上杉お引っ越死	116号 上杉SV
94号 上杉・放置プレー	106号 上杉再お引っ越し	117号 上杉コミッショナー
95号 ボンジュース上杉	カミスペ07年冬 上杉真犯人	カミスペ08年冬 マダムキラー上杉
96号 上杉どんぐり	107号 上杉過失	118号 上杉公文書偽造
PRIDEわっしょい&97号 上杉だるま	108号 シルク・ド・上杉	カミスペ08年春 上杉天才
98号 上杉再検査	カミスペ07年春 パンク上杉	119号 上杉革命
99号 上杉弁護士	109号 上杉キリン	120号 上杉こせ喜
100号 Move On! 上杉	110号 ターザン上杉!	カミスペ08年遅春 上杉スイート
カミスペ06夏 ヒデト☆ウエスギ	111号 クイズ! 上杉!!	121号 上杉オー! リョー!!



さあ、明るい未来への列車に乗ろう!

上井駅長の人生相談

さあ、今回も人生の迷い人が相談室にやってまいりました。それではさっそく上井さんにズバッと答えていただきましょう!

52歳で再就職って可能でしょうか?

お悩みごと

■人生に関する相談
(埼玉県・匿名希望さん・52歳・フリー・♂)

じつは私、52歳という年齢にも関わらず、先日脱サラしてしまいました。その理由はここでは伏せさせていただきたいのですが、妻と大学生になる子ども二人を抱えている身であります。せめて子どもが大学を卒業するまでは働かなければと思ってたのですが……。こんな私ですが、家族のために早く再出発しなければと思っております。しかし、こんな年齢の私をどこか雇ってくれる会社があるでしょうか? 上井さん、何かアドバイスをくださいますようお願いします。

上井駅長

なるほどねえ……。最低限でも家賃と学費と生活費を稼がないといけないからねえ。それが男の義務だから。でも、時間が経てば経つほど就職しづらくなりますよ。だって、自分が管理職の立場だったらやっぱり50代の人間より20代の人間を採用しますよ。経験値というのを考慮してもね。それはどう考えたって仕方がないことでしょう。そこは前職で何をやってたのかというのも関わってくるんだろうけど。

まあ、だからそうなってくると、あとは人脈だろうね。あのねえ、僕がこういうのも差し出がましいかもしれないけど、僕は人脈はいっぱいあるほうなんで、本当にこの人に何をやりたいかを相談されたら、本気で相談に乗りますよって。マジで。僕が知ってるところで可能性があるのであればね。ただ、プロレス界で探したいっていったら困りますよ。それは絶対にやめたほうがいい!!(断言)。

ただ、この人も自分の人脈を活かして必死に探さないといけないですよ。人脈というのは、一つの「生きた証」なんじゃないですか? それから奥さんがいるんだったら、そっちの人脈もフルに使わないとねえ。あとは親戚か。あ、でもね、家族や親戚よりも、もっとも親身になって相談に乗ってくれるのは意外と親友だったりするんですよ。

ま、家族のためにだったらなんでもできるじゃない? 男ってそういうもんでしょう。だから、僕がこの人に言いたいのは、「一緒に頑張りましょう!」ってことだよね。うん! 僕も頑張りますから、一緒に頑張りましょう!

匿名希望さん、おわかりになりましたでしょうか? 今回は上井さんの全面協力も仰げそうなくらいの熱い回答がいただけました。ぜひ、頼りたいときは甘えてみましょう!
※人生相談ドシドシ送ってください! また、悩みが解決した人もぜひ結果をご報告ください!!

スクープ! ザ・目撃!!

●3.5『戦極』の会場でかなりたくさんの目撃をしたのですが、一番驚いたのは(FEG代表の)谷川さんを目撃したことです。3.15『DREAM.1』の参戦選手がなかなか決まらない中で大丈夫かなあと心配しましたが……。そういえば、サダハルンバはK-1ワールドユースをメインでやるんだなということを思い出し、妙に納得しました。思ったよりデカかったです! 【kamipro Hand 投稿】

●明治通りを散歩していたら、吉田豪さんが自転車でツーっと通り過ぎていくのを見ました。その話を友人にしてみると、なんと友人も同じような姿を目撃したそうです。吉田さんを目撃したい人は明治通りを探索するといいと思います。 【kamipro Hand 投稿】

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう! お便り、お待ちしています!

こんな情報お待ちしています!

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
『radical@kamipro.com』
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「横領」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

◆ Beginning 実行委員会／東京・新木場 1stRING (12:00)
◆ MARS／東京・ディファ有明（未定）

7 MON.

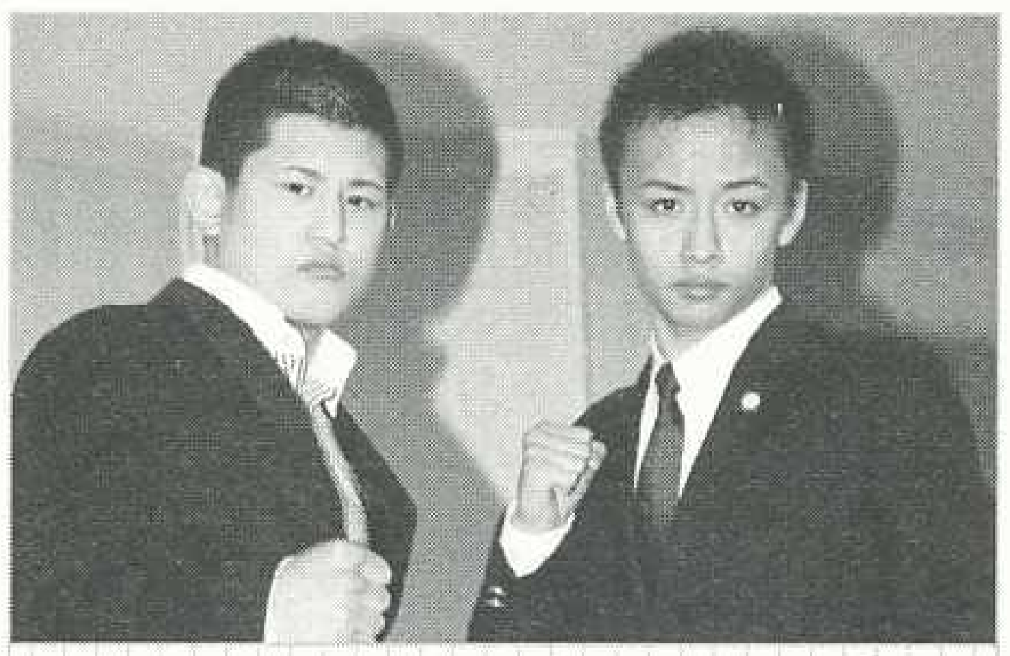
◆ 全日本／東京・後楽園ホール (19:00)
◆ 大日本／富山・高岡テクノドーム (18:30)

8 TUE.

◆ 全日本／東京・後楽園ホール (19:00)
◆ NOAH／鳥取・米子コンベンションセンター (18:30)

9 WED.

HIROYAと藤門嗶裟がついに激突！ WORLD MAX1回戦も開催!!



「K-1 WORLD MAX 2008 World Championship Tournament -Final16-」
広島・広島グリーンアリーナ (18:00)

決定対戦カード
HIROYA vs 藤門嗶裟
魔裟斗 vs ヴァージル・カラコダ
ブアカーオ・ポー.プラムック vs アルバート・クラウス
アンディ・サワー vs マイク・ザンビディス
チケット料金
SRS＝23,000円、S＝12,000円、魔裟斗応援シート＝12,000円、A＝6,000円
◎問＝FEG　03-3796-5060

◆ 全日本／東京・後楽園ホール (19:00)
◆ DDT／東京・新木場 1stRING (19:30)

10 THU.

◆ NOAH／福岡・北九州市立小倉北体育館 (19:00)
◆ DDT／東京・新木場 1stRING (19:30)

11 FRI.

◆ DDT／東京・新木場 1stRING (19:30)
◆ 横浜／神奈川・横浜にぎわい座 (19:00)

12 SAT.

◆ 新日本／埼玉・蓮田市総合市民体育館 (17:00)
◆ NOAH／広島県立総合体育館 (18:00)
◆ OZ アカデミー／大阪・アゼリア大正 (17:00)
◆ NEO／茨城・石岡市運動公園体育館 (18:00)
◆ WAVE／東京・新木場 1stRING (12:30)

31 MON.

◆ NOAH／新潟・上越市厚生北会館 (18:30)
◆ ZERO1・MAX／埼玉・所沢市民体育館 (18:30)
◆ みちのく／熊本・熊本市流通情報会館 (18:30)

Fight & Event APRIL 4

1 TUE.

◆ NOAH／宮城・仙台産業展示館 (19:00)
◆ ユニオン／東京・市谷アイスボックス (19:30)

2 WED.

◆ UFN／米国コロラド州、ブルームフィールド・イベントセンター
◆ みちのく／熊本・南阿蘇村白水体育館 (18:30)

4 FRI.

◆ NOAH／香川・高松市総合体育館 (18:30)
◆ シュートボクシング／東京・後楽園ホール (18:00)
◆ JWP／東京・板橋区立グリーンホール (19:00)
◆ WAVE／東京・新木場 1stRING (19:00)

5 SAT.

◆ NOAH／兵庫・神戸サンボーホール (18:00)
◆ 全日本／東京・後楽園ホール (18:30)
◆ DRAGON GATE／新潟・長岡厚生会館 (18:00)
◆ みちのく／広島・広島県立ふくやま産業交流館 (18:30)
◆ 大阪／大阪・デルフィンアリーナ (18:00)
◆ CAGE FORCE／東京・ディファ有明 (17:00)
◆ NEO／滋賀・滋賀県立文化産業交流会館 (18:00)

6 SUN.

◆ NOAH／岡山・岡山県卸センター (17:00)
◆ 全日本／東京・後楽園ホール (18:30)
◆ DRAGON GATE／宮城・Zepp Sendai (18:00)
◆ DDG／東京・後楽園ホール (12:00)
◆ ZERO1・MAX／東京・ミーツポート (15:00)
◆ みちのく／大阪・デルフィンアリーナ (18:00)
◆ バトラーツ／東京・北千住シアター 1010 (18:00)
◆ 大阪／大阪・デルフィンアリーナ (14:00)
◆ K-DOJO／千葉・BlueField (16:00 & 18:30)

Fight & Event March 3

28 FRI.

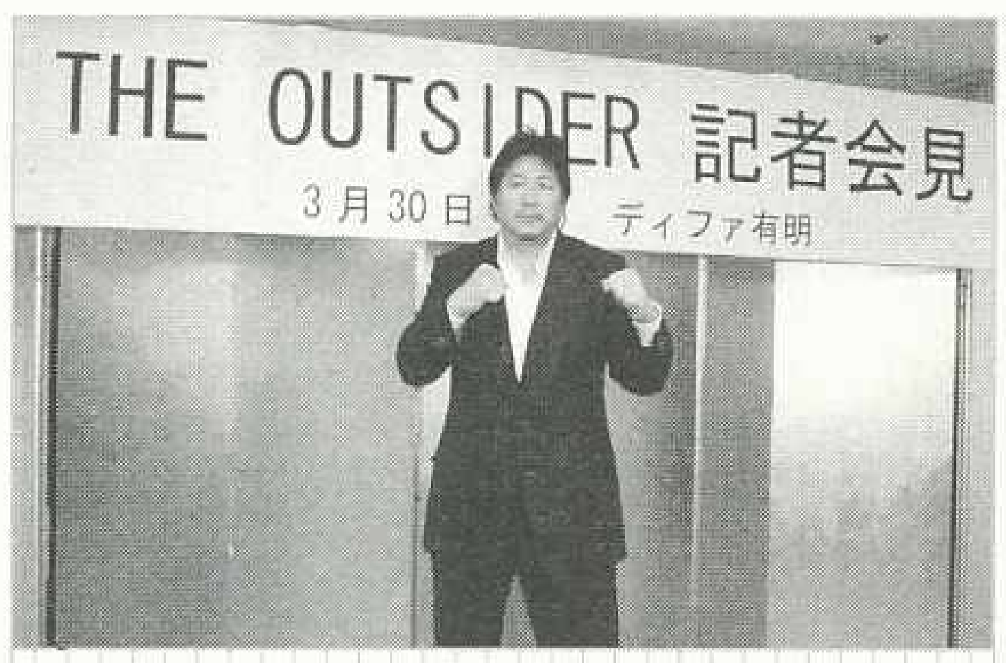
◆ 健介オフィス／福岡・博多スターレーン (19:00)
◆ みちのく／長崎・ncc & スタジオ (18:30)
◆ MAKEHEN／東京・新木 1st RING (19:30)
◆ 修斗／東京・後楽園ホール (18:00)

29 SAT.

◆ NOAH／東京・後楽園ホール (18:30)
◆ ZERO1・MAX／北海道・札幌テイセンホール (18:00)
◆ DDT／東京・新木場 1stRING (25:00)
◆ みちのく／長崎・島原総合福祉センター (18:00)
◆ 大阪／大阪・デルフィンアリーナ (18:00)
◆ DEEP／東京・新宿 FACE (14:00 & 18:30)

30 SUN.

日本一の不良は誰だ!? 前田日明プロデュース興行が発進!!



『THE OUTSIDER』
東京・ディファ有明 (15:00)

チケット料金
SRS＝10,000円、指定席S＝5,000円
◎問＝ RINGS「THE OUTSIDER」開催事務局 03-3746-0065

◆ 新日本／東京・後楽園ホール (18:30)
◆ NOAH／埼玉・桂スタジオ (17:00)
◆ RIKI OFFICE／大阪・はびきのコロシアム (18:00)
◆ DRADITION／東京・後楽園ホール (12:00)
◆ みちのく／鹿児島・湧水町吉松体育館 (14:00)
◆ K-DOJO／千葉・BlueField (13:30 & 15:00)
◆ 大阪／大阪・デルフィンアリーナ (13:00)
◆ IWA ジャパン／茨城・水戸市民体育館 (18:30)
◆ R.I.S.E.／東京・大森ゴールドジム (17:30)
◆ HEAT／愛知・吊古屋国際会議場 (15:30)

◆ NOAH ／愛知・Zepp Nagoya (18:30)
◆ DDT ／東京・新木場 1stRING (19:30)

24 THU.

◆新日本／福岡・博多スターレーン (18:30)
◆全日本／香川・高松市総合体育館 (18:30)
◆ El Dorado ／東京・後楽園ホール (19:00)

25 FRI.

◆新日本／福岡・博多スターレーン (18:30)
◆ NOAH ／石川・石川県産業展示館 (18:30)
◆ DRAGON GATE ／兵庫・SITE KOBE (19:00)
◆ NEO ／愛知・日本ガイシスポーツプラザ(18:30)
◆ SMACK GIRL ／東京・後楽園ホール (19:00)

26 SAT.

◆ K-1 ／オランダ アムステルダム、アムステルダムアリーナ
◆全日本／広島・広島県立ふくやま産業交流館 (18:30)
◆ DRAGON GATE ／広島・広島県立総合体育館 (18:00)
◆大阪／大阪・デルフィンアリーナ (18:00)
◆ K-DOJO ／千葉・BlueField (17:30 & 19:00)

27 SUN.

◆新日本／大阪・大阪府立体育会館 (16:00)
◆ NOAH ／東京・日本武道館 (17:00)
◆ DRAGON GATE ／福岡・博多スターレーン (17:00)
◆大阪／大阪・デルフィンアリーナ (14:00)
◆ K-DOJO ／愛知・刈谷市産業振興センター (17:00)
◆フーテン・プロ／神奈川・ラゾーナ川崎プラザソル (未定)
◆ VKF ／大阪・アゼリア大正 (15:00)
◆パンクラス／東京・ディファ有明 (16:00)
◆ R.I.S.E. ／東京・大森ゴールドジム (未定)

28 MON.

◆ DRAGON GATE ／長崎・ncc &スタジオ (18:30)
◆大日本／東京・後楽園ホール (19:00)

29 TUE

"魔王"を止めるのは誰だ？
ミドル級トーナメント開催 !!



『OLYMPIA DREAM.2 ミドル級グランプリ2008開幕戦』
埼玉・さいたまスーパーアリーナ (16:00)

チケット料金
VIP ＝ 100,000 円、RRS ＝ 30,000 円、スタンドS＝17,000、スタンドA＝7,000 円
◎問＝ DREAM 事務局　03-5775-5065

◆新日本／三重・桑名市体育館 (16:00)
◆全日本／愛知・愛知県体育館 (16:00)
◆ DRAGON GATE ／山口・下松市民体育館 (18:00)
◆ ZERO1・MAX ／東京・後楽園ホール (18:30)
◆大日本／静岡・キラメッセぬまづ (13:00)
◆大阪・大阪・IMP ホール (15:00)
◆ NEO ／東京・板橋グリーンホール (18:00)
◆ JWP ／東京・後楽園ホール (12:00)

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご覧ください。

出場予定選手
髙田総統、ボノちゃん、HG、RG、天龍源一郎、インリン様、川田利明
チケット料金
ハッスルVIP＝10,000円、スタンドS＝7,000円、スタンドA＝5,000円、スタンドB＝3,000円
◎ハッスルエンターテインメント 03-5464-1731

◆新日本／埼玉・熊谷市民体育館 (18:30)

17 THU.

◆ NOAH ／鹿児島・鹿児島市民体育館 (18:30)
◆ DRAGON GATE ／東京・後楽園ホール (18:30)

18 FRI.

◆新日本／京都・ウェスティン都ホテル京都 (18:00)

19 SAT.

GSPがセラとの王座統一戦に挑む！
ウェルター級の頂点に立つのはどっちだ!?



『UFC83　Serra vs St-Pierre 2』
カナダケベック州、モントリオール・ベルセンター

決定対戦カード
【ウェルター級タイトルマッチ】
(王者)マット・セラ vs ジョルジュ・サンピエール(暫定王者)

リッチ・フランクリン vs トラビス・ルター
弘中邦佳 vs ジョナサン・グーレ

◆ NOAH ／広島・広島県立ふくやま産業交流館 (18:00)
◆新日本／徳島・阿南市スポーツ総合センター (18:00)
◆ DRAGON GATE ／京都・KBS ホール (18:00)
◆ ZERO1・MAX ／長野・上田創造館 (18:00)
◆大阪／大阪・デルフィンアリーナ (18:00)
◆ K-DOJO ／千葉・BlueField (17:30 & 19:00)
◆ NEO ／福島・郡山ビッグパレットふくしま (18:00)
◆ JWP ／山口・海峡メッセ下関 (18:00)

20 SUN.

◆新日本／福岡・北九州市立小倉北体育館 (16:00)
◆全日本／東京・後楽園ホール (12:00)
◆ NOAH ／大阪・大阪府立体育会館第 2 競技場 (17:00)
◆ RIKI OFFICE ／大阪・世界館 (18:00)
◆ DRAGON GATE ／三重・津市体育館 (18:00)
◆ ZERO1・MAX ／群馬・桜山温泉センター (15:00)
◆大阪／大阪・デルフィンアリーナ (14:00)
◆新日本キック／東京・後楽園ホール (未定)
◆ NEO ／埼玉・東松山青果市場 (15:00)

21 MON.

◆新日本／熊本・興南会館 (18:30)

22 TUE.

◆新日本／大分・大分イベントホール (18:30)
◆ NOAH ／岐阜・恵那市民体育館 (18:30)

23 WED.

◆全日本／愛媛・アイテムえひめ (18:30)

◆ IGF ／大阪・大阪府立体育会館第 1 競技場 (18:00)
◆ DRAGON GATE ／富山・イベントプラザ富山 (18:30)
◆みちのく／東京・新木場 1stRING (19:00)
◆大阪／大阪・デルフィンアリーナ (18:00)
◆ OZ アカデミー／東京・ディファ有明 (18:30)

13 SUN.

激闘必至の王者対決が実現！
ハントがK-1に帰ってきた !!



『FieLDS K-1 WORLD GP 2008 IN YOKOHAMA』
神奈川・横浜アリーナ (15:00)

決定対戦カード
セーム・シュルト vs マーク・ハント
バダ・ハリ vs レイ・セフォー
エヴェルトン・テイシェイラ vs 藤本祐介
出場予定選手
チェ・ホンマン、グラウベ・フェイトーザ、武蔵、澤屋敷純一
チケット料金
SRS＝25,000円、SS ＝ 15,000 円、S＝10,000円、A＝5,000円
◎問＝ FEG　03-3796-5060

◆ハッスル／東京・国立代々木競技場第 2 体育館 (17:00)
◆新日本／東京・後楽園ホール (18:30)
◆ NOAH ／福岡・博多スターレーン (17:00)
◆ DRAGON GATE ／愛知・テレピアホール (18:00)
◆大阪／大阪・デルフィンアリーナ (14:00)
◆ K-DOJO ／東京・後楽園ホール (12:00)
◆新日本キック／千葉・市原臨海体育館 (未定)
◆パワーゲート／京都・京都 KBS ホール (未定)
◆ NEO ／東京・東京キネマ倶楽部 (13:00)
◆ JWP ／東京・東京キネマ倶楽部 (17:00)

14 MON.

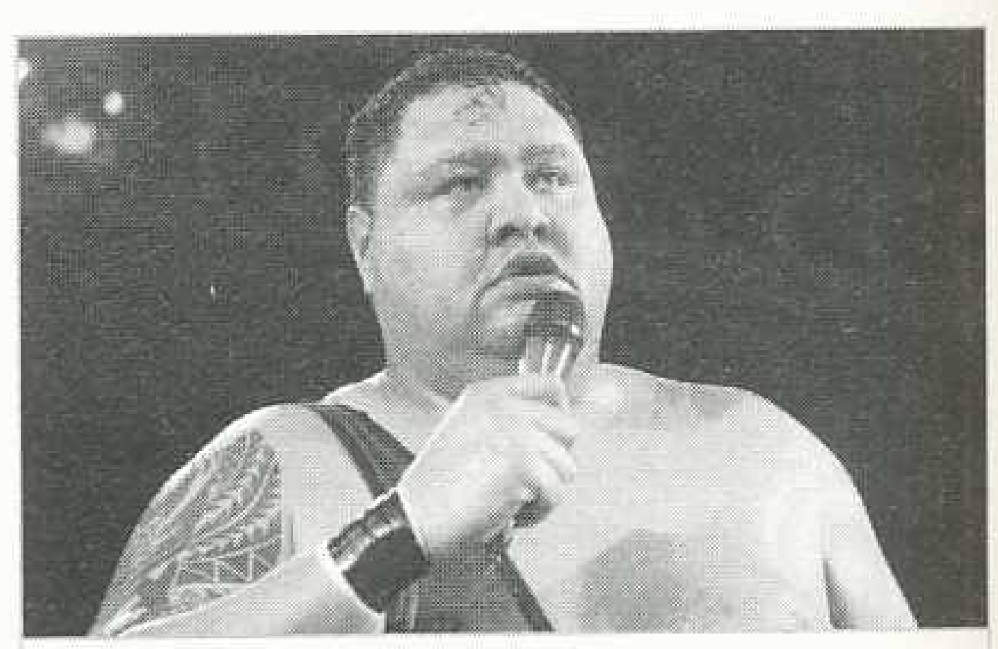
◆グレート／東京・新木場 1stRING (19:15)

15 TUE.

◆ NOAH ／熊本・興南会館 (18:30)
◆ ZERO1・MAX ／神奈川・横浜市金沢産業振興センター (18:30)

16 WED.

ボノちゃんは誰にも止められない！
『ハッスル』の勢いも止まらない!!



『ハッスル・ハウスvol.35』
東京・後楽園ホール (19:00)

団体INDEX

50音順及びアルファベット順

Event

イケメン集団がメインディッシュ!!
新日本のRISEがプロレス&ディナーショーを開催!!



新日本プロレスが誇るイケメンユニットRISEが、中邑真輔の地元、京都で4月18日（1部18:00開始 2部19:30）にプロレスディナーイベント『RISING』を開催！ イベントは二部構成となっている。第一部ではビュッフェ形式のディナーパーティを開催し、RISEのメンバーを囲んでの撮影会&サイン会などが行なわれる。第二部ではRISEのメンバーが中心となった試合を4〜5試合予定しているので、君もディナーショーでエルニーニョ!!

★会場/ウェスティンホテル京都 ★料金20,000円（1部&2部共通）
★問/新日本プロレス 大阪事務所 06-6211-7801

Event

本気で笑わせる!!
吉本芸人プロレス『GOKKO』旗揚げ！



プロレス好きの吉本芸人が「本気で遊んで本気で笑わす"プロレスごっこ"」をコンセプトに『〜吉本芸人プロレス〜GOKKO』を旗揚げ！ そして目玉カードにHGvsマッスル坂井も決定！ 芸人でありながらプロレス界でも活躍中のHGと、レスラーでありながら『めちゃめちゃイケてる』などのお笑いの場でも活躍するマッスル坂井の異次元対決！ その他、RG、宮川大輔、ケンドーコバヤシらも参戦！ プロレス&お笑いファンは必見!!

★日時/3月30日（日）18:00開始 ★会場/新宿FACE
★問/よしもとクリエイティブ・エージェンシー 03-5217-6095

Dvd

RAW15周年記念
看板番組RAWの歴史をDVDで確認セヨッ!!



今年2月11日&12日に、『RAWロイヤルランブル・ツアー』で1年4ヵ月ぶりの来日をはたしたWWE。このツアーをきっかけに、そのド派手な世界最大のエンターテインメント団体に興味を持った人も多いだろう（本誌・松下ミワもその一人）。このRAW15周年記念DVDは、RAWの誕生から現在までの抗争やスキッドなど、スーパースターたちの勇姿を漏らさず収録!! 3枚組、9時間にわたる収録時間でRAW15年の歴史を一気に振り返れ!!

★「WWE RAW 15thアニバーサリー」（東宝）
★定価9,240円（税込） ★発売日/3月28日

Gym

あの所英男が直接指導!!
リバーサルジムが無料入会キャンペーンを実施！



所英男、勝村周一朗、松根良太らが講師を務める『リバーサルジム』が、春の入会キャンペーンを開催！ 4月30日までに入会すると、入会金1万円が無料！ さらに柔術着か総合3点セット（スネあて、ファールカップ、マウスピース）のどいずれかをプレゼントするという太っ腹ぶり！ もちろん初心者、女性も大歓迎！ ジムの会員はジム1Fにある『reversal shop rvddw』で商品購入時に20パーセントOFF！ 格闘技を始めたいと思っている人は、世界の所英男に直接指導してもらえるチャンス！

★HP/http://www.reversal.jp/ ★問/リバーサル格闘技ジム 03-3481-6521

Book

これぞ波瀾万丈!
名選手を続々と輩出した全女の盛衰史!!



マッハ文朱、ビューティーペア、ミミ萩原、ジャガー横田、デビル雅美、クラッシュギャルズ、極悪同盟、アジャ・コング、北斗晶、豊田真奈美、井上京子……。名選手を続々と輩出し、何度も一世を風靡した全日本女子プロレス。しかし、バブルと時代の波に飲み込まれ2005年に解散。当時の借金総額は30億円とも言われた。そんな全女・松永元会長の人生がおもしろくないわけがない！ 関係者のインタビューも多数収録！ 迷わず読め!!

★『女子プロレス終わらない夢』松永高司述（扶桑社）
★定価1,575円（税込）発売中

Book

長州小力はここでブレイク!!
史上初、芸人プロレスの笑撃ヒストリーが書籍に!!



ストリップ小屋の幕間にやっていた芸人同士のプロレスごっこから始まった、史上初のお笑い芸人によるプロレス興行、『西口プロレス』。2001年に旗揚げしたものの、ロープなし、布団リング、全裸ファイトというありさま。その後も、ビアガーデン興行などを経験しながら、2005年に長州小力の大ブレイクにより、ついに夢の地上波放送が実現! その笑撃の歴史を小説化!! プロレス&お笑いファンも楽しめること間違いなしッ!

★『小説 西口プロレス』橋本貴広著（マガジン・マガジン）
★定価1,300円（税込）発売中

Book

I編集長の遺伝子
『週刊ファイト』元編集長が休刊とマット界沈没を斬る!!



2006年9月に休刊となった『週刊ファイト』元編集長が、アントニオ猪木引退後の10年間で信じられないほど衰退したプロレス界を赤裸々に総括！『週刊ファイト』編集長としてその歴史的沈没劇を目の当たりにした著者が、ミスター高橋本の衝撃と影響の大きさ、師であったI編集長の遺言、武藤敬司の全日移籍の真相、前田日明との愛憎劇など、『週刊ファイト』にすら書けなかった裏ネタ満載の取材メモを一挙公開！ 激動の10年を振り返れ！

★『プロレス暗黒の10年』井上譲二著（宝島社）
★定価1,500円（税込）発売中

Book

プロレス全盛期の記録!
公称週60万部を売り上げた『週プロ』の光と影!!



読者から熱い支持を受け、常に業界をリードし、絶頂期には公称週60万部を売り上げていた『週刊プロレス』。闘っていたのは、レスラーだけじゃない！ 休みは一ヵ月に1日。でも給料は20万円。ただ『週プロ』が好きなだけ。それがなぜ、ターザン政権の崩壊へと導かれたのか!? アングルと取材拒否、プロレスラーの生きざまを追った出会いと別れ、引退スクープなど、仰天エピソードが満載!! 『週プロ』に青春を捧げた記者によるノンフィクション。必読!!

★『ぼくの週プロ青春記』小島和宏著（白夜書房）
★定価1,890円（税込）発売中



イラスト◎師岡とおる

第29回

DREAMにロマンはあったか?

花くまゆうさく リングの汁ミニ

『ドキュメンタリーやれんのか！ 完結編』のPPVを放送最後の回を購入後、数日したら次の月のサムライTVで放送すると知り、ショックを受けた。

そのショック&カードがいまいちなこともあり、『戦極』のPPVは結局、観なかった。でも、実力差が出たジョシュvs吉田は観たかったかも。今後も吉田には寝技強い人をどしどし当てていってほしい。

〝足関十段〟今成選手のイギリスでの防衛戦（セコンドは村田卓実くん）をネットで観たけど見事な一本勝ちで嬉しい。それにしても、十段に足関節仕掛けにいった相手の度胸は凄いね。普通は怖くていけないでしょ。昔、コンバットレスリングで十段に足関仕掛け、返り討ちにあった大内（敬）選手を思い出してしまった。

十段のロマンある試合を観たあと、DREAMをテレビで観たが戦前の期待感はすっかり消えてしまっていた。これもTBS暗黒面の力か。「相手の光を消す」（ⓒ鈴木みのる）ならぬ、「格闘技の光を消すTBS」恐ろし。以下、DREAMテレビ感想。

■ハンセンvs朴

ハンセンのよさを披露する内容になり嬉しい。昨年の大晦日放送のトリ〜今回の放送のはじめのつかみと、なにげにハンセンはいいとこ映ってる。



■ミノワマンvs野球選手

会場のファンは盛り上がってるようだし（?）、テレビでの扱いもいいし、おいしいミノワマン。ほかの選手はどう思ってるのかしら。『クラブファイト』で毒を吐いた高瀬選手の顔が浮かんでくる。昔、三角絞めで負けてるし、リベンジも含めて、ミノワマンを標的にすればいいかも。美濃輪も日本人相手に得体の知れない不思議な強さを発揮し、ギラギラ輝いていたあの頃のよさが戻るかもしれないし。

■マッハvs門馬

カードを知ったとき、またリスクあるキツい試合だと思ったけど、きっちりクリアしてほっとした。

■川尻vsマンバ

所戦でもつくづく思ったが、マンバは寝技がどんどんうまくなってる。打撃系選手の中でかなり優秀。筋肉で身体が硬そうな川尻選手がラバーガードしたのは意外だったが、ヒザ痛めるんじゃないかと心配になった。

■アルバレスvsジダ

アルバレス強かったね〜。会場のファンには伝わってなさそうだけど。

■ダイジェストと青木vsカルバン

永田、宮田に石田、川尻ぶつけたほうがよかったんじゃないかな。2度あることは3度あるかもなので、もう無理矢理、青木vsカルバンやらないでトーナメントの反対に置いて、やるなら決勝でいいんじゃないかな。

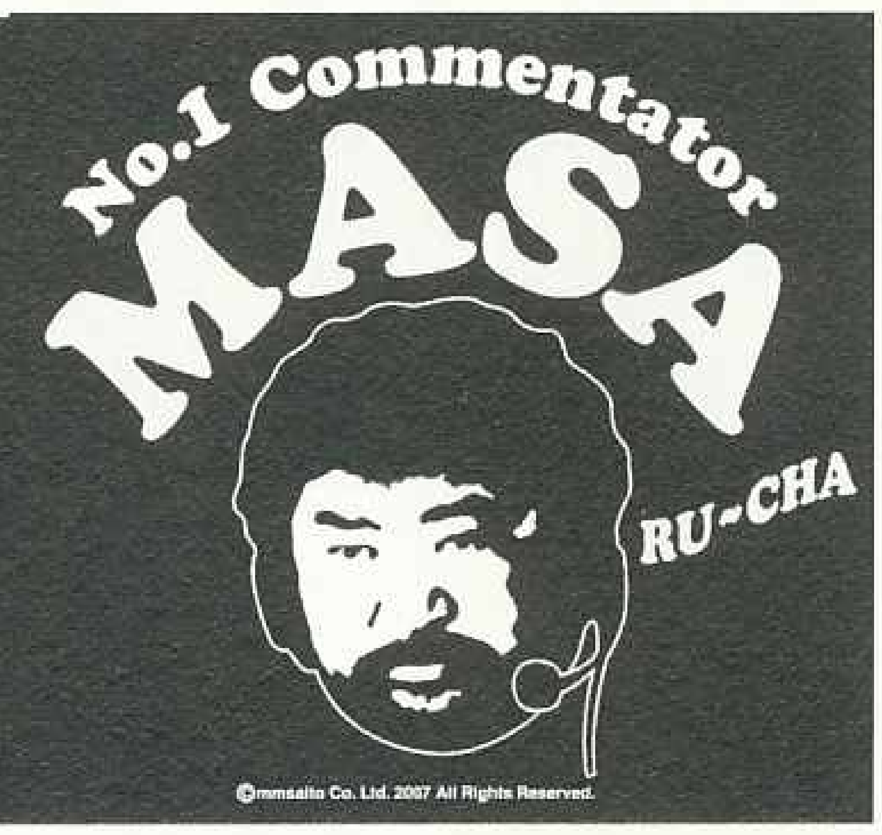


Hanakuma Yusaku
◎村田くんとフラカンのグレートマエカワさん主演で映画『人間爆発』作ってます。ガンダーラ映画祭で上映します。

"男の憧れ"マサ斎藤の

GO FOR BROKE!

～獄門記～



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆ No.1 ☆ 男なら飛行機が堕ちてもポーカーをやめるな! ☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

黄金期のアメリカマットを一匹狼として生き抜いた〝男の憧れ〟マサ斎藤の新連載がついにスタート! 今月からそのセックス、ドラッグ、シュートファイティングなエピソードをたっぷりと語っていただきます!

——マサさんは、3・1全日本プロレスの両国大会で行なわれたドリー・ファンク・ジュニア引退試合で花束を渡してましたけど、ドリーとは現役時代、けっこう交流があったんですか?

マサ いや、俺はテキサスで試合したことないからあんまりない。

——ないんですか(笑)。

マサ 70年代に、俺が一緒に旅してたのは、アイヴァン(イワン)・コロフとか、あのへんの連中よ。

——ロシア人ギミックレスラーの先駆けですね。

マサ そうそう。でも、今回はドリーの引退で全日本から声がかかったから、「今日からおまえもただのオッサンだな」ってジョークの1つでも言ってやろうと思ってさ(笑)。

——そのために花束贈呈を引き受けましたか(笑)。

マサ でも、NWA時代に何回か一緒にツアーには行ったよ。物静かで真面目な男よ。俺みたいに試合が終わって街に繰り出してなんてこともあんまりしなかったどさ、酒は強かったよ。豚の皮のジャーキーをつまみにビールを飲むのが好きだった。試合はフロリダのタンパで、ドリーやテリーと一回やっただけだと思うけど、レスリング・ファミリーで育っただけあってうまかったよ。

——テキサスではなく、フロリダでやってましたか。

マサ 俺はアイヴァンたちとマイアミとかによく行ったからね。フロリダといえば、あの一帯ってハリケーンがよく来るんだよね。でも、ドライブするのは面倒くさいから、1942年製の古くて小さいチャーター機で二機に分かれて乗って行くんだけど、必ず大揺れに揺れるんだよ。

——嵐の中を小型飛行機で突入って、自殺行為ですよ!

マサ あるとき俺たちは2エンジンの6人乗りぐらいで、もう一機はレフェリーのサニー・マイヤースが〝運転〟してワンエンジンのセスナで行ったのよ。

——マサさん飛行機は運転じゃなくて、操縦です(笑)。

マサ あんなちっちゃい飛行機、運転だよ(笑)。だってさ、案の定、嵐の中に入っちゃってワンエンジンのほうが堕ちちゃったからね。



3.1全日本の両国国技館でのドリー・ファンク・ジュニア引退試合で花束を渡したマサさん。次号も、往年の名レスラーやマサさん本人の仰天エピソードをたっぷり紹介してもらいます!

——えっ! 飛行機が落ちちゃったんですか!?

マサ うん。ちょうど沼地に落ちてね。ワニとかヘビがうじゃうじゃいる沼なんだけど、そこに落ちて助かったんだよ。

——大事件じゃないですか!

マサ そうでもないよ。しょっちゅう落っこちてたから。

——飛行機がしょっちゅう落ちてますか(笑)。マサさんたちの飛行機は大丈夫だったんですか?

マサ 俺たちが乗ってたのは、2エンジンだったから大丈夫だったんだよ。ワンエンジンはヤバい。それでさ、俺たちは飛行機に乗ると、必ず機内でポーカーすんのよ。それに夢中になっちゃうから、飛行機が揺れようが落ちようが関係ない。墜落しそうなぐらい揺れてるのに、みんなシートベルトもしないで、ポーカーで熱くなってんだから(笑)。考えられる?

——考えられません(笑)。

マサ それで無事到着したら、「おー、着いたか。じゃあ、やめようか」ってなもんで。ポーカーやらないヤツらは青くなってるんだよ(笑)。でも、俺とかアイヴァンはポーカーに夢中で、全然気がつかなかった。

——死にかけてるのに(笑)。

マサ (真剣な顔で)ポーカーのほうが重要! もう一機が落ちたのもさ、試合場で「落っこったよ」って聞いて初めて知ったぐらいで。なんだか、みんな身体中擦り傷だらけだと思ったんだよな~。

——なんか飛行機が落ちたのを軽のバンが、道路脇の田んぼに落っこちたぐらいの感じで言いますね(笑)。

マサ そんなもんだよ。あの頃はよき時代だったからさ、飛行機じゃなくて、たまにドライブするときは、試合後みんなでビール飲みながら帰るんだよね。

——おもいっきり飲酒運転じゃないですか(笑)。

マサ アメリカの田舎道だからさ、人なんか歩いてるわけないし、車だって走ってないから大丈夫なんだよ。だから何ケースもビールを買い込んで、アイスボックスにぶち込んでね。そうするとトイレに行きたくなるだろ? でも、フリーウェイに乗ってるから、いちいちトイレになんか行かずに、そのへんに車停めてしちゃうんだけど、フリーウェイの脇がずっと沼地でね。そこに向けて小便してたら、暗闇でゴソゴソいってるから何かと思ったら、目の前にワニがいるんだよ(笑)。

——ワニがいましたか!

マサ ワニに小便ぶっかけてたんだよ(笑)。あの頃はメチャクチャよ。

——飛行機が沼に落ちるわ、立ちション中にワニに襲われるわ(笑)。

マサ フロリダはやっぱり思い出あるな。

——フロリダ地区で印象に残ってるレスラーって誰ですか?

マサ あの頃だと高千穂(明久)がパートナーだったんだよ。

——ザ・グレート・カブキさんですね。

マサ 俺がミスター・サイトーで、高千穂はミスター・サトーっていう名前でタッグ組んでてね。それでマネージャーがタイガー服部よ。当時、アメリカ人レスラーは〝ヤワ〟で日本人はタフで売ってたから、3人で日本語で「さぁ、練習だ、練習!」なんてプロモーションビデオかなんか作っちゃってさ。

——カブキさんってどんな人でしたか?

マサ 試合がうまかったね。一番いいパートナーだった。彼はあのあとテキサスに行ってカブキで大成功したんだけど、フロリダでもけっこう稼いでたよ。よく一緒に飲みにも行ったし、あいつ飲んべえだから。

——いまは居酒屋もやられてますしね(笑)。日本に帰られてからも交流はあったんですか?

マサ いや、ないね。新日本のときぐらいかな。いたじゃん、越中なんかと一緒に。

——平成維震軍ですね。

マサ ただ、新日本では試合はやってないし、タッグを組むこともなかったけどね。

——マサ斎藤&ザ・グレート・カブキのタッグを日本でも見てみたかったですけどね。

マサ いやあ、俺と高千穂の試合を(マッチメーカーの)長州じゃブックできないよ(笑)。使いこなせないって。

——ダハハハ! 天下の長州力でもアメリカを生き抜いてきたマサさんやカブキさんは、手に負えない、と。さすがです!

Masa Saito◎60年代末~80年代前半、アメリカン・プロレス黄金期を腕一本で渡り歩いたプロレスラーの中のプロレスラーにして、男の中の男。カルピスが大好きだが、いまは甘いものを控えている。

COLUMN

ブッカーKのぶっかけ！格闘裏情報

第27回

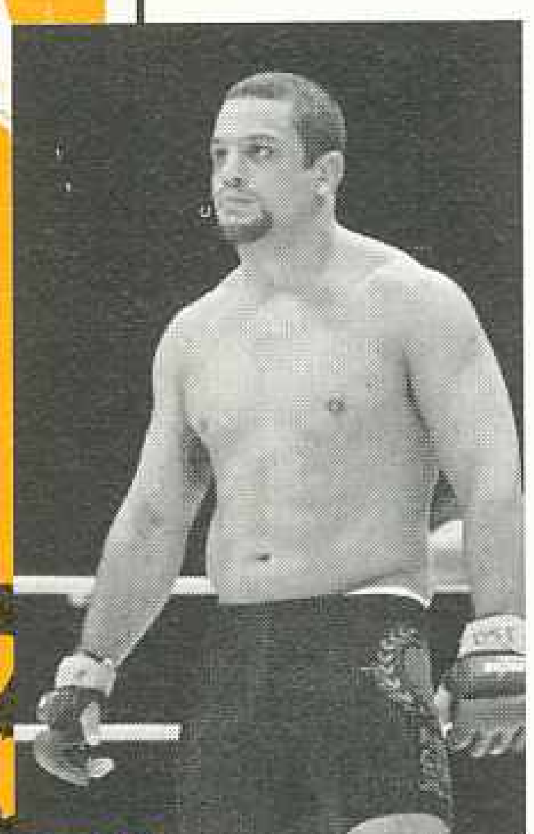
私だけが知っているハイアン・グレイシー

Booker K ◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

3月の『戦極』に来日した、ファブリシオ・〝ピットブル〟・モンテイロの所属はグレイシー・フィージョン。熱心のマニアならご存知だと思いますが、昨年末にこの世を去った〝悪童〟ハイアン・グレイシーらが結成したチームです。モンテイロは判定負けでしたが、ハイアンに勝利を誓っていたものでした。また、3月7日のアトランティックシティで行なわれた大会に、ハイアンの従兄弟が二人出場。彼らもハイアンの写真を胸プリントしたTシャツを着て入場していました。

ハイアンの事件から、もうかれこそ4ヵ月近くたちます。ブラジル現地時間の12月15日、サンパウロ市内。当時の報道によれば、ハイアンは自動車の窃盗と窃盗未遂容疑で逮捕され、拘置所に収監。独房に抑留されているあいだに、突然、息を引き取ったのでした。

いったいハイアンの身に何が起こったのでしょうか。死因は確定されてませんでしたが、心臓発作説や、逮捕時の検査ではコカインやマリファナが検出されたとの情報もあった。しかし、ここにきて逮捕時にハイアンを診察、治療にあたった医者が、致命的なミスをした疑いが高まってきているとのこと。詳細は明らかではありませんが、近いうちにその医者に逮捕状がおりるという噂なのです。



どんな真実が明らかになろうと、ハイアンが帰ってくることはありません。しかし、道場経営が順風満帆で、お金にも困っていないハイアンが強盗だなんて理解に苦しむ方もいらっしゃると思います。それは、彼がハイアン・グレイシーだから、というしかありません。実際、プライベートではいくつもの騒ぎを起こしていたものでした。所持していた拳銃が暴発、自分の足をケガした事件もありました。リオのカーニバルではシュート・ボクセの選手とビーチで喧嘩、大晦日の大会前に京王プラザでの朝食時、BTTのカーロス・バヘット選手をぶん殴って、私も主催者から怒られたり……。

そのせいか、私もそうなんですが、彼を良く知る人間ならば、今回の暴れっぷりを聞いても何も驚きはしないでしょう。逆に、彼の死は、本当に本当に驚きだった。信じられなかった。兄であるヘンゾ・グレイシーは、しばらく私からの電話を受け取ることもできず、部屋に引きこもって悲しみにくれておりました。ハイアンは最後の最後まで兄を困らせたのでした。

個性的なキャラクターを持っていたので、またの来日を期待していたファンも多かったことでしょう。いまだからお話できますが、2006年の大晦日、じつはボビー・オロゴン戦をオファーされていたのです。諸事情で実現には至りませんでしたが、緊張感のある非常におもしろいカード。それは彼の〝悪童〟というイメージは、いつだってブレることはなかったということです。なぜか？ それは、彼がハイアン・グレイシーだから、というしかありません。

金ちゃんのどこまでやるの？



イラスト◎中川画伯

●第21回● 3・5『戦極』観戦記の巻

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

このあいだ3・5『戦極』の旗揚げ戦を観に行ってきたよ。

やっぱり大きなイベントの旗揚げ戦だから興味があって、いつもお世話になってる知人と行くことにしたんだよね。

でさ、『戦極』の会場に行ったら、まず長渕剛さんが来場しててビックリしたよ！ じつは一緒に行った知人が、長渕剛の大ファンなんだよね。だからさ、長渕さんと会わせてあげたいと思って、試合後に控室に行ったんだけど、長渕さんの控室の前には関係者が二人立ってて、誰も入れないようになってたんだよ。

でも、じつは俺、新極真空手関係の知り合いを通じて、長渕さんとは二回会ったことがあるんだよ。それでマネージャーさんが俺のこと覚えていてくれて特別に控室に入れてくれたんだよね。そしたら長渕さんも俺のこと覚えていてくれてさ。一緒に行った知人も大感激してくれて、とりあえず、お世話になってる人に恩返しできて良かったな、と思ったよ。

まあ、だから『戦極』で一番印象に残ったのは長渕さんと話しをしたことだけど、全体的に試合も良かったよね。

中でも吉田（秀彦）さんとジョシュ（・バーネット）の試合がおもしろかったな。ジョシュがスープレックスで投げようとするのを吉田さんが耐えてさ、Uインターの頃のゲーリー・オブライトを思い出したよ。

あと吉田さんがカメの状態のとき、ジョシュがヒザで吉田さんのアキレス腱を踏んで足を極める技をやってたじゃん。あれ観たとき「うわ〜、懐かしい。ジョシュなんでこんな技知ってるんだ!?」って驚いたよ。あれはプロレスの裏技なんだよね。Uインターの頃、道場でみんなよくやってたし、俺があの技を最初に習ったのは『新日本プロレス学校』での山本小鉄さんからだからね。あれは、ギブアップを奪うんじゃなくて、痛みで相手を引っくり返す技なんだけど、新日本道場でも使われてるシュートテクニックなんだよ。

ジョシュはなんであんな技知ってたんだろうな〜。カール・ゴッチさんに教えてもらったのかな。もしかしたら新日本に参戦してるときに身につけたのかもしれないね。だから、ホントにプロレスvs柔道みたいでおもしろかったよ。

それにしても、吉田さんも年齢がいってるのに、よくやってるなって感心したよ。吉田さんは俺の一歳上で、ほとんど同世代だからさ、体力的にキツくなってるのはよくわかるんだよ。それで若くてでかいジョシュとやってるんだから「頑張ってるな」と思ったよね。

やっぱりキツいんだもん。37〜38歳で若いヤツとやるのって。だからこれから、会場のビジョンとかに大きく「38歳vs28歳」とか映したほうがいいよ。ベテランがどれだけ大変な思いでリングに上がってるか客に伝わるようにさ（笑）。

去年、俺と闘った川村（亮）くんが逆転勝ちしてたけど、あれなんか体力があってこそだもんね。「うらやましいな〜」と思ったよ。俺も若い頃はイケイケだったな、と思い出してさ。Uインター時代の新日本との対抗戦のときなんて、新日のベテランレスラーと当たると「なんで、こんなおっさんとやらなきゃならねぇんだ。ボッコボコにしてやろうかな」ぐらいの気持ちでやってたからね（笑）。

いま思うと恥ずかしいというか、プロレス界の大先輩に対して失礼なことしちゃったな、と思うよね。ボッコボコに蹴飛ばしてるんだから（笑）。

だって、いまや自分が37歳なんだから。自分がおっさんになってはじめて、「年長者はいたわらなきゃいけないな」って思ってるよ（笑）。

せき詩郎のサムライ三昧 シロー

第22回

藤田とグラハム、乱闘の真相

人間が二人集まれば必ずと言っていいほど、ある議論が始まるだろう。そう、「地球上で一番速く全裸になることができる人間は誰か？」と。

さまざまな人名が挙がるはずだ。アメリカ人なら真っ先に「トレーシー・ローズ」と言うだろうし、イタリア人なら「チチョリーナしかいない」と声を張り上げるかもしれない。

だが、ある男の名前を出すと、途端に議論は終わる。「そうか、あの男がいたか！」と皆納得するのだ。

その男の名前は井手らっきょ。

彼ほど速く全裸になる人間はいない。たとえば井手らっきょが上着のポケットから1枚のコインを取り出す。井手は握られた右手の親指の上にコインを置き、ポンッと軽く上へと弾く。コインは宙に舞う。

周囲の人間はコインの行く末を見守るように顔をあげ、コインを見る。やがて重力に逆らわずにコインは落下し始める。その動きを追うように周囲の人間は視線を落とす。コインは井手の手のひらへ、まるで吸い込まれるかのように乗り、井出が手を握ることによって見えなくなる。

井手らっきょによるコイントス。特別なことは何もなく、一般的に行なわれているコイントスと同じものだった。だが、周囲の人間は一驚を喫する。

なんと井手は全裸になっていたからである。

コイントスの間、僅か数秒。周囲の人間が宙に舞うコインに目を奪われているそのわずかな隙に、井手らっきょは全裸になったのだ。常人では考えられないことである。

一説によると井手らっきょが服を脱ぎ、全裸になるスピードは光速を超えるとも言われている。そのため周囲の人間は歳をとるのだが、井手本人は若いままという『うらしま効果』が生まれるとも言われているが、その真偽は定かではない。とにかく、井手らっきょが全裸になるスピードは尋常ではないのだ。

「井出から目を離すな」

これがテレビ関係者の合言葉である。井出から目を離すと全裸になってしまう。もしも生放送中に全裸になられてしまったら大問題。責任問題に発展してしまうだろう

そのため、スタッフは井手から目を逸らさず、見つめ続ける。しかし人間の生理的現象である「瞬き」は避けられない。そこを井手は見逃さない。スタッフが瞬きをする間に全裸になってしまうのだ。

「クビになりたくなければ瞬きをするな」

最近ではこの合言葉も加わった。

ところでなぜ井手はここまでして全裸になってしまうのか？「笑い」のためと考えたならある程度納得できるのだが、それだけでは説明できない何かがあることは確かだ。純粋に笑いのためだけならば、井手は脱がなくても良いだろう。なぜなら脱ぐ以外でも笑いをとれるスキルを持っているからだ。

全裸になることによっての「毛皮不買」等の抗議を兼ねた運動でもなければ、何かしらの芸術的なパフォーマンス、というわけでもない。井手はそんなたいそうなことを考えてはいない。

ならば、井出が全裸になる理由とは何か。考えられるのは少年との約束である。

病気の少年。彼は井手らっきょファン。手術すれば病気は治るのだが、怖くて受けたくない。

そこに井手らっきょが現われる。井手の大ファンである少年は大喜び。そして井手は少年と約束する。

「井出さんが全裸になり続けてくれたら、僕、手術受けるよ！」

――この理由は他の疑問さえも解決してくれる。

「藤田さんがおじいさんのようなジャケットを着て会見してくれたら、僕、手術受けるよ！」

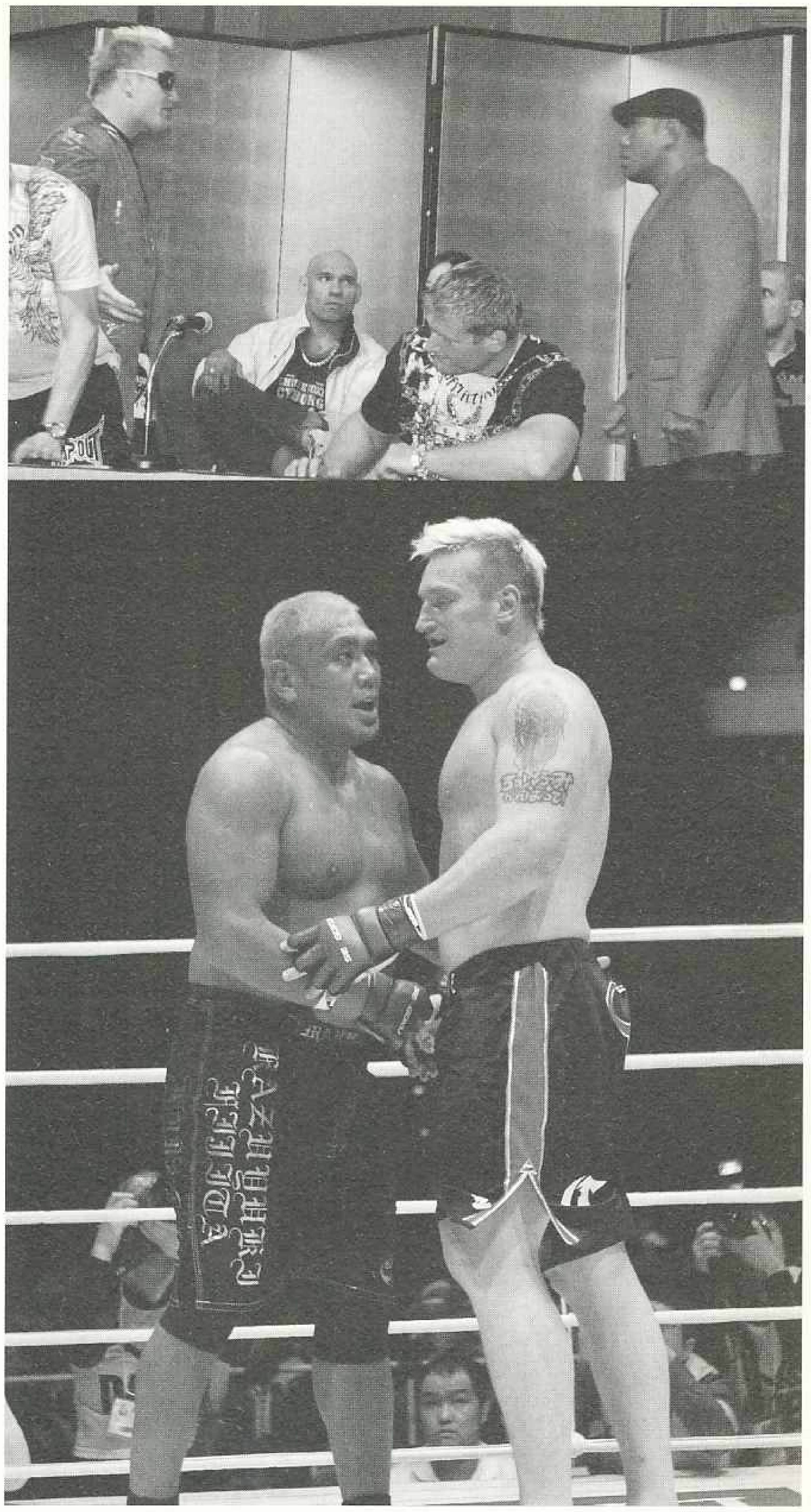
藤田はカーキ色のジャケットで会見に臨む。

「グラハムさんが赤いラメのジャケットを着て会見してくれたら、僕、手術受けるよ！」

グラハムはド派手なジャケットで会見に臨む。

二つの約束が交差した『戦極～SENGOKU～』の前日記者会見。

藤田とグラハムがジャケットのことで乱闘した理由は、もうおわかりであろう。



「戦極」前日会見で「このトサカ野郎！」と藤田が叫べば、グラハムは「この髪型が気に入らなかったなら残念。しかし、彼の帽子とおじいさんのようなジャケットはどうかと思う」と言い合い乱闘騒ぎに発展した両者。しかし、試合後はガッチリ握手を交わしノーサイド。その裏には……!?

椎名基樹のサム・ライ三昧

第24回

『戦極』&DREAM観戦記

日本格闘技界、今月一番のニュースといえば、なんといっても、我らが前田日明がプロデュースする格闘イベント『ジ・アウトサイダー』の出場者が発表されたこと。RINGS公式HPで写真を見る限り、全国の不良を集めて闘わせる、というコンセプトに偽りのなしの、コワモテたちが集結している。

その中で一際異彩を放っているのが、瓜田純士（ウリタ・ジュンシ）さん。ボーズ頭、ヒゲ面、タトゥーといった、いかにもケンカが好きそうな不良に混じって、一人だけビジュアル系の不良の瓜田さん。黒ずくめの服を着て、ロンゲにサングラスで、斜に構えたポーズの写真は、インパクト有り。

でも、さっぱり素顔はわからない。ほかの人は「格闘歴・総合格闘5年」とか書いてあるのに、瓜田さんは「格闘歴・ストリート・ファイト東京NO1」。でもそんな種類が違う不良の瓜田さんの存在で、劇画のような大会コンセプトが、より明確に浮き上がり、興味が沸く。イベント名も最高。

今月はこの『ジ・アウトサイダー』に対抗すべく（たぶん）、二つの新しい総合格闘技団体が注目の旗揚げを行った。『戦極』とDREAM。おそらく、日本の総合格闘技の二大メジャーとなるかもしれない両団体が「比較してよ」と言わんばかりに、日を置かずに、旗揚げ戦を行なった。

両方とも行って来ました、久々の生観戦。PRIDEをPPV観戦に変えてからどれくらい経つだろう。とにかく数年ぶりに会場に足を運んだ。

最初に開催されたのが『戦極』。

まず、印象に残っているのが、煽りVTRのナレーターの、おじさんの声。ガンダム関係の声優さんとあとで知ったが、会場で聞いたときは、どーしても、年末の『ダウンタウンの24時間笑ってはいけない病院』で、「板尾創路のブラックジャック！」と再三叫んでいた声に聞こえてしまい、みるみる脱力。

大晦日の格闘大連立の裏で、高視聴率をマークした番組のナレーターを使うとは如何に!?　と、またまや、底が丸見えの底なし沼に、飛び込みそうになった。違う人だよね？

それにしても、このナレーション、選手の入場を呼び込むリングアナの役目もしてたけど、録音なんだよね？斬新というか思い切ったというか。

それが、会場に全体にのっぺりとした妙な空気を作ってしまったように感じた。やっぱ現場を盛り上げるリングアナは必要だと思う。

一番見たかったのは、もちろん五味隆典。不運で短い試合になってしまったが、圧倒的に輝いて見えた。やっぱ五味はスター性が違う。しかし、輝くほど、DREAMのライト級トーナメントではなく、ここで闘っている違和感が際だつ。チャンピオン不在のトーナメント。もし五味が出場していればメインを務めたかもしれない。いまになってみれば、それがDREAMの悲惨ともいえる旗揚げ戦に繋がったようにも思えてしまう。

ところで、五味がパンチでダウンを取ったとき、「ど～よ」と言わんばかりに、両手を広げたポーズ、佐山サトルっぽくなかった？　佐山も超カッコつけて、やるでしょ？　あのポーズ。佐山とは直接面識はないであろう五味に流れる佐山イズムに、修斗の業の深さを感じ、身震い。

繰り返すがDREAMの旗揚げ戦は悲惨だった。夢は夢でも悪夢のようだ。

やっちまったな～！　青木！　ご存じのとおり反則のヒジ打ちによりノーコンテストとなったわけだが、そのときの会場の雰囲気ったらなかった。観客にとって最悪の事態にもかかわらず、怒る者もいなかった。怒ることもできなかったというか。冷ややかに諦めているようでもあるし、あまりのことに呆気に取られているようでもあった。旗揚げ戦としてはあまりに最悪の事態に、客のほうが同情して怒ることすらできなかったのかもしれない。

もちろん、反則を受けた青木にとっては不可抗力の事態であるが、興行は結果がすべて。やっちまったな～！と感じざるを得ない。ツキまでも求められるのがメインインベンターの宿命か。

それにしても、不測の事態が発生し、不可解な中断、ノーコンテストのような不可解な裁定という流れは、日本の格闘技イベントのお家芸だ。UFCなどではあまり見たことがない。

アマチュアリズムの欠如なのか、ルールに対する畏敬の念のようなものが足りないのか、どこか根本的に意識のズレを感じることが多い。PRIDEに対してもそうした思いがあったことを、度々ここで書かせてもらってきた。

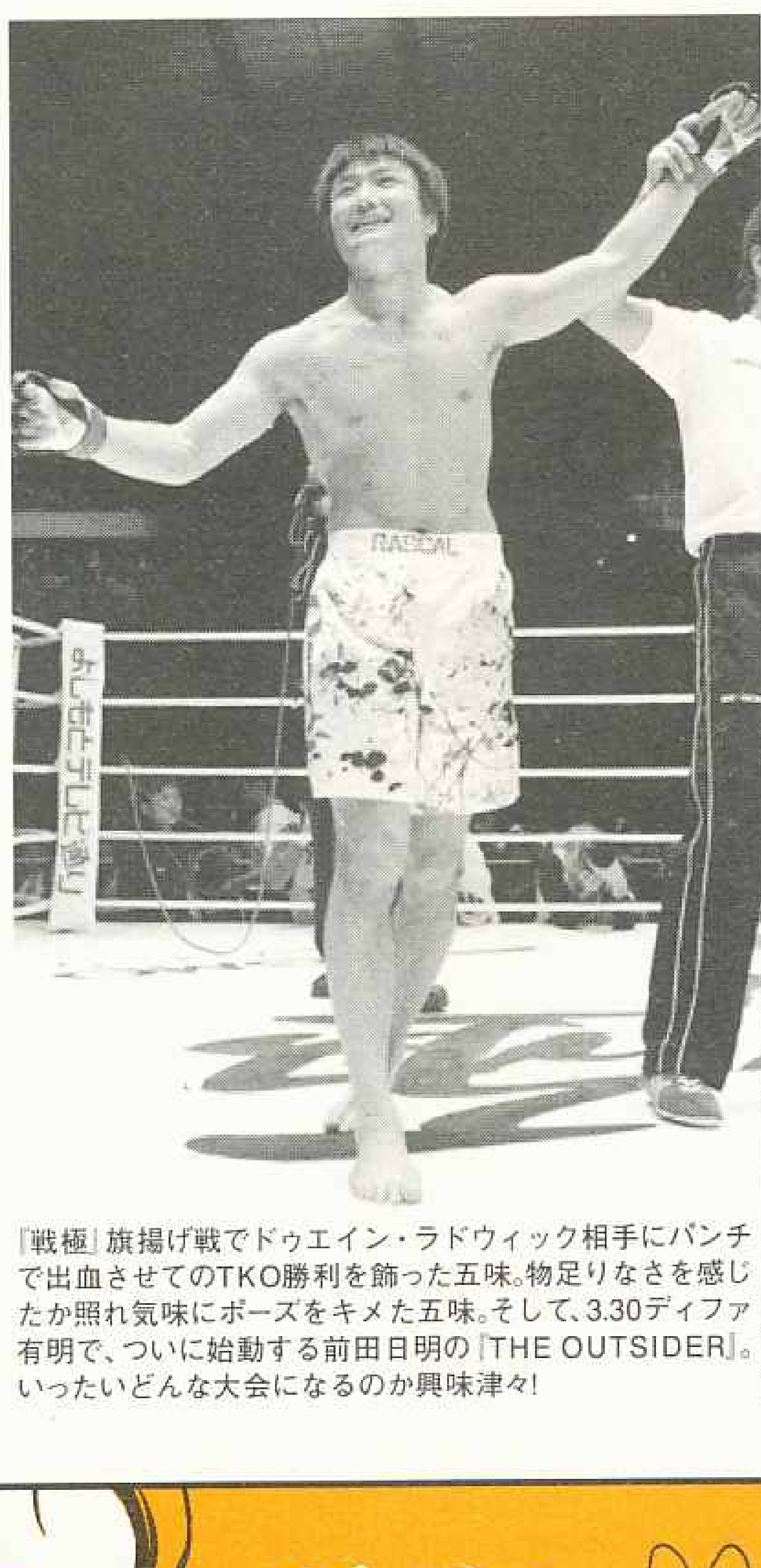
試合が、それもみんながそれを見にきたメインイベントが成立できなかったことは、選手を責めることはできない。ルールを徹底する機関が不完全なことが原因。

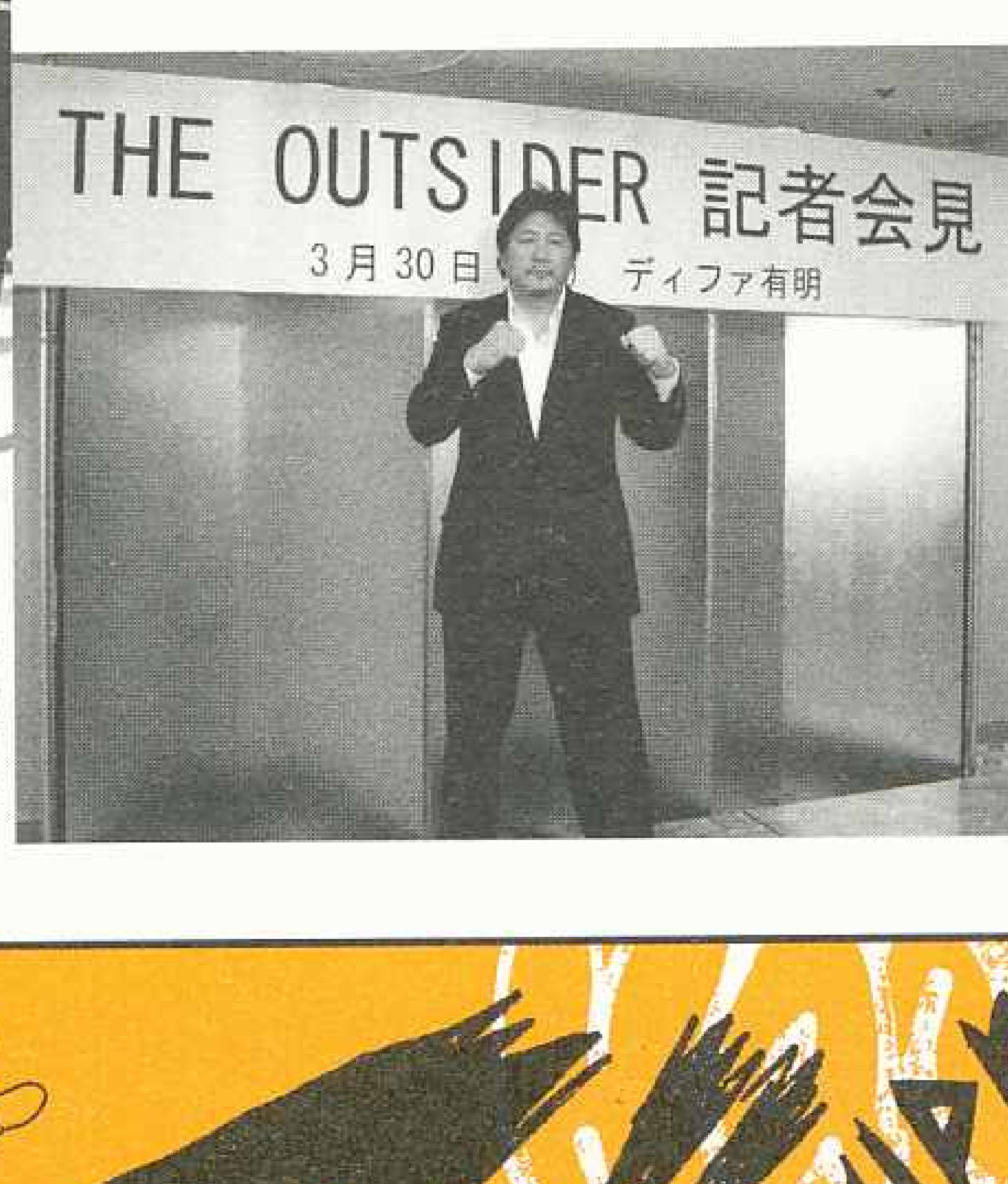
ブラックマンバら他の選手の闘い方を見ても、今回はヒジの使い方に選手間に認識のズレがあったように感じる。そもそも身体にはヒジ有りって、あやふやでわかりにく過ぎる。身体って、いったいどこ？　青木が攻撃を受けた首は身体ではないのか？

ブレイクやドント・ムーブのタイミングも不可解。ミルコがUFCで通用しなかったのは、PRIDEの早いブレイクに守られていたからという理由も大きいと思う。

マッチメイクにも疑問が残った。ミルコやミノワマンのように実力差があれだけある試合って意味あるのだろうか？

また大事な旗揚げ戦に最高のカードを持ってきて、一発デカい花火をぶち上げる発想はなかったのだろうか。たとえばDREAMが提供できる最高のカードならば、ミルコ vs 秋山だとか。大金積んで実現してほしかったなあ。





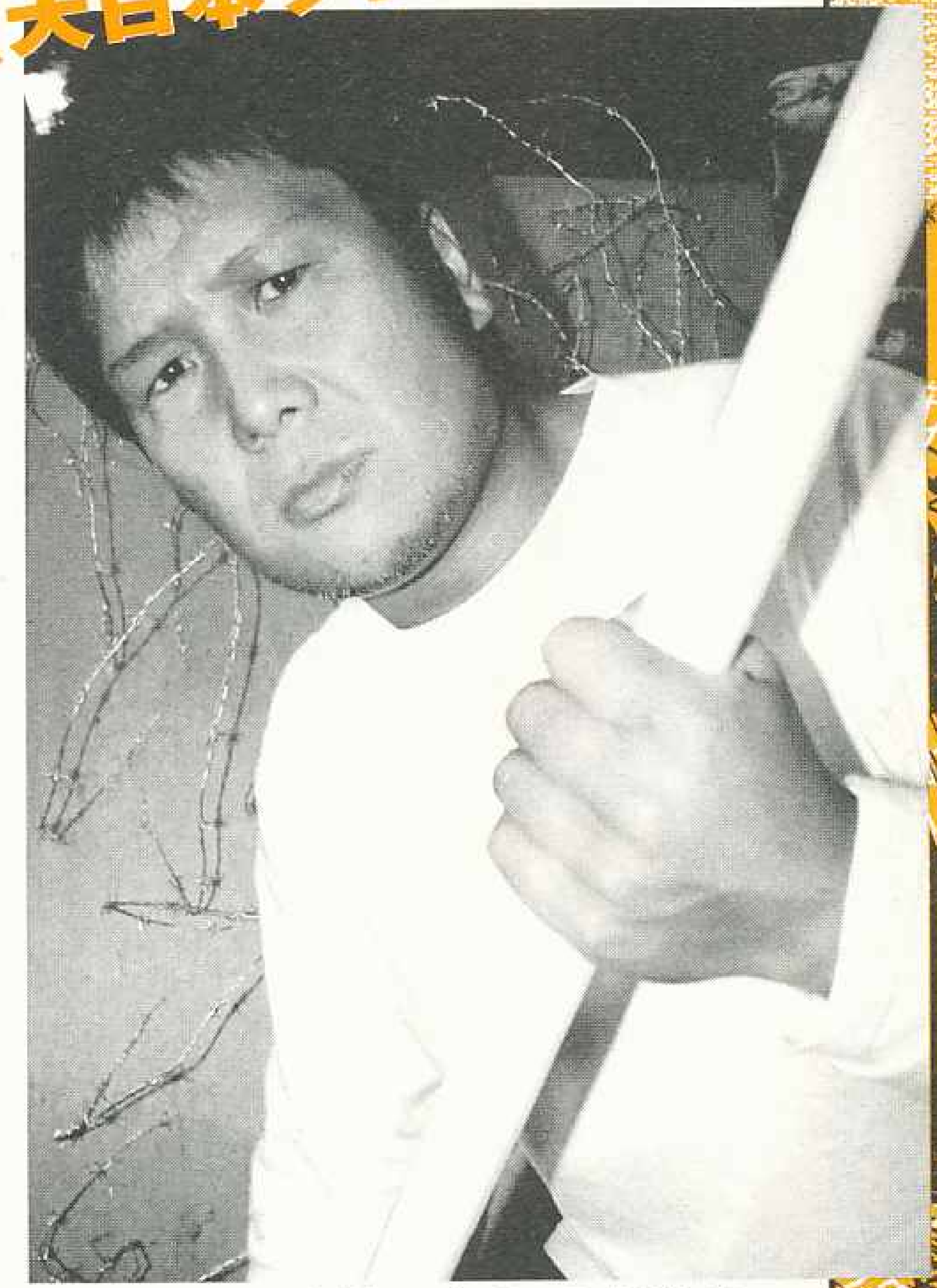
『戦極』旗揚げ戦でドゥエイン・ラドウィック相手にパンチで出血させてのTKO勝利を飾った五味。物足りなさを感じたか照れ気味にポーズをキメた五味。そして、3.30ディファ有明で、ついに始動する前田日明の『THE OUTSIDER』。いったいどんな大会になるのか興味津々!

イナズマKの ハードコアドーシター Special

統括本部長代理は元・火だるま男!?

“ポーゴが師匠”のデスマッチ・マスターが登場！

シャドウWX（大日本プロレス）



しゃどう・だぶるえっくす■1969年6月11日、新潟県十日町市出身。本名は志賀悟。95年、IWA JAPANにてデビュー。99年から大日本プロレスに所属。ミスター・ポーゴの子分的存在として注目を浴び、本間朋晃や山川竜司らと新世代デスマッチファイターとして活躍した筋金入りの実力派デスマッチファイター。08年3月には金村キンタローのセクハラ問題で揺れる大日本の“現場責任者”兼“統括本部長”代行として就任。身長180cm、体重115kg。

一連の金村キンタロー問題に揺れた大日本プロレスだが、今回は復活への期待も込めて前任の登坂栄児氏に変わり、大日本の〝現場責任者〟兼〝統括本部長〟代行に就任したシャドウWXが登場！ 90年代に本間朋晃や山川竜司らと新世代デスマッチファイターとして活躍、現在もデスマッチ戦線で勢いづくWXを直撃だ。

ハードコア列伝1 中牧の無責任勧誘で業界へ

まず統括部長代行に就いた話から質問すると、「大日本では、アブドーラ小林選手と並んでキャリアが古いので自分しかいないかなって」と心構えはあったものの「登坂さんから会社のエレベーターでお願いされた」と突発的なオファーだったことを告白。「仕事的にはいろんな事柄の決断の責任を取ることですね。選手としてもチャンスがきてるんで、両方おそろかにならないようにしたい。しばらく〝代行〟として頑張ります」と意気込んだ。

そのWXが本名の志賀悟でデビューしたのは、95年11月のIWA JAPANのリング。「レスラー志望で10代で東京に出てきたんですが、当時は新日本と全日本しかなく、半ばあきらめつつも身体は鍛えていた」が、「25歳のときに遠藤光男ジムで、中牧（昭二）さんに『いい身体してるね。プロレスやってみない？』と無責任に勧誘された（笑）」という。「で、『次の後楽園に来い』と言われて、行ったらIWAをマネージメントしてたビクター・キニョネスに舐めるように見られたあげく『オッケー』って（笑）」と、トントン拍子に業界入り。

「でも、そこからが長かった。当時はSPWFの道場で田尻義博（現・TAJIRI）さんや同期の松田慶三たちと谷津（嘉章）さんに教わったり、IWAでは栗栖正伸さんにコーチしてもらったり」。その後、中牧との付き人だったWXは中牧と大日本に移籍するが、そこで待っていたのはまたもや超ハードな練習だった。

「一番厳しかったのは桜田（一男）さん（ケンドー・ナガサキ）。あの人の練習は延々とショルダースルー。はてしない受け身地獄ですよ（笑）」と、じつに濃いメンツの指導によって成長していく。

ハードコア列伝2 あの〝暗黒魔王〟に弟子入り!!

そんな彼が注目されたのは、あの〝暗黒魔王〟ミスター・ポーゴに弟子入りしたこと。虎の穴ならぬ〝ムジナの眼〟出身のポーゴの弟子としてポーゴ率いるシャドウ軍団入りし、ヒールとしてリングネームも改名。しかもポーゴといえば鎖ガマをはじめ、物騒な凶器マニアとして知られるが、保管は彼の役目だった。「マジソン・バッグみたいなバッグに凶器をいっぱい詰め込んでました（笑）」といまなら即、警察沙汰になりそうな弟子時代だった模様。

そんなポーゴだが、「凄くやさしかったし、技術もうまい」と意外な事実を語るWX。「ただ、マッサージが大好きで、試合直前でテーマ曲が鳴る寸前までマッサージさせられたり（笑）」と師匠の思い出を語り、「あと、かなり豪快に食べるんです。大阪で串カツを100本食べて串入れがパンパンで入らなくなったり（笑）。飲む量も凄くて、試合後によく『大五郎』の5リットルを抱えて、宣伝カーに乗って、飲みながら帰ってました（笑）」と告白。

やがて〝師匠〟ポーゴが大日本を離脱するが、WXはデスマッチのシングルプレイヤーとして才能を開花させていく。

ハードコア列伝3 上半身が〝丸焼け寸前〟に!?

本間、山川らと新世代デスマッチといわれた試合を展開していた時代が到来すると、「自分も燃えましたね。3、5、7代目と縁起のいい数字のデスマッチ・チャンピオンにもなったし（笑）」。その頃のWXはデンジャラスな攻撃が目白押し。「川崎市体育館で山川を2階から1階へパワーボムでブン投げたり、山川とのファイヤーマッチでは火にあぶった蛍光灯を投げたら、割れた先が偶然に山川の首に突き刺さったこともあった」と振り返る。

だが、勢いに乗るWXに衝撃の事件が勃発。00年2月22日の後楽園大会のマイク・サンプラス戦で、自らの身体に火をつけたファイヤーボディプレスを敢行するも火が消えず、火だるま状態に！ あわや上半身丸焼け寸前の大事故となった。

「お腹にだけ灯油を染み込ませたTシャツを用意したら、練習生がたたんじゃって。で、付けたら身体全体が燃えちゃった。必死で脱いだけど手を大ヤケド、髪もチリチリ。凄く長い時間だった気がします」と恐怖の体験を告白。「それで後楽園は火の規制が厳しくなって、次に出たとき、係員がピタッと付いてくるんですよ（笑）」

この後、本間は大日本を離脱、山川は大ケガで長期欠場。大日本に残ったWXも徐々に影が薄くなる。「ライバルがいなくて張り合いがなくなってきたのはありましたね」。大日本は伊東竜二、沼澤邪鬼らがデスマッチを牽引し、WXは中堅選手的なポジションを担うことに。だが、今年に入りタイトルをめぐる宮本裕向との抗争から、ついに危険なWXが復活！

「マンモス佐々木との〝チームあんこ型〟でタッグに専念したり、『LOCK UP』に上がったり。一回、普通のプロレスをしたのがよかったのかも」と語るWXは、もはやベテランの域。伊東、沼澤、その下の世代の宮本らとのデスマッチ・イデオロギーのぶつかり合いの様相も呈してきた。

「デスマッチの考え方って、各世代で違う。いいじゃないですか、40歳くらいのデスマッチファイターがいても（笑）」とさらなる飛躍を目指すWX。

「血だらけになれば誰でもできる、なんて思われない試合をやっていきますよ。デスマッチヘビー級のベルトももう一度巻かないと終われないですしね」。



どうだいこの気迫ッ！ 2月9日の後楽園では、伊東と組んで佐々木貴&宮本裕向組と蛍光灯デスマッチで激突！ 伊東の持つデスマッチ王座のトップコンテンダーだった宮本をブッ潰したあと、王座挑戦に突如立候補したWX。本誌発売時点では懐かしの“月光闇討ちデスマッチ”を復活させ、王座挑戦を懸けて宮本と対戦しているが……はたして結果は?

掟ポルシェの萌え萌え女々苑



イラスト◎ゴローちゃん

萌えに特化した『kamipro』唯一の女子プロレス最前線ページだったはずの『萌え萌え女々苑』が、気がつきゃ、いつの間にか巨乳のガイジン男子から40過ぎの男性プロレス記者まで載っかる奇怪なページに！　もう、いまさら軌道修正不能！　ということで真打ち・男色ディーノ選手登場！　ああ、もうメチャクチャにして！

掟　先日はGAY世界アナル級王座をMEN'S・テイオー選手と争いましたが、実際当たってみてどうでした？

ディーノ　いや〜、姐さんは格が違うわね。この道のスペシャリストというか。それこそ、姐さんは平井堅というか……、いや違うわ、タモリクラスよね。

掟　押しも押されぬ大御所ですよね。

ディーノ　最近はメンズクラブとかやって、開き直った感もあるけどね。それぐらい趣味に走ってて、いいなぁと思ってはいるんだけど。ああいう生き方をしてみたいわねぇ。

掟　趣味を前面に出すまでは苦労もあったでしょうけどね。

ディーノ　そうよねぇ。姐さんは……どこまで言っていいのかしら？（笑）。

掟　ガハハハ！　メンズクラブというのはメンズ選手の自宅で鍋を囲んでの勉強会なんですよね？　なんの勉強会なのか具体的には言ってませんでしたけど（笑）。

ディーノ　本当かどうか真偽のほどはわからないけど、ウチの飯伏（幸太）も呼ばれたのよ。けっこう前なんだけど、「とりあえず脱げよ」って言われたらしいわよ（笑）。「とりあえず」の意味がわかんない！（笑）。

掟　ガハハハ！「とりあえずビール」みたいな感じですよね（笑）。

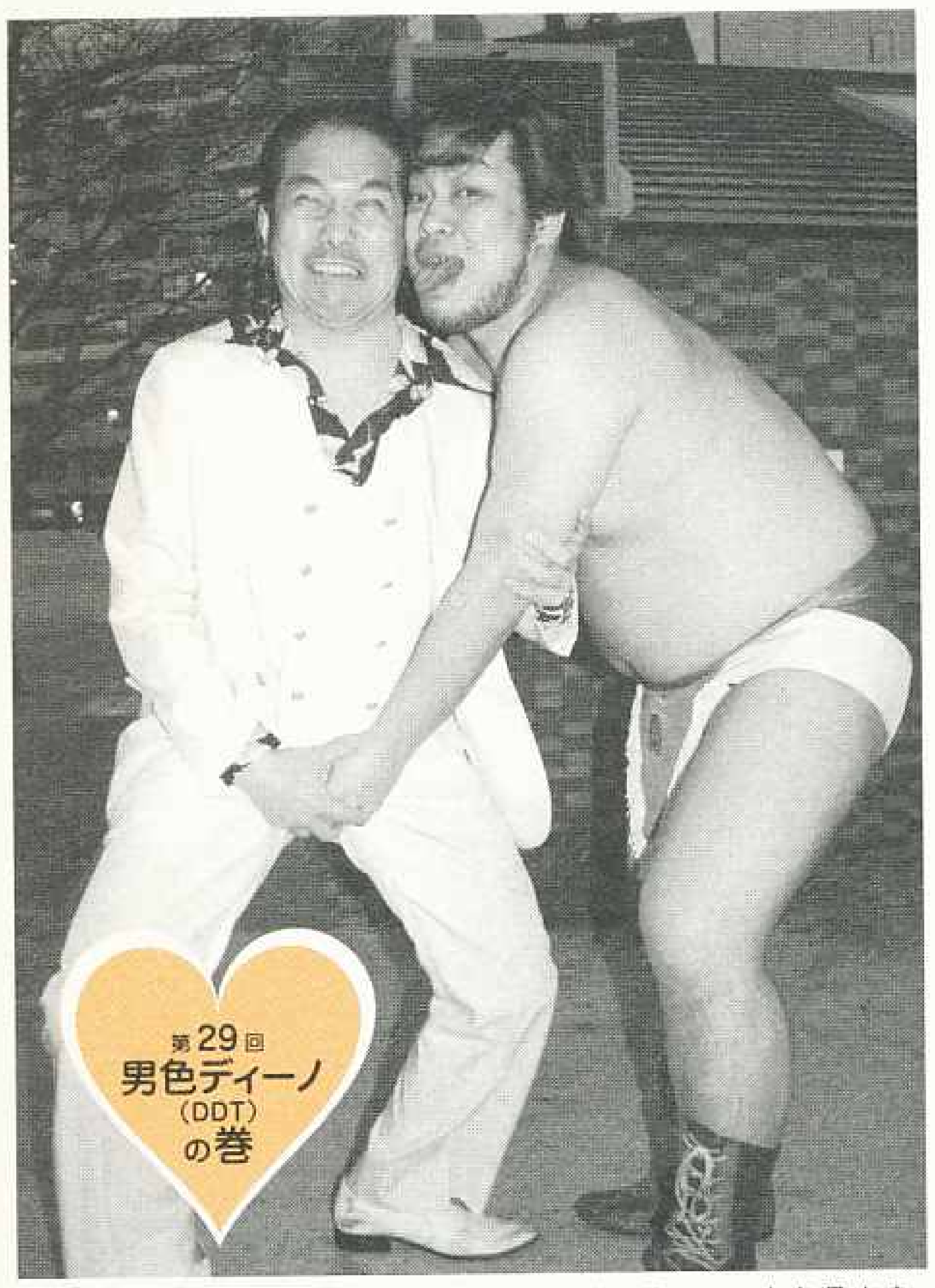
ディーノ　そうそう（笑）。駆けつけ一杯、みたいな感じよね。駆けつけ着脱、みたいな（笑）。

掟　ゴクゴク飲まれちゃったんですかね（笑）。

ディーノ　いや、さすがに「それだけは」みたいになったらしいわよ（笑）。冗談めかしてるけど、姐さんが本気出したら……これも言えねえな（笑）。まあでも、所属してる大日本じゃないプロモーションから「メンズクラブナイト」っていう自分の興行をやってもらうっていうのは、なかなかないわよ。姐さんがいかに愛されてるかって話じゃない？

掟　本当にテイオーさんは周りの信頼がアツいですよね。話を変えますけども、プロレスの世界って、ゲイに寛容な世界だと思うんですよ。

ディーノ　そう！



だんしょく・でぃーの■本名・不詳。1977年5月18日、広島県出身。大学時代は学生プロレスOWFで活躍。当時から現在まで同じリングネーム&スタイルを貫く日本を代表するゲイレスラー。ゲーム雑誌などを中心にライター業も数多くこなす。179cm、103kg。
ディーノブログ「あきら道」アドレス→http://ameblo.jp/dieno/

掟　ディーノさんといえばゲイを隠していない数少ないレスラーですけど、9割方のレスラーが、ちょっとはその気があるんじゃないかと思うんです。

ディーノ　選手名鑑とか見たら「あ、このページは全部そうだ」とか思うもん。

掟　やっぱり、肌と肌を合わせると、男と男といえども何か違った気持ちに……。

ディーノ　（さえぎって）恋に落ちるわよ、そりゃ。

掟　恋！　いきなりですか！

ディーノ　好きでもないのに、寝たら「ちょっといいかも」って思うときあるでしょう？　要するに、プロレスのリングっていうのはベットよ。

掟　手が合う相手とかよく言いますけど、手だけじゃないんですね？

ディーノ　そう！（笑）。合う部分はいろいろあるわよ。それはもう重ねてみないとわかんないの。

掟　この『kamipro』というのはプロレス&格闘技雑誌です。ということは、筋骨隆々とした男性の裸体に夢中のたくさんのゲイの方々が読んでいると思います。

ディーノ　『kamipro』はゲイ雑誌よね、いうなれば。

掟　そのとおりです（サラッと）。というわけで、ディーノさんにも好みのタイプをおうかがいしたい、と。

ディーノ　そうねぇ、たとえば、髪が長くて綺麗な人……あと白い服とか似合うといいなっとか思ったりしてるのよねぇ……（舌なめずり）。

掟　なんか、目の前にいる俺のルックスの特徴と同じような気が……。

ディーノ　アラやだ！　偶然ねぇ〜。

掟　ぐ、偶然……ですか。一瞬ヒンヤリしました（これ以上なく苦笑）。

ディーノ　あ、そ〜お？（流し目）。

掟　え〜〜〜、では芸能人でいうと？

ディーノ　そうねぇ。前園（真聖）かしら。

掟　サッカー選手ですけどね（笑）。

ディーノ　サッカー選手とかけっこう好きなのよね。小中高とサッカーをやってたんで。いまから思うと、そういう目で（サッカーを）見てたのかもしれない。

掟　コックサッカー的視点でサッカーを。

ディーノ　ヒデ（中田英寿）とかは逆にこっち側の人だから、それはちょっといいかなって。

掟　ド真ん中すぎてピンと来ない？

ディーノ　そうそうそう。ちょっとズレたぐらいがいいのよ。城（彰二）とかはあんまりアレなんだけど、キング・カズ（三浦和良）とかは、どんなキングを持ってるのかは凄い興味あるわね。

掟　夜もベッドの上でカズダンスするんですかね（笑）。

ディーノ　オ〜〜〜ゥ！（股間のイチモツを震わせて）プルルルルルルルルルルルゥ、ゴーーーーール！　みたいになったら凄いわね！（笑）。アタシの中で踊ってほしい！

掟　今夜はアタシがりさ子になるわ、と（笑）。

ディーノ　オ〜〜ッ！　うまいのかうまくないのか、もうわからないわ（笑）。

掟　近すぎて聞きづらいんですが、プロレスラーではどなたがお好みで？

ディーノ　誰だろう？　逆にHGとかいいかもしれない。

掟　向こうから対戦要求されてた時期もありましたしね。

ディーノ　そうね。なかったことになってるけど、カンパニーの違いで（笑）。まあ、アタシとしてはHGとか棚橋選手とかとは、いろんな意味でヤッてみたいわね。リング上でもプライベートでも。（唐突に）で、アナタはどうなの、実際のところ？

掟　あの、ホントすいません。自分ノンケなので、今後もウンコより太いモノを入れる予定は、ちょっと……。

ディーノ　あ、そう。まあ、最初だけよ、ツライのは。ちょっと我慢すれば大丈夫。あとはもう、めくるめく世界が待ってるから……。では、いただきま〜す（おもむろに片手で首を抱きこんで耳に舌を入れ、あいてるほうの手で器用に掟のズボンのチャックをずらして）。

掟　ギャッ！　た、たすけて〜！　おがあちゃ〜ん！！



リング内外問わず各種ゲイ殺法で相手をビビらせているディーノ。ちなみに写真は数年前、リアルおかまレスラー（?）ピンピネーラとの対戦時のもの。おかま相手にア●ル攻撃を仕掛けるゲイ。何がなんだか。

Okite Porsche◎掟ポルシェ■ロマンポルシェ。10周年記念ベストアルバム『もう少しまじめにやっておくべきだった』3・26発売！　18曲入り2枚組のスーパーバリューで2625円！　それにあわせて4・4（金）恵比寿リキッドルームでロマンポルシェ。10周年ライブ開催！　ビート・クルセイダーズ&シークレットゲスト（書けないほど超豪華!!）の参加もありで前売りチケットはうんざりするほど発売中！　3・30（日）名古屋クアトロ、4・8（火）大阪十三ファンダンゴでの10周年記念コンサートツアーもあり！　詳しくは掟ポルシェブログ等でチェック！
【http://blog.excite.co.jp/porsche/】

入場曲五十三次

佐藤譲

秋山成勲とサラ・ブライトマンを結ぶ運命の糸

Yuzuru Sato ◎1976年に静岡県で生まれて千葉県で育ちました。クラブ・ミュージックなど音楽の解説を書いたり放送作家をやったりしています。好きなタッグ・チームはカンナム・エクスプレス。恐縮です。

はじめまして。今回からスタートするこの連載は、プロレスラーや格闘家とその入場テーマ曲の、本人の知るよしもない数奇な因果について深読みするコラムです。

というわけで第1回目は〝魔性の格闘家〟秋山成勲選手とその入場曲であるサラ・ブライトマン「Time To Say Goodbye」の関係について。

96年にドイツの国民的ボクサー、ヘンリー・マスケの引退試合に披露され、全世界で1500万枚のセールスを記録。佐藤大輔さんも『PRIDE GP』の煽りVTRで使用するなど、格闘技とも縁が深い同曲は、壮大なオーケストレーション、緊張を煽るボレロのリズム、重厚な歌声と、幾重も盛り上げが用意され、戦士の心を鼓舞する神聖な楽曲に仕上がっています。

しかし、「サタン」「魔王」「反骨の柔道王」と数々の称号を持つ秋山選手の魅力は、何がなんでも勝利を狙う禍々しさにあり。ニックネームが「天使の歌声」、所属レーベルがエンジェル・レコード、最新作が『神々のシンフォニー』と、鬱陶しいくらい神様づくしのサラさんとはまさに対極に位置しているように思われます。

ところが、彼女の過去と「Time~」の成り立ちを紐解くと、因果の糸は不思議なつながりを見せるのです。

というのもサラさんはかなり勝ち気な女性。6歳の頃、寄宿舎で同僚のハードないじめに遭い、一度逃走するも、再び学校へ戻り勉学に励むタフなハートの持ち主。また、自身を成功に導いた元旦那アンドリュー・ロイド・ウェッバーと離婚した際、「私がいくらいいパフォーマンスをしてもすべて彼の手柄になる」と噛みついたさまは、まさにミュージカル界の革命戦士。父の自殺も乗り越え、なお高みを目指す成功への飢餓感は、秋山選手の飢えとダブる業の深さを感じさせます。

その一方、どこまでもベタなわかり易さへと向かうミーハーさもサラさんの魅力。それは「Time~」と原曲の「Con te partirò」を聴き比べると明確です。クラシカルなアレンジが耳を引く威厳と静謐さに満ちた原曲に比べ、「Time~」は、エニグマのプロデューサーとしても有名なフランク・ピーターソンの手により、彼女好みの過剰で壮大な展開にアレンジ。ある種、浪花節ともいえる彼女のベタな泣きのセンスは「絶対に負けられない戦い」でおなじみのテレビ朝日系列による日本代表サッカー中継のテーマ曲「A Question Of Honour」にも顕著に表れています。

そして、柔道家なのに、常にシンプルでお客さんにもわかり易い殴り合いで勝負する秋山選手も同様のセンスの持ち主。いや、むしろ、32歳にして好きな服を「『レオン』に出ているブランド」と言いきり、みぞおちまでシャツをオープンするイタリア人もびっくりのアレンジ力。さらにスワロフスキーをふんだんに用いたTシャツの飾り文字を清原の背番号「5」にするマジカルな感性は、ある意味サラさんを超えているかもしれません。まさに浪花のセンスが大爆発。

また、紅白歌合戦や映画『ポケモン』主題歌を気軽に引き受けてしまうサラさんも、韓国のテレビ番組でやたら美声なカラオケを披露してしまう秋山選手も、過剰なサービス精神を持ったエンターテイナーと言えます。つまり2人を結びつけるのは、ベタで分かり易いポップスター的な資質と浪花的過剰なセンス。そう、「Time~」を秋山選手が選んだのは運命が引き寄せた必然だったのです。



鉄火場ゴングショー

賭博とは 極上の プロレスである

田中太陽の一本場 / 新日本プロレスと『裕子』

Taiyou Tanaka
◎日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。"観戦記の鬼"として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。

「賭博には、人生では決して味わえぬ敗北の味がある」

これは〝言葉の錬金術師〟といわれた昭和の文芸家、寺山修司の遺した名言である。ままならぬ勝ち負けの中に物語性を見出した氏のギャンブル観には、どこか現代の〝活字プロレス〟に通ずる視点が見受けられる。

ならば賭け事に必ずつきまとう死生観をもってして、プロレスラーという〝現代のサムライ〟を再定義することは果たして可能であろうか？　というわけで、「ギャンブルの話を通じてプロレスの魅力を再発見していこう！」的なテーマで今月から書かせていただきます。こむずかしい導入でなんとも申し訳ない。

さて本題。おなじみ〝借金王〟こと安田忠夫の例にとどまらず、とにかくギャンブル好きが多かったといわれているのが一昔前の新日本プロレス。その頃団体内にて大流行し、選手といわず背広組といわず、皆こぞって興じた種目が〝麻雀〟であったという。

かつて新日本プロレス事務所のまん前に『裕子』という麻雀店があった。いわゆる〝会員制高級雀荘〟というやつで、芸能人や著名人の出入りも珍しくはなかったらしい。当時そこを溜まり場としていたのが新日グループと、あの有名俳優プロモーション〝I軍団〟の面々であったというから、漢（おとこ）を引きつける何かが『裕子』にはあったのかもしれない。

とくに麻雀が好きだったといわれているのは、レスラーなら武藤敬司、長州力、星野勘太郎。レスラー以外ならタイガー服部、倍賞鉄夫、上井二三彦駅長といった人たちだそうである。

たいてい昼の3時にはメンツが集まり、毎日のように営業時間前の『裕子』へ押しかけ開店を迫ったという（仕事は？）。多くは2卓、つまり8人以上で行なわれ、これで何時まで遊ぶかというとだいたいは朝まで（だから仕事は？）。

かようにハードな日々を過ごすうち、上井駅長などは過呼吸を起こして病院へ運ばれたこともあったそうだ。そして翌日、店を騒がせたお詫びをするため『裕子』へ向かった駅長のあとを、なぜか倍賞氏をはじめとする〝いつもの顔ぶれ〟がぞろぞろとついてくる。そのメンツで店に入ってしまえば当然、病み上がりの駅長をも巻き込んで「さあやるぞ！」となる。『裕子』のママが止めるのも聞かずに、また麻雀。こんなことが日常茶飯事であったという。

ここまでくるともう〝遊び〟を通り越して〝闘い〟だが、この『裕子』のような場所、ひいては賭け事を通じて、男の絆がより深まっていったというのもまた事実なのである。

不動産業者のセカンドビジネスであったという『裕子』は、オーナーの本業悪化が原因で突然の閉店をむかえることとなる。そして新日は冬の時代に突入し、それに伴う人員の流出によって、麻雀のメンツもだんだんと揃わなくなっていった。やがて倍賞鉄夫が去ったころには、もう麻雀をやりたがる関係者はほとんどいなくなっていたそうだ。

なぜ麻雀が流行っていたころの新日は、あんなに勢いがあったのか？　「麻雀で遊んでいられるほどの余裕があった」といってしまえばそれまでだが、ところでプロレス黄金時代といえば昭和40年代である。折りしもこの時代、世の大人たちは『11PM』を発端とした空前の麻雀ブームに沸いていた。これは相乗効果というやつなのか？　ひょっとして両者のあいだには、なにか特別な因果関係が？　そこに気づいてしまった筆者は、今日も今日とて余裕もないのに麻雀で遊び続けるのであった。プロレスの未来のために！



!MMAが変わる!!

響必至、怪物化するアメリカ格闘技界!

MMA地上波中継決定!アメリカはまだ〝ブレイク前〟だった!!

大晦日の『やれんのか!』開催とそれに伴なう大連立、DREAMの発進、さらに『戦極』旗揚げと、ここ数ヵ月のあいだ日本の格闘技ファンの目は完全に〝内側〟を向いていた。これだけおもしろいこと、興味深いことがあれば、それも当然だろう。

しかし、である。その時期に〝MMAの首都〟であるアメリカが動いてなかったのかといえば、決してそんなことはない。むしろその逆、動いてるどころか大激動である。アメリカMMA界は、いままさに歴史的なスケールアップをはたそうとしているのだ。

最大の事件は、地上波ネットワークテレビ局のCBSがエリートXCの放送を決定したこと。CBSにおける放送によって、今後MMAというスポーツはこれまでとは比較にならない認知度を得ることになるだろう。

もちろん、ここ数年のUFCのブレイクもテレビの影響が大きかった。無料放送のケーブル局スパイクTVで流れる『TUF』で知名度を高め、その効果でPPV収入も大幅にアップしている。ただ、ケーブルと地上波ネットワーク局では影響力が違いすぎるのである。

アメリカでは、ケーブルテレビが日本以上に普及しており、一昔以上前から多チャンネル時代を迎えている。ただし、ケーブル局はMTVが音楽を中心としたポップカルチャー、ESPNがスポーツといったように、あくまでも専門チャンネルなのだ。極端にいえば〝サブ〟であり、基本的にはそれぞれのジャンルのファンが観るもの。視聴者は嗜好によって散らばった状態にある。それでも、アメリカ国民という〝分母〟が大きいからビジネス規模も相当なものなのだが。

それに対して、CBS、NBC、ABCの3大ネットワークにFOX、PBSを加えた地上波ネットワーク局は、完全なメインである。言い換えれば〝分母〟そのもの。ケーブルと契約しなくてもテレビさえ持っていればいいわけで、単純に考えれば2億8000万人のアメリカ国民ほとんど全員が視聴可能なのだ。実際、『24』や『HEROES』といった人気番組は、そのほとんどがネットワーク局の番組。もちろんコマーシャルも、大企業はネットワーク局が中心だ。

そういうメディアで、MMAが放送されるのである。しかも、週末で外出している者が多いとはいえプライムタイムで。UFCはスパイクTVでの放送によってライト層のファンを獲得、ブームを巻き起こしてしてきたが、エリートXCはさらにライトな(世の中のブームなどにまるで無関心な)層に

アメリカが変わる!

再び大津波襲来か!? 日本にも影響必

近未来のMMAを探る
20ページ総力特集!!



までその存在を届けることができることになるだろう。それこそ老若男女あまねく、だ。

事件はこれだけではない。あのオスカー・デラホーヤまでもがMMAビジネスに参入、新団体の設立をもくろんでいるという。

デラホーヤといえば、現在のアメリカで最も有名なボクサーである。バルセロナオリンピックで金メダルを獲得し、プロでは6階級制覇という史上初の偉業を達成している。

加えてデラホーヤは、自身のニックネームを冠した『ゴールデンボーイ・プロモーション』を運営。昨年、実現したスーパーマッチ、PPV史上最高記録を樹立したデラホーヤvsフロイド・メイウェザー戦も『ゴールデンボーイ・プロモーション』の主催だった。つまりデラホーヤがMMAに関わるということは、全米トップのボクシング・プロモーターがMMAの世界に乗り込んでくるということなのだ。

MMA人気に押されて人気が凋落していると言われるが、デラホーヤvsメイウェザー戦のファイトマネーがトータル80億円近くにも達しているように、ボクシングのビジネス規模はやはり破格である。

UFCはブームの勢いに乗ってハーレー・ダビッドソンやバドワイザーとスポンサー契約を交わしている。だが、ボクシング・ビジネスではそういった一流企業のスポンサードは〝頑張って実現した〟などというものではなく、あたりまえにあるものだ。UFCがこの数年間でようやくたどり着いた地点の、さらに先にいるのがデラホーヤなわけだ。

そんなデラホーヤが、その知名度と財力、それに人脈の何パーセントかを行使すれば、MMAの勢力図はあっという間に一変してしまうのではないか。MMAのアイコン、スポークスマンとしての役割をはたすことになれば、その効果は計り知れない。いままで、その役割を担ってきたのはダナ・ホワイトなのだが、これはちょっとケンカにならないだろう。

つまり、だ。93年にUFCがスタートし、2000年にズッファ社がそれを買収、長い時間と大金をかけてMMAを根づかせてきた歴史が、今後は〝ブレイク前〟のものとして位置づけられてしまう可能性もあるということ。日本の総合格闘技史に当てはめれば、昨年までのアメリカMMAは〝PRIDE以前〟の時代、U系3派がしのぎを削り、修斗がブレイクした90年代になるのかもしれない。それくらい、現在アメリカで起こっている動きは大きいのだ。

おそらく今年、アメリカMMA界は従来より何段階もスケールアップする。となれば当然、日本の格闘技界にも凄まじい影響が出るはずだ。なにしろ〝ブレイク前〟の段階でPRIDEが買収されてしまったのだ。〝ブレイク後〟にはいったい、どんなことが起こるというのか……。

（文／橋本宗洋）

歴史的快挙

エリートXC 3大ネットワークCBSで放送! MMAが全米のお茶の間に進出!!

アメリカが変わる! MMAが変わる!!

Gary Shaw

ゲイリー・ショウ（プロエリート社長）

**まさか、まさかの大快挙!　UFCが、いやアメリカMMAシーン全体が待ち望んでいた地上波テレビ放送をエリートXCが実現!!
その提携相手はアメリカ最大手のテレビ局CBS。しかもその放映時間は年4回ながらも、土曜夜のプライムタイム!
アメリカはいま、フジテレビがPRIDEをオンエアしていた日本格闘技界黄金期以上の盛り上がりを見せようとしているのだ。
そして、その動きは長年UFCが支配してきたアメリカMMAシーンの構造にも変化を及ぼしつつある。
エリートXCの運営会社、プロエリートのゲイリー・ショウ社長が語るこれからのMMAの姿とは?**

聞き手／Jeff Cain　写真／Tom Casino（EliteXC）　構成／上杉オー! リョー!!

ＵＦＣがリアリティショー『ＴＵＦ』によってブレイクしたのはご存知のとおり。９０００万世帯で視聴可能な人気ケーブルテレビ局、スパイクＴＶで２００５年から放映されたその番組は、多くの視聴者を獲得。ＭＭＡの成長にとって重要課題だった〝ライトファン層の拡大〟を達成し、現在のＵＦＣ帝国を築き上げる原動力となった。

それから３年。ＭＭＡに再びファン層を拡大するチャンスが訪れた。エリートＸＣがアメリカ３大ネットワーク局の一つであるＣＢＳと契約を発表。これにより、アメリカ全国民２億８０００万人がテレビさえつければ、誰もがＭＭＡを視聴できる環境が整ったのだ！　しかも年４回ながら、土曜夜のプライムタイムで２時間にわたってライブ放送されるという破格の扱い！　世間一般を巻き込みつつ、これまでになかった勢いで拡大するアメリカＭＭＡシーンを見届けろ!!

――お忙しい中、インタビューを受けていただいてありがとうございます！

ゲイリー　冗談抜きで本当に忙しい。ＣＢＳとの契約発表以来、ただでさえ忙しいのに、インタビュー依頼が殺到していて大変なんだよ（笑）。

――いや、それくらい歴史的な事件ということですよ！

ゲイリー　もちろん、ＭＭＡにとって一つの頂点だろう。ＣＢＳでオンエアされれば、これまでのＭＭＡの歴史の中で最も多くの視聴者がこのジャンルを目撃することになるわけだから。

――それこそ大衆化の第一歩。ＭＭＡはいま、アメリカで「アルティメット・ファイティング」、つまりＵＦＣそのものを指

1億人の視聴者がMMAを観ることになるんだ



していますけど、それが今回の件で「ミックスド・マーシャル・アーツ」と呼ばれるようになると思いますか？

ゲイリー　そう願うよ。それは私がコントロールすることではないが、そうなることがこのジャンルの発展につながる。そしてMMAが認知されてオリンピック競技になるチャンスがあるとしたら、それはCBSでの放映によってだね（キッパリ）。

——それにしても代表、この歴史的快挙をどうやって達成したんですか？

ゲイリー　いやいや、何か特別なことをやったわけじゃない。CBSとはここ何ヵ月にもわたって、ミーティングを重ねてきただけだ。まあ、大きなポイントを挙げるとすれば、CBSはもともと（エリートXCを運営する）プロエリート社に役員を派遣していたから、内部のことは知っていた。私たちがこのMMAというマーケットで何をやろうとしているかもね。

——なるほど。CBSとは以前から強い結びつきがあったということですね。

ゲイリー　だからといって簡単に話がまとまったわけじゃないよ。私は彼らに「会場に来れば、エキサイティングなファイトとエンターテインメントなイベントを体感できる」と言い続けてきた。そうして彼らは会場にやってきた。そして私たちのイベントを観て感動してくれた。そう、そうした誘いが実って、CBSと契約できるようになった。これはエリートXCにとっては奇跡のような出来事なんだよ。

——奇跡ですか！　いや、確かにMMA史に残る出来事になりますね。

ゲイリー　ファイターもまさか自分たちのファイトがCBSで放映されることになるとは露ほども思ってなかった。MM

Aというスポーツ全体にとっても、新しいレベルに入ったことを感じているよ。

——ただ、UFCもCBSとの契約交渉に自信を示していましたが、裏側では契約を巡って熾烈な攻防があったりしたんですか？

ゲイリー　そのとおり！　大変な闘いだった。彼らは妨害を繰り返してきた！

——やっぱり（笑）。

ゲイリー　ただ、ダナ（・ホワイトUFC代表）は自分がCBSよりも大きな存在だと思っていたようだ。それがCBSとの契約にとって障害になったと思うね。

——UFCに競り勝った原因はなんだと思います？

ゲイリー　それはいま言ったようにダナがUFCを大きなゴリラだと思っていたことだね。だから、私たちなら承諾できるCBSからの要求を彼らは突っぱねた。それは戦略の違いからくることだけどね。だからUFCはCBSを選ばなかったし、CBSもUFCと提携することを選ばなかった。とにかく、CBSとUFCが契約を結ばなかったことで、私たちが契約を結んだということだ。

——番組の製作はCBSが行なうんですか？　あくまでCBSの番組の枠をプロエリートが買い取ったという報道もあったのですが？

ゲイリー　それは違うよ。製作はCBS側が行なう。フォーマットとしては、これまでやってきたことを踏襲することになる。そして彼らは放映権料をプロエリートに支払うことになる。最初のオンエアは4月から6月のあいだになるだろうね。

——今回の契約成立に至った理由の一つには、団体の顔になりつつある『YouTube』の王〟キンボ・スライスの存在も大きいと思うのですが。

ゲイリー　キンボはすっかりエリートXCの顔だね。そして彼のような誰が観てもわかりやすいキャラクターは地上波テレビ向きだとも言える。もちろん、キャラクターだけじゃない。彼はファイターとして優れていて、単なるストリートファイターなんかじゃない。日本のファンよ、誤解しないでくれ。キンボは紛れもない本物なんだよ。

——キンボは掘り出し物も掘り出し物。獲得したのはどういう経緯ですか？

ゲイリー　それは私の息子のおかげさ。

——は？　息子!?

ゲイリー　そうさ、彼が私に『YouTube』の試合を見せたんだ。

——へえ～。それはインターネット万歳というか（笑）。

ゲイリー　試合を観るなり、私は彼のとりこになったよ（笑）。そして、すぐに部下のジェレミー・レイペンとJD・ペンを交渉に向かわせたんだ。

——JDって、BJ・ペンの兄弟の？

ゲイリー　そう。彼は優秀なビジネスマンなんだ。ペン兄弟の中では、決して強くはないほうなんだが、頭がスマートなんだよ。とにかく彼らに言ったんだ。「キンボに契約書にサインさせるまで、帰ってくるな！」ってね。そして彼らは見事に契約を結んで帰ってきたよ。グッド・ジョブだったね（ニッコリ）。

——ストリートファイターであったキンボをリングに上げることで、リスクを背負う実感はなかったですか。キンボとストリートファイトで闘ったショーン・ギャノンはUFCに登場した際、バッシングを受けていたじゃないですか。

ゲイリー　そういう批判は一切、気にしなかったね。というより、キンボ・スライスがMMAファイターではないというふうには見てなかった。それは彼がバス・ルッテンたちとトレーニングしていると聞いたからね。

——ただのストリートファイターじゃなく、アスリートとして優れているとも感じていました？

ゲイリー　もちろん。彼はアスリートとしての素質があったし、正しい態度でMMAに打ち込んでいて、さらにプラスアルファの魅力のあるファイター。それがキンボだった。

——キンボの評価はやはり高いんですね。

ゲイリー　キンボだけじゃない。そのほかにも、エリートXCにはケン・シャムロック、フランク・シャムロック、ジェイク・シールズ、ロビー・ローラー、ニック・ディアス、KJ・ヌーンら優れたファイターを抱えている。彼らがいてくれることでエリートXCは成り立っているんだ。

——ダナとはファイターに対する見方がずいぶんと違った感じですね（笑）。

ゲイリー　これは私がいつも言っていることだけど、ダナ・ホワイトがよくないのは「自分がMMAに投資して成長させた」と主張していることなんだ。彼はMMAに投資なんかしていない。彼はただ運良く、リッチな友だち（UFCオーナーのロレンゾ&フランク・フェティータ兄弟）が会社を買ってくれて、職を与えられただけなんだ。

——ダナはリッチな友だちに恵まれただけ（笑）。

ゲイリー　そう、彼がベストファイターを所有しているわけではない。確かにUFCはこの業界を長いことをリードしてきたし、このビジネスを大きくしてきた。それは「MMAとはUFCだ」というブランディングをしたという意味でね。

——あら、ずいぶんなお言葉で（笑）。

ゲイリー　でも、私からすればダナのやり方はおかしい。MMAはMMAで、UFCは一つの会社にしかすぎないんだ。UFCとエリートXCの一番の違いについて言うと、UFCにはダナ・ホワイトやUFCブランドよりも重要なファイターがいないということ。逆にエリートXCでは、ファイターがもっとも重要になる。彼らこそがイベントを支えてくれているんだから。そこが大きな違いだよ。我々はど



エリートXCとは?

エリートXC はケーブルテレビ局ショータイムをバックに07年2月に旗揚げした新興団体。これまで日本のファンにとってはなじみの薄い団体だが、『Dynamite!! USA』をFEGと共催したといえば、ピンとくるだろうか。07年5月に株式公開し、巨額の資金を得ると、一気に拡大路線へ。ランブル・オン・ザ・ロック、キング・オブ・ザ・ケージ、アイコン・ファイトらを傘下に収めた。またイギリスのケージ・レージや韓国のスピリットMCにも資本参加するなど国際的に事業を展開。PRIDEがUFCに売却された際には、買収を持ちかけていたとも言われている。地上波獲得により、UFCが支配してきたアメリカMMAシーンの主役奪取を狙う。

んなファイターでもチャンピオンのように扱うからね。それから私たちの特徴をいうと、国際的にビジネスを行なっていることだ。韓国のスピリットMC、イギリスのケージ・レージのブランドも持っているし、アメリカ国内でもキング・オブ・ザ・ケージ、ランブル・オン・ザ・ロック、アイコン・スポーツを傘下に収めている。それらの一つ一つが素晴らしいブランドであり、エリートXCを構成しているんだ。

――ネットワークで言えばUFCを上回る規模。

ゲイリー　これによって、多くの有名なファイターを獲得して、ビッグマッチができるようになった。そして私たちは世界で最も大きなMMAのライブラリーを持っているんだ。というのは、たとえば、ほとんどのUFCファイターは、私たちが買収した団体からキャリアを始めている。だから、いま活躍しているトップファイターたちの初期の映像はここエリートXCにあるんだよ。

――へぇ～。それはUFCにはない強みですねぇ。

ゲイリー　私たちは契約しているファイターを外のリングで闘わせることもする。ニック・ディアスがPRIDEでゴミ（五味隆典）と闘ったとき、彼は私たちの契約下にあった。ファイターのためになるなら、ほかのリングで闘わせることはやぶさかではない。UFCのように利己的な独占はしない。ファイターのことが私たちにとって一番大事なんだ。

――イジワルな質問ですけど、契約ファイターをUFCで闘わせることも問題ない？

ゲイリー　問題ないね（キッパリ）。いいかい、このスポーツが成長するためには、ファイターが素晴らしいファイトをすることだ。そうじゃないと、シーン全体の成長は止まってしまう。ある程度のところで止まって、大きくならないんだ。

ダナ・ホワイトはリッチな友だちに恵まれただけさ

――スポーツにとって、ベストファイトを実現させることが大事だ、と。

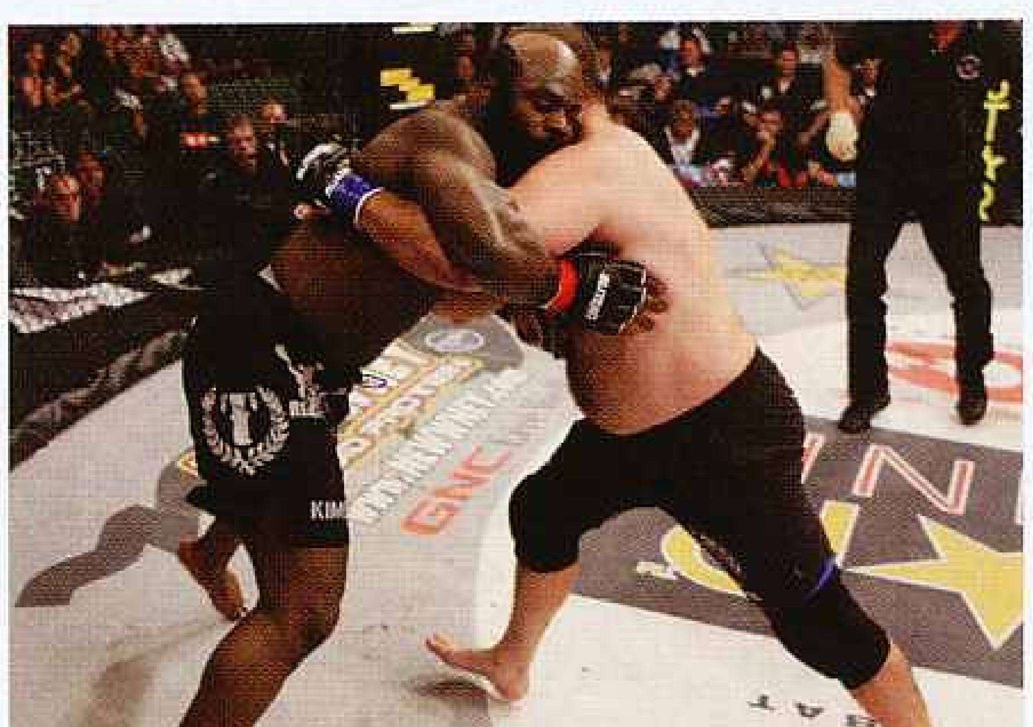
ゲイリー　アメリカンフットボールでも、かつてAFLとNFLの二つのリーグが存在していた。でもそれが合併したことで、ベストチーム同士が闘うようになって、大きな盛り上がりに結びついた。それがスーパーボウルさ。それはどのスポーツでも同じことだよ。MMAが現在のレベルに留まっている理由は、ファイターがいまだに団体の中だけで競っているからなんだ。そして、それをやっているのがUFCだ。彼らは好きなファイターを選んで試合をさせる。彼らにとって都合の悪いファイターはチャンピオンになるチャンスすらない状況でね。

――実力のあるファイターが冷遇されているケースが見受けられますね。

ゲイリー　とにかく、UFCはMMAのためにもっとオープンになるべきだ。もしUFCのチャンピオンとエリートXCのチャンピオンが闘ったら、アメリカ中を巻き込んで盛り上がるだろう。それはファイターとファイターの闘いということに加えて、プロモーター同士の闘いになるからね。もし、それぞれの階級でチャンピオン同士が闘えば、それこそ本当のスーパーボウル、素晴らしいイベントになる。UFCにとっても、エリートXCにとっても、そしてテレビ局的にもだ。それに何より、ファンにとっても素晴らしいことだよ。キンボ・スライスとUFCトップファイターの試合を観たいだろう？　でも、問題はUFCがそれを望まないかぎり、実現しないということだ。そして、UFCのファイターはUFCのチャンピオンにしかなれない。決して、ワールドチャンピオンになることはない。

――代表はボクシングのプロモーター出身ですが、ボクシングでも、こういった団体間の問題はあったんですか？

ゲイリー　私のファイターはドン・キングのファイターと闘ったよ。でないと、ワールドチャンピオンとは言えないからね。そうじゃないと、ゲイリー・ショーのチャンピオンとしか言えない。だからUFCのファイターは、まだダナ・ホワイトのチャンピオンでしかないんだ。



ゲイリー代表も絶賛のキンボ・スライスは、2月にタンク・アボットと激突。見事なKO勝ちを収めた。その試合は、キンボにとってプロ2戦目ながら、ケーブルテレビで52万件という脅威の視聴者数を獲得！　いったい、その人気の秘密はどこにあるのか？ その答えは次のページからの特集記事を読め!!

――ボクシング界で力を持つ、あのオスカー・デラホーヤが団体を立ち上げて、MMAビジネスに入ってくるという噂についてはどう思いますか？

ゲイリー　まず言うと、デラホーヤはMMAについては何も知らない。いいか、マイケル・ジョーダンは素晴らしいアスリートだ。間違いない。だからといって、MMAチームを率いられるわけではない。同じことだよ。

――彼の組織力は脅威じゃないですか？

ゲイリー　私はまったく脅威には感じていないね。両者は共存できるよ。ホッケーがフットボールやベースボールを恐れないだろう。ボクシングとMMAは別のスポーツだ。

――ただ、CBSとの契約でMMAが大きく変化しますよね。さらにビッグビジネスになろうとしている。このままボクシング界が黙っているとは思えません。

ゲイリー　CBSで放送されることによって、確かにこのマーケットはさらに大きく生まれ変わるだろうね。デラホーヤとフロイド・メイウェザーの試合は200万件のPPVを獲得して大きく騒がれた。でも私たちがCBSで放映されるということは、1億人の目に触れるということなんだ。観るのはタダだからね。テレビさえあれば誰でも観られるんだ。


――それは、あなたがMMAを背負うことになるとも言えるわけですが、それについて大きな責任を感じていますか？

ゲイリー　個人的にはとても興奮しているよ。3大ネットワークで流されるMMA番組の最初の責任者になるというのは偉業だと思う。

――ところで、日本でイベントを開催することは考えていないんですか？

ゲイリー　じつを言うと、私たちのブランドを日本に持ち込むために、話し合っているところなんだ。それからマカオでもイベントを行なうように話し合っているしね。アジアにはスピリットMCというパートナーがいるけど、この地域には興味があるんだ。いつか日本でイベントを開催できる日を楽しみにしているよ！

【08年3月9日／電話にて取材】


この男、いったい何者だ?
アメリカが変わる!
MMAが変わる!!

電脳戦士がMMAを激変させる!

『You Tube』から飛び出した怪物 Kimbo Slice



キンボ・スライス

前ページでゲイリー・ショウ代表が語っているように、地上波放送を獲得したエリートXCで
最も活躍が期待されているのがキンボ・スライスだ。一度見たら、忘れられないこの風貌。
そして『You Tube』にアップされた、ストリートファイト時代の衝撃映像の数々は説明無用の色気と殺気を振りまき、
キンボを全米人気ナンバーワンファイターに押し上げている。
インターネットの世界から現実のMMAワールドに飛び出してきた、この怪物を我々は知る必要がある!

文／大川義之　写真／Tom Casino（EliteXC）、Scott Petersen

現在のＭＭＡにおいては、勝つためにアスリートとしての身体能力はもちろんのこと、打撃、レスリング、そしてサブミッションなど、すべての局面において高いレベルが要求され、さらに、その技術を総合仕様にうまくアレンジして闘わなければ生き残っていけない超リアルな実力至上主義の世界となっている。

そのトップに君臨するのが〝総合格闘技の技術を10年早めた男〟ジョルジュ・サンピエールであり、また高阪剛をして「倒せる相手が見当たらない」「モノが違いすぎる」と言わしめたアンデウソン・シウバのような穴のないコンプリートファイターたちである。ズバリ言って、現在のＭＭＡシーンの進化ぶりは、何か一つ格闘技のバックボーンさえあれば活躍できた〝異種格闘技戦〟の時代とは隔世の感がある。

しかし、それほど敷居が高くなってしまった現在の総合格闘技シーンに、現在の時流すべてをブチ壊すサイバー・バイオレンスの化身が、突如として出現した！ それがキンボ・スライスである。

キンボは、ムキムキマッチョでヒゲモジャハゲという、一度見たら忘れられないビジュアルとインターネットで作り上げられた幻想を背景に、ＭＭＡシーンに登場した、近未来型の未確認侵略者である。ＵＦＣに先んじて、奇跡の地上波放送獲得をはたしたエリートＸＣは、得体の知れないキンボの可能性をいち早く感じ取り、今後のテレビ放送の看板選手として彼を全面的に売り出そうとしている。

地上波放送に向けてひた走るアメリカＭＭＡシーンで、いったい何が起ころうとしているのか？ そしてその中心にいる〝時代の寵児〟キンボ・スライスとはいったい何者なのか？



［2.16 EliteXC『Street Certified』］
米国フロリダ州マイアミ、バンクユナイテッドセンター

◯キンボ・スライス vs タンク・アボット×

（1R 0分43秒、KO）

キンボは猛獣のように突っ込んで襲いかかると、鋭いパンチをヒット。苦し紛れのアボットのタックルをあっさりと切って、MMAファイターとしての進化を見せつける。その直後にキンボは右フックを炸裂。わずか46秒で新旧喧嘩屋対決を制した。

インターネットから現実社会に

その男の本名をケビン・ファーガソンという。従兄弟にアテネオリンピック男子柔道100キロ級代表のラディ・ファーガソンがいることから、格闘家一族の血筋としては一級品。普段は有名なポルノビデオ会社のボディガードを務めるかたわら、仲間たちと結託して闇組織を結成し、仲間同士の仲介によって、駐車場や空き地で金を出し合って闘う〝ベアナックル・ファイト〟を行なっていた。

対戦相手は、腕に自信のある街のケンカ屋ばかり。両者はひたすら素手で殴り合い、ノックダウンされても30カウント以内に立ち上がれば、闘いは続行されるという根性試しのような闘いを大マジメにやっている。キンボの仲間は、彼の試合をハンディカメラに撮り収め、さまざまな動画サイトに投稿するようになる。キンボの試合動画には、彼にボコられた相手の目玉が飛び出しているように見える映像もあり、そのグロテスクさは立派な18禁指定。ちょっと気の弱い人なら引いてしまうほどのエグさだ。

こうしたエクストリームで暴力性の高い映像は、えてして人々の好奇心の対象となりやすいもの。ちょうど2005年にサービスが開始された『YouTube』の爆発的な広がりとともに、キンボの映像は莫大なアクセス数を獲得してゆき、人気動画のトップで紹介されるようになる。『YouTube』内を検索するだけでも、アクセスが100万件を超えるキンボの映像が簡単に10数件ヒットする。この結果だけを見ても、どれほど多くの人がキンボの映像に大きな関心と好奇心を刺激されたかがわかるだろう。

しかし、キンボの映像は単なるバイオレンス映像では終わらなかった。マイク・タイソンを彷彿とさせるメガトンパンチで相手をノックアウトする闘いっぷりが多くの格闘技ファンを惹きつけ、次第にネット上のフォーラムでは「キンボは恐ろしく強いんじゃないか」「ヒクソンと闘ったらどうなるか」という話題が語られるようになっていく。

そして、そのようなコアなファンが熱心に議論をする格闘技ウェブフォーラムに、キンボの仲間たちが「キンボは賞金次第でプロのMMAファイターと闘う」と書き込んだことで、キンボの人生に大きな転機が訪れる。

この書き込みはネット上で大きな話題となり、プロ選手も多く書き込むウェブフォーラムでショーン・ギャノンなる人物がキンボの対戦相手に名乗りを挙げた。このギャノンは、ボストンの現役警察官でれっきとしたスーパーヘビー級のプロファイター（当時のMMA戦績は5勝1敗）。のちに『UFC55』にも参戦している。

このファンタジーにあふれたアングルを現実のものにしようと、格闘技ウェブフォーラムの管理人までが乗り出し、両者を仲介して話をまとめあげ、対戦を実現させてしまうのだからオドロキの展開。この〝電脳世界の最強王者〟キンボ・スライスが現実の世界に飛び出して、プロファイターと闘うという事実に、ネット上は大騒ぎとなった。

〝ベアナックル・ファイト〟で行なわれたこの一戦は、注目していたMMAファンの期待を裏切らない壮絶なものとなり、スーパーヘビー級の両者がひたすら素手で超ド級のド突き合いを展開。しかし、キンボの予想以上の圧力に焦ったギャノン

は試合の途中、禁じられていたはずのフロントチョークを出してしまう。これでスタミナの切れたキンボは試合開始から10分頃にガス欠で立てなくなり、初めての敗北を喫した。

注目度の高いこの試合は格闘技サイトで10ドルという価格で有料配信されたにもかかわらず、多くの人が購入。実際に試合を観た者たちは、ギャノンにフロントチョーク以外にもヒザ蹴りの反則があったこと、そしてギャノンの顔面の右半分がキンボのパンチで恐ろしいまでに破壊され、異常に腫れあがっていたことから「もしキンボが本格的にMMAの練習を始めたら……」と夢中に語り合った。キンボの現実世界でのデビューは、メッキが剥がれるどころか、彼の幻想がさらに膨れ上がることになったのだった。

本格的なMMA侵入

そうした周囲の期待に呼応するかのように、次第にキンボはMMAの世界に興味を持つようになり、総合格闘技の練習を本格的に開始。キンボは「トレーニングはオレのあらゆる面を変えた。生活も改善したし、タバコはもう吸わない。セックスも4ヵ月やってないし、酒も半年も飲んでねぇ」と語るように、バス・ルッテンやランディ・クートゥアーのジムでMMAトレーニングに没頭する日々が続いた。

そして、ついに2007年6月には『Cage Fury』で元ボクシングWBO世界ヘビー級王者のレイ・マーサーとプレデビュー戦を行なった。マーサーとプロとしてなんの実績もないキンボの試合は、アスレチック・コミッションから正式な試合としての許可が下りず、エキシビションマッチ扱い。しかし、ケージに放たれた異次元からの侵入者は水を得た魚のように、ヒザ蹴り、スタンドでのヒジ打ち、テイクダウンといった新たなMMAの技術も存分に披露し、最後はフロントチョークで相手を秒殺。MMAファイターとして生まれ変わった姿を見せつけた。

説明無用の色気と殺気は、まさに地上波放送向け



188cm、115kgという身体の強さと生まれ持った闘争本能で、ベアナックル・ファイトを勝ち抜いてきたキンボ・スライス。そのナチュラルな強さに加えて、バス・ルッテンやランディ・クートゥアーのジムで最先端のMMAトレーニングを経験し、肉体面、技術面で大きく進化。伸びしろが大きいぶん、どこまで強くなるのかまったく想像がつかない!

「キンボのナチュラルパワーと闘争本能をもってすれば、将来ボクシングかMMAの王者になれる可能性がある」と見たエリートXCのゲイリー・ショウ社長は、キンボと正式に契約。そしてキンボは、07年11月『エリートXC』テキサス大会で正式にプロデビュー。ボー・カンテレルという20戦以上のキャリアを持つ中堅を相手に、スタンドでアッパーとエルボーのみで相手を瞬殺（試合時間はわずか19秒！）。まったく実力の底を見せずに試合を終えた。

さらに、今年2月16日に行なわれた『エリートXC』フロリダ大会では、キンボがまだ〝ベアナックル・ファイト〟を行なっている時代から、常に比較されてきたタンク・アボットとの対戦がついに実現。地下格闘技の経験者で、なおかつ風貌やキャラが見事にかぶるアボットとの対戦は避けられない〝新旧喧嘩屋〟対決。だが、この試合でもキンボは自信に満ちあふれた表情とキレのある動きでアボットを圧倒。最後はキンボのフックを浴びたアボットが顔からマットに倒れ込んで動かなくなるという衝撃の秒殺劇だった。会場の観客は大声援で、このニュータイプのヒーローを迎え入れたのだった。

現在のMMAが失なった魅力

現在のUFCを中心とする最先端の総合格闘技は、確かに高度に進化し、バイオレンスを売りにしていた発足当時の〝異種格闘技戦〟とはまったく違う。しかし技術の進化が進んだ反面、観る者に技術の構造や専門知識を要求するハードルができてしまったことも事実である。その結果、総合格闘技とは切っても切れない魅力であったはずの「なんだかわからねぇけど、スゲェ！」という〝わかりやすさ〟が減退してしまった。日本の格闘技界においては、選手の魅力や凄さを煽りVなどで補足する努力をしているが、UFCでは、あいかわらず淡々としたインタビューを試合前に流すだけ。その点、アメリカで地上波放送を獲得したエリートXCの看板選手となるキンボは、すでに自らが入念な煽りVをネット上で済ませている状態。そして説明無用の色気と殺気を高濃度で圧縮したビジュアルとファイトスタイルは、地上波放送に充分耐えうる〝わかりやすさ〟と得体の知れない魅力に満ちあふれている。

もちろん、まだ一流どころのファイターとの試合はしておらず、キンボの実力査定が済んだとは言えない。しかし逆に言えば、まったく実力の底を見せる必要がなかったと言える。そして、実力査定なんてどうでもいいと感じるほどの旬のおもしろさがキンボにはある。現在、多くのファイターがキンボとの対戦を表明しているのは、得体の知れない魅力をいち早く皮膚感覚で感じ取っているからに違いない。

これまでのMMAの英雄たちが、すべてリングでその強さを証明してきた者ばかりであるのに対し、キンボ・スライスの名の上げ方は類を見ないもの。その新たな近未来型の侵入者が、この進化したMMA界において、さらなるうねりを創出することができるのか？　いまアメリカでもっとも旬な男、キンボ・スライスの名前を覚えておいたほうがいいだろう。

『YouTube』で観るしかない？ キンボ・スライス衝撃映像!!

対戦相手の眼球を破壊!

ベアナックル・ファイト時代、122kgの巨漢、ビッグ・Dと対戦したキンボ。最初から逃げ腰だったビッグ・Dがキンボのパンチを浴びて、「もう、やめようぜ」とケツを割ると、この根性のない申し出にキンボは大激怒! 「もっと打ってこい!」とノーガードで相手に顔面を打たせるが、まったく効いた素振りを見せず。反撃のメガトンパンチで相手の右目をグチャグチャに破壊。

禁断の2連戦も余裕勝ち!


ベアナックル・ファイトでアブロパフなる人物と対戦したキンボは、ウィービングしながら相手を追い詰め、強烈なラッシュですぐにKO。すると、ここで間髪入れずに二人目の相手が登場! 二人掛けなんて、いくらなんでもムチャだよ! しかしキンボはまったく意に介せず、この相手からも5度のダウンを奪い、無傷で完勝したのだった。アンタ凄すぎッ!

勢いだけじゃありません!

ベアナックル・ファイトの試合をもう一試合紹介。一見して格闘技経験者であることがわかる選手の鋭いアッパーでフラッシュダウンを喫したキンボ。しかし、ここからキンボはボディへのフックで活路を見出し、相手のガードが下がったところへアッパー! あとは一気にたたみかけて逆転勝ち! 勢いで殴り勝つだけでなく、戦略的に闘う格闘センスの高さも見せた。

鮮烈のMMAデビュー!

アマチュア最後の試合となったギャノン戦での敗北により、「失明した」とか「半身不随になった」と噂されたキンボだが、何ごともなかったかのようにレイ・マーサー戦でプロデビュー! 元ボクシング世界王者に対し、首相撲からのヒザ蹴りで攻めるなどクレバーな戦術を展開。スタンドで圧倒し、テイクダウンからのギロチンで圧勝。MMA仕様にモデルチェンジしたキンボも凄かった!



MMA地上波進出に出遅れ！
それでも、この男の
〝ジャイアン節〟は止まらない!!

「UFCだけがナンバーワン！DREAMも目障りになれば潰す」

Dana White

ダナ・ホワイト（UFC代表）

アメリカが変わる！
MMAが変わる!!

UFC、まさかの失速!?　地上波獲得を宣言し、帝国のさらなる拡大を目指していたUFC。
ところが、エリートXCら後発団体が先に3大ネットワークテレビ局と契約！
不動だったナンバーワンの地位を脅かされる、まさかの事態に。
しかし！　それでもこの男の“ジャイアン節”は止まらない!!
エリートXCをブッタ斬り、返す刀でDREAMにも毒舌三昧！　毎度、おなじみのダナ劇場、ここに開演ッ！

聞き手／上杉オー！リョー!!　撮影／黒田史夫

ミルコはマイナーリーグで調整中だ
ファンもUFCで活躍する姿を観たいだろ？

—代表！　お忙しいところすみませんが、やはり『kamipro』には代表の毒舌インタビューが不可欠ということで、国際電話をかけさせていただきました！

ダナ　いつもこのマガジンには助けてもらってるからな。できるだけ時間を割かせてもらってるよ。

—ありがとうございます！　でも、いまのUFCは日本市場をあまり重要視してないんじゃないですか？

ダナ　何を言ってるんだ。何度も話しているとおり、日本は我々にとって大事なマーケットだ。実際、たった2時間前にも日本の地上波テレビ局とミーティングをしていたところだよ。

—2時間前！　そんなホットなタイミングでしたか。で、ミーティングの感触はいかがでしたか？

ダナ　非常にいい話し合いができたよ。いつか近いうちに、私が必ずUFCを日本の地上波で放映されるようにしてやるから、期待して待っててくれよ。

—楽しみにしてます！

ダナ　日本にはMMAファンがたくさんいるのに、UFCが観られないなんて、こんなかわいそうな状況は一日も早く改善してあげないといけないからな。

—その日本では、まさに今日、元PRIDEスタッフとFEGが合体して、テレビ局もつけたビッグイベント開催されるんですよ。

ダナ　妙な話だな。PRIDEにいたスタッフたちは、今後、このビジネスには関わらないものだと思っていたよ。彼らがPRIDE FC WORLDWIDEにいた頃は、テレビ局と契約できなかったのに、いまになって別会社でこのビジネスをやっているとはな。日本のテレビ業界とMMAビジネスには、妙な力が働きすぎている。いいか、これを腐敗を言うんだよ！

—代表としては納得がいかない、と。

ダナ　だいたい日本では、会社を高く売りつけたあとに、すぐ新しい会社を立ち上げて、同じ業務を始めることができるのか？　日本はそんなことが許されるのか⁉　怒りを通りすぎて、笑わせてくれるよ！



UFCで2連敗後、闘い慣れた日本での試合を直訴し、DREAM電撃参戦をはたしたミルコ。復活して、戻ってくることを期待していると語るダナだったが、インタビュー中、衝撃の事実が発覚!

—いや、旧PRIDEスタッフが会社を立ち上げたというか、昨年までFEGが主催していた『HERO'S』というイベントをリニューアルして、業務を請け負っているんですよ。それに、ロレンゾ・フェティータ氏にPRIDEの経営権を譲渡した榊原元代表はいま、MMAとはまったく違う仕事をしています。

ダナ　彼はいま何をしてるんだ⁉

—ご存知ないですか？　榊原元代表はいまサッカー・ビジネスに進出してるんですよ。

ダナ　サッカーだって⁉　サカキバラはPRIDEを売った金で、そんなことをしていたのか！　そりゃあ、おもしろいことを聞いたよ。彼はMMAビジネスでは成功することができなかった。だから、サッカー・ビジネスでは今度こそ成功することを願っているよ。

—そんなこと言いつつ、榊原元代表を訴えているくせに（笑）。

ダナ　おっと、その話は係争中だから、コメントは差し控えさせてもらおうかな。

—ところで、新イベントDREAMには、UFCから日本に帰ってきたミルコ・クロコップが参戦します。

ダナ　いいんじゃないか？　ミルコが「日本で闘って、名声を取り戻したい」と言ってきたので、私が彼の願いをかなえてやったんだ。日本で何試合か適当な相手と闘って勝って、自信を取り戻してUFCに戻ってきてくれればいい。

—適当な相手ですか（笑）。

ダナ　フン。まあ、いいじゃないか。彼はマイナーリーグでの調整が必要だったんだ。いまの状態のミルコをベストファイターが揃っているオクタゴンに上げるメリットはないからな。

—実際に、ミルコは復活して戻ってくると思いますか？

ダナ　それこそ、本当に彼次第だな。ミルコはもう一度UFCに挑戦したいと言っているんだ。復活して戻ってきたら、喜んで迎え入れるよ。日本のファンもミルコがオクタゴンで活躍する姿を観たいだろう。マイナーリーグで、弱い選手と闘っている姿を観るよりもな。ハッハッハッ！

—では今日、試合をするミルコに何かメッセージはありますか？

ダナ　何？　ミルコの試合って今日だったのか⁉　それは知らなかったよ、ハハハハハハ！

—ちょっと、ホントに日本のマーケットに興味あるんですか！（笑）。UFCのことにしか興味がないんですよね。

ダナ　まあ、いずれにせよ、ミルコには頑張って本来の自分を取り戻してくれ、と言っておいてくれ。

—ところで日本のマーケットを意識するのであれば、最近、フリー・エージェントになったと報道されているヒョードルも重要な選手ですよね。

ダナ　フン！　いいか、もし、まだヒョードルが最強だと信じられているのなら、それは大間違いだ。もちろん、一人の有力なファイターとして、契約することはやぶさかではないがな。

—もうすでにヒョードル陣営と交渉してたりとか？

ダナ　メイビー（ニヤリ）。

—獲得に自信はありますか？

ダナ　ハッハッハ！　私はこれまで、やりたいことはすべて実現してきたんだ。まぁ、見ててくれよ。

—そのヒョードルの対戦相手について

ですが、ファンはやはりランディ・クートゥアーとの試合を観たいと思っているようですが。

ダナ　いや、いきなりその試合はないな！

――ないんですか⁉　世界中のファンのドリームマッチなのに。

ダナ　ランディはチャンピオンだ。もし、ヒョードルが王座に挑戦するのなら、まずはUFCで勝ってからだ。いいか、UFCでは本当に強い者だけがチャンピオンになれる。MMAサイトのクソみたいなランキングは関係ない。ヒョードルだって、ミルコのようにタイトルマッチにたどり着けない可能性もあるんだ。

――最強皇帝といえども、まずはオクタゴンでテストされる、と。

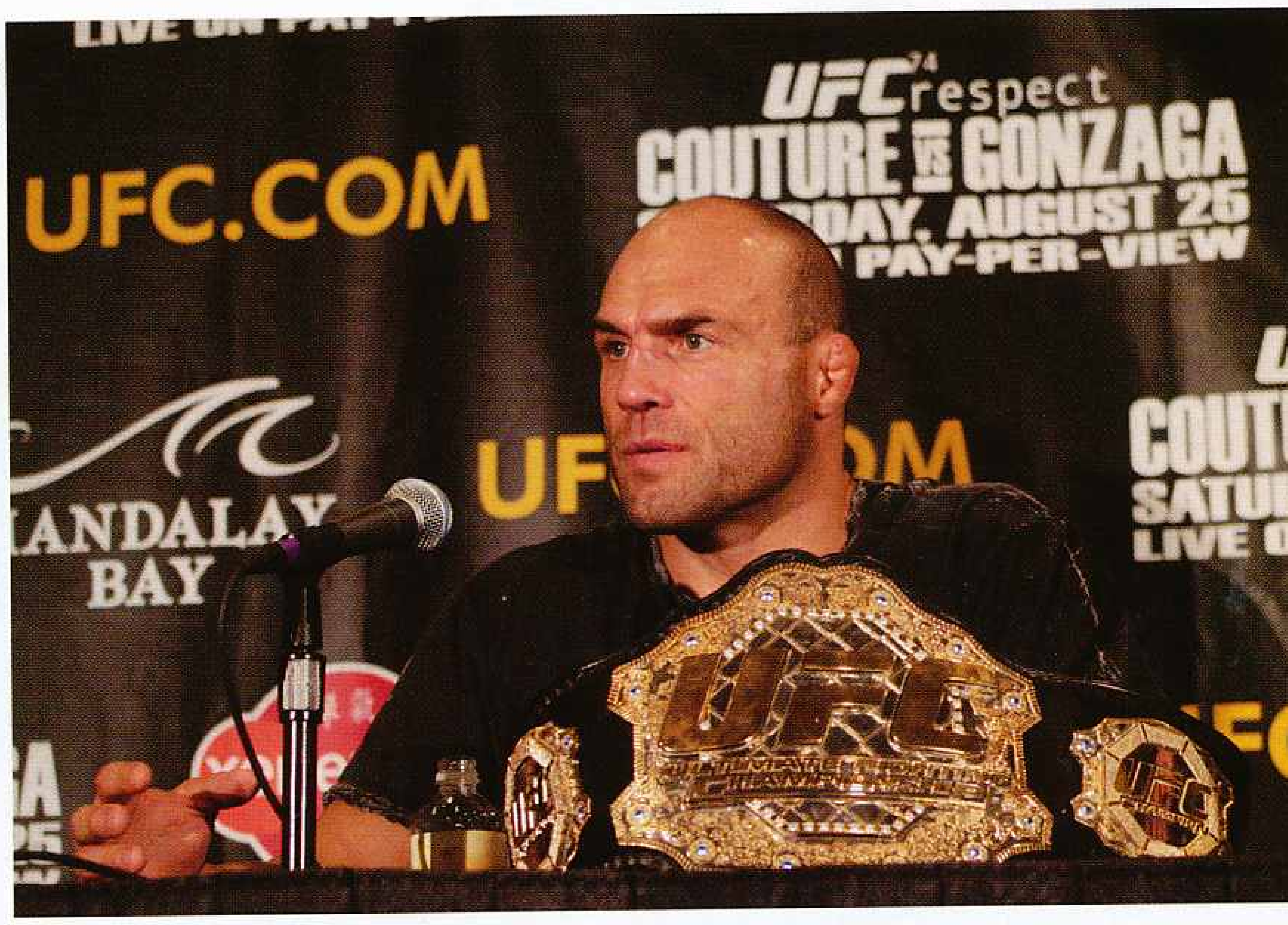
ダナ　第一、UFCヘビー級のトップ・コンテンダーは暫定王者のノゲイラだ。ランディはオクタゴンに戻ってきて、ノゲイラと闘うべきだ。

――それは正論ですよね。ただ、ヒョードルは以前、ノゲイラに勝っています。それでも、ヒョードルにはランディに挑戦する資格がない、と？

ダナ　いいか、いまはもう2008年なんだ！　ヒョードルがノゲイラに勝ったのはいつの話かわかっているのか？　2004年だ。いったいファンはあれから、どれだけ時間が経っていると思っているんだ！

――ヒョードルの離脱が報道されているように、ロシア側とアメリカ側が分裂して、『M-1グローバル』が崩壊しつつあることについてはどう思いますか？

ダナ　べつに、何もないな。そもそも、UFCのビジネスにはなんの関係もないことだ。もともとアメリカでは『M-1グローバル』なんて誰も気にしてもいなかった。ひとこと言わせてもらうなら、クレイジー・ロシアンどもとまともに付き合おうとしたヤツらがバカだっただけさ。



契約が残っていながら離脱したことで、現在、UFCと法廷闘争中のヘビー級王者ランディ。ダナは引き続き、試合のオファーをかけていく構えだが、ランディの心はすでにオクタゴンにあらず。「7月あたりにUFC以外のリングで、ヒョードル戦が実現できるだろう」とすら語っているが、その舞台はどこになるのか？

――では、2番手グループだったエリートXCが3大ネットワークの一つ、CBSと契約したことについてはどうですか。アメリカのMMAシーンが大きく発展することになると思うのですが。

ダナ　ノー！（キッパリ）。

――あ、そうですか。

ダナ　みんな、エリートXCがCBSと契約が結んだと言って浮かれている。だが、事実はまったく違う！　CBSが、（エリートXCを運営する）プロエリートを買ったんだ！

――買収したというか、CBSがプロエリートの株式の一部を所有していますよね。

もしヒョードルと契約しても、すぐに ランディと闘わせるわけにはいかない

ダナ　そうだ。CBSが契約したんじゃない。テレビ局がプロモーションを買って、好きなようにやっているだけだ。プロエリートはいいように使われて、用済みになったら、売り飛ばされて終わりだ。

――つまり、テレビ局にMMAというジャンルは任せられない、と。

ダナ　CBSはUFCを買収しようとした。そして、それが失敗に終わった。だから、手頃に買える会社を探しただけだ。

――CBSはUFCにも買収のオファーをかけていたわけですね。

ダナ　ああ。彼らは、株式の一部を買おうとしていたね。だが、残念ながら、UFCは売りに出してない！

――FOXテレビがUFCの買収に興味を示しているとも報道されてますが、FOXとは交渉してないんですか？

ダナ　私が言えることは、すべてのテレビ局と交渉しているということだ。だが、プロエリートのようなバカげた契約を結ぶようなことはしない。プロエリートは、ほかにチョイスがなかった。彼らのビジネスは崩壊しかけていたからな。買収されるしか生き残る道がなかったんだ。

――繰り返しますが、株式の一部を売っただけですよね（笑）。では、ストライク・フォースが3大ネットワークの一つであるNBCで放映されることについては、どう思いますか？

ダナ　論外だ！　ヤツらはテレビ局に金を払って、番組を放送してもらうんだろ。くだらない！　テレビショッピングみたいなもんだ。

――ストライク・フォースはテレビショッピングですか（笑）。

ダナ　そんなバカなことをする会社があるから、MMAが見下されるんだ。いい迷惑だ！

――よけいなことをしてくれるな、と。

ダナ　だが、UFCは違う。こっちがパートナー企業や取引形態を選べるんだ。

――2月にはアメリカの『YAHOO！』ともインターネットでの動画配信で業務提携を発表してましたよね。これまでもUFCのホームページではオン・デマンド形式で試合が観られましたけど、やはり『YAHOO！』が窓口だと視聴者数が違いますか？

ダナ　オフコース！　リーチが違う。『YAHOO！』との提携を発表したのは前回の『UFC82』の2週間前で、プロモーションの時間がなかったが、実際に観た人の数は多かった。正直、いい数字だったよ。だから、これを広めたいんだ。わかるだろう？（ニヤリ）。

――はい、はい、ちゃんと『kamipro』でも告知しますよ（笑）。抜け目がないですね、代表は！　でも日本のファンからすれば、日本語のサイトが必要だと思いますけどね。

ダナ　そうだな。それは近いうちに整備するようにするよ。

――お願いします！　ネット配信は素晴らしいことですが、やはりファンはUF

Cが最初に地上波に進出すると思っていたと思うんですよ。代表は去年、「近いうちに世界を震撼させる発表をする」と語っていましたし。

ダナ それは2月に発表した（バトワイザーで有名なビール会社の）アンハイザー・ブッシュとの提携のことだ！ このカンパニーは世界最大のスポーツ・マーケティング会社でもあるんだ。

――確かに、サッカー・ワールドカップやオリンピックの公式スポンサーになったりと、スポーツ分野での広告出稿はダントツですよね。

ダナ いまはみんなわかってないと思うが、この提携は大きな意味を持つよ。世界中のあらゆる場所やメディアで、UFCをマーケティングできるようになる。

――なるほど。スポンサーがすでについていれば、テレビ局との契約も獲得しやすいでしょうしね。ただ、やっぱり、ファンの多くは、UFCが地上波テレビ局と契約するものだと思っていましたよ。

ダナ 慌てるな！ それは時間の問題だ。



地上波を獲得し、勢いに乗るエリートXC代表のゲイリー・ショウ。「かつて一度もMMAの悪口なんか言ったことがない」とダナに反論するが、インターネットから過去の発言が消えることはない。

©Lee Whitehead

エリートXCはテレビ局とバカげた契約を結んだだけだ

そして、どのテレビ局と組むことになっても、プロエリートが結んだようなバカげた契約にはならないことだけは言っておくよ。

――それだけエリートXCを目の敵にするのは、やはり遅れをとったという感覚があるんじゃないですか（笑）。プロエリートのゲイリー・ショウ社長は、「ダナ・ホワイトがCBSに対してエゴイスティックで強気な態度で交渉に臨んだことで、契約を逃した」と話していますが。

ダナ （小馬鹿にしたように）ハッ！ よく言ってくれるよな。コイツは、自分の団体を売り払っただけなのにな。それは、ファンを裏切ったことにもなるんだ。おっと、エリートXCにファンなんてそもそもいないか（笑）。

――あいかわらず、言いたい放題ですね（笑）。しかし契約の形式がどうであれ、こうして他団体がテレビ局をつけて力を持ってきたことで、UFCも選手確保のため、選手の扱い方や契約の形態を柔軟に変える必要があるんじゃないですか。

ダナ その必要はない。なぜなら、私たちはこれまで選手に対して、ベストをつくしてきたからだ。それよりも、このゲイリー・ショウこそ、MMAに対してフザけた態度をとり続けたヤツなんだ。グーグルで、この男の名前を検索してみろよ。5年前に「MMAはジョークだ。こんなのはスポーツじゃない。バーのケンカだ」と言っていた記事が見つかるだろう。

――ゲイリー・ショウがボクシング業界にいた頃の話ですね。

ダナ いまでは、まるでMMAやファイターを愛しているかのように振る舞っていやがる。笑わせてくれるよ。

――実際のところ、CBSがバックについたエリートXCを脅威には感じていないんですか？

ダナ まったくないね。UFCとプロエリートのどっちが生き残っているか、5年後にはハッキリしているはずだ。いや、そんなに時間はかからないな。それにテレビついては、私にも考えがある。まだ言えないがな。近いうちに世界を驚かせる発表をするから、そのとき、わかるだろう。

――また、それですか（笑）。あと、UFCでも広告を出していたアパレルメーカーのアフリクションが、オスカー・デラホーヤの『ゴールデンボーイ・プロモーション』と手を組んで、6月にMMAイベントを立ち上げるという報道があります。

ダナ （タメ息をつきながら）ハァ～。また、そんな質問か。だからなんだっていうんだ？ 毎日、毎日、あっちで新しい団体ができるとか、こっちで巨大資本がスポンサーになるとか。私がUFCのビジネスを始めて以来、この8年間ずーっとだ。聞き飽きたよ。2006年にIFLが株式を公開したときもそうだった。株価が急上昇して、テレビ局とも契約を結んだ。でも、それがいまやこのビジネスから撤退せざるをえない状況にある。『M-1グローバル』にしろ、エリートXCにしろ、デラホーヤにしろ、同じ道をたどるだけだ。このビジネスは甘くない。

――まったく競合団体になるとは捉えていない、と。

ダナ UFCにとって、史上唯一の、そして最大のライバルはPRIDEだった。そのPRIDEはもうない。DREAMとかいう妙なイベントが立ち上がっているが、目障りになれば、また潰してやるよ。そして、ほかの団体は眼中にもない。いいか、よく聞け！ UFCこそが、ナンバーワンなんだ！ それは、未来永劫変わらないことなんだ。わかったか？ 今日は、ここまでだ！

【08年3月15日／国際電話にて収録】

ダナもオススメ！
『YAHOO!』アメリカでUFCをライブ観戦しよう!!



MMAの最高峰はここにある!! UFC公式サイトでしか観られたUFCのネットPPV放送が『YAHOO!』に進出! よりクリアな映像で、試合を観られるようになった。その料金は49.95ドル（=約5,000円）。飛行機に乗って会場に行くより断然安いので（あたりまえ）、ノゲイラやヴァンダレイの試合をリアルタイムで観たい人は、ぜひアクセス!!

“MMAの進化を10年早めた男”GSPがカナダ凱旋! 王座統一戦へ!!

4.19『UFC83 Serra vs St-Pierre 2』
カナダ ケベック州モントリオール／ベルセンター

【UFCウェルター級タイトルマッチ】
（王者）マット・セラ vs ジョルジュ・サンピエール（暫定王者）
リッチ・フランクリン vs トラビス・ルター
弘中邦佳 vs ジョナサン・グーレ

※『YAHOO!』でのPPV観戦は下記のURLから!
http://sports.yahoo.com/mma/ufcppv/83



噂のデラホーヤ新団体と合流？
皇帝ヒョードルはどこへ行く……？

『M-1グローバル』やる前から崩壊

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールでアメリカンなニュースをお届け！

USA COOL 宅急便



PROFILE
Scott Petersen
【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』（http://www.mmaweekly.com/）を主宰。日米格闘技事情に精通。ビッグマッチのたびに来日していたが、PRIDEの活動停止に伴ない、来日頻度が激減。しかし、DREAM旗揚げにより状況に変化が。最近のお気に入りのデートスポットは鎌倉。

エリートXC&ストライク・フォースの地上波進出によって、風雲急を告げるアメリカMMA。そんな中、UFCへの対抗勢力になると見られていた『M-1グローバル』に内紛が勃発！なんとヒョードルが離脱するという衝撃ニュースが飛び込んできた!! そして、その裏には新たに旗揚げするビッグプロモーションの怪しい陰が……。

聞き手/デューク東郷　撮影/Scott Petersen　試合写真/平工幸雄

——どうしたの、スコット？　浮かない顔して。

スコット　は～、人材難で困っているんだよ。せっかくDREAMが立ち上がって、日本のMMAが盛り上がってきたのに、ウチのスタッフがライバルの『SHERDOG』に引き抜かれちゃったんだ。

——あら、大変だね～（他人事）。

スコット　……冷たいねぇ。おっと、そんなウチのことなんかより大変だよ！『M－1グローバル』からヒョードルが離脱してフリー・エージェントになるらしいんだ!!

——ヒョードルが再びフリーに!?　それはビッグニュース!!　でも、なんでそんなことになったの？

スコット　『M－1グローバル』はヒョードルと「2年間・6試合で1200万ドル（＝約12億円）」という大型契約を結んだにもかかわらず、大会を開催できず契約を実行できなそう。だから『M－1グローバル』は、本部のあるアメリカ側と、ヒョードルを抱えるロシア側で分裂状態なんだ。

——分裂って、そもそも旗揚げもしてないのに（笑）。

スコット　当初、今年の2月に開催予定だった旗揚げ戦は、3月、4月と順調に遅れて、現段階では6月で調整しているらしいけど、どうなることやら。

——ん～。永久電機か『M－1グローバル』か、って感じだね。

スコット　とにかく、いまはヒョードルを離脱させるか、残留させるかといった次元ではなくて、離脱の条

オスカー・デラホーヤの新団体でヒョードルvsランディ戦が実現か!?

件面で交渉しているところらしい。ヒョードルを引き揚げさせようとしているロシア側に対して、アメリカ側は150万ドル（＝約1億5000万円）の契約金の返還を求めているんだけど、ロシア側がそれを拒否。交渉が長引いている。

——契約解除を求めていながら、すでに支払われた契約金は返さないって、そんなのアリ？

スコット　まずロシア側はヒョードルが契約に拘束されてこれまで試合ができなかったことを〝機会損失〟と捉えて、損害賠償を要求しているんだ。

——ああ、テレビCMでヒョードルの映像を使われたってヤツね。

スコット　違うよ！ それは韓国農協が無断でハミチツのCMにヒョードルの映像を使って、ヒョードル側が裁判を起こした話だろ。ムダに話をややこしくするなよ!! つまり、ヒョードルが試合できなかったぶんの損失として契約金150万ドルはいただきます、ということ。

——一度貰ったものは返さない、と。でもアメリカ側はこのヒョードルの離脱を、しかも契約金も返さないなんて、簡単に受け入れられないよね。もしズルズルと泥沼の争いになって、ちゃんと契約解除できなかったら、ヒョードルは試合ができなくなってしまうんじゃないの？

スコット　それがロシア側は、ヒョードルの『**M-1**グローバル』との契約について、「〝同意書〟は交わしたけど、正式な契約書にサインしてない」とも主張している。

——ダハハハ！ それは、ダナ・ホワイトじゃなくても、〝クレイジー・ロシアン〟と呼びたくなるかもね。ちょっと前にプロ野球で、二重契約問題が騒がれたパウエルじゃないんだから（笑）。

スコット　でもアメリカ側が妥協して、ロシア側の条件をのむ可能性もある。というのは、もし交渉が決裂して、ヒョードルの離脱だけにとどまらず、ロシア側が完全撤退することになれば、『**M-1**グローバル』はその名称を使えなくなってしまうんだ。

——え〜！ そうなの？

スコット　『**M-1**グローバル』の〝**M-1**〟はロシア側が商標を持っているからね。これまで『やれんのか！』に協力したり、長い準備期間をかけてせっかく『**M-1**グローバル』の名前を売ってきたのが、ムダになってしまう。

——あちゃ〜、モンテ・コックス代表は大変だね。

スコット　モンテは当初、このお家騒動について「分裂だなんて、そんな話はない」と火消しにやっきになっていたけど、いまでは「ノー・コメント」としか言わなくなってしまった（笑）。



昨年10月の『M-1グローバル』旗揚げ会見に並んで出席していたヒョードルとモンテ・コックス代表。ヒョードルは「私たちはお互いを理解して、同じ目標を目指すことができる」と語っていたが、それからわずか半年で分裂の危機に見舞われるとは……。いったいなんだったんだ！

——で、フリー・エージェントになったら、ヒョードルはどうするのさ？ 皇帝の動き次第で業界の勢力図も変わってくることになるよね。

スコット　実際、各団体もすぐさま反応を見せている。ダナも「周りから過剰評価されているヒョードルだが、興味はある。できるなら契約したい」と発言している。

——ヒョードルが『**M-1**グローバル』と契約したときは、「最大のジョーク・ファイターだ！」とまで言ってたくせに、素晴らしい身のこなし方だね（笑）。

スコット　CBSと契約して、5月31日からアメリカ地上波進出をはたすエリートXCも、『**M-1**グローバル』との関係を気にしつつも獲得に興味を示している。それから同じく地上波のNBCと契約したストライク・フォースも目玉になるファイターがほしいはず。

——CBSに続いて、ストライク・フォースも地上波を獲得したの？

スコット　正式には発表されてないけど、4月から毎週土曜の深夜に放送されることになりそう。もっとも、エリートXCとCBSのケースとは違って、団体側が放送枠を買って、オンエアすることになるんだけどね。

——各団体とも攻めの姿勢を見せている以上、ヒョードルはフリーになっても引く手あまたということね。でも、その強さに比べてアメリカでのヒョードルの知名度は低くて、商品価値としては小さいんじゃないの？

スコット　日本と違って、アメリカでは無名だと言われていたヒョードルだけど、UFCヘビー級チャンピオンのランディ・クートゥアーがヒョードル戦を希望して離脱したことや、それがきっかけとなった一連のUFCスキャンダルで名前が売れて、ライトファンのあいだでも幻想が高まっているね。

——アメリカで闘わずして、巨大なプロモーション活動ができているわけだ。

スコット　もっとも、さすがに認知度ではチャック・リデルらUFCトップファイターには勝てないけどね。ただ、マニア層への求心力はとてつもなく高い。そして、その移籍先として最も有力視されているのは、ボクシング業界で力を持つオスカー・デラホーヤと、ランディ・クートゥアーとも近いアパレルメーカーのアフリクションが共同で立ち上げる新団体。この団体は6月にラスベガスで旗揚げすると見られていて、ボードッグ・ロシア大会でヒョードルと闘ったマット・リンドランドも参戦すると見られている。

——は〜、アメリカは次から次へと新団体が現われるね〜。

スコット　デラホーヤはボクシング時代のつながりから、有力ケーブルテレビ局HBOとも太いパイプを持っている。またアフリクション関係者は、MMAに関心の高いケーブルテレビ局HDNetオーナーのマーク・キューバンとも近い。すでにヒョードルに対して莫大な金額で参戦のオファーをしているらしいから、『**M-1**グローバル』に代わって、アメリカMMAシーンの台風の目になりそうだよ。

——しっかし、MMAは動きの激しい業界だね〜。アンタのサイト『MMA WEEKLY』も分裂しないことを祈っているよ。

スコット　よけいなお世話だよ！

【08年3月15日／さいたまスーパーアリーナにて収録】



UFCのためなら嫁を実家に帰らせる!?

アメリカ長期滞在決定

長南 亮

昨年11月17日『UFC78』でUFCデビューをはたした長南亮。
6月に2戦目が決定したが、なんとアメリカに長期滞在を決意。
子どもが生まれたばかりの長南のアメリカに懸ける意気込みとは!?

聞き手/ジャン斉藤

――6月の『UFC85』イギリス大会でホアン・ジュカオン・カルネイロとの対戦が決定しましたけど、彼とは3年前にDEEPで闘ってるんですよね。

長南　そうなんです。あの試合の印象がよかったんですかね、（UFCのマッチメイカーの）ジョー・シウバには。ジュカオンはいまUFCでいい試合をしてますから。あのジョン・フィッチにも勝ちそうになっているし、以前より強くなってるとは思うのでやりがいはありますけど。

――その試合に備えることもあって、長南さんはアメリカに半年間も長期滞在されるそうですね。

長南　はい。いつもお世話になってるチーム・クエストのところで。ダンヘンの家に居候するのか、マネージャーのライアンのところなのか、これから行ってみないとわからないですけど（苦笑）。いままでは練習や環境面、金銭的によくしてもらってましたが、今回は半年も滞在するので家賃を払って自炊して甘えないようにしたいですね。

――でも、お子さんが生まれたばかりだし、奥さんはなんて言ってるんですか。

長南　まぁ、嫁もこの競技自体の仕組みとか、向こうのレベルの高さとかを知ってますからね。

――PRIDEの広報でしたし。

長南　そういう嫁だから可能なことなんですけど（笑）。

――理解があるんですねぇ。でも、あまり前例がないじゃないですか?

長南　そういえば、そうですねぇ。髙阪（剛）さんや小路（晃）さんも向こうに長期滞在されてましたけど、二人とも独身でしたからね。

――日本じゃダメなんですか?

長南　いやあ、それはシンプルに向こうには学びたいものがたくさんあるからなんですけど。具体的にいうとレスリングです。あとはケージで試合をしている連中とガンガンやり合って、自分をもっと磨きたいという思いがあって。日本ではいまの状況ではちょっと……、やってできないこともないんですけどね。やっぱり心境的に東京っていう街が合わないなというか。

――個人的な問題じゃないですか（笑）。

長南　いやいや、いまの日本だと触発されるものがちょっとないんですよ。結局、総合って個人競技なんですけど、ライアンが言うにはチームに一人ダメなヤツがいると全員が崩れてしまう、と。

――金八先生流で言えば、腐ったミカンの方程式というか（笑）。

長南　これはあくまで個人的な感想なんですけど、日本はアメリカと比べて、選手の目的意識がバラバラすぎるんですよね。俺は「総合で勝ちたいんだ!!」というヤツらと一緒に練習したいなって。

――アメリカってそこらへんは凄くルーズで個人主義のイメージが強いですけど。

長南　いや、クエストしか知りませんけど団結力がありますね。中にはダメなヤツはいますよ。でも練習だけはそれが許されないというか。やっぱり競技に向かう姿勢が日本とは違うなあってだんだん思い始めましたね。自分のジムがない状況で総合は出稽古がメインじゃないですか。自分の理想の練習環境を少しでも向上させて追い込んでいきたいんですよ。

――その日本では大きなイベントが二つ始まったわけですけど、待っていればよかったとか思いません?

長南　あー、全然思わないですね（キッパ

あくまで個人的な感想なんですけど日本はアメリカと比べて、選手の目的意識が……

リ）。だって、それは簡単ですよ。UFCはいま世界最先端だからです。お金じゃなくて選手の競争率やレベルがヤバイですからね。そういう舞台に上がれるんですから、後悔なんかしてないですよ。

―これはUFCの話じゃないですけど、3大ネットワークでもMMAを放送するみたいですから、アメリカにはまた大きな転機が訪れてますよね。

長南　みたいですねぇ。こないだの『戦極』にライアンが来てたんですけど、オスカー・デラホーヤもMMAを（プロモーターとして）やろうとしてるじゃないですか？　ライアンが言うには、デラホーヤはかなり凄いって言ってましたね、持ってる金がハンパじゃないって。

―聞くところによると、ロレンゾ・フェティータが太刀打ちできない力を持ってるとか。デラホーヤが目をつけるくらいのものになっているし、フリーテレビが始まることで、一般層向けのソフトになっていく可能性もありますよね。

長南　でもまあ、絶対に色あせない部分はあると思うんですよ。サンピエール（GSP）とか見ててもそう思いますし。

―核となる部分は変わらない、と。

長南　ただ、ヴァンダレイvsリデル戦は路線がおかしいなと思ったんですよ。あれは現代進化系のUFCのスタイルじゃないなって。

―長南さん、厳しいですねー。いい試合だったじゃないですか。

長南　確かに気持ちは見えるし、二人ともエキサイティングな試合でした。最近自分が思うおもしろい試合の基準が変わってきた感もありますけど、なんかいつものUFCっぽくなかったと周りの選手も言ってましたねぇ〜。

―そこらへんはUFCもビジネスを考えると思うんですよ。うしろ向きの意味でいえば、岡見（勇信）さんがあれだけ勝っているのに王座挑戦への雰囲気がまだないとか、日本人ファイターはビジネスにならないと考える節もありますよね。

長南　でも、それはひっくり返せるものだと思うんです。ハードなカードを組まれてもそれをひっくり返せれば本当に評価は高くなる。アンデウソン・シウバがいい見本ですよ。ダンがアンデウソンに負けたのは凄く悔しかったんですけど、アンデウソンは自分より一つ歳が上なんで励まされましたね。まだまだ進化できるんだって。あれが世界最先端の凄さですよ。



UFCデビュー戦となったカロ・パリシャン戦。長南の持ち味を封じ込まれ判定負けを喫したが、互角に近い闘いによって評価を上げるかたちとなった。再戦となるジュカオンはスピニング・チョークの開発者。前回は長南が劇的な勝利!

―その凄さが日本に伝わっていないのは感じます？

長南　バリバリ感じますよ！　でも、『Kami-pro』はマメにUFC特集してますよね。ああいう記事の人気ってあるんですか？

―PRIDEファイターが絡むと反応は高いですね。

長南　あー。そういうもんですか。

―やっぱり目の前で起こってるわけじゃないから、実感に乏しいところはありますね。

長南　俺はどっちでもいいけど、日本のテレビでやらないんですかね？　まあ、やらなきゃやらないでいいだろって思いますけどね。カッコつけるわけじゃないけど、俺には誇りがありますから。

―誇りですか。

長南　こないだ、タイで一緒に石井宏樹さんと練習したんです。石井さんはK－1MAXより下の階級だけど、K－1で階級ができたとしても世界最強はムエタイの強豪なので、そこに勝つためにいまやってるって言ってて。べつにお金がいいわけじゃないし、名声もそんなにないのに本当の強さを追求しているところがあるんです。そういう姿勢が自分は好きだし、自分もそうありたいなって思うし。

―長南さんのUFC挑戦は打倒ムエタイに近い感覚なんですか？

長南　そうですね、俺的には。まぁ、打倒ムエタイよりは条件はいいですけどね、勝てば金はついてくるし。なんとか子どもも養えてるし。いまは厳しいですけど、試合がなかったから。仮に生活が厳しくなっても、ほかに仕事しながらでも格闘技はやってたとは思いますね。

―これからも日本人ファイターのUFC参戦は増えていくと思いますか？

長南　いや、だんだん契約しなくなってるみたいなんですよね、選手があふれてて。

―あ、そうなんですか。

長南　だから、いまは毎回サバイバルマッチ的なとこありますね。でも、アメリカのMMAってこれからどんどん凄くなると思うんですよね。やっぱ目指している人数が多いじゃないですか。アマチュアから自然と凄い数になってる。

―しかし、長南さんはさすらってる感じがしますね。岡見さんや郷野さんはあんまりそういう感じはしないんですけど。

長南　俺は二人ほど世渡りがうまくないのかもしれないし、格闘技においては他人の考えと合わなかったら自分のことを優先するし、だから嫁と子どもを置いていけるんですけど（苦笑）。

―ダハハハハ！　奥さんは実家に帰るんですか？

長南　そうですね。嫁はいいんですけどね、娘だけは寂しいですねぇ……。帰ってくるまでに確実に忘れられますね。まぁ強いオヤジになれば娘のためになるかなっていう。

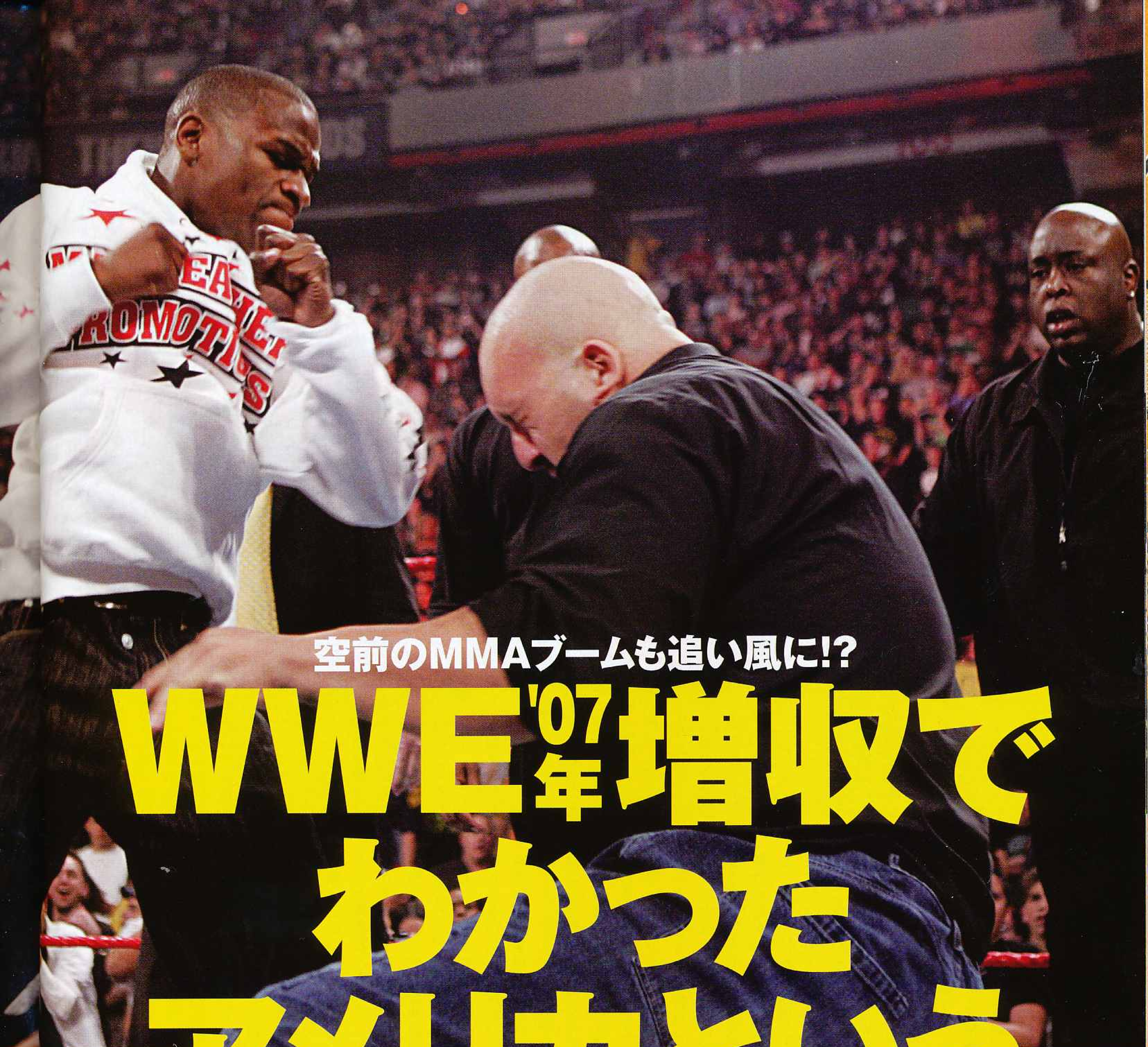
―長いですよね、半年は。

長南　長いですね。でも、今後の何かにつながるわけですから。それがいまはアメリカに転がってます、本当に。

【08年3月13日／都内某所にて収録】



ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県鶴岡市出身。01年、DEEPにてプロデビュー。06年2月に桜井隆多を下し、DEEPミドル級王者に。PRIDE武士道でも活躍。Team MAD所属。175センチ、77キロ



空前のMMAブームも追い風に!?

WWE'07年増収でわかったアメリカという市場の底力

アメリカが変わる! MMAが変わる!!

スポーツ・エンターテインメント最大規模の祭典 3.30『レッスルマニア24』にボクシング世界王者フロイド・メイウェザー参戦!

UFCが台頭してMMA人気が爆発中のアメリカで、07年のWWEは前年比17パーセント増の売り上げ高であった。売り上げ総額は4億8565万5000ドル、つまり約480億円。桁違いである。

そんなWWEの凄まじさ、アメリカという国の底知れないスケールの大きさを体感したいなら、年に一度のプロレス最大の祭典『レッスルマニア』を観るべきだ。

昨年の『レッスルマニア23』では、大富豪ドナルド・トランプがカツラ疑惑の毛髪を賭けて、同じくカツラ疑惑のビンス・マクマホンと対戦するという一戦だった。

そして、今年はプロボクシングWBC5階級制覇のチャンピオン、フロイド・メイウェザーとプロレス界で最も巨大な男ビッグショーのシングル対決となったのだ。

おおまかな経緯はこんな感じだ。2月のPPVイベント『ノー・ウエイ・アウト』をリングサイド最前列で観戦していたメイウェザーをビッグショーが挑発、怒ったメイウェザーがビッグショーの鼻っ柱を強烈に殴りつけたことで、



この一戦が決まった。

かつては『レッスルマニア』のリングでヘビー級王者のモハメド・アリやマイク・タイソンが特別レフェリーを務めたことはあるが、現役のチャンピオンが試合までやってしまうのは初めてだろう。

日本におけるメイウェザの知名度は決して高いとはいえないが、あのオスカー・デラホーヤと07年5月に対戦した際のPPVで 2 4 5万件という凄まじい記録を叩き出している。07年のUFCのPPV契約件数が一つの大会でだいたい30～60万件であることを考えると、これがどれだけ凄まじい規模であるかがおわかりいただけるだろう。

広大な国土と3億人という人口を抱えるアメリカではPPVというシステムが確立されており、「お金を払ってテレビで観る」という行為が日本よりもはるかに浸透している。確実に〝数字が見込める〟選手だからこそ、WWEも今回の『レッスルマニア24』に出場するメイウェザーに、推定2000万ドル（約20億円）と噂されている破格のギャランティを払うのだ。

日本ではプロレスから派生した流れの延長線上にMMAがあるが、アメリカではUFCもボクシングもWWEも完全に別ジャンルとして扱われてきた。

だからこそ、2月にブロック・レスナーがMMAに挑戦したときは大騒ぎになったのだ。それはフェイクとリアルが交わることで生じるスキャンダルである。

そして、WWEはスキャンダルをいち早く自分たちの武器として取り入れてきた。年に一度の『レッスルマニア』は、毎年のようにセンセーショナルなスキャンダルを提供してきた。先述したドナルド・トランプしかり、モハメド・アリしかり、マイク・タイソンしかり、そして今回のメイウェザーしかりである。

やはりMMAやプロレスと比べると、「プロボクシング世界王者」という肩書きが持っている権威は絶大だ。しかも5階級も制覇しているのだから、その影響力は計り知れないほどに大きい。

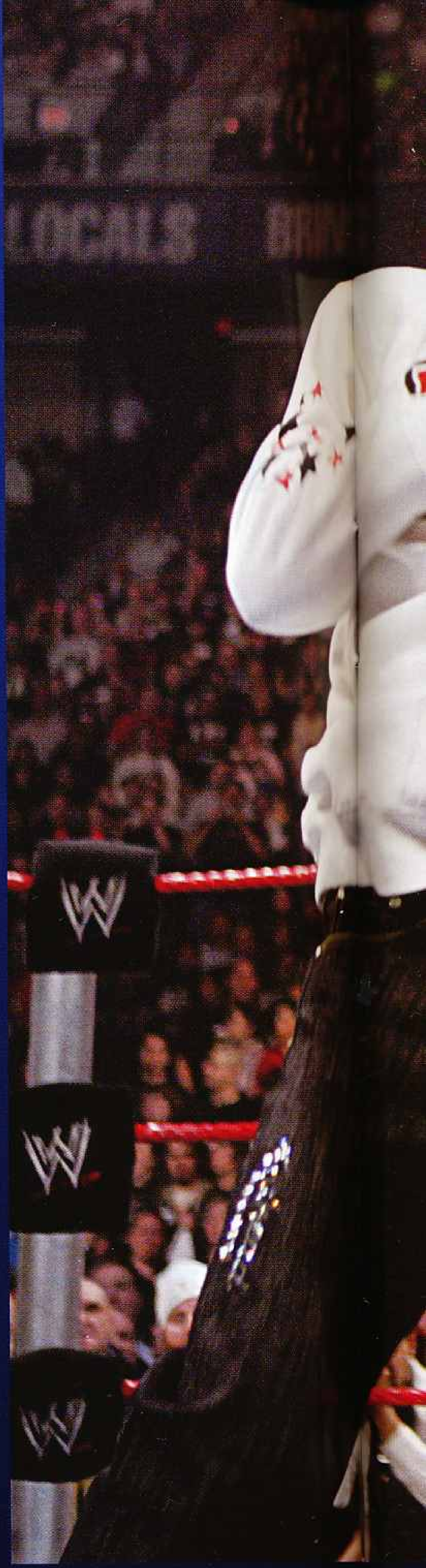
そんな超VIPをWWEは、WWE流で手厚く大歓迎しているようだ。『ロウ』に登場したメイウェザーをビッグショーが放り投げるというトンデモないデモンストレーションを敢行したのだ。投げるといってもvs内藤大助戦で亀田大毅がやったような投げではない。頭上に抱え上げて場外に投げ捨てるのだ。こんなこと、WWEじゃなきゃ絶対にできない。

エンターテインメントとリアルファイトがクロスオーバーを始めたアメリカのマット界は、いままで以上に注意深く見守る必要がある。

（坂井ノブ）

『レッスルマニア24』はスカイパーフェクTV!、e2 by スカパー!、J:COMで観よう!

ビッグショーvsメイウェザーという格闘技ファンも気になる大一番が組まれた今年の『レッスルマニア24』（米国フロリダ州オーランド・シトラスボウル）は、**スカパー!およびe2 by スカパー!で4月17日（木）、J:COMでは4月18日（金）より放送開始**（ともに初回放送）。J:COMの場合は、J:COMオン デマンドで視聴できる。いずれも視聴料金は2,100円。上記の方法では視聴できないという人のために、4月19日（土）には**パブリックビューイングイベントの開催も決定!**
詳しくはWWE日本版オフィシャルサイトを参照!
[URL] http://wwe.co.jp/
なお、WWEのストーリーの基本となる『ロウ』『ECW』『スマックダウン』はJスポーツで絶賛放送中だ。



いままでなかったのが不思議なくらい!!

kamiproのウェブサイトができました!!

注=ケータイからはご覧になれません。PCでご覧ください!!

pro.com
カミプロドットコム

「カミプロ」で検索するか、このURLにアクセス!!

http://www.kamipro.com

全世界に向けて絶賛配信中!!

ポッドキャスト



本誌「変態座談会」などでおなじみのカリスマ司会者・原タコヤキ君がお送りするプロレス&格闘技のポッドキャスト、耳で聴くkamiproという意味で「mimipro」と名付けました。ライターの井上崇宏さん、八木賢太郎さん、編集部の阿修羅チョロも登場。スクープ情報も飛び出すか!? 聞き逃し厳禁のkamipro.comの目玉企画です!

ニュース



機動力と取材力を活かしてマット界の最新ニュースを毎日更新。より熱く、より深く、より激しく、お届けします。また、ウェブならではのフォトニュースなど充実のコンテンツをお楽しみください。将来的には、あんなことやこんなこともやってみたい! と思っていますので、日々進化するニュースのページをどうぞご覧ください。

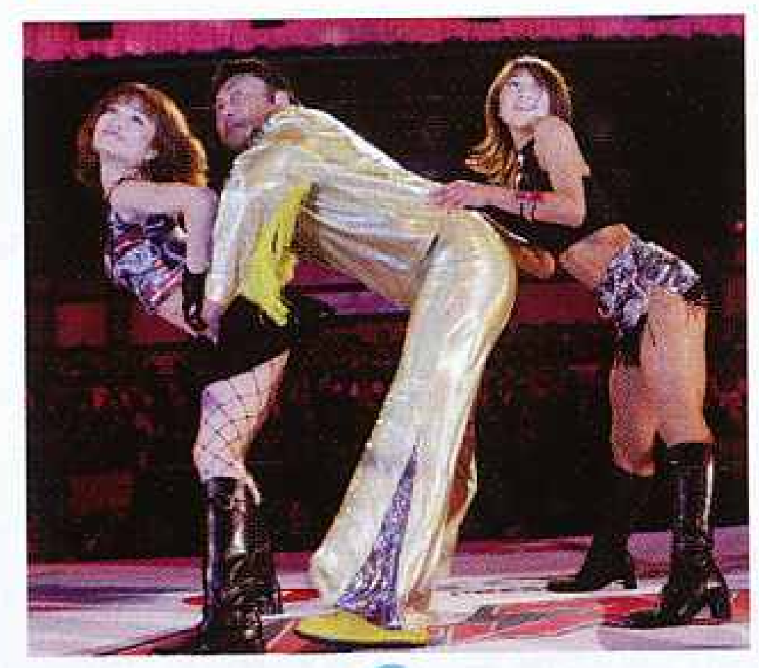
kamiインタビュー

いま旬の人に話をうかがって、すぐにアップする! ウェブならではのスピードと機動性でマット界の“いま”をお届けします。サイトオープン時には、“跳関十段”青木真也のJ.Z.カルバン戦直前インタビューを掲載! この一戦にかける心意気をいつもの調子で語ってくれました。今後も注目選手が毎週登場! kamipro.comの中でも必見のコーナーですよ。





注目試合レポート



試合速報はやりますが、より深く、広い視野でマット界全体を俯瞰したときに、その大会がどんな意味を持っていたのか? 長めの原稿で解き明かすレポート企画「注目試合レポート」も毎週更新します。本誌編集部や本誌でおなじみのフリーライターが鋭く、熱い原稿を書きます。

※このほかにもコンテンツはどんどん増やしていきます。レッツ・毎日アクセス!



kamipro
最新号の情報も
いち早くアップ!!

kamip
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE



♪ハッピバースデ～ トゥ～ ミ～

kamipro or カミプロ

検索



GK探検ファイル
No.010

春来たる……。永田さんは、元気です!!

〝絶賛療養中〟のところ、
探検隊が押しかけ
お見舞い!!

小松隊員

こまつ・しんたろう■元『SRS・DX』編集部。以前からGKと親交があり、『週刊ゴング』で座談会も担当していた。元相撲部でもあり非常にグッドルッキンなボディを持つ。"受け"の美学は今回も全開だ!! 通称「モグラ」。

GK隊長

かなざわ・かつひこ■元『週刊ゴング』編集長。現『Gリング』統括プロデューサー。テレビ朝日『ワールドプロレスリング』の解説も務める。プロレスマスコミの重鎮として幅広い取材活動を行なう一方、探検隊を結成し体当たりで取材に挑んでいる。

GKスペシャル プロレス探検隊

「お見舞いしちゃっていいんだね?」と探検隊が今回、向かった先は、なんと野毛の新日本プロレス道場!! GK隊長の"盟友"であり、2月中旬より療養のため欠場中の"ミスターIWGP"永田裕志選手に、春が到来したばかりの多摩川沿いで「元気ですかーッ!」とご挨拶!

構成 真下義之 インタビュー本文構成 小松伸太郎(THE PEHLWANS) 撮影 平工幸雄



GK さて、小松隊員！　本日は我が"盟友"永田裕志選手のお見舞いに、ここ新日本プロレスの道場まで来たわけだ。

小松 （興奮しながら）隊長！　ついに我が探検隊もプロレスの聖地へ突入ですね！

GK そのとおり！　野毛の皆さ〜ん、愛してま〜〜す!!（棚橋弘至調で絶叫）。

小松 （小声で）た、隊長。突然、そんな大声を出されてはご近所さんに迷惑がかかります……。

GK つまらんことにこだわるんじゃない！　お見舞いは元気にやるのが一番なのだ。さあ、さっそくミスターIWGPにいたわりの言葉をかけるぞ！　ヴァモス！

ショック！　永田さんがまさかの緊急欠場!!　2月17日、新日本プロレス両国大会の開始直前、尾崎リングアナより「アップ中に永田の脳に異常が見つかった」と、永田vs後藤洋央紀戦の消滅がアナウンス。場内がどよめく中、林リングアナが「めまいや歩行障害」といった症状を説明、後藤は「万全な永田裕志と闘いたい」と無念のコメントを残した。

小松 ラジャーです、隊長！

GK どうもぉ！　今日はよろしくね（かわいらしく）。

永田 こちらこそ。その格好、カッコいいですね（笑）。

小松 おお、いきなり最初からフランクな反応！　さすがは"盟友"ですね、隊長！

GK フフフフ、これぐらいは序の口よ！　でも、もうすっかり元気みたいじゃない。

永田 いや〜。身体を動かせないから、毎日、ヒマでヒマでしょうがないですよ。今日はパチンコしてる写真を撮ってもいいですけど（笑）。



ながた・ゆうじ■1968年4月24日、千葉県東金市出身。アマレス全日本学生王者の実績を引っさげ、92年に新日本プロレス入門。01年にはG1優勝。03年にはIWGPヘビー級王座の連続防衛記録の偉業を打ち立てた"ミスターIWGP"。06年には個人事務所『ナガタロック』を設立。現在はリング復帰に向けて療養中だが3.15『DREAM.1』には弟・永田克彦のセコンドとして登場した。183cm、108kg。

GK さっそくだけど、2月17日の新日本プロレスの両国大会を体調不良で欠場するまでの経過をあらためて聞かせてくれる？

永田 ええ。じつは両国大会の4日前に道場で肩のウェートトレーニングをやった直後にめまいがしまして、片足を引きずるような状況になっちゃったんですよ。

小松 あ、そういう兆候はあったんですね。

永田 で、「これはヤバイ！」と思って、自分は首が悪かったんで、道場で鍼をやったり、マッサージをしてもらったんですけど。でも、そのあとシャワーを浴びたらその症状は一時的に治っちゃったんですよ。だから血流障害が起きていたけども、「身体が温まったことで治ったんだな」と、そのときは簡単に思っていたんですけど。ただ、めまいはたまにあったけど、歩けなくなったのは初めてでしたね……。

GK なるほどねぇ。ただね、この人は基本的に虚弱体質だから！（キッパリ）。

小松 永田さんは虚弱体質!?　頑丈そのものって感じがしますけど？

永田 いや、ホントに病気にはなりやすいんですよ（笑）。なんせ、すぐに扁桃腺が腫れちゃいますから。

小松 あ、小学生みたいにすぐ扁桃腺が腫れて、のどが痛くなっちゃう。

GK そう！　かつて業界の"虚弱三銃士"と言われたのが髙田延彦、永田裕志、藤田和之！　この3人は、み〜んな大事な試合の前に必ず風邪をひくんだよ。それで藤田なんか、初めてPRIDEの試合に出たあとに、手術で扁桃腺を取ったんだから。

永田 フフフ。まぁ、あいつの場合はノドチンコが発達しすぎてますからねぇ（笑）。

GK フフフ。下チンコだけじゃなくて、上のほうも？（ニヤリ）。

小松 う〜ん。なんとお下劣な"盟友"同士の会話でしょうか……。

GK （無視して）でも、道場でケアをして、シャワーを浴びて復調したら、次の日の試合には出られたんでしょう？

永田 そうなんですよ。だから、当日までコンディションもいい状態だったんですね。でも、試合当日に会場に早く入って、軽くランニングをしたあとにストレッチをしていたら、突然まためまいがきたんです。それで、慌ててトレーナールームで首をほぐしてもらったんですよ。そこで、トレーナーは「試合はやめたほうがいい！」と。ただ、今回の後藤（洋央紀）戦は僕自身もいい感じで迎えられましたし、盛り上がっていたんでなんとしても試合はやりたかったんです。そのあとシャワーを浴びたら、やっぱり一時的に身体が戻ったし歩けるようにもなったんですけど時間が経ったら、まためまいがしてきちゃった。それを林（督元）リングドクターに言ったら、完全にストップがかかりましたね。「すぐ病院に行ったほうがいい！」と。

「注射とかで一時的にしのげれば、試合に出ようと思ってたんですよ」〈永田〉

小松 じゃあ止められなかったら、試合をしてました？

永田 注射とかで一時的にしのげるものがあったら、試合に出ようと思ったんですよ。林先生からは、「冗談じゃない！」って言われましたけど（笑）。でも、国技館を出たら、当日券を待つお客さんが両国駅のほうまでズラーッと長蛇の列を作って並んでいるんです。そういう光景を見るのはひさしぶりでしたから、あれはよけいに悔しかったですねぇ……。

GK あの日は、新日本も会社として「是が非でも満員にしたい」ということで力が入っていたし、当日券で1000人ぐらい並んでいたみたいだから。それで病院でCTとMRIを撮っても異常はなかった、と。

永田 ええ。でも林先生が「そんなわけはない」と言うので、次の日にレントゲンを撮り直したんです。それを見たら影があったんですよ。その影は二つあって、一つは昔の出血跡で、それは問題ないらしいんですけど、もう一つは「梗塞か、出血かどちらかだ」って言われて。

小松 や、やっぱり脳梗塞の疑いがあったんですか!?

GK むむむ、小松隊員！　話は最後まで聞きたまえ！

永田 そのレントゲンがイマイチ小

「"天国に一番近い島"どころか、ホントに天国に行くところでした(笑)」〈永田〉

GK探検ファイル
No.010



どうだい、この3ショット!? ひと足早く"桜の咲く季節"が到来していた多摩川沿いの土手でゴロンと横になって心境を告白する永田さん、そして探検隊の面々。"盟友"のGK隊長だからこそ実現した、まさに青春の一枚である。

さいので、さらにもう一度、拡大して撮ったら、最終的には梗塞ではなかったのでホッとしましたね。

小松 (ホッとした表情で) はぁ〜、よかったなぁ……。

GK でも「梗塞みたいなものがある」って言われたときは気分としては嫌だったでしょ?

永田 ただ小さい梗塞ってのは年齢が上がれば、誰しもあるものみたいですから。ましてや、いまは血栓を溶かす薬もものの凄く発達してますし。実際、自分も次の日から症状は回復していましたし、現代医学の凄さにはビックリしましたねぇ。

GK 高山(善廣)選手だって、そういう最新の治療を受けて、あんな重症の中からカムバックしてきたわけだからねぇ。

永田 とりあえず一ヵ月は安静にしていて、3月末にもう一回検査して、そこで異常がなければゴーサインを出してくれるそうです。でも、この一ヵ月のあいだはトレーニングをするのも酒も飲むのも一切ダメ!

GK そりゃ、確かにしょうがないよね。で、結果的には高血圧が原因だったの?

永田 高血圧からくる脳出血か、もしくは「海綿状血管腫ではないか」っていう話なんですけど。

GK ええっ!? 海綿体○○○?(ニヤニヤ)。

小松 た、隊長、それはさすがに不謹慎ですって!

永田 いや、そのネタはいろんな人から言われてますから(笑)。影が消えた場合は高血圧性で、消えない場合は海綿状血管腫ということで。それだったら、ほったらかしてもいいらしいんですよね。

小松 ほったらかしてもOK!? 凄まじい病名に聞こえますけども。

永田 たぶん僕が一般人だったら、もう仕事に復帰しているくらいの病状だと思いますよ。デスクワークには支障がないわけですから。

GK ふ〜ん。しかし、一時は引退も考えたらしいじゃない?

永田 いや、メチャクチャ本気で考えたわけじゃないですよ。ただ、これが意識のない中で目が覚めてベッドの上だったりしたら、もっとそういうことも考えたでしょうけど。症状もすぐ戻ったから、わりと軽いものだと思ってて。

GK でも最初は、両国終わりで奥さんとニューカレドニアに旅行に行こうとしてたんだよね(笑)。

小松 ニ、ニューカレドニア!! いわゆる"天国に一番近い島"じゃないですか、隊長!

GK 落ち着くんだ、小松隊員! でも、なんでまたニューカレドニアなの?

永田 それは完璧にカミさんの希望です(笑)。この旅行に関してはカミさんがノリノリで、日程からチケットからホテルからぜ〜んぶセッティングしてましたから(笑)。じつは、いままでちゃんとバカンスに連れていってあげたことがないんですよ。とくに最近は事務所の仕事を一生懸命やってくれてたんで、全部、要望を飲んだ感じだったんですけど。

小松 慰安旅行みたいな感じで。

永田 ただ、病院帰りのタクシーの中で「ちょっと行けなくなった」って



「キャリアも15年を超えると、どこかに故障が出ちゃうんだろうなぁ」〈隊長〉

連絡したら、すぐにキャンセルしたみたいです。

GK そのとき奥さんは怒ってた？ それとも心配してた？

永田 怒ってはいなかったですけど、症状にはビックリしてましたね。ただ、自分的には逆に試合前でよかったな、と。一歩間違えば、〝天国に一番近い島〟どころかホントに天国に行くところでしたから（笑）。

GK 危なかったねぇ。高山選手のときだって、試合の何日も前から体調が悪くて、血圧もちょっと高かったらしいし。それにもかかわらず、無理を押して試合をやったから、G1の2戦目（04年8月8日、大阪府立体育会館）の（佐々木）健介戦で倒れちゃったんだから。で、やっぱりレスラーも他人事じゃないと思うから、お見舞いの言葉をもらったと思うんだけど。

永田 レスラー仲間もそうですけど、業界の方々やファンの方々、個人的な交友関係のある方々、応援してくださる方々、本当にたくさんの方々からいただきましたね。

小松 永田さんほどの方ならば、そういう反応は凄いでしょうね。

永田 あと『Ｙａｈｏｏ！』のトップニュースにまでなっちゃったじゃないですか。

小松 あ、出てました、出てました！

永田 うちのカミさんが、「あんたに、こんなに知名度があるなんて思わなかった！」って驚いてましたから。そこは感心するところじゃねえだろうって（笑）。

小松 そんなとこで知名度を再確認してましたか（笑）。

GK あと藤田和之が『戦極』のために、ひさびさに日本に帰ってきた第一声が、「プロレス界はやっぱり永田裕志の話題で一色ですか？」だったしね。なんか心配でロスでも2～3日は眠れなかったみたいよ。ああ見えて藤田はホントに心配性だから、自分のことは笑ってすますくせに（笑）。

永田 ええ。藤田くんも心配してくれてるって話も聞いてました。それでレスラー仲間で一番心配してくれたのは、じつは中西（学）さんなんですよ。3回ぐらい電話をくれたんですけど。身体のことを凄い心配してくれて、野菜の成分の入ったサプリメントまで送ってくれたんです。そのへんはだてに長年付き合ってねえなって感激しましたね。まぁ、中西さんからも「海綿体？」とは言われましたけど（笑）。

GK おっ！ やっぱり言わずにはおれんのだよ！ 〝野人〟とこの金沢は感性が合うなぁ、フフフフ。

小松 つまり同レベルってことですね（笑）。長い付き合いといえば、ケンドー・カシン選手から連絡は？

永田 カシンさんからは連絡はないけど、『東スポ』の携帯コラムで、なぜか「早稲田の入学式に保護者としてこい！」って名指しで書いてたらしいですね（笑）。

小松 いや～。あいかわらず意味不明ですね（笑）。

GK ふざけながらも間接的に心配しているってのが、さすがのカシン流だよね（笑）。でも、やっぱりキャリアも15年を超えると、みんなどこかに故障が出てきちゃうもんなんだろうなぁ。

永田 僕、今年は前厄なんですよ。まさかこういうかたちで出てくるとは思わなかったですけど。

GK 全体的に、だいたい40歳ぐらいが危ないよね。

永田 そうなんですよ。思い起こせば、ジャンボ鶴田さんがB型肝炎になったのもこれぐらいの年齢だし、長州さんも一度アキレス腱を切っているでしょ？

GK あれも42歳ぐらい。たしか青森（市民体育館）だったよね。

永田 藤波（辰爾）さんも37歳くらいでビッグバン・ベイダーとの試合で腰をやって長期欠場したし、猪木さんが糖尿病になったのも40前後でしょ？ 馬場さんも腰を痛めて、ベルトの連続防衛記録がストップしてましたもんね。

GK う～ん。そう言われればそうだねぇ。

永田 そもそも、橋本（真也）さんが亡くなったのもちょうど40歳ですからね……。

GK そうか……。冬木（弘道）さんが亡くなったのが41歳だもんなぁ。

永田 高山さんは梗塞、小橋（建太）さんはガンですよね。で、佐々木（健介）さんも2年前に眼窩底骨折をやってるでしょ？ だから、自分も「ケガを防止するためにコンディション作りとか体調管理に注意して、厄払いとかやんなきゃな」と思っていた矢先のことでしたから。そしたら、頭のほうにきちゃって。

小松 それだけキツイ試合をやってるってことですよね。

永田 まぁ、一度、天龍（源一郎）さんと対談したときに、「永田は楽してる」って言われましたけど……。

GK ああ、言ってたねぇ！

永田 これで「楽してない！」ってわかっていただけたんじゃないですか（笑）。そのとき天龍さんは僕をテクニシャンタイプとおっしゃってたけど、テクニック重視の試合は最近やってなかったんですよ。というのは、いまいろんな格闘技が出てきた中でプロレスを観る目も肥えてきたから、プロレスの痛みや凄さを伝えるために、よりガンガンやり合うようなファイトを心がけてたんです。ここ最近の新日本が評価されてきてるのは、そういう身体をぶつけ合った試合が多かったからだと思うんですよね。

GK なんか、若手のときの試合スタイルに戻ってきたよね。それをいま伸びてる若い選手、（中邑）真輔とかタナ（棚橋弘至）とやってる感じで。

永田 まあ、今回のように僕にガタがきたっていうのは、彼らの成長の証しじゃないですかね？

GK （ほくそ笑みながら）フフフフ。永田裕志らしい解釈だね。でも、去年、優勝した『ＮＥＷ ＪＡＰＡＮ ＣＵＰ』を欠場になったのは残念だったでしょ？



今回は、"お見舞い"がメインなので、いつものチャレンジショットはなし……と思いきや、遊具を発見した永田さんが突如スパーク！ 自身は運動が禁止されている鬱屈を小松隊員にぶつけるようなハードトレを開始！



はてしなく続く新日本プロレス式の基礎トレに青息吐息の小松隊員だったが、"鬼神"と化した永田さんはもう止まらない！ スクワットの角度についても厳しくコーチ！ GK隊長も険しい表情で見守るのであった。



見てみい、この笑顔！　ポカポカ陽気となったこの日、まだ一分咲きくらいの桜の木の前で、最高のナガタスマイルを披露してくれた永田さん。桜の花が満開となったあと、緑の葉をつける新緑の季節までには復活となるか？

永田　残念ですね。でも、ドクターからも、菅林社長からもストップがかかってしまった以上は素直に従いますよ。

GK　ただゴーサインが出ても、一ヵ月運動をしてないわけだから、身体を作らなきゃいけないもんね。この前、引退したドリー・ファンク・ジュニアみたいに、Tシャツ姿でファイトするには、まだ早すぎるし。

永田　ちょっとお客さんに見せられない身体になってしまいましたから。もうしぼんじゃって、しぼんじゃって（笑）。それでも復帰したら、そういった激しい試合から逃げるようなことはしたくないんですよ。

GK　天龍さんは、「楽してる」っていうより、「楽する方向に行くなよ」っていうつもりで言ったような気もするね。「このまま行けよ」っていう意味で。天龍さんはプロレスをしっかり見ている人だし、あの人自身がいまだにガンガン試合をやってるわけだから。

小松　う〜ん。さすがは隊長！　ナイス解釈です！

GK　フフフフ！　今回はこんな感じでまとまったかな。じゃあ、とりあえずいまはおとなしくしているわけだよね。

永田　だから、こういうふうに取材をしていただけると気が紛れますね。気になっちゃうから、新日本の試合なんかもあえて観ないようにしてますし。あとはワイドショーを観たりとか……。あ、じつは何年ぶりかでTSUTAYAの会員になったんですよ！

小松　永田さんがTSUTAYAの会員に!?

永田　ええ、それでけっこう映画を観たりしてますね。昨日も借りてきましたから。

GK　へぇ〜。ちなみにどんな映画を観てるの？

永田　昨日は『ジェイソンX』っていう、『13日の金曜日』シリーズのジェイソンが宇宙に行っちゃった映画とかね（笑）。

小松　ガハハハハ！　永田さんはジェイソン好きでしたか（笑）。

永田　一番好きなのは、ビートたけし主演の『血と骨』なんですけど。基本的には何も考えなくてもいい映画がいいですね。北野武監督の『監督・ばんざい！』とか、ダンカン主演の『みんな〜やってるか！』とか（笑）。

GK　最後にダンカンが蝿人間になって、巨大ウンコに向かっていくアレ（笑）。あの映画が好きっていうのも凄いね。

永田　僕はビデオで観たんですけど、僕が「おもしろい！」って絶賛していたら、カシンは映画館まで観に行ったらしいですから（笑）。あ、そういえば、今回の欠場の件で一つだけムカついていることがあるんですよ！（突然、険しい表情で）。

小松　な、なんですか、いったい？

永田　じつはね、某誌の編集長が、今回の両国大会の記事で、前日に（トラヴィス・）トムコの騒動があって、俺がこうなったでしょ？　これを「負の連鎖」というふうに書いていたんですよ！

「時間があるから、じつは何年ぶりかでTSUTAYAの会員になった」〈永田〉

GK　ふ、負の連鎖ぁ⁉

小松　一応説明しておくとトムコ騒動っていうのは、IWGPタッグチャンピオンのトラヴィス・トムコが、両国大会前日のIGFに突然登場し、新日本の両国大会のタイトルマッチで敗れたあとに新日本批判をぶち上げ、新日本側も絶縁を通達した、という非常にわかりにくいプチ騒動ですね。

GK　いやいや、永田の欠場とトムコ騒動は全然関係ないでしょ（笑）。

永田　そこを〝負の連鎖〟って言われちゃうのかよって。俺は、真面目にブチ切れましたよ……。だって自分の場合は、一歩間違えたらホントにどうなってたかわからないんですから。そこだけは、ちょっとカチンときましたね。

GK　そりゃ、もっともな話だよなぁ。だいたいさ、いまは週刊誌が一つしかないっていうのも、プロレス界にとっては悪い連鎖なんだよ。それにね、いまの時代で雑誌が生き残っていくのはホントにホントに大変なことなんだからさぁ……（と壁の方向を向いてブツブツと）。

小松　た、隊長！　何か根本的に問題がすり替わっているような……。

永田　ハハハハ！　金沢さんもあんまりブチ切れてると血圧が上がるから、注意したほうがいいですよ（笑）。

GK　（聞かずに）みんなぁああ！　もっとプロレス雑誌を、とくに『Gリング』（大都社）を買ってくれぇぇぇえ！（炎上）。

小松　隊長、お気を確かにぃぃぃ！

【08年3月5日／東京・新日本プロレス道場にて収録】



金沢〝GK〟克彦隊長の探検レポート

永田裕志ってやっぱり凄いんだよ。何が凄いって、TBSのDREAM旗揚げ戦の中継を観ればわかるでしょ？　ミルコのハイキックを食らってダウンする映像がいったい何十回流れたことか？　あのゴールデンの時間帯で、ミルコの次に露出度が多かったのは間違いなく永田だよ！　欠場しようが、このインパクト。自分は飲めないくせに、「飲み会やろうぜ！」と誘ってくるポジティブ思考⁉　アナタこそ、プロレスラーの代名詞だって！



小松伸太郎隊員の探検レポート

我が郷土・千葉県が生んだ一番のヒーローと言えば、〝ミスタープロ野球〟長嶋茂雄となるわけだが、長嶋さんのほかに、ミスターの称号を与えられている千葉県出身者は、私の記憶が確かならば〝ミスタータイガース〟掛布雅之と、我らが〝ミスターIWGP〟、永田裕志しかいない（そのほかにも千葉県は藤田和之やAKIRA、NOSAWA論外など、たくさんの素敵な人材をマット界に輩出）。ということで、一日も早いリング復帰を願います！

幸せいっぱい、夢いっぱいなグッズを

DREAM 旗揚げ記念に大放出!!

桜が咲く季節がやってきましたよ!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2008年4月23日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦今後格闘技界に望むことは?⑧ホームページ(kamipro.com)でやってほしいことは?

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F (株)ダブルクロス『kamipro』編集部「同情するならこれをくれ!」係まで

※締切は2008年4月22日(火)当日消印有効

kamipro 121 応募券 夢の香り

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!



DREAM

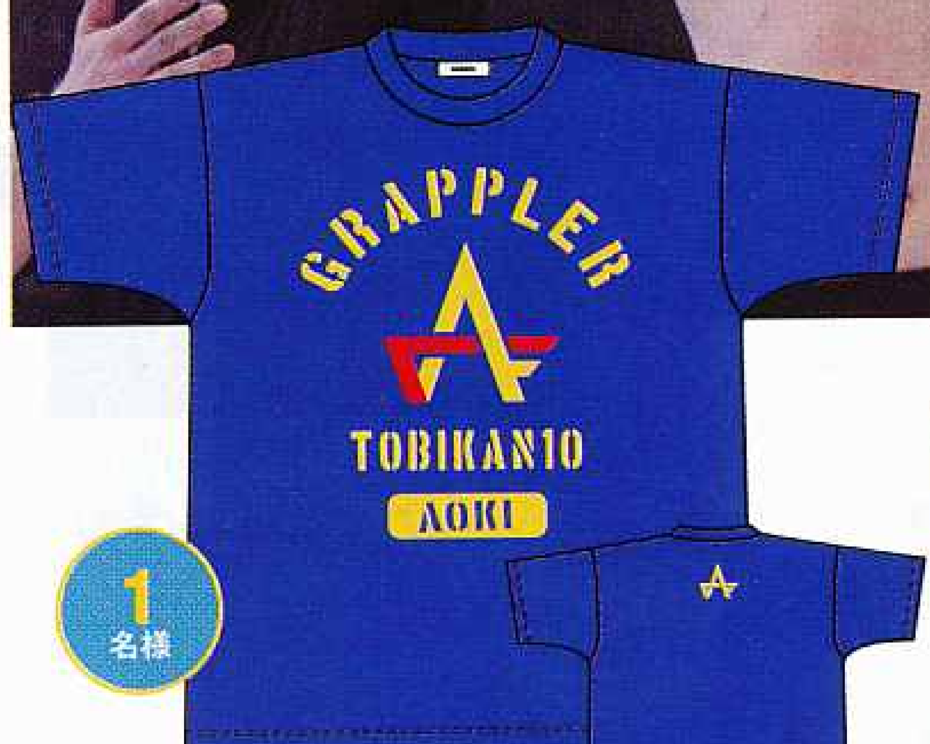


DREAM オフィシャルTシャツ

1名様

[ホワイト/¥4,200(税込)]

"桜の咲く季節"がいよいよ到来!! "主役なき激戦区"ライト級GPもいよいよ開幕! ファン待望の旗揚げ戦となった3.15『DREAM.1』Tシャツが到着! さっそく1名様に提供します。



青木Tシャツ

1名様

[ブルー/¥4,200(税込)]

"ミスターやれんのか!"から"ミスターDREAM"へ(!?)。いつ何時もワオワオ節を炸裂させる男であり、ご存知、世界が誇る"鬼才グラップラー"青木真也のNEW Tシャツが登場!



DREAM ポスターTシャツ

1名様

[ブラック/¥4,200(税込)]

朝焼けの前に立つ戦士たちのイラストが印象的な『DREAM.1』の大会記念ポスターをプリント! 背面にはライト級GPの出場選手全員の名前をプリント! のポスターTシャツ。



DREAM アカウントTシャツ

1名様

[ブラック/¥4,200(税込)]

ミルコ、ミノワマンにマッハも参戦! ついに出発進行した新総合格闘技イベント・DREAMから、特製"アカウント"(ログインするための権利の意味)Tシャツをプレゼント!



山本"KID"徳郁 TATTOO Tシャツ Ver.2 BLACK

2名様

[ブラック/¥4,410(税込)]

ライト級GPに出場した朴光哲も所属するKRAZY BEEのボス! 初代HERO'Sミドル級王者であり、DREAM参戦にも期待が膨らむばかりの「超イケてる」男、KIDの新作TATOO Tシャツ!



ミノワマン"3-WA"エコバッグ

2名様

[¥1,050(税込)]

へのツッパリはいらんですよ! 今号では「キン肉マン変態座談会」にも参戦! 『キン肉マン』へのただならぬ愛情を見せたミノワマンのエコバッグを2名様にプレゼント。

DREAM■http://www.dreamofficial.com/

K-1





HAO COLLECTION フィギュア チェ・ホンマン

2名様

[コリアンレッド/¥3,990(税込)]

昨年の『やれんのか!』では"皇帝"ヒョードルのテイクダウンをも防ぎ、MMAでもその才能を発揮した、チェ・ホンマンのフィギュアがず、ずぃ〜っと登場。

FEG■http://www.k-1.co.jp/

HUSTLE



ハッスル EPISODE-Ⅱ DVD 4

[¥5,040(税込)]

"暗黒肉弾魔人"ボブ・サップにケロロ軍曹も初登場! 小池栄子にそっくりな妖精さんも緊急参戦など、話題爆発となった『ハッスル・マニア2007』の模様も収録! 見応え充分のDVDを3名様にプレゼント。

3名様

MONSTERリストバンド

[ブラック/¥1,050(税込)]

"ハッスルの偉大なる支配者"髙田総統に、"モンスターK"、インリン様など"濃いい"キャラが大集結。モンスター軍のリストバンドを着けて"総統コール"を合唱セヨ!



各1名様

HUSTLEリストバンド

[ホワイト/¥1,050(税込)]

ハッスル軍のリーダー格・坂田亘の戦線離脱と、ボノちゃんの大ブレイクによって、最近どうにも影が薄いハッスル軍。そんなハッスル軍をこのリストバンドを着けて応援しよう!

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

SENGOKU

3.5 戦極 オフィシャルパンフレット

[¥2,100(税込)]

「吉田秀彦選手、出るぞ!」など、おどろおどろしいナレーションも話題となった3.5『戦極』の大会パンフレット。格闘技界の常識を変えるハードカバー装丁で登場! 選手のインタビューなど見どころ満載!!



3名様



3名様



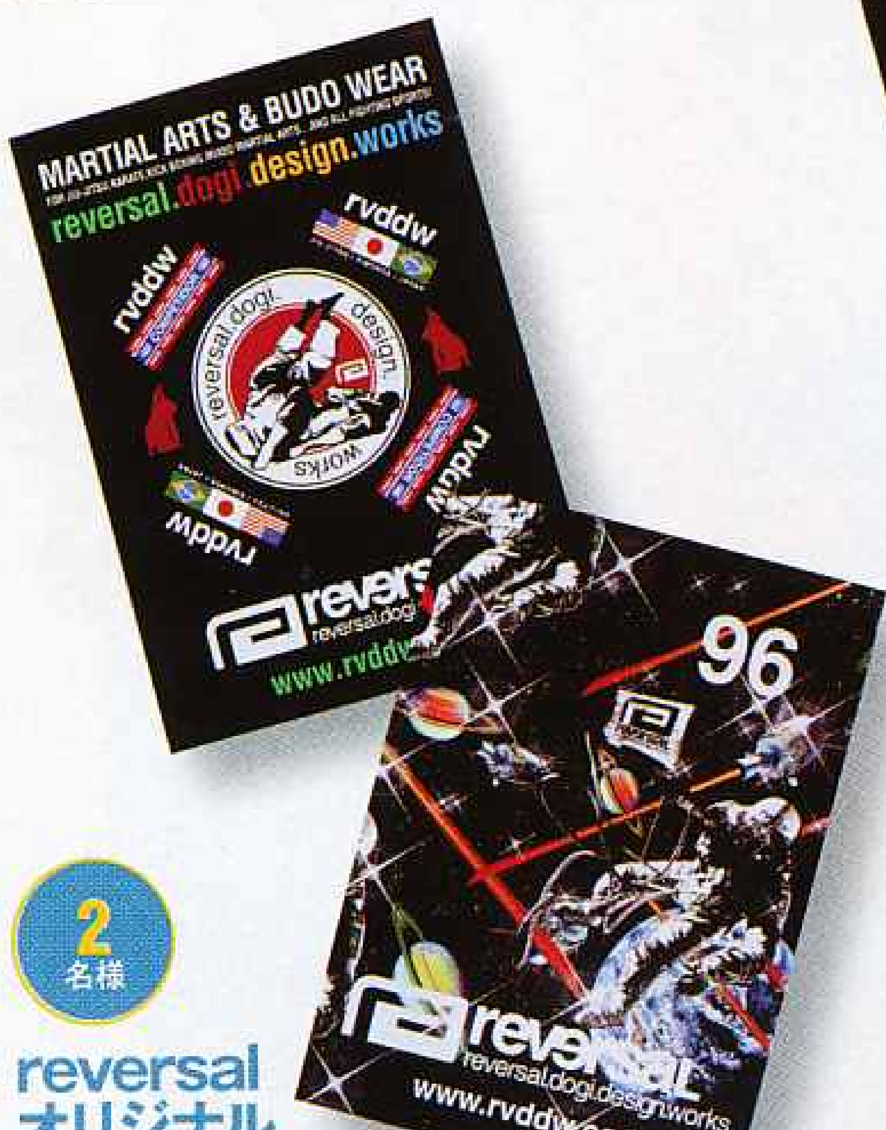
戦極ビニールバッグ

[¥525(税込)]

一、十、百、戦極! 戦極! 五味、ジョシュ、吉田、三崎、藤田などトップスターがズラリ参戦した『戦極』第一陣で販売されたバッグ。使い勝手がよく、『戦極』のロゴがプリントされオシャレな逸品だ。

戦極■http://www.sengoku-official.com/pc/

REVERSAL





2名様

reversal オリジナルポスター

同じくreversalからは、柔術を全面フィーチャーしたカッコいいデザインも印象的なreversalのオリジナルポスターをプレゼント。超貴重かつポップな逸品だ。

1名様

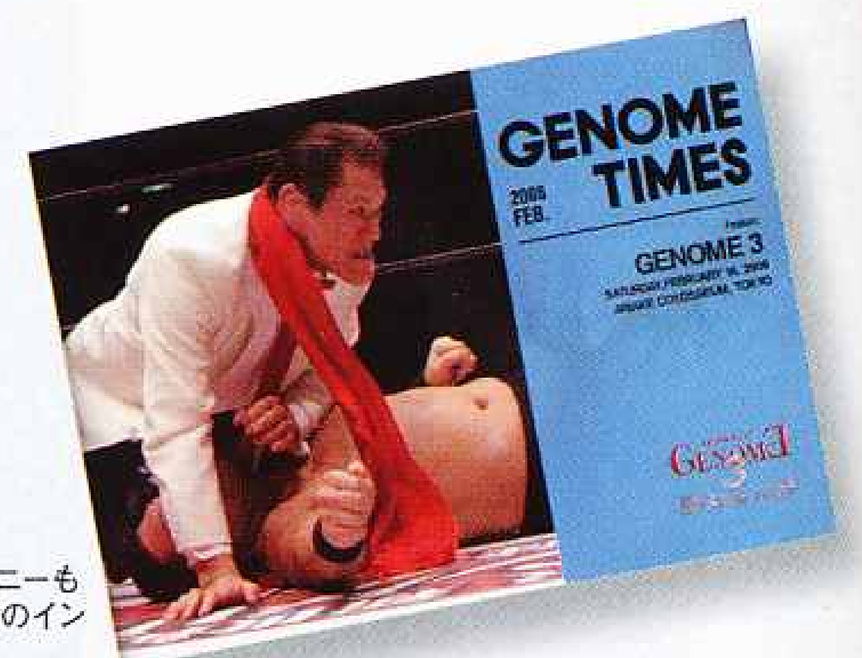
COMPEONATO 2007 Tシャツ

[ブラック/¥4,200(税込)]

reversalからは07年末に行なわれた柔術大会の大会記念Tシャツを提供! "闘いの時"を意味するHOLA DA LUTAの文字がプリントされている。

REVERSAL■http://www.rvddw.com/

IGF



1名様

IGF GENOME3パンフレット

猪木生誕65周年記念興行として開催され、誕生日セレモニーも話題となった『IGF GENOME3』の大会パンフレット。猪木のインタビューや07年ダイジェストなど読み応え充分!

IGF■http://www.igf.jp/

IFO



1名様

IFO Fireworks in the Cage IV 大会記念Tシャツ

本誌・前特派員、堀江ガンツが入手してきたアメリカのインディーMMA団体IFOの第4回大会記念Tシャツ! この機会を逃したら二度と手に入れることはできない超レアものを1名様にプレゼント。

QUEST



各1名様

高阪剛 TK式格闘学会 実践編 vol.1

135分/¥5,880(税込)

"世界のTK"こと高阪剛が自身のジム、『A-SQUARE』にて総合格闘技の専門的な技術を解説&指導して大好評のセミナー「TK式格闘学会」がついにDVD化! 実績に裏打ちされた理論をわかりやすく徹底紹介!!



『DEEP THE BEST 2007』	188分/¥5,880(税込)
『全日本キック 2007 BEST BOUTS vol.2』	249分/¥5,880(税込)
『G.V.ボポフ ロシア軍特殊部隊戦闘格闘術』	51分/¥5,880(税込)
『長野峻也 游心流 武術秘伝の活用』	80分/¥5,880(税込)

QUEST■http://www.queststation.com/

BOOK

プロレス「暗黒」の10年

[井上譲二(著)(宝島社)/¥1,500(税込)]

元『週刊ファイト』編集長の井上譲二氏が前田日明からI編集長まで。そしてタブーにもズバリと踏み込み、魑魅魍魎のマット界について書きまくった渾身の一冊を3名様にプレゼント!

3名様



1名様



ブルーザー・ブロディ 私の、知的反逆児

[バーバラ・グーディッシュ&ラリー・マティシク(著)/田中雅子(訳)(東邦出版)/¥1,500(税込)]

遠征先のプエルトリコで非業の死を遂げた"レジェンドの中のレジェンド"ブルーザー・ブロディ。その妻と友人が刺殺事件の真相やプロレス・ビジネスの内幕をついに語った。

宝島社■http://tkj.jp/ 東邦出版■http://www.toho-pub.com/

PARAESTRA





セットで1名様

10周年記念手ぬぐい&パラエストラ・ネットワーク名鑑

本誌・阿修羅チョロがパラエストラ創立10周年記念パーティにてゲットしてきた10周年記念手ぬぐいと選手名鑑を1名様に提供。こちらもこの機会を逃したら二度と手に入れられない稀少価値のある逸品です。

パラエストラ■http://www.paraestra.com/

kamipro 紙のプロレス

No.121
2008年4月11日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
大川義之
鈴木 佑
八木賢太郎（私有地でタケノコ掘りのため非番）

オーラス
上杉オー！リョー!!

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん

編集次長（馬券スランプ突入）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定＆衣料部
ニュー林様

もののあわれ
入江桜吹雪（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"行方不明"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

編集チアマダ〜ム
廣橋久美子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

"自称・煽りポーズアーティスト"阿修羅チョロ考案

DREAMポーズはこれでどうだ!?



モデル／『kamipro Hand』で連載中のブログも大好評な世界のワオ木さん

NEXT ISSUE

ミドル級GP開幕4.29『DREAM.2』、
ライト級GP2回戦5.11『DREAM.3』、
もちろん5.18『戦極-第二陣-』情報も満載!!

No.122は4月22日（火）発売予定で〜す!!

※地域によっては多少発売日が遅れますYO!!


Pure i
ケータイで恋人探そう!
今話題の「ピュアアイ」を徹底解剖!!
登録費・会費無料のピュアアイで素敵な出会いを探してね
理想のお相手検索にチャレンジ!
このページをブックマークすると便利だよ!!
まずはログイン!!
今回チャレンジするのは彼女いない歴8ヶ月の日向君。サポートするのは3rdDVDも大好評のタレント松本真南ちゃんです。
1 無料登録後会員ページにログイン
10の項目から理想の異性を検索!!
どんな人がいいかな?
年齢 地域 身長 出身地 血液型 職業 タバコ 趣味 その他
2 理想の異性を検索しよう
条件にあった異性のデータを一瞬で表示!!
やっぱりネットだと便利だよね
3 検索結果を瞬時に表示
4 お相手にメール送信
この人がいいなぁ
送る時はお相手への気遣いを忘れずに!!
5 ついに恋はじまる!?
やったー!! 素敵な出会いになるといいね!!
デートの約束ゲット!!
カップリングパーティー毎週全国で開催中!
2008年4月は14回開催予定
開催地域:東京・横浜・大阪・名古屋・福岡
ピュアアイに新規登録したお客様全員にプレゼント
期間限定 2008.4.30迄
PRESENT CAMPAIGN 2008!
20タイトル FLASHゲーム遊び放題!
デコメ2000点無制限取り放題!
女の子にオススメ九星占い
鑑定師:海龍老師
ゆうこりん着★モーション着♪ボイスケータイ待画
ピュアアイイメージガール 小倉優子
■無料エントリーはこちらへアクセス! エントリーは5分で完了!すぐにご利用いただけます!
http://pure-i.net/aoqq
QRコード
株式会社エーディーアンドディー 東京都渋谷区渋谷2-11-8 第二種電気通信事業 A-15-5933
TRUSTe ピュアアイはTRUSTeプライバシープログラムのライセンスを取得し、個人情報の保護に務めております
18歳未満の方(高校生を含む)、既婚の方のご利用は固くお断りいたします
■お問い合せセンター
03-5469-0291
受付時間10:00〜19:00(年中無休)
■ご利用料金のご説明…ピュアアイは入会費・月会費等は一切かかりません。さらにお相手のご紹介も無料です。料金はお相手とご連絡をとる際に、500円発生いたします。またご利用いただかない時に料金は発生いたしません。※女性会員様はウェブサービスはすべて無料でご利用いただけます。■携帯電話からご利用の際は別途パケット通信費が発生いたします PR広告 結婚情報サービス



kamipro 2008 121

生みの苦しみ！ 大波乱のDREAM.1スタート!!

ワオ木よ、いまこそやれんのか！

2008年4月11日
発行人／浜村弘一 編集人／斉藤慎一 発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

定価：本体838円＋税
雑誌 61955-92 Ⓗ2008.7
Printed in Japan 図書印刷

9784757741485
ISBN978-4-7577-4148-5
C9476 ¥838E
1929476008381